事項五　日ソ国交樹立交渉

——芳沢・カラハン北京会談——

二八八　一月十五日　在英国林大使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

ソヴィエト・ロシア承認ヘノ英仏ノ態度ノ観測及ビ日本トシテ率先承認モ適当ト考エラルル旨意見具申ノ件

第二五号　（一月十六日接受）

貴電合第三号ニ関シ

一、近来露国内部ニ於テ中央委員側ト「トロツキー」其ノ他トノ軋轢大分烈シキガ如ク如何ナル結果ヲ見ル可キヤ不明ナルガ何レノ派ガ勝ツトスルモ之レ蓋シ労農政府内部ニ於ケル権力争タルニ止リ労農反対派ノ無勢力ニ顧ミ当分ハ労農露国トシテノ基礎ニ変化ヲ生ズルニ至ル可シトハ観測セラレズ

二、当国ニ於テハ近々ノ内ニ労働党ノ政府トナル可キハ今ヤ確定ト云ヒテ不可ナク往電第一五号「マクドナルド」ノ公然ノ声明ニテ御承知ノ通リ同党ノ政府トナラバ露国ノ正式承認ヲ見ルニ至ル可シト観測セラル

三、仏国政府側ニ於テハ従来ノ対露方法ニ何等変更ナシト称シ居ルモ同国ノ外交上ニ於ケル従来ノ遣口ニ顧ル時ハ何時顛倒（ヒツクリカエ）ルカ分ツタモノニアラズ諸般ノ情報ヨリ見レバ寧ロ顛倒ル場合ニ於ケル素地ヲ目下作リツツアルモノトモ観測セラレザルニアラズ

四、帝国政府トシテハ他ニ率先シテ露国ヲ承認スルモ具合悪ク又他ガ承認シ帝国独リ取残サルルモ苦（コマ）ルノ事情ナルヤニ推察セラルルガ本使トシテハ帝国ニ於テ露国ニ承認ヲ与ヘラルルモ差支ナキヤニ存ズ蓋シ(イ)露国ヲ承認スルトスルモ右ハ決シテ労農政府ノ主義ヲ承認スル次第ニハアラズ(ロ)承認問題ト交換ニ尼港事件ノ責任ヲ認メシメ同事件ニ関スル「レドレス」ヲ得ント企図セラルルモ本使ノ見ル処ニテハ露国ニ於テ到底之ヲ承諾セズ従テ同問題ノ満足ナル解決ヲ得ザル以上同国ヲ承認セズトノ方針ニテハ何時ニ至ルモ承認ヲナシ得ザルコトトナル

本使ニ於テハ同事件ト承認問題トヲ関連セシメズ承認ヲナシテ露国ト通商其ノ他ノ正式関係ヲ開クト共ニ尼港事件ニ付テハ費用ハ掛カルモ之ガ「レドレス」ヲ得ザル限リ万難ヲ排シテ飽ク迄樺太ノ占領ヲ継続スルコトニ決意シ而シテ承認シタル露国ニ対シ之カ交渉ヲ継続シ之ガ解決ヲ計ルヲ可ト信ズ右交渉ノ為ニハ従来ノ如ク露国ト無関係ニテ交渉ノ相手方ナキ事態ナルヨリハ同国ト正式関係ヲ開ケバ正式ノ交渉相手方ヲ生ジ却テ都合ヨキ次第ナリトモ云ヒ得ベシ

五、尤モ露国ト正式関係ヲ開ケバ直ニ多額ノ通商貿易ヲ生ズルモノト思考スルヲ得ザル可ク右ハ長期間後ニ於テ始メテ実績ヲ収ムルコトヲ得可シ

六、露国トノ関係ニシテ単ニ事実上ノ代表者ヲ交換スルニ止ルコトニテ落付ケバ兎ニ角然ラズシテ正式承認ヲナス場合ニハ労農露国政府ノ代表者ヲ宮中ニ御引見ノ儀ハ避クルヲ得ザルコトトナル可キニ付正式承認ニ付テハ右ノ事実ヲモ考慮ニ置キテ御決定相成ル必要アラン

七、当国政府等ノ態度等ニ付テハ政府交迭次第当局其他ニ付更ニ確メ何分ノ儀報告申進スベシ

二八九　一月二十三日　松井外務大臣
在本邦英国大使　会談要領

対露問題ニ関シ英国大使ト外務大臣会談要領

一月二十三日「エリオット」英国大使松井大臣来訪ノ際同大使ヨリ日本政府ハ日露交渉ニ付テハ如何ナル措置ヲ執ラムトスルヤト質問シタルニ付松井大臣ハ貴大使ニ於テモ承知セラルル如ク已ニ予備交渉ヲ開クコト三回ニ及ヒタルモ皆不成功ニ終リタリ是レ日露双方ノ主張ニ尚多大ノ懸隔アルカ為ニ外ナラス自分トシテハ出来得ル限リ速ニ本問題ヲ解決シタキ所存ナルカ右ノ事情ニ依リ甚タ困難ナリト答ヘタリ

次テ松井大臣ヨリ最近英国ニ於テハ労働党内閣成立シタル処同内閣ハ労農露国承認ノ挙ニ出ツルコトナキヤト試問シタルニ同大使ハ同党ノ主義ニ顧ミ早晩之ヲ承認スルニ至ルヤモ料リ難シト雖モ急ニ此事アルヘシトモ思ハレス殊ニ新内閣成立後ト雖外務部内ニ於テハ一人ノ変動モ無之ヲ以テ今急ニ対外政策ヲ変更シテ露国ヲ承認スルカ如キコトハ之レ無シト考フト答ヘタリ

二九〇　二月十六日　在仏国石井大使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

在浦潮本邦領事ノ駐在不許可ニ関シ仏新聞報道ノ件

第七三号　（二月十七日接受）

十五日「タム」ハ労農政府カ日露交渉開始ニ付再応提議ヲ為シタルモ日本側ニテ之ニ応セサリシニ鑑ミ労農ニ取リテハ片務的ナル本邦正式代表者ノ露国滞在ノ必要ヲ認メサル旨在浦潮本邦領事ニ通告シタリトノ莫斯科電報ヲ掲ケアル処右電報ハ当地「ロスタ」ヨリ発シタルモノノ由ニテ或ハ当地ニテ捏造シタルモノカトモ思ハルルモ右事実有無御回示アリタク因ニ「タム」ノ莫斯科特派員ノ発電モ労農側ニテ検閲スルモノカ一向接到セス偶々接到スル時ハ何レモ労農ニ有利ナルモノノミナリトノコトナリ

波蘭、リガヘ転電シ在欧各大使ヘ暗送セリ

二九一　二月十八日　外務大臣談話要領

カラハン談話ヲ反駁セル松井外務大臣ノ新聞記者ヘノ談話ノ件

本月十八日北京特電トシテ本大臣カ曩ニ地方長官会議ニテ為セル演説ヲ反駁スル意味ニテ「カラハン」氏カ「ステートメント」（編註）ヲ発表シタ旨報道セラレテ居ル。「カラハン」氏ハ不幸ニシテ本大臣カ今日迄毫モ発表シタ覚ノナイ事実ヲ基礎トシテ反駁セラレテ居ルヤウニ見ヘル。第一、ニ日本ハ露西亜ト通商関係ノ回復ヲ望ミ正式ノ国交回復ヲ望マスト云ヒ居ルモ日本ハ露西亜ト各種懸案ヲ解決シ得ハ正式ノ国交関係ヲ回復スルニ躊躇スルモノテナイコトハ既ニ昨年ノ日露非公式予備交渉ニ於テ先方ニ開示シタ所テアッテ其後モ露西亜ト日本トノ地理上経済上密接ノ関係アルニヨリ可成速ニ国交ヲ回復スルコトヲ希望スル次第テアル。第二、ニ国交回復ノ条件ニ付テハ何等言及シタコトハナイ。第三、露国承認ヲ尚早ナリト述ヘタ旨「カラハン」氏ハ言ヒ居レルモ之亦本大臣ニ於テ何等言及シタコトハナイ。要スルニ交渉ノ成立カ先決問題テアルカラ現在如何ニシテ之レヲ成立セシメ得可キカニ就キ考究中テアル。第四、ニ「レーニン」死後露国ノ状態ニ就テ不安アリト述ヘタルカ如ク言ヒ居ルモ本大臣ハ「レーニン」死亡後モ露国ノ状態ニハ大差ナカルヘシト陳ヘタル次第テ「カラハン」氏ノ了解ハ全然誤謬テアル。又「カラハン」氏ハ長春会議決裂ノ原因ハ「サガレン」撤兵問題ナリトシ居レルモ日本ハ尼港事件及北樺太問題解決後尚「サガレン」ヨリ撤兵セスト云フカ如キコトヲ主張シタコトハナイ。露西亜側ハ前記二問題ノ解決有無ニ不拘直ニ撤兵ノ時期ヲ明示スヘシト主張シタ為ニ交渉決裂シタ次第テアル。更ニ「カラハン」氏ハ地震ノ結果日本カ外交的ニ他国ノ羈絆ヲ受クト云フカ如キコトヲ主張シテ居ルカ日本ノ外交政策ハ震災ニ依テ毫モ其ノ自主的方針ニ影響セラレタルコトハナイ。而シテ日本ノ内情ニ関シテ「カラハン」氏ノ抱ケル誤解ノ不尠サルニ付テハ同氏ノ今一段ノ勉強ヲ希望スル次第テアル。

編註　「カラハン」ノ「ステートメント」外務省記録中ニ見当ラズ

二九二　二月二十日　松井外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）

日露交渉ニ関シカラハンノ意向突止方訓電ノ件

第五二号

日露交渉再開ニ関シ客年九月「カラハン」ヨリ貴使ヲ通シ日本政府ノ意向ヲ承知シタキ旨申出アリタルモ我方ニテハ今猶回答ヲ発スルニ到ラサル次第ナルカ右ハ従来帝国政府カ内政事項ノ処理ニ多忙ナリシ理由以外日露間ニハ大連会議以来数次交渉ヲ重ネテ確タル成果ヲ得サリシヲ以テ此ノ上更ニ交渉ヲ開始シ其ノ成立ヲ見サルカ如キコトアラハ甚タ面白カラサル次第ナルニヨリ新ニ交渉ヲ開クニ付テハ予メ其結果ニ付充分ノ成算ヲ有スル必要アル為ニ外ナラサル処一方漁業問題ノ如キハ緊急解決ノ要アルニ顧ミ出来得レハ可成速ニ両国々交関係ヲ樹立シ懸案ヲ一掃スルコト得策ナルニ付此際今一応露国側ノ態度ヲ突止メ出来得ルナラバ日露交渉開始ノ気運ヲ進ムルコトモ一案ナリ而シテ両国間懸案中尼港事件ハ昨年非公式予備交渉ニテ略々話合ヒ付キタルニヨリ右ノ趣旨ニテ之ヲ解決スルトスルモ右以外我方カ最モ重要視スル旧条約問題ニ付キテハ右予備交渉ニ於テモ何等話合成立スルニ至ラス尤モ其ノ後客年十月「カラハン」ヨリ森孝三ヲ介シテ後藤子爵ニ送リ来レル書翰中ニハ日露間旧条約中ニハ事態ノ変更ニ伴ヒ実行不能トナリタルモノ多数アルモ幾分今猶有効ナルモノアリテ此等ハ之ヲ承

認スヘシトノ意向ヲ示シタルコトアルモ措辞曖昧ニシテ露国側カ「ポーツマス」条約等ヲ承認スルノ意アリヤ否ヤ充分ニ判明セサル次第ニシテ更ニ之ヲ明ニスル必要アリ且最近露国側ハ在浦潮帝国領事ノ職務執行ヲ認メサル旨通告シ（往電合第五七号参照）更ニ本月十六日以後従来事実上取扱ヒ来リタル日露間郵便物ノ交換ヲ停止シ居留本邦人ニ多大ノ不便ヲ与フル等我ニ各種ノ不利不便ヲ与ヘ以テ我ヲシテ正式承認ヲ為スノ外ナキ地位ニ陥レントスルノ態度ニ出テツツアリ此儘之ヲ放置スルニ於テハ益々両国ノ関係ヲ疎隔ナラシムルノミニテ双方ノ為メ執ラサル所ナルニ付貴使ハ直接「カラハン」ト会見シ日露関係ニ就テハ政府ニ於テモ充分ナル考慮ヲ払ヒ何等カ相互ニ妥当ナル解決案ヲ見出スニ於テハ可成速ニ交渉ヲ遂ケ国交ノ恢復ヲ希望シ目下夫夫研究中ナルニ若シ露国側ニシテ前記ノ如キ手段ニヨリ日本ヲ強制セントスルモノナルニ於テハ之レ却テ我国ノ輿論ニ悪感ヲ与ヘ形勢ヲ逆転セシムルノ虞アルコトヲ説示シ可成従前通帝国領事ノ職務執行ヲ認メ且ツ西欧諸国ヨリノ郵便連絡上ノ便宜ヨリスルモ浦潮敦賀間ノ郵便受授ヲ回復スル様篤ト先方ノ反省ヲ促スト共ニ客年「カラハン」氏ノ問

合セニ付テハ帝国政府ニ於テハ日露両国カ地理上経済上極メテ緊密ナル関係ニアルノミナラス両国間ニハ諸種ノ懸案存スル事情アルニ顧ミ可成速ニ善隣関係ノ樹立ヲ希望シ之カ為従来屢々交渉ヲ重ネタルモ不幸ニシテ未タ解決ヲ見ルニ至ラサル次第ナルカ政府トシテハ此上徒ニ同様ノコトヲ繰返スコト甚タ好マシカラス今回会議開催ノ上ハ充分成果ヲ得ル所マテ運ヒタキ考ナルニヨリ隔意ナキ貴見ヲ承知シ度キ旨説明セラレタル上進ンデ日露間各種重要懸案解決方法殊ニ㈠尼港問題ニ付露国側ハ今猶客年非公式予備交渉中「ヨッフェ」ノ承諾シタル趣旨ニヨリ之ヲ解決セントスルニ異存ナキヤ㈡旧露国政府トノ条約カ労農政府ノ一方的意志ニヨリ廃棄セラレタリト云フカ如キハ国際法理並ニ成例ニ照ラスモ到底之ヲ認メ得サル義ナル処労農政府ハ今猶依然トシテ斯ル主張ヲ為サントスルモノナリヤ等ノ点ニ付懇談的ニ話ヲ進メ出来得ル限リ具体的ニ先方ノ意向ヲ突止メ其ノ結果電稟セラルル様致度シ

二九三　二月二十二日（着）　在リガ上田書記官ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

英国ノ対露承認ヲ機ニ現レシソヴィエトノ対

日態度ノ変化ニ関シ報告ノ件

第一八号

労農政府ハ英国ヨリ承認ヲ受ケテ以来吾ヲ揶揄ヒ嚢ニ在浦潮領事ニ対シ不埒ナル公文ヲ交付シタルカ今又新聞電報ニ依レハ中央執行委員会ハ日本震災被害民救助ヲ中止スルコトニ決シ又「カラハン」ハ日本新聞通信員ニ日本ノ国際的地位下落シ労農政府ノ地位高マリタルノ今日労農政府ハ進テ日本ニ談判ヲ促カスヲ欲セスト語リタリト右ハ我方ヲシテ焦ラシムル目的ニ出ツルモノト察セラル

二九四　二月二十四日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

カラハントノ会見手筈漸ク整イタル旨報告ノ件

第九〇号

貴電第五二号ニ関シ

本月初旬電報通信所報「レーニン」死後ノ露国ニ関シ本使ノ所説ニ対シ「ロスタ」ハ長々ト事実ヲ誣ヒタル反駁文ヲ掲ケ又大阪毎日ノ布施ニ対シ「カラハン」ヨリモ同様ノ所見ヲ述ブル等ノコトアリシヲ以テ本使ニ於テモ之ニ対シ何等カ説明ヲ与フル必要ナキヤヲ考慮シ居リタル折柄浦潮ニ於ケル領事ノ職務執行停止、日露間郵便交換停止等ノ報道ニ接シ次イデ当地ニ於テハ露国側申出ノ山林、漁業等ニ関スル提言ノ取消及「スレパック」宣誓拒絶ノ通告ニ接シタルヲ以テ「ソヴィエット」政府ニ於ケル政策ノ変更ヲ察シ居リタル処恰モ貴電第五二号ヲ以テ露国側ノ態度ヲ突キ止メ得ルナラバ日露交渉促進ノ気運ヲ進ムル様致ス可キ旨御訓令ニ接シタル次第ナリ、然ルニ右御訓電ハ極秘トナリ居ルニ拘ハラス其接到後間モナク東京発電報通信ハ露国ノ真意ヲ確カムル為メ「カラハン」ニ会見方本使ニ訓令セラレタル旨ヲ報シ亜イデ大阪毎日及「ルーター」亦同様ノ報道ヲ伝ヘタル為メ当方ノ内幕相手方ニ見透サレタル様ノ形勢トナリ当方ヨリ進ンテ面会ヲ求ムルコト如何ニモ工合悪クナリタル而已ナラス斯ノ如キ形勢ノ下ニ本使ヨリ強ヒテ「カラハン」ニ面会ヲ求ムルトモ徒ラニ当方ノ立場ヲ不利ナラシメ御訓令ノ如ク露国側ノ態度ヲ突キ止ムルカ如キハ頗ル困難ト思考シタルニ付幾分ナリトモ右ノ如キ形勢ヲ緩和スル方法無キヤト思考シタルニ偶々当地東方通信ニテ報道セラレタル閣下ノ「ステートメント」（編註）（「カラハン」ノ

「ステートメント」ニ対スル）ノ真相ニ付「カラハン」秘書「シュワルサロン」ヨリ有田ニ対シ頻リニ問合セ来リ居レル際ナリシヲ以テ同官ヲ「シュワルサロン」ニ面会セシメ「ステートメント」問題ヲ引懸ニ本使ト「カラハン」トノ会見ニ導ク様措置セシムルコトトセリ

同官ハ二十三日午後「シュワルサロン」ニ面会ノ上外務大臣ノ「ステートメント」ニ対シ「カラハン」側ハ頻リニ「インタレスト」ヲ有セラルルハ何等カ右ノ内ニ「ソヴィエット」側トシテ好マシカラサル点アルガ為ナルヤ実ハ近来誤解ニ基クモノト認メラルル事件ノ頻出セルニ顧ミ此上更ニ誤解ヲ生ゼシムルハ双方ノ利益ニアラサルヲ以テ若シ不審ノ点アラバ指摘アリタク説明シ得ラルルコトアラバ其労ヲ取ルニ吝ナラザルコトヨリ説キ起シ種々意見交換ノ後結局全然同官限リノ意見トシテ最近ノ出来事ノ結果両国ノ関係ガ最近急ニ悪化シツツアルコトハ双方ノ為メ決シテ利益ト云フコトヲ得ザルガ故ニ此際責任者ノ非公式会見ヲ「アレーンジ」スルコト得策タラザル可キヤヲ提言シタルニ「シュワルサロン」モ之ニ賛成シ居リタル由ナルガ次イデ先方ヨリ明二十四日午後五時「カラハン」ニ於テ本使ヲ

茶ニ招待シ懇談スルコトトシタキ旨申越シタルニ付之ヲ承諾シ置ケリ

今日迄ノ当地ノ形勢一応御承知置キアリタシ

編註　前掲二九一文書参照

二九五　二月二十五日　在中国芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

カラハントノ会談内容ニ関シ報告ノ件

第九三号　（二月二十六日接受）

二月二十四日「カラハン」ヲ訪問、先ツ森林漁業権提供ノ件ニ関シ露国側カ日本ノ回答ヲ以テ露国側ノ好意ヲ無ニスルモノナリトノ批難ノ当ラサルコト、日本ノ提議シタル方法ハ日本トシテ露国ノ好意ヲ実行スル唯一ノ実際的方法ナル事等ヲ説明シタルニ「カラハン」ハ本件ニ関スル二月二十日付「ノート」ハ莫斯科政府ノ訓令ヲ其儘移牒シタルモノニシテ「ミツション」側トシテハ何等関知スル所ナキモ莫斯科政府ニ於テハ日本政府ハ露国ノ好意ヲ諒トセス最初ノ提言中ニ記載セル細目協定ノ為露国側ノ代表者ノ渡日ヲ承引セス又罹災民ニ直接利益トナルヘキ方法ヲ執ラスシテ却テ日本側ヨリ対策メキタルモノノ提出アリタルヲ快シトセサルニ出テタルナルヘシトノ事ナリシニ付曩ニ説明シタル所ヲ繰返シテ誤解ナキ事ヲ希望スルト同時ニ前記「ノート」ノ要領ハ東京ニ移牒シ置キタルニ付今後更ニ或ハ何分ノ交渉ヲ為スヤモ計リ難キ旨ヲ申添ヘ次テ本件ト前後シテ浦潮領事ノ職務執行否認、日露間郵便交換中止、「スレパック」宣誓拒絶、日本通信員露国退去命令等ノ事件カ相継イテ発生シタル事ニ言及シ日本側ニ於テハ露国側カ正式交渉若クハ承認促進ノ方法トシテ斯ノ如キ措置ニ出テタルモノナリトノ感想ヲ有スルモノノ如ク現ニ本使ニ於テモ亦同様ノ想像ヲ逞シウセサルニ非ス然ルニ右ノ如キ措置ハ是迄両国間ニ存在セル関係ヲ悪化スルモノニシテ却テ日本国民ノ感情ヲ害シ正式交渉ノ再開乃至国交復旧ノ如キ機運ヲ逸スルノ結果トナル無キヲ保セスト述ヘタルニ「カラハン」ハ之等ノ事件ハ偶々時ヲ同フシテ発生シタルニ過キスシテ其間何等ノ連絡アリト認メラレス又交渉ヲ促進セントスルカ如キ目的ヲ以テ行ハレタルモノニ非スト信スト述ヘ浦潮領事ニ付テハ右ハ元来一方的（「ユニラテラル」）駐在ニシテ浦潮若クハ沿岸州ノ住民ニ於テモ常ニ其撤退ヲ主張シ居リタルモノナルヲ以テ莫斯科政府ニ於テモ之ニ動カサレタルモノナル可シト弁シ居リタリ次ニ本使ハ日本政府ニ於テハ予テ露国トノ正式関係樹立ヲ希望シ居リタリシモ一ハ震災ノ為又一ハ大連、長春、東京等ノ諸会議カ不幸ニシテ不成功ニ終リタルニ鑑ミ今回ハ交渉ノ成否ニ付相当確答ヲ得タル上ニテ再開スル事ト致シ度キ希望ヲ有シ折角研究ニ努メ居リタル次第ナリ例ヘハ尼港事件ニ関シテハ「ヨッフェ」川上会談ノ際或ル程度ノ諒解成立シ居リタルヤノ処露国側ニ於テハ今尚右諒解ニ従フ事ニ異議ナカル可キヤ又両国間ニ於ケル旧条約及債務ノ如キハ依然之ヲ認メザル趣旨ナリヤ等ニ関スル露国側ノ意思ハ日本政府ノ最モ知ラントスル所ナルベシトテ之等ノ諸点ニ関スル先方ノ意見ヲ叩キタルニ「カラハン」ハ北京来任当時ハ詳細訓令ヲ受ケタルモ其後相当時日ヲ経過シ且事態ノ変化モ甚シキニ拘ハラス久シク訓令ニ接セサルヲ以テ莫斯科政府ノ現在ノ態度ハ承知セサルモ私見トシテハ㈠、条約問題ニ付テハ旧条約ヲ一律ニ承認スルコトハ露国政府ノ敢テセサル所ナリ条約中現ニ効力ヲ有シ又有セシムヘキ若クハ之ヲ変更スル必要ナキ条項鮮ナカラズ例ヘバ境界ニ関スルモノノ如シ又日本ニ関スルモノニ付テ謂ヘハ漁業ニ関スル協約ノ内容ノ如キハ之ヲ

有効ナリトスルニ躊躇セサル可シ（本使ヨリ「ポーツマス」条約ニ付テハ如何ト述ヘタルニ対シ）「ポーツマス」条約ニ付テハ例ヘハ東清鉄道及租借地ノ譲渡、樺太ノ譲渡ノ如キハ最早既定ノ事実ニシテ何人ト雖モ之ヲ争フモノナカルベシ又例ヘハ同条約第二条及第三条ノ如キ今更考量ノ必要アリヤ之ヲ要スルニ日露間ノ条約ハ戦争（日本ノ西比利出兵ヲ云フ）ニ依リテ消滅ニ帰シタルモノナルヲ以テ茲ニ正式関係ヲ樹立スルニ当リテハ旧条約ノ内容ニ付一々其正否ヲ検査シ新ナル条約トシテ之カ締結ノ手段ヲ執ルヘキナリト述ヘタリ依テ本使ヨリ英米仏等ノ関係ニ付借問セルニ何レモ戦争ノ為ニ条約消滅スルニ至レルモノナルコト日本ト同シト述ヘ又支那及南米等トノ条約ニ付推問シタルニ之等モ外交関係断絶シ居リタルモノ故何レモ同様ナリ殊ニ通商条約ノ如キハ通商関係ノ激変ニ鑑ミ何レモ全然新ナル基礎ニ於テ改訂ヲ為スノ要アリ英国トノ間ニ於テハ委員ヲ設ケ条約ノ各項ニ付審議ヲ重ネムトシツツアリ此方法ハ日本トノ間ニモ採用スルコト便宜ナラムト述ヘタリ

(二)、尼港事件ノ解決ハ困難ナラサルヘシ「ヨッフェ」川上

間ニ談合セラレタルコトハ予ノ来任当時ニ於テハ尠クトモ総テ認メラレ居リタリ

(三)、債務ニ付テハ之ヲ支払ハサルコトニナリ居リ西比利出兵其他ノ為露国ノ蒙リタル損害ヲ差引クニ於テハ結局支払ヲ為スノ必要ナキニ至ルヘシト信ス云々ト述ヘタリ

最後ニ本使ハ浦潮ノ事件カ何等交渉促進ノ手段ニ出テタルモノニアラストスレバ之ヲ取消スコト出来間敷キヤト述ヘタルニ莫斯科政府ニ取次クヘシト答ヘタリシモ例ヘハ領事否認ノ如キハ元来相互的ニアラサルニ基クモノナルヲ以テ仮令之カ為ニ日本側ニ於テ感情ヲ悪クスルトテ莫斯科ニ於テ果シテ之ヲ再考スヘキヤ否ヤ疑アリ何レノ途浦潮ニ於ケル日本居留民保護ノ如キハ万遺漏ナキヲ保証スト述ヘタリ依テ本使ハ浦潮領事館及郵便交換ノ如キハ多年実行シ来リタル所ニシテ今更之ヲ廃ストスレバ不便尠ラス単ニ「レシプロシテー」ト云フカ如キ道理一遍ニテ決サルヘキ性質ノ

報告ノ件

第一〇五号　（二月二十八日接受）

往電第九五号ニ関シ

二十七日「ロスタ」ハ本使ト「カラハン」ノ会見ニ於テ本使カ浦潮領事職務執行停止等ノ出来事ニ関シ談話シタル外日本カ「ソビエト」政府ト正式関係ノ樹立並正式会議ノ開催ニ意アルコトヲ告ケ唯困難ハ会議ノ成功ヲ期スル為ノ実際的方法ニ存スルノミナルコトヲ指摘セリト述ヘ次テ「カラハン」ニ於テハ訓令ヲ受ケ居ラサル為不幸ニシテ之等諸問題ヲ論議スルコトヲ得サリシモ結局「カラハン」ハ浦潮領事ノ件ヲ再考シ且ツ日本通信員ノ退去ヲ数日間猶予スル様トノ日本側ノ要求ヲ『日本ニ於テ「ロスタ」通信員ノ件ヲ再考セント欲シ居ルニ顧ミ』莫斯科ニ取次クコトヲ承諾セリ云々ト発表セリ多少相違ノ点アルモ其儘トシ置ク積リナリ

二九九　三月八日　在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

浦潮領事職務執行停止ノ取消方申入レニ対シカラハン拒絶ノ意向ヲ回答ノ件

第一三七号　（三月九日接受）

三月七日「カラハン」来訪曩ニ本使ヨリ申入レ置キタル浦潮領事職務執行停止取消方ノ件及領事ニ代ル可キ露国官吏本邦駐在ノ件ニ関シ莫斯科政府ハ慎重審議ノ結果遺憾ナカラ之ヲ拒絶スルコトニ決定セル旨及之カ理由トシテ露国政府ハ法律上ノ根拠ナキ此種代表者ノ交換ハ両国間ノ重要ナル利益ヲ擁護スルニ適セサルノミナラス承認関係ナキ国家間即チ法律上ノ人格ヲ認メサル国トノ間ニ於ケル斯ノ如キ関係ヲ作ルハ露国々民ヨリ見テ非相互的ナリトシテ必ス反対ヲ受ク可ケレハナリト述ヘ続イテ特ニ莫斯科政府ノ命ニ依ルモノナリト前提シ露領在留ノ日本人ハ将来トモ安全ニ居住スルヲ得ヘシ此等日本人ハ領事ノ否認セラレタル今日其ノ保護者タル領事ヲ失ヒタル次第ナレハ露国側トシテハ一層在留日本人ヲ保護スルノ責任アリ露領在留日本人ハ目下何等不平ナク露国官憲ノ態度ニ対シ寧ロ満足シ居レリト述ヘタルニ依リ本使ハ曩ニ本件申入ノ際説明ノ通リ我領事ノ資格否認ヲ取消スト共ニ露国側ニ於テモ領事ニ代ル可キ官吏ノ日本駐在方ヲ申入レタルハ旅券ノ査証其ノ他幾多実際上ノ不便ヲ除去センカ為ノ一時的便法トシテ提議セルモノナル処露国政府ニ於テハ単ニ法律上ノ根拠ヲ欠クノ故ヲ以テ右提議ヲ拒絶セルハ全ク本使ノ期待ヲ裏切リタルモノニシテ啻ニ本使ノ失望スル処ナルノミナラス帝国政府ノ深ク遺憾トスル処ナル可シ又露国側ニ於テハ右我方提議ヲ以テ非相互的ナリトナスモ之レ本使ノ諒解シ能ハサル処ニシテ露国側カ我領事ヲ承認シ同時ニ露国官吏ヲ我国ニ駐在セシムルコトトセントスルハ我方相互的見地ニ出テタル提議ニ外ナラス又斯カル官吏ノ派遣交換ハ両国利害関係ノ重大ナル実情ニ適応セストノコトナルモ両国ハ斯ノ如キ重大ナル利害関係ヲ有スルカ故ニ不取敢下級ノ官吏ナリトモ互ニ之ヲ交換スルノ必要ト実益アルヘキ旨ヲ説明シタルニ「カラハン」ハ我提議ノ相互的見地ニ基ク点ハ貴説ノ通リニシテ其ノ実際的便宜ニ基ク趣旨亦能ク之ヲ諒解スルモノナリ唯斯ノ如キ便益ハ両国々交中自分ノ期待スルモノノ万分ノ一ヲモ充スニ足ラサルノ観アリ之ヲ実例ニ徴スルモ一九二一年以来露国ハ英国ト事実上ノ関係ヲ結ヒ其ノ首府ニ相互ノ代表者ヲ置キ通商上其ノ他各般ノ通商ヲナシ来レリ現ニ支那トノ関係モ同様ナル処日本側提議ノ如ク日本ハ浦潮ニ其ノ領事ヲ置キ露国ハ日本ノ一地方ニ其ノ官吏ヲ駐在セシムルコトトセンカ斯ノ如キ関係ハ実ニ露支間ノ事実上ノ関係ニモ劣ルモノト云ハサル可ラス況ンヤ事実上ノ関係ノ最大ナルモノトセラレタル英露往年（承認前）ノ関係スラ両国実際ノ利益関係ニ適応スルコト能ハサルノ事実ニ顧ミ今回日本側提議ノ如キ小規模ナル事実的ノ関係ヲ樹立セントスルカ如キハ両国ノ為何ノ加ウル処アル可キヤ右ノ如ク単ナル事実上ノ関係ハ相互ノ為何等ノ利益ヲ齎スノ沙汰ニアラサルニ顧ミ露国中央執行委員会ハ斯ノ如キ対外関係ヲ結フニ反対スル決議ヲナセルモノナリ去レハ重要ナル利害関係ヲ有スル日露ノ如キ両大国間ニ於テ単ニ地方駐在ノ権利交換ヲ協定スルニ過キストセハ労農政府ハ如何ニ之ヲ国民ノ前ニ弁明スヘキヤ其ノ方法ヲ求ムルニ苦シムヘシ依テ両国間実際上ノ不便ヲ免カレサルハ真ニ遺憾ナルモ事情前述ノ次第ナルニ付暫ク俟チテ正式関係ノ樹立ヲ期シタシト述ヘ本使ハ之ニ対シ帝国政府ト雖成ルヘク速ニ日露正式関係ノ樹立ヲ希望スルハ勿論ノコトニシテ毫モ之ヲ避ケントスルモノニアラス唯現在ニ於テハ正式交渉ニ入ルヘキ形式ニ付考慮シ居ルモノナリ領事ノ問題ハ両国間ノ小問題ナリト云ハルルモ之レ単ニ程度ノ問題ニシテ本使トシテハ現実ノ利

害関係ニ鑑ミ之ヲ必要ト主張スルモノニシテ又仮令日露交渉開始ヲ見ルモ正式関係樹立ニ至ル迄ハ相当ノ時日ヲ要スルモノト見サル可カラサルカ故ニ其ノ間ニ於ケル一時的便法トシテ実際上ノ必要ニ応スル措置ヲ提議セルモノナル点ニ顧ミ切ニ露国側ノ再考ヲ促スモノナルコトヲ莫斯科政府ニ伝達セラレタシト述ヘタルニ「カ」ハ右ハ已ニ中央執行委員会ニ於テ決定セルモノナルカ故ニ該決定ヲ翻スハ頗ル難事ト思考セラルルモ兎ニ角稟請ニ及フヘシト答ヘ次デ本使ヨリ郵便物ノ交換拒絶及浦潮ニ於ケル邦人拘禁事件ニ関スル莫斯科政府ノ回答如何ヲ質シタルニ郵便問題ニ就テハ莫斯科政府ニ於テハ直接何等関知スル処ナク目下浦潮当局ニ詳細ナル（脱）照会中ノ趣ナル処自分カ浦潮ヨリ得タル情報ニ依レハ本件ハ何等カ技術上ノ問題ニ関スル感情ノ齟齬ニ出テタルモノノ如ク既ニ両国当局者間ニ於テ談合進行中ナルヤノ趣ニ付既ニ円満解決ヲ見タル可シト考ヘ居ル旨ヲ答ヘ又浦潮ニ於ケル拘禁事件ニ関シ所謂公ノ資格ヲ有スルモノヲ釈放スルコトニ就テハ莫斯科政府ニ於テモ異存ナキモ一私人ニ就テハ其ノ罪名ノ重大ナルニ顧ミ莫斯科政府向ハ既ニ聞合セラレタリヤト尋ネタルニ付本使ハ当時此種委員会ノ談話アリタルコトハ朧気ナカラ承知スルモ我政府ノ意向問合ノ請求アリタルモノトモ考ヘサリシニ依リ此点ニ付テハ何等政府ニ請訓セサリシ旨ヲ答ヘタルニ「カ」ハ本件ニ付当時確実ニ日本政府ニ照会方ヲ求メタル次第ニハアラサリシモ自分一個ノ私見トシテ述ヘシモノナルコトヲ語リ尚語ヲ継キテ英国トノ間ニ於テハ単ニ「ノート」交換ニ依リ正式国交樹立シ諸懸案ハ別ニ委員会ニ於ケル討議ニ依リ解決スルコトトシ旧条約ノ効力ヲ云為スルコトナクシテ国交ヲ樹立シ得タル次第ニ付若シ日本ニ於テ斯ノ如キ方法ニ異議ナクハ直ニ莫斯科ニ打電スヘシト述ヘタルカ時已ニ遅ク双方共約束ノ時間切迫シタルヲ以テ一両日中ニ引続キ談話ヲ継続スルコトトシタリ　不取敢

三〇〇　三月九日　在ポーランド国佐藤公使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

英伊ノソヴィエト政府ヲ承認セル今日日本トシテモ対ソ承認ニ踏ミキルベキ要アリトノ意見具申ノ件

第二二号（編註）　（三月十日―十四日接受）

引クヲ免カレサル可シト答ヘ所謂公ノ資格ヲ有スルモノノ中ニハ軍人ヲ包含スヘキヤ否ヤノ本使ノ問ニ対シ「カ」ハ過日モ説明ノ通リ関係軍人カ公ノ資格ヲ承認セラレタリヤ否ヤニ係ル旨ヲ説明シ同人ノ意見トシテハ公ノ資格ヲ有セルモノトハ主トシテ領事館員ヲ意味セル次第ナルモ若シ領事館付武官ナルモノアリトセハ之ヲ含ム次第ナリト述ヘ更ニ本使ヨリ我方接手ノ情報ニ依レハ本件拘禁ノ理由ハ何等具体的証拠ニ基ケルニアラスシテ極メテ漠然タル嫌疑ニ基クモノノ如ク果シテ斯カル不充分ノ理由ニ依リ今回ノ如ク多数邦人ノ拘禁ヲ見ルニ至リタルモノトセハ両国将来ノ国交上重大ノ影響ヲ来スナキヤヲ虞ルルカ故ニ斯カル嫌疑ニ依ル拘引者ハ速ニ釈放方莫斯科政府ニ稟請アリタキ旨重ネテ要求スル処アリタル処「カ」ハ拘禁ト云フモ左程重大ノコトニアラス若シ単ニ嫌疑ニ止マル場合ニハ両国々交ノ将来ニ顧ミ成ルヘク有利ナル解決方ヲ稟請スヘシト答ヘタリ最後ニ「カラハン」ハ往電第九三号所載ノ会見ノ際ト同シク旧条約ノ効力問題ニ関スル談話ヲ試ミ斯ノ如キ問題ニ就テハ英国ノ例ニ倣ヒ別ニ委員会ヲ組織シテ討議スルカ如キ方法アルコトヲ先日モ語リタルカ之ニ対スル日本政府ノ意

英伊両国ノ「ソヴィエット」政府承認後ニ於ケル帝国政府ノ対露方針ニ関シテハ慎重考慮ヲ要スル儀ニテ或ハ帝国トシテハ何処迄モ従来ノ主義ヲ固持シ露国側ニ於テ之ヲ容認セサル間没交渉ノ儘押通シ北樺太ノ占領ヲ継続ス可シトノ論モアルヘク国家ノ体面ヨリ謂ヘハ無理ナラヌ議論ニ相違ナキモ英伊承認後ノ今日尚斯ノ如キ没交渉ノ態度ヲ持続シ得ヘキヤ又之ヲ持続スル事カ果シテ帝国ノ為利益ナリヤニ関シテハ相当異論ヲ挟ム余地アルモノノ如ク之等諸点ニ関シテハ既ニ考量ヲ尽サレタル事トハ存スルモ敢テ僭越ヲ顧ミス卑見開陳御参考ニ供セントス

熟ラ露国ノ情勢ヲ察スルニ「レニン」死亡後間モ無ク英伊ノ正式承認ヲ贏チ得タルハ労農政府ノ大成功ニシテ国民ニ対スル政府ノ権威ハ為ニ強マリ以テ内訌ヲ抑圧スルニ足ルカ如ク而シテ此ニ注意スヘキハ此間ニ処スル波蘭政府ノ態度ニシテ恐怖及猜疑ニ満チタル従来ノ当国対露政策ハ客年末頃ヨリ著シク緩和シ今日ニ於テハ西欧諸国ノ露国承認ハ即チ彼ヲ平和生活ニ導クモノナリトシテ寧ロ之ヲ歓迎シ進ンテ「ソヴィエット」政府ト通商条約、通過貨物条約等ヲ締結センカタメ近ク君府ニテ交渉ヲ開始セントシ郵便電信

条約モ遠カラス批准セラル可キ模様ナリ波蘭カ斯ノ如キ対露方針ヲ執ルニ至リタルハ露波国境ヲ安全ナラシムルト共ニ国内生産品ノ捌ケ口ヲ設ケ以テ経済的危機ヲ緩和セントスルニ在リ而シテ当国トノ通過貨物条約ハ即チ露国側ノ熱望セル所ニシテ交渉順調ニ進行セハ或ハ近ク其成立ヲ見ルヤモ知レス斯クシテ露国ハ波蘭ヲ通シテ自由ニ独逸ト交通シ得ルニ至ルヘク英伊ノ承認ト相俟テ看過スヘカラサル情勢トス

米仏ノ承認ニ至リテハ露国側ニ執リ「ワイタルインテレスト」ヲ有セス米政府ノ態度如何ニ拘ラス饑饉救済事業利権問題等ニ付「ソビエト」政府ハ事実上米国側ト交渉ヲ有シ其手心次第ニテハ何時ニテモ米国実業家ヲ誘致シ得ル準備アリト考ヘラレ仏ノ態度ハ「ジェノア」会議以来一貫シ堂堂タルモノアリト雖之又露国ヨリスレハ全ク痛痒ヲ感セサル処ニシテ賠償荒廃地復旧問題等ニ没頭セル同国トノ交通カ露国ニ大ナル利益ヲ齎スヘシトハ予期シ居ラサルヘシ即チ露国ハ英伊両国承認ノ今日体面上ヨリスルモ他ノ承認ヲ急速必要トセス又経済的ニモ差当リ独、英、伊トノ通商ヲ以テ満足シ得ヘク事情果シテ斯ノ如シトセハ労農政府ノ対

本邦態度ノ一変即チ浦潮領事不承認等ノ問題ノ如キハ当然ノ帰結ニシテ今後モ（不明）ニ我無条件承認強要ノ態度ニ出スヘキハ察スルニ難カラス加フルニ我ニハ朝鮮人問題ヲ控ユル弱味アルニ反シ露国ニ対シテハ不幸何等ノ強味ヲ有セス(脱)ノ態度ヲ維持シタリトテ彼ヲ威圧スルニ足ラス翻テ本邦ノ為ニ之ヲ考ヘルニ従来我ヨリ進ンテ露国ニ正式承認ヲ与フルニ対シ障碍トナリタル主タル理由三アリ即チ㈠同盟国トノ協調㈡尼港事件及北樺太問題㈢労農政府ノ将来ニ対スル観測ノ不一致等之ナリ然レトモ㈠ニ関シテハ英、伊単独行動ノ結果「ジェノア」会議以来ノ協調破レタル今日我ノミ之ニ拘泥スルノ義理合ナク㈡尼港問題ニ関シテハ数次ノ日露会商ニ於ケル帝国政府ノ御方針乃至ハ国民ノ感情モアルコトヲ大局ヨリ云ヘハ同事件ハ我西比利亜出兵ノ一「インシデント」ニ過キス「パルチザン」ノ残虐憎ムヘシト雖我出兵ノ目的ト関係ナキ一局地ノ出来事ヲ以テ北樺太占領ノ理由トシテ満足ナル賠償ヲ得サレハ之ヲ併合セントスル勢ヲ示スハ果シテ妥当ナルヘキヤ日本ハ該事件ヲ奇貨トシテ他国ノ領土ヲ占領スルモノト見做サレサルヘキヤ加之ス該事件惹起ノ原因カ少クトモ我手落ニアラサレハ

我自ラ危険ヲ冒セルモノナルニ於テ我立場ハ益々薄弱ナラサルヲ得ス列国亦其辺ノ事情ヲ承知シ居ルヘキカ故ニ我主張ハ啻ニ露国側ヲ屈服スルニ足ラサルノミナラス第三国ヲシテ首肯セシムルコト困難ナラン而シテ本事件カ他日日露間ニ再度提起セラルル場合労農側ハ従来通リ我西比利亜出兵中ノ被害額ヲ以テ日本ノ要求ト相殺セントスルハ殆ト明カニシテ尼港事件ノ代償トシテ北樺太ヲ譲渡セシム即チ尼港及北樺太問題ハ我ニ於テ自発的英断ニ出テサル限リ解決ノ日ナカラントス而モ現状ヲ維持シテ樺太占領ヲ続行スル間ハ日露間国交恢復ノ望ナキノミナラス既ニ華府会議中問題トナリタルカ如キ本件ハ再ヒ日米両国間ノ論争ヲ惹起スルニ至ルヘク労農側ハ其形勢ヲ利用シテ騒立ツルニ於テハ本件ノ解決益々困難ニ落入リ結局我ニ不利ノ結果ヲ齎ラサストモ限ラス本使ハ寧ロ今ノ内我ヨリ進ンテ尼港問題ニ対スル賠償ヲ断念シ日露間ノ障碍ヲ除キ右一地方ノ出来事ニ拘泥セサル所謂大国ノ襟度ヲ示サンコトヲ希望スルモノナリ而シテ本問題ニ対シ一度此決心ニ出テンカ北樺太問題ハ自ラ解決容易トナルヘク或ハ賠償或ハ長期利権ノ獲得等一二解決法アルヘキモ之等ハ華府会議並従前ノ日露交渉ノ空

気ヲ承知セサル本使等ニ於テ論議ノ限リニアラス要ハ尼港事件ニ見切ヲ付ケ以テ樺太問題ノ解決ニ資スルニアリ

労農政府ノ将来ニ関シテハ何人ト雖確信アル予言ヲ為シ得サル処ニシテ各国ノ対露政策旗色甚タ不鮮明ナリシモ亦一ハ之ニ帰因ス然レトモ労農政府倒壊ノ原因タルヘキ外国ノ干渉若ハ内部的革命ニ関シテハ前者ハ既ニ数年前ノ夢ト化シ後者ハ過去六年ノ経過並「パッシブ」ナル国民性ニ顧ミ是レヲ期待スルコト殆ト絶望ナルカ如ク而シテ数十万ヲ算スル国外亡命者流ニ至リテハ不幸ニシテ一致ヲ欠キ身命ヲ賭シテ祖国ノ回復ヲ図ラントスル気概ナク彼ニ多クヲ望ムヲ得ス「レーニン」死後共産党ノ内訌ニ大ナル望ヲ抱クモノアリト雖是レ亦革命ヲ誘致スル程ノ大爆発ヲ為ス可シトモ思ハレス即チ「ソビエト」政府ハ「レーニン」死亡ニ拘ラス当分持続スルモノト観察スヘク我対露政策モ此鑑定ノ上ニ樹立スルヲ要ス可ク茲ニ於テカ露国ヲ列国ノ通商(脱)ニ解放シ漸ヲ追フテ同国内ニ外国ノ経済的勢力ヲ扶植シ露国民ノ実力ヲ強大ナラシメ自然ノ「エヴォリューション」ニ依リ現在ノ幹部専制ヨリ離脱シ民主国ノ体裁ヲ為スニ至ラシムルヲ以テ一般的対露方針ト為スヘキカ如シ英伊

両大国既ニ正式承認ヲ与ヘ他ノ小国是ニ次キ労農政府ノ地位頓ニ鞏固ヲ加ヘタル今日日本ハ彼ニ対シ主義トシテ英ノ如ク無条件承認ヲ与フルカ若ハ絶対ニ没交渉ノ態度ヲ持続スルカ二者其ノ一ヲ択ハサルヲ得ス数箇問題ノ満足解決ヲ条件トシテ承認ヲ与ヘントスル従来ノ我方針ハ既ニ用フヘカラサルニ至リ日本ハ幸ニシテ露国ト直接境ヲ接セサルカ故ニ国防上脅威ヲ感スルコトナク又経済的見地ヨリスルモ漁業森林通商問題等何レモ国益増進上一小部分ノ問題タルニ止マリ又当分通商開始ノ望ナキ関係上必スシモ我ヨリ承認ヲ急ク理由ナク即チ長ク没交渉ノ儘放置シテ不利ナラサルニ似タリ然レトモ是ヲ他方面ヨリ考フルニ英、伊、墺、諾威四国ニ次キ他諸国続々露国ト法律的関係ニ入リタリトセンカ利権問題、通商開始問題等相次テ議ニ上ルヘク仮令名ノミノ利権ニシテ実果ヲ挙クルコトナシトスルモ早ク調査シ他人ニ先ンシタルモノカ勝ニシテ遅参者ノ不平ハ聴カレサル可ク而シテ他日労農政府カ現制度ヲ緩和シ外国資本ノ流入ヲ容易ナラシムルコトアリトセハ遅参者ハ一層不利益ノ地位ニ立ツコトトナル可シ況ンヤ他人カ労農政府側ト好関係ニアリテ各種事業ニ関スル調査ヲ進メ交渉ヲ開始シ

タリトセンニ此間列外者ノ感スル不安猜疑ハ頗ル不愉快ナルモノアル可ク長ク斯ノ如キ地位ニ在ルノ利益ナリヤ否ヤヲ疑フノ日アルヘシ又近キ将来ニ於テ西比利亜鉄道ニ由ル倫敦浦潮間連絡運輸可能ナルニ至レリトシ此場合ニ於テモ尚日本ハ没交渉ノ態度ヲ維持シ得ヘキヤ我地理的地位ヨリスルモ寧ロ進ンテ仲間入リヲシ連絡開通ノ促進ニ当ルヲ利益トセスヤ此他郵便電信無線電信等露国ト協定スルヲ有利トスルモノ多々アル可ク又条件如何ニ依リ英米実業家カ西比利亜ニ利権ヲ得ルニ当リ仮令山師的事業ニセヨ是レト均衡ヲ保ツ丈我亦同地ニ手ヲ伸ス準備無クシテ可ナルヘキヤ現ニ日本カ占領セル北樺太サヘ「シンクレヤ」ノ着目セルアリ西比利亜方面ニ米人ノ活動スヘキハ予期セサルヲ得ス況ンヤ時至レハ米政府ハ我態度ニ頓著ナク露国ヲ承認スヘク承認遅延ニ依リ一向痛痒ヲ感セサル米国ノ顰ニ倣ハハ事情ヲ異ニスル日本ハ恐ラク利スル処ナカラン

尤モ本使ト雖無条件承認後ノ交渉モ順調ニ進ムヘシト夢想スルモノニアラス幾分難関ニ出会ヒ再ヒ国交断絶ノ域ニ達スルコトアルヘキハ初ヨリ覚悟セサルヲ得サルトコロナリ然レトモ難関ト言ヒ国交断絶ト言ヒ皆一ノ神秘ト言フヘク

国民モ之ニ依リ訓練ヲ受ケ露国ヲ諒解スルノ機会ヲ得ヘク長ク一ケ所ニ沈滞スルヨリハ寧ロ堰ヲ切リテ行詰リタル政策ヲ奔流セシムルニ如カサルカ如シ本使ハ又国交回復後日本人ハ直ニ露国ニ入リテ居住往来ノ安全ヲ保障セラレ通商ニ企業ニ充分活動ノ余地ヲ与ヘラルルモノトハ毛頭思惟セス露国トノ通商ハ当分絶望ニシテ各種企業モ現在ノ秩序及法制ニテハ到底着手シ難カルヘシ然レトモ労農政府ヲ相手トシテハ不撓ノ精神ヲ以テ漸進ノ外ナシ歩一歩準備ノ地歩ヲ固メ他日形勢ノ変転ニ際シ狼狽セサル用意ヲ肝要トスヘク此努力ヲ為ササルモノハ他日敗者ノ地位ニ甘セサルヲ得サルヘシ然レトモ茲ニ最恐ルヘキハ承認ニ伴フ日露間使臣ノ交換即チ共産党宣伝者ノ本邦入国ニシテ波蘭ノ如キ国境ヲ接スル国ニアリテハ殊ニ宣伝者ノ取締ニ困難ヲ感シ居ルモノノ如ク伯林ニ於テモ労農政府代表者ヲ中心トシ大仕掛ノ宣伝機関ノ設アリト言フ我承認ニ伴フ各種交渉案件ノ第一ハ共産党宣伝中止ニ関スル労農側ノ約言ニ在ルヘク是丈ケハ後日ノ為是非取付クルヲ要スヘキモ労農側カ真面目ニ約言ヲ守ラサルヘキハ常習ノコトナルカ故ニ共産党ノ宣伝ハ何レノ場合ニ於テモ之ヲ覚悟セサルヲ得ス我両三年思想

悪化ノ今日此点頗ル寒心ニ堪ヘサルモ去リトテ国交ヲ復活セサレハトテ彼等ノ宣伝ヲ防止シ得ヘキヤ如何ニ官憲ノ取締アレハトテ必ス形ヲ変ヘテ侵入シ来ルヘク之ニ対スル方策トシテハ自ラ社会問題ヲ改善シ自衛策ヲ講スルノ外共産党跋扈ノ今日ニ於テハ他ニ良策ナシ然レハ両国使臣ヲ交換スルモ危険ノ程度ハ五十歩百歩ナリ但上述承認賛成論モ之カ実行如何ハ懸リテ近ク開カルヘキ英露交渉ノ結果如何ニ在リト思考ス該交渉ハ新聞報ニ依レハ四月初旬倫敦ニテ開始ノ趣ノ処戦前債務ノ承認個人財産ノ返還及個人損害賠償等ノ問題ニ就テハ多大ノ難関ニ遭遇シ或ハ談判不調ニ終ルコトアルヘク曩ニ与ヘタル承認ハ全然空文トナリ「マクドナルド」ノ政策モ嘲笑ヲ以テ迎ヘラルルニ至ルナキヲ保セス斯ノ如キ場合ニハ日露両国間ノ承認問題モ亦考物ニテ今暫ク形勢ノ推移ヲ観望スルヲ得策トスルヤモ知レス然レトモ若シ曲リナリニモ英露間各種懸案解決ノ曙光ヲ見ルニ至ラハ我亦進テ彼ニ承認ヲ与ヘ次テ交渉ニ入ラルル様今日ヨリ準備セラルルヲ要スヘキヤニ思考ス

以上卑見ニ対シテハ激烈ナル反対論アルヘク又九日当地着ノ大竹通信員ハ貴電第一四号ノ趣旨ニ依リ目下意見取纏中

ニテ数日中ニ発電ノ運ニ至ルヘク而シテ同人ニハ態ト本電報披見セシメサリシニ付或ハ本使ト反対ノ結論ニ到達スルヤモ測リ難キモ御参考迄ニ申進ス

本電上田ヘハ幸便ニ托送スヘシ

在欧米各大使及在瑞典、和蘭、知恵古、羅馬尼各公使ヘ転電セリ

編註　本電報ハソノ一カラソノ四ニ分レ全文接受ハ三月十四日。

三〇一　三月十一日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

カラハントノ従来ノ折衝経過ニ鑑ミ今後トルベキ交渉方針ニ関スル腹案具申ノ件

第一四二号

本使ト「カラハン」トノ折衝ノ経過ハ随時電報ノ通ニシテ先方ノ底意ハ往電第一三七号末段ニテモ大半推知シ得ル如ク出来得ルナラハ我ヲ無条件承認ニ誘致セントスルニアルモノノ如シ彼カ浦潮領事職務停止問題等ヲ殊更軽視スル体ヲ装ヒ正式関係ノ樹立ヲ以テ根本的解決ナリト主張スル傍右職務停止ヲ取消スコトハ莫斯科政府ニ於テ到底承諾セサルヘキ旨ヲ語リ居ルカ如キハ我レヲシテ承認ノ余儀ナキコトヲ悟ラシメントスルノ手段ニシテ浦潮ニ於ケル拘禁事件等ノ如キモ幾分此ノ魂胆ニ出テタルヤニ察セラルルコトハ既ニ御気付キノコトト拝ス然ルニ浦潮領事問題同地ニ於ケル拘禁事件等ニ関シ「カラハン」ト交渉スルニ当リテモ将又正式交渉開始ニ関シ先方ノ底意ヲ探ルニ当リテモ帝国政府結局ノ御決心ヲ承知シ置クニ非サレハ不便鮮カラサルニ付テハ本使参考迄ニ何分ノ儀御垂示ヲ賜ハリタシ尚此ノ機会ニ於テ日露交渉ニ関スル本使ノ腹蔵ナキ所見ヲ述フレハ各国ノ不承認態度ハ英伊両国ノ行動ニ依リ裏切ラレタル観アルト共ニ仮令米国カ断乎トシテ承認ヲ肯セサルモ爾余ノ諸国カ早晩承認ニ傾クヘキハ想像ニ難カラス且幾分米国ノ指金ニ依リテ動キ居レリト疑ハルル支那スラ東支鉄道問題及外蒙問題ニ付妥協点ヲ見出スニ於テハ直ニ承認ヲ決行シテ赤露ト握手シ傍我レヲ牽制セントスルニ非スヤト推セラルルカ故ニ特殊ノ利害関係ヲ有スル我国トシテハ一種ノ形式問題タル承認其モノヲ過重視スルコトナク承認ヲ与フルニ依リテ我レノ得ヘキ実益ヲ標準トシテ攻究スルノ要アリト思考セラルル次第ナルモ此ノ見地ヨリ日露交渉ニ於テ処

理スヘキ問題ヲ概観スルニ各国共通ノ問題例ヘハ条約ノ効力問題及債権問題（利権）獲得問題即チ尼港及樺太問題等ニ大別スルコトヲ得ル処

㈠各国共通ノ問題ニ関シ我国ノミ単独ニ解決セントスルモ恐ラク不可能ナルヘク若シ強テ承認前ニ之ヲ解決セントセハ我レニ不利益ナル解決ニ導カルルカ若ハ承認ヲ著シク遷延セシムルノ虞アリ結局各国同様ノ解決方ニ満足スルヨリ外ナカルヘク従テ仮令承認前ニ之ヲ解決セサルモ解決時期並解決方法ニ付各国ニ比シ不利益ナルコト無カルヘキカ故ニ本件ハ寧ロ各国ノ為ス所ヲ見テ徐ロニ我カ態度ヲ決定スルコト或ハ得策ナルヘク差当リテハ英伊ノ例ニ倣ヒテ承認後ニ之ヲ留保スルモ敢テ不可無キカ如シ

次ニ

㈡特殊問題ハ我国ニ特異ノ問題ニシテ他国ノ解決方法ニ均霑シ得サル性質ノモノナルヲ以テ之ヲ承認後ニ譲ルニ於テハ我レニ有利ナル解決得テ望ムヘカラサルカ故ニ之ハ承認前大綱丈ニテモ決定シ置クコト絶対ニ必要ナリ

㈢漁業ニ関スル協約ハ我国トシテハ条約問題トシテ各国ト共同解決ノ時迄待ツコトヲ得サル特殊ノ関係ニアルヲ以テ本問題ニ付テハ後日決定セラルヘキ条約ノ効力問題ト離シテ一時的ニ之カ解決ヲ図リ置クコト必要ナルヘシ

㈣浦潮領事承認問題ニ関シテハ中央執行委員会ノ決議ヲ楯ニ「カラハン」ニ於テハ其ノ承認ノ困難ナルコトヲ力説シ居ルコト御承知ノ通リニシテ現在ノ如ク日本ノ正式交渉乃至承認問題ニ対スル態度カ全ク不確定ナルニ当リ其解決ヲ見ルコト頗ル困難ナリト観察セラルルモ我方トシテモ承認迄之ヲ有耶無耶トナシ置クコトハ体面上ヨリ謂フモ将又実際ノ便利問題ヨリ謂フモ不得策ナルコトハ勿論ナルニ付キ本問題ハ正式会議ニ入ル前ノ予備条件トシテ之ヲ解決スルコトト為スヘク之カ為ニハ少ナクトモ速ニ我方ニ於テ日露交渉ニ対スル態度ヲ決定シ正式交渉開始ノ意思ヲ明カニスル必要アリ拘禁問題ノ如キモ亦当然承認問題ニ付随シテ同時ニ解決セラルヘキモノナリ

之ヲ要スルニ我方トシテハ非公式交渉ニ於テ先ツ領事職務停止ノ所謂予備条件ヲ解決シ次ニ特殊問題ニ就キ大体我ニ満足ナル解決案ヲ協定シ得ルニ於テハ英伊ノ如ク直ニ承認ヲ与フルコト及特殊問題ノ正式決定乃至各国共通問題ノ商議ハ之ヲ承認ニ次ク正式会議ニ於テスルコトニ方針ヲ定ム

ルコト刻下ノ急務ナリト信ス右ハ我従来ノ態度ニ比シ一歩ヲ彼ニ譲ルノ観ナキニアラサルモ漁業問題乃至我在留民ノ休戚ニ顧ミルトキハ日露関係ヲ現状ニ委スルコトハ不得策ナルニ付キ各国ノ足並崩レ初メタル今日ニ於テハ我ニ於テ態度ヲ一変スルコト必スシモ理由ナシトセス（但過激法制定ノ如キ内政上ノ取締ヲ講スルハ勿論必要ノコトナリ）我若シ支那ニ先シテ承認スルヲ得ルニ至ランカ我対支関係ニ於テモ亦相当ノ利益アルコト言ヲ俟タス

以上ハ不安定ナル現状ヲ打破スルノ希望ト「カラハン」ノ態度トヲ考量シタル結果ニ基キタル大体ノ腹案ニシテ未タ十分トハ申難キモ此際何等カノ御参考トモナラハ幸甚ト存ス不取敢清鑒ヲ仰クコトトセル次第ナリ

尚三月七日ノ会見ニ於テ「カラハン」ハ無条件承認ニアラサレハ交渉ニ応セサルカ如キ口吻ヲ洩シ二月二十四日ノ態度ニ比シ変化ヲ来シタルコトハ往電第九三号及同第一三七号末段ニ依リ既ニ御気付キノコトト信スル所右ハ莫斯科ヨリノ訓令ニ依ルカ或ハ「カラハン」自身掛引ニ出テタルカ不明ナルモ何レニスルモ日本新聞論調乃至日本新聞ニ現ハレタル政府ノ態度ナルモノニ依リ多少我方ヲ見縊リ来リタルニ依ルモノト推察セラレサルニアラス又最近浦潮拘禁事件ニ付本使ヨリ日本ノ国論ヲ云々シタル際「カラハン」ハ輿論カ余リ昂奮ヲ示シ居ラサルコト及却テ承認ヲ慫慂シ居ルコトヲ指摘シテ本使ノ言ヲ一種ノ「ブラフ」ト見做シ居リタルガ如キ事実モアルニ付キ日露交渉ニ関スル御方針等ニ就テハ此際絶対外間ニ洩レサル様御配慮ヲ希望スルト同時ニ国論ニ付テハ常ニ適当ノ刺戟ヲ与ヘテ相当強硬ノ態度ヲ保タシムル様御指導アランコトヲ希望ス

～～～

スルニ反シ支那ハ南北各分立ノ形ニ在リ又各地方ニ大官将軍アル状態ニシテ其ノ約束セル処モ必ス履行セラルルヤ否ヤニ付多大ノ不安ヲ感セサルヲ得ス王正廷トノ商議ノ如キモ又王カ各方面ノ掣肘ヲ受クルカ為メ容易ニ纏マラサル実情ニ在リ支那ハ斯ノ如ク複雑ナル情態ニ在ルカ故ニ自分ヨリ進テ譲歩ヲ声明シテ其ノ態度ヲ明カニシ置ク所以ナリ又支那ハ夙ニ国際外交ノ目的トナリ来リ其主体トナレルコトナシ依テ已ムヲ得ス前述ノ如キ態度ニ出スルモノニシテ支那ニ対スルト同様ノ態度ヲ大国タル日本ニ対シ取ルニ於テハ日本ハ必ス之ヲ不満トスヘシ殊ニ日本トハ一再ナラス交渉ヲ重ネタル経験ニ徴スルニ非公式交渉殊ニ客年ノ東京会議ノ如キハ殆ト双方ノ意見ヲ尽シタルニ拘ハラス何等拘束力アル成案ヲ得ルニ至ラス是レ正式交渉ニアラサレハ不可ナリトスル所以ニシテ日本ト重ネテ非公式交渉ヲ為スハ到底莫斯科政府ノ承諾セサル所ナリト信スル旨反覆弁明セリ依テ本使ハ従来既ニ説明セル通リ日本政府トシテ日露正式交渉開始ニ付キ異存アルニアラスシテ其形式ニ付考慮シ居ルニ過キス依テ此機会ニ於テ本使ノ参考トシテ更ニ進テ明カニシ置キタキ二、三ノ点アル旨ヲ告ケ恰モ漁業問題ノ

如キハ日本焦眉ノ急ニ迫リ居ル問題ナルカ故ニ日本ニシテ露国ヲ承認スルニ於テハ直ニ旧条約ノ内容ニ依ル協定ヲ為スヘシトノ御意見ナルモ本問題ノ如キハ承認前若クハ少ナクトモ承認ト同時ニ協定ヲ成立セシメ得ヘシト考ヘラレサルヤト試問シタルニ「カ」ハ自分ハ切ニ日露関係ノ促進ニ努力セントスルモノナルモ右ノ如キ質問ニ対シテハ時ニ明確ナル即答ヲ為スヲ得ス主義上ヨリ謂ヘハ承認後一週間ノ後ト謂フモ将又承認ト同時ニ成立セシムルト謂フモ要スルニ時間ノ差ニ過キサルヲ以テ莫斯科政府トシテモ日本政府ヨリ斯ル申出アリトセハ必ス十分ノ考慮ヲ加フヘシト答ヘ更ニ本使ヨリ右ノ外日露間ニ於テハ別ニ旧条約ト関係ナキ両国間特殊ノ問題アリ例ヘハ尼港問題、樺太問題ノ如キハ両国間多年ノ懸案ナル而已ナラス本件ニ関シテハ「ヨッフェ」川上交渉ノ際一通リノ意見交換ヲ了シ居ル所ニシテ仮リニ日本政府ニ於テ露国ヲ承認スルモノトスルモ斯ノ如キ問題ハ当然承認前ニ之ヲ解決セサルヘカラスト主張スヘキハ必然ト信スル所此種両国間特殊ノ問題ニ付テモ亦之カ解決ヲ承認後ニ譲ラントスル意向ナリヤト質シタルニ「カ」ハ之等ノ問題ニ付テハ前会見ノ際答ヘタルト同様今猶最近

ニ於ケル政府ノ意向ハ之ヲ承知セサルモ本問題ハ「ヨッフェ」川上交渉ノ際双方ノ主張ヲ明カニシアルヲ以テ其解決ニハ困難ナカルヘシト信ス只承認前ニ話ヲ纏メントスルコトニハ莫斯科政府ハ反対ナルヘク矢張リ承認後ノ会商ニ於テ決定スル様主張スヘシト思ハルト答ヘタルニ依リ本使ハ之等ノ問題ニ対スル莫斯科政府最近ノ意向ハ之ヲ承知セサル旨ノ談話アリシコトハ本使モ尚記憶シ居ル所ナルモ今日ハ腹蔵ナキ意見ヲ述フルコトトスル趣ナリシ為メ本使トシテモ日本政府ノ意向ハ之ヲ忖度シ得サルモ単ニ本使ノ参考迄ニ質問セルニ過キス就テハ「カラハン」ノ意見ノ関スル限リ之等日露間ノ特殊問題モ旧条約ノ問題ト同シク承認後ニアラサレハ討議セサル莫斯科政府ノ意向ナリト諒解シ差支ナキヤト推問セルニ「カ」ハ予ハ所謂外交官ノ如ク政府ノ訓令ヲ有シナカラ一個ノ私見ノ如ク述フルモノニアラス予ハ衷心日露関係ノ速ニ樹立セラレンコトヲ希望スルモノナルモ只今ノ質問ニ対シテハ確定的ニ個人ノ意見ヲ述フルコトヲ得ス実ハ自分ニモ内輪ノ事情アリ自分ノ莫斯科出発当時ニハ日本トハ是非国交恢復ニ努力スヘシ但シ正式会議ニアラサレハ交渉ヲ開始スヘカラサル旨ノ訓令ヲ受ケ居タ

リ然ルニ爾来時日ノ経過ニ伴ヒ露国側ニモ種々事情ノ変遷アリ最近ニハ日本ニ先ンジテ英伊二国ノ承認アリ事ノ善悪ハ別トシテ露国側ニ於テ所謂鼻息荒クナリシコトモ事実ナリ従テ自分ハ日露問題ニ関シ依然悲観ニ傾キ居ルモノニシテ莫斯科ニ対シ日本側ノ態度ヲ報告スルニ当リテモ大ニ慎重ノ態度ヲ持シ居ルモノナルカ併カモ尚誠実国交ノ樹立ヲ促進セントスルモノナルカ故ニ日本側ニシテ今日迄ノ如キ単ニ一般的ノ話ニアラスシテ更ニ具体的ノ解決方法ヲ提出セラルルニ於テハ自分トシテハ日本側主張ノ尤ナリト思考スル点ニ付テハ之ヲ支持シ以テ莫斯科政府ニ稟請スヘキニ付此上ハ日本政府ノ具体的意向ヲ承知シタシト述フル処アリ依テ本使ハ客年九月下旬最初ノ会見ニ際シ交渉再開ニ関スル露国側ノ希望ヲ聞クヤ直ニ之ヲ本国政府ニ電請シテ其ノ考量ニ付シタル処帝国政府トシテモ交渉開始ノ意向ヲ有セサルニアラサリシモノノ如キモ震災其ノ他ノ国内問題ノ為メ之カ決定上遅延ヲ免カレサリシ事情アルト共ニ政府ニ於テモ過去ニ於ケル交渉ノ失敗ニ鑑ミ再ヒ交渉ヲ開始スルニ就テハ必ス成効ノ見込アル「フォーミュラ」ヲ見出サントシツツアルモノニシテ日本政府モ「カ」氏ノ希望ヲ「レ

シプロケート」シ本使トシテモ成ル可ク速ニ交渉開始ノ機運ヲ促進スルニ力メ居レル処今腹蔵ナキ「カ」氏ノ意見ヲ聴クヲ得タルハ本使ノミナラス帝国政府ニ於テモ大ニ参考トナル可キコトト信ス唯「カ」氏ノ意見ニ依レハ凡テノ問題ヲ承認後ノ委員会ニ於テ解決セントスルモノノ如ク斯ノ如ク一切ノ問題ヲ悉ク承認後ノ討議ニ譲ルカ如キハ本使ノ考フル処ヲ以テスルモ到底之ニ賛シ得サル処ニシテ本使ノ私見トシテハ承認前ニ解決ヲ要スヘキ問題ハ前述ノ漁業問題（之ハ旧条約中ノ一ナルモ）尼港問題及之ニ関連スル樺太問題ノ外浦潮ニ於ケル領事否認問題及邦人拘禁事件等ヲ数ヘサル可ラス仮ニ「カラハン」ニ於テ本使ノ地位ニ立ッテ考ウルトスルモ之等ノ問題ヲ未解決ノ儘トシテ露国ヲ承認セントスルハ日本国民ノ感情上到底不可能ト認メラル可ク露国側トシテハ法律上亦一応ノ理由アリトスルモ日本側ヨリ之ヲ見レハ露国側ノ理由其ノモノニ対シ直ニ承服シ得サル処ナルノミナラス感情上、政治上ノ考量ニ顧ミ之等問題ノ解決前承認ニ進ムカ如キハ到底不可能ナルヘキコトハ特ニ留意シ置カレタシト述ヘタルニ「カラハン」ハ日本政府並本使ニ於テ日露国交恢復ニ付深甚ナル考量ヲ加ヘ居ル

コトハ之ヲ莫斯科政府ニモ申進スルコトトスヘキ処重ネテ腹蔵ナキ露国側ノ立場ヲ御話センニ領事問題及拘禁事件ニ関スル日本側ノ立場ハ甚タ尤ナリト思考スルモ実ハ英露間ニ於テハ日露間ニ於ケルヨリモ更ニ多数ノ懸案アリシニ拘ラス英国トハ御承知ノ通リノ方法ニ依リ国交ヲ樹立シ得タリ依テ日本ニ対シ莫斯科政府カ実際如何ナル考ヲ有スルヤハ自分ノ確言シ得サル処ナルモ日露間ノ諸問題ヲ解決スルカ為ニハ相当ノ時日モ要スヘク依テ自分トシテハ不取敢承認ヲ行ヒ以テ気分ヲ軽カラシメタル上解決上ノ討議ヲナスヲ理想的ト考ヘ居ル次第ニシテ前回会見ノ際申入レタル英国ノ方法ニ倣ハントスル自分ノ提議ハ既ニ之ヲ日本政府ニ伝達セラレタル趣ニ付何レ何分ノ回答モアル可ク其ノ結果ハ直ニ莫斯科ニ伝フルコトトシタシ差向キ自分ハ右ノ外日露問題解決ノ方法ナシト考ヘ居ルモノナリ領事問題ハ一旦承認セラルルニ於テハ直ニ其ノ日ヨリ職務ヲ執行シ得ルコトトシ得可ク又拘禁事件ニ就テモ国内法ニ依ル厳正ナル裁判手続ヲ行フニ於テハ随分時日ヲ要スル儀ナルカ之ヲ波蘭其ノ他トノ間ニ起レル先例ニ徴スルニ本件拘禁者ノ如キ自国ノ利益ノ為ニセル外国犯罪者ハ国交樹立ノ際相互ニ之ヲ

釈放引渡ヲナシ来リ居レル次第ナルカ故ニ浦潮ノ拘禁日本人モ承認ト同時ニ日本側ニ引渡サレ問題ハ自然ニ解決スヘキモノト考ヘラル又領事及拘禁問題ニ付日本側感情上ノ考量ヲ説カレタルモ感情上ノコトハ成ル可ク之ヲ云ハサルコトトシタク感情上ノコトヲ云ヘハ露国側ニモ幾多ノ云ヒ分例ヘハ西比利出兵中ノ種々ノ出来事ノ如キハ其ノ質ニ於テ将又其ノ量ニ於テ露国民ノ感情上頗ル面白カラサリシモノ少シトセス自分ノ観察スル処ニ依レハ日本国論ノ昂奮モ日本政府ノ云フカ如ク重大ナラスト認メラレ又露国側トシテハ国威ニ関スルモノト思考シ居リ殊ニ右占領ハ露国ノ司法権及行政権ヲモ否認シ居レル占領ニシテ仏国ノ「ルール」占領ノ比ニアラサルニ拘ラス露国側ハ穏忍以テ只管国交ノ恢復ヲ俟チ居ルモノナリ徒ラニ過去ヲ論スルハ却テ国交ノ樹立ヲ妨クルモノナルカ故ニ自分ノ提議ハ実際上最良ノ方法ト思考セサルヲ得スト繰返シタリ

本使ハ本日会談ノ全般ニ亘リ後日ノ誤解ナカラシメムカ為一応断リ置ク旨ヲ述ヘ本会談ハ双方共互ニ私見ヲ交換セルモノニシテ承認問題及承認前ニ解決ヲ必要トスヘキ問題等ノ如キモ仮ニ例トシテ私見ヲ述ヘタルニ過キス又領事及拘

禁問題ニ関シ露国側カ自ラ正当ト考ヘ居レル議論ハ日本側ヨリ観レハ感服シ得サルノミナラス感情上政治上ノ考量ニ顧ミ承認ト関係ナク急速解決ヲ要スル問題ナルコトヲ本使ニ於テ説明セル次第ナルコトヲ告ケ更ニ樺太占領ノ点ハ尼港事件ニ起因セル国際法上合法ノ措置ナルコトハ占領当時ノ帝国政府ノ声明ニ依リ露国側ノ夙ニ承知ノ筈ナルニ付「カラハン」只今ノ談ハ唯露国側ノ言分トシテ聞置クニ止ムヘシ

猶本日斯ル虚心坦懐ノ会談ヲ為シ得タルハ相互ノ諒解ニ裨益スルトコロ尠カラス帝国政府ニ於テモ参考トナルトコロアルヘキニ付会談ノ要点ハ早速政府ニ報告スルコトトスヘシト述ヘタルニ先方ニ於テモ今日ノ会見ハ日露国交樹立上頗ル有益ナル効果ヲ齎スヘキモノト思考スル旨ヲ述ヘ会見ヲ終レリ

猶終リニ本使ヨリ乍序若シ先方ニ於テ差支ナクハ承リタキ旨ヲ断リタル上仄聞スルトコロニ拠レハ露支間ニ於テ「カラハン」王正廷トノ間ニ既ニ予備的交渉ヲ終リ其ノ結果ヲ王正廷ヨリ支那政府ニ報告シ同政府ハ目下之カ審査考量中ナリトノ趣ナル処果シテ然ラハ承認問題、治外法権、蒙古、

東支鉄道等ノ問題ハ大体双方ノ談合ノ付キタル次第ナリヤト尋ネタルニ「カラハン」ハ之ヲ言フコトハ差支ナキモ実ノ処此ノ二三ケ月ノ間ニハ露支交渉ハ何等ノ発展ヲ見タル訳ニアラスシテ昨年自分ヨリ王正廷ニ宛テタル通告ニ対シ先方カ近時頻リニ熱心ニ研究シ始メタルニ過キス又右通告ハ将来ノ正式交渉上ノ大綱ヲ示セルモノナリト答ク居タリ

（付　記）

日露交渉日本側（編註）案（英文）

Draft. Agreement between the Union of Soviet Socialist Republics and the Japanese Empire made at Peking...1924.

The Government of the Union of Soviet Socialist Republics represented by....and the Imperial Japanese Government represented by....

Desiring to re-establish good-neighbourly relations, tending to promote friendship and economic operation between the people of both countries, have agreed upon the following Articles:

I.

The two Contracting Parties agree that simultaneously with the signing of the present Agreement normal diplomatic and consular relations shall be established between the U.S.S.R. and the Japanese Empire.

The Government of the U.S.S.R. shall adopt the necessary measures to transfer to the Imperial Japanese Government the Embassy, Consulates and other State property to be found in the territory of U.S.S.R. In its turn, the Imperial Japanese Government shall do the same with regard to the property to be found in the territory of the Japanese Empire.

II.

Imperial Japanese Government shall withdraw its troops from and entirely cease occupation of territory of Northern Saghalien. Imperial Japanese Government agrees to begin to free the territory of Northern Saghalien from occupation immediately upon signing of present agreement and complete same within two weeks, during which period territory must be handed over to proper authorities.

III.

Two Contracting Parties agree after re-establishment of diplomatic relations to conclude a commercial treaty, on strength of which nationals of one party shall enjoy full protection in territory of other subject to laws existing in respective territory, both personally and in regard to their properties, and shall be able to widely engage in trade and industries, as in accordance with the existing laws.

IV.

In the interest of promoting economic relations, the Government of the U.S.S.R. is willing to meet half way needs of the Japanese Empire in regard to natural resources existing in the territory of the U.S.S.R. with this end in view, it is willing to grant to Japanese subjects and juridical persons concessions for the exploitation of minerals, forests, etc., in the territory of the U.S.S.R. and, in particular, in Eastern Siberia and Northern Saghalien.

V.

The Government of the U.S.S.R. is willing, immediately upon the re-establishment of diplomatic relations between the two Contracting Parties, to conclude with the Imperial Japanese Government a fisheries convention on the conditions provided for by the Portsmouth Treaty and the Fisheries Convention of 1907.

VII.

Each of the Contracting Parties agrees to annul, upon the signing of the present agreement, all kinds of treaties or agreements that may have been concluded between itself and third parties, prejudicing sovereign or territorial rights of the other party, or constituting a menace to the safety of the letter.

VIII.

Two Contracting Parties mutually pledge themselves to respect national sovereignty of the other party and refrain from any interference with its internal affairs and, in particular from agitations, propaganda and any kind of intervention and from supporting them. Two Contracting Parties pledge themselves not to create or support organization whose aim is to carry on an armed struggle against the other party or prepare overthrow of violence.

In view of this, both Contracting Parties pledge themselves not to allow such organizations, their agents or organs to stay in their territory.

IX.

The present agreement shall come into effect from the date of signature.

In witness whereof, respective plenipotentiaries have signed the present agreement and have affixed thereto their seals.

Done at city of Peking this ....

編註　「日露交渉日本案（旧案）」トノ註記アリ

三〇三　三月十五日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

カラハントノ交渉ニアタリ日本側ノ基本態度ニ関シ腹案訓電ノ件

第一一五号　極秘

貴電第一四二号ヲ以テ対露交渉ニ関シ意見御申越ノ次第了承「カラハン」トノ御交渉ニ依リ露国側ノ意向モ略判明シ当方ノ参考トナレル所勘カラサル次第ナル処我方対露根本方針ニ付テハ列国トノ関係ヲ顧慮スルノ必要アルノミナラス国内事情ニ照ラシ種々考量ヲ要スル点勘カラサルニ由リ未タ廟議決定ノ運ニ至ラサルモ本大臣一己ノ意見ニテハ左記各項所載ノ趣旨及方法ヲ以テ諸懸案ヲ解決スルコト然ルヘシト思考スルニ付右ノ点ヲ体セラレ更ニ「カラハン」ト会見シ腹蔵ナキ意見ヲ交換シ其結果電報相成ラレ度シ

一、貴電第一四七号所載「カラハン」ノ私見トシテ述ヘタル英国ノ方法ニ倣ヒ正式承認ヲ為シタル後委員会ニヨリ諸種懸案ヲ解決スヘシトノ方法ニ付テハ日露間ニハ帝国ノ威厳ニ関スル問題等各種ノ懸案ヲ有スルノミナラス従来再三懸案解決ノ為会議ヲ重ネタル行懸アル等ノ事情ニ鑑ミ即時無条件ニ労農政府ヲ承認スルカ如キハ国内ノ事情到底之ヲ許ササルヘク仍テ日露間主要懸案ニ付テハ正式承認前之ヲ解決スルノ必要アリ

二、右主要案件中尼港事件ニ付テハ客年非公式予備交渉ニ於テ略々話合纏リタル通露国側ヨリ文書ヲ以テ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルコト絶対ニ必要ナリ尚右ニ対スル実質的賠償ハ日本ハ主義上之ヲ拋棄スルヲ得サルモ先方ニ於テ北樺太其ノ他ノ富源開発ニ付右賠償ノ意味合ヲ以テ特ニ有利ナル長期利権ヲ我方ニ許与スルニ於テハ之カ要求ヲ差控ユルモ差支ナカルヘシ

三、条約問題ニ付テハ我方ハ列国ノ対露関係ト異ナルモノアリ蓋シ露国トノ条約中「ポーツマス」条約ニ付テハ国内輿論ハ其ノ歴史的意義ニ顧ミ非常ニ重大視シ居リ之カ改廃ハ内外ニ対スル影響頗ル大ナリ

仍テ他ノ条約及協定ハ兎ニ角右「ポーツマス」条約ハ其儘効力ヲ認メシムルコト極メテ望マシキニ付極力主張スル必要アリ但シ先方ニシテ飽ク迄不同意ナル場合ニハ「カラハン」モ条約ノ効力問題ニ触レスシテ之カ解決方法ヲ講スヘキ旨並既成事実ハ如何ナル場合ニモ変更セラルヘキニアラスト述ヘ居ル次第モアリ絶対已ムヲ得サル場合ニハ日本ト露西亜トノ間ニ締結セラレタル一切ノ条約其ノ他ノ協定ニ依リ日露両国政府及両国国民ノ享有シタル権利及利益ヲ尊重シ且此等条約又ハ協定ニ由ル既成事実ニ付テハ変更ヲ加ヘサルノ基礎ニ於テ新事態ニ適合スル条約及協定ヲ締結スル旨予メ確固タル取極ヲ了シ正式承認後直ニ右取極ニ基キ漁業協約其他必要ナル条約及協定ノ締結ニ着手スルコトトスルモ一方法ナリト思考ス

四、債権問題ニ付テハ列国トノ関係上日本単独ニ之カ廃棄ヲ認ムルコト困難ナルモ先方ニシテ北樺太及東部西比利亜ニ於ケル重ナル利権ヲ無償又ハ極メテ有利ナル条件ニ依リ我方ニ長期ノ許与ヲ為ス場合ニハ尼港事件ニ対スル物質的賠償ト一括シ我方ヨリハ之ヲ請求セサルコトトスルモ一方法ナルヘク又先方ニシテ飽ク迄右方法ヲモ肯ンセサルトキハ本件処理ニ付将来如何ナル場合ニ於テモ労農政府ハ日本政府及日本臣民ヲ第三国ノ政府等ニ比シ不利益ナル地位ニ置カサルコトヲ約セシメ後日ノ協議ニ留保スルコトモ可ナルヘシ

五、私有財産問題ニ付テハ先方カ其ノ義務ヲ承認セサル場合ニハ前項債権問題ト同シク後日第三国ニ比シ不利益ナル待遇ヲ為ササルコトヲ約セシメタル上後日ノ協議ニ留保スルコトモ可ナルヘシ

六、以上ノ外通商航海ニ関スル条約ニ付テハ正式承認前其ノ締結方針ニ関スル大綱トシテ労農政府ハ露国領域内ニ於ケル帝国臣民ノ生命ノ安全ニ付充分ナル保障ヲ与フルコト又私有財産権ノ尊重並通商及産業ノ自由ニ付テモ成ルヘク広汎ナル範囲ニ渉リ之ヲ保障シ且ツ最恵国待遇ヲ為スヘシトノ趣旨ノ取極ヲ為スヲ要ス

七、両当事国ノ安寧秩序ヲ害スルカ如キ宣伝又ハ行動ニ出テサルコトモ是亦正式承認前約束スル必要アリ

八、正式承認前以上各項所載ノ事項ニ付明確ナル約束ヲ為スノ必要アルハ冒頭所載ノ通ナルカ右取極ヲ了スル方法トシテハ先方ニ於テ右所載事項ニ大体同意ナル場合ニハ正式交渉ヲ為スニ何等異存ナキモ貴官ト「カラハン」トノ間ニ従来通ノ方法ニテ若干回ノ会見ヲ重ネラレ双方ノ話合纏リタル場合之カ取極ニ調印スルコトトスル方最モ適当ナリト思考シ居ル次第ナリ

九、尚前記諸事項ニ関スル取極成立ノ場合ニハ北樺太ノ占領ヲ解除スルハ勿論労農政府ヲ正式ニ承認スルコトトシ何等差支ナシ

十、尚当面ノ諸問題殊ニ邦人拘禁問題ハ正式承認又ハ正式交渉開始ノ問題トハ全然別箇ニ速ニ之ヲ解決スヘキコトハ往電第一〇八号ヲ以テ申進ノ通ナリ随テ本件開談ノ為メ反テ拘禁問題ノ解決ヲ長引カシムル虞アリト思料セラルルニ於テハ差当リ開談ヲ差控フルノ外ナク其ノ辺ハ特ニ御注意アラン事ヲ望ム

〰〰〰

ニ至リ日本側カ承認ニ傾ケルヲ喜フモノナルモ露支交渉ニ関シ日本側カ何等カ抗議セムカト気ニシ居リ又日本カ露国承認ニ進マムトスル場合米国カ之ニ抗議スルコトアルヘキヲ虞レ居ル由ヲ内話シ「スレパック」ハ或ハ当分北京ニ滞留スルヤモ知レサルカ渡日スルコトトモナレハ近日上海ニ赴キ三月二十四日頃ニハ日本到着ノ筈ナリト云ヒ（右ハ「オズネ」莫斯科行ノ代リニ当地ニ居残ル議アルモノカトモ察セラル）最後ニ日本滞在中警視庁側ヨリ好遇セラレタリトテ衷心感謝シ居タリト云フ

三〇六　三月十九日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

日ソ国交正常化ニ付キカラハンガ島田トノ会食ノ際語リタル構想報告ノ件

第一七八号

三月十七日「カラハン」ハ島田ヲ招宴シ食後「カ」ハ「セメノフ」ノ行動ヲ気ニセル質問ヲ為シタル後最近報知新聞其ノ他カ無条件承認論ヲ唱ヘ居レルハ実ニ愉快ナリト云ヘルニ付島田ハ自分一己ノ考ニテハ英国ト雖承認前窃ニ懸案ノ大綱ヲ定メタルニ相違ナカルヘク日本ニモ承認前ニ定ムヘキ幾多ノ問題アリテ斯ク簡単ニハ行カサルヘシト云ヘルニ「カ」ハ英露間ニハ承認前何等取極ヲ為シタルコトナシ唯「マクドナルド」カ「ノート」ヲ発スル前「ラコフスキー」ヲ招キ斯ル「ノート」ニテ可ナリヤト云ヒ之ニ対シ「ラ」カ差支ナシト答ヘタルハ事実ナリト承認ニ関スル英伊競争ノ実情ヲ内話シタル上支那トノ話ハ斯ク長引キ居ルモ日本トハ短日月ニ決定シ得ヘク是等ヲ解決シテ一日モ速ニ帰国シタキ処日本側具体的ノ考不明ナル為困却シ居レリ又支那政府カ余トノ調印セサルハ仏国ノ外間接日米両国ノ差シ金ニ依ルモノト思考シ居レリ一体日本ハ何ヲ欲シ居ルヤ自分ハ今夜酒ノ勢ニ乗シ忌憚ナク謂ハントテ自分ノ考ニテハ交換セラルヘキ「ノート」ニ於テ漁業問題ハ承認後例ヘハ斯ク斯クノ期限内ニ一九〇七年ノ漁業協約ノ主義ニ於テ新協定ヲ締結スルコトニ同意スレハ可ナラスヤ露西亜側トシテハ毎年取ラスハ腐敗スヘキ魚ヲ与ヘ毎年百万円以上ノ収入アル次第ニシテ日本人ニ売付ケサルハ愚ナリ先般芳沢公使ト会見ノ折公使ハ頻リニ「ポーツマス」条約ヲ云為シ居ラレタルカ自分ハ仔細ニ本条約ヲ熟読シタルモ何故ニ之ヲ云為セラレタルヤ了解ニ苦メリ日本側ノ安心スル様重モナル事項例ヘハ南樺太、遼東半島、朝鮮等ニ関スルコトハ「ノート」ニ記載シテモ可ナリ唯満蒙（不明）条約ノ如キハ事態ノ変ニ伴ヒ勿論今後ハ無効ナリトセサルヘカラス次ニ利権ヲ付与スルニ当リ尼港問題ニ対スル賠償ノ意味ニ於テスルコトハ「ヨッフェ」モ主張セル如ク不可能ナリ「モーラリー」ニ両者ヲ連結セシムルモ不可ナリ英国政府ハ英国軍出征中露人ニ与ヘタル損害ト戦時賠償ヲ拋棄スルコトトナリ居レリ故ニ日本ニシテ尼港問題ヲ連結セシムルニ於テハ我ハ必然日本軍出征中ノ露国側損害問題ヲ提出スヘシ依テ我方トシテハ普通ノ手続ニ依リ北樺太ニ於テ利権及沿海州ノ森林等ヲ日本人ニ与フルコトトシ以テ事実上日本側ノ希望ニ副フコトトスヘシ

油田ノ如キハ日本海軍ニ必要ニシテ日本ノ重油一旦有事ノ時ニ際シ僅々六ケ月ヲ支フルノミナルコトモ熟知スル処失礼ナカラ日本人ハ未タ油田ノ経営ヲ知ラス日本ハ北樺太ノ油田ヲ十分ニ経営スルニ至ル迄ハ今後十年乃至二十年ヲ要スヘシ故ニ其ノ間「バクー」「グーズニー」方面ノ重油ヲ黒海ヲ経テ日本ニ輸出スルコトトシ之ニ関シテハ特別ノ協定ヲ結フモ可ナリ森林ニ関シテハ反対論ハアリタルカ目下ノ処多数ハ須ラク日本人ニ森林ヲ払下ケ国庫ノ収入ヲ図ルヲ得策トスルニ帰着シ居レハ更ニ旧債務ニ関シテハ芳沢公使ト大イニ議論シタルカ労農政府今尚是レヲ認ムル能ハストノ主張ヲ為スヘシ而モ日本ノ債権ハ少額ナレハ拋棄セラレテモ宜シカラスヤ斯ク観シ来レハ日本トノ間ニアル問題ハ大体日本側ノ希望通リ解決セラルル次第ニシテ承認セラレ差支ヘナキ儀ナラスヤ莫斯科政府ハ今日ト雖必スヤ直接承認スルコトトシ懸案ハ其ノ後正式会議ニ於テ決スルコトヲ主張スヘシ樺太ノ占領ノ如キハ今後尚数年継続スルトモ何等痛痒ヲ感セス承認ノ遅ルルハ日本ノ為不利益ナリ云々トテ滔々ト長時間論述シタリ

右ニ対シ島田ハ日本ニ於ケル有力者ノ意見ヲ総合スルニ単ナル承認ノ如キハ問題ニ非ス承認前確実ニ取極メ置クヘキ懸案多数アリ是等問題ニ関スル取極ヲ為サスシテ直ニ承認ニ進マントスル貴下ノ希望ハ余リニ両国間ノ事態ヲ無視シタル虫ノ好キ話ナリ但シ茲ニ一寸注意スヘキハ浦潮拘禁事件ハ此際先ツ以テ解決セラルヘキモノナリト云ヘルニ「カ」ハ然リ自分モ其心算ナリ唯浦潮ノ「ゲ・ペ・ウ」ニ於テ稍々反対ノ意向ヲ会議ニ提出シタルモノノ如ク是レカ為遅

延シ居ルハ遺憾ナリト云ヘリ

次ニ島田ヨリ貴電第一〇四号ノ趣旨ニ基キ郵便物ノ件ヲ説明シタルニ「カ」ハ其ノ後大体日本側説明ノ如キ経緯アリタルコトヲ耳ニセリ併シ本件ハ実際上解決シタルモノト云フヘシトテ言ヲ濁ラセルカ島田ハ現今ノ状態ハ甚タ不便ニ付此上トモ好意ヲ以テ取扱ハレタシト申入レ置ケリ

尚島田ヨリ最後通牒事実ナリヤト問ヒタルニ「カ」ハ十六日付ニテ十九日限リ調印セサレハ其ノ責ハ支那側ニアリト云フ通牒ヲ送レリ右ハ嚇カシナルカ支那人ニハ此ノ手ニテ行カスハ話ハ纏マラス多分調印ヲ見ルニ至ル可シト答ヘタリ

尚別レニ臨ミ「カラハン」ハ日露問題ニ付テハ是非トモ当地ニ於テ自分ノ手ニ依リ芳沢公使トノ間ニ「ノート」ノ交換ヲ為シ承認迄漕付ケタキ底意ナリ就テハ芳沢公使初メ日本側ニ於テモ客年以来事態ノ著シク変化セルニ顧ミ十分互譲的態度ニ出テラレンコトヲ切望スト述ヘタル由ナリ

十八日「オズネ」ハ島田ニ対シ前記会食ハ「オズネ」ノ注意ニ依リテ「カ」カ為シタルモノニシテ「カ」ハ当日思フ存分喋ル由語リ居タルカ果シテ然リヤト尋ネ居タル由ナリ

因ニ貴電第一一五号ニ関シテハ十九日夕「カラハン」ト会見ノ筈ナリ

三〇七　三月二十日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

列国ノソヴィエト政府承認ハ無条件ニ行ナワレタルニ非サル次第通報ノ件

第一三〇号

貴電第一七八号ニ関シ

露国労農政府ヲ正式ニ承認セル二月一日付「ノート」中英国政府ハ承認ノ事実ト密接ナル関係アル事項トシテ例示的ニ条約問題ヲ挙ケ露国労農政府ノ承認ハ既ニ廃棄セラレタルモノ及其ノ他法律上期限満了シタルモノヲ除キ露国革命前両国間ニ締結セラレタル一切ノ条約ヲ国際法上承認セラレ居ル原則ニ従ヒ自動的ニ有効ナラシムルモノト信スル旨ヲ明記シアリ従テ尠クトモ条約問題ニ付キテハ留保付ニテ承認ヲ与ヘタルモノト解スヘク又伊国ノ労農政府承認モ「ヴォルタ」通信及各新聞記事ニ基キ落合大使ノ報告スル所ニヨレハ伊国ノ最モ利害ヲ感スル政治及通商問題ニ関シ頗ル細密ナル協定ヲ遂ケタル後行ハレ諾威ノ如キモ「スピッツベルゲン」ニ対スル自国ノ主権ヲ承認スルヲ条件トシテ労農政府ヲ承認シタルモノニシテ何レノ国ト雖モ其ノ重大ナル利害関係ヲ有スル問題ニ付何等協定ヲ遂クルコトナク又ハ留保ヲ付スルコトナクシテ労農政府ニ承認ヲ与ヘタルモノ無之次第ナルニ付右御含置キ有度シ

尚「カラハン」ハ「ポーツマス」条約ニ関シ重ナル事項例ヘハ南樺太、遼東半島、朝鮮等ニ関スルコトハ「ノート」ニ記載シテモ可ナリト述ヘタル趣ノ処我方トシテハ「ポーツマス」条約ノ関スル限リハ変更ノ余地ナシトスルノミナラス漁業権ヲ規定シタル同条約第十一条ハ特ニ重ヲ置ク次第ナルニ付之亦御含置カレ度シ

三〇八　三月二十一日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

カラハントノ会見ニ際シ両国国交正常化ノ交渉ニ入ル前提トシテ三条件ヲ申入レタル件

第一九〇号　極秘

貴電第一一五号ニ関シ

御訓示ノ次第ハ閣下一己ノ御意見トアルモ「カラハン」トノ談判ニ当リ余リニ此点ニ重キヲ置クニ於テハ最初ヨリ展開ヲ見ルコト不可能ニ付御訓令ノ御趣旨ハ本使ニ於テ含ミ置クコトトシ可然交渉ノ歩ヲ進ムヘキ所存ニテ三月十九日「カラハン」ヲ往訪本使ヨリ日露国交樹立ノ義ニ付テハ此際本使「カラハン」間ニ於テ意見ヲ交換シ交渉ヲ進ムル様外務大臣ノ訓令ニ接シタル処我方ノ各項目ヲ披露スルニ先タチ本使ノ私見トシテ特ニ左ノ三点ヲ述ヘ置キタシト前提シ一、此重大ナル問題ヲ処理スルニ当リテハ相互ニ秘密ヲ守ルノ必要アルコト即チ日露交渉ハ従来トモ兎角世人ノ興味ヲ引キ談合ノ纏マラサル内交渉ノ内容新聞等ニ漏洩スルカ為其ノ間誤伝若ハ感情等ニ基キ不利ノ障碍ヲ生シ易シ依テ絶対ニ秘密ニ付スルハ不可能ナリトスルモ出来得ル限リ秘密ヲ守ルコト相互ノ為有益ナリト思考ス

二、従来「カラハン」ハ莫斯科政府カ非公式交渉ヲ許サスシテ所謂正式交渉ヲ必要ナリトシ又英国ノ例ニ倣ヒ承認ヲ与ヘタル後委員会ニ於テ一切ノ問題ヲ討議スルヲ最実際的ナリト提議シ居ルモ本使「カラハン」間ニ於テ出来得ル限リ談合ヲ進ムルニ付テハ公式、非公式ノ名ヲ付スル必要ナク又正式承認後ニ一切ノ問題ヲ討議スルカ如キハ日露間特殊ノ状態ニ顧ミ到底日本ニ其ノ儘適用スヘカラサル方法ナ

ルノミナラス其ノ必要モナキコトナリ現ニ支那ニ対シテモ斯ノ如キ方法ヲ適用シ得サルト同断事実上日本ニ対シテモ全然英国同様ノ方法ヲ以テ直ニ国交樹立ヲ為ス能ハサル事情アリ日露間ニハ必ス承認前其ノ大綱ナリトモ決定シ置クヲ必要トスル問題アルヲ考量セサルヘカラス

三、尚前述ノ談合ヲ進ムルニ付テハ差向キ浦潮事件ノ急速解決ヲ為スコト最緊要ナリト認ム尤モ浦潮事件ニモ三種アリ

(イ)拘禁事件ハ「カ」ノ努力ニ依リ既ニ領事館員三名ノ外五名ノ釈放アリタルヤノ報道アルモ松井大尉義妻少佐ハ今以テ釈放セラレタル模様ナク本件ハ本使ノ最重大視スル所ナルヲ以テ大至急此一両日中ニモ釈放サルル様「カラハン」最善ノ努力ヲ希望シテ已マス

(ロ)領事否認問題ニ付テハ去ル七日ノ会見ニ於テ莫斯科政府ノ再考方ヲ依頼シ置キタルヲ以テ成ルヘク速ニ満足ナル結果ヲ期待スルモ他方日露交渉ヲシテ最急速ニ成立セシメ得ルニ於テハ政府ノ意向ハ兎ニ角本使ノ私見トシテ必スシモ日露交渉開始ト同時ニ即刻解決ヲ迫ル趣旨ニアラス

(ハ)郵便問題亦実際ニ於テハ未タ解決シタルニアラサルモノ

ノ如ク本件ノ如キハ相互ノ便益ニ顧ルモ成ルヘク速ニ満足ナル解決ヲ見ル様致シ度シ

右ノ内拘禁事件ハ日本官民ノ最重大視シ居ル問題ナルヲ以テ事件ノ解決ヲ見サルニ於テハ国交樹立上ノ話合ヲ進ムル能ハサル事ハ明カニ御断リスルト共ニ国交樹立促進ニ対スル「カラハン」ノ熱誠ト已ニ一部拘禁者ノ釈放ヲ見タル尽力ノ効果トニ顧ミ此上トモ残留拘禁者ノ(脱)努力セラレンコトヲ切望スル旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ第三点ハ国交樹立ノ前提要件ナリヤト反問シ本使ヨリ右ノ内第一及第二点ハ本使ノ希望及観察ナル処第三ノ拘禁事件ニ至リテハ問題其モノハ国交樹立ト直接関係ナシトスルモ事実上話合開始前提要件タル性質ヲ有スルカ故ニ本件ハ単独ニ急速解決ヲ必要ト認ムル旨ヲ告ケタルニ「カ」ハ国交樹立ニ対スル貴下ノ努力ハ衷心感謝スル処ナルモ只今貴公使ノ話ニ対シテハ自分ハ悲観的感想ヲ抱カサルヲ得ス蓋シ半歳前余カ日露正式交渉開始ノ希望ヲ申出タルハ東京ニ於ケル非公式交渉カ何等ノ成果ヲモ齎ラササリシ為ナリ爾来事情ノ変遷ニ顧ミ最近英国ノ方法ニ倣フヘキ提議ヲ為シタル所今日日本側ノ意向ヲ聞クニ右何レニ対スル回答ニモアラサル而已ナラス

東京会議ヨリモ更ニ退歩セル交渉ヲ為サントスルモノナルカ如ク斯ノ如キハ露国政府ノ到底応諾スル能ハサル所ナリ且日本側ニ於テハ浦潮事件ヲ以テ前提条件トシテ何等根本的問題ニ触レサル本問題ヲ提起シテ根本問題ノ解決ヲ遅延セントスルモノノ如ク是レ自分ノ最落胆セル所以ナリ

尚自分ハ七ケ月以前ニ於テスラ公式交渉ニアラサレハ為スヲ得スト言明セルニ拘ハラス日本側ニ於テハ右露国側ノ意向乃至事態ノ変遷ヲモ顧慮スルコトナク依然不撓ノ状態ヲ維持シ殊ニ浦潮事件ヲ以テ交渉開始上圧迫ノ具ト為サントスルカ如キ気味アルハ自分ノ失望ト不平トヲ禁シ得サル所ナリ尚又貴公使所謂秘密ヲ守ルヘキ点ニ就テモ已ニ新聞紙上ニ伝ヘラレタル清浦首相ノ日露交渉談ニ顧ミレハ其内容ハ貴公使只今ノ話ト選フ所ナク且秘密ニ付スヘキ程ノモノニモアラサルヘシト述フル所アリタリ右ニ対シ本使ハ本使陳述ノ趣旨ト先方ノ考フル所トハ根本ニ於テ非常ナル相違アル旨ヲ注意シ第一「カラハン」ハ浦潮事件ヲ以テ日露交渉ノ前提条件トシテ圧迫ヲ加フルモノト云フモ本問題ハ帝国政府トシテ日露交渉再開ノ有無ニ拘ハラス急速解決ノ必要ヲ認メ居ル所ニシテ況ヤ国交樹立上ノ話合ヲ進メントス

ル今日ニ於テハ益々本件ノ解決ヲ速ナラシムル必要アルコト言ヲ俟タス仮リニ露国側カ我方立場ニ立チテ考フルトスルモ元来日本国内ニハ日露交渉再開反対論者モ鮮ナカラス又或ル団体ノ如キハ本拘禁事件ノ解決遷延ノ為メ強硬ナル決議ヲサヘ為スニ至レルニ際シ本問題ノ解決ヲ等閑ニ付シテ露国承認ノ交渉談ヲ進ムルカ如キハ我方立場トシテ到底不可能ナルコトヲ諒解シ得ヘキニアラスヤ次ニ半歳前ヨリ正式交渉ニアラサレハ之ヲ為スヲ得ストノ露国側ノ意向ナルニ拘ラス今日非公式交渉ニモ如カサル談合ヲ本使ヨリ為スモノナリトノ批難ナルモ抑々正式交渉トハ会議委任状ヲ有スル者ノ間ノ交渉ヲ云フモノト解セラルヘキ処談判ノ纏ルト否ハ会議委任状ノ有無ニ依ルニアラスシテ談合開始ノ気運ト相互ノ誠意如何ニ係ル殊ニ今回ハ本使「カ」数次ノ会見ノ結果ニ顧ミ両者間ニ於テ談合ヲ纏メ得ヘシトノ観察ニ基キ本使ノ見ル所ヲ以テスルモ成功シ得ヘシト思考セラルル案ナルカ故本使トシテハ露国側ニシテ妥協的精神ヲ以テ之ニ臨ムニ於テハ必ス談合ヲ纏メ得ヘシト考ヘ居ルニ拘ハラス飽ク迄正式談判ニアラサレハ話ヲ進ムルヲ得スト云フカ如キ形式論ヲ固執スルニ於テハ遺憾乍ラ我案ノ内容ヲ

示スニ及ハスシテ此瞬間ヨリ談合ヲ中止セサルヲ得ス尚清浦首相ノ談話ハ単ニ適当ノ時期ニ於テ国交樹立ニ異存ナシト謂フニ過キスシテ何等本使ノ得タルカ如キ訓令ニ触レタルモノニアラス而カモ本使カ交渉上秘密ヲ守ルノ必要アルヘキヲ述ヘタルハ交渉ノ内容カ其都度新聞等ニ洩レ第三者ノ批評其他予見スヘカラサル障碍ノ発生ニ依リ交渉ノ進行ヲ妨クルニ至ラハ相互ノ為不利ナリト思考セラルルカ故ニ過キスシテ清浦首相ノ談話ヲ以テ秘密漏洩ノ一種トナサントセラルルカ如キハ本使ノ日露国交樹立ニ対スル赤誠ヲ軽ンスルノ甚タシキモノトシテ寧ロ本使ノ不満トスル所ナリト説明セルニ「カ」ハ急ニ辞ヲ和ケ自分ノ述ヘタル所ハ単ニ悲観的印象ヲ得タルカ為ニ過キサルヲ以テ深ク誤解ナカラン事ヲ望ムト述フル所アリタルカ時刻既ニ移リ晩餐ヲ共ニシタルモ「カラハン」ハ十時ヨリ顧維鈞ト会見ノ約アルヲ以テ二十日「カ」ヨリ本使ヲ来訪シ引続キ開談シタキ旨申出タルニ付本使ハ之ニ応諾シ二十日午後五時ヨリ談話ヲ継続スルコトトセリ

三〇九　三月二十二日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

此ノ儘ニ放置シテ日露ノ善隣関係ヲ樹立スルノ困難ナルコトハ日本ノ国内事情ニ顧ミ本使トシテ極メテ然ルヘキコト思考スルモノナルカ故ニ特ニ此ノ点ニ関シ露国側ノ注意ヲ喚起セル次第ナルヲ述ヘタルニ「カ」ハ貴公使ノ意見ノ存スル所ハ之ヲ諒解セサルニ非サルモ浦潮事件ハ言ハ第二流ノ地方的問題ニシテ之ヲ以テ重大ナル根本問題ト関連セシムヘキニ非サル而已ナラス本事件ハ由来国内法ノ解決ニ俟ツヘキモノナルモ然モ根本問題ニシテ解決スルニ於テハ自然ニ解決ヲ見ルヘキモノナルカ故ニ日本側今回ノ主張ハ莫斯科政府トシテモ到底承諾セサルヘシト答ヘ本使ヨリ更ニ日露根本問題ト浦潮事件トハ性質上相関連セシムヘキニ非サルコトハ素ヨリ充分承知シ居ル所ナルモ日本国内ニ於テハ浦潮事件ヲ以テ国交樹立促進ノ威圧手段ナリト解シ居ル者鮮カラス従テ日本カ斯ノ如キ露国側ノ意図ニ屈従シテ露国ヲ承認セリトノ感想ヲ与フルニ於テハ唯ニ日本政府ノ立場ヲ困難ナラシムヘキ而已ナラス国家ノ体面問題トシテ論議セラルルニ至ルヘシ故ニ一方浦潮事件ヲ自然ノ解決ニ任シ他方直ニ根本問題ヲ解決スヘシトノ「カ」氏ノ理論ニ対シ本使ノ同意シ得サル所以ハ彼我地ヲ換ヘテ考フルニ

交渉ヲ非公式トスル点、浦潮事件ノ処理其ノ他ノ点ニ付キカラハントノ間ニ諒解進展セル旨報告ノ件

第一九三号

往電第一九〇号ニ関シ三月二十日「カラハン」来訪シタルニ付本使ヨリ前日本使所述ノ三点ニ関シ先方考量ノ結果如何ヲ質シタルニ「カ」ハ御話ノ趣旨ハ自分ノ能ク諒解セル所ナルモ之ニ対スル確答如何ハ矢張リ莫斯科ニ照会ノ必要アリ然ルニ自分トシテハ何分悲観的感想ヲ抱クヲ免レサリシモノナルカ故ニ斯ノ如キ感想ヲ以テ莫斯科ニ照会スルモ満足ナル回答ヲ期待シ難キヲ恐ル然モ日本側今回ノ態度ハ極メテ真面目ナルモノノ如ク依テ以テ日露善隣関係ヲ樹立セントスル趣旨ニ外ナラスト思考スルカ故ニ兎ニ角日本側大体ノ考案ヲ明示セラルルニ於テハ唯ニ問題全体トシテ解決ヲ容易ナラシムヘキ而已ナラス莫斯科ニ稟報ノ結果モ亦良好ナルヲ得ヘシト答ヘタルニ依リ本使ヨリ重ネテ国交樹立ニ関スル相互ノ意思ハ全然一致シ居ル所ナルカ故ニ外務大臣ヨリ敢然今回ノ訓令ヲ発セラレタルモノナルコトハ充分疑念ナキヲ希望ス然モ同時ニ日本側トシテハ浦潮事件ヲ依リテ諒解セラルヘク「カ」ノ考フルカ如ク莫斯科ニ於テ飽迄我方立場ヲ認ムル能ハサルモノトセハ日露国交ノ前途ノ為甚タ悲マサルヲ得ス此ノ点ハ「カ」ニ於テモ須ク大政治家ノ眼光ヲ以テ観察アランコトヲ希望スル旨ヲ説述セルニ「カ」ハ日本国内ニ於テ浦潮事件ニ対シ貴説ノ如キ感想ヲ抱クコトアリ得ヘキハ尤モニシテ余ハ今ヤ能ク日本側ノ立場ヲ諒解シ得タルニ付テハ本件ノ解決ニ対シテハ何等カ適当ノ考量ヲ加フルコトトスヘキ処露国側トシテモ平身低頭シテ国交ノ恢復ヲ懇願スルカ如キ有様ニテハ甚タ面白カラサルヲ以テ日本側今回ノ国交樹立案ノ大綱ナリトモ示サルル時ハ其懸念スルカ如キ不愉快ナル感想ヲ与フルコトヲ避クヘキ何等措置ヲ講スル様莫斯科政府ニ申進ムヘク政府トシテモ必スヤ余ノ進言ニ耳ヲ傾クヘシト思考スト述ヘタリ依テ本使ハ日本側立場ヨリノ考察ト同時ニ露国側立場トシテノ観察モ尤モナルヲ以テ敢テ屈従ヲ強ユル次第ニ非ス従テ拘禁問題ハ度々述ヘタルカ如ク例ヘハ数日内ニ速ニ解決シ得ト云フカ如クンハ交渉開始ノ前提要件トナスニ及ハス別個ノ問題トシテ解決スルニ異存ナキ旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ然ラハ同問題ハ速ニ解決アリタシトノ御希望トシテ莫斯

科ニ取次キ差支ナキヤト反問セルニ依リ単ニ斯ル希望トシテ取次クノミニテハ不充分ナリ効果ヲ生スル様取計ハレ度希望ナル処「カ」ニ於テ本問題ハ迅速ニ解決スヘシトノ声明若ハ決心ヲ示スニ於テハ本使ハ之ニ信頼シテ国交樹立ノ問題ニ入ルコトヲ妨ケサルヘシト答ヘタルニ「カラハン」ハ自分ハ今茲ニ斯ル声明ヲ為ス権限ヲ有セス蓋シ自分一個ノ声明ト雖一旦約束スル以上ハ之ヲ実行セサルヘカラサルハ当然ニシテ政府ノ許可ヲ得スシテ之ヲ政府ニ強ユルヲ得ス依テ日露交渉問題トハ別ニ浦潮事件ニ付テハ莫斯科政府カ速ニ解決センコトヲ日本公使ニ於テ切望シ居ル旨又出来得ル限リ其希望ニ副フ様セラレ度キ旨ヲ付言シテ稟請スルコトトスヘシ但シ幾分ナリトモ根本問題ニ対スル日本側ノ意向ヲ承知シ得ハ日本ノ為屈従的ナラサル解決ヲ為シ得ヘシト信スト述ヘタルニ依リ本使ヨリ日本カ浦潮事件ノ為屈従的ニ日露交渉ヲ開始セルニ非サル様為シ得ルノ趣旨ナリヤト質シ「カ」ハ其然ル旨ヲ答ヘタルヲ以テ更ニ本使ハ右ハ日露交渉問題ト別個ニ取扱フモ差支ナシ就テハ本使ハ『拘禁事件ニ対シテハ「カラハン」ハ速ニ拘禁者ノ釈放方ニ付最善ノ努力ヲ為スヲ承諾ス』ルヲ以テ満足スヘシト述ヘ多

少ノ議論ヲ重ネタル後「カラハン」（不明）之ヲ承引セリ此ノ時「カラハン」ハ右承諾カ其屈従的承諾ナルモノノ如ク日本内地新聞等ニ掲載セラレサルヘキコトヲ切言セルヲ以テ本使ヨリ其点ニ付テハ充分ノ注意ヲ払フヘキ旨ヲ答ヘ置キタリ（就テハ此ノ点殊ニ御注意アランコトヲ希望ス）次テ本使ハ茲ニ外務大臣来訓ノ日露交渉案ニ付申述フヘキ処日本ノ立場トシテ今日露国ト国交ノ恢復ヲ為スニハ先ツ本案各項ノ如キ条件ヲ以テスルニ非サレハ纏ラサルヘシ然モ曩ニ本使所述ノ如ク交渉ノ形式ニ拘泥スルコトナク互ニ妥協的精神ヲ以テ話合ヲ進ムルニ於テハ必ス本案ヲ以テ交渉ヲ纏メ得ヘシト信スル旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ日本ノ交渉案ヲ聞キタル上自分ノ意見ヲモ具シテ莫斯科ニ照会セサルヘカラサルカ故ニ今日直ニ交渉開始セラレタルモノト諒解セラレサランコトヲ望ム勿論莫斯科政府テハ今日ト雖日本トノ交渉開始ニ異存アルヘキ筈ナク自分トシテモ莫斯科出発当時既ニ予備交渉乃至署名調印ヲ為スノ委任ヲ受ケ居ルモノナルモ交渉ノ形式及開始時期ノ如キハ一応是レヲ莫斯科ニ報告シテ其ノ承認ヲ得ルノ必要アリトテ交渉開始ヲ既成事実トシテ報告スル能ハサルコト及右ハ単ニ手続上ノ

コトナル旨ヲ断リタルカ本使ハ「カ」ノ立場ハ至極尤モナルモ果シテ然ラハ本使トシテハ談合ヲ始メタル後ニ至リ正式全権委任状ナシト云フカ如キ形式ノ為莫斯科ヨリ交渉ヲ否認シ来ル無キヤノ懸念ナキ能ハス此点ハ「カ」ヨリ保証ヲ得置ク必要アリト答ヘタルニ「カ」ハ尤モノ次第ナル処極メテ率直ノ話ヲ為サンニ元来露国側カ非公式交渉ヲ肯ンセサルハ其ノ効果ノ乏シキコト殊ニ真面目ヲ欠クノ嫌アルヲ認メタルニ依ルモノナルカ今回日本側ノ態度ハ極メテ真面目ニシテ単ニ国内輿論ノ鎮静ノ為ト云フカ如キ政策上ノ見地ヨリ出テタルモノト認メラレサルカ故ニ莫斯科政府ハ非公式交渉ニテモ可ナリト為スヤモ計リ難ク又仮令英国ノ例ニ倣ハントスルニ於テモ交換「ノート」取極其ノ他懸案解決上ノ大綱ニ関スル談合ヲ必要トスヘキヤ勿論ノ儀ナルヲ以テ正式会議ヲ絶対ニ必要ナリトハ主張セサル可シト説明セル処アリ本使ニ於テモ先方ノ真意略々明ナルヲ認メタルヲ以テ今回来訓ノ趣旨ハ本使「カラハン」間ニ於テ或ハ「ノート」ノ交換ヲ為スニ依リテ纏ルヘキ問題モアルヘク又其ノ細目ニ付テハ後日更ニ取極ヲ為スヘキモノアリ要スルニ本使「カラハン」間ニ於テ「ノート」ニ調印シ是レヲ

交換スルニ於テハ日本ハ露国ヲ承認シ樺太ヨリモ撤兵スヘキ趣旨ナルヲ告ケタルニ「カラハン」ハ今回ハ真ニ日本側ノ誠実ナル態度ヲ諒解セルヲ欣快トスルモノニシテ実ハ非公式談合カ公式会議ヨリ遙ニ効果アルコトアリ自分トシテモ多数新聞記者ノ包囲ニ会スルカ如キ正式交渉ノ形式ハ寧ロ有害無益ト認メ居ルモノナリト述ヘ秘密ヲ守ルヘキ本使所述ノ真意亦初メテ克ク諒解スルヲ得タリト述ヘタリ

右様ノ次第ニテ「カラハン」ニ於テハ往電第一九〇号所報ノ如キ本使ヨリ申入レノ三点ニ付テハ全然同意ヲ表シタル次第ナルノミナラス殊ニ本使ノ所謂第一点トシテ申入レタル交渉ノ円満進捗ノ見地ニ基ク秘密厳守ノ儀ハ先方ニ於テ非公式談合ノ却テ効果多キヲ認メ秘密裡ニ急速談合ヲ纏メントスルニ顧ミ我方トシテモ出来得ル限リ其ノ趣旨ヲ以テ進ミタキ所存ナル処内地新聞等ニハ従来本使「カラハン」会見ノ内容大体発表セラレ居ルノ事例モ有之絶対ニ秘密ニ付スルコトハ不可能ナリトスルモ鮮クモ或時期迄ハ交渉ノ内容ヲ秘スルニ非サレハ却テ先方ヨリ我方不信ノ譏ヲ招クコト無キヲ保セス就テハ此点特ニ十分ノ御配慮相成ル様懇請ス

三一〇　三月二十二日　松井外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）

芳沢、カラハン会見ニ関シ当方説明振リノ件

第一三三号

貴使「カラハン」間ノ会見ニ関シ今猶当方ハ外部ニ対シテハ日露間ニ存在スル当面ノ諸問題解決ノ為露国側ト交渉シ居ル次第ニシテ其間日露間懸案ノ根本問題ニ触ルルコトアル様ナレト正式又ハ非公式何レノ意味ニ於テモ一般問題ニ関スル交渉ヲナシ居ル次第ニ非スト説明シ居ルニ付右御含置アリタシ

三一一　三月二十二日　松井外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）

中ソ国境方面ニ於テロシア軍兵力集中トノ情報ニ関シカラハンヘ注意喚起方訓電ノ件

第一四五号

最近露国ハ露支国境ニ其ノ兵力ヲ集中セリトノ報道ハ貴電中王景春ヨリ北京政府ニ報告アリタリトノ記載アリタルノミナラス最近莫斯科発国際通信又同様ノ電報ヲ伝ヘ来レル処右ハ露支会議停頓ニ由ルモノナルヤノ噂アルモ一面満州

里方面ニテハ右兵力集中ヲ以テ日露開戦ノ為ナリト宣伝シ居ル露西亜人モ有之由ナルカ此種ノ報道日本ニ伝ハリ拘禁事件等ト相俟チ対露感情ヲ益々悪化セントスル懸念アルニ付貴官ハ「カラハン」ニ対シ前記ノ次第ヲ指摘シ前記露国人ノ宣伝ニ付篤ト先方ノ注意ヲ喚起シ置カレタシ

三一二　三月二十二日　在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

日ソ国交正常化ニ関スル松井外相案ニ対シカラハンノ応対振リ報告ノ件

第一九四号　極秘　（三月二十三日接受）

往電第一九三号ニ関シ

三月二十一日「カラハン」ヲ往訪日本側国交回復条件トシテ口頭ヲ以テ別電第一九五号ノ如キ内容（御訓示ノ条件ヲ本使ニ於テ適宜按配セルモノ）ヲ披瀝シ右ハ従来何レノ会議ニ於ケル日本側主張ヨリモ露国側ノ希望ニ接近セルモノト認メラルルカ故ニ之ヲ以テ速ニ国交ヲ樹立スルコトトシタシ尤モ露国側ニ於テ不満足ナリトスル点ニシテ理由アリ且同情スヘキモノト認ムルモノニ付テハ本使ニ於テモ出来得ル限リ考慮ヲ吝マサル旨ヲ告ケタル処「カラハン」ハ露

国側ノ意向ハ莫斯科ニ照会ノ上ニアラサレハ兎角ノ返事ニ及ヒ兼ヌルモ率直ニ自分ノ感想ヲ述フレハ斯ノ如キハ恰モ戦勝国カ戦敗国ニ対シ若ハ阿非利加ノ野蛮国ニ臨ムノ態度ニシテ大連会議当時ノ如ク極東共和国ヲ相手トスルモノナラハ兎モ角今日ノ露国ニ対スルモノトシテハ余リニ甚シク之ヲ莫斯科ニ伝達スルモ政府ハ必ス無条件承認ヲ主張シ断シテ斯ノ如キ条件ニ応セサルヘシ例ヘハ日本臣民ノ生命財産ノ安全ヲ保障スヘシト謂フカ如キ唯片務的ナルノミナラス露国ヲ以テ野蛮国扱ヒニスルモノナリ余ノ斯ノ如キ悲観的感想ヲ述フル所以ノモノハ右条件ニ対スル譲歩若ハ訂正ヲ望マンカ為ニアラスシテ露国ニ於ケル事態ノ変化等ニ付テハ日本モ能ク承知ノ筈ナルニ拘ハラス依然恰モ「パルチザン」団体ニ対スルカ如キ日本側ノ態度ヲ深ク遺憾トスルカ為ニ外ナラス余ハ本問題ハ種々重要ナル結果ヲ齎スヘキ国交回復ニ関スル重大問題ナルニ顧ミ深ク責任ヲ感スルモノナルカ故ニ敢テ自分ノ得タル感想ヲ陳述シテ貴公使ノ考量ヲ煩ハサントセルニ過キスト述ヘタリ依テ本使ハ右条件ヲ不取敢口頭ヲ以テ述ヘタルハ之ニ対スル大体ノ感想ヲ聴カンカ為ニモアリタル処唯今ノ御陳述ニ依リ本使ノ参考ト

ナレル処鮮カラス本使ハ右条件ヲ述フルト共ニ露国側ニ於テ道理アリ且ツ同情スヘキ異議ノ点ニ就テハ出来得ル限リ妥協的精神ヲ以テ討議ニ応スヘキヲ述ヘタルニ拘ラス一概ニ戦敗国若クハ「パルチザン」ニ対スル態度ナリトナスハ甚タ遺憾ナリ就テハ改メテ英文ニ認メテ提出スヘキ各条項ニ就キ仔細ニ研究アランコトヲ希望スト述ヘタルニ「カ」ハ兎ニ角莫斯科ニ報告ノ上ニアラサレハ意見ヲ述ヘ難キモ不取敢形式ハ拠置キ実際ニ関スル一般的意見ヲ述ヘンニ露国側カ従来非公式交渉ヲ否認セルハ日本ニ対スル疑惑（非公式交渉ニテハ兎角真面目ヲ欠クノ憾アリト云フ趣旨ナリ）ニ基ケルモノニシテ真面目ナルニ於テハ必スシモ非公式交渉ヲ排斥スルニアラサルモ莫斯科政府トシテハ本来英国ノ例ニ倣ハレンコトヲ主張シ居ルモノナリ然ルニ日本側今回ノ案ハ啻ニ東京会議当時ヨリモ進ミ居ラサルノミナラス大連、長春会議当時ノ問題ヲモ提起セリ殊ニ私有財産権ノ保護ノ如キハ日本ノミニ対シ例外ヲ設クル能ハサル処ナリ又尼港事件ニ就テモ賠償ノ意味ニテトハ明言ナキモ利権ヲ与フレハ賠償ヲ拋棄スヘシト云フハ結局賠償ノ要求ニ外ナラサルヘシト主張セルカ本使ハ我方条件

ニ就テハ失礼ナカラ尚誤解アルモノノ如クナルヲ以テ篤ト研究ヲ希望スルモノナル処日本側トシテハ従来数次ノ会議ノ不結果ニ終リタルノミナラス日本国内ニハ今日尚交渉開始尚早論モ之アル事情ニ顧ミ今回ハ必ス成功セシメ度キ意向ヲ以テ之ヲ提出スルモノナルニ拘ラス直ニ之ヲ以テ戦敗国ニ臨ムノ態度ナリト非議セラルルハ本使ノ感服シ難キ処ナリ又英国ノ例ニ倣フヘシトノ主張ハ露国側ノ希望ニ相違ナキモ日本トシテ之ニ応シ難キハ屢々説明セル処ナリ殊ニ英伊両国トノ協定モ其実質ニ於テハ決シテ無条件承認ト認ムル能ハサルノミナラス日本ハ必スシモ他国ノ例ヲ以テ律シ難キ関係ニアル次第ナルヲ以テ日本トシテハ到底露国側ノ希望ニ応スル能ハサルハ明白ニ断リ置キタシ本使ハ各条項ニ就キ斯々ノ修正ヲ希望スト云フカ如キコトナルニ於テハ欣然協議ニ応スヘキモ大体露国側ノ感情ニ適合セスト云ヒ甚タシキハ「パルチザン」ニ対スル態度ナリト云フカ如キ（不明）乍ラ本使ノ同意シ得サル処ナリト述ヘ重ネテ先方ノ反省ヲ促シタルカ「カ」ハ貴公使カ誠実此困難ナル事態救済ノ為好意ヲ有セラルルモノナルニ鑑ミ再応自分ノ意見ヲ披瀝シテ貴公使ノ教示ヲモ仰キ度シ

実ハ自分トシテモ内部的関係上貴公使ヨリノ英文入手ノ上莫斯科ヨリノ回訓ヲ得ル必要アルカ故ニ事実上ノ討議ハ暫ク待タレ度シ殊ニ莫斯科トシテ無条件ニ英伊ノ承認ヲ得其他ノ諸国モ陸続承認ヲ与ヘントシ居ルニ当リ日本側今日ノ提案ノ形ニテハ談判ニ応スヘカラストノ強硬ナル回答アルヘシト懸念セラルルカ故ニ日本カ全然英国ト同様ノ協定ニ応シ得サルニ於テハ鮮クモ英国ノ「ノート」ノ形式ニ則リ例ヘハ債権問題ニ付テハ一週間後ニ協議会ヲ開クヘシ又「ポーツマス」条約ハ戦勝ノ歴史的価値ニ顧ミ其ノ効力ヲ存スルヲ必要トスト為シ利権ニ付テハ第三国ヨリ不利ナラサル様スヘシ等ノ事項ヲ「ノート」ニ記入シテ之ヲ交換スルノ形トシテハ如何兎ニ角露国カ日本ニ屈従シテ国交ヲ回復スルノ形ニテハ莫斯科トシテモ之ヲ承諾スルコト困難ナルヘク日本側提案ヲ此ノ儘報告スルモ良好ナル結果ヲ期待シ難カルヘシト述ヘタルニ依リ我方条件ヲ容ルルヲ屈従ナリト為ス意味ハ本使ノ了解シ難キ処ナルコト私有財産ニ付テモ日本ニノミ例外ヲ設クルノ趣旨ニ非サル事又尼港事件ニ関シ露国側カ賠償ニ反対スル事ハ夙ニ承知シ居ル処ナルカ故ニ今日我方申入レニ於テハ主義上放棄シ得サルモ事実上

利権ヲ得レハ之ヲ主張セサル趣旨ニシテ殊ニ利権ノ点ニ関シテハ東京会議ニ於テモ既ニ露国側ノ承諾アリタル処ニシテ要スルニ我方トシテ新タニ不道理ナル条件ヲ提出セルモノニ非サル事等ヲ指摘シ「カラハン」ノ所謂「ノート」ニ記入スルノ方法ノ結局我方提案ト異ナル処ナク各事項ノ協定ヲ「ノート」ニ掲ケテ調印スレハ即チ問題ハ解決セルモノナルコトヲ説明セルニ「カ」ハ形式ニ付テハ両者ノ意見一致シ得ルモ実質上ニ至リテハ同シカラスト答ヘ更ニ本使ヨリ吾人ノ見解ニ依レハ英伊等ノ承認モ無条件ト認メ難ク仮ニ無条件承認ナリトセハ尚更日本トシテハ其ノ例ニ従フ能ハサル処ナルカ仮ニ他国ノ例ニ倣フモノトセハ内容ノ点ニ関シ大体我方条件ヲ「ノート」ニ記入スルモノトナリ又「ノート」ニ記載スヘキ各条件ノ可否即チ実質上ノ議論ニ付テハ喜ンテ之ニ応スヘシ尚為念大体今日ノ如キ案ヲ以テスルニ非サレハ日露国交ノ回復ハ期待スヘカラサルモノナル事ハ率直ニ御断リシ置ク旨ヲ告ケタルニ「カ」ハ国際法上ノ研究ノ結果条件付承認ナルモノナク第三者ノ解釈ハ自由ナルモ露国側トシテハ英伊等ノ承認ヲ以テ当然無条件ノ承認ト解シ居レル旨ヲ答ヘタルカ其ノ点ニ関シテハ何レ我方見解ヲ述フル事アルヘキモ要スルニ見解ノ違ヒナリ尚今後ノ会談ハ此儘継続スヘキヤ将又莫斯科ヨリノ回答ヲ得タル上ニスヘキヤト質シタルニ今即答ニ及ヒ兼ヌルニ付考量ノ上回答スヘシトノ趣ナリシカ終リニ臨ミ本使ヨリ露国側ニシテ速ニ日本トノ協定ヲ遂ケ度キ真意ナルニ於テハ予見スヘカラサル種々ノ障碍発生前急速ニ談合ヲ纏ムルニ非サレハ又々失敗ニ終ル事無キヲ保セス思付キノ儘一言スル旨ヲ述ヘ会見ヲ終リ続イテ二十二日条件ノ英訳（別電第一九五号）ヲ極秘ト記入シ「カラハン」ニ送付シ置ケリ

（別　電）

日本側提出条件英訳文

Peking, 11.30 p.m. 22/3, 1924.
Received 9.00 p.m. 23/3, 1924.

Gaimudaijin,

Tokio.

No. 195 (strictly confidential)

In view of the many questions of importance pend-

ing between Japan and Russia and of the circumstances of previous negotiations looking to the settlement of those questions, the Japanese Government are not in a position to consider an immediate and unconditional recognition of the Soviet Government but feel it indispensable that a working agreement should be reached beforehand concerning at any rate the more important of those pending question.

(1) In regard to the Nikolaievsk affair, the Japanese Government deem it absolutely necessary that the Soviet Government should express in writing their sense of regret as was agreed to by Monsieur Joffe in Tokio last year. As for material compensation on this score, while they cannot in principle waive the point, they are at the same time prepared to refrain from insisting upon their claim, if especially favourable and long-term concessions should be granted by the Soviet Government in North Saghalien and elsewhere.

no treatment less favourable than that accorded to the nationals of any third Power should be given to the Japanese.

(5) As the basis of the commercial treaty to be concluded after the formal recognition, it is desired that the Soviet Government should agree to give assurance for the safety of the lives of the Japanese nationals in Russian territory, for the protection of their private properties, for their liberty of carrying on commercial and industrial pursuits in as large a scope as possible, and generally for their treatment on the most favoured nation principle.

(6) The Japanese Government consider it advisable that an agreement should be entered into binding the two Governments to prevent propaganda and acts detrimental to the peace and order in the territory of each other. On the complete agreements on the foregoing points, the Japanese Government will immediately terminate their occupation

(2) Of the old treaties with Russia, the Japanese Government attach an especial importance to the Portsmouth Treaty because not only of public opinion in Japan but of the grave consequences that will arise from its abrogation or even modification. They therefore feel constrained to insist upon its preservation in toto.

(3) The Japanese Government are unable to agree in principle to the cancellation of the debts owing to Japan, regard being had to their relations with other Governments; they are, however, willing to let their claim lapse provided the Soviet Government offer gratuitous and long-term major concessions in North Saghalien and East Siberia.

(4) Regarding private properties of Japanese nationals in Russia, the Japanese Government, although maintaining that the Soviet Government should be held responsible, are ready to leave the matter for later discussion should it be agreed that of Northern Saghalien and accord a formal recognition to the Soviet Government.

March 22nd, 1924.

Yoshizawa

（参　考）

「北京ニ於ケル日露交渉経過」（大正十三年五月二十四日調）中ニアル邦訳文ハ左ノ如シ

一、「ニコラエウスク」事件ニ関シテハ日本政府ハ「ヨッフェ」氏カ昨年東京ニ於テ承諾セルカ如ク労農政府ニ於テ遺憾ノ意ヲ書面ヲ以テ表示スルコトヲ絶対ニ必要ナリト思考ス本件ニ関スル物質的賠償ニ付テハ日本政府ハ主義トシテ之ヲ抛棄スルヲ得サルモ同時ニ若シ北樺太及其ノ他ノ地方ニ於テ労農政府カ特ニ有利ナル長期利権ヲ許与スルニ於テハ此ノ要求ヲ主張スルコトヲ差控フベシ

二、旧条約ニ付テハ日本政府ハ「ポーツマス」条約ノ廃棄ハ勿論其ノ修正ト雖之カ為惹起セラルベキ日本国内ノ輿論及其ノ重大ナル結果ニ顧ミ特ニ右条約ヲ重要視ス従テ日本政府ハ本条約ノ全部トシテノ存続ヲ主張セサルヲ得ス

三、日本ニ対スル負債ニ関シテハ日本政府ハ外国政府ニ対スル関係ニモ顧ミ主義トシテ之カ取消ヲ承諾スルヲ得ス但シ日本政府ハ労農政府カ北樺太及東部西比利亜ニ於テ無償長期ノ重要ナル利権ヲ提供スルニ於テハ此ノ請求ヲ其ノ儘消滅セシムルコトニ異議ナシ

四、露国ニ於ケル日本国民ノ私有財産ニ関シテハ日本政府ハ労農政府ニ於テ責任ヲ負フヘキモノナルコトヲ主張スト雖若シ如何ナル第三国民ヨリモ不利ナル待遇ヲ日本人ニ与ヘサルコトヲ約スルニ於テハ之ヲ将来ノ協議ニ譲ルコトニ異議ナシ

五、正式承認ノ後締結セラルヘキ通商条約ノ基礎トシテハ日本政府ハ労農政府カ露国領土内ニ在ル日本国民ノ生命ノ安全、其ノ私有財産ノ保護、出来得ル限リ広キ範囲ニ於テ通商及産業ニ従事スルノ自由並一般的ニ最恵国民待遇ノ主義ヲ認ムルコトノ保障ヲ与フルコトヲ承諾セムコトヲ希望ス

六、日本政府ハ両当事国ノ安寧及秩序ヲ破壊スヘキ宣伝及活動ヲ防止スルノ義務ヲ両国政府ニ負ハシムヘキ協定ヲ締結スルノ望マシキコトヲ認ム

上記ノ諸点ニ付完全ナル了解成立シタル上ハ北樺太ノ占領ヲ即時停止シ且労農政府ヲ正式ニ承認スヘシ

三一三　三月二十二日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

カラハントノ折衝ノ今後ノ進メ方ニ付キ意見具申ノ件

第一九六号　極秘　（三月二十三日接受）

三月二十一日本使「カラハン」ニ会見貴電第一一五号ノ趣旨ニ基キ折衝ノ次第ハ拙電第一九〇号所報ノ通ナルカ元来条約賠償及債権ヲ其儘承認セシムルコトハ東京会議ニ於テ「ヨッフェ」カ之ヲ峻拒セシ如ク「カ」又之ヲ抗拒スヘキコト従来ノ会談ニ於テ凡ソ窺知シ居リ而シテ今回御来示ノ条件ハ従来ニ比シ幾分緩和セラレ居ル次第ナルモ本使ニ於テ幾分折衝上ノ都合モアリ往電第一九四号ノ如ク先以テ当方充分ノ要求ヲ含メタル提案ヲ試ミタル処「カ」ハ逐条攻撃ノ方法ヲ執ラス概括的ニ之ヲ一蹴セントスル態度ニ出テタリ「カ」ノ斯ル作戦方法ハ本使ニ於テモ素ヨリ多少予期セシ所ニシテ本使ハ一蹴センカ為ノ一蹴ト看破シタルカ彼ハ莫斯科ニ電報セサレハ露国側ノ意向ヲ述フルコトヲ得ス

ト語リタルニ対シ本使ヨリ然ラハ莫斯科ヘ打電後ニ非サレハ本提案ニ対スル貴方ノ意見ヲ聞クヲ得サル次第ナリヤト突込ミタルニ彼ハ直ニ態度ヲ変シ必スシモ然ラス貴方ヨリ英訳文ヲ接手熟読シタル上何分ノ儀申進スヘシト答ヘタルニ徴スレハ彼ノ腹ハ其言明トハ距離アルヤモ計リ難シ斯テ「カ」ヨリ引続キ会談センコトヲ申込ミ来ル場合或ハ原案ニ幾分考量ヲ加ヘ先方ノ同意ヲ誘引スル必要モ生スヘキ処御訓令ノ範囲以外ニ亘ル場合ニハ勿論請訓スヘキモ其以外ノ場合ニハ適宜措置スヘキニ付御含ミ置キアリタシ尚二十一日本使北京大学総長蔣夢麟ニ招カレタルカ席上蔣夢麟ノ内話ニ依レハ顧維鈞ハ二十日蔣ヲ訪問シ今回王ニ代リ露支交渉ノ衝ニ当ルコトニナリタルモ「カ」トノ折衝ニ頗ル困難ナル旨ヲ述ヘ蔣カ「カ」ト懇親ナルヲ奇貨トシ交渉進行ニ付尽力方ヲ依頼セルニ依リ蔣ハ二十一日「カ」ヲ訪問ノ上然ルヘク斡旋ヲ試ミタルモ何等妥協ノ見込無カリシ趣ナルカ一方顧維鈞ノ立場ヲ考フルニ同人トシテモ王正廷ノ案以上何等支那ニ有利ナル主張ヲ固持シ露国側ヲシテ同意セシムル必要アルヘキニ依リ斯クテ露支交渉ハ「デッドロック」ニ陥ルヘキコト明ナルト共ニ此ノ形勢ハ我ニ取リ極メテ好都合ナルニ依リ我方トシテハ若シ「カ」ノ態度ニシテ緩和スル場合ニハ成ルヘク速ニ「カ」トノ話ヲ取纏ムルコト得策ナリト思考セラル現ニ支那側ニテハ本使ト「カ」トノ交渉ヲ多少感付キタルモノト見ヘ焦慮シ居ルヤノ趣ナリ

三一四　三月二十三日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

取極中ノアルモノハノートノ交換ノ形式ニテモ可ナルベシトノ意見通報ノ件

第一四三号

貴電第一九三号中貴使「カラハン」間ニ於テ「ノート」ニ調印シ之ヲ交換スルニ於テハ日本ハ露国ヲ承認シ云々トアル処本件取極中ニハ重要ノ事項ヲ包含スルニヨリ之ヲ枢密院ニ付議スル必要到来スヘキヲ以テ其中或ルモノハ「ノート」ノ交換ニヨルモ可ナルヘキカ全体トシテハ「アグリーメント」ノ形式ニテ取纏ムルヲ要スヘキニ付右様御含アリタシ本件交渉ハ此後相当ノ間迂余曲折アルヘク右注意モ稍稍早過キルヤトノ感アルモ為念

三一五　三月二十四日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛・

カラハンニ対ス芳沢公使ヨリ手交セル英文覚書送付ノ件

機密第一六一号　（四月一日接受）

大正十三年三月二十四日

在支那

特命全権公使　芳沢　謙吉（印）

外務大臣男爵　松井　慶四郎殿

書類送付ノ件

三月二十二日本使ヨリ「カラハン」ニ交付シタル書類写別紙ノ通リ及送付候間御査収相成度此段申進候也

（別紙）

三月二十二日付中国芳沢公使ヨリ「カラハン」宛英文覚書写

日本側提示ノ条件英訳

March 22nd, 1924.

My dear Mr. Karakhan:

I beg to forward to you herewith an English translation of the terms which I verbally laid before you yesterday and which I have been instructed to propose as a basis for the establishment of normal relationship between the Japanese and the Soviet Governments.

I may be permitted to add that I consider it highly desirable that these terms be kept strictly confidential for the time being.

Yours very sincerely,

(Signed) K. Yoshizawa

Strictly Confidential

In view of the many questions of importance pending between Japan and Russia and of the circumstances of previous negotiations looking to the settlement of those questions, the Japanese Government are not in a position to consider an immediate and unconditional recognition of the Soviet Government but feel it indispensable that a working agreement should be reached beforehand concerning at any rate the more important of those pending questions.

1. In regard to the Nikolaievsk affair, the Japanese Government deem it absolutely necessary that the Soviet Government should express in writing their sense of regret as was agreed to by Monsieur Joffe in Tokio last year. As for material compensation on this score, while they cannot in principle waive the point, they are at the same time prepared to refrain from insisting upon their claim, if especially favourable and long-term concessions should be granted by the Soviet Government in North Saghalien and elsewhere.

2. Of the old treaties with Russia, the Japanese Government attach an especial importance to the Portsmouth Treaty because not only of public opinion in Japan but of the grave consequences that will arise from its abrogation or even modification. They therefore feel constrained to insist upon its preservation in toto.

3. The Japanese Government are unable to agree in principle to the cancellation of the debts owing to Japan, regard being had to their relations with other Governments; they are, however, willing to let their claim lapse provided the Soviet Government offer gratuitous and long-term major concessions in North Saghalien and East Siberia.

4. Regarding private properties of Japanese nationals in Russia, the Japanese Government, although maintaining that the Soviet Government should be held responsible, are ready to leave the matter for later discussion should it be agreed that no treatment less favorable than that accorded to the nationals of any third Power should be given to the Japanese.

5. As the basis of the commercial treaty to be concluded after the formal recognition, it is desired that the Soviet Government should agree to give assurance for the safety of the lives of the Japanese nationals in Russian territory, for the protection of their private properties, for their liberty of carrying on commercial and industrial pursuits in as large

a scope as possible, and generally for their treatment on the most favoured nation principle.

6. The Japanese Government consider it advisable that an agreement should be entered into binding the two Governments to prevent propaganda and acts detrimental to the peace and order in the territory of each other.

On the completion of agreements on the foregoing points, the Japanese Government will immediately terminate their occupation of North Saghalien and accord a formal recognition to the Soviet Government.

March 22nd, 1924.

三一六　三月二十四日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）
三月二十一日カラハントノ会談ノ報告ニ関シ書面ニテ先方ヘ申入レハ差控フル様訓電ノ件

第一五〇号
貴電第一九四号ニ関シ

示ノ次第アル処今回貴官ト「カラハン」トノ会談ニ就テハ日露国交恢復ニ関シ話合ヲ為シ居ルコトヲ当方ニテハ厳秘ニ付シ居ルモ貴地東京日日大阪毎日通信員ハ露国筋ヨリ内探シ得タルモノカ貴官ト「カラハン」トノ二十日ノ会談ニ関シ二十一日貴地発電報中ニ別電第一五二号ノ通リノ記事アリ又二十三日発ニテ二十一日会談ノ電報中ニ別電第一五三号ノ通リ報道シ居ルニ付テハ次回会見ノ序ヲ以テ念ノ為メ「カラハン」ニ対シ秘密厳守方ニ付注意ヲ喚起シ置カレタシ尚今後貴官ト「カラハン」トノ会談次第ニ度重ナルニ従ヒ談話ノ主題カ日露国交恢復問題ニ触レ居ルコトヲ新聞記者ニ対シ全然否定スルコト不可能ト思ハルルニツキ本省ニ於テモ「カラハン」ヨリ国交恢復問題ニ付申出ノ次第アルモ芳沢公使ニ於テハ全然個人的ニ之ヲ聴取リ居ルニ過キサル旨ヲ答ヘ貴官交渉ノ内容ニ就テハ一切具体的説明ヲ避クル考ニ付右御含ヲ以テ新聞記者ト応酬相成ル様致度シ

（別電　甲）
三月二十四日松井外務大臣発在中国芳沢公使宛電報

第一五二号　（平文）

芳沢公使ハ「カラハン」ニ対シ

別電第一九五号到着未揃ナルモ㈠生命財産ノ安全ニ対スル保障ハ之ヲ相互的トスルモ何等差支ナク㈡私有財産権ノ尊重ハ日本ニ対シテノミ例外ヲ設ケシメントスルノ趣旨ニアラスシテ通商及産業ノ自由ニ関スルト同様可成広汎ナル範囲ニ亘リ之ヲ保障セシメントスルニ過キサル次第ナリ㈢又利権獲得殊ニ北樺太ノ利権ニ付キテハ大綱ヲ定ムル協約中ニ具体的ニ或程度マテ詳細取極メル必要アリ㈣尚本件ハ相当ノ迂余曲折ヲ見ルヘシト思考セラルルニ付前記ノ次第御含相成ルト共ニ交渉成立ニ付充分ノ見極付ク迄ハ書面ニテ先方ヘ申入レラルルコトハ可成差控フル様致サレタシ

三一七　三月二十四日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）
カラハントノ交渉内容ニ付キ秘密厳守ヲ申入レ方訓電ノ件

別電　甲　三月二十四日松井外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第一五二号

乙　同右第一五三号

第一五一号　極秘

貴電第一九三号ノ㈢末尾ヲ以テ秘密厳守申合ノ点ニ付御来

一露国ハ日露正式会議開会前ニ現下ノ係争問題ヲ完全ニ解決サレタイ

二此ノ予備的会議ニ於テ日露問題個々ニツイテ両国間ニ十分ノ諒解ヲ遂ケ覚書ノ形式ヲ以テ正式会議ノ基礎ヲ為スコト

三日露問題ノ性質ハ甚タ「デリケート」テ些少ノ事ニ依テ重大ナ事件ヲ惹起シ会議ノ障害トナルカ如キコトカ起ラナイトモ限ラナイカラ会議ノ内容ハ濫リニ発表シナイ事トシタイ

四予備的会合ハ非公式ナ会合トシテ此ノ間両者ハ能ク十分ニ代表者タル事ヲ認ムルコト

ノ四ケ条ニ付キ同意ヲ求メタカ之ニ対シテ「カラハン」ハ一個人ノ考トシテハ第一、第二、第四ニ就テハ異存カナイカ第三ニ就テハ会議ヲ公開シタイ希望ヲ有スルコトヲ述ヘ結局個人トシテ日本ノ提議ニ同意スルコトニナッタ

（別電　乙）
三月二十四日松井外務大臣発在中国芳沢公使宛電報

第一五三号

尼港問題ニ対スル日本側ノ基礎条件トシテ提出サレルモノ

ハ十九日芳沢カラハン間ノ私的意見交換ニ於テ発表サレタ如ク

一、尼港ノ責任ハ露国カ承認シ文書ノ形式テ日本政府ニ謝罪スルコト

二、尼港ノ賠償ヲ要求シナイ代リニ日本カ蒙ツタ総テノ損害賠償ノ意味テ（其ノ中ニハ旧債務ヲフクム）樺太ソノ他ノ利権ヲ譲渡スルコト

三、樺太ノ撤兵ハ正式会議前テモ予備的会合ノ如何ニヨッテ行ッテモヨイ

ノ三項ヲ以テ協議ヲ進メテ行クコトニ決定シテ居ルコレニ対シカラハンハ一般的ノ問題カラ商議ヲ進メルコトヲ主張スルカモ知レナイカ日本側トシテハカラハンノ希望如何ニヨラスコノ特殊問題カラ片ツケテ行ク方針テアルサレハ予備的会議ノ順序ハ川上ヨッフェノ時トオナシ様ニ日露特殊問題即チ尼港問題及ヒソノ付属問題ヲ第一トシ次キニ一般的問題即チ旧債務問題及ヒ旧条約問題等ニ移ルモノト信セラレル

三一八　三月二十五日　在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

利権問題其ノ他一般ニ付キカラハンノ島田ヘノ談話報告ノ件

第二〇五号　極秘　（三月二十六日接受）

往電第二〇一号貴電第一四四号第一四五号並在斉々哈爾領事発本使宛電報第一第二号ニ関シ「カラハン」トハ前回会見ニ於テ往電第一九四号末尾ノ形ニテ別レタルヲ以テ此際本使ヨリ「カ」ヲ往訪スルハ好マシカラスト考ヘタルニ付二十四日島田ヲ遣ハシ夫々伝ヘシメタル処「カ」ハ往電第二〇一号字句修正ノ件ヲ承知シタル上島田カ他ノ問題ニ移ラントスルニ先チ実ハ近日芳沢公使ヲ往訪シ二十一日提出ノ条件ニ付篤ト相談シタキ考ナルカ其ノ前ニ貴下ノ来訪ヲ機トシ率直ニ余ノ考ヲ述ヘタシ但シ之ハ日本側ノ申出ヲ忌避セントスルモノニアラストテ大要左ノ通語レル由

貴方今回ノ提議（全然秘密ニ付「ボズネ」モ知ラスト）ニ付自分ハ依然悲観的ナルカ故未タ莫斯科ニ報告シ居ラス（此点疑ハシキモ対支交渉ニ失敗シタル彼ハ非常ニ臆病トナリ居ルニ付事実ナルヤモ知レス）余トシテ十分日本側ト意見交換ヲ了シタル上成算アルニ至リテ初メテ政府ニ電報シタキ考ナリ余ハ日本側今回ノ態度ハ真面目ナルモノニシテ日本ノ決意ノ確実ナルコトモ十分之ヲ了解シタリ去レト我方ハ「トロッキー」ノ如キ偉勲者スラ尚且勢力ヲ失ヒタルカ如キ国情ニシテ自分等ハ偏ニ労働者ノ鼻息ヲ窺ハサルヘカラス尤モ英伊ノ承認前ナレハ労働者ニ対シテハ日本カ真先ニ我ヲ承認スルモノ故尼港事件ニ対スル誠意ヲ表スルモ可ナリト説明シ得ヘキモ今日トナリテハ左様ニ参ラス又尼港事件賠償ノ意味ニテ利権ヲ与フルモ不可ナリ日本ヘ利権ヲ与フヘキモ普通ノ形式ニ依ルコトトシタシ

実ノ処「シンクレヤー」ニ利権ヲ与ヘタルハ日本ヲ困ラセンカ為ニナセル業ナリ又莫迦ナ米国人カ能クモ日本軍ニ於テ米人ノ入国ヲモ許ササル地方ノ利権ヲ買取リシモノカナ次ニ債権問題ニ関シ日本ノ分ハ全部戦時債券及ボロキ（ママ）武器代金ヨリ成リ総額三億留ト記憶ス又個人関係ノ諸種対露要求ハ五千万カ一億ナラン兎ニ角小額ナリ之ニ関シ本音ヲ吐ケハ全然仕払ハヌ積ナリ

英国ノ分ハ実ニ巨額ニ達ス夫レヲモ支払ハヌ積リニテ現ニ露国側ハ「ラコフスキー」カ債権問題解決ノ為英国政府ト交渉スルニ当リ露国側ヨリ出席スヘキ委員トシテ全部故意ニ下等ナル労働者而已ヲ出スコトト為シ居リサスレハ労働

内閣ノ英国政府ハ到底モ右露国労働者ヲ相手トシテ戦時債権ヲ要求スルヲ得サル義理合ヒトナルヘシ又債権拋棄ニ代ヘ無償ニテ長期利権ヲ与フルコトモ不可能ナリ是レ結局支払同様ニシテ英国ニ対スルヨリモ有利ナル条件トシテ英国ニ対スル手前具合悪シ尚個人債権モ支払ノ意思ナシ各国軍出征中我方カ没収シタル外国個人財産ハ武力ニテ獲得シ之ヲ還付セスシテ済ミシモノヲ今更談判ニ依リテ返付スルノ愚ヲ為サンヤ露国政府ハ目下政府及国民カ外国干渉ニ依リテ蒙リタル損害調査委員会ヲ設ケ調査中ナルカ外国干渉ハ「ウォルガ」以東ノ西比利亜、「ウクライナ」、南露、北露各地方ニ亘リ広汎ナルヲ以テ其損害モ莫大ナル額ニ達スヘク之ヲ以テ将来対外談判ニ利用スル積リナリ次ニ余ガ奇異ニ感シタルハ貴方提議中漁業ニ関シ何等記載ナカリシコトナリ余ハ本件ハ日本ノ為最モ重大視シ居タリ但シ我方ハ漁業権ハ日本人ニ与フル積リナルカ故ニ左様御承知アリタシ云云

右ニ対シ島田ハ右ハ頗ル意外ノ話ニシテ日本側ハ何等過重ナル提議ヲ為シタルニアラス而シテ漁業協約ノ件ハ勿論「ポーツマス」条約ニ含マルルモノニシテ日本側ガ之ヲ拋

棄シタル次第ニアラスト謂ヘルニ「カ」ハ然レトモ法律家ノ意見ニ依レハ「ポ」条約ノ書方ヨリスレハ同条約ト漁業条約トハ締結時代モ異リ別個ノモノナリトノコトナリト云ヘリ（島田ハ飽ク迄反対シ置キタル由）次ニ島田ハ兎ニ角二十一日ノ会見ニ際シ公使ヨリ云ハレタル通リ此種形式論ハ諒解シタル次第ニシテ残ルハ実質的ノ問題ナルカ右ニ付テハ公使ニ於テ其態度ヲ明カニシ居レルニアラスヤト云ヘルニ「カ」ハ然リ一両日中ニ公使ト更ニ意見交換ヲシタキニ付明日会見時日ヲ打合セタシ尚形式ハ「ノート」ニスルコトニ解シ然ル可キヤト云ヘルニ付島田ハ斯ル問題事項ニ答フル能ハス篤ト公使ト話サレタシ、只自分ノ知レル範囲ニテハ日本側ハ必スヤ「アグリーメント」ノ形ヲ必要トスヘシ（貴電第一四三号ノ趣旨）ト云ヒタルニ「カ」ハ了解セリ「デクラレーション」ノ形ニテモ可ナリ孰レノ途形式ハ重要ナラス要ハ実質如何ニ在リトテ敢テ「ノート」ノ形式ヲ主張セサル態度ヲ示シ尚小声ニテ二十一日会見ノ際ノ自分ノ態度ハ実ハ一種ノ芝居ナル旨自白シ居タリ終リニ彼ハ樺太占領解除ノ件ハ何ニモ記入セストモ宜カラスヤト云ヘルニ付島田ハ右ハ貴方従来ノ態度ト顚倒シ居ル気持アリト言ヘルニ「カ」ハ他ニ何カ深キ魂胆ニテモアルニヤ「何レノ途占領ヲ解除スル事ハ確カナルニ付書カストモ可ナリ」ト繰返セリ尚「カ」ハ語ヲ続ケテ労農政府内ニ外交官トシテ適当ナル人物極メテ少ナキ処昨今欧州方面ノ外交事務多忙ナルニ付自分モ長ク此地ニ留マル能ハス日本トノ話ダケ纏メテ行キ度シト言ヒ居タリ依テ島田ハ貴下ハ近ク奉天ニ赴ク噂アリト云ヘルニ「カ」ハ右ハ全然虚報ナリトテ一笑ニ付シ次ヒテ島田ヨリ本使ノ命ナリトテ拘禁中ノ両軍人ノ釈放ハ如何ナリ居ルヤ右ハ既ニ数回申出テタルモノニテ急速取計ヒ呉レサルハ甚タ遺憾ナリト云ヘルニ「カ」ハ頗ル迷惑シタル面持ニテ自分モ好ク了解シ居レルモ困リ居レルニ付暫時待タレ度シトノ意味ヲ述ヘ次ヒテ島田ヨリ貴電第一四四号ノ件ヲ適宜説明シタル処「カ」ニ於テハ早速浦塩ニ言ヒ遣ルヘシトテ快諾シ自分ハ待遇カ粗悪ト成ル筈ナシト信スト付言セリ、「ザバイカル」一地方ノ農民ドモノ言ヲ一々気ニセラレサラン事ヲ望ムト言ヒ更ニ斉々哈爾領事来電ニ関シテハ右ハ拘禁ト云フニ非サルヤニ聞キ居レリ何レモ心配スルニ当ラサル可キモ併シ御話ハ了解シタリト言ヘリ依テ島田ハ既ニ御了解ノ上ハ速ニ実行アル様貴下ノ勢力ヲ利用セラレン事ヲ望ムト言ヘルニ「カ」ハ之ヲ諒トセリ

別レニ際シ島田ヨリ顧維鈞トノ話ハ如何ト尋ネタルニ「カ」ハ顧ハ如何ニシテモ露支協定ヲ纏メサレハ自己ノ地位危カルヘキニ付今ニ自分ニ対シ歎願シ来ルヤ必セリ但シ予カ之ニ応スルヤ否ヤハ別問題ナリ支那トシテハ治外法権撤去各租界ノ還付等実ニ莫大ノ利益アル次第ニシテ此ノ機ヲ逸センカ大損害ナリトテ暗ニ支那側ノ折レ来ルヲ期待スルノ口吻アリ当日「カ」ハ種々語リ居リタルカ島田ノ得タル感想ニ依レハ「カ」自身トシテハ相当ノ処ニテ支那側トノ折合ヲ付ケ同時ニ日本ヲ牽制シテ成ルヘク此際日本トノ話ヲモ纏メテ帰国シ度キ意向ナルカ如キモ莫斯科政府トシテハ今ヤ支那側及日本側最後ノ要求条項モ充分判明シタルモノナレハ西欧方面多忙ナル際ニモアリ一先ツ極東方面ヲ之ニテ打切リ「カ」ヲ召還シ迫テ来ルヘキ交渉時期ニ至ラハ又々新タナル代表ヲ派遣シテ更ニ一段ト強硬ナル態度ニ出テ結局日本及支那ヲシテ英伊ノ承認ニ倣ハシメントノ意向ナルニ非スヤト感得シタル趣ナリ尤モ此ノ点ハ本使ニ於テモ特ニ注意ヲ払フヘキモ御参考ニ申進ス

三一九　三月二十七日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

ソヴィエト軍ノ東方集結ヲ否定セルソヴィエト政府発表ニ関スル新聞報道ノ件

第二一二号　（三月二十八日接受）

貴電第一四五号ニ関シテハ往電第二〇五号中所報ノ通リ二十四日「カ」ノ注意ヲ喚起シ置キタル処其結果ニヤ二十五日露国政府ハ在莫斯科外国通信員ニ対シ大要左記ノ通リ発表セル旨ノ莫斯科発「ユーナイテッド・プレス」電報二十七日当地英字新聞ニ掲載セラレタリ

「露国ハ東方ニ於ケル如何ナル軍隊モ動員シタルコトナシ本声明ハ日本陸軍大臣カ露国側最近ノ態度及軍隊移動説ニ対シ疑ヲ以テ観ツツアリトノ日本ヨリノ報道ニ対シテ答フルノ趣意ナリ猶政府ハ右ハ恐ラク支那ヲ脅サムカ為他外国人ノ流布シタル情報ナリト信シ居レリ云々」

三二〇　三月二十七日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

日本側提案ニ対スルカラハンノ見解ニ付キ報告ノ件

第二一三号　極秘　（三月二十八日接受）

往電第二〇五号ニ関シ三月二十六日「カラハン」来訪本日（ママ）接手ノ日本側提案ニ付テハ篤ト研究ヲ加ヘタル処未タ之ヲ莫斯科ニ報告スルニ至ラス右ハ其儘莫斯科ニ取次キ差支ヘ無キカ如クナルモ莫斯科ニ於テハ単ニ之ヲ日本ノ瀬踏ト考フル無キヤヲ恐レルト共ニ従来数次ノ日露交渉失敗ノ前例ニ顧ミ成ルヘク莫斯科ニ好印象ヲ与ヘントノ念慮ヨリ再応率直ニ私見ヲ述ヘ度旨ヲ前提シ莫斯科政府ガ既ニ内外ニ声明セル趣旨ニ背反スル条項ハ之ヲ莫斯科ニ取次クモ却テ其ノ空気ヲ悪化スルニ過キサルヘク依テ斯ノ如キ条項ハ成ルヘク提案中ヨリ除外セラレンコトヲ希望ス例ヘハ債権問題ニ於ケル労農政府ノ態度ハ「ゼノア」会議ニ於テ声明セル如ク露国側ニシテ其ノ支払ヒ義務ヲ認ムルヲ要スルモノトセハ連合国ノ干渉ニ依リ露国ノ蒙ムル損害ノ賠償ヲ受ケサルヘカラストノ主張ヲ固持スルモノナルカ故ニ今次ノ日本側提案中ニ斯ノ如キ条項ヲ存スルハ只莫斯科ニ対シ悪印象ヲ与フヘキニ止マラス日本側ノ誠意ヲモ疑ハシムル事ナキヲ保セス成ルヘク速ニ極東トノ接近ヲ図リ以テ其ノ間ニ於ケル損害ヲ軽減スルモノト思考スルモノナルモ右ノ如キ莫斯科昨今ノ実情ニ対シテハ出来得ル限リ悪印象ヲ与フル事ヲ避クルト共ニ日本側今回ノ態度ノ真面目ナル事ヲ知ラシムルコト尤モ必要ナリト述ヘタルカ本使ヨリ右ハ債権問題ニ付特ニ重キヲ置カルル趣旨ノ如クナル処其他ノ問題ニ対シテモ御意見アラハ承知シ度旨述ヘタルニ「カ」ハ債権問題ハ政府ノ最モ深ク注意ヲ払フ処ナルカ其他ノ問題ニ付テモ私見ヲ述フヘシ尤モ自分ノ述フル処ハ日本側提案ノ削減ヲ試ムルノ意味ニ非ス又政府ノ訓令ニ基クモノニモ非ス莫斯科ニハ未タ全ク報告シ居ラス従テ其ノ悪感ヲ挑発セサル様都合好ク報告センカ為ニ外ナラサルモ此ノ点ハ了承アリタシト断リタル上抑々莫斯科ニ於テ英国ノ例ニ倣ハン事ヲ主張スル所以ノモノハ労農政府カ輓近其ノ経済、財政、軍事、外交上着々其ノ他位ノ鞏固ヲ加ヘ「カーメネフ」「カリーニン」等ノ党派ノミナラス政府ニ於テモ承認ハ無償タルヘキ旨ヲ宣言シ居リ是等党派ニ対シテモ日本ノ承認ヲ得ンカ為犠牲ヲ払ヘル理由ヲ説明スルヲ得ス尤モ日本ノ重要視スル漁業協約ノ如キハ之ヲ無視スルコト能ハサルカ故ニ承認ノ「ノート」交換ト共ニ右協約ニ関スル「ノート」ヲモ交換シテ以テ双方ノ主張ヲ緩和シ得ヘキモ承認ヲ得ン為

北樺太等ノ利権ヲ与フルカ如キハ主義上甚タ困難ナルヘキ立場ニアリ尚各個ノ問題ニ付夫々私見ヲ述フヘキモ自分ノ基礎観念ノ依テ来ル所ヲ明ニシ置キ度キ次第ナリト繰返シ次テ「カラハン」ハ最厄介ナル尼港問題ヨリ述フヘシトテ本問題ハ一両年若ハ半年前ナリセハ頗ル簡単ニ解決シ得タルヘキモノナルヘク既ニ日本軍人ノ信念トシテ必ス露国ヨリ謝罪状ヲ取ルヘシトノ主張ニ対シ露国政府トシテハ之ニ依リテ国交ヲ恢復シ親善関係ヲ樹立スルモノナルニ於テハ謝罪スルモ妨ケナキニ非スヤト労働者ニモ説明シ之ヲ納得セシメ得タリシナラン然レトモ既ニ過去ノ事情ナリ自分ハ日本側ニ於テ本問題ニ対シ多大ノ注意ヲ払ヒ居ルモノナルコトハ之ヲ承知セサルニ非サルモ露国側トシテモ本問題解決ノ困難ナル所以ヲ述フルニ本件謝罪カ承認ノ条件タル場合ニ之ヲ中央執行委員会及各党派ニ説明スルノ困難アリ仮ニ政府ノ為セル所ハ已ムヲ得ストナスモ然ラハ相互的ニ日本軍ノ行ヘル所ニ対シ何モノヲ要求セリヤトノ質問ニ答弁スルコトヲ得サルヘシ尚本問題カ債権問題ト関連スルカ為ナリト説明シ更ニ利権問題ニ関シ政府ノ名ニ於テ云フモ妨ケナシト断リタル上北樺太東部西伯利ニ於ケル利権ハ之ヲ日本人ニ譲与シ差支ナク又某国ノ如ク日本人ノ入国ヲ制限セサルヘク従テ各種産業ニ従事スルコト又之ヲ妨ケス唯日本人ニノミ特別ニ有利ナル条件ヲ以テスル能ハス此ノ点ハ英国其他如何ナル国ニモ許ササル所ナリト述フル所アリ右ニ対シ本使ヨリ意見ヲ述フルニ先チ左ノ三点ニ付「カラハン」ノ注意ヲ促シ度キ旨述ヘ

第一、浦塩ニ於ケル拘禁日本人ニ付テハ先般「カラハン」ニ於テ最善ノ努力ヲ為スヘキ旨ヲ言明シ其後一週日ニ亘ルモ尚釈放ノ運ニ至ラサルハ甚タ遺憾トスル所ナルカ故ニ過日ノ説明通リ充分ノ尽力ヲ求ム然モ右釈放ヲ見サルニ当リ又々「ブラゴエ」ニ於テ二名ノ邦人拘禁セラレ痛ク朝野ノ感情ヲ害シ居ルカ故ニ至急適当ノ措置ヲ講セラレ度キコト

第二、日露交渉ノ討議ヲ進ムルニ付テハ相互ニ秘密ヲ守ルヘキ本使ノ提議ニ対シテハ能ク其趣意ヲ諒解シ欣然之ニ同意セラレタル処意外ニモ大阪毎日及東京日々ノ北京電報カ会談ノ内容ニ近キ消息ヲ伝ヘ居リ右ハ必スシモ「ミッション」側ヨリ漏レタルモノト謂フニ非サルモ予見スヘカラサル障碍ノ発生ヲ恐ルルノ趣旨ニ顧ミ何等会談ニ

関スル「ヒント」スラ之ヲ与ヘサル様為念部下ノ者ニモ訓達シ置カレンコトヲ希望ス

第三、在浦塩領事ヨリ帝国政府ニ対スル報告ニ依レハ其使用人カ些細ノ口実ノ下ニ「ゲペウ」ノ為拘引留置セラレ領事ニ於テモ頗ル不安ト不便トヲ感シ居ル趣ナル処此ノ際此ノ種圧迫ト目セラルルカ如キ行為ヲ避ケ是等ノ者ノ拘禁ヲ解クハ勿論今後特ニ領事ニ対シ不便ヲ与フルカ如キコトナキ様御尽力ヲ煩ハシ度シ

右ニ対シ「カラハン」ハ拘禁事件ニ付テハ約束通リ是非速ニ解決スル様莫斯科ニモ電報シ置キタルモ未タ之ニ対スル回答ヲ得ス又秘密ヲ守ル点ニ付テハ過日大阪毎日ノ吉岡ナル者カ「ミッション」ノ記者係ナル「レベデフ」ヨリ何等情報ヲ得タルヤノ風聞アリタル処「レベデフ」提出ノ始末書ニ依レハ去ル二十日吉岡「レ」ニ面会種々日露交渉事情ノ問ヲ発シタルモ「レ」ハ何等知ル所ナキ旨ヲ答ヘタルニ拘ハラス吉岡ハ執拗ニ問質シタル為憤然知ラサル旨ヲ答ヘ置ケル由現ニ「ミッション」側ニ於テ交渉ノ内容ヲ知リ居ル者ハ自分ノ外「シュワルサロン」及「ダフチアン」ノ外ニナシ尚吉岡ハ今後「ミッション」ニ出入ヲ許ササル積リナリト答ヘ浦塩ニ於ケル領事ノ使用人拘留ノ件ハ何等誤解ニ基ケルモノナルヘク同地官憲ニハ今後注意スル様申送ルヘシト答ヘタリ

次テ本使ヨリ債権問題、尼港事件ニ関スル「カラハン」所述ニ対シ其ノ所謂基礎観念其ノモノニ対シ本使ニ於テ同意シ難キ誤謬アル旨ヲ述ヘ承認ハ無償タルヘシトハ露国側単独ノ断定ニシテ日本ハ勿論承認ヲ与フヘキ相手国トシテハ到底斯ノ如キ一方的断定ヲ認メサルヘシ又承認ニ対シ利権ヲ供給スル能ハスト云フモ我方利権ノ要求ハ理由ナク単ニ承認ノ代償トシテ之ヲ求ムルモノニ非ス例ヘハ尼港事件ノ如キハ七百余ノ生霊ヲ失ヘルニ対シ本来賠償ヲ要求スルコト当然ナルモ露国側ノ意向ヲ斟酌シ主義上ノ見地ハ別トシ若シ利権ヲ得ルニ於テハ敢テ賠償ヲ要求セサル趣旨ニシテ債権ニ付テモ亦充分ノ根拠ヲ有ス約三億七千万円ニ上ル公私債権ハ徒ラニ之ヲ抛棄シテ顧ミサルコト能ハスシテ何等カノ方法ヲ以テ之ヲ処置スルノ必要アリ我国輿論ハ是等ノ理由ト論拠トヲ閑却セサルモノナル而已ナラス英国ノ承認ト雖実際上ハ無条件承認ニ非スシテ我国トシテハ表面上ノ英国ノ例ニモ倣フコト能ハサルハ屢々述ヘタル所ナリ且又

承認ニ関スル先例ニ照スモ支那共和国成立ニ当リ各国ハ若干条件ノ下ニ承認セル事例アリ尚又一切ノ関係断絶国間ノ国交恢復ノ場合ノ如キモ講和条約ヲ以テ互ニ承認ノ条件トスルモノニシテ純然タル無条件承認ノ如キハ国際間ノ通義ニ反シ我国ノ到底同意シ難キ所ナル旨ヲ述ヘ尚説明ヲ継続セントセルモ互ニ他約ノ時間切迫セシ為更ニ次回会見ニ於テ之ヲ述フルコトトセリ尚終リニ臨ミ「カラハン」ハ政府ノ訓令ニ基クモノナリトテ羅馬尼ノ「ベッサラビヤ」併合ニ対シ列国カ承認ヲ与ヘ仏国ノ如キハ既ニ批准セルヤニ承知シ日本モ亦之ニ批准セントスル趣ナル処本件ハ労農政府ノ非常ニ重大視シ居ル所ニシテ日本ノ右併合承認ハ労農政府ニ対スル非友誼的態度ト解釈セラルヘシ故ニ余リ利害関係ナキ日本トシテ本件ニ付反労農的態度ニ出ツルコトナキ様貴公使ヲ通シ日本政府ノ注意ヲ喚起スル様訓令アリタル次第ナルカ右ニ対シテハ日本政府ヨリ何分ノ回答ニ接スル様特ニ取計ハレ度シト述ヘ本使ヨリ兎ニ角之ヲ政府ニ伝達シ出来得レハ何分ノ回答アル様禀請スヘシト答ヘ置ケリ就テハ然ルヘク先方ニ回答ヲ与ヘ得ル様何分ノ儀御電訓ヲ請フ

三二一　三月三十一日　在中国芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

浦潮拘禁事件其ノ他交渉ノ前提条件ニ関スルカラハントノ会談内容報告ノ件

第二二六号　極秘　（四月一日接受）

貴電第一六二号ニ関シ御来示ノ趣旨ニ付テハ本使トシテモ是非先方ノ注意ヲ促シ度キ所存ナリシ処往電第二一三号所報ノ通二十六日ノ会談ハ中途ニテ中止セル関係モアリ右貴電ノ儀ハ次回会見ニ於テ篤ト本使ヨリ申入ルル事トシ不取敢右ニ対スル先方ノ態度ヲ覗ハシムルト共ニ先方ヨリ会見申出テノ機会ヲ作ラシムル為二十八日島田ヲ遣シタルニ「カ」ハ本件ニ関シテハ従来一々莫斯科ニ打電シ居ルモ今ニ返事ナシ今回モ更ニ打電スヘシ然シ拘禁事件解決セサル間ハ一般交渉ヲ行フ能ハサル由ノ御話ハ予ノ非常ニ不平トスル処ナリトテ要領ヲ得サル態度ナリシ趣ナルカ其際先方ヨリ島田ヲ通シテ会見ヲ求メ同時ニ場所ハ順番ニ依リ「カ」方ニシ度旨申出テタルヲ以テ本使ハ先方ノ申出テニ応シ二十九日「カ」ヲ往訪シタリ

劈頭「カ」ハ前会見ニ引続キ本使ヨリ意見ヲ述フヘキ都合

ナリシ旨ヲ述ヘテ之ヲ促シタルニ対シ浦塩拘禁事件ニ付一言スルノ必要アル旨ヲ告ケ速ニ本件ヲ解決セン事ヲ帝国政府ノ絶対必要トスル処、此上遷延セハ日露交渉問題ニモ累ヲ及ホスヘシトノ懸念ニ基キ前日島田領事ヲシテ再応督促セシメタル次第ナル処元来領事館員及二名ノ軍人ニ付テハ帝国政府ニ於テ之ヲ保障シ並ニ一私人ニ付テハ各自ノ宣誓ニ依リ釈放スル様莫斯科ニ禀請セラレタル筈ナルニ拘ハラス今日迄何等ノ回答ニ接セス殊ニ「カラハン」氏ニ於テ本件解決ノ為最善ノ努力ヲ為スヘキヲ言明シタル次第ニ付鮮クモ軍人二名ノ釈放ヲ見スハ本使トシテハ此上交渉問題ヲ進行セシメ難キ立場ニ在ルヲ以テ此際断然釈放ヲ決行シテハ如何露国側ニ於テハ交渉開始ニ関シ日本ノ真意ヲ疑フモノノ如クナリシ処今日ニ於テハ却テ我方ニ於テ露国側ノ真意ニ対シ疑惑ヲ抱カサルヲ得ス依テ双方ヨリ斯ノ如キ議論ヲ避ケ本件釈放ヲ断行シ以テ交渉ノ促進ヲ図ルヲ有利ナリト思考スル旨述ヘタルニ「カ」ハ貴見ノ通出来得ル限リ円満ニ交渉問題ヲ解決スルヲ得策ト考ヘ居ルモ貴公使御話ノ次第ヲ日本側正式ノ申入レトシテ莫斯科ニ伝達スル時ハ之ヲ以テ日本側ノ威嚇ト為シ一切ノ話ヲ中止スヘシト言フヘキヤ必セリ露国側トシテハ或ハ北樺太ノ監獄ニ露国共産党員ノ拘禁セラレ居ルモノモ無キヲ保セス而モ露国側ニ於テハ樺太ノ撤兵ヲ見スハ交渉ニ応セスト主張スル事ヲ控ヘ居ル次第ニシテ日本側カ拘禁事件ノ為根本問題ヲ犠牲トスルモ憚ラサルノ態度ハ自分ノ深ク遺憾トスル処ナリ故ニ本件ハ之ヲ根本問題ニ関連セシムル事ナク交渉ヲ促進セン事ヲ希望シテ止マス従来貴公使ニ於テハ極メテ冷静且友誼的態度ヲ以テ会談セラレタルハ自分ノ深ク徳トシ居ル処ニシテ将来ニ於テモ切ニ此ノ態度ヲ以テ根本問題ノ討議ヲ進メン事ヲ期待シ居レルニ当リ日本政府カ小問題ヲ以テ根本問題ノ進捗ヲ中止セラレントスルハ甚タ遺憾ナリ就テハ我レノ政府ヨリ負ヘル信頼ニ基キ兎ニ角根本問題ニ付如何ナル程度迄接近シ得ヘキヤヲ継続論議シ度シ実ハ莫斯科政府ヨリモ自分ニ対シ幾多ノ小問題ニ付日本側ニ申入ルル様言ヒ越セルモ自分ヨリハ成ルヘク之ヲ言フ事ヲ避ケ以テ根本問題ニ障碍ヲ与ヘサラン事ヲ期シ僅々「ポチャギン」関係ノ金及「ベッサラビヤ」問題ニ付申入レタルニ過キス尤モ将来ニ於テモ事ノ大小ニ拘ハラス貴公使自身ヨリ申入レラルル場合ニハ必ス之ヲ莫斯科ニ取次クヘキ事勿論ニ付此点ノ誤解無カラン事ヲ望ム旨ヲ述ヘタルカ本使ハ露国側ヨリ申入レノ諸問題ハ其ノ都度早速帝国政府ニ伝達シテ其ノ考慮ヲ求メ居レリ然ルニ拘禁問題ニ付テハ去ル十九日ノ会見ニ於テ之カ解決ヲ見スハ自然交渉問題ニモ影響スヘキヲ虞ルルカ故ニ速ニ其ノ解決ヲ見ン事ヲ求メタルニ対シ「カ」ニ於テモ我方事情ヲ了解シ去ル二十日ノ会見ニ於テハ拘禁者釈放ニ付最善ノ努力ヲ為スヘキ旨ヲ言明セリ従テ本使ハ勿論帝国政府ニ於テモ深ク其ノ言明ニ期待シ居ルモノニシテ本使ハ爰ニ重ネテ残部拘禁者ノ釈放ヲ要求スルト共ニ少クトモ軍人二名ニ付テハ急速釈放方取計ラハレ度ク殊ニ帝国政府ハ軍人ニ付テハ保障ヲ与ヘ差支ナシト謂ヒ居ルニ拘ハラス今日迄何等ノ措置ヲ講セラルルニ至ラサルニ顧ミル時ハ交渉問題ノ将来ニ対シテモ疑惑ヲ招クニ至ルコト当然ナルヘシ抑拘禁事件ニ付テハ莫斯科ヨリ毫モ回答ナキ次第ナリヤト推問セルニ「カ」ハ日本政府ノ保障トハ被釈放者ノ逃走スルコトナク裁判ニモ出頭スル趣旨ナリヤ又保障ノ形式如何ト尋ネタルニ付保障ニ付テハ嘗テ述ヘタル通リ要スルニ露国側ノ懸念スルナキ様保障スルノ趣旨ニ外ナラス又形式ノ点ニ付テハ露国側ニ於テ如何ナル形式ヲ必要トスルヤト反問セルニ「カ」ハ其点ハ兎ニ角莫斯科ニ照会スヘシト答ヘ貴公使ハ拘禁問題解決ヲ見スハ交渉問題ノ前途モ危フマルト考ヘラルル趣ナル処露国側トシテハ日本カ拘禁問題ノ解決ヲ急ク程根本問題ニ対スル真意ヲ疑フヘシト述ヘ本使ハ既ニ我方ヨリ交渉ニ関スル条件ヲ示シ居ルニ拘ハラス我方ノ真意如何ヲ疑フ如クンハ本使トシテハ益々悲観ニ傾カサルヲ得ス要スルニ少クトモ軍人二名ノ釈放ヲ見サル今日交渉問題ノ歩ヲ進ムルハ本使ノ有スル訓令ノ範囲内ニ於テハ不可能ノコトニシテ本使トシテ何等ノ装飾掛引ナク訓令ヲ執行セハ右以上ニ出ツル能ハサル立場ニアリ然モ本使トシテハ訓令ノ範囲内ニ於テ出来得ル限リ妥協的ニ会談ヲ為シ来レルモノニシテ今日ニ於テハ乍遺憾之以上ニ談合ヲ進ムルコト能ハサル旨ヲ告ケタルニ「カラハン」ハ一々御尤ナルモ過般来ノ会談ノ経過ト今日ノ御話トヲ其儘莫斯科ニ伝達セハ自分トシテ貴公使ト同一ノ立場ニ陥ルヘキヲ恐ル就テハ根本問題ニ付テハ折角話ヲ始メタルモノ故個人的ニ意見ノ交換ヲ為スコトニ同意セラレ間敷ヤト懇談スル所アリ本使カ前回会見ノ補足丈ナラハ今日之ヲ為シ置クモ妨ナシ但シ今後軍人二名ノ釈放ヲ見サル限リ将来再ヒ交渉問題ノ為

会見スルコトハ或ハ永久ニ之ヲ為シ得サルヤモ計リ難ク其点ハ篤ト御承知置キアリタシト述ヘタルニ「カ」ハ何分外ニ方法モナキコト故一切ノ問題並其経過ヲ莫斯科ニ報告シテ其ノ考慮ヲ俟ツコトトスヘキ処都合良キ回答ニハ接セサルヘシト殆ント独言ノ如ク答ヘタリ依テ本使ヨリ前回会見ノ補足トシテハ我方ノ最重要視スル尼港事件ニ対シ文書ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表スルコト並北樺太ノ利権提供ハ困難ナル旨「カ」氏先日ノ話ナリシ処客月二十四日会見ノ際ニハ尼港事件ノ解決ハ困難ナラサルヘシトノコトナリシニ拘ハラス一ケ月後ノ今日ニ於テハ本件ノ解決ヲ困難ナリトシ俄ニ其態度ヲ変セラレタル処若シ真ニ日露交渉ノ成立ヲ希望セラルルモノナラハ曩ニ言明ノ通率直ニ困難ナク本件ヲ解決シ然ルヘシト思考スト述ヘ債権問題ニ付テモ我方トシテハ露国側同様我方従来ノ態度ヲ変更スルヲ得ス即チ客年ノ東京会議ノ際ニ於ケル帝国代表ノ主張ハ一国ノ負担スル債務ハ其政体ノ変更ニ依リテ之ヲ免ルルヲ得スト謂フニ存シ此ノ原則ハ国際間ノ先例ニ顧ミ議論ナキ所ニシテ露国側ノ断定ハ国際間ニ通用セス英伊ノ如キモ国際債務ノ免除ヲ宣言シテ承認セルモノニ非ス依テ我方トシテハ露国負担ノ債務

額ヲ償還スルコト困難ナルニ於テハ北樺太及東部西伯利ノ長期利権ヲ無償ニテ譲与スヘシト謂フニ止マリ道理ナキ要求ヲ為セルモノニ非ス且又露国側ハ客年ノ東京会議ニ於テ尼港問題ノ解決ヲ為スニ当リ東部西伯利ニ於ケル利権ノ譲渡ニ異議ナキ旨ヲ言明シ居レリ故ニ今日我方ニ於テハ単ニ之ヲ債権問題ニ委シテ要求セルニ止リ容易ニ露国側ノ承諾ヲ期待シタル処之ヲ拒絶セントスル今日ノ態度ハ我方ノ諒解シ得サル所ナル旨先例ヲ挙ケ適宜説明ヲ加ヘタル処「カラハン」ハ尼港問題ニ付テハ貴公使ノ謂ハルル通ナルモ莫斯科今日ノ考ハ之ヲ承知セス又債権問題ニ関シテハ露国側ノ主張モアルコトニ付是等議論ハ之ヲ避ケ自分ノ有スル実際的解決案ニ付一応述ヘタシ

実ハ日本側今回ノ提案ヲ見ルニ債権ニ関シテハ列国トノ関係ニ顧ミ云々ノ字句アルニ鑑ミ今直ニ之ヲ決定スルコトナク他列国ト同様ノ解決ニ俟ツコトトシテハ如何露国トシテハ必スシモ旧債務ヲ払ハストハ主張セス英国トノ間ニモ種種議論ノ末結局後日ノ商議ニ譲ルコトトナレリ就テハ今回政府ニ対シ日本側提案報告上率直ニ意見ヲ纏メテ伝達シ度キ考ニ付成ルヘク具体的ニ貴見ヲ承知シ度キ次第ナリ今試

ミニ我方文案ヲ示サンニ「債権及相互請求ニ関スル問題ハ国家ノモノタルト個人ノモノタルトヲ問ハス両当事国ニ於テ之ヲ商議スヘキコトヲ承諾ス而シテ之等ノ問題ハ総テ対等ノ条件ニ於テ如何ナル第三国ニ比シテモ不利益ナル条件ニ置カルルコトナカルヘシ」ト云フカ如シ右ハ英国トノ取極ノ形式ニ倣ヘルモノナリ即チ両当事国カ平等ニ相互的ニ認ムルコトトシ且第三国ニ比シ不利ナル取極ヲ為ササル趣旨ニシテ私有財産ニ関シテモ此ノ形式ヲ以テ取極メタキ考ナリ露国側トシテハ日本ニ対シテ要求スヘキモノ殆ト無カルヘキモ例ヘハ「ポチャギン」関係ノ金ノ如キ之ナリト説明シ本使ヨリ露国側ノ日本ニ対シ要求スヘキ債権トシテ如何ナルモノアルヤハ承知セサルモ少クモ昨年ノ東京会議当時迄ニハ斯ル問題アリシヲ聞カス今回露国側債権ナルモノヲ取極中ニ加フルコトトセハ問題ハ更ニ紛糾スヘシト思考スト注意セルニ「カ」ハ表面上ノ話トシテハ債権問題ヲ相互的ト為スコトハ今回初メテナルモ日本側ノ具体案ニ顧ミ自分ヨリモ具体的ニ本問題ヲ提起セル次第ニシテ露国側トシテハ差向キ「ポチャギン」ノ外一寸思ヒ付キナキモ日本側ニハ日本人ノモノニシテ露国官憲ニ徴発セラレタルモノ

モアルヘク依テ請求ナル文句モ挿入シタリ英国トハ右形式ヲ以テシ又英国ヨリモ先ニ承認セントセシ伊太利トノ取極モ同様ナリトテ其第二条ヲ示シ伊太利トハ条約ノ形式故其ノ書方混ミ入リ居ルモ日本トノ間ニハ「ノート」若クハ「アグリーメント」トセハ更ニ簡単ト為シ得ヘシト種々熱心ニ説明スル所アリタルカ本使ヨリ債権問題ニ関シ英伊ノ例ニ倣ハントノ趣旨ハ了解セリ但シ之ハ新タナル提言ニシテ又今日ノ会見ハ最後トナルヤモ計リ難キニ付単ニ「カ」一個ノ提言トシテ聞キ置クニ止ムヘシ尤モ今後再ヒ会見スルコトトモナラハ此点ニ付テモ討議シ差支ナキ所ナルモ此際右対案ニ付キ意見ヲ述フルハ不適当ト思考スル旨ヲ答ヘタルニ「カ」ハ今日会見ノ次第ハ詳細莫斯科ニ報告スヘシ只為念二、三ノ点ヲ明カニ承知シ置キタシトテ

(一)　日本政府ハ少クモ二名ノ軍人ノ釈放セラレサル限リ本交渉ヲ進ムルコト不可能ナリト認ムルモノナリヤ

(二)　同政府ノ考ニテハ交渉取極ハ「アグリーメント」ノ形トスルヤ若クハ「ノート」ノ交換トナスヤ

(三)　「ポーツマス」条約ト漁業協約トハ同一ノモノトスルヤ将又別箇ノモノト考フルヤ

ヲ諮問シ本使ヨリ㈠ハ其ノ通リ　㈡従来貴方ニテ「ノート」ナル言葉ニテ話アリ為メニ本使ニ於テモ其儘「ノート」ナル言葉ヲ以テ応酬シタル次第ナルモ広ク謂ヘハ条約若クハ協約ノ取極ノ意味ニテ其ノ形式トシテハ我方ニテハ之ヲ協約トシタキ考ナリ　㈢「ポーツマス」条約ハ一九〇五年ニ締約セラレ其第十一条ニ基キ一九〇七年漁業協約成立シタルモノナルカ故ニ両者ハ不可分ノモノト思考スル旨答ヘタルニ「カ」ハ形式ノ問題ニ付テハ莫斯科ニ於テモ反対ナルヘシ只「ポ」条約ヲ認ムトセハ漁業協約ハ自動的ニ効力ヲ生スル次第ナリヤト反問シ本使ヨリ法律的ニ謂ヘハ其通リナリ露国側ニ於テハ主義上旧条約ヲ認メスト主張スルモノナルカ故ニ我方トシテハ少クトモ「ポーツマス」条約ハ其効力ヲ認ムルヲ要スト為シ従テ基本協約成立スル時ハ他ノ旧条約等ニ付テモ改訂商議行ハルヘク其際ニハ漁業協約ニ付テモ商議スルコトトスルモ右協約ハ其効力ヲ維持シテ商議セラルヘキモノナリト答ヘ「カ」ハ然ラハ旧条約ノ効力発生迄漁業協約ハ其効力ヲ有ストノ保留的追加ヲ為スコトトナルヘシ利権問題ニ付テモ略々同様ニ取計フヘキカ如シ即チ北樺太其他ノ利権ヲ譲与スヘシ但追テ政府代表者若クハ民間当事者トノ間ニ細目ノ協議ヲ為スコトトスヘシト云フカ如シ尤モ右ハ尼港事件トハ関係ナキ一般利権ニ就キテ云フモノニシテ又第三国ヨリ不利ナル取扱ヲセストノ条項ヲ加フルモ可ナルヘシト立テ続ケニ説明ヲ加ヘ本使ヨリ一般的利権ノコトナラハ兎ニ角尼港事件ニ関スル利権ニ付テハ多少具体的ニ且明白ニ条約中ニ規定ヲ掲ケ置クコト必要ト思考シ居レル旨ヲ告ケ兎ニ角今後ノ会見ニ付テハ拘禁事件ニ関スル莫斯科ヨリノ回答ヲ俟ツコトトスヘシト述ヘ時刻モ已ニ移リタルヲ以テ席ヲ立チタルカ為念予テ本使ヨリ「カ」ニ提示シ置キタル我方条件ニ関シテハ仮令今回ノ会見カ最終トナル場合ニ於テモ之ヲ秘密ニ付シ置キタキ所存ニ付此点ニ対シテハ「カラハン」氏ニ於テモ紳士的態度ヲ以テ同意セラルヘキコトト信スル旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ確カ記憶ノ旨ヲ答ヘ只日本新聞紙等ノ記事ニ顧ミ自分トシテハ一応事態ノ説明ヲ為ス必要ヲ認メ居レル次第ニ付明白ニモ何等「ステートメント」ヲ出シタキ考ナリ但シ貴公使ノ迷惑トナルカ如キコトハ決シテセサルヘシト意味有リ気ニ述ヘタルカ本使ヨリ日本新聞ノ記ス所ハ政府ノ発表ニ基クモノニアラスシテ日露問題ニ就キ興味ヲ有スルノ余リ種々

ノ想像ヲ描キテ掲載スルニ過キサルカ故ニ深ク意ニ介スルノ必要ナカルヘシト受ケ流シタルニ「カ」ハ更ニ今日ノ日本側ノ話ハ全ク露国ニ対スル最後通牒ニ外ナラストテ種々愚痴ヲ述ヘタル上折角今日迄進メル話ヲ此儘トスルハ如何ニモ残念ニ付今日ノ最後通牒ハ一両日ナリトモ之ヲ猶予スルコトトシ其間貴公使ヨリ日本政府ニ対シ斯ノ如キ申渡シハ之ヲ撤回スル様禀請シ呉レ間敷キヤト述ヘタルカ本使ハ元来今日ノコトハ我方ヨリ突然最後通牒トシテ申出テタルモノニアラスシテ従来数次ノ会見ニ於テ互ニ諒解セル所ニ基キ露国側ノ反省ヲ促スモノニ過キサルカ故ニ寧ロ露国側ニ於テ諒解通リ速ニ釈放ヲ実行セハ問題ナキ次第ナル旨答ヘタルカ尚「カ」ハ日本側ノ態度ニシテ右ノ如クナルニ於テハ露国側トシテ北樺太ヨリノ撤兵条件ヲ提言スルヤモ知レス等種々辞ヲ設ケテ本使ヲ引キ止メタル為已ムヲ得ス再ヒ席ニ着キタル上抑々拘禁事件ニ付テハ交渉開始当初ノ会見ニ於テ速ニ其解決ヲ期待シ得ヘキヲ条件トセリ当時「カ」ノ記憶セル通リナル言葉ニモ拘ハラス斯ノ如ク便々トシテ時日ヲ遷延シテ顧ミサルハ日本トシテ到底忍フヘカラサル所ニシテ我方今日ノ主張ハ毫モ理不尽ニアラスト説キタルモ「カ」ハ拘禁事件ハ交渉問題トハ別個ノ問題トスル筈ナリト謂ヒ更ニ本使ヨリ今日ト雖必スシモ交渉問題ト関連セシムル趣旨ニアラス従テ拘禁事件ハ全然交渉問題トハ別ニ考フルコトトシ露国側ノ真意ハ果シテ拘禁者ヲ釈放スル積リナリヤ否ヤト推問セルニ「カ」ハ本件ハ交渉問題ト関係ナキ形ニテ解決スル積リナリ例ヘハ交渉成立ノ二三日前ニ至ラハ釈放スルモ可ナリト考ヘ居レリ就テハ先刻申述ヘタル債権問題ノ対案ニ対スル貴見如何ト述ヘ本使ヨリ此点ハ何レ考ヘ見ルヘシ唯拘禁事件ハ去ル二十日ニ至リ速ニ釈放方努力スル迄ノ約束ヲ見、依テ其諒解ノ下ニ交渉ニ関スル談話ヲ進メタルニ拘ハラス一方ノ約束ハ其儘トシ他方交渉談ヲ進ムルハ極メテ不合理ニシテ本使トシテハ一ニ露国極東全権ノ言明ニ信頼シテ其旨政府ニモ報告シタルモノナルヲ以テ今日ニ及ヒ此信頼ヲ裏切ラルルハ本使ヲシテ頗ル困難ナル立場ニ陥ラシムルモノナリト述ヘ重ネテ先方ノ反省ヲ促シタルカ「カ」ハ当時自分ハ釈放ハ之ヲ約束スルコト能ハスト謂ヒ依テ結局最善ノ努力ヲ為スコトトナリタル次第ニシテ日本政府トシテモ自分カ貴公使ヲ欺瞞スルモノトハ考ヘサルヘク従テ本件解決ノ遅延ヲ以テ左程重大事ト為

スニ及ハサルヘシ自分ハ松井大臣ノ日露交渉ニ関スル最近ノ声明ノ如キモ左程気ニ掛ケサリシモ今日日本政府ノ意向ハ依然拘禁事件ト承認問題トヲ関連セシメントスルモノナルヲ知リ弁明ノ必要ヲ認ムルカ故ニ明日之カ反駁意見ヲ発表スル考ナリト述ヘタルカ本使ハ「ステートメント」ノ発表ハ御随意ナルモ本使ノ諒解シ居ル限リ日本側トシテハ露国側ヨリ反駁セラル可キ筋合モナク我方ハ貴下ノ言明ニ信頼シテ交渉ヲ初メ条件ヲモ提示セルモノナルニ拘ハラス其言明ヲ顧ミスシテ交渉問題ヲ進ムル能ハサル我方ノ立場ヲ難セントスルハ事物ノ順序ヲ弁ヘサルモノト思考ス何人モ約束ハ其儘之ヲ期待スルコト当然ニシテ日本側ノ態度ニ付不審ヲ抱クヘキ節毫モ無之キ筈ナリト貴方ノ弁明ハ之ヲ妨ケサルモ結局益事態ヲ紛糾セシムルニ過キサル可シト述ヘタルニ「カ」ハ自分トシテハ日本側ノ立場ハ御説明ニ依リ釈明セラレタルノ感アリ就テハ最後通牒ノ如クニ響クヘキ今日ノ申出ヲ莫斯科ニ伝達シテ徒ラニ其ノ誤解ヲ招クヲ避クル為メ兎ニ角今日ノ事ハ一両日中之カ報告ヲ見合ハス事トシ其間何等緩和策ヲ講スルコトト為シ得サル可キヤ自分トシテハ仮令釈放ニ関スル約束ヲ為セルニセヨ重キ義務ヲ負担スルノ考ヘニテ約セルニ非ス而モ僅カ八日ヲ経過セルニ過キサル今日日本政府ヨリ斯カル強キ申出アルハ別ニ何等カノ意味アルカ如ク感セサルヲ得ストノ意味ヲ縷々繰リ返セルカ本使ハ「カ」ニ於テ諒解シ得サル点ハ飽ク迄釈明ノ労ヲ惜マサル可シトテ重テ交渉開始ノ前提条件並ニ釈放ニ関スル約言ノ事実ヲ指摘シテ反覆説明セルニ「カ」ハ然ラハ改メテ右拘禁者ノ釈放ニ関スル我方前提条件ヲ撤回スル様日本政府ニ稟請シ得サル可キヤト言ヒ出セリ

本使ハ斯ノ如キ提言ニ答ヘルノ無益ナルヲ感シ改メテ約束ノ通リ速ニ釈放シ得サル難点ノ那辺ニアルヤヲ訊シタルニ「カ」ハ要スルニ拘禁理由ハ間諜行為タルニアルコト、「カ」トシテハ約束通リ釈放実行方ヲ至急ニ稟請セルコト、而シテ釈放ノ要求ニ対シ其ノ儘聴従シ得サル国威問題ニ関スル点等ヲ説明ノ上国交樹立ノ事トナラハ其ノ瞬間ニ釈放スヘキハ政府ノ名ニ於テ今ヨリ保障シ得ヘシト述ヘタルカ本使ハ斯ノ如クンハ基本協定ニ関スル主要条件ニ付談合纏マラストセハ国交樹立ノ日復予測シ難ク拘禁者釈放ノ期モ亦予測シ難キニ非スヤト述ヘ其ノ儘会談ヲ終レリ

三二二　四月一日　在中国芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

浦潮拘禁問題ヲ理由ニカラハントノ非公式会談ヲ中絶スルコトヲ不適当トスル旨ノ意見具申ノ件

第二二八号　（四月二日接受）

浦潮拘禁問題ニ関シテハ貴電第一一五号末段ヲ以テ御訓令ノ次第有之国交回復問題ニ関シ此際我方ヨリ会談スルコトカ拘禁問題ノ解決ヲ長引カシムルノ虞アルニ於テハ暫ク之ヲ差控フヘキ旨ノ御訓示ナリシカ故当時我方ノ要求ニ基キ既ニ一部ノ日本人及領事館員ノ解放ヲ見タルノミナラス「カラハン」ニ於テモ釈放方ニ就キ最善ノ努力ヲ為スヘキ旨ヲ承諾シタルニ顧ミ此上ハ一般問題ノ意見交換ト併行シテ交渉スルコトトシ往電第一九四号ノ如ク措置シタル次第ナルモ其後軍人ハ勿論他ノ日本人ノ釈放モ容易ニ実行セス且数次御電訓ノ次第モアリタルニ付其都度或ハ島田領事ヲ派シ或ハ本使自ラ「カラハン」ニ面会ノ機会ニ於テ特ニ此点ヲ力説シ殊ニ二十九日ノ会見ニ於テハ四時間半ノ会見ノ中其ノ大部分ニ亘リ殆ト此問題ニ就テ論議ヲ重ネタル次第ナルハ往電第二二六号ニテ御承知ノ如キ次第ニテ終ニ好結果ヲ見ルニ至ラス寧ロ基本協定成立迄之ヲ抑留セムトスル先方ノ底意アルコト明トナリタル次第ナリ依テ「カラハン」ニ対シテハ或ハ之ヲ以テ本使「カラハン」会見ノ最後トスルヤモ知レサル旨ヲ予告シ置キタル次第ナルカ右会見後ニ接到シタル貴電第一七二号ノ御訓示ニ拠レハ此儘会商ヲ打切ルヨリ他ナキコトト相成ル次第ナリ

乍去露国内ノ秩序ハ漸次回復シ莫斯科政府ノ国外国内ニ対スル地位亦日ヲ追テ鞏固トナリ英伊ニ次テ他ノ欧州諸国モ亦相次テ承認スルヤモ測リ難キ此際日露ノ交渉ヲ一日遅延セシムレハ夫レ丈ケ我方ノ立場ヲ不利ナラシムルコト明ニシテ之ヲ事実ニ徴スルモ東京会議カ大連及長春ノ両会議ニ比シテ我ニ不利ナリシカ如ク今回ノ北京会議ハ東京会議ニ比シ形勢幾段ト我ニ不利ナルハ争フヘカラス日露ノ国交ハ早晩之ヲ回復セシムルヲ要スヘキモノトスレハ其ノ時機早キ程我方ニ利益アルコト上述ノ如クナルヲ以テ我方トシテハ従来ノ行懸若クハ感情問題等ニ捉ハルルコトナク大局ヨリ打算シ実利ヲ主トスルノ見地ヨリ此際断乎タル英断ニ出ツルコト極メテ必要（脱）拘禁問題ニ関スル本使「カラハ

ン」間ノ折衝ハ不幸前述ノ如キ「デッドロック」ニ陥リヲルモ国交回復ノ一般問題ニ付テハ未タ必スシモ不然、勿論両者ノ間ノ意見ノ相違ハ現在ニ於テハ頗ル大ナル距離ヲ存スルモ本使トシテハ数段ノ主張中最強硬ナル主張ニ基キテ論陣ヲ張リ居ル如ク「カラハン」ノ今日ノ主張スル処ハ素ヨリ莫斯科政府終局ノ譲歩点ニアラサルハ想像ニ難カラス本使素ヨリ一般問題商議ノ前途ヲ今ニ於テ楽観セントスルモノニアラサルハ勿論寧ロ今日迄ノ「カラハン」ノ態度中ニ於テハ例ヘハ尼港問題ニ関スル其主張等楽観ヲ許ササルモノアルヲ看取シ居ル位ナルモ而カモ大体ヨリ之ヲ見レハ其ノ意見交換ヲ中止スヘキ程度ニ立至リ居ルモノトハ信セス

果シテ然リトスレハ今日本使「カラハン」間ノ商議ヲ中止スルコトハ拘禁問題ニ付先方カ我方ノ要求ニ応セサルヲ唯一ノ理由トスルモノナル処元来拘禁問題モ見様ニ依リテハ日本ノ体面問題タルコト勿論ナルモ之ヲ法律上ヨリ論スレハ或ル種ノ嫌疑ノ為メニ一国ノ法律ニ依リテ拘禁シ之ヲ処断セントスルモノヲ外交上ノ手段ニ依リテ釈放ヲ強ヒントスルハ其理由ニ乏シキ而已ナラス已ニ其一部ハ我方ノ要求ニ依リテ釈放セラレタル今日前述ノ如キ状況ニ在ル国交問題ノ開談ヲ犠牲ニ供シテ迄拘禁問題ヲ固執スルコトハ大ニ考慮ヲ要スル次第ナリト信ス

上述ノ次第ナルヲ以テ本使ハ将来若シ「カラハン」側ヨリ会見ヲ求メ来ルカ如キ場合ニ於テハ必スシモ之ヲ拒絶セス其機会ニ於テ従来通リ拘禁者ノ釈放ヲ要求スルト同時ニ引続キ一般問題ニ関シ意見ヲ交換スルコトト致シタキ所存ナルニ付国家大局ノ利害ニ就キ御考慮ノ上成ルヘク速ニ何分ノ儀御回訓相成ル様致シタシ

尚御訓令接到前先方ヨリ会見方申込ミ来ルカ如キコトアラハ然ルヘキ口実ノ下ニ之ヲ延ハシ置クヘキニ付右様御含ミ置キアリタシ

三二三　四月二日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

浦潮拘禁問題ヲ分離シテカラハントノ非公式会談継続方差支ナキ旨回訓ノ件

第一八四号

貴電第二二八号ニ関シ拘禁問題ニ付テハ一般問題ニ先チ速ニ之ヲ解決セシムルヲ要スルハ累次電報ヲ以テ申進シタルキハ内閣ノ一部改造ヲ目的トスルモノト伝ヘラレ従テ仮ニ支那側ニ於テ王正廷「カラハン」間ノ協約案ニ幾分ノ修正ヲ施スコトニ成功シテ結局調印スルコトトスルモ尚多少ノ曲折ヲ経タル上ノコトナルヘク何レノ途停頓ノ時期ハ短カカラサルモノト観測セラレサルニアラス従テ「カラハン」若ハ莫斯科政府ノ心理状態ヨリ想像スルモ我ニ於テ此期間ヲ利用シテ交渉ヲ進ムルコトハ最得策ナルヘシ況ンヤ莫斯科政府ハ東洋ノ事情ニハ比較的暗ラシト想像セラルル節ナキニアラサルノミナラス最近英伊諸国ノ承認アリテ鼻息頗ル荒ク現ニ貴電第一三二号「リトビノフ」ノ如キモ今露国ヲ承認セサル国トハ何等ノ交渉ヲ為サスト述ヘ居ルモノノ如ク殊ニ「カラハン」ノ島田ニ語レルカ如ク英伊其ノ他ノ承認ニ伴ヒ同方面ニ於テ債権問題条約問題等ニ付込ミ入リタル交渉ヲ為スヲ要スル際「カラハン」ノ如キ「ソビエト」露西亜中相当外交方面ニ経験アル者ノ長ク東洋方面ニ滞留スルコトヲ許ササルカ如キ事情存スルヤモ知レサルヲ以テ日露及露支ノ交渉停頓ノ場合ニハ「カラハン」ノ意向（往電第二二八号末段「カラハン」トノ問答ニ依リ御承知相成リタル通リ同人ハ露支交渉ノ頓挫ノ今日日露交渉迄モ

通リ勿論ノ儀ナルカ当方ニ於テモ貴見ノ通リ日露間一般問題ニ関スル意見交換カ折角其ノ端緒ヲ開キタル ノミニテ「メリット」ニ到達セサル以前ニ断絶スルコトハ甚タ遺憾トスル次第ナルニヨリ貴電末段貴見ノ通リ露国側ヨリ会見ヲ申込ミ来ルカ如キ場合ニハ之ニ応セラレ一般問題ニ付テモ意見ヲ交換セラルルコト差支ナシ但シ右ノ場合ニ於テハ政府ノ訓令ヲ仰キ交渉ヲ継続スルコトトナリタルカ如キ印象ヲ先方ニ与フルコトハ之ヲ避クル様致サレタシ

三二四　四月二日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

中ソ交渉停頓ノ現状ヲ考慮シテ北京会談ヲ促進スルヲ得策トスル旨意見具申ノ件

第二三六号　極秘　（四月三日接受）

往電第二三二号ニ関シ

露支交渉ノ停頓ハ御承知ノ如キ王正廷ノ手続上ノ手落ヲ理由トシテ王克敏顧維鈞等カ夫々之ヲ自己ノ目的ニ利用セントシタルニ端ヲ発シ居ルモ最近ニ至リテハ更ニ種々込ミ入リタル内政上ノ紛糾ヲ生シ来リ殊ニ呉佩孚カ今日迄八回ノ電報ヲ政府ニ寄セテ本件即時解決ヲ強硬ニ主張シ居ルカ如

之ヲ断絶セシムルハ甚タ遺憾ナリトスルモノノ如シ）如何ニ拘ハラス一時交渉ノ打切リ若ハ同人ノ引揚ヲ命シ来ルカ如キコトナキヲ保シ難キニ付一般問題ニ関スル交渉ヲ遷延セシムルコトハ当分機会ヲ逸スルノ虞ナキニアラスト思考セラレ尤モ一般問題ノ交渉ヲ打切ル為拘禁問題ノ解決ヲ容易ナラシムルニ於テハ一考ノ価値ナキニアラサルモ浦潮領事館ノ如キモ引揚ケ居ラス通信員郵便物ノ交換、浦潮敦賀間汽船ノ航行等我ニ於テ国交恢復ヲ期待シ少クトモ事実上ノ関係維持ヲ希望シ居レリト見做サルル材料相当存在シ併モ国内ノ民論モ亦大体承認ニ傾キ居ルモノトモ認メラレ得ルカ如キ今日一般交渉ヲ打切ルトモ単ニ夫レ丈ケニテハ拘禁問題ノ解決ニ何等資スル所ナカルヘキハ明白ナリ去レハ迚今更懲膺的出兵モ出来サルヘク此際トシテハ往電第二二八号稟申ノ如ク拘禁問題ニノミ膠著スルコトナク一般問題ト併行シテ之カ解決ヲ期スルノ方針ニ出ツルコト最策ノ得タルモノナリト信ス（本使ノ意見ハ一般問題ノ交渉ヲ継続スルコトトスルモ拘禁問題ヲ犠牲ニ供セントスルニアラス一般問題ト併行シテ解決ニ努力シタキ精神ナルコト勿論ナリ）尚東支鉄道ニ関シ何等カ当方ノ利益ノ為取極置クヘキ使ハ態ト立入リタル質問ヲ避ケ程良ク話頭ヲ転シタルカ其ノ際同大使ノ話ニ森孝三モ当時莫斯科ニ在リ「チチェリン」ト会見ヲ重ネ居レリ三月十七日頃ニハ伯林ニ来ル筈ナリトノコトナリシ故大野参事官ニ対シ森来訪ノ場合ノ応接方ニ付適当ノ注意ヲ与ヘタル上旅行ニ出発シタルコトナルカ森ハ本使不在中当地来着尚当分滞在ノ模様ナル処同人ノ露国訪問ニ付テハ何レカノ筋ヨリ何等政府当局ニ話ニテモアリタルコトナリヤ夫レトモ政府トハ全然没交渉ノ儀ナリヤ過日ノ次第モアルニ付本使心得迄御内示相仰キタシ即チ

(一)　「ゾルフ」ノ口吻ニ徴スルニ同大使ハ「ヨッフェ」ノ来朝当時ノ日露交渉経緯ニ付テハ後藤子側ヨリ随分消息ヲ承知シ居レルモノノ如ク自信シ居ルニ似タリ

(二)　森孝三ハ夙ニ独逸側ニ於テ日本人中独逸ノ利害ノ為ニ利用シ得ル人物トシテ特記シ一九一七年独逸参謀本部カ極東ニ派遣セント企テタル探（脱）ニ対スル訓令中ニモ特ニ同人ノ名ヲ掲ケアリタルコト（本件ハ本使英国在勤中ノ事実ニシテ珍田伯モ承知ノ筈）

(三)　如上ノ次第ニ付「チチェリン」森ノ莫斯科会談ニ就テハ「ゾルフ」ハ決シテ門外漢ニハアラサルコト仮ニ然ラ

コトアリトスレハ同鉄道ニ関シ露支間ノ談合纏マラサル際ニ於テ最適当トスヘク蓋シ若シ支那カ同鉄道ニ対シ実権ヲ有スルニ至リタル後ハ利権回収ノ観念ト日本ニ対スル一種ノ反感トノ為ニ何事モ円滑ニ進行セサルヘキニ反シ莫斯科政府ナレハ話ノ仕様如何ニ依リテハ日本ニ譲歩スルカ如キコトナキヲ保セス露支交渉順調ニ進行シ居リタランニハ莫斯科トシテモ本鉄道ニ関シ日本ト開談スルコト困難ナリシナランモ今日両国ノ交渉ニシテ若シ幸ニ当分継続スル場合ニハ我ニ於テ乗スヘキ機会ナリト信ス

往電第二三二号補遺旁電稟ス

三二五　四月二日　在独国本多大使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

ゾルフ独大使ノ日ソ関係及ビ森孝三ノ動静等ニ関スル観測報告ノ件

第七〇号　極秘　（四月三日接受）

先般本使旅行出発前「ゾルフ」大使挨拶ノ為来訪ノ折莫斯科ニテ「チチェリン」ト数次会合シタル旨ヲ自ラ進ンテ語リ出テ其ノ印象トシテ英伊ノ承認以来露国ノ態度甚タ強硬ニ付今後ノ日露交渉ハ大分困難ナル可キ旨ヲ述ヘタルモ本ストスルモ同人来伯ノ上ハ独逸側ニ於テ必ス同人ニ接触操縦ヲ試ムヘキコト

(四)　独逸カ機ヲ見テ日露間ニ何等仲介ノ労ヲ執ラムトスル野心アルコトハ「ゼノア」会議中ニモ一度我ヲ致サムトシタル「エピソード」ニ依リテ察シ得ルトコロニシテ殊ニ大野発往電第六三号ノ談片ニ見ルモ「ゾルフ」大使モ案外外交知識ヲ欠如セル人物ニテ帝国ノ内外政治上ニ関シテハ大分脱線的ノ観測ヲ有スルモノト認メラルルヲ以テ此際森ヲ煽テ何等政治的「アドベンチュア」ヲ試ミルカ如キコト必スシモ絶無ヲ保セス少クトモ本使ハ右様ノ可能性アリト一応仮定シ慎重ニ同人等ノ行動ヲ監視スルコト必要ト存シ居ル次第ナリ

英仏ヘ暗送セリ

三二六　四月五日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

浦潮拘禁問題トハ別箇ニ日ソ交渉展開ノ必要ヲ説クカラハンノ意向報告ノ件

第二四六号　極秘　（四月六日接受）

貴電第一八八号ノ次第四月五日島田ヲシテ「カ」ニ伝ヘシ

メタルニ「カ」ハ是レヲ感謝スルト共ニ本件金ハ露国々庫ノモノナルヲ以テ追テ承認セラレタル露国政府ノ出来ル迄何人ニモ交付セラレサル様日本政府ニ於テ措置セラレンコトヲ希望スル旨重ネテ申出テタリ尋テ「カラハン」ハ丁度好キ時ニ来ラレタリトテ最近ノ「ジャパン・タイムス」即チ日本政府ノ機関紙ニ自分ト芳沢公使トノ会見ニ付種々記述シ拘禁事件解決セサレハ一般交渉ヲ行ハストノ松井外相ノ声明ニ関スル記事モアリタリトテ日本側ハ進ンテ秘密主義ヲ犯シツツアルニ非スヤ自分ハ三月二十九日会見ノ際ニモ「ステートメント」ヲ出サンカト考ヘ居ル旨語リタルモ其後熟考スルニ右ハ徒ニ事態ヲ紛糾セシメ大局上面白カラスト認メ今日迄一言モ発セサリシ処日本カ此始末ニテハ自分モ「ロスタ」又ハ他ノ機関ヲ経テ「芳沢公使ハ拘禁者少クトモ二軍人釈放セラレサル間ハ一般交渉ヲ進ムル能ハサル旨自分ニ声明セラレタル由」発表セサルヲ得スト云ヘルニ付島田ハ「ジャパン・タイムス」ノ記事ハ是レヲ見サルモ第一同紙ハ「ロスタ」ノ如キ政府機関ト云フニ非ス第二日本政府員其他ノ声明ニ非サルモノニ対シ貴下カ公式ニ答弁的声明ヲ為サルルハ考ヘモノナリト思考スト云ヘルニ然ラハ婉曲ナル書方ニ改ムルカ兎モ角一考スヘシ実ハ拘禁問題ハ当初日本側カ別個ノ問題トシテ取扱ヒシトキハ余ヨリモ莫斯科ニ取次キ至急釈放方禀請セシモ日本側カ本交渉ト是レヲ連結セシムルニ至リテヨリ右禀請ヲ取消シ単ニ日本側ヨリ拘禁者少クトモ二軍人ノ釈放ヲ見サル間ハ本交渉ヲ進ムル能ハスト電報シ置キタリト語リ居ル此ノ時秘書官入リ来リ来電ヲ「カ」ニ示シタルカ「カ」ハ丁度今莫斯科ヨリ来電アリ日本側カ両者ヲ連結セシメ居ル間ハ拘禁者ノ釈放ハ是レヲ拒絶スル旨回電アリ就テハ此旨芳沢公使ニ伝ヘラレタシト云ヒ島田ハ決定的ナリヤト問ヘルニ「カ」ハ然リ此上ハ半年ニテモ待ツ外ナシ但シ露国側ハ此際北樺太ヲ撤兵セサレハ本交渉ヲ行ハスト云フカ如キ事態ヲ徒ニ複雑セシメ日本政府ヲ侮辱スル様ノ態度ニハ出テサルヘシト述ヘ島田ヨリ右ハ公使ニ伝フヘキモ一体先般公使提出ノ条件ニ対スル莫斯科ノ意見ニ就キ電報アリタルヤト尋ネタルニ彼ハ既ニ受取リ居レリト云ヘルニ付島田ハ然ラハ右ハ我方ニ伝ヘラルヘキモノニ非スヤト云ヘルニ「カ」ハ夫ハ公使ニ伝ヘテモ宜シキモ二軍人ノ釈放ヲ見サル間ハ交渉ニ応セストノコトナレハ一国ノ代表者タル自分トシテハ軽々ニ行動スルコト能ハス当惑シ居レリ就テハ此際拘禁問題ニ付テハ日本側ニ於テモ行懸上撤回不可能ナル可キヲ以テ本問題ハ暫時本交渉ト連結セシメスシテ本交渉ニ付莫斯科政府ノ意見ヲ開陳スル様ニテモセハ両国ノ為大局上好都合ナリト思考スルニ付松井大臣ヲ煩ハサストモ貴下ヨリ松平次官ニ伝ヘラレ何トカ時局収拾ノ策ヲ講セラレテハ如何ト云ヘルニ付島田ハ右ハ拘禁事件ヲ其儘トシテ差当リ一般交渉ニ関スル莫斯科ノ回訓ヲ日本側ニ伝フル為引続キ公使ト会見ノ機ヲ作リタシトノ意ナリヤト問ヒタルニ「カ」ハ然リト云ヘルニ依リ島田ハ然ラハ右ハ公使ニ報告シ其結果後ヨリ挨拶スヘシト答ヘ置ケル由ナリ

尋テ「カ」ハ率直ニ云ハントテ一体日本ハ自分ト支那トノ交渉好況ナルヲ見ルヤ日露交渉ヲ急クノ態度ヲ執リ露支交渉不調トナルヤ自分ヲ困リ居ルモノト認メ此ノ機逸ス可カラスト拘禁事件ヲ持チ出シ高圧的態度ニ出テタリ依テ自分トシテハ意地ニモ強硬ニ出テサル可カラス実際日露交渉カ還延スレハ日本カ蒙ムル不便露国側ニ比シテ大ナルニ非スヤ自分ハ日本側カ拘禁交渉ヲ本交渉ト連結セシムレハ畢竟日本政府部内ニ於テ果シテ日露交渉ヲ決行スルノ真意アルヤ否ヤヲ疑フモノナリ云々トテ支那外務当局ヲ罵倒スルト共ニ日本側トハ是非円満ナル国交ヲ樹立シタキ精神ニ付右様御諒承ヲ請フトテ極メテ慇懃ナル態度ヲ示シ来客待合ハセ中ニ付島田ハ引キ取レリト云フ就テハ貴電第一八四号御来示ノ次第モアリ本使ハ右「カ」ノ希望ニ応シ本使一己トシテ「カ」ト会見ニ応スル心算ニ付右御含ミ置キヲ請フ

三二七　四月八日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

ジャパン・タイムスヘノ交渉内容漏洩問題及ビ浦潮拘禁問題ニ関シ先方ヘ申入レ方訓電ノ件

第二〇〇号

貴電第二四六号ニ関シ

「ジャパン・タイムス」カ政府ト全然何等ノ関係ナキハ島田カ「カラハン」ニ説明セル通ニシテ同紙等外字新聞ハ一般ニ邦字新聞ノ記事ヲ訳載スルモノ多ク而シテ邦字新聞ニハ日露交渉問題ニ付往々推測的記事ヲ掲載スルモノアルカ我方ニ於テハ貴使「カラハン」間ノ会見ノ内容ニ関シテハ外部ニハ絶対ニ発表シ居ラサルハ勿論本大臣ニ於テモ本問

題ニ関シ別ニ何等声明ヲ為シタルコトナシ就テハ貴使ハ右ノ趣旨ヲ先方ヘ説明セラルルト同時ニ我方ニ於テハ日露交渉ノ成功ヲ容易ナラシムル為努メテ両国間ニ成ルヘク良好ナル感情ヲ誘致スルニ苦心シツツアル次第ナル処露国側カ我軍人以下多数ノ邦人ヲ拘禁シテ今ニ釈放セサルコトハ折角我方ノ苦心ヲ徒爾ナラシムルモノナルノミナラス別電渡辺総領事代理報告ノ通浦潮ニ於テ其後引続キ我官民ニ対シ種々ノ圧迫ヲ加ヘ居ル事実ノ如キハ我国民ノ対露感情ニ一層悪影響ヲ及ホスモノナルニ付露国側ニ於テ果シテ真ニ日露両国ノ親善関係ヲ速ニ樹立スルコトヲ希望スルニ於テハ断然前記ノ如キ態度ヲ改ムル様速ニ適当ノ措置ヲ執ラレタキ旨申入レラレ篤ト先方ノ反省ヲ促サルル様致度シ

三二八　四月八日　松井外務大臣ヨリ在独国本多大使宛（電報）

森孝三ノ入露ニ関スル件

第二三号

貴電第七〇号ニ関シ

森孝三カ「ゾルフ」大使ト同道入露スルニ就テハ当時後藤子ヨリ当方ヘ申出アリ「レーニン」ノ死後露国ノ真相ヲ視察スル目的ヲ以テ同子ヨリ派遣シタルモノニシテ当方ノ了解ヲ得居ル次第ナルカ同人ニ就テハ前顕貴電(一)ノ次第モアルニヨリ其ノ行動ニ関シ適宜御注意相成度ク又万一同人ノ露国視察談ニシテ参考ト為ルモノアラハ電報アリタシ

三二九　四月九日　在中国芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

日本側ノ交渉ノ前提条件ニ対スルモスクワヨリノ回訓ヲ示シ交渉継続方ヲ希望セルカラハンノ談話報告ノ件

第二五〇号　極秘　（四月十日接受）

貴電第一八四号ニ関シ「カラハン」ヨリ往電第二四六号所報ノ如ク会見ノ希望ヲ申出テ本使之ヲ諾シタル結果四月八日「カ」本使ヲ来訪シタリ依テ曩ニ国交樹立ニ関シ我方ヨリ提出ノ条件ニ対シ莫斯科ヨリ回電アリタル趣ナル処今尚浦塩拘禁者ノ釈放ヲ見サル今日此種会見ヲ行フハ元来政府訓令ノ趣旨ニ反スル処ナリト雖本使個人トシテ右回電ノ内容ヲ聴取スルハ敢テ妨ケ無キ処ナル旨ヲ述ヘタルニ「カラハン」ハ(一)秘密ヲ守ル事(二)談判ノ形式(三)拘禁者ノ釈放ノ三点（往電第一九〇号参照）中(三)ニ就テハ莫斯科ノ訓令トシテ斯ノ如キ前提条件ニ応シ難ク本問題カ前提条件ナルニ於テハ何時交渉中断セラルルヤモ計リ難キヲ以テ右条件ハ一般問題ヨリ除外セラレ度旨ヲ答ヘ本使ハ之ヲ一般問題ト全然分離セハ速ニ釈放行ハルルニ於テハ之ヲ前提要件トスルノ必要ナク鮮クトモ軍人二名ノ釈放ヲ速ニ実現シ得ヘキ莫斯科政府ノ内意ナルニ於テハ本件ヲ一般問題ト連繋セシムル必要無キモ釈放ハ絶対ニ必要ナリトスル我方立場ニハ何等変化無キ旨従来ノ主張ヲ反覆説明シ一般問題ニ付テ談スルハ本使ノ有スル権限ニ依リ一ニ本使ノ手心ヲ以テスル処ナル旨ヲ告ケ更ニ近時本使カ当地外国人社会ヨリ得タル印象ニ依レハ彼等ハ頗ル本使「カラハン」間会見ノ内容ニ疎ク一般ニ日露交渉ノ如キハ毫モ進行シ居ラサルモノノ如ク考ヘ居ルヲ以テ此際急速ニ話ヲ取纏ムル事最モ好都合ナルヘシト感シ居ル旨ヲ語レルニ「カ」ハ頻ニ同感ノ意ヲ表シ世間カ未タ会見ノ内容ヲ感付カサルカ絶好ノ機会ナルト同時ニ個人トシテモ相互ニ深キ友誼的信任ヲ有スルハ談判進捗上無二ノ状況ニ在ルモノト確信シ居レリ就テハ互譲ノ精神ヲ以テ此際速ニ談合ノ成立ヲ期シ度シト極メテ熱心ナル態度ヲ示シ兎ニ角拘禁問題ハ一般ノ審議問題ヨリ除外シテ話ヲ進メ度シト繰返ヘセルカ本使ハ拘禁者釈放ノ要求ハ飽迄之ヲ維持シ居ル処ナリ右諒解ノ上ナラハ一般問題ノ話モ聞クヘシト述ヘ「カラハン」モ結局之ヲ諒トシ再ヒ右所謂前提要件撤回ヲ固執セス莫斯科回訓ノ説明ニ移リ前記(一)ノ点ニ付秘密ハ之ヲ厳守シ談判ノ内容ハ固ク之ヲ発表セス但シ日本側ニ於テ露国ニ不利ナル情報ヲ発表スルカ如キ場合ニハ露国側亦之ニ応スル対策ヲ講セサルヲ得サルヘシ(二)交渉ノ形式ニハ別ニ正式若ハ非公式ノ名ヲ付セス従来通リ両者ノ会談ヲ継続スルニ異議ナシ但シ互ニ談判ノ権限ヲ有スルコトハ事実ナリトスルモ話合ヒ成立ノ上ハ直ニ調印スル段取トナルヘク依テ一応委任状ヲ見セ合ヒ置クコト然ルヘシトノ莫斯科ヨリノ訓令ナリト申出タルカ本使ヨリ委任状提示ノ如キ形式ニ拘泥スルハ前刻所述ノ如ク此ノ際最速ニ話合ヒヲ取纏ムヘキ時機ニ際シ決シテ有終ノ美ヲ済ス所以ニアラサルヲ指摘シ既ニ本使ノ権限ヲ信シテ話合ヒヲ始メタルコトナルカ故ニ斯ノ如キ形式上ノコトハ愈調印ノ場合ニテ差支ナカルヘキヲ説示セルモ「カ」ハ遠隔ナル莫斯科トシテハ事情ニ疎ク兎ニ角疑惑ヲ懐キ易キコト又従来ヨリ一歩ヲ進メテ具体的話合ヒヲ為サンカ為前記(一)(二)日本側希

望ヲ快諾セルモノナルニ付莫斯科ヨリ申出ノ儀ハ一応日本政府ニ伝ヘラレタキ旨ヲ繰返シ「カ」自身トシテハ斯ノ如キ形式ニ対シ素ヨリ重キヲ置クモノニアラス依テ一策トシテ右申出ヲ日本政府ニ取次カレタル上委任状ノ意味ヲ記セル電報ヲ請ヒ其ノ写ヲ公使館ニ於テ証明シテ之ヲ提示スルモ可ナルヘシト提議セルカ本使ヨリ我方ニテ此際改メテ委任状ヲ作成スルトセハ再ヒ拘禁事件即決ノ問題ヲモ生スヘク結局露国側ノ希望ニ副ハサル結果トナルヘキヲ慮ル故ニ右莫斯科ノ訓令ニシテ絶対的ノモノナラサルニ於テハ「カ」ノ裁量ニテ深ク斯ル形式ノ点ヲ主張スルコトナキヲ望ム旨ヲ告ケ併セテ交渉ノ成功ヲ期スル為ニハ成ルヘク形式ヲ避ケ実質的ニ話合ヒノ進行ヲ計ラサルヘカラサル旨反覆説明セルモ「カ」ハ右ハ形式ニ過キサルモ日本政府カ折角話合ノ結果ニ付テハ更ニ閣議ニ於テ審議シ或ハ之ヲ基礎トシテ更ニ正式交渉ヲ開クコトトスルカ如キコトナキヤハ責任アル交渉ヲ為ス公人トシテハ不安ナキヲ免レサル所ナリトテ兎ニ角政府ニ取次方ヲ懇請シテ止マス依テ本使ハ簡明直截ニ謂ヘハ斯ノ如キ申出ハ却テ事ヲ破ルナキヤヲ虞ルルモ折角ノ希望ニ付一応政府ニハ申伝フヘキ旨ヲ答ヘ尚本件ニ付テハ相互ニ了解ノ余地ナキニアラサル様見受ケタルモ時間ノ都合上翌日引続キ会見ヲ約シ当日ノ会談ヲ中止セリ

尚右会談中「カ」ハ客年八月二十二日付委任状ヲ有シ何時ニテモ之ヲ提示シ得ル旨ヲ述ヘ居リ且当日「カ」ハ従来ト異ナリ秘書ヲシテ大部ノ書類ヲ持参セシメ前記委任状ノ必要ヲ説クニ際シテモ各問題ニ付逐次解決ヲ見タル上ハ直ニ調印ノ用意ヲ為シ置ク必要アリト主張シ非常ニ取急キ居ル模様ニ見受ケラレタリ

三三〇　四月十日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

森孝三トチチェリントノ会談ニ関スル在独大使来電転電ノ件

第二〇九号

在独大使発本大臣宛電報第七八号貴官御参考迄転電ス

過般露西亜経由来伯セル森孝三過日来二回来訪セルカ莫斯科ニテ「チチェリン」ト会談セル趣ニテ其ノ要領トシテ同人ヨリ聞ク処左ノ通

「チチェリン」ハ劈頭先ツ日本ハ今次米国ニテノ起債ニ関連シ米国ノ露国不承認方針ニ追従スルノ約ヲ与ヘタリトノ説アルニ対シ真否如何ト問ヘルニ付（是ヨリ先哈爾賓労農政府派遣員ヨリモ莫斯科着後第一ニ応接シタル亜細亜課長ヨリモ右ト同様ノ質問ニ接シタリト云フ）森ハ其ノ無稽ノ臆説タルヲ弁シ夫レヨリ談日露交渉ニ及フヤ森ヨリ協商ノ難関トシテ既成条約義務承認問題ヲ挙ク就中「ポーツマス」条約ノ利権ニ対スル日本国民ノ感情ニ言及シタルニ「チチェリン」ハ本問題ハ露国側ニ於テ別ニ難関トハ看做シ居ラス露国ハ該条約ニ依ル漁業権ノ如キ之ヲ否認スルノ意思ナシ更ニ他ノ利権即チ森林伐採権ノ如キヲモ日本ニ与ヘントスル考ヘナリ尤モ総括的ニ旧条約ノ義務承認ノ声明ヲ為スコトハ出来ス旧条約中引続キ維持シテ差支ナキモノアルモ同時ニ事情ノ変化ニ照シ改廃スヘキモノモアルヲ以テナリト述ヘ語ヲ転シテ露国側ヨリ見タル協商ノ難関ハ㈠薩哈嗹割譲ト、㈡債務承認ノ二問題ニ在リト謂ヘルニ付森ハ㈠ニ関シテハ割譲ハ最早ヤ問題ニアラス日本ノ欲スル所ハ「コンセッション」ニ在リ但シ「コンセッション」ト雖利権獲得者ニ対シ過重ノ負担ヲ課セラルルカ如キ仕組ニテハ不可ナリト謂ヘルニ「チチェリン」ハ既ニ英、伊ニ対シ最恵国主義ヲ認メタルコト故日本ニ対シテノミ特別ノ取扱ヲ為スコト困難ナル旨ヲ述ヘ又前顕㈡ニ関シテハ森ヨリ此点ハ関係各国トノ一般的協定ニ従フコトトスレハ可ナルナリ要ハ日本カ同様ノ事情ニ在ル他ノ国ヨリモ不利ナル地位ニ立タサルニ在リト述ヘタルニ「チチェリン」ハ之ニ対シ別ニ意見ヲ吐カス単ニ本問題ハ英国等ト商議中ナリト謂ヘル趣ナリ

三三一　四月十日　在中国芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

委任状問題ヲメグルカラハントノ応酬ニ付キ追電ノ件

第二五五号　（四月十一日接受）

往電第二五〇号ニ関シ莫斯科ノ訓令ニ係ル委任状ノ件ハ当時「カラハン」ニ於テモ之ニ重キヲ置カサル旨ヲ述ヘ居リ翌日ノ会見ニ於テハ然ルヘク諒解ヲ遂ケ得ヘシト見受ケタル為本件先方ノ申出テニ対シ本使ヨリ種々説示ノ詳細ニ亘ル点ハ右往電報告中之ヲ略シ置キタルモ九日会見ノ成行キハ往電第二五六号ノ通ニモ有之為念左ノ通追報ス

「カラハン」ハ長春及東京会議ニモ亙ニ全権委任ノ形式ヲ整ヘタルカ之レ一面国際法上ノ慣例ニ倣ハントスルノ意思

ニシテ又莫斯科政府ノ真面目ナル態度ヲ示スモノナリトテ達ッテ我方ノ同意ヲ慫慂セルニ付本使ハ莫斯科政府ノ考ヘ方ハ或ハ一応尤モナルヘキモ今日長春及東京会議ノ例ニ倣フノ必要無カルヘク本使ノ有スル訓令ハ過日提示ノ条件ニ基キ大体話合ヒ纏マリタル上ハ形式上簡単ニ正式交渉ヲ開キテ調印ヲ為スモ可ナルヘク又出来得レハ非公式会談ニ於テ詳細ニ審議ヲ重ネ其ノ儘調印スルモ可ナリトスルモノナル処後者ノ方法ニ依ル事最モ実際的ナリト思考シ当初ヨリ此ノ方法ニ依ル積リナリシナリ委任状ヲ発シ始メヨリ正式交渉ノ形式ヲ以テスルハ帝国政府ノ敢テセサル処ナルヘク之ニ反シ非公式会談纏リタル上ハ政府ヨリ調印ノ権限ヲ付与スル電報ニ接スヘキハ本使ニ於テ信シ居ル処ナル旨詳細ニ亘リ応酬説明シ本件「カラハン」申出テハ仮令之ヲ政府ニ伝達スルモ恐ラク其ノ希望ニ副フカ如キ回答ニ接シ得サル可キハ殆ト本使ノ確信スル処ナル旨又再三先方ニ注意ヲ促シ置キタル次第ナリ

三三二　四月十日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

委任状問題ヲメグルカラハントノ意見応酬ノ模様更ニ追電ノ件

第二五六号　（四月十一日接受）

往電第二五〇号ニ関シ

前日ノ引続キトシテ四月九日「カラハン」方ニ会合シ委任状ノ件ニ関スル「カ」前日ノ申出ハ政府ニ電報シ置キタルモ恐ラク御希望ニ副フカ如キ回答ニ接シ得サルヘシ之カ為今後ノ会談ヲ停頓セシムルコト甚タ遺憾ナルモ誠ニ致方ナキ処ナル旨ヲ告ケタルニ「カ」ハ本件露国側申出ノ極メテ正当ニシテ且自然的ナル希望ナルコトハ日本政府ニ於テモ之ヲ容認セラルヘシ若シ然ラストセハ日本ノ態度ハ最後ノ瞬間ニ至リテ或ハ談合ヲ否認スルカ如キ下心ナキヲ保セサルモノト看做サルヘシ惟フニ今ヤ日本ニ於テハ何等重大ナル国内ノ変動アルニアラス責任アル貴大使ニ対シ曩ニ条件ヲ示シテ日露ノ国交ヲ回復セシメムトスル重要ナル時機ニ際シ殊ニ或ル程度迄談合進捗セル今日極メテ自然的ナル莫斯科政府ノ希望ヲ容レ単ニ委任状ノ一覧ヲ許スカ如キハ毫モ困難ナカルヘキ処ナリ又過般露支交渉成立ニ当リ支那政府ハ王正廷ニ調印ノ権限ナシトセル事例アリ斯ノ如キ支那政府ノ欺瞞ヲ以テ寧ロ警戒的ナル日本政府ヲ律スヘキニアラサルコト勿論ナルモ莫斯科トシテハ再ヒ手ヲ焼カサラムコトヲ顧念スルハ蓋シ当然ナルヘシト述ヘ本使ハ支那ニ対スルカ如キ懸念ノ甚タ無用ナル旨ヲ注意シタル後抑々日本トシテ委任状ニ関スル露国側申出ニ応シ難キ理由ヲ勘考スルニ第一拘禁問題ノ解決前ニハ本交渉ニ入ルヘカラストノ政府ノ訓令アリ従テ少クモ二名ノ軍人ノ釈放ヲ見サル限リ交渉ヲ継続シ得サル今日交渉上右委任状ヲ発スルカ如キ矛盾ヲ敢テスヘキヤ又帝国政府ハ一ニ交渉ノ成立ヲ期セムカ為成ルヘク世間ノ視聴ヲ刺戟セサルヲ可ト思考セルモ北京ニ在ル我々両者間ノ非公式談合ニ依リテ国交ノ樹立ニ到達セシメムトシ居ルモノナルニ拘ラス露国側ノ主張ニシテ猶形式上ノ委任状ヲ必要トスルカ如キ有様ナルニ於テハ是我方誠意ノ未タ莫斯科ニ徹底シ居ラサルヲ示スモノトシテ此際交渉ニ入ルヲ便ナラスト判断スヘク要スルニ帝国政府ハ委任状ノ発給ニ同意スルコトナカルヘキ旨ヲ説明シタルカ「カ」ハ本件委任状ノ単ニ国際法上ノ手続問題ニシテ日本側ノ拘禁問題ニ於ケルカ如ク之ヲ前提要件トスルニアラス又委任状ノ提示亦之ヲ秘密ニ付スヘク従テ世間ノ注目ヲ引クカ如キコトナカルヘシ莫斯科ハ唯後日ニ至リ談合ヲ否認セラルルコトヲ怖レ居ルモノニシテ日本側ニ於テハ本件ニ反対セラルル程斯ノ如キ危惧ヲ深クスヘシトテ其主張ヲ固持シテ止マス依テ本使ハ本件ニ対シテハ猶意見ノ述フヘキモノ少カラサルモ徒ニ時間ヲ徒費スルノ嫌モアリ暫ク之ヲ差控フヘシ就テハ

㈠仮ニ我方ヨリ一種ノ委任状ヲ出スモノトセハ如何ナル文句ト為スヘキヤ

㈡我方ヨリハ既ニ条件ヲ提示シアリ依テ兎ニ角之ニ対スル莫斯科ノ回答ヲ承知スルヲ得サルヤ

ト質シタルニ「カ」ハ㈠ニ対シ日本ノ「デレゲート」ニ露国代表者ト「アグリーメント」（即チ予備交渉若ハ国交樹立等如何ナル文句ニテモ可ナリ）ヲ締結調印スルノ権限ヲ付与セリト言フカ如キヲ以テ足ル

㈡依テ莫斯科ノ訓令ヲ熟読シ引続キ之ヲ述ヘ得ル様研究ヲ重ネタルモ何分委任状一覧ノ上ニ非サレハ之ヲ示シ得サルカ如キ束縛ノ状態ニ在リ且又莫斯科ノ回訓ハ予テ私見トシテ述ヘタル処ヨリ強硬ニシテ之ヲ其儘披露シ難キ困難ナル立場ニ陥リ居レリト答ヘ出来得レハ何等本使ヨリノ意見ヲ聞カン事ヲ望ム旨ヲ述ヘタリ爰ニ於テ本使ハ曩ニ我方ヨリ

ノ条件ヲ提示セルニ対シ莫斯科ニ請訓ノ上ニ非サレハ確答シ難キヲ答ヘラレタルカ今ヤ莫斯科ノ回訓ヲ入手シテ何分ノ回答ヲ為シ得ヘキ状況ニ在ルニ拘ハラス之ヲ示シ得スト為ス尤モ委任状ノ性質ヲ厳格ニ解釈スルトキハ「カ」氏ノ云フ処又一理無キニ非サルカ如シト雖今日迄非公式ナカラ数次ノ会談ヲ重ネ来リ今ヤ莫斯科ヨリノ対案モ到達セルニ拘ハラス毫モ之ヲ示メシ得ストセラルルハ本使ノ甚タ遺憾トスル処ニシテ若シ莫斯科政府ノ意見トシテ対案ノ全部ヲ示ス事便ナラサルニ於テハ其ノ大要ナリトモ之ヲ示ス事友誼的ナルヘシ現ニ過日島田ニ対シテハ書面ヲ以テ伝達スルモ可ナリト語リ今日ハ口頭ヲ以テ之ヲ告クル事スラ敢テセサルハ従来ノ経過ニ顧ミ鮮クトモ礼ニ適ヘルモノニ非ス従テ今其ノ大要ヲモ示シ得ストセハ此ノ瞬間ヨリ会談ヲ中止スルノ外ナシ尚此ノ機会ニ於テ一言シ度キハ貴官ヨリ屢々日本ノ態度ニ不安ヲ抱カルルノ意ヲ洩サレタル処露国側カ日本政府ノ心事ヲ疑フト同様ニ実ハ日本側トシテモ露国ノ態度ニ対シテハ深甚ナル不安ヲ感シ居リ従テ少ナカラス交渉上ニモ影響ヲ及ホシ居ル事ハ好ク了解シ置カレ度シ即チ日本ノミヲ疑フ露国自身モ亦疑ハレ居ル処ニシテ鮮クモ浦

塩拘禁事件ナリトモ解決セハ余程日本側ノ疑ヒヲ減スヘキモ兎ニ角露国カ鮮ナカラス権略ヲ用ヒ居ルモノト信セラレ居ルハ争フヘカラサル処ナリ此点ハ好ク念頭ニ止メ置カレ度シ尚亦最近会見ノ経過ニ顧ルモ客月二十一日拘禁者ノ釈放方ニ関シ最善ノ努力ヲ為ス旨ヲ言明セラレ其ノ言明ニ信頼シテ我方条件ヲモ提示セルニ拘ハラス爾来一名ノ拘禁者スラ釈放ヲ見ルニ至ラス又莫斯科ヨリハ対案到着シ居ルニ拘ハラス書面ハ勿論口頭ヲ以テモ之ヲ示スヲ得スト為シ加之本使カ日本公使トシテ責任ヲ以テ会談シ居ルニ拘ハラス委任状ヲ示スニ非サレハ会談シ得スト云フカ如キ現状ニ於テハ今後到底日露交渉ヲ進捗セシムルノ見込無キモノトシテ本使ヨリ交渉ノ中止ヲ政府ニ上申セント欲スト述ヘ尚本使ハ別ニ交渉スヘキ不愉快ナル事件ニ関シ政府ノ訓電ニ接シ居リタル処成ルヘク友誼的関係ヲ以テ本交渉ノ進捗ヲ図ラントスル精神ニ基キ前回会見ニ於テハ特ニ之ニ言及スルヲ差控ヘタルモ状況今日ノ如クンハ右電訓ノ趣旨ニ付テモ篤ト露国側ノ考慮ヲ煩ハシ度旨ヲ付言シテ貴電第一九一号及第一九二号御来示ノ趣旨ヲ伝ヘ右ニ対シ適当ノ措置ヲ講セラルル様申入レタル処本件ニ付テハ追テ回答ヲ為スヘキ

旨ヲ答ヘ次イテ「カラハン」ハ拘禁者釈放ニ関スル自分ノ言明後僅一週間ニシテ日本側ヨリ交渉中止ノ最後通牒的申出テニ接シタル為釈放ニ関スル日本側前提要件ハ此ノ儘拒絶セル旨莫斯科ニ報告セル次第ニシテ釈放遅延ニ付テハ日本側ニモ其ノ罪無キニ非ス尤モ釈放問題ヲ本交渉ト連繋セシムル事ハ日本側ヨリ撤回セル旨其後莫斯科ニ報告セルヲ以テ何レ何トカナルヘキモノト考ヘ居レリ又疑惑ヲ抱クハ相互的ナリトノ点ニ付テハ極メテ同感ニシテ国交関係ナキ今日互ニ警戒ヲ為スハ寧ロ当然ナリ唯事態今日ノ如ク困難トナレルニ付テハ心中頗ル苦痛ヲ感スル所ニシテ莫斯科ニハ自分ニ対スル反対分子モアリ自分トシテハ常ニ莫斯科政府ノ誘導ニ苦心ヲ重ネ日本ニ対シテハ疑ヲ抱ク必要ナキコトヲ切言シタル結果然ラハ非公式ニテモ可ナリ秘密モ守ルヘシトノ回答ニ接シ漸ク前述ノ曙光ヲ認メタルニ当リ最後ニ自分ノ反対分子ヨリ委任状ノ件ヲ付加セシメタリ若シ今日委任状ノ件ヲ拒絶セラレタル旨ヲ莫斯科ニ報告センカ自分ハ単ニ亜細亜人最屓ニシテ東洋ノ実際事情ニ通セス結局貴公使ノ如キ老練外交家ノ為ニ翻弄セラレタリトノ非難ノ的トナルヘキ窮境ニ陥ルモノナリト歎シ殆ト声涙共ニ下ル

ノ様子ニモ見受ケラレタルカ本使ハ我方提示ノ条件ニ対スル対案ハ書面口頭ノミナラス其ノ大綱ヲモ示スヲ得スト為スカ如キ片手落ノ沙汰ニテハ本使トシテモ頗ル苦痛ナル立場ナルコト「カ」氏ト同様ニシテ斯ノ如キハ或ル意味ニ於テ本使ニ対スル侮辱ナリ又拘禁者釈放ニ関スル我方条件ハ之ヲ撤回セル旨報告セラレタル趣ナルモ其ノ点ハ何等カノ誤解ナルヘク本使ハ両三日中ニ速ニ釈放セラルルナラハ一般問題ト連結セシメストモ可ナリト謂ヘルニ過キス従テ露国側ニ於テ若シ飽迄釈放ヲ行ハサル意思ナルニ於テハ我方トシテハ依然両問題ヲ連結（脱）ノミナラス有ラユル方法ヲ講シテ釈放ノ実現ヲ期セサルヘカラス莫斯科ノ対案ハ到底之ヲ示シ得ストセハ已ムヲ得ス之ニテ会見ヲ終ルヘシ唯前回所述ノ浦潮課税ノ件ニ付テハ合理的ナル何分ノ措置ヲ講セラレ度キ旨繰返シ置キタル処「カ」ハ尚種々申述ヘタキ次第モアリ更ニ一回会見ニ応セラルルヲ得ハ必ス有益ナルヘキニ付枉ケテ承諾セラレタキ旨ヲ切言セルカ本使ハ真ニ有益ナル話ナラハ承ハルヘキモ実ハ本使ノ信頼セル拘禁者釈放ノ言明ハ爾来三週間ニ及フモ何等ノ効験ナク又我方条件ニ対スル対案ハ其要領ヲモ示スヲ得スト謂フカ如ク

ンハ此ノ上会見ヲ重ヌルモ何等益スル所ナカルヘク交渉ノ成功ヲ期セントセル本使従来ノ熱誠又頓ニ冷却セサルヲ得ス就テハ日露交渉ハ須ク余人ヲ以テ代ラシムル様今晩ニモ電請スル積リナリト答ヘタル処「カ」ハ自分カ莫斯科ノ訓令ニ束縛セラレ居ルハ事実ナルモ御話ノ如キ電報ヲ発セラルル程困難ナル事態ニ立至リ居ラストテ兎ニ角明日尚一回ノ会見迄政府ヘノ電稟ヲ差控ヘラレ度キ旨切言シテ已マス本使ハ再ヒ右同様ノ意味ヲ反復説明シ「カ」又明日来館ノ上明白ナル話ヲモシタク其上ニテ尚且見込ナクハ致方ナキニ付政府ヘノ電稟ハ兎ニ角待タレ度シト懇請スル所アリ本使又前言ヲ反復シタル上本使ヲシテ斯ノ如キ立場ニ立ツニ至ラシメタルハ従来ノ経過ノ論理的帰結ニ外ナラス明日ノ御話モ右帰結ヲ覆スニ足ルモノナラハ兎モ角唯今迄ノ御話ニテハ然ル模様ニモ見エスト答ヘタルモ「カ」ハ根本ヨリ明ニシ得ヘシト信スルカ故ニ強テ明日会見ノ機会ヲ与ヘラレ度シト押問答ヲ重ネタル末一応十日午後ノ会見ヲ諾シ置キタリ

三三三　四月十二日(着)　在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

旨付言シタル後、偖テ昨日ノ事態ニ立至レルハ一ニ莫斯科政府カ無用ノ干与ヲ為セルカ為ニ外ナラス曩ニ自分ニ於テ材料ヲ取リ纏メ之ヲ莫斯科ニ報告セル結果政府ヨリハ交渉ノ開始ヲ認可シ来レルモ交渉ニ入ルノ基礎トシテ委任状ノ件ヲ訓令シ来リ為ニ貴公使ヲシテ遂ニ日露交渉ノ任ニ当リ難シト謂ハシムルニ至レリ昨日貴使ヨリ右ノ話ヲ聞クヤ予ハ失望落胆為ス所ヲ知ラサリシカ一ニ貴公使トノ友誼的関係ニ訴ヘ此際如何ニセハ可ナルヘキヤニ付キ貴公使ノ御教示ヲ得タシト述ヘタリ右ニ対シ本使ハ個人的ニ感情ヲ害シタルカ如キコトハ毫モ無キノミナラス「カ」ノ友誼的態度ニ対シテハ深ク之ヲ「アプレシエート」シ居ルモノニシテ昨日ノ陳述ハ何等個人的感情ト関係ナク莫斯科ノ態度ニ対シ本使ノ承服シ得サル職務上ノ関係ニ基クモノニシテ現ニ我方条件ヲ提示センカ為メ三月十九日、二十日、二十一日ノ三日ニ亘リ会談ヲ遂ケタル節、第一、秘密ヲ守ルコト、第二、談判ノ形式ハ非公式トスルコト、第三、浦潮拘禁事件ノ三点ニ関シ本使ヨリ陳述ヲ為シタル際委任状ニ関シテハ何等言及セラルル所ナクシテ其儘我方条件ヲ諒承シ乍ラ今ヤ莫斯科ヨリ対案已ニ到著シ剰ヘ過日島田ニ対シテハ書

ソヴィエト側対案ノ要点ヲ私見トシテ述ベル　タメカラハン再度来訪ノ件

第二六七号　極秘
往電第二五六号ニ関シ
四月十日「カラハン」来訪

「カ」ハ先ツ前日ノ会見ニテ事態ノ甚タ困難トナレルニ付テハ何等カ疏通ノ途ヲ講シタキ所存ニテ参上セリト前置シ昨日貴公使ヨリ極メテ率直ニシテ腹蔵ナキ御意見ヲ聞クヲ得タルハ却テ事態ヲ判明セシムルモノト思考シ居ルモ而カモ斯ノ如キ事態ニ到達セルニ付テハ其間行違ニテモアリシニアラスヤトモ懸念セラルルヲ以テ一応従来会談ノ経過ヲ吟味シ自分ノ諒解シ居ル所ヲ陳述シタシト述ヘ客年九月本使「カ」間最初ノ会見以来最近ニ至ル迄ノ会談ノ経過ヲ縷縷叙述シタル上右ハ従来如何ニ親善ノ関係ヲ保持シテ開談ヲ重ネ来レルカニ付貴公使ノ注意ヲ喚起センカ為ナル旨ヲ語リ一国ノ代表者トシテハ常ニ本国政府ノ訓令ニ基キ行動スルノ余儀ナキ次第ハ御諒察ヲ請ヒタク且昨日ノ如キ事態ヲ招来セルニ付テハ何等自分ノ不行届ニ依リ貴公使ニ於テ侮辱ヲ感セラレタル節ニテモアルニアラスヤト懸念シ居ル

面ニテ示スモ可ナリト言明セラレタルニ拘ハラス書面ハ勿論口頭ニテモ其要領スラ示スヲ得ストセラルルハ甚タシキ片手落ノ沙汰ニシテ啻ニ日露交渉ヲ成功セシメントスル本使ノ熱誠ヲ冷却セシムル而已ナラス露国側ニ於テ斯ノ如ク区々タル形式ニ拘泥シ為ニ浦潮拘禁者釈放モ今以テ実現セサル現状ニ於テハ到底日露交渉ノ成功見込ナシトノ結論ニ達セサルヲ得サル次第ナリト説明シタル所「カラハン」ハ今ヤ表面上自分ハ談判ニ著手スル権能ナク此際莫斯科回訓ノ内容ヲ謂フハ最モ重大事ト思考シ居ルコト莫斯科政府ノ回訓ハ自分ノ私見ヨリモ狭キハ過日島田領事ニモ内話セル所ナルコト只莫斯科政府ハ露国ノ地位上ニ鞏固ヲ加フト雖モ対日関係ニ於テ極メテ公正ナル見地ヨリ無理ナル主張ヲ為スモノニアラサルコト現ニ日本ノ最モ利害関係アリト目セラルル漁業問題ニ付キ日露両国間種々ノ紛糾アルニ拘ハラス恰モ正式国交関係ニ在ル国家間ノ如ク日本ノ為有利ナル解決ニ同意セルハ莫斯科政府カ日本ノ真ノ利害ニ対シ考慮ヲ払ヒ居ルコトヲ証明スルモノナルコト及吾人ハ国交樹立ナル重大ナル歴史的事実ニ従事スルモノナルカ故ニ地方的小問題ニ囚ハルルコトナク根本ノ重大問題ニ直面セサル

ヘカラサル事等ニ関シ長々ト前置ヲ述ヘタル後自分ハ莫斯科ヨリノ訓令ニ束縛セラレ居ル関係上詳細ノ話ヲ為スヲ得ス又之ヲ以テ談判ニ著手セルモノト考フルコト無カランコトヲ望ムト断リタル上日本側提議ノ主ナル問題ハ日露間ノ重要ナル問題ナレハ好ク諒解シ居レリ而シテ其間日露共ニ異議ナキハ北樺太ヨリノ撤兵ナリト述ヘ一笑シタル後莫斯科ノ考トシテハ予備的「アグリーメント」トスルカ将又「ノート」ノ交換ト為スカ何レニセヨ其第一条ニ於テハ『国交ヲ樹立シ外交官及領事官ノ交換ヲ行ヒ日本ハ北樺太ヨリ撤兵シ云々』ト掲ケ詳細ノ点ハ将来ノ解決ニ譲リ第二条以下ニ於テ其他ノ問題ヲ書キ入ルルニ在リ茲ニ特ニ露国側ヨリ提議セル問題ハ漁業問題ニシテ右ハ将来ノ会議ニテ決定スルコトトスルモ「アグリーメント」調印後直ニ改定スルコトトスルモ将又従来ノ漁業協約ノ内容ヲ其儘継続スルモ可ナリ其後日本側提議ノ問題中相互請求権問題及債権問題ハ将来ノ会議ニ於テ決定スルコトニ同意ナリ利権問題ニ関シテハ従来他国トノ条約ニ於テハ之ヲ許ササル所ナルモ日本ニ対シテハ特ニ之ヲ許スコトトシ「アグリーメント」ノ中ニハ『露国ハ日本ニ利権ヲ譲与スヘシ但シ其条件

ハ如何ナル第三国ニ対スルヨリモ不利益ナラサルモノナルヘシ』ト謂フニ在リ条約問題ニ関シテハ旧帝政露国ト締結セル条約ヲ将来ノ会議ニ於テ改定審議スルコトトスル極メテ概括的ノ希望ナリ予ハ茲ニ政府ノ訓令ニ違反シ大体乍ラ回答ノ内容ヲ述ヘタリ然レトモ之ヲ以テ談判ニ著手セリトスルニアラス従来私見トシテ述ヘタル所ニ追加シテ貴公使ノ念頭ニ稍々明カナル諒解ヲ作ランコトヲ望ムノ趣旨ニ過キス速ニ交渉ヲ取纏ムルニハ個人的意見ノ交換モ亦素ヨリ必要ナルモ此上ハ委任状ヲ見セ合ヒ稍々厳格ナル形ニテ着着話ヲ進捗セシメタキニ付キ此機会ニ於テ再応委任状ノ発給方ニ関シ御尽力ヲ切望スル旨ヲ陳述セリ

茲ニ於テ本使ハ「カ」カ莫斯科政府ノ訓令ニ拘ハラス本使トノ友誼的関係ニ顧ミ同政府対案ノ内容ニ関スル一通リノ陳述ヲ謝スル旨ヲ答ヘ尤モ右ハ極メテ概略ノ要領ニ止マルヲ以テ改メテ本使ヨリ質問シタキ点アリ只委任状ノ件ニ関シテハ已ニ一昨日モ述ヘタル通リ日本政府トシテハ残留拘禁者ノ釈放セラレサル限リ一般交渉ノ歩ヲ進ムヘカラスト訓令シ来リ居ルニ当リ正式交渉ヲ開クカ如キ委任状ヲ発給スルハ右訓令ト矛盾スル次第ニシテ日本政府ノ同意シ難キ

所ト思考スル而已ナラス「カ」氏ニ於テモ委任状ヲ提示スルニアラサレハ交渉ヲ進ムルヲ得サル趣ナルヲ以テ本使ニ於テモ乍遺憾此点ニ関スル政府ノ訓令接到迄ニハ一般交渉ニ入ルヲ得ス尤モ前日会見ニ於テ莫斯科政府対案ノ内容ニ関シ其要点ナリトモ聞クニアラサレハ本使ノ面目トシテ本交渉ニ従事シ居ルヲ得スト思考シ其旨政府ニ稟申スヘキ旨ヲ告ケタルカ今其要点ヲ述ヘラレタルニ付テハ右ノ稟申ヲ為スコトハ此儘思ヒ止マルコトトスヘシ只莫斯科対案ニ関スル前刻御説明中第一条ニ於テ云々ト述ヘラレ第二条以下ハ之ヲ概括セラレタル所我方条件中ノ尼港問題並ニ「ポーツマス」条約ノ如キハ莫斯科回訓中何等言及セラレ居ラサル次第ナリヤト質問シタルニ「カ」ハ相互請求権旧債務及旧条約問題ハ将来ノ会議ニ於テ審議スル訳ナリト答ヘ重ネテ本使ヨリ莫斯科回訓中ニ拘禁及「ポーツマス」条約ニ関シ言及ノ有無ヲ質シタルニ「カ」ハ利権ハ一般条件ヲ以テ日本人ニ譲渡スト云フノミニシテ尼港問題ニ触レ居ラス又「ポーツマス」条約ニ就テハ特ニ言及ナキカ故ニ将来審議スヘキ条約中ニ含マレ居ルコトナルヘシ其代リ漁業協約ニテハ進テ露国側ヨリ申出テ居レリト答ヘタルカ茲ニ於テ本使ハ今後仮令一般交渉ノ歩ヲ進ムルコトトナルモ日露双方ノ主張ノ間ニハ猶多大ノ距離アルヲ発見セリト述ヘタルニ「カ」ハ両者間ニ距離アルコトハ事実ナルモ之ヲ接近セシムルコト即チ吾人ノ任務ナルカ故ニ此上ハ委任状ノ発給ニ関シ東京ヨリ好都合ナル回答ヲ得ル様取計ハレ度シト述ヘ凡ソ何日位ニテ回答ヲ得ラルルヤト質問シタルニ付キ動モスレハ掛引キ策略ヲ策スル相手ナルカ故不十分乍ラ莫斯科対案ノ要領ヲ語リタル上ハ此際少シク引摺リテ困ラセ遣ル方得策ト認メ其点ハ不明ナリト答ヘタル処一週間位ヲ要スルヤト重ネテ質問シタルニ付一切不明ナリト断リ置キタリ就テハ追テ此点ニ付請訓致スヘキニ付夫レ迄放任セラレ差支ナシ尚貴電第二〇〇号及第二〇一号御来示ノ趣旨ニ関シテハ先方ノ注意ヲ喚起シ其他「ベッサラビア」問題ニ関シ議論応酬ノ次第アルモ右ハ別電ヲ以テ追報ス

三三四　四月十二日　在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

ベッサラビア問題其ノ他ニ付キカラハントノ応酬振リ追電ノ件

（四月十三日接受）

第二六八号

往電第二六七号末段ニ関シ
本使ヨリ一応貴電第二〇一号ノ趣旨ヲ説明シ浦潮官憲ノ態度改善方此上トモ「カラハン」ニ於テ十分配慮アリタキ旨ヲ申入レ尚本件ニ付テハ委細島田領事ヨリ聴取ノ上然ルヘク取計ハレタキ旨ヲ付言シ又貴電第二〇〇号ノ趣旨ニ付テモ篤ト之ヲ説明シタル処「カ」ハ浦潮官憲ノ態度ニ関スル材料ハ自分ニ取リテモ参考トナルヘク不愉快ナル事ナキ様十分注意スヘシ但シ日露交渉ニ関シ日本側カ常ニ其ノ成功ヲ容易ナラシムル様努力シ居ルニ反シ露国側ニ於テハ毫モ努力シ居ラサルカ如クニ聞コエクルハ甚タ遺憾ナリ又「ポチヤギン」ノ金ノ件ニ関シテハ露国国庫ニ帰スヘキ性質ニ顧ミ其ノ裁判ノ中止方御配慮アリ然ルヘキニ拘ハラス単ニ司法省ヨリノ通知ヲ取次カレタルニ過キサルハ遺憾トスル所ナリ又「ベッサラビヤ」問題ハ四大国カ露国ニ対シ敵意ヲ有セル時代ニ決定セラレタル所ナルヲ以テ之ヲ日本政府ニ申入レタルハ以テ日本ノ露国ニ対スル態度ヲ窺知スルノ材料トセンカ為ナリシ処本問題ニ関シ毫モ利害関係ナキ日本カ露国側ニ対シ今尚何等ノ回答ヲ為スニ至ラサルカ偶々日本ノ露国ニ対スル感情如何ヲ推察スルニ足ル次第ナリ就テハ露国側ノ重要視スル右二問題ニ対シ日本政府ニ於テモ格段ノ考慮ヲ煩ハス様希望ニ堪ヘサル旨ヲ述ヘタルカ本使ハ「ポチヤギン」ノ金ノ件ニ関スル日本政府ノ回答ヲ不満足ナリトスル趣ナルモ本件カ司法官憲ノ手ニアル間ハ外務省ノ如キ行政官庁ノ干与シ得ヘキ所ニアラス併シ浦潮領事館員ニ対スル課税並待遇問題ノ如キハ拘禁問題ト同様斉シク人間生活上ノ自由ニ関スル問題ニシテ金銭問題ヨリモ遙カニ重要ナルハ勿論其ノ性質上一刻モ速ニ解決セラレサルヘカラサル人道上ノ問題タリ「ベッサラビヤ」問題ニ付テハ東京ヨリ回答アリ次第之カ伝達ヲ怠ラサルヘキモ抑モ露国側カ本問題ヲ提出セル動機カ貴説ノ如ク之ヲ以テ日本ノ露国ニ対スル態度ヲ窺ハントセルモノナルニ於テハ甚タ遺憾トセサルヲ得ス蓋シ日本ハ「ベッサラビヤ」ニ対シ特殊ノ利害ナシト雖本問題ハ兎ニ角曩ニ列国間ニ於テ決定セラレタル所ニ属ス併モ日露交渉ヲ進ムヘキヤ否ヤノ重大時機ニ際シ故意ニ本問題ヲ日本ノ態度ヲ探クルノ材料ト為サントスルカ如キハ謂ハハ無理ヲ謂ヒ出タルモノト目スヘク即チ日露交渉ノ一ノ牽制策ト為サンカ為ノ権略ニ基ケルモノト認メサルヲ得サルハ甚タ遺憾ナリト述ヘタル処「カ」ハ

「ベッサラビヤ」問題ニ付テハ莫斯科トシテハ右様ノ意味合モアリタルコトナルモ偶々仏国ノ批准ヲ見且日本亦近ク批准スヘシト喧伝セラレタル為時機ヲ顧ミルノ暇ナカリシ旨ヲ弁疏シ次テ再三委任状ニ関スル日本政府ノ回答ニ接シ得ヘキ時機ニ付推問スル所アリタリ本使ハ往電第二七六号末尾ノ通リ答ヘ置ケリ

三三五　四月十五日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

数日前ノ芳沢・カラハン会談ノ模様ニ付キ新聞記者ヘノ説明ノ要旨通報ノ件

第二一八号
貴使「カラハン」間ニ於ケル八日、九日及十日ノ会談ニ関シ御報告ニ接シタル処新聞記者等ニ対シテハ右三日ノ会談ニ於テ先方ハ頻リニ一般交渉ニ入ラムコトヲ希望スルノ意向ヲ表明セルモ貴使ニ於テハ両国間ニ拘禁事件ノ如キ不愉快ナル問題ノ存スル限リ一般交渉問題ニ付円満ニ商議ヲ進行スル能ハサルヘキニ付先方ニ於テ速ニ此ノ障碍ヲ除去セムコトヲ主張セラレタル旨並右ノ結果ハ双方共ニ各政府ニ報告スヘク唯今ノ所貴使ヨリハ報告ハアリタルモ未タ請訓ニハ接セストノ趣旨ニテ適宜説明シ居リ先方ノ提起シタル委任状問題ニ付テハ之ヲ厳秘ニ付シ居ルニ付右御含ミ置アリタシ

三三六　四月十六日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

委任状問題ニ対スルカラハンノ誤解ヲ除キ交渉ノ進捗ニ努力スルヨウ訓電ノ件

第二二三号
本月八、九、十日ノ会談ニ関スル御報告ニ依レハ貴使ニ於テ折角種々御尽力相成居ルニ不拘露国側ニ於テハ被拘禁者釈放ニ関シ何等確答ヲ与ヘサルノミナラス一般交渉問題ニ付テモ先ツ委任状ノ提示ヲ求メ我方提案ニ対シ未タ充分明確ナル回答ヲ与ヘサル次第ナル処右ハ或ハ「カラハン」ニ於テ何等カ背後ノ勢力ニ依リテ誤ラレ我方立場ヲ誤算セルノ結果ニアラスヤトモ想像セラレサルニ非ス例ヘハ「ロスタ」通信員ノ如キカ清浦内閣ハ早晩更迭スヘシトカ又ハ日本現政府ニテハ対露問題ヲ解決シ労農政府ヲ承認スルノ決心ナシト云フカ如キ誤レル観察ヲ下シ本邦二三新聞紙ニモ亦往々此種ノ記事ヲ掲載セルモノアル等ノ事実ヨリシテ貴

使「カラハン」問ノ交渉ノ前途ヲ危フミ又ハ我方真意ノ存スル所ヲ曲解シ我方ニ交渉ヲ成立セシムルノ誠意アルヤヲ疑ヘルカ如キコトニ原因スルニアラスヤトモ想像セラルルニヨリ貴使ハ本大臣ノ訓令トシテ日露関係ノ緊要ナルニ顧ミ速ニ両国間ニ修好関係ヲ樹立セシムルハ日本政府ノ素志ニシテ今猶渝ルコトナキハ現ニ貴使カ本大臣ノ意図ヲ体シ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ交渉ノ成立ニ努力シツツアル事実ニ徴スルモ明瞭ナル次第ニシテ「カラハン」氏ニ於テ毫モ之ヲ疑フヲ要セス只最近莫斯科ニテハ日本羅馬尼間又ハ日仏間ニ同盟説ヲ流布スル等露国側ニ於テ何等カ我方誠意ヲ疑ヘルカ如キ態度ヲ示セルモ此等ハ全然事実無根ノ浮説ニシテ露国側ノ杞憂ニ過キス将又「カラハン」氏ノ提起セル委任状問題ノ如キモ我方ニ於テハ従来欧米諸国ト政治、通商ニ関スル条約ヲ締結スル際ニモ多クハ先ツ予備的非公式商議ニ依リテ交渉ヲ遂ケ協定略々成立スルニ至リテ初メテ全権委任状ヲ与ヘ以テ正式ニ取極ムルヲ例トシ居ル次第ニシテ従テ今回貴使ト「カラハン」氏トノ間ノ交渉ノ如キモ双方ノ意見大体纏リ協定成立ノ見込ツクニ至ラハ何時ニテモ全権委任状ヲ付与シ該協定ヲ確定センコトヲ欲スル次シ「カラハン」ニ会見シ露国側カ本邦罹災民ニ対スル利権提供撤回ト相前後シテ帝国領事ノ職務執行ヲ否認シ日露間郵便物ノ交換ヲ停止スル等ノ措置ニ出テタルコトハ露国カ此ノ種措置ヲ以テ正式交渉若クハ承認ヲ促進シ得ヘシトナスモノナリトノ感想ヲ与フル処斯ノ如キ措置ハ今日迄両国間ニ存在スル関係ヲ悪化スルモノニシテ却テ正式交渉ノ再開乃至国交復旧ノ如キ機運ヲ逸スルノ結果ヲ招致スルナキヲ保セスト述ヘ右否認ヲ撤回センコトヲ求メタルニ「カラハン」ハ莫斯科ニ請訓ノ上回答アリ次第通知スヘキ旨約束シ尚日本領事ノ浦潮駐在ハ一方的ニシテ沿海州地方民ノ反対モアリ莫斯科ニ於テ果シテ日本ノ要求ヲ容ルルヤ否ヤ疑問ナリト付言セリ

三月一日芳沢公使ハ二月二十九日付訓令ノ趣旨ニ基キ「カラハン」ニ会見シ露国側ニ於テ帝国領事ノ職務執行ヲ認ムルト共ニ同様ノ自国官吏ヲ日本ニ派遣センコトヲ「サゼスト」シタル処「カラハン」ハ右莫斯科ニ請訓ノ上何分ノ回答ヲナスヘキ旨約束シタルモ莫斯科ハ之ニ応セサルヘシト付言セリ

三月七日「カラハン」ハ芳沢公使ヲ訪問シ本件莫斯科ニ於

第ニテ殊ニ日露交渉ニ関シテハ是迄既ニ三回モ会議ヲ開キテ不結果ニ終リシ行懸モアリ此ノ上更ニ今回モ亦同様ノ結果ヲ繰返ヘスカ如キコトトナラハ益々日露間ノ関係ヲ悪化スルノミナレハ我政府トシテハ特ニ此点ニ深ク思ヲ致シ出来得ル限リ世間ノ視聴ヲ避ケ貴使ト「カラハン」氏トノ間ニ可成角立タサル方法ニヨリ腹蔵ナキ意見ノ交換ヲナサシメ何等カ両国政府ノ意見ノ一致点ヲ発見セシメンコトヲ期スル次第ナレハ万一「カラハン」氏ニ於テ何等誤解等ヲ懐抱シ居ルニ於テハ断然之ヲ一掃セラルルト共ニ成ルヘク速ニ協議ヲ纏ムルコトト致度前述ノ趣旨ハ既ニ貴官ヨリ屢次御話相成居ル次第ナルモ尚本大臣ノ意見ナリトシテ篤ト御説明相成先方応酬振電報アリ度シ

三三七　四月十七日　欧米局作成調書
北京ニ於テ交渉中ノ日露諸問題経過概要

在浦潮帝国総領事館否認問題

二月二十四日芳沢公使ハ（二月二十日付）政府ノ訓令ヲ体テ慎重審議ノ結果帝国領事ニ対スル職務執行否認ヲ取消スコト並領事ニ代ハルヘキ露国官吏ヲ本邦ニ駐在セシムルコトハ乍遺憾之ヲ拒絶スルコトニ決定セル旨並莫斯科ハ法律上ノ根拠ナキ此種代表者ノ交換ハ両国ノ重要ナル利益ヲ擁護スルニ足ラサルニ依リ正式関係ノ樹立迄俟ツノ外ナシト思考スル旨述ヘタリ右ニ対シ芳沢公使ヨリ再考ヲ求メタル結果「カラハン」ハ更ニ本国政府ニ請訓スヘキコトヲ約セリ

三月十九日芳沢公使ハ「カラハン」ニ対シ本件何分ノ儀莫斯科ヨリ回答アルヘキモ日露交渉ヲシテ最モ急速ニ成立セシメ得ルニ於テハ帝国政府ノ意向ハ兎モ角同公使ノ私見トシテハ必スシモ日露交渉開始ト同時ニ即刻解決ヲ迫ル趣旨ニアラサル旨述ヘタリ

日露間郵便交換停止問題

本件ニ関シ芳沢公使ハ二月二十日付訓令ノ趣旨ニ基キ二月二十四日「カラハン」ト会見ヲ遂ケ多年日露間ニ行ハレ来リタル郵便交換ヲ突如停止スルカ如キハ殆ト時ヲ同ウシテ発生セル他ノ事件ト共ニ之ヲ以テ日本ヲ正式交渉乃至承認

ノ止ムナキニ立チ至ラシメントスル術策ト解セラレ是迄日露両国間ニ存在セル関係ヲ悪化スルモノナルコトヲ述ヘ速カニ郵便交換ノ復旧ヲ要求シタルニ「カラハン」ハ右莫斯科政府ニ取次キ結果通報スヘキ旨ヲ約セリ依テ三月七日芳沢公使ハ「カラハン」ト会見ノ機会ニ於テ労農政府ノ回答如何ヲ質シタルニ同人ハ莫斯科政府ニ於テハ本件直接何等関知スル処ナク目下浦潮官憲ニ詳細照会中ナル趣回答ニ接シタル旨並同人カ浦潮ヨリ得タル情報ニヨレハ本件ハ何等カ技術上ノ問題ニ関スル感情ノ齟齬ニ出テタルモノノ如ク既ニ両国当局者間ニ談合進行中ナルヤノ趣ニ付既ニ円満解決ヲ見タルヘシト考ヘ居ル旨ヲ答ヘタル趣ナリシモ其ノ後何等解決ノ曙光見エサルニ依リ本件交渉方ニ関シ三月十八日更ニ芳沢公使ニ訓令シ同公使ハ三月十九日「カラハン」ニ対シ本件実際ニ於テ何等解決セラレタル次第ニアラサルコトヲ指摘シ本件ノ如キハ相互ノ便益ナルニ顧ミルモ可成速ニ満足ナル解決ヲ見ル様致度キ旨ヲ申入レタリ

在浦潮及「ブラゴヴェシチェンスク」邦人拘禁事件

芳沢公使ハ在浦潮松井陸軍大尉及同官通訳二名二月二十六日同地露国官憲ノ為拘禁セラレタリトノ東方電報アルニ付右事実ノ有無「カラハン」ニ確メ事実ナルニ於テハ其ノ理由ノ説明ヲ求メタルカ其後至急釈放方要求ニ関スル二月二十九日付訓令ニ接シタルヲ以テ三月一日更ニ「カラハン」ニ会見シ右ノ趣旨ヲ申入レ且同趣旨記載ノ覚書ヲ手交シタルニ同人ハ本件何等報告ニ接シ居ラサル旨ヲ述ヘ至急浦潮ニ照会結果通知スヘキ旨並釈放方出来得ル限リ尽力スヘキ旨ヲ約セリ然ルニ其後在浦潮渡辺総領事代理ヨリノ電報ニ依リ前記三名ノ外郡司副領事、小坂部通訳生、治田属、蓑妻海軍少佐外在留邦人十一名拘禁セラレタルコト判明シタルニヨリ三月一日更ニ同公使宛「カラハン」ニ対シ本件拘禁ノ理由ノ説明ヲ求ムルト共ニ被拘禁者全部ノ至急釈放方ヲ申入レ尚露国側ニ於テ日露間ノ現存関係迄モ断絶セントスル意向ナリヤ果シテ然リトセハ我方ニ於テモ之ニ対抗スヘキ方法ヲ執ルノ外ナク事甚タ重大ナル旨ヲ以テ厳重先方ノ反省ヲ促スヘキ旨訓令セリ

芳沢公使ハ三月二日黒沢書記官ヲ「カラハン」方ニ遣ハシ本件抗議ヲ申入ルルト共ニ翌三日直接同人ト会見シ本件厳重抗議ヲ申入レタルニ「カラハン」ハ三月二日不取敢従来

公ノ資格ヲ有スル者ハ拘禁理由ノ如何ヲ問ハス直ニ釈放方浦潮官憲ニ申遣シタルモ私人ハ国法ニヨリ拘禁セラレタルモノナレハ一応莫斯科ニ稟請スヘシト答ヘ又公ノ資格ヲ有スルモノノ中ニハ軍人ヲ含マサル旨説明セリ

三月七日芳沢公使ハ三月四日ノ訓令ニ基キ「カラハン」ニ会見シ本件ニ関スル莫斯科政府ノ回答如何ヲ質シタルニ所謂公ノ資格ヲ有スルモノノ釈放ニハ同政府ニ於テモ異存ナク只私人ニ付テハ其ノ罪名ノ重大ナルニ顧ミ莫斯科ニ於テ本件材料ヲ取寄セ決定ノ筈ニ付幾分長引クヲ免カレサルヘク尤モ日本政府ニ於テ拘禁者ニ於テ裁判ヲ避クル為逃亡スルコトナシトノ保障ヲ与ヘ得ルニ於テハ決定前或ハ釈放スルコトモ出来得ヘシト思考スル旨答ヘタリ

依テ芳沢公使ハ漠然タル嫌疑ニヨリ多数邦人ヲ拘禁シタルコトハ国交上重大ノ影響ヲ招致スルナキヤヲ虞ルルニ付速ニ釈放方莫斯科ニ稟請方重ネテ要求シタルニ「カラハン」ハ単ニ嫌疑ニ止マル場合ハ両国々交ノ将来ニ顧ミ成ルヘク有利ナル解決方ヲ稟請スヘシト答ヘタリ

三月十日芳沢公使ハ「カラハン」トノ会見ニ於テ本件ニ言及シタルニ同人ハ本件ノ如キ国内法ニヨル厳正ナル裁判手続ヲ行フニ於テハ随分時日ヲ要スル儀ナルカ承認トナラハ同時ニ日本側ニ引渡サレ問題ハ自然ニ解決スヘキモノト思考セラルル旨述ヘタルニ依リ芳沢公使ハ拘禁事件ハ承認ト関係ナク急速解決スヘキ問題ナリト主張セリ

三月十五日芳沢公使ハ三月十三日付訓令ニ基キ「カラハン」ニ会見シ領事館員ノ如キハ「カラハン」ニ於テ釈放方ヲ声明シ莫斯科ニ於テモ異議ナシトノコトナルニ今尚釈放セラレサルハ心外ナリト述ヘ至急釈放ヲ要求シタルニ「カラハン」ハ右ハ何等カノ行違ナルヘシ早速浦潮ニ電報スヘシト言明セリ

次ニ芳沢公使ハ蓑妻、松井ノ両武官モ同様帝国官吏ニシテ露国官憲ニ浦潮滞在ノ目的ヲ明ニシ且其ノ諒解ノ下ニ滞在シ居リタルモノニシテ何等陰謀等ニ関係スル筈ナシトテ強硬ニ其ノ釈放ヲ求ムルト共ニ帝国政府ハ官吏ニ対シ保障ヲ与フルニ異議ナキコト並私人ノ至急釈放モ依然要求シテ止マサル旨述ヘタルニ「カラハン」ハ右保障ノ点ハ莫斯科ニ伝フヘシト答ヘ私人ハ国内法ノ問題トシテ之カ釈放困難ナルヘキモ再応莫斯科ニ稟請スヘシト答ヘタリ

（因ニ領事館員三名在留邦人四名ハ三月十五、十六ノ両

日ニ至リ釈放セラレ領事館員三名ハ同時ニ追放セラレタリ）

三月十九日芳沢公使ハ三月十七日付訓令ニ基キ「カラハン」ト会見シ養妻、松井ハ今以テ釈放セラレサル模様ナル処本件ハ最モ重大視スル所ナルヲ以テ大至急釈放方「カラハン」ノ最善ノ努力ヲ希望シ本件ノ解決ヲ見サルニ於テハ国交樹立ニ関スル談合ヲ進ムルコト能ハサル旨明ニ断リ置ク旨ヲ述ヘタルニ翌二十日「カラハン」ハ浦潮事件ハ地方的問題ニシテ日露間ノ根本問題解決スルニ於テハ自然ニ解決スヘキモノナリトテ根本問題ニ関スル談合ヲ進メンコトヲ求メタルニヨリ芳沢公使ハ「カラハン」ニ於テ被拘禁者ノ釈放方ニ付最善ノ努力ヲ為ス旨承認スルニ於テハ一般問題ニ転シ得ヘシト答ヘ「カラハン」之ヲ承引セリ

三月二十六日芳沢公使ハ「カラハン」ト会見シ同人ノ声明ニ拘ラス未タ養妻、松井両武官等ノ釈放ヲ見サルコトニ付注意ヲ喚起スルト共ニ三月二十四日ノ訓令ニ基キ最近又々「ブラゴヴェシチェンスク」ニ於テ二名ノ邦人拘禁セラレタル事件並在浦潮渡辺領事使用支那人二名拘禁セラレタル事件ニ付至急釈放方措置ヲ講センコトヲ求メタリ（因ニ

「ブラゴヴェシチェンスク」ニ於テ拘禁セラレタル邦人二名ハ四月一日釈放ト共ニ追放セラレ支那人二名ハ四月十一日釈放セラレタリ）

之ニ対シ「カラハン」ハ同人声明ニ関シテハ約束通リ莫斯科ニ電報シタルモ未タ回答ナシト答ヘタリ

三月二十九日芳沢公使ハ三月二十六日付訓令ニ基キ「カラハン」ト会見シ拘禁事件解決セサル限リ一般交渉ヲ進ムルコト能ハサル事情ニアリト述ヘタルニ「カラハン」ハ右本国政府ニ取次クヘキモ交渉成立二三日前ニ至ラハ釈放スルモ可ナリト思考シ居レル旨又国交樹立ノコトトナラハ其ノ瞬間ニ釈放スヘキコトハ政府ノ名ニ於テ今ヨリ保障シ得ヘシト述ヘ国交恢復セサル限リ釈放困難ナル旨仄セリ

四月八日「カラハン」ハ芳沢公使ヲ来訪シ莫斯科ノ訓令トシテ拘禁事件ヲ交渉ノ前提条件トナスコトニハ応シ難キ旨本件ハ一般問題ヨリ除外セラレ度キコトヲ申出テタリ依テ芳沢公使ハ本件ヲ一般問題ヨリ除外スル時ハ速ニ釈放ヲ見ルモノナルニ於テハ前提条件トナスノ必要ナク尠クトモ軍人二名ノ釈放ヲ速カニ実現スル莫斯科ノ内意ナルニ於テハ一般問題ニ関係セシメサルモ可ナルモ釈放ハ絶対必要ナリ

ト主張セリ

「ポチャギン」保管金問題

三月二十四日「カラハン」ハ芳沢公使ニ対シ「ポチャギン」保管ニカカル百万余円ハ「セメノフ」ヨリノ訴訟ニヨリ二月二十五日日本裁判ニ於テ「セメノフ」ニ交付スルコトニ決定シタル由ナルカ右ハ何トカ交付セラレサル様取計ハレタク又右保管金ノ正確ナル金額承知致度キ旨島田領事ヲ経テ申出テアリタル趣ヲ以テ同公使ヨリ本件事情問合セアリ依テ本件司法省ニ確メタル処本件訴訟ハ今猶裁判所ニ繋属中ニシテ前記ノ如キ決定ヲナシタルコトナキコト尚金額ハ百六万余円ナルコト判明シタルヲ以テ右四月四日芳沢公使ニ電報シ同公使ハ四月五日島田領事ヲシテ之ヲ「カラハン」ニ伝達セシメタルニ同人ハ之ヲ感謝スルト共ニ本件金ハ露国々庫ノモノナルヲ以テ追テ承認セラレタル露国政府ノ出来ル迄何人ニモ交付セラレサル様日本政府ニ於テ措置セラレンコトヲ希望スル旨重ネテ申出テタル趣ナリシカ四月十日芳沢公使同人ト会見ノ折同人ヨリ再ヒ右金ハ露国国庫ニ帰スヘキ性質ニ顧ミ其ノ裁判ノ中止方配慮アリ然ルヘキニ拘ラス単ニ司法省ヨリノ通知ヲ取次カレタルニ過キサルハ遺憾ナル旨並本件ハ露国側ノ重要視スル問題ナルニ付日本政府ニ於テ格別ノ考慮ヲ煩ハス様希望ニ不堪旨述ヘタルニヨリ同公使ハ日本政府ノ回答ヲ以テ不満足ナリトスル趣ナルモ本件カ司法官憲ノ手ニアル間ハ外務省ノ如キ行政官庁ノ干与シ得ヘキ所ニアラスト応答シ置ケル趣ナリ

「ベッサラビヤ」問題

三月二十六日ノ会見ニ於テ「カラハン」ハ芳沢公使ニ対シ羅馬尼ノ「ベッサラビア」併合ニ対シ列国カ承認ヲ与ヘ仏国ノ如キハ既ニ批准セルヤニ承知シ日本モ亦之ニ批准セントスル趣ナル処本件ハ労農政府ノ非常ニ重大視スル処ニシテ日本ノ右併合承認ハ労農政府ニ対スル非友好的態度ト解釈セラルヘキニ付余リ利害関係ナキ日本ニ於テ本件ニ付反労農的態度ニ出ツルコトナキ様同公使ヲ通シ日本政府ノ注意ヲ喚起スル様本国政府ノ訓令ニ接シタル趣ヲ以テ右ニ対スル日本政府ノ回答ヲ得ル様特ニ取計ハレ度キ旨申入ルル処アリシ由ナルモ帝国政府ハ諸般ノ関係ニ鑑ミ本件ニ関シ何等回答ヲ与ヘサリシ処四月十日ノ会見ニ於テ「カラハ

ン」ハ芳沢公使ニ対シ重ネテ本件ノ如キ日本ノ利害関係ナキ問題ニ対シ今尚回答ヲ与ヘラレサルハ日本ノ対露感情ヲ推察スルニ足ル旨並本件ハ露国ノ重要視スル問題ナルニ依リ日本政府ニ於テ格別ノ考慮ヲ払ハルル様希望ニ堪エサル旨ヲ述ヘ同公使ハ之ニ対シ本国政府ノ回答アリ次第之ヲ伝達スヘキ旨応答シ置ケル由ナリ

在浦潮帝国総領事館員課税問題

在浦潮渡辺総領事代理ヨリ四月一日付ヲ以テ三月十九日同地税務官ヨリ同官以下館員一同ニ対シ所得及財産状態ヲ三日以内ニ申告スヘキ旨通達アリタルニヨリ現状上一応之ニ応シ置キタル処右ハ本年四月迄半ケ年ノ所得税及地方付加税徴収ノ為ナル旨判明セルヲ以テ当局ニ抗議シ置キタルモ何等応諾ノ色ナキ旨電報アリタル処現在ノ事態ニ於テ全然課税ヲ免除セシムルコトハ不可能ナルヘキモ露国側カ同官等ニ対シテ事実上職務執行ヲ認メタル二月十二日以前ニ溯リ課税スルハ理由ナキ次第ナルニ依リ少クトモ同日以前ニ対シテハ課税ヲ免除セシムルコト当然ナルヲ以テ右ノ趣旨ヲ以テ「カラハン」ニ申入方四月五日芳沢公使ニ訓令シ同

公使ハ四月九日「カラハン」トノ会見ニ於テ本件合理的ニ措置セラレ度キ旨申入レタル処同人ハ追テ回答スヘキ旨述ヘタル趣ナリ

三三八　四月二十三日(着)　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

ベッサラビア及ビ委任状問題ナドヲメグルカラハントノ意見応酬ニ付キ報告ノ件

第二八九号　極秘

貴電第二二三号ニ関シ

四月十九日「カラハン」ヲ訪問シ貴電内訓令トシテ云々以下ハ閣下ノ御訓令トシテ之ヲ説明スルト共ニ貴電前段ノ主旨ハ之ヲ本使ノ有スル感情ニ基ク感想トシテ付言シタル処「カ」ハ羅馬尼トノ同盟説否認ハ「ベッサラビア」問題ニ対スル日本側ノ回答ト見做スヘキヤト反問セルニ付キ本使ニ於テ斯ノ如キ同盟説流布セラレ日露交渉ニ対スル日本ノ心事ヲ疑フモノノ如クナルモ其無稽ナルヲ説明セルニ過キスト述ヘ今去十日(?)ノ会見ニ於テモ述ヘタルカ如ク露国側ニ於テハ日露交渉トハ何等関係ナキ本問題ヲ提起シ其解決如何ニ依リテハ日露交渉ヲモ中止セントノ意向トモ見受ケラレサルニアラサル処果シテ然ラハ斯ノ如キ露国側ノ態度ニ対シ本国政府ニ報告ノ必要アル旨ヲ告ケタルニ「カ」ハ本問題ハ全然一般交渉ト関係ナキ別個ノ問題ナル旨ヲ弁明セリ依テ本使ヨリ本件ニ関シテハ未タ政府ヨリ何等ノ回答ナキモ本使ノ考フル所ニ依レハ日本カ欧州諸国ト諸問題ヲ討議スルニ方リ英仏等ノ締盟国ト同一歩調ヲ取ルハ極メテ自然ノ成行ニシテ当時露国ト国交関係ナキ日本カ締盟諸国トノ協調ヲ維持センカ為決定セル「ベッサラビヤ」問題等ニ付今日突然露国ノ利益ヲ考慮セサルハ非友誼的ナリト非難セラルルハ日本側ノ立場ヲ顧ミサルモノニシテ日本政府トシテ誠ニ迷惑ヲ感スル次第ナルヘク従テ仮令本問題カ露国ノ為不利益ニ決定セラルルコトアリトモ之カ為日本ヲ責ムルノ無理ナルコトハ「カ」氏カ仮ニ日本側ノ立場ニ立ッテ考レハ能ク諒解セラルヘキ旨ヲ説示セルニ「カ」ハ日本カ連合諸国ト歩調ヲ共ニスルハ尤モナルモ是レ日露間ニ何等ノ関係ナカリシ時代ノコトニシテ「プロトコール」決定後数年ノ今日殊ニ日露ノ関係漸ク接近セントシツツアル際批准ノ挙ニ出ツルニ対シテハ露国トシテハ不愉快ノ念ヲ禁セサル所ナルヲ以テ尚本使ヨリ然ルヘク露国側ノ感情ヲ本国政府ニ伝達アリタキ旨ヲ述ヘタルニ付要スルニ本使トシテハ本問題ノ為日露交渉ニ累ヲ及ホスハ面白カラスト思考スルカ為一応ノ弁明ヲ為セルニ過キス露国側ノ感触ノ点ハ政府ニ申伝ヘ置クヘシ就テハ本問題ハ暫ク之ヲ置キ前述外務大臣ノ訓令ニ対スル貴見如何ト質シタルニ「カ」ハ重ネテ露国側カ「ベッサラビヤ」問題ニ付兎ヤ角謂フ所以ノモノハ今日露国領土ニシテ外国ノ占領ノ下ニ在ルハ右地方ト北樺太ニシテ日本カ「右」地方ノ併合ニ対シ承認ヲ与ヘラルルハ露国ニ対シ甚タ面白カラサル印象ヲ与フヘキカ為ナリト弁明シ、次イデ日本政府ハ諸外国トノ協約締結ニ際シ多クノ場合大体ノ協定ヲ遂ケタル後委任状ヲ出スヲ慣例トスル趣ナルモ之レ必スシモ日本ノ一貫セル慣例ニ非スト思ハル尤モ相互ニ承認セル国家間若ハ大臣ト外国大公使間ト云フカ如キ場合ナラハ非公式ノ談判ヲ遂ケタル上調印ノ間際ニ全権委任状ヲ出タスモ違例ニ非サルヘシ而モ承認国家間ト雖モ「ベルサイユ」華府「ジェノア」等ノ会議ニ当リテハ略委任状ヲ出タシ又日露間過去三回ノ会議ニ於テモ皆委任状ヲ出タシタリ交渉ニシテ比較的重要ナラサル問題ニ関スルモノナレハ兎モ角国交樹立ト云フカ如キ重大問題ヲ論

議セントスルニ当リ本件日本側ノ主張ハ果シテ妥当ナリヤ否ヤヲ疑フ又今次日露交渉問題ハ第三国ノ北京ニ於テ偶然起リタルモノニシテ其ノ衝ニ当ラントスルモノカ茲ニ如何ナル権限資格ヲ有スルモノナリヤヲ明カニシテ之ヲ行フ事当然ニシテ殊ニ日本ハ極東共和国ト云フカ如キ貧弱ナル国トノ交渉ニ際シテモ委任状ヲ出タシタリ今回ノ話合ヒニシテ其ノ必要無シト為スハ話ノ模様ニ依リテハ直ニ調印シ得トノ信念ニ基ク意気込ミヲ沮喪セシメ将来ノ話ノ進行ニ悪影響ヲ及ホス虞アリ是等ノ諸点ニ顧ルモ日本側カ何故ニ斯ク迄強硬ニ委任状ノ不要ヲ固執スルカ了解ニ苦ム所ナリ尤モ日本側ノ意ハ目立タヌ様ニシテ交渉ヲ促進セシメントスルニ外ナラスシテ絶対ニ委任状ノ必要ナシト謂フニアラサルヲ以テ本件ハ未タ確定ニ至ラサルモノト解釈シ日本政府ニ於テ再考スル様本使何分ノ尽力ヲ請フ旨ヲ縷述セリ、本使ハ右ニ対シ貴意ハ外務大臣ニ伝達スヘキモ貴説ノ趣旨ハ要スルニ㈠日露交渉ハ極メテ重大問題ナルヲ以テ最初ヨリ委任状ヲ交換スルヲ可ト為スモノナル処重大問題ノ交渉ニ際シ当初ヨリ委任状ヲ出スコトナク之ヲ行ハルル例鮮カラス又委任状ノ有無ハ交渉ノ成否ヲ左右スルモノニアラサルハ前三回ノ日露会議ノ能ク証明スル所ナリ今回ハ徹頭徹尾之ヲ出サスト謂フニアラス現ニ外務大臣ヨリ大体話合成立ノ見込サヘ立タハ何時ニテモ之ヲ出スヘキ旨訓令ニ接シ居ル次第ナリ㈡委任状ナクシテ話合ヲ為スハ真面目ヲ欠キ気乗リセストノコトナルモ今回討議開始以来互ニ真面目ヲ欠クノ嫌アリト認メラレタルコト毫モ之ナク今後ト雖交渉ノ成功ヲ期セントスル双方ノ気合ハ委任状ノ有無ニ依リ差異ナカルヘク又本使ハ素ヨリ露国ニ駐剳スルモノニ在ラスト雖日本ノ政府ノ訓令ニ基キ極メテ真面目ニ交渉ノ衝ニ当ルモノナル点ニ就テハ御懸念ヲ要セス、又日本政府ハ何故ニ委任状ノ不必要ヲ頑強ニ固執スルカ了解ニ苦シムト云ハルルモ日本政府トシテハ莫斯科政府ハ何故ニ斯ク頑強ニ委任状ノ必要ヲ固執スルヤト反問セサルヲ得サル可シ委任状ノ如キハ単ニ形式ニ過キス要ハ当事者ノ誠意ニ在リト反覆セルニ「カ」ハ日本政府ニ対シテハ国際慣例上現ニ日本ノ実行シ居ル処ヲ求ムルニ過キス之ニ対シ特ニ反対スルハ日本トシテ具合悪シキニアラサルヤト述ヘ本使ヨリ重ネテ委任状ヲ出スハ凡テノ場合ニ於ケル国際慣例ニアラサルコト、夫ハ日本ノミナラス露国ニ於テモ其ノ例ナキニアラサルコト談合纏マルヘキ見込立タハ直ニ之ヲ出スニ異存ナキ趣旨ナルコトヲ反覆説明セルカ「カ」ハ新聞ニ現ハレタル外務大臣ノ会見談ニ依レハ日本政府ハ露国カ誠意ヲ披露シ更ニ譲歩的態度ニ出ツルニアラサレハ承認ハ勿論正式交渉開始ニモ応シ難シトノコトニテ右ハ莫斯科ニモ伝ハリ居リ其ノ上委任状ヲ出スコトモ拒絶スルトセハ益々露国政府ノ疑惑ヲ深クスルヲ免カレス之ニ反シ委任状ヲ以テ交渉ヲ進ムルニ於テハ条文ノ字句等ノ点迄真面目ニ論及シ得ヘク又右ノ如ク新聞記事ノ為日本ノ真意ニ対シ疑惑ヲ生スルカ如キコトナカルヘシ就テハ自分トシテハ日本政府ノ心底ヲ諒解シ居ルモ莫斯科ノ懸念ヲ除去スル為ニハ矢張リ委任状ヲ出ス様御尽力ヲ切望スル旨ヲ繰リ返セリ依テ本使ハ御意見ハ之ヲ政府ニ報告スヘキ旨ヲ答ヘ前記閣下ノ会見談ノ点ニ関シテハ従来トモ誤報ノ伝ハリタル例アルヲ指摘シ仮リニ右会見談ニシテ事実ナリトスルモ本使ノ想像ヲ以テ解釈スレハ右ハ極メテ巧妙ナル世間瞞著ノ手段ナリト考フルヲ得ヘシ蓋シ日本国内ニハ今尚日露交渉反対論者モ鮮カラス然ルニ浦潮拘禁事件ノ解決カ茲暫遷延ヲ重ネ居ル今日一般的交渉ノ促進ニ付反対論ノ妨害ヲ蒙ラサランカ為ニハ表面上斯ノ如キ（脱）コト極メテ必要ナリ尚茲ニ「カ」氏トノ懇親関係ニ顧ミ極メテ打開ケタル話ヲ為サンニ仄聞スル所ニ依レハ露国内閣モ我ノ交渉ヲ失敗ニ帰セシメントシ居ルモノアルヤノ趣ナルカ本使ハ切ニ斯ノ如キ情報ノ誤ナランコトヲ望ミ兎ニ角交渉ノ歩ヲ進メテ速ニ調印シ得ル域ニ達センコトヲ希望シ居ルモノナル旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ聊カ当惑シタル面色ニテ自分ニ対スル反対分子カ日本トノ談合ニモ反対シ譲歩スヘカラスト説クモノアリ自分トシテ日本ハ今回ハ真面目ナリト云ヒ居ル関係トシテ万一失敗スルコトアランカ是レニ乗シテ日本ノ不真面目ヲ鳴ラシテ対日関係ヲ険悪ナラシメントスルモノアリ然ルニ自分ハ日露交渉ヲ成功セシムルコトヲ名誉トモ考ヘ常ニ正確ナル情報ヲ莫斯科ニ伝フルニ努メ居レリト答ヘ尚外務大臣ノ会見談ハ御説明ノ通リ手段トシテナサレタルモノナル可シトノ解釈ハ交渉ヲ秘密ニスル目的至極尤モト思考ス可ク莫斯科トシテハ日本カ委任状サヘ出サルレハ如何ナル情報ニモ誤ラルルコトナカル可シトテ重ネテ其ノ必要ヲ繰返シ本使ヨリ兎ニ角御話ノ趣旨ハ伝達シ置ク可キヲ答ヘ次テ試ニ「カ」ニ対シ本使偶然ノ思付ナルモ元来今回ノ交渉ニ付テハ浦潮拘禁事件

カ甚大ナル累ヲ及ホシ居リ殊ニ最近同地ヨリノ情報（往電第二二〇号）ニ依レハ愈々裁判ニ付シ不日収監ノ筈ナリトノコトナル処斯クテハ益々民間ノ感情ヲ刺戟スルコトトナル可ク就テハ少クモ軍人二名ハ此際釈放スルコトトシ得サルヤ若シ其ノ釈放ニシテ実現セハ委任状ノコトニ関シテハ本使ヨリ進ンテ政府ニ上申スヘシト述ヘタルニ「カ」ハ拘禁事件カ交渉問題ト別箇ノ問題トシテ取扱ハレタル時分ニハ形勢良好ナリシモ両問題ヲ関連セシムルニ及ヒ莫斯科ニ於テ旋毛ヲ曲ケタル次第ニ付只今ノ御話ニ対シテハ今度ハ委任状ト引懸ケタリト考ウルナキヤヲ慮ル拘禁事件ハ日本ノ輿論ヲ刺激スル問題ニ相異ナキモ之ニ就テハ日本政府トシテハ説明ノ途アル可ク由来軍事探偵ハ才能アリ政府ノ信（脱）アルモノノ愛国的行為ニシテ之ヲ救助セントスル日本政府ノ努力ニ対シテハ露国側トシテモ尤ノ次第ト思考シ居ルニ拘ラス何分一国ニハ法律アリ之ニ依リテ処分セサル可カラサル立場ニ在リ併モ露国トシテハ米国ノ如ク日本人ヲ排斥シテ不平等ノ取扱ヲ為スモノニハアラス日本政府ハ友好国タル米国ノ暴挙ニ対シテスラ将来ノ国交ニ影響ヲ及ホササル様民論ヲ指導シツツアリ就テハ拘禁事件ニ付テハ

露国トシテ日露将来ノ円満ナル関係ヲ害セサル様ニスル積リニ付篤ト日本政府ノ諒解ヲ希望スル旨ヲ述ヘタリ茲ニ於テ本使ハ拘禁事件ノ偶々浦潮ヨリノ情報モアリ速ニ釈放ヲ希望スルノ趣旨ニ依リ同時ニ委任状ノ問題ニモ言及セルニ過キサル処拘禁ハ飽迄釈放シ得ストノ御意向ナレハ其ノ儘委任状ニ関スル御意見ト共ニ之ヲ政府ニ報告スヘキ旨ヲ告ケ会見四時間余ニモ亘レルヲ以テ席ヲ起チタルカ辞去ニ臨ミ「カラハン」ハ重ネテ委任状ニ関スル本使ノ尽力ヲ請フ旨ヲ付言セルヲ以テ本使ヨリ更メテ全然露国側ノ発意ヲ以テ拘禁事件ヲ解決シ得サルヤヲ推問セルニ「カ」ハ今少シ以前ナラハ兎ニ角今ハ悪ルシ尤モ今日ノ御話ハ莫斯科ニ申伝フヘキモ政府ハ必ス疑問ヲ懐クヘシ就テハ今直ニ釈放スル訳ニ行カサルモ今少シ後ニテハ如何或程度迄交渉進行セハ必ス釈放スヘキハ保証スルモ可ナリ又拘禁者ノ取扱ニ付テハ「ゲ・ペ・ウ」ノ留置場ヨリモ監獄ノ方遙ニ設備モ良好ナル処孰レノ取扱ヲ為ス方日本ノ民論ヲ刺激スルコト少ナカルヘキヤト本使ノ意見ヲ求メタルカ本使ハ拘禁シ置クコト自体カ我方民論ヲ悪化スル所以ナリト答ヘ更ニ二三押問答ヲ重ネタルモ結局意見ノ一致ヲ見ルニ至ラスシテ別レタリ

三三九　四月二十三日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

カラハンノ権限等ニ関スル新聞情報通報ノ件

第二四六号

四月二十一日発在莫斯科布施特派員来電トシテ東京日日ノ報スル所ニヨレハ同人ヨリ労農政府在外代表者表ニハ「カラハン」ハ駐支代表トアル処同氏ハ極東ニ於ケル他ノ国トモ協商スルノ権限ヲ有スルヤト質問シタルニ対シ労農当局ハ同氏ハ在支全権代表トシテ任命セルモノニシテ支那以外ノ他国ト協商スルノ権限ヲ有セスト答ヘ日露領事及郵便交換問題ハ日本ト「ソヴィエト」連合国トノ間ニ一般協定成立シ正式ノ政治及経済関係恢復セラレタル時ニ於テノミ初メテ決定セラルヘキモノナリ又邦人拘禁問題ニ関シテハ二人ヲ追放スル外ハ総テ労農露国ノ法律ニ基キ裁判セサルヘカラスト語リタル趣ナリ右御参考迄

三四〇　四月二十三日　在中国芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

局面打開ノタメ委任状問題ニ付キ再検討ノ必要ナキヤ請訓ノ件

第三〇一号　極秘　（四月二十四日接受）

委任状問題ニ関シ「カラハン」カ頻リニ論弁之努メ居レル次第ハ往電第二八九号ヲ以テ御承知ノ通ニシテ目下ノ処ニテハ何等カノ形式ニ於ケル委任状ニテモ提示セサル限リ此上ノ進捗ハ或ハ覚束無カルヘキ状況ニアリ「カラハン」ハ曩ニ浦潮拘禁者ノ解放ニ付出来得ル丈ノ尽力ヲ致スヘキ旨ヲ約セルコト一再ナラス当時ニ於テハ相当ノ自信ヲ有シ居リタルヤニ感セラレタルニ拘ハラス其後一向解放ハ実現セラレス又正式交渉ヲ要求シ居リタル当初ノ態度ヲ豹変シテ非公式交渉ニ同意シナカラ今ヤ再変シテ委任状問題ヲ固守シテ動カサル等ノ事実ニ鑑ミルニ彼自身トシテハ此際日露交渉ヲ纏メ度キ希望ナルコト疑ヒ無キカ如キモ「カラハン」ノ莫斯科ニ対スル関係ハ「レーニン」ノ死去等ノ事実ニ依リ最近或ハ従前ト異ナルモノアルニ至リタルニ非ラサルヤ殊ニ「カラハン」ト快カラストノ噂アル「ヲズネ」及「ダフチヤン」ノ如キ最近相次テ莫斯科ニ赴キタルコトナレハ種々ノ点ニ於テ「カラハン」ノ意見ノ実行ヲ妨ケラルルコト無シトセサルヘク十九日ノ会見ニ際シ本使カ夫レト

無ク此点ニ触レタル際ノ同人ノ顔付等ニ徴スルモ同人ニ於テモ余程此点ヲ心配シ居ルモノト推察セラル

将又十日ノ会見ニ於テ本使ノ追求ニ拘ハラス尼港問題等ニ関スル先方ノ意見アルヲ秘シテ語ルヲ敢テセサリシハ或ハ莫斯科ノ回答内容カ我方ニ提示シ得サル程強硬ナルカ為ナルヤモ知レス之ヲ要スルニ我方提示ノ条件ニ対スル莫斯科回答内容カ本使想像ノ如ク強硬ニシテ「カラハン」ノ地位又前述ノ如キモノナリトスレハ仮令今回委任状ノ点ニ付仮ニ譲歩シテ交渉ヲ継続スルトモ尼港事件其他ノ問題ニ於テ再ヒ交渉ノ停頓ヲ来スナキヲ保セサルカ故ニ少クトモ尼港事件、「ポーツマス」条約等ニ関スル先方ノ意見ハ委任状問題決定前之ヲ明カニシ置クコト望マシキ次第ナルモ十日ノ会見ニ於ケル先方ノ態度ニ顧ミ強テ此点ヲ主張スルニ於テハ勢ノ赴ク処一時交渉ノ中止トナルニ至ルヤモ計リ難シト信セラレタル一方貴電第二二三号ニ依レハ本使限リニテ夫レ迄押シ進ムコトヲ是認シ居ラルル御主旨ナルヤ聊カ不明ナリシニ付十九日会見ノ際ニハ尼港事件等ニ関スル先方ノ意向突キ止メ方ニ付テハ態ト差控ヘ置キタル次第ナルニ付上述ノ次第御考慮ノ上兎ニ角此処迄来リタルコト故成否

ニハ疑アリトスルモ長春会議ノ際ノ如キ一種ノ委任状若クハ「カ」ノ謂フカ如ク閣下ヨリノ電報ニ依リ此際交渉ノ続行ヲ試ミルカ若クハ尼港事件等ニ対スル先方ノ意向ヲ承知セサル以上如何ナル種類ノ委任状モ之ヲ発給スルコト困難ナル旨ヲ以テ先ツ先方ノ意向ヲ探究スルコトトスヘキカニ付何分ノ儀御回訓アリタシ尤モ仮ニ何等カノ形式ノ委任状御発給ノコトト相成ルトモ交渉相当進捗スルニアラサレハ拘禁問題ヲ解決セシムルノ望乏シキコト往電第二八九号末段ニテ御承知相成ルヘキ通リナリ将又尼港事件等ニ対スル意向ヲ今少シク詳細ニ言明セシメントシテ委任状ヲ発給セラレサルニ於テハ先方トシテハ多分言明ヲ避ケ其結果交渉停頓スヘク拘禁事件ハ何時解決スヘキヤ不明トナリ或ハ場合ニ依リ此上更ニ予期セサル種々ノ事件発生スルヤモ計リ難キニ付此辺モ亦併セテ御考慮ノ必要アリト存ス為念

三四一　四月二十六日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

カラハンノ所持セル委任状カ依然効力ヲ存スルカ否カ確カメラレタキ旨訓電ノ件

第二五四号

貴電第三〇四号ニ関シ

「カラハン」陳述ノ如ク仮令同人カ日露交渉ニ関シ客年八月二十二日付全権委任状ヲ所持スルトスルモ右ハ発給後既ニ八ケ月ヲ閲シ且其ノ間労農内閣ノ更迭等アリタル事情ニ顧ミ果シテ効力ヲ持続スルモノナリヤ明確ニナシ置クヲ利益トスルノミナラス「カラハン」ノ莫斯科出発ハ客年七月三十日頃ナルニ其ノ以前「ヨッフェ」召喚ノコト決セラレ居タルニ不拘委任状ヲ発給セスシテ旅行ノ途中八月二十二日付ヲ以テ発給シタル如キハ莫斯科政府カ同人ノ出発当時其ノ極東行ハ在支代表ニ任命セラレタル為ニシテ日露交渉ノ為ニアラスト公表シタル等ノ関係ニ顧ミ多少奇異ノ感ナキ能ハサルニ付貴官ハ「カラハン」ノ所持スル委任状カ依然効力ヲ存スルモノナリヤ否ヤ又帝国政府ニ於テ今直ニ先方申出ニ応シ委任状ヲ発給スルニ至ルヤ否ヤ未定ナルモ右形式参考ノ為適当ノ方法ニテ確メ置カレタシ尚往電第二四六号ハ新聞電報ニ相異ナキモ新聞電報ハ露国ニ於テ発電前検閲ヲ受クルコトニナリ居ル趣ニ付多少注意ヲ払フ必要アリト思考セラルル上露支交渉停頓以来「カラハン」ノ本国ニ於ケル地位ニ動揺ナキヤ否ヤ等ハ我対露交渉上ヨリ見ルモ相等注意ヲ要スル儀ナリト思考セラルルニ付右ノ点ニ付キテモ可然方法ニヨリ内偵ヲ遂ケラレ結果電報有度シ

三四二　四月二十九日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

カラハンノ委任状、モスクワニ於ケル彼ノ信用ノ度合等ニ付キ島田、黒沢カ入手セル情報報告ノ件

第三二一号　（四月三十日接受）

貴電第二五四号ニ関シ

四月二十四日「クズネツォフ」「シュワルサロン」等カ黒沢、島田ヲ招待シタル際及四月二十八日「シュワル」カ他用ニ託シ黒沢、島田ヲ来訪ノ際等ヲ利用シ両人ヲシテ「カ」ノ委任状並対莫斯科信用程度内探方取計ハシメ且「カ」ニ於テ我方ノ条件ニ対スル莫斯科ノ対案ヲ具体的ニ示スニ非サレハ委任状発給ノ件ハ物ニナラサルヘキコトヲ説述セシメタルカ其際ニ於ケル先方（主トシテ「シュワルサロン」）ノ説明大要左ノ如シトノコトナリ

㈠「カ」ノ有スル委任状ハ客年八月二十二日付ニシテ中央執行委員会長「カリーニン」ノ署名、外務委員「チチェリ

ン」ノ副署ヲ有シ客年「カ」莫斯科（脱）……リタルモノニシテ内容ハ長春会議当時「ヨッフェ」ノ有セシ委任状ト同様日本政府ノ代表者ト交渉シ調印スルノ全権ヲ有シ調印ノ上ハ中央執行委員会ノ批准ヲ要スル旨ヲ記載シアリ極東諸国ト交渉調印ト謂フカ如キ広汎ノモノニ非ス（長春会議ノ「ヨッフェ」ノ委任状ハ人民委員会議長ノ署名ニ係リ中央執行委員会長ノ署名ニ非ス）成ル程人民委員会ニハ更迭アリタルモ全権委任状ハ中央執行委員会ノ発給ニ係リ仮令発給後相当ノ日月ヲ経タルモノナリトスルモ之カ取消ヲ為ササル限リ依然其効力ヲ保有ス布施ノ来電中「カ」ノ権限ニ関スル点ハ何等カ訳文ノ間違ナルヘシ

(二)日本側委任状ノ内容ニ付テハ往電第二五六号会見ノ際「カ」ノ述ヘタル如ク日露交渉ヲ行ヒ且其決定ニ調印スルノ権限ヲ付与スト謂フヲ以テ足ル其形式ハ政府ノ名ニ於テ交渉調印スル権限ヲ付与スルモノナルニ於テハ之ニ署名スルハ外務大臣ナリヤ主権者ナリヤハ日本ノ国内法上ノ問題ニシテ露国側ヨリ指示スル訳ノモノニ非ス

(三)「カ」ノ莫斯科ニ対スル信用カ輓近低落シタルハ争フヘカラサル事実ナリ故ニ今日トナリテハ拘禁問題ハ「カ」ノシテハ必然日本ノ味方ヲ為スモノナリ結局日本カ如何ナル態度ニ出ツヘキカニ付多大ノ興味ヲ有シ居レリ日本カ委任状ノ発給ヲ躊躇シ居ルハ米国ノ圧迫ヲ被ムリ露国承認ノ決意ヲ実現シ得サルカ為ナリ

(四)布施ノ電報中領事館郵便問題等ハ国交樹立後決スヘキモノナリトアルモ拘禁問題ニ付テハ斯ル制限ナキ点特ニ注意スルヲ要ス即チ拘禁問題ハ都合ツキ次第解決ノ可能性アルモノナリ

(五)要スルニ日本側カ拘禁問題ト本交渉トヲ関連セシメタルハ実ニ本交渉ノ進捗ヲ妨ケタルモノニテ遺憾千万ナリ

尚右ノ外「シュワル」ハ委任状ノ件ニ対シ東京ヨリ何等カ返事アリタルヤト尋ネタルニ対シ館員ヨリ公使トシテハ対案モ見スシテ委任状ノ発給方ヲ政府ニ申送リ得サル地位ニ在ルニアラスヤト答ヘタル処「シュワル」ハ其ノ点一応尤モナリ然ラハ莫斯科対案ヲ具体的ニ示サハ討議ニ入ル前公使ヨリ委任状ノ件ニ付政府ニ申送リ得ヘキヤト反問シ館員ヨリ単ニ申送ル程度ナラハ勿論差支ナカルヘシト思考スル旨答ヘ置キタル由ナリ

手ニオヘヌモノトナリ居レリ莫斯科ハ日本カ対米問題ニテ昨今多忙ナルト同様対英問題ニテ忙殺セラレ居ルカ故ニ日露問題モ多少閑却サレ居ル気味ハアルモ併カモ日本、支那問題ニ関シテハ「カ」以上事情ニ通シ居ル者ナキニ依リ「カ」ノ信用ハ事日本、支那ニ関スル限リ多大ナルモノト謂ハサルヘカラス唯何分ニモ当地日露両代表者間ノ友好関係ヲ十分莫斯科ニ伝フルコト能ハサルカ故ニ委任状問題ノ如キモノヲ惹起セル次第ニシテ此点ニ付テハ「カ」モ困却シ居レリ

(四)莫斯科ノ対案ハ非常ニ伸縮自在ノモノニシテ是レ「カ」カ之ヲ提示スルヲ困難トスル所以ナリ対案ハ主義上「ポーツマス」条約ノ除外ヲ認ムルハ対他国関係ニ影響スヘキヲ以テ不可能トスルモ実際ニ於テ漁業協約ノ外「ポ」条約ノ実質全部ヲ承認スルコトハ差支ナシトシ旧債務問題其ノ他ハ英伊ニ倣フコトト為ス尼港事件謝罪問題ハ実ニ最大難関ナリ

(五)委任状ノ相互提示サヘ済メハ本交渉ハ勿論多少ノ曲折ハアルヘキモ結局纏マルヘキ見込ナリ

(六)露西亜人ハ半亜細亜人ナルカ故ニ今回ノ米国ノ態度ニ対

三四三　五月五日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

委任状問題其ノ他ニ関シシュワルサロンノ談話報告ノ件

第三三三号

四月三十日「シュワルサロン」館員ヲ来訪中本使偶然同人ニ会ヒタルカ其際同人ハ本使ニ対シ「カラハン」ハ目下莫斯科ニ対シテ大ニ争ハサルヘカラサル困難ナル立場ニアル旨ヲ語リ本使ノ南支旅行ハ何時実現サルルヤト問ヒタルニ付本使ハ目下考慮中ナリト告ケ置キタルカ同日「シ」ハ館員トノ会談中本使南遊ノ噂並其間島田ハ依然居残リスルヤ等質問シ居タル由ナルカ尚同人ハ「カラハン」ノ命ヲ受ケテ五月二日黒沢、島田ヲ来訪シ往電第二八九号「カ」トノ会見ニ於テ本使ヨリ貴電第二二三号中閣下ノ訓令トシテ「カ」ニ伝ヘタル部分ト本使カ私見トシテ述ヘタル部分トヲ明ニシ置キ度キニ依リ再応説明ヲ請フ旨ヲ述ヘタルカ右ハ先方ニ於テ閣下ノ訓令カ交渉調印ノ果シテ本使「カ」間ニ行ハルルモノナルコトヲ明ニシアルヤ否ヤ又清浦内閣云云ニ関スル点ハ単ニ本使ノ私見ナルヤ或ハ本使カ閣下ノ内

三四四　五月六日　在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

委任状問題ニ関スルソヴィエト政府ノ意向ヲ伝エル長文ノ書簡ヲカラハンヨリ受領セシニ付キ報告ノ件

付記　一九二四年五月五日付カラハン来信写

第三三六号　（五月七日接受）

五月五日夜「カラハン」本使ヲ来訪シ莫斯科政府ノ訓令ニ基キ帝国政府ニ伝達アリタキ趣ヲ以テ長文ノ書簡ヲ手交セルカ右ハ要スルニ日露交渉ニ関スル三月二十二日ノ会見以来ノ経過ヲ述ヘ此上ハ速ニ帝国政府ニ於テ委任状ヲ発給シ充分成効ノ見込アル本交渉ヲ進捗セシムルコトトセラレタキ趣旨ヲ記述セルモノナリ

本書簡中ニハ会談ノ経過トシテ事実ニ相違セル処モアリ本使ヨリ一二之等ノ点ヲ指摘シ置キタルモ当夜本使ニ於テ宴会開催中ナルニ拘ラス「カ」ニ於テ達而面会シタキ趣ナリシヲ以テ極メテ短時間ノ会見ヲナセルニ過キス従テ之等ノ点ニ付テモ充分会談ヲ遂クルノ暇ナカリシ次第ナル処「カ」ハ必ス成効ノ見込アルカ故ニ委状状発給ノ運ヒニ至ル様頻

意ヲ受ケテ述ヘタルモノナリヤヲ明ニシタキ趣旨ト察セラレタルニ付両人ハ「シ」ト彼我ノ調印ヲ対照シ本使「カ」間ニ大体ノ話相纏マレハ之カ調印ニ必要ナル委任状ヲ本使ニ付与セラルヘキモノナルコトハ正ニ大臣ノ訓令ニシテ清浦内閣云々ニ関スル点ハ本使ノ私見トシテ述ヘタル処ナルモ大臣来電ノ趣旨モ之等ノ誤解ヲ一掃セシメムトスルニアル旨ヲ説明シ置キタル由ナルカ「シュワル」ハ引続キ委任状ニ関スル日本政府ノ回答ハ未タ無之ヤ実ハ過日公使ノ話ニハ南支方面ニ旅行サルルヤモ知レストノコトニテ「カラハン」氏モ委任状ノ件如何ナルヘキヤ気ニシ居レリト云ヒ両人ヨリ本件会談ノ内容ハ政府ニ報告シアルモ公使トシテハ莫斯科ノ対案ヲモ見スシテ委任状ノ発給ヲ稟請シ得サルヘシト云ヘルニ「シ」ハ莫斯科ノ回答ハ要スルニ「カ」ノ私見トシテ述ヘタル処ヲ裏書キシ居ルモノニシテ即チ事実ニ於テ「ポーツマス」条約ヲ認メ債権問題ハ後日ノ討議ニ待ツコトトナリ居ルニ付大体莫斯科対案ノ内容ハ貴方ニテ判明スルニアラスヤト云ヒ唯尼港事件謝罪状ニ関シテハ莫斯科ノ回訓ニ何等示ス処ナシ故ニ「カ」ヨリ改メテ請訓セサルヘカラスト語リ居タリ

リニ本使ノ支持ヲ懇懃シ本使ヨリ政府ヘハ伝達スヘキモ「カ」ノ謂フカ如ク成効ノ見込充分ナリトハ信セラレス例ヘハ尼港問題ノ如キハ殊ニ我方トノ距離多大ナル旨ヲ指摘シタルニ「カ」モ苦笑ヲ洩シ居レリ尚本件書簡ニ関シ何等先方ニ申進スヘキヤ否ヤニ付テハ目下研究中ナルモ右不取敢電報ス

書簡写郵送ス

（付　記）

一九二四年五月五日付カラハン来信写

May 5, 1924.
Peking.

Monsieur le Ministre,

I have the honour at the instruction of my Government to request Your Excellency to convey the following to the Imperial Japanese Government:

On March 22, c.y., at the instruction of the Japanese Government, the Japanese Minister at Peking handed to the Extraordinary Plenipotentiary Representative written conditions on which Japan was willing immediately to recognize the Government of the Union of Soviet Socialist Republics and evacuate Northern Saghalien. The Japanese Government set forth three preliminary conditions for the negotiations: 1/ that the negotiations be secret; 2/ that they must not be called either informal negotiations or a formal conference, but must merely be conducted between the Representatives of the two Governments at Peking, and 3/ that the so-called Vladivostok incidents must be settled, or that at least there must be released two Japanese officers arrested on a charge of espionage.

Notwithstanding the fact that the Government of the Union is opposed to secret negotiations and holds that the negotiations between the Union of Soviet Socialist Republics and Japan should be conducted at an open formal conference, it nevertheless agreed to the first two points of the Japanese proposal. But at the same time the Government of the

Union emphatically declined the third point regarding the release of the arrested Japanese — as one which has no direct bearing on the restoration of diplomatic normal relations between the two countries and has accordingly nothing to do with the fundamental problem of Russo-Japanese interrelations.

After a lengthy exchange of views, Monsieur Yoshizawa agreed to waive the claim for the release of the prisoners as a preliminary condition of the parley.

Having considered the Japanese proposition, the Government of the Union paid serious attention to it and, having instructed its Plenipotentiary Representative with reference to the substance of the same, authorised him to enter upon negotiations with Monsieur Yoshizawa for completing and signing an agreement with the Japanese Government.

Quite unexpectedly, however, when, on the 8th of April, Mr. Karakhan, who had full powers and all the necessary instructions from the Government of the Union, was prepared to start the negotiations pursuing the object of the restoration of friendship between the two countries — he learned that the Japanese Government had not vested Monsieur Yoshizawa with full powers to conduct the negotiations and — contrary to the usual practice of any diplomatic negotiations — intended to give the powers to the Japanese Delegate, for communicating the same to the other party, not at the beginning of the parley, but only after the negotiations would have been brought to a satisfactory conclusion.

The Plenipotentiary Representative could not agree to such an infringement of the usual procedure of any negotiations and pointed out that, while the Government of the Union of Soviet Socialist Republics, accepting the Japanese proposition and the opening of negotiations with a view to signing an agreement on the restoration of diplomatic relations between the two countries, was willing to renounce an open official conference, it could not agree that such serious negotiations as the Russo-Japanese parley could, whatever the procedure to be followed, be started without the two Delegates communicating to each other their respective full powers showing that they have been empowered by their Government to enter upon negotiations and sign an agreement.

Taking into attention the considerations of the Representative of the Government of the Union, Monsieur Yoshizawa on April 8th, agreed to request the Japanese Government to give him the full powers to be communicated to the Plenipotentiary Representative, in order thus to create the necessary conditions for an earnest exchange of views binding on both parties.

On the 19th of April, Monsieur Yoshizawa communicated to the Plenipotentiary Representative the instruction of the Ministry of Foreign Affairs, which, in its part relative to the question of full powers, formulated the point of view of the Japanese Minister of Foreign Affairs in the following manner:

"As for the question of full powers, as raised by Monsieur Karakhan, I must say that, in the view of the Japanese Government, it is not necessary at the present time to exchange the full powers. The Japanese Government is willing at any time to give such full powers and sign an agreement as soon as the viewpoints of both parties will have been coordinated and there will be a hope that it is possible to reach an agreement."

Having taken cognizance of the said instruction, the Plenipotentiary Representative laid down the considerations of the Government of the Union, stressing that the usual practice of any negotiations consists in that the two parties, beginning the parley,

always communicate to each other their respective full powers.

The practice of the last Russo-Japanese parleys — at Dairen, Changchun and Tokyo — shows that at those negotiations the Japanese Government strictly adhered to the usual procedure, and the negotiations always started after an exchange of respective full powers between the two parties. Nor did the Japanese Government ever raise the question that this procedure of mutually communicating the full powers should be gone through not at the beginning, but after the successful completion of the given parley. Indeed, even the Tokyo negotiations between Messrs. Yoffe and Kawakami — which both sides agreed to look upon as informal negotiations and, consequently, not binding on either party — even they were held after a preliminary exchange of full powers between the two parties. The more necessary then is an exchange of full powers in the present case, when both parties are resolved to adopt important decisions leading to an immediate establishment of official relations between the two Governments.

Already then, i.e. on the 19th of April, the Plenipotentiary Representative pointed out that he could not agree with the viewpoint of H.E. the Minister of Foreign Affairs and requested Monsieur Yoshizawa to communicate it to Tokyo, and also again to ask the Japanese Government to give the full powers, so that the negotiations might start and an historic event of an exceptional import be not caused to fail owing to the Japanese Government's unwillingness to adhere in its negotiations with the Union of Soviet Socialist Republics to the usual diplomatic practice.

Now, seeing that more than two weeks have elapsed since the 19th of last month, the Government of the Union of Soviet Socialist Republics would appreciate an answer of the Japanese Government to the reiterated request for full powers as conveyed through the kind offices of Monsieur Yoshizawa.

The Government of the Union hopes that the Japanese Government is, like the former, actuated by the best will to settle the mutual relations between the two countries in the interest of promoting friendship and economic cooperation between the two nations as well as peace and welfare in the Far East. It is therefore the hope of the Government of the Union that the Japanese Government will not, due to a refusal, unusual in diplomatic practice, to give full powers to its Delegate, let end in failure at the very outset — even before the parties have entered upon a substantial exchange of views on all the pending questions — a matter having all the prospects of yielding a positive result.

The Government of the Union of Soviet Socialist Republics would greatly appreciate and be gratified if the Japanese Government would kindly communicate to it its decision in this matter as brief a delay as possible.

I avail myself of the present opportunity to renew to you, Monsieur le Ministre, the assurances of my highest consideration.

(Signed) L. Karakhan

三四五　五月七日　松井外務大臣ヨリ在奉天船津総領事宛（電報）

カラハン更迭ニ関スル新聞電報ニ関スル件

第八九号

五月七日ノ東京朝日ハ五月五日発長春特派員来電トシテ労農政府員「アントーノフ」ナル者北京ヨリ莫斯科ヘノ帰途同特派員ニ対シ日露及露支交渉ハ各当事国ノ利益其ノ他ノ関係上決裂ヲ見ルヤモ計ラレス当分ハ三国トモ成行ヲ観望スルヨリ外ナカルヘシ尤モ嚢ニ帰国セル「ダフチャン」ヨリノ通信ニヨレハ労農政府ハ飽ク迄第二次交渉ヲ開始スル意向ナルカ其場合ハ「カラハン」ノ更迭ヲ見ルヤモ知レサ

ル模様ニシテ其ノ人選ハ自分ノ忖度スル限リニアラサルモ「クラシン」「リトヴィノフ」等有力ナル候補者ニアラスヤト思考スル旨並ニ「リトヴィノフ」ハ日本ト支那トヲ十分諒解シ居ル為両国トノ外交ニ就テハ手続ハ「カラハン」以上ナルヘキ旨ヲ述ヘ妻妻、松井両武官ニ関シテハ労農政府ハ国交ヲ重ンシ両武官ヲ死刑ニ処スルカ如キコト絶対ニ無之カルヘシト信スルモ裁判結了迄ニハ約一ケ年ヲ要スヘシト述ヘタル趣ナル処当方ノ調ニテハ朝日ハ長春ニハ特派員ヲ有セサル様ナルニ付右ハ在貴地特派員ノ長春ヨリ電報シタルモノニアラスヤト思考セラルルニ付此ノ点御突止ノ上若シ事実ナルニ於テハ前記「アントーノフ」カ「カラハン」更迭ニ関シ果シテ前記ノ如キコトヲ述ヘタルモノナリヤ又同人ハ曩ニ四月初旬莫斯科ヨリ哈爾賓通過北京ニ赴キタリト伝ヘラレタル労農中央執行委員及革命軍事会議員タル「アントーノフ・オフセンコ」ノコトナリヤ併セテ御確メ結果当方ヘ電報セラルルト共ニ北京ヘ転電セラレタシ尚又右発電カ在貴地特派員ニ非スシテ在長春特派員ナルニ於テハ本電ヲ西領事ニ転電シ同領事ヲシテ前記ノ措置ヲ執ラシメラレタシ

三四七　五月八日　在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

委任状問題ニ関スルソヴィエト政府ノノート ノ公表ヲ希望スルカラハンノ意向伝達ノ件

第三五一号　（五月九日接受）

委任状問題ニ関スル六日莫斯科発路透電報及右ニ基キ作ラレタリト察セラルル六日発日本電報ハ八日当地各英字新聞ニ発表セラレタルカ「カラハン」ハ「シュワル」ヲ経テ本使ニ対シ斯ノ如ク本問題ニ関シ諸新聞ニ種々ノ記事現ハルルニ顧ミ此際往電第三四七号ノ「ノート」全文ヲ発表致度ニ付本使ノ同意ヲ得度旨申出テタルニ付本使ハ委任状問題ハ目下考慮中ナルト且右「ノート」ニハ首肯シ難キ点アルヲ以テ当分発表セサル様致度旨答ヘタルニ「カ」ハ然ラハ本使ノ迷惑トナラサル程度ニ於テ露国代表トシテ事態ヲ明ニスル為何分ノ発表ヲ為スヘキ立場ニアルニ付左様諒承アリタキ旨重ネテ申出テ本使ヨリ右ハ内容ヲ見タル上ニアラサレハ何トモ言ヒ難キモ交渉ノ内容ヲ発表スルコトハ主義上賛同シ難キ由ヲ伝ヘタル処「カ」ハ一時之ヲ見合ハセ何分ノ儀莫斯科ニ請訓セル趣ナルカ本使トシテハ飽ク迄発表

本電北京ヘ転電セラレタシ

三四六　五月八日（着）　在浦潮渡辺総領事代理ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

日露交渉停頓ノ責任ハ日本側ニアリトスル当地新聞報道ノ件

第一九六号

当県機関紙ハ六日ノ紙上ニ「日本ハ「ソビエト」露国トノ接近ヲ求ム」ト特筆シ在維納日本大使カ労農代表トノ接近ヲ試ミアルコト及右ハ日米関係ノ悪化ト日本ノ対露政策変更ニ連レテノ訓令ニ基クモノト察セラル云々トノ三十日維納発「ロスタ」電ヲ掲載シタルカ本八日同紙ハ「日露交渉停頓ノ罪ハ誰ニアリヤ」ト題シ六日莫斯科発同電トシテ労農外務省ノ公報ヲ掲ケタルカ其ノ大要左ノ通

日本新聞ハ交渉遷延カ「カラハン」ノ権能欠如ニ依ルモノノ如ク報シ居レルモ右ハ全然事実ニアラス交渉停頓ノ責ハ日本政府ニアリ若シ同政府カ芳沢ニ対シ「カラハン」カ求ムルカ如キ交渉並ニ協約調印ノ権能ヲ付与セハ交渉ハ何時ニテモ開始サルヘキモ右ニ関スル「カラハン」ノ要求ニ対シ日本ハ今ニ芳沢ニ正式委任ヲ与ヘス云々ヲ思ヒ止マラシメ度キ考ナルモ先方ハ頻リニ「ノート」ノ内容ヲ発表セント気構ヘ居ル次第ニテ何時如何ナル宣伝ヲ為スヤモ測リ難キニ付右事情一応電報ス

三四八　五月九日（着）　在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

モスクワヨリ帰着セル布施記者ノ観察報告ノ件

第三五三号

五月八日露都ヨリ当地ニ帰着セル布施ノ視察談ヲ聴取セルカ参考トナルヘキ事項左ノ通リ電報ス尚同人ハ来ル十七、八日頃貴地着ノ由ニ付閣下、本省当局各位ニ於テモ同人ヨリ種々御聴取相成様致度シ

㈠「ジェルジンスキー」ハ現今「ゲ・ペ・ウ」ノ長トシテ中央執行委員会ニ直属シ甚大ノ権限ヲ有ス其権限ハ時ニ依リ伸縮セラレ「ソビエト」政権ノ地位不安ヲ感スルニ至ラハ最大限迄拡張セラルヘシ浦潮拘禁事件ノ如キハ目下ノ処力ノ及ハサルモノトナリ居レリ

㈡「カラハン」ハ四月中旬頃帰朝ヲ命セラレタルモ「カ」ヨリ二ケ月ノ猶予ヲ請ヒ引続キ当地ニ残ル事トナレリ従

来「カ」ノ擁護者タリシ「チチェリン」モ露支交渉失敗後ハ「カ」ヲ庇護スル能ハサルニ至リタル結果「カ」ノ地位ハ頓ニ困難ニナリタルモ政府部内ニ於テハ極東通トシテハ彼ヲ措キテ他ニ人ナキ今日「カ」ニシテ日露交渉ニ成効スルニ於テハ再生シテ其ノ政府ニ対スル信任ヲ増大シ得ヘシ

(三)外務委員部内ニハ西欧部ト極東部トアリテ互ニ競争ノ形ニアリ故ニ英露交渉多忙ノ今日日支両国ノ関係ヲ軽視スト云フハ当ラス極東部トシテハ何トカシテ此際日支両国何レカノ国トノ交渉ヲ成立セシメ度キ意見ナリ

(四)「カ」ハ駐支全権ニシテ他国ト交渉スルノ権限ナキ旨ノ布施ノ電報ハ外務委員部極東課長及其次席等（「ドボフスコイ」「ベルリン」等）カ（脱）ニテ与ヘタル回答ニ基クモノナリ但シ右ハ「カ」ノ反対分子カ為セル業ナルヤニモ思ハル

(五)「ソビエト」政権ハ猶太人ニ対スル大々的虐殺ニテモ無キ限リ当分続クモノト見ルヲ得ヘシ

三四九　五月十三日（着）　在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

貴電第三三六号ニ関シ

委任状ヲ交換シテ日露交渉ヲ進捗セシメタキ旨ノ露国側ヨリノ申出ニ関シ考慮ヲ加ヘタル処我方ニ於テハ往電第二二三号中ニ申進シタル通リ双方ノ意見大体纏マリ協定成立ノ見込ツクニ至リタル上委任状ヲ付与スルモ遅カラストノ意向ナリシモ露国側ニ於テ本件ヲ重要視シ貴使ニ対シ此際速ニ委任状ノ付与セラルルコトヲ極力希望スルニ顧ミ先方ノ希望ヲ容ルルコトトシ今回別電第三〇〇号日本文合第三〇一号英文翻訳ノ通リ貴使ニ対シ委任状ヲ付与シ往電第一一五号ノ趣旨ニ依リ交渉ヲ進メシムルコトニ閣議決定シタルニ付貴使ハ右往電第一一五号及第一五〇号ノ趣旨ニ依リ出来得ル限リ我方ノ有利ニ解決スル様努メラレタシ

就テハ右委任状正文ハ直チニ郵送スヘキカ貴官ハ先ツ右別電写ヲ先方ニ提示セラルルト共ニ先方委任状ノ提示ヲ求メラレタル上右ノ如ク先方ノ希望ヲ容レタル上ハ成ルヘク速ニ交渉ヲ取纏ムルコト双方ノ為得策トスル所以ヲ篤ト「カラハン」ニ申入レラレ度ク又往電第一一五号ノ趣旨ハ既ニ大要貴使ヨリ「カラハン」ニ提示セラレ居ル儀ナルニ付今回委任状問題解決シタル以上ハ順序トシテ右ニ対スル先方

カラハン更迭ニ関スル新聞情報ニ付キシュワルサロン談話ノ件

第三六四号

在奉天総領事宛貴電第八九号ニ関シ

「シュワルサロン」ハ島田ニ対シ過般「アントノフ」カ当地ヨリ帰国シタルハ事実ニシテ又同人ハ労農露国ニ於テ有力ナル人物ナルカ外交ニハ何等関係ナキ人ニシテ従テ長春朝日特電ハ「ア」ノ言トハ信セス尚莫斯科カ依然「カラハン」ヲ信任シ居ルコトハ今回政府ノ命ニ基キ「カ」カ日本側ニ「ノート」ヲ送レルニ依リテ明カナリ云々ト語レリ

奉天、長春ヘ暗送セリ

三五〇　五月十三日　松井外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）

委任状ニ付キソヴィエト側ノ意向ヲ容レ正式ニカラハント交渉ヲ開始シ差支エナキ旨訓令ノ件

別電　五月十三日松井外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第三〇〇号
在北京芳沢全権公使ニ対スル委任状

第二九九号

ノ意向ノ明示ヲ求メラルルコト談判ヲ進ムル上ニ有利ナルヘシト思考スルニ付右様取計ハレタシ

又拘禁問題ニ関シテハ我方ニ於テ直接之ヲ本件交渉ニ関連セシムルコトヲ主張スル次第ニアラサルモ以上ノ如ク露国側ノ希望ヲ容レ相互委任状ヲ提示シ交渉ヲ進ムルコトトナリタル今日猶一方ニ於テ斯ノ如キ不愉快ナル事件ヲ控ユルハ双方ノ為好マシカラサルハ言フ迄モナク露国側ニ於テ進ンテ速ニ被拘禁者ヲ釈放スルコトハ我方ノ輿論ヲ緩和シ交渉ヲ促進スル所以ナルコトヲ特ニ指摘セラレ此ノ機会ニ於テ更ニ露国側ノ誠意アル考量ヲ促サレタシ尚又先方ニ於テ絶対ニ釈放ヲ困難トスル場合ニハ此際少クトモ軍人二名ニ付保釈ニテモ之ヲ為サシムル様致度ニ付此点ハ貴使限リニ御含ミノ上精々尽力相成タシ尚委任状末段ノ趣旨ハ交渉ノ結果条約ヲ締結スル場合ニハ御批准ヲ必要トスル関係上枢密院ニ諮詢セラルルコトトナルヘク又協約ノ形式ニ依ル場合ニ於テモ事件ノ性質上少クトモ枢密院ノ諒解ヲ求ムル必要アルニ由ル儀ナルニ付右ノ点亦御含ミノ上露国側ヨリ質問シ来ル場合ニハ適宜説明ヲ加ヘラレタシ

尚前顕往電中利権ニ関スル詳細ノ条件其他必要ナル事項ニ

付テハ目下当方ニ於テ審議中ナルニ付決定次第申進スベシ

（別　電）

五月十三日松井外務大臣発在中国芳沢公使宛電報
在北京芳沢全権公使ニ対スル委任状

第三〇〇号

北京駐劄特命全権公使芳沢謙吉ハ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ノ正当委任ヲ有スル代表者ト会合シ帝国ト「ソヴィエト」社会主義共和連合国間ニ於ケル修好通商等ニ関スル事項ニ付商議ヲ為シ取極ニ調印スルノ権限ヲ有スルモノナリ但シ右取極ハ日本帝国ノ国法ノ定ムル所ニ従ヒ手続ヲ完了シタル後効力ヲ発生スルモノトス

大正十三年五月十三日

日本帝国政府外務大臣男爵　松井　慶四郎

三五一　五月十四日　在中国芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛

カラハンヨリノ書簡ニ対シ五月十三日付ニテ返簡送付ノ件

付属書　五月十三日付在中国芳沢公使ヨリカラハン宛覚書写

機密第二一一号　（五月二十四日接受）

大正十三年五月十四日

在支那　特命全権公使　芳沢　謙吉（印）

外務大臣男爵　松井　慶四郎殿

日露交渉ニ関スル「カラハン」宛「ノート」写送付ノ件

本件ニ関シ左記書類及送付候也

書類ノ目

大正十三年五月十四日本使ヨリ「カラハン」ヘ手交ノ五月十三日付「ノート」写壱通

（付属書）

五月十三日付在中国芳沢公使ヨリカラハン宛覚書写

Peking, May 13th, 1924.

Confidental.

Sir,

I have the honour to acknowledge the receipt of your note of the 5th instant the contents of which I did not fail to convey to my Government as requested.

I shall lose no time in communicating to you any reply which the Japanese Government may see fit to make in this connection.

In the meantime, however I feel constrained, on mature perusal of your communication, to offer observations on some of the more important of the points which your Government have tried to make therein.

In the first place, your note mentions at the outset three conditions which it is stated were advanced by the Japanese Government as preliminary conditions of the opening of negotiations, but as I verbally pointed out to you at our interview on the 5th, the first two of these so-called conditions were not proposed by the Japanese Government nor did I mention them as condition precedent to the negotiation. As to the third, I trust the position of the Japanese Government has been made abundantly clear to you through the representations I have been making to you so persistently on so many occasions. It is stated in your note that I agreed to waive the point as a preliminary condition of the negotiations. It is true that I agreed that the matter be treated independently on the general negotiations to be initiated, but, you will no doubt remember that it was on the very important understanding that as the Far Eastern Plenipotentiary Representative of the Soviet Government you would make your utmost efforts with a view to the immediate release of the Japanese subjects arrested at Vladivostock. It need hardly be mentioned that the fact that, inspite of the efforts you may have made in this matter, the Japanese subjects to this day remain imprisoned is a source of deep resentment on the part of the Japanese people.

In the second place, your note states that on April 8th, I agreed to request the Japanese Government to furnish me with full powers. That is not an exact statement of what actually took place at that meet-

ing. There would seem to be a fundamental discrepancy of views between us on this question of full powers. As has been explained to you almost *ad nauseam* the Japanese Government feel it of extreme importance that any repetitions of the failures of previous negotiations should be guarded against as far as possible. My instructions are on that account none other than to enter into informal conversations with you and, through frank exchange of views on matters the settlement of which is the pre-requisite of the restoration on normal relationship, to inform my government whether there is any fair prospect for formal negotiations, if entered into, to be brought to a successful conclusion. It never was their intention to open negotiations irrespective of whether there was such prospect or not. The idea of investing me with full powers for carrying on conversations of the said character with you has never occurred to the Japanese Government.

posed negotiation has "all the prospects of yielding a positive result." That would seem to indicate that the Moscow Government is of opinion that an agreement is possible on the basis of the considerations above referred to. It is on the strength of that statement that I have since been doing my best to urge my Government to take decision in the sense indicated in your communication.

Accept,

Sir,

the assurances of my high consideration.

Monsieur Karakhan,

etc., etc., etc.

三五二　五月十五日　在中国芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

正式交渉ニ先立チ相互ニ委任状ヲ提示セル旨報告ノ件

第三七五号　極秘　（五月十六日接受）

While our conversations still remained at this preliminary stage, and without in any way indicating to me the views of your Government in regard to the set of considerations I laid before you, you abruptly broached the question of credentials on April 8th. I remember stating to you at the time that I did not consider as necessary any credentials at that early moment but that, while feeling sure that my Government would not consent to accede to your demand, I would nevertheless communicate your proposal to them and let you know the result. The reason why the Japanese Government hesitate to issue full powers for me at the present moment is simply because our conversations have not yet reached a stage which justifies any expectation of a successful compromise of views between our two Governments.

Your note under acknowledgement, however, states in the concluding paragraph that the pro-

五月五日付「カラハン」ノ「ノート」ニ対シテハ本使ヨリモ書面ヲ以テ先方書翰中事実ニ相違スル重ナル点ヲ明カニシ置クト共ニ委任状問題ニ関スル我方従来ノ立場ヲ説明シ且先方ノ所謂 positive result ヲ齎ス見込ミアリトノ文言カ曩ニ我方提出ノ条件ニ基キ談合成立ノ見込アリトノ莫斯科政府ノ意見ナルヲ以テ我条件ノ各個ニ対スル同政府ノ具体的見解ヲ承知シ以テ委任状発給ニ関スル帝国政府ノ考慮ニ資シタシトノ趣旨ノ回答案ヲ作製シ「カラハン」ニ手交ノ筈ナリシ処恰モ貴電第二九九号ニ接シタルヲ以テ右回答ノ末段ハ談合成功ノ見込アリトノ先方申越ニ基キ本使ヨリ委任状発給方ヲ禀請シ居レリトノ意味ニ訂正シ十日（十四日?）「カ」ヲ往訪シテ之ヲ手交シタル処（回答写郵送）「カ」ハ右回答文ノ手交ニ付キ一々尤モナル旨ヲ述ク唯露国側カ positive result ヲ齎スノ見込アリトノ字句ハ日本側提出ノ条件全部ヲ其儘容ルルノ意味ニアラスシテ概括的ニ成功ノ見込アリトナスモノナルコトヲ述ヘタルカ本使ハ我方各条件ヲ其儘容認セラルヘキコトヲ期待シ得ストスルモ莫斯科政府カ斯ル見解ヲ有スル以上「カ」氏ニ於テモ出来得ル限リ我方条件ヲ認ムル様努力セラルヘキヲ信シ依テ

委任状発給方ニ関シ政府ニ促シタル結果政府ニ於テモ本使ノ稟請ヲ容レタリ右ノ次第ニ付キ本使ノ努力ニ顧ミ交渉ノ各条件ニ付テハ出来得ル限リ本使ノ期待ニ副フ様「カ」氏ノ努力ヲ希望スルト共ニ莫斯科政府ニ於テ其ノ自説而已ヲ主張シテ交渉ノ停頓ヲ来スカ如クンハ本使ニ於テ深ク同政府ヲ怨マサルヲ得スト述ヘタルニ「カ」ハ深ク感動セル面色ニテ深ク本使ノ好意ヲ謝スル旨ヲ述ヘ「カ」ハ貴公使ノ尽力ニ依リ遂ニ委任状ノ発給ヲ見タル上ハ交渉ニ付テハ当然我方ヨリノ努力ヲ期待セラレテ可ナリト述ヘ委任状ノ内容如何ヲ質セルニ付本使ヨリ其訳文写ヲ示シ同時ニ「カ」ヨリ先方委任状ノ原本ヲ示セリ先方ノ委任状ハ客年八月二日人民委員会議長「カーメネフ」及外務委員「チチェリン」ノ署名セルモノニシテ其内容ハ長春会議ニ於ケル「ヨッフェ」ニ対スルモノト略々同様ナリ

我方委任状ニ対シ「カ」ハ国内法上ノ手続及協定ノ効力発生時期等ニ付種々質問スルト共ニ先方ニ於テハ批准ヲ経ストモ調印ト同時ニ効力ヲ発生シ何ケ月内ニ（例ヘハ六ケ月内ニ中央執行委員会ニテ）批准スヘシト記載スルヲ例トスルモ今回ノ如キハ何モ書カストモ可ナリト説明シ本使ヨリ

ハ本件貴電御来示ノ趣旨ニ依リ説明ヲ加ヘ「アグリーメント」ナラハ調印ト同時ニ効力ヲ発生セシメ得ルモ実際上ハ調印前枢密院ノ議ニ付シ其諒解ヲ求ムルヲ常トスル旨ヲ告ケ「カ」ニ於テモ結局之ヲ納得シ相互委任状ノ英訳文写ハ先方ノ希望ニ基キ互ニ訳文写ニ相違ナキコトノ証明ヲ付記シテ翌日之ヲ交換スルコトトセリ

次イテ本使ヨリ莫斯科対案ノ提示ヲ求メタルニ「カ」ハ早速之ヲ諾シタルカ実質問題ニ入ルニ先チ如何ナル協定ヲ締結スヘキカヲ述ヘタシト答ヘ本使ヨリ為念今後共交渉ノ内容ヲ秘密ニスヘキ諒解ニ付注意ヲ促シ「カ」ハ更ニ莫斯科政府カ頻リニ日本ノ総選挙カ本交渉ニ及ス影響ヲ懸念シ居ル旨ヲ述ヘタルカ本使ハ其点ノ懸念ノ全然無用ナルヲ説明セルニ「カ」ハ之ヲ首肯シタル上偖（サテ）而交渉ノ各条件ニ付テハ已ニ随分議論セル次第モアリ此上ハ交渉ノ促進上直ニ七、八ケ条ノ簡単ナル協定案ヲ作製シ之ヲ提示シタキ処如何ト諮リ本使之ニ異議ナキ旨ヲ答ヘタル結果先方ニ於テ右協定案ヲ作製シ翌日提示スルコトヲ約シ会談ヲ終レリ

三五三　五月十六日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

カラハンヨリ日ソ国交樹立ノ基礎トナルベキ協約案提示ニ付キ報告ノ件

別電　五月十六日在中国芳沢公使発松井外務大臣宛電報第三七三号　カラハン作成ノ日露間協約草案

第三七六号　至急極秘　（五月十七日接受）

往電第三七五号ニ関シ

五月十五日「カラハン」本使ヲ来訪シ前日談合ノ通リ相互委任状ノ英訳文写ニ相違ナキコトヲ証明スル旨ノ文句ヲ付シ右委任状訳文写ノ交換ヲ了セリ（写郵送）

次テ「カ」ハ前日述ヘタル通リ別電第三七三号ノ如キ協約案ヲ作成シ来リ右ハ日本側ノ諸条件及莫斯科側ノ一般的見解ヲ考慮シ試ニ便宜上協約案ノ形ニ作成セルモノナル処其実質及書方ニ就テハ勿論充分意見ノ交換ヲ要スヘキモノニシテ必スシモ之ヲ以テ基本ト為スノ趣旨ニアラサル旨ヲ付言セリ

右ニ対シテハ本案ハ我方提示ノ条件ニ触レ居ラサル点モアリ固ヨリ対案ト思考スルヲ得サルノミナラス全体トシテ可否ノ意見ヲ述フルニ就テモ篤ト研究ヲ要スヘキ処差向キ右

ニ対シ本使ノ抱ケル疑問ノ説明ヲ求メタキ旨ヲ告ケ第一、本案ニ拠レハ尼港事件ハ本交渉ニテハ解決セサルコトトナリ居ル処本件ヲ将来ノ解決ニ譲ルハ我方ノ到底同意シ得サル処ナルヲ指摘シ本件ノ性質並我方従来ノ主張ヲ反覆説明ノ上要スルニ本問題ニ関シテハ独立ノ一ケ条ヲ設ケ露国政府ノ文書ヲ以テ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルコト並賠償ノ意味ニ於テ利権ヲ提供スル旨ヲ記載シ根本ヨリ本問題ヲ解決スルコトヲ要ス尤モ利権ノ提供ニ就テハ別ニ利権ニ関スル条項中ニ便宜一括記載スルモ可ナル処其場合ニハ尼港事件ニ関連セル利権ノ提供ハ他ノ条文中ニ規定スル旨ノ文句ヲ必要トス

右ニ対シ「カ」ハ本問題ニ関シテハ従来トモ屢々日本側立場ニ付テノ御説明アリ其都度自分ヨリモ反対ノ意思ヲ述ヘ置キタル処ナルモ今貴公使ヨリ重ネテ率直ニ此ノ難問ニ対スル意見ヲ述ヘラレタルハ却テ自分ノ欣快トスル処ナリ就テハ国交樹立ノ見地ヨリ自分トシテモ出来得ル限リ御希望ニ副フ様互譲ノ精神ヲ以テ審議ニ当リ度キ旨ヲ述ヘ結局我方ヨリ本件ニ関スル条文案ヲ作成スルコトトセリ

第二、先方協定案第七条ハ如何ナル条約協約ヲ意味スルモノナリヤヲ質シタルニ「カ」ハ本条項ヲ設ケタル動機ハ最近数年間日露両国ノ国交断絶シ居リ其間敵対行為サヘ行ハレタル事態ニ顧ミ其間日本カ露国ヲ目的トスル攻守同盟等ヲ結ヒ又ハ米仏ト秘密ニ露国ニ於ケル勢力範囲ヲ設定セル事モ無之ヲ保セス又支那トモ一九一九年ノ日支軍事同盟ヲ以テ日支共同ノ敵タル過激派ノ東漸ヲ防クト云フカ如キ事ヲ決定セル例アリ今後ニ於ケル日露両国ノ親善関係ト矛盾スル此種ノ取極メヲ解消セシムルノ趣旨ナリト説明シタルカ本使ヨリ本条ヲ設ケラレタル動機ハ之ヲ了解スルモ斯ノ如キ曖昧ノ規定ヲ設クルハ我方トシテ甚タ不安ヲ感セサルヲ得ス蓋シ本条項ノ為日本カ従来各国ト締結セル条約等ニ関シ露国ノ主権ヲ侵害ストノ漠然タル理由ニ基キ悉ク無効ナリトノ議論ノ原因ヲ作ルハ頗ル危険ニシテ斯ル危険ヲ含ム本条項ニ対シテハ主義上同意スルヲ得スト述ヘタルニ「カ」ハ本条項ハ御懸念ノ如キ広汎ナル意味ニ亘リ過去ニ於ケル取極ノ効力ヲ失ハシメントスルモノニ非ス実ハ将来ニ亘リテモ前述ノ如ク日露一方ノ安全ヲ脅スカ如キ実質ヲ有スル第三国トノ取極ヲ防止スルヲ希望シ居ル次第ニシテ表面平和的名目ヲ藉リ例ヘハ米国ニ対シ露国カ経済上ノ利権ヲ与フルノ名義ヲ以テ実際日本ノ脅威トスルカ如キ約定ヲナスコトヲモ防止シ得ヘキカ故ニ兎モ角充分御研究ヲ乞フ旨ヲ述ヘタルカ本使ハ帝国政府ノ見解ハ想像シ得サルモ本使ノ関スル限リ少クモ意味ヲ限定スルノ必要例ヘハ日露両国ノ一方カ他方ノ主権若ハ領土権ヲ侵害シ又ハ他方ノ安全ニ対シ脅威トナルカ如キ軍事同盟若ハ秘密協約ヲ締結セリトセハ之等ノ同盟又ハ協約ヲ廃棄スルコトニ同意スト言フカ如シト述ヘ「カ」ハ要スルニ取極カ公然ナルカ秘密ナルカニ拘ラサル実質ノ問題ナリトシ本使ニ於テモ双方満足スヘキ形ニ変更スルコトニハ異存ナシトシ先方ノ希望ニ依リ研究ノ便宜上当方ニ於テ条文案ヲ作成スルコトセリ次テ本使ヨリ

第三、旧条約ニ関シ本案中何等規定スルコトナキ処我方本来ノ考ハ旧条約中「ポ」条約ニ付テハ先ニ提示ノ如ク其儘効力ヲ存続セシムヘキ一ケ条ヲ設ケ其他ノ条件(約?)ニ付テモ原則トシテ其効力ヲ存続セシメ度ク若シ露国側ニテ飽ク迄之ニ反対ナルニ於テハ妥協ノ見地ヨリ其修正変更ヲ

為スニ同意スルコトトシ日露間ニ締結セラレタル一切ノ条約其他ノ協約ニ依リ両国政府及国民ノ享有セル権利利益ヲ尊重シ且之等条約事実ニ付テハ変更ヲ加ヘサルノ基礎ニ於テ新時代ニ適合スル条約及協約ヲ締結スル旨ノ取極ヲナシ承認後直ニ右ニ基キ必要ナル条約等ノ締結ニ著手スルコトトシ度キ趣旨ナリ

右ハ旧条約ハ西比利亜出兵ニ依ル日露間ノ開戦ニ依リ廃棄セラレタリト為ス露国側ノ見解ノ誤リニシテ而モ露国政体ノ変更ハ其ノ対外義務ヲ変更スルモノニ非スト為ス我方従来ノ主張ニ基クモノナル事ヲ敷衍説明セルニ「カ」ハ日本側ニ於テハ旧条約中特ニ漁業条約ヲ重要視スルニ顧ミ進テ之ニ関スル規定ヲ設ケタル次第ナルカ其他ノ条約ニ付テハ例ヘハ「両当事国ハ本条約締結後帝政露国及日本間ニ締結セラレタル条約、協約等ノ改訂ヲ行フ為商議ヲ為ス事ニ同意ス」ト云フカ如キ規定ヲ設クルニ付テハ莫斯科政府ニ於テモ異議ナカル可キカ故ニ之ニ関スル案ヲ作成スヘシト答ヘタルカ本使ハ新条約等締結ノ基礎トシ本使前述ノ趣旨文言ヲ付スルヲ要スル旨ヲ告ケタルニ「カ」ハ然ラハ既成事実トハ両国ノ国境ノ如キモノノ外具体的ニ如何ナルモノヲ指スモノナリヤ蓋シ通商条約ノ半ハ(ナカバ)労農政府トシテ承認シ得サル所ニシテ例ヘハ外国貿易ノ如キハ外国貿易部ノ専掌スル所ナルカ如シ故ニ後日ノ誤解ヲ避クル為具体的ニ明カニシ置ク必要アリト主張セリ依テ本使ハ具体的事実ニ付テハ各条約ヲ審査スルニ非サレハ明示シ得サル事ナルモ例ヘハ（脱）カ露国領土内ニ於テ経営セル事業上ノ権利利益等モ之ナキニ(脱)ヘシ又外国貿易カ国営ナルノ故ヲ以テ通商条約ノ半位ハ新タニ認ムルヲ得サル可シトノ事ナルモノナルカ故ニ新事態ニ適合スル様新協定ヲ締結セントスルノ趣旨ナルヲ説明シ更ニ「ポーツマス」条約ノ存続ニ対スル異存ノ有無ヲ訊シタルニ「カ」ハ「ポ」条約ハ其儘認ムルヲ得スト思考ス蓋シ露国側トシテハ同条約ノ核心ハ漁業協約ナリト信シ本問題ニ付テハ莫斯科ヨリモ翫引スヘカラスト申越シ居リ進ンテ同協約ニ関スル規定ヲ設ケタリト説明セリ尚本使ヨリ先方ノ協定案ニ付テハ如上ノ外申述フヘキ意見鮮カラサルモ時間ノ都合上次回ニ譲ルヘキヲ告ケ且前記諸点中双方ニ於テ作成スヘキ条文案ハ翌日迄ニ作成シテ討議ヲ進ムル事トシタリ

（別　冊）

五月十六日在中国芳沢公使発松井外務大臣宛電報第三七三号カラハン作成ノ日露間協約草案

Gaimudaijin, Tokyo

No. 373

Draft. Agreement between the Union of Soviet Socialist Republics and the Japanese Empire made at Peking——1924

The Government of the Union of Soviet Socialist Republics represented by.....and the Imperial Japanese Government represented by.....

Desiring to re-establish good-neighbor relations, tending to promote friendship and economic operation between the people of both countries, have agreed upon the following Articles:

I

The two Contracting Parties agree that simultaneously with the signing of the present Agreement normal diplomatic and consular relations shall be established between the U.S.S.R. and the Japanese Empire.

The Government of the U.S.S.R. shall adopt the necessary measures to transfer to the Imperial Japanese Government the Embassy, Consultates and other State property to be found in the territory of U.S.S.R. In its turn, the Imperial Japanese Government shall do the same with regard to the property to be found in the territory of the Japanese Empire.

II

Imperial Japanese Government shall withdraw its troops from and entirely cease occupation of territory of Northern Saghalien. Imperial Japanese Government agrees to begin to free the territory of Northern Saghalien from occupation immediately upon signing of present agreement and complete same within two weeks, during which period territory must be handed over to proper authorities.

III

Two Contracting Parties agree after re-establishment of diplomatic relations to conclude a commercial treaty, on strength of which nationals of one party shall enjoy full protection in territory of other, subject to laws existing in respective territory, both personally and in regard to their properties, and shall be able to widely engage in trade and industries, as in accordance with the existing laws.

IV

In the interest of promoting economic relations, the Government of the U.S.S.R. is willing to meet halfway needs of the Japanese Empire in regard to natural resources existing in the territory of the U.S.S.R. With this end in view, it is willing to grant to Japanese subjects and juridical persons concessions for the exploitation of minerals, forests, etc., in the territory of the U.S.S.R. and, in particular, in Eastern Siberia and Northern Saghalien.

V

The Government of the U.S.S.R. is willing, immediately upon the re-establishment of diplomatic relations between the two Contracting Parties, to conclude with the Imperial Japanese Government a fisheries convention on the conditions provided for by the Portsmouth Treaty and the Fisheries Convention of 1907.

VI

Both Contracting Parties agree to discuss the question of mutual state and private claims and debts, including the Japan's claim in reference to the Nikolaievsk affair and justly settle them at a future conference.

VII

Each of the Contracting Parties agrees to annul, upon the signing of the present Agreement, all kinds of treaties or agreements that may have been concluded between itself and third parties, prejudicing sovereign or territorial rights of the other party, or constituting a menace to the safety of the latter.

VIII

Two Contracting Parties mutually pledge themselves to respect national sovereignty of the other party and refrain from any interference with its internal affairs and, in particular from agitations, propaganda and any kind of intervention and from supporting them. Two Contracting Parties pledge themselves not to create or support organizations whose aim is to carry on an armed struggle against the other party or prepare overthrow of violence. In view of this, both Contracting Parties pledge themselves not to allow such organizations, their agents or organs to stay in their territory.

IV

The present Agreement shall come into effect from the date of signature.

In witness thereof, respective plenipotentiaries have signed the present Agreement and have affixed thereto their seals.

Done at city of Peking this ————

Yoshizawa

三五四　五月十六日　在中国芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

前日手交セル芳沢書簡ニ対スルカラハンヨリノ回答報告ノ件

別　電　五月十五日付カラハンヨリ在中国芳沢公使宛回答

第三七号　（五月十七日接受）

往電第三七六号ニ関シ

同日「カラハン」ハ五日付先方ノ「ノート」ニ対シ前日本使ヨリ手交セル書面ニ付当時「カ」カ述ベタル略々同様ノ意味ヲ記セル復答ヲ本使ニ手交シ（写郵送ス）更ニ五日付「ノート」ニ対シテハ実際上既ニ委任状ノ発給ヲ見タル今日改メテ日本政府ヨリノ回答ヲ要求スルニ及ハサルモノノ如キモ唯事務上記録ヲ整フル必要ヨリ何分ノ返事ヲ得ル様致シタキ旨依頼アリタルニ依リ本使ヨリ其趣ヲ政府ニ伝ヘ置クヘキヲ答ヘ置ケリ就テハ右先方ノ希望ニ添フ様何分ノ儀御回電相煩ハシタシ

（別　電）五月十五日付カラハンヨリ在中国芳沢公使宛回答写

Peking, May 15, 1924.

No. 1840.

I have the honour hereby to acknowledge the receipt of your Note of May 13, 1924.

After a careful perusal of Your observations regarding my Note of May 5, 1924, I understand that they pursue the aim partly to state more precisely and partly to complement some details of the exchange of views that took place between us recently.

If I feel myself constrained in order to avoid any misunderstanding, only to observe that the passage in the concluding paragraph of my communication of May 5, 1924, about the negotiations "having all the prospects of yielding a positive result," must not be taken to mean that the Government of the Union of Soviet Socialist Republics considers as acceptable the Japanese conditions, presented to me on March 22, c.y. The idea conveyed by the said sentence merely expresses a general conviction that there are no such vital questions for the peoples of the Union of Soviet Socialist Republics and of Japan upon which the two countries could not reach an agreement. Such a conviction rests upon the fact that both countries have the intention to reestablish normal relations on the basis of justice, equality and reciprocity.

I beg you, Monsieur Le Ministre, to accept the assurances of my highest consideration.

(Signed)　L. Karakhan

Excellency

Yoshizawa,

Japanese Minister to Peking.

三五五　五月十六日　在中国芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

カラハン提出セル協約案ニ付キ討議ノ当方ノ修正意見ヲ提示セル件

別　電　五月十七日在中国芳沢公使発松井外務大臣宛電

報第三八一号
五月十六日カラハンニ手交セル条文案写

第三八〇号　（五月十七日接受）

往電第三七六号ニ関シ

五月十六日「カラハン」方ニ会合兎ニ角前日ノ談合ニ基キ作成セル尼港問題其ノ他ニ関スル条文案ニ付協議ヲ遂クルコトニ一致セルヲ以テ本使ヨリ尼港問題（別電第三八一号中ノ一）軍事同盟等ノ廃棄（別電中ノ二）旧条約（別電中ノ三）ニ関スル条文案ヲ「カ」ニ手交シ右ハ我主張ノ大体ノ趣旨ヲ記セルニ過キス従テ字句ノ修正ヲ為スコトアルヘキヲ保留スル旨ヲ付言シ尚尼港問題ニ関シテハ本来「別電中ノ㈣」ノ如キ条文トシタキ意向ナルモ妥協ノ精神ニ基キ賠償ノ代ハリニ長期利権ノ提供ヲ得ハ可ナリト為ス次第ナリト説明シ置キタリ尚其ノ他ノ問題ニ対スル意見ノ有無ヲ推問セリ依テ本使ハ其ノ他尚註文アルモ就中協約案第三ノ通商条約ニ関スル条項ハ不十分ト認メラルルヲ以テ之ニ付テモ修正ヲ加ヘタキ所存ナリ尚本協約案ニ付テハ本使ノ疑問トスル諸点ヲ明カニシ且政府ノ意向ヲ承知セル後ニアラサレハ確定的意見ヲ述ヘ難キモ差向キ本使限リノ所見トシテハ

㈠各条件ニ関スル意見一致シ本協約案ノ形式ニテ調印シ得ルコトトナラハ本案ノ前文ニモ顧ミ日本政府ニ於テ別ニ露国承認ニ関スル措置ヲ執ルノ必要ナキモノノ如シト述ヘタルニ「カ」ハ是レ丈ケニテ法律上ノ承認アリタルモノト認ムヘキモ実際上ハ両国外務大臣ニ於テ儀礼上電信ヲ以テ挨拶ノ交換ヲ為スコト望マシク他国トノ場合ニ於テモ右様実行シ来レリト答ヘ次ニ

㈡本使トシテハ協約案第一ノ第二項ノ如キハ甚タ困難ナル問題ト思考シ居レリ蓋シ東京露国大使館ノ建物ハ露国政府ノ財産ニシテ其ノ処分ハ日本ノ露国承認後ニ於テハ後継者タル労農政府ノ為スヘキ所ニシテ日本政府ハ其ノ管理ニ属セサル露国政府財産ノ引渡ヲ為ス権限ヲ有セサルモノト思考スト述ヘタルニ「カ」ハ本条項ノ如キハ問題トナリ得サル当然ノ事ト思考シ居レリ現ニ伊、独、墺、土耳古、波斯、瑞典、諾威ノ諸国ニ於テモ皆承認ト同時ニ白党ノ残留者ヲ逐出シテ好意ヲ示シ支那ノ如キ国サヘモ引渡ノ義務ヲ負担セリ然ルニ日本ノ如ク政治ノ行届キ居ル国トシテ同様ノ義務ヲ負担シ得サルハ意外ニシテ日本政府トシテハ白ノ

残党カ物ヲ持逃ケセサル様監視シ露国政府カ是等ノ者ト裁判沙汰ノ交渉ヲ為スカ如キ不体裁ナキ様好意的干与ヲ得ルヲ要スト答ヘ更ニ本使ヨリ日本政府トシテモ東京ニ著スヘキ労農政府代表者ニ対シテハ勿論十分ノ好意ヲ以テ出来得ル限リノ便宜ハ取計フヘキモ外国大使館ニ対スル治外法権ノ観念ニ顧ミ且ツ現ニ日本政府ノ管理ニ属セサル財産ヲ始末シテ引渡スカ如キ義務ハ軽々敷負担シ得ヘキニアラサル旨ヲ説明セルカ「カ」ハ現在ノ占有者ハ謂ハハ労農政府ニ対スル反乱者ニシテ治外法権ヲ享有シ得ヘキ官吏ニアラス日本ノ承認後ハ労農政府ニ対シテノミニ治外法権ノ問題起ルヘク其ノ労農政府モ自ラ進ンテ日本ノ干与ヲ求ムルモノナルカ故ニ此点ニ付テハ兎ニ角日本政府ノ十分ナル考慮ヲ促サレタシト主張シ次ニ本使ハ

㈢協約案ノ第四中ノ halfway ナル文字ハ露文ニハ之ナキ趣ナル処右ハ必要ナル文字ナリヤト質シタルニ「カ」ハ露国ニテハ双方ヨリ半分ツツ出掛ケテ meet スル意味ナルモ他ノ文字ヲ以テ代フルモ差支ナシト答ヘ次ニ

㈣協約案第八ハ其ノ趣旨ニ於テ本使モ同感ナル処本案ハ之ニ該当スル我方条件ヨリモ更ニ詳細ナルノミナラス第二項ノ如キハ甚タ当然ニシテ殆ント其ノ必要ナキヤニモ思考セラルト試問セルニ露国側トシテハ第八ハ重キヲ措ク条項ナルカ互譲国ニハ随分詳細ノ規定ヲ設クルモノアリ第二項ハ当然ノ事ニテ其ノ必要ナシトノ見解ハ却テ欣快トスル所ナルモ成ルヘク存置シタシト述ヘタリ（此ノ点ハ朝鮮人関係ニ顧ミ我方ニモ利益アリト考ヘラル）

㈤撤兵ニ付テハ我方ニ於テハ協約成立セハ速ニ撤兵スヘシト謂フニアリ然ルニ貴方案ニハ撤兵ノ期限ヲ二週間ト限リアル処期限ニ付テハ政府ノ都合照会ノ上ニアラサレハ確定的ニ限定スルヲ得スト指摘セルニ「カ」ハ主義ニ於テハ一致シ居ルカ故ニ期限ヲ限定スル必要ナキカ如キモ二週間ノ期限ハ軍事専門家ノ意見ニ依レハ穏当ナルモノノ由ナリト説明セリ

㈥漁業協約ニ関シテハ特ニ異存ナシ但シ「ポーツマス」条約並漁業協約以外ノ旧条約ニ関スル我方主張ハ本日提示ノ案文ノ趣旨ヲ維持セラレタシト述ヘタルニ先方ヨリ「別電中ノ五」ノ案文ヲ提示シ尚篤ト討議ノ必要アル旨ヲ付言セリ尚

㈦協約案ノ第六ニ付テハ債権問題ニ関スル我方条件ノ趣旨

ニテ修正ノ必要ヲ認メ居ル旨ヲ告ケタルニ同問題ニ付テハ既ニ十分意見ヲ述ヘタリ

日本側条件中ニハ私有財産ニ関スルモノモアリタルモ本条ハ個人請求権ニ関連シテ解決スルノ趣旨ニシテ英国トノ案ニ倣ヘルモノナリト答ヘ本使ヨリ私有財産ニ関シテハ債権ニ関スル条項ノ修正案提出ノ際ニ述フヘキヲ告ケ更ニ一般的ニ本使ヨリ我方ノ特ニ重キヲ置クハ尼港問題、旧条約及債権問題ナル処前二者ニ付テハ本日提示ノ案文ニ付特ニ深甚ノ考慮ヲ加ヘ我主張ヲ容認セラレタキ旨ヲ付言シタルニ「カ」ハ尼港問題ハ頗ル難関ニシテ之ニ関シテハ多クノ述フヘキモノアリ旧条約ニ付テハ三月二十二日ノ我方条件中「ポ」条約ノミヲ掲ケアリシヲ以テ莫斯科政府ニ於テモ其他ノ条約ニ付テハ特別ノ条件ナキモノト諒解シタル訳ナリトテ莫斯科ノ思惑ヲ懸念スルノ口吻ヲ漏セルニ依リ本使ハ我方条件ハ要点ヲ掲ケタルモノニ過キスシテ条文案中ニ在ラサル而已ナラス当該条項中ニハ「ポ」条約以外ノ条約ハ後日ノ商議ニ譲ルノ意味ヲ含ミ条文トシテハ其ノ商議ノ基礎ヲ掲ケ置ク必要ヲ認ムル次第ナリト説明ヲ加ヘ続イテ「カ」ヨリ尼港問題ニ対スル莫斯科政府ノ見解ヲ述フル筈ナリシモ時間ナキ為本件討議ハ次回ニ譲ルコトトシタルカ「カ」ハ本件ノ頗ル難関ナル所以ヲ語リ本問題ニ対シテハ最近莫斯科ニ於テ頗ル強硬ナル意向ヲ有シ現ニ英露会議債権問題委員長タル中央職業連合組合長ノ如キハ謝罪ノ点ニ関シ極力反対ヲ唱ヘ居レル処本件ハ日本ニ於テモ輿論喧囂ヲ極メタル問題トシテ全然之ヲ無視スル能ハサルニ顧ミ且ツ日本側トシテモ事情ノ変更ヲ解セサルニ非サルヘキヲ以テ当初ノ案ニハ何等本件ニ触レサル予定ナリシモ結局協約中ノ何処カニ簡単ニ尼港事件ナル文字ヲ加フルコトトナリ協約案第六中ニ之ヲ記入スルコトトセル次第ニ付右露国側ノ事情ヲ諒解セラレ何トカ折合フ様致シタキ旨ヲ述ヘ居レリ尚当日「カラハン」カ島田ヘノ座談ニ於テ六月一日迄ニハ是非交渉ヲ纏ムル必要アリト語リ居レル趣ナリ

（別　電）

五月十七日在中国芳沢公使発松井外務大臣宛電報第三八一号

五月十六日カラハンニ手交セル条文案写

Gaimudaijin,

Tokyo

No. 381

(1) Government of U.S.S.R. shall express to Japanese Government in a form to be agreed upon a sense of deep regret for event occurring at Nikolaevsk between March 12 and May 27 of year 1920 and shall undertake, by way of indemnification, to grant to Japanese subjects especially favourable and longterm concessions to exploit natural resources in North Saghalien and East Siberia on term to be specified by agreement.

(2) Any and all military alliance or secret agreements which either of High Contracting Parties may heretofore have entered into with a third party which infringe upon sovereignty and territorial rights, or menace safety, of other shall be abrogated.

(3) Treaty of Peace of 1905 shall remain in force in its entirety. Other treaties and agreements concluded between Japan and Russia shall be replaced by new treaties and agreements so as to conform to new situation, it being understood that all rights and interests secured through old treaties and agreements to the High Contracting Parties and respective nationals shall be respected.

(4) Government of U.S.S.R. shall express to Japanese Government in a form to be agreed upon a sense of deep regret for event occurring at Nikolaevsk between March 12 and May 27 of year 1920 and shall make reparations for all moral and material losses sustained by Japanese subjects through said event.

(5) The two Contracting Parties agree since the restoration of diplomatic relations between them to enter negotiations for the conclusion of new treaties and agreements in accordance with the present condition and laws of each Contracting Party.

Yoshizawa

三五六　五月十七日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

日ソ交渉ニ関スル訓電中不明ノ諸点ニ付キ回示方請訓ノ件

第三八三号　至急　（五月十八日接受）

日露交渉ニ関シ左ノ諸件大至急御回示相成リタシ

一、貴電第二九九号ノ利権ニ関スル件

二、貴電第一一五号第五項ノ私有財産問題ニ関スル儀ハ本使ニ於テ実例等ヲ承知セサル為我方説明ヲ延ハシ居ルニ付テハ本件我方主張ノ詳細

三、今十七日ノ会見中尼港問題ニ関連シ西比利駐兵中日本軍ニ依リ行ハレタリト称スル所謂残虐行為ニ関シ先方ヨリ話アリタルヲ以テ右ニ対シ本使ハ先方ヨリ調査書類ヲ提出スルニ於テハ個々ノ場合ニ付夫々正当ナル事由ニ基キテ行ハレタルモノナルコトヲ闡明スヘキ旨ヲ告ケ置ケル処右ニ関シテハ本使ニ於テ別ニ考慮スルコトアリ御心配ヲ掛ケサル所存ナルモ為念本件関係調書御参考迄至急御送付アリタシ

三五七　五月十八日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

カラハントノ会談ニ於ケル尼港問題ノ討議状況報告ノ件

第三八四号　極秘

往電第三八〇号ニ関シ

五月十七日「カラハン」ト会見尼港問題ヲ討議ス先ツ本使ヨリ我方ニ於テハ本件ヲ以テ最重要ナル問題ト看做シ之カ適当ナル解決ヲ計ルニアラサレハ国交回復ノコトモ亦不可能ナルヘシト思考ス惟フニ東京会議ニ於テモ文書ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表スルコトハ既ニ両国代表間ニ決定セラレタル次第ナルニ今日ニ至リ貴方ニ於テ之ヲスラ為シ能ハストセハ到底国交回復ノ望ナキモノト言ハサルヘカラストテ其提出ノ承諾ヲ求メタルニ「カ」ハ露国側トシテハ東京会議ノ際ニ謝罪ニ同意スルモ労働者農民等ヲ納得シ得タルモ一年後ノ今日ニ在リテハ露国々内ノ状況変化シテ右様ノコト殆ト不可能ナル状態トナレリ自分ハ今更議論ヲ為サムトスルニアラサルモ尼港事件ノ残虐ヲ云為セハ日本軍西比利亜出兵中ニモ同様ノ残虐行為アリシコト丈ケヲ述ヘ置キタク又謝罪ニ関スル日本ノ主張ハ言ハハ威信ノ問題ニ過キスシテ利権ノ方遙ニ実利アリ唯国交ヲ回復セムトスルニ当リ何等尼港事件ニ触ルル処ナクハ軍人連ハ満足セサルヘキカ故ニ尼港事件ニ就キ協約中一言スル処アレハコト足ルヘク従テ第六条中ニ尼港事件ニ（脱）次第ナリト弁シタリ依テ本使ハ「カ」

ノ所述ハ露国国内ノ状況ニ変化アリタルコト日本軍残虐行為ノ件及満足セサルハ軍人ノミナリト云フノ三点ニ帰スル処右ノ内第一点ニ関シテハ本使ハ人情ヨリスレハ兎ニ角道理ヨリ判断スレハ如何ニ国内事情ノ変化アルモ他国ニ対スル義務ノ履行ヲ怠ルヘキニアラス本件ハ残虐ヲ極メタル出来事トシテ露国側ニ於テモ此ニ対スル責任ヲ認メ居ルコト事実ニシテ「ヨッフェ」氏モ遺憾ノ意ヲ表スル文書ヲ出スコトニハ異議ナカリシ処ニシテ単ニ文字ノ点ニ付問題ヲ残スニ過キサリシナリ第二点ニ関シテハ本使モ従来露国側カ右様ノ事ヲ唱ヘ居ルヲ耳ニセルモ本使ノ承知セル処ニ依レハ夫々行懸又ハ道理ヲ有セシ次第ナリ尤モ貴方ヨリ事実ノ申出アラハ取調説明ヲ与フルニ躊躇セス又第三点ニ付テハ当時殺戮ヲ蒙レル三百余名ノ軍人ノ外領事館員及居留民三百八十四名ノ日本臣民ノ遺族ハ当時ヲ追想シテ無念ノ涙ニ暮レ一般国民又深ク之ニ同情シ居ルヲ以テ一部ノ軍人ノミカ不満ヲ抱ク次第ニアラサル旨反駁ヲ加ヘタリ右ニ対シ「カラハン」ハ貴説ノ趣ハ深キ感動ヲ以テ承ハル処西比利亜出兵中ニ於ケル日本軍虐殺行為ニ関シテハ次回会見ノ際之カ事実ヲ述フルコトトシ本日ハ引続キ債権及相互請求権ノ

条項ヲ審議シ度シト提議セルニ付本使ハ尼港事件ニ就テハ東京会議ニ於テ或程度迄談合付キ居ルカ故ニ兎ニ角此際本件ヲ決定スルコト今回ノ商議ヲ進捗スル上ニ実際的ナリ即チ遺憾ノ意ヲ表スル文書ヲ提出スルコトニハ「ヨッフェ」氏モ同意セル処ナルヲ以テ此点ハ是非同意ヲ得タシト要求セルニ「カ」ハ東京会議当時ノ談ハ途中ニテ中止セラレタルヲ以テ之ヲ基礎トシテ継続スルヲ得ス一応莫斯科ニ照会スルヲ要スル故他ノ問題ノ審議ニ移リタシトテ頻ニ尼港事件ノ討議ヲ避ケムトシタルモ本使ヨリ強硬ニ本件ノ討議ヲ主張シタル結果「カ」ハ莫斯科ノ指令ナキ今日確定的ノコトハ申兼ヌルモ例ヘハ独立ノ条項ヲ以テ「尼港事件ニ関スル日本ノ申出ハ将来ノ会議ニ於テ決定ス」ト規定スルカ如キハ如何之トテ今日決定シ得ルニアラサルモ御同意ヲ得ハ莫斯科ヲシテ承諾セシムル様努力スヘシト述ヘタルニ付貴案ハ遺憾乍ラ同意スルヲ得ス本件ノ解決ヲ将来ニ譲ルコトシテ国交ノ回復ヲ計ルカ如キハ政府ニ請訓スル迄モナク最明白ニ其不可能ナルヲ断言スト告ケタルニ「カ」ハ貴方ノ案ニ拠レハ協約中ニ条文ヲ設クルモ遺憾ノ意ヲ表スルハ将来ニ行フ趣旨ナリヤト問ヒタルニ依リ本使ハ本使提出

ノ条文ニ在ル shall express ハ協約成立ト同時ニ遺憾ノ意ヲ表示スヘシト言フ意味ナルヲ説明セルニ「カ」ハ然ラハ協約中ニ斯ノ如キ規定ヲ設クル外更ニ謝罪ノ書面ヲ発送スル訳ニテ一層同意シ難シト述ヘタリ依テ本使ハ貴方ノ協約案第六条中ニハ尼港事件ハ単ニ請求及債権ニ付記セラレアルニ過キス然ルニ我方トシテハ本件ヲ重要視スルカ故特ニ之カ為独立ノ条項ヲ設クルヲ必要トシ本条文案ヲ作成セルモノナルモ条文其物ニハ重キヲ置ク次第ニ非ス重キヲ置クハ遺憾表示ノ書面ナリ之故ニ貴方ニ於テ遺憾表示ノ文書ヲ出ス事ヲ約束セラルルナラハ本条ノ全般ハ削ルモ差支ナシト説キタル上本問題ニシテ解決スルヲ得ハ爾余ノ問題ニ付テハ大ナル困難ナク協議ヲ取纏メ得ヘシト思考セラルルカ故ニ篤ト御考慮アリ度キ旨ヲ告ケタル処「カ」ハ莫斯科ニ対シテハ他ノ問題ト共ニ全体トシテ報告スル方然ルヘシト考ヘ居レリトテ債権問題ニ関スル我方条文案ヲ求メタルニ付本使ハ次回迄ニ作成シ置クヘキヲ約シ且貴方ヨリ莫斯科ニ交渉全体ノ形勢ヲ報告スルニ方リテハ交渉ハ大ニ望アリ但シ尼港事件ニ関スル遺憾表示ノ文書タケハ本使ニ於テ絶対ニ譲歩セサル事ヲ明言シ居ル旨ヲ書添ヘラルルニ於テハ

(二)貴電第三七六号中第一ニ関シ尼港事件ニ関連スル利権ニ就テハ其ノ種類、場所及経営条件等ニ付此際具体的ニ詳細取極ムルヲ要スルハ往電第一五〇号ニテ御承知ノ通ニテ当方ニテハ往電第二九九号末段所載ノ通右ニ関シ目下取急キ審議中ナルニ付決定次第電報スヘシ

(三)同上第二ニ関シ露国側ノ所謂帝国ト第三国間ノ条約協定トシテ「カラハン」ノ説明セル所ニハ「ベッサラビヤ」条約ヲ指摘シ居ラサルモ露国側ノ意図ハ或ハ同条約ヲモ包含セシメムトスルモノト推察セラルル処右ノ点ハ適当ノ方法ニテ夫トナク先方ノ意向ヲ探査セラレタシ

(四)同上第三旧条約問題ニ関シテハ我方ニ於テハ「ポーツマス」条約ノ効力ハ極力之ヲ主張シ絶対止ムヲ得サル場合ノ外譲歩セサルコトトシタキ意向ニシテ往電第一一五号三中「絶対已ムヲ得サル場合」ノ方法トシテ示シタルハ我方ノ最終譲歩案ニシテ貴官ノ交渉上ノ便宜ヲ顧ミ予メ通報シ置キタルモノナルニ付右御含置アリタク本件ニ関シテハ先方ニテ相当懸引ヲ為シ居リ尚譲歩セシムルノ余地アルヤニ思考セラルルニ付我国論並枢密院ノ難関等ニ鑑ミ此ノ上トモ我方主張ヲ強硬ニ支持セラレ若シ已ムヲ

異存ナキ旨ヲ付言シ置キタリ

終リニ「カ」ハ仏国総選挙ノ結果「エリオ」内閣ニ於テ或ハ「マクドナルド」同様突然承認ヲ為スヤモ計ラレス右ノ如キ場合ニハ自分トシテハ頗ル面白カラサル立場ニ立タサルヲ得サルカ故ニ本交渉ヲ一刻モ早ク成立セシムル様健康ノ許ス限リ促進セシメタキ考ナリト語リ居タリ

三五八　五月十八日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

カラハントノ正式会談開始ニ当リ注意事項通報ノ件

第三一一号

貴電第三七三号及第三七六号ニ関シ

当方ニ於テ心付キタル点不取敢左ニ申進ス

(一)露国側提案第九条ノ如ク基本協定ノ調印ト同時ニ其ノ効力ヲ発生セシムルコトトスル場合ニハ往電第二九九号ヲ以テ申進シタル通予メ枢密院ノ諒解ヲ得ルノ必要アルヘキニ依リ協定ノ内容及字句ニ付テハ特ニ慎重ナル注意ヲ以テ之ヲ決定スルノ要アルニ付申ス迄モナキ義ナカラ其ノ辺特ニ御含ミ置相成タシ

得ス譲歩セサルヘカラサルカ如キ場合ニハ予メ請訓セラルル様致度シ

三五九　五月十九日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

私有財産ノ補償問題ニ関スル政府ノ方針ニ付キ訓電ノ件

第三一三号

貴電第三八三号ニ関シ

一　利権ニ関シテハ既電ノ通リ目下取急キ審議中ナルニ付決定次第電報スヘシ

二　前記貴電中二ニ関シ私有財産問題ノ要領ハ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ヲシテ現在同共和連合国ノ領域タル地域内ニ於テ一九一七年十一月七日ヨリ本協定実施ニ至ル迄ノ間ニ露国労農政府其ノ同盟諸政府及ヒ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府若ハ此等ノ機関ニ依リ又ハ其ノ容認セル行為ノ為日本国臣民カ不当ニ被リタル一切ノ損害ヲ賠償スルノ義務ヲ承認シ又前記諸政府若ハ其ノ機関ニ依リ没収又ハ抑留セラレタル日本国臣民ノ財産ニシテ現存シ且回復シ得ルモノニ付テハ之ヲ回

復スヘキコトヲ約セシムルニアリ

但前記一切ノ損害ニハ尼港事件ニ因ル損害ヲ包含セサルモノトス

尚又前記ノ約定ヲ双務的規定トスルトキハ露国側ヨリ我西比利亜出兵ニ因ル損害等ノ問題ヲ提起シ問題ヲ紛糾セシムルノ虞アルニ付其ノ点特ニ御注意アリタシ

三　西比利亜駐兵ニ因ル損害ノ件ハ別ニ送付ス

三六〇　五月十九日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

尼港問題ニ対スル政府ノ方針ニ付キ訓電ノ件

第三一四号

貴電第三八三号ノ三及第三八四号ニ関シ

尼港事件責任問題ニ関連シ先方カ西比利亜駐兵中日本軍ニ依リ行ハレタリト称スル行為ヲ個々ノ場合ニ付取上ケ論議スルコトトナルトキハ種々面倒ナル結果ヲ惹起シ之カ為会議ノ進行ヲ遅延セシムルノミナラス或ハ其ノ成立ヲ阻礙スルノ結果トナルノ虞アルニ付概括的ニ之ヲ承認セサル様仕向ケラレタシ

尚尼港事件ニ関シテモ貴電第三八四号ニ依リ貴使ニ於テ既ニ我方主張ヲ闡明セラレ居ル通ナルカ尚本件ニ付テハ昨年「ヨッフェ」カ非公式予備交渉ナリシトハ云ヘ労農政府ノ正式代表トシテ既ニ書面ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表スルコトニ同意シタルノミナラス利権譲渡ノコトニ関シテモ我方主張ニ同意シタル経緯ヲ指摘セラレ且右ノ事情ハ当時「ヨッフェ」ニ於テ進ンテ「ヨッフェ」川上公使間交換文書ヲ本邦新聞紙ニ公表セル為一般ノ周知スル所トナリ本邦輿論ハ右ノ諸点ニ関シテハ既ニ所定セルモノナリトノ感想ヲ有シ居ル次第ナルヲ以テ前記ノ如ク「ヨッフェ」ノ同意アリタル事実ヲ無視シテ更ニ本件ヲ持出シ事態ヲ逆転セシメントスルカ如キハ我方国民ノ感情上甚タ面白カラス尚尼港事件遭難者遺族関係者ニ於テ予テ遭難記念碑ヲ九段ニ建設スルコトヲ計画シ居リタル処右ハ最近竣成シ本月二十四日除幕式ヲ奉行スル筈ナレハ更ニ同事件ニ関スル記憶ヲ国民ノ間ニ新ニスルコトトナルヘキ事情モアリ若シ本件ノ満足ナル解決ヲ見スシテ日露国交ヲ回復スルカ如キコトトナラハ国論ハ到底之ヲ是認セサルヘキニ付貴使ハ右事情ヲ体セラレタル上我方主張ヲ強硬ニ持セラレ以テ露国側ヲシテ尼港事件ニ関シ遺憾ノ意ヲ表セシムルノ外又同事件解決ニ関連シテ利権ヲ譲渡セシメントスル我方従来ノ主張ヲ貫徹セラルル様努メラレタシ

三六一　五月十九日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

浦潮ニ於ケル軍人拘禁問題ニ対スルカラハンノ好意的発言報告ノ件

第三八五号　極秘　（五月二十日接受）

貴電第二九九号中御申越ノ拘禁問題ニ関シ五月十九日会議ノ際「カラハン」ハ本使ニ対シ貴公使ノ極メテ親善的ナル態度ト日露交渉ノ円満ナル進行トニ顧ミ此際二名ノ軍人ノ釈放並追放方莫斯科政府ニ稟請シ置キタル処未タ回答ニハ接セサルモ必ス貴公使ノ希望ヲ満足セシムルニ至ルヘシト言明セリ

三六二　五月二十日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

債権償還問題其ノ他ニ関スルカラハントノ応酬ニ付キ報告ノ件

別電　五月二十日在中国芳沢公使発松井外務大臣宛電報第三八七号

第三八六号　至急極秘

往電第三八四号ニ関シ五月十九日ノ会議ニ於テ先ツ本使ヨリ債権問題ニ関スル我方条文案（別電第三八七号）ヲ提示シタルニ「カ」ハ旧債務ハ露国側ニ於テ之ヲ償還セサル事ニ方針一定シ居ル次第ハ自分ヨリ従来屢次声明セル次第ニモアリ貴方ニ於テモ疾ク御承知ノ筈ナルヲ以テ右条文ヨリモ更ニ一層妥協的成案ヲ有セラルニ相違ナシトテ之カ提示ヲ求メタルカ本使ハ然ラハ露国側ニ於テハ我政府及民間ニ対スル債務ハ如何ニ之ヲ処置セラルル考ナリヤト反問セルニ「カ」ハ露国ノ立場ハ「ゼノア」会議ニ於テ声明セル通ニシテ各国ノ共通問題タル本件ニ関シ日本ニ対シテノミ其ノ要求ヲ認ムル事到底不可能ナルヲ以テ協定案第六ノ程度ニ止メ度シト答ヘタリ依テ本使ハ貴案ニ依レハ尼港問題モ其内ニ包含セシムル訳ニテ我方ノ絶対ニ同意シ難キ処ナルヲ以テ尼港事件及其他ノ問題ニ関シ貴方御考慮ノ結果ヲ承知シタル上債権問題ノ規定ニ付更ニ再考ヲ加フル事トスヘシト述ヘタルニ「カ」ハ御話ノ趣旨ハ尼港問題及其他ノ問題ヲ以テ債権問題ト関連セシメントセラルルモノナル処債権

問題ニ関シテハ貴方ニ於テ充分研究ヲ遂ケラレ従テ協定ノ準備アリト信セラルルニ拘ハラス協定ニ到達シ得ヘキ御意見ヲ聞キ得サルハ遺憾ナリト述ヘタルニ付本使ハ本問題ニ関シテハ単ニ条文案ヲ作製スヘシト約セルニ過キス貴方ヨリ我方ニ対シ斯々ノ問題ノ最低限度ヲ示スヘキ旨申出テラルルニ於テハ当方ヨリモ同様ノ主張ヲ為スノ外ナク即チ尼港問題並「ポーツマス」条約ニ対スル最後ノ意向ヲ承知致度シ

我方債権トシテハ政府ノ分約三億、私人ノ分六千九百万円ニシテ之ヲ英、仏ノ債権額ニ比スレハ少額ナルヘキモ之ヲ単独ニ考フレハ決シテ少額ト云フヲ得ス従テ之ヲ放棄スルヲ得サルハ勿論、漫然後日ノ商議ニ譲ルヘシトノ貴方ノ主張ニハ直ニ同意スルヲ得サル次第ナリ尚茲ニ思付ケル二点アリ

㈠利権ノ提供ニ関シテハ三月二十九日ノ会見ノ際ニモ多少具体的ニ規定シ置クノ必要アルコトヲ述ヘ置キタル処ナルカ近日中右ニ関スル条文案ヲ準備スヘシ

㈡協約案第七条中ニハ「ベッサラビヤ」条約ヲ含ム趣旨ナリヤト云ヘルニ、㈠ニ対シ「カ」ハ利権ニ関スル協約案第四条ハ帝政時代ニ与ヘサリシモノヲ今回特ニ与フルモノニシテ之ニ関シテハ夫々国内法上ノ条件モアリ森林鉱山等ノ種類ヲ掲クルハ差支ヘナキモ之カ期限条件等ノ規定ヲナスハ自分モ不案内ニシテ急速ニ運ハサルヘシ又先例ニ徴スルモ「ポーツマス」条約ニハ漁業権ヲ与フヘキ一般的規定ヲ設ケタルニ過キス、㈠ニ付テハ「ベ」条約ハ勿論露国ノ主権ヲ侵害スルモノトシテ成ルヘク斯ル条約ノ廃棄ヲ希望シ少クモ右第七条ノ規定アレハ批准ヲ行ハルルカ如キコトナカルヘク又日露国交回復セハ斯ル条項ナク共批准ハ中止セラルヘシト信スト答ヘ本使ヨリ利権ニ付テハ其場所、種類、期限其他ノ条件等ニ付多少詳細ノ規定ヲ為スヲ必要トスル所以ハ単ニ漠然タル規定ヲ設クルノ結果後日紛議ヲ生スルノ虞アルニ付之ヲ避クルノ趣旨ニ他ナラサルヲ以テ必スシモ精密ナル細目ニ亘ラストモ稍詳細ナル大綱ニ付付属文書ヲ以テナリトモ之ヲ定メ置ク事相互ノ為ニ得策ナルヲ信スト説明シ、㈡ノ点ハ是非「ベッサラビヤ」条約ヲ包含セシメントノ御主張ナルニ於テハ政府ニ電報シテ其考慮ヲ請ハサル可カラスト告ケタリ茲ニ於テ「カラハン」ハ先刻「ポーツマス」条約ニ関シ主張セラレタル処実ハ本問題ニ関シテハ同条約ノ歴史的価値ニ鑑ミ日本ノ重キヲ置ク所以モ自分ニ於テ予テ了解シ居リタルヲ以テ本条約ニ関スル日本政府ノ主張ヲ支持シテ至急ニ禀請シ置キタル処莫斯科ニ於テハ同条約ノ効力ヲ認ムル結果法律上何等差支ナキニ付法律家ヲシテ研究セシメタルモ今迄ノ所差支ナキ模様ナルカ尚確定ノ上ハ通知スヘシト述ヘタルニ付本使ハ自分モ同条約ヲ閲読シタルモ労農政府ニトリ差支アリトハ認メラレスト告ケタルニ「カ」ハ難関ノ一タル条約問題ハ斯ノ如クニシテ解決ニ近ツキタルニ付残ル難関ハ尼港事件及債権問題、私有財産権問題ニ過キス私有財産権ニ付テハ少シク日本側ノ譲歩ヲ得レハ容易ニ纏ルヘク考ヘ居リ此際債権問題サヘ片付クルヲ得ハ尼港事件ニ関シ日本側希望通リ政府ニ禀請スヘキ自分ノ立場ヲ強固ナラシメ得ヘキカ為此点ニ顧ミ債権問題ニ対スル特別ノ考量ヲ煩ハシ度キ旨ヲ切言シ斯ノ如キ重要問題ニ関シ日本政府ハ委任状発給前充分研究シ居ラサル筈ナシト述フル所アリ本使ハ条約問題カ日本側主張通リ解決ニ近ツキツツアルヲ謝スルト共ニ債権ニ対スル政府ノ訓令トシテハ本使ヨリ提出セル条文案ニ示セル通ニテ其以外ニ譲歩案ナルモノナシ但シ本使ノ有スル一般訓令ニ依レハ貴下ノ態度如何ニ依リテハ考量ヲ加ヘ差支ナキコトトナリ居レリ之本使カ曩ニ我方条件提示ノ際貴方ノ主張ニシテ道理アリ同情スヘキモノアルニ於テハ考慮ヲ加フルニ躊躇セサルヘキヲ言明シタル所以ナリ就テハ貴下ニ於テモ日本ノミニ対シ其債権ヲ抛棄セヨトハ主張セラレサルヘキニ顧ミ其意味ノ範囲ニ於テ「フォミュラ」ヲ作製シ明日ノ会議ニ提出スヘシト答ヘタル処「カ」ハ勿論債権ハ有効ニ有スルモノトシテ審議スル次第ナリ協約案第六モ亦其意味ニ外ナラサルヲ以テ此趣旨ニテ可ナリトセハ今日ニモ莫斯科ニ電報シタシト述ヘタルカ本使ハ貴案中ニハ mutual トアル処労農政府ノ日本ニ対スル債権トハ如何ナルモノナリヤト質シタルニ「カ」ハ実ハ如何ナルモノナリヤ承知セス露国ニ於テハ此種既決訓令モ無之日本ノ要求額ノ如キモ新聞記事等ニ依リテ承知セルニ過キス若シ mutual ナル文字ヲ不愉快ト考ヘラルルニ於テハ之ヲ削除スルモ可ナリ但シ実際日本ニ対シ露国側ニ於テ斯ノ如キ債権ヲ有スル場合ニハ請求スヘシト云ヘルニ依リ本使ハ労農政府若ハ人民ノ日本ニ対スル債権ナル文字ナカルヘシト思考スルニ依リ右ノ文字ヲ削除シ何分ノ案ヲ作製スヘシ万一日本側ニ於テ何

等債務ヲ負ヘリトセハ借リタルモノヲ返スコトハ天下ノ通則ナリト述ク置ケリ

尚終リニ「カラハン」ハ利権ニ関シテハ其ノ土地的範囲ヲ露国就中東部西比利亜、北樺太トシ其種類ヲ油田、炭田、森林、金銀炭鉱其他ノ鉱物、漁業等トナスコトハ可ナルモ期限其他ノ条件ヲ定ムル等ハ現在専門家ヲ有セサル自分トシテハ之ヲ為シ得スト述ヘ債権問題ニ付テ譲歩ヲ得ハ尼港事件ニ付テハ御希望ニ添フ様是非莫斯科ヲ動カスヘシト語リ居リタリ

（別　電）

五月二十日在中国芳沢公使発松井外務大臣宛電報第三八七号

Gaimudaijin,

Tokyo.

No. 387

Japanese Government, without in principle relinquishing their claim in regard to debts owing to them by former Government of Russia, shall undertake to allow such claim to lapse in consideration of gratuitous and especially favorable long-term concessions of a major character which Government of U.S.S.R. shall grant to Japanese interests in districts of North Saghalien and East Siberia to be specified by agreement.

Yoshizawa

三六三　五月二十日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛

日露交渉ノ諸案件ニ関シ政府ノ方針ヲ指示ノ件

付属書一　北樺太ノ利権獲得ニ関スル地域及ビ条件

二　対露私有財産ニ関スル請求ノ内容説明

三　尼港事件及ビ露国側ノ所謂日本ノシベリア出兵中ノ不法行為ニ関スル説明

四　シベリア出兵中ノ所謂不法行為ニ関スル軍備縮小同志会ノ記述トコレニ対スル陸軍ノ見解

欧一機密第一〇一号

大正十三年五月二十日

松井大臣

在支　芳沢公使

日露交渉ノ諸案件ニ関スル件

貴電第三八三号ヲ以テ御申越ノ諸件ニ関シ左記回答申進候也

記

一、(イ)尼港事件ニ関連スル北樺太利権獲得ニ付テハ別添第一所載ノ趣旨ヲ以テ取纏ムル様交渉セラレ度シ

尚別添第一所載利権ノ種類及地域ニ関シテハ露国側ニテハ広大ナル地域ニ渉リ利権ヲ許与スルコトハ之ヲ困難トスル処アルヘク又先方ニ提供スヘキ利益配当ニ関シテハ客年非公式予備交渉ノ際ニ純収益ノ百分ノ五乃至六ヲ支払フヘキ旨提議セル次第モアルニヨリ百分ノ五トシ置キタルモ或ハ我方提案ヨリモ遙ニ自己ニ有利ナル条件ヲ提出シ来リ別添第一所載ノ我方提案ニ同意ヲ難ンスルヤモ測リ難ク尚又労働者ニ関スル条件其他沿岸貿易等ニ関シテモ直ニ我方提案ニ同意セサルヤモ測リ難キ処斯ル場合ニハ交渉ノ成行ニ応シ適宜調節スルコト止ムヲ得サルヘシト認ム但シ其ノ場合ニハ予メ請訓セラルル様致度シ

(ロ)東部西伯利ノ利権ニ関シテハ当方ニ於テ大体別添第二（編註）ノ如キ利権ヲ考慮シ居ルモノナルカ右ハ先方ニ於テ尼港事件ニ関連セシムルコトニ同意セサルヘシト推測セラルルニヨリ右ノ場合ハ同事件ト切離シ別ニ右利権ヲ日本人ニ供与セシムルコトニ取纏メラレ度ク尚先方ニ於テ強テ日露合弁ヲ主張スルニ於テハ之ニ同意セラレ差支ナシ

尚黒龍江及松花江ノ航行権問題モ前記東部西伯利ノ利権ト同様ニ取計ヒ解決ニ努メラレタシ

(ハ)漁業協約ニ関シテハ本邦漁業者ノ経営ヲ経済的ニ困難ナラシメサル趣旨ヲ以テ追テ改訂スルコトトシ右改訂ニ至ル迄モ前記ノ趣旨ヲ考慮ニ加ヘ現行協約同付属議定書及之ニ関連スル取極ノ適用ヲ為スヘキ旨ヲ基本協約中又ハ特別議定書ヲ以テ約束セシムル様致度ク若シ先方ニ於テ議定書作成ヲモ同意セサルトキハ議事録中ニ其ノ旨記入セシムルコトニ取計ハレタシ

二、私有財産問題ニ関スル我方主張ハ別添第三ニ依リ承知セラレタシ但シ右所載ノ金額ハ之ヲ直ニ露国側ニ提出スル趣旨ニ非ス

三、(イ)尼港事件ニ対スル我方主張ハ別添第四ノ通ナルニ付右ノ趣旨ニヨリ先方ニ対抗セラレタシ

(ロ)我派遣軍西伯利駐兵中行ヒタリト称セラルル残虐行為ニ関シテハ客年非公式予備交渉当時軍備縮小同志会ヨリ

之ニ関スル冊子ヲ関係大臣ニ配布シタルコトアル処之ニ対スル陸軍当局説明別添第五ノ通ナルニ付右貴使内密ノ御参考マテ通報ス

四、尚「カラハン」提出ノ対案ヲモ参酌シ当方ニテ準備セル英文日露協定草案別添(編註)第六ヲ以テ送付ス右ハ未タ確定シタルモノニアラサルヲ以テ右ノ御含ニテ単ニ御参考ニ供セラレ度シ

五、前項所載案文中北樺太撤兵ニ関スル期限ヲ三箇月ト記載シ置キタルハ本件ニ関シ陸軍側ニ於テ少クトモ三箇月ヲ要スヘシトノ意向ヲ有スルニ顧ミ仮ニ斯ク定メタル次第ニシテ本件ヲ確定スルニ就テハ更ニ陸軍側ト協議ヲ重ヌル必要アルモノト御含置アリタク又北樺太ニ於テハ種種軍事上ノ設備アルニ付撤兵ニ関連シテ此等施設ノ処理ニ関シテモ露国側トノ間ニ協定ヲ遂クル必要アリ此点ニ就テハ何等カノ方法ニヨリ取極ヲ要スルニ付是亦御含置アリタシ

六、北樺太ニ於テ我方ノ獲得セント欲スル利権ノ区域ヲ示ス地図ハ別添(編註)第七ノ通リ送付ス

七、第四項所載案文中東支鉄道ニ関スル分ハ此儘直チニ之ヲ提案セントスル次第ニアラス本問題ハ種々複雑ナル事情存在スルハ夙ニ御承知ノ通ナルカ「カラハン」ヨリ後藤子爵ニ宛テタル書簡中ニモ日露秘密協約ニ関連シテ東支鉄道南線譲渡等ニ関スル大正六年十一月二十二日ノ日露交換公文ニ付テモ暗ニ言及シ居ル次第モアリ日露秘密協約ノ効力問題論議ノ際等ニ自然本問題ニモ触ルルコトトナルヘキニ付其等ノ機会ニ於テ適宜東支問題ニ関スル我方利害ヲ説明セラレ先方ノ意向ヲ探ルト共ニ漸次事態ヲ準備セラレ以テ問題ヲ我方案文ノ如キ趣旨ニ導カレタル上之ヲ解決スル様努メラレタシ

編註　本電冒頭ノ欄外ニ「五月二十一日宮川通訳官携行セリ」トノ記入アリ。尚別添第六ハ見当ラス第二及ヒ第七ハ省略セリ。

(付属書一)

北樺太ノ利権獲得ニ関スル地域及ビ条件

第　条

「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ露領薩哈嗹島ニ於テ付属議定書甲ニ記載スル地域内ニ於テ石油、石炭及森林ニ関スル富源開発ノ権利ヲ本協定実施ノ日ヨリ九十九年間付属議定書甲ニ記載スル条件ニ依リ日本帝国政府ノ特許スル日本会社ニ許与スルコトニ同意シ日本帝国政府又ハ日本帝国政府ノ特許スル日本会社ハ右開発企業ノ純収益ノ百分ノ五ヲ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニ年々支払フヘキコトヲ約ス

本協定ノ効力発生以前ニ於テ露国国民又ハ別国ノ政府若ハ国民カ前記地域ニ関シテ有スル一切ノ権利及利益ニシテ前項ノ規定ト牴触スルモノニ対シテハ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニ於テ一切ノ責任ヲ負担シ日本帝国政府又ハ日本帝国政府ノ特許スル日本会社ニ於テハ何等ノ義務ヲ負ハサルモノトス「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ露領薩哈嗹島沿岸及同島内ノ河川、入江、湖潟ニ於ケル漁業ヲ管理スルノ権利ヲ本協定実施ノ日ヨリ九十九年間付属議定書乙ニ記載スル条件ニヨリ日本帝国政府ニ許与シ日本帝国政府ハ之ニ対シ漁区、製漁区ノ借区料及其ノ他ノ漁業免許料並営業免状料ヨリ管理ニ必要ナル費用ヲ控除シ剰余額ハ之ヲ「ソヴィエト」社会主義共和連合国ニ交付スルコトニ同意ス

付属議定書　甲

本日締結シタル日露修好ニ関スル基本協定ニ調印スルニ当リ同協定第　条ニ関シ下ニ署名セシ全権委員ハ左ノ如ク協定セリ

第一　地　域

(甲)　油田

(a)　南部油田

南方界　北緯五十度三十分

北方界　同　五十二度

東方界　海岸線

西方界　海岸線ヨリ二十露里(二万一千四百米)ノ距離ニ於テ海岸線ト平行ナル線ニテ劃ス

(b)　中部油田

南方界　北緯五十二度

北方界　北緯五十三度

東方界　海岸線

西方界　海岸線ヨリ三十露里(三万二千百米)ノ距離ニ於テ海岸線ト平行ナル線ニテ劃ス

(c)　北部油田

南方界　北緯五十三度

北方界　北緯五十三度五十分

東方界　海岸線

西方界　海岸線ヨリ二十露里(二万一千四百米)ノ距離ニテ海岸線ト平行ナル線ニテ劃ス

(乙)　炭　田

南方界　北緯五十度

北方界　北緯五十一度三十分

西方界　海岸線

東方界　海岸線ヨリ六十露里ノ距離ニ於テ海岸線ト平行ナル線ニテ劃ス

(丙)　森　林

(a)　西部森林

南方界　北緯五十度

北方界　北緯五十二度

西方界　海岸線

東方界　「ツイミ」河及「ホロナイ」河ノ分水嶺

(b)　中部森林

北方界　北緯五十一度三十分
南方界　「ホロナイ」河ト「ツイミ」河トノ分水嶺
西方界　西海岸ト「ツイミ」河トノ分水嶺
東方界　東海岸ト「ツイミ」河トノ分水嶺

第二　条件

一、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ日本帝国政府又ハ日本帝国政府ノ特許スル日本会社カ露領薩哈嗹島ニ於テ石炭及石油ヲ採掘精煉及精製シ又木材ヲ伐採造材シ又ハ之ヲ原料トスル機械的及化学的工業ヲ経営シ並此等各種生産品ヲ自由ニ販売スルニ異存ナシ

二、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ本企業ニ必要ナル範囲ニ於テ露領薩哈嗹島ニ於テ築港、鉄道及輸油管ノ敷設並通信其ノ他施設ヲ為スノ権利ヲ日本帝国政府又ハ日本帝国政府ノ特許スル日本会社ニ許与ス

三、日本帝国政府又ハ日本帝国政府ノ特許スル日本会社カ露領薩哈嗹島ニ於テ本企業及付帯施設ノ為ニ使用スル人員ノ国籍ニ関シテハ何等ノ制限ヲ設クルコトナカルヘク又「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ労働ノ管理及組織ニ関シ何等ノ干渉ヲナスコトナカルヘシ

四、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ本企業及付帯施設ニ対シ其ノ名称ノ如何ヲ問ハス一切ノ課金ヲ免除ス

五、日本帝国政府又ハ日本帝国政府ノ特許スル日本会社ハ其ノ名称ノ如何ヲ問ハス何等ノ課金ヲ課セラルルコトナクシテ自由ニ本企業及付帯施設ニ必要ナル一切ノ機械、材料、食料及

其ノ他ノ物資ヲ輸入シ又本企業ノ一切ノ生産物ヲ輸出スルコトヲ得

六、日本船舶ハ本企業及付帯施設ノ為日本国及其他ノ地方ト露領薩哈嗹島トノ間及露領薩哈嗹島各港間ヲ自由ニ往復シ何等ノ課金ヲ課セラルルコトナクシテ企業ノ生産物、企業及付帯施設ニ必要ナル人員及物件ヲ運搬スルコトヲ得

七、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ本企業及付帯施設ノ経営ヲ容易ナラシムル為有効ナル便宜及援助ヲ供与スヘク且右ニ対シ支障トナルヘキ措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

八、本企業及付帯施設ニ関シ当事者間ニ争議発生シタル場合ニハ先日本帝国政府ト「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府間ノ外交的処理ニ依リ解決スヘク若シ其ノ解決不可能ナリシ場合ニハ之ヲ仲裁委員会ノ判定ニ付スヘシ

仲裁委員会ハ日本帝国政府及「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ノ任命スル各同数ノ委員並前記両政府間ノ合意ニ依リテ選任スル委員長ヲ以テ之ヲ組織ス

委員長ノ選任ニ関シ前記両国政府間ニ合意成立セサルトキハ両国政府ニ於テ両国孰レノ国民ニモ属セサル者各一名ヲ選定シ其協議ニヨリ之ヲ選任セシムヘシ

右証拠トシテ両国全権委員ハ本議定書ニ記名調印スルモノナリ

付属議定書　乙

管理ノ方法ハ凡テ日露両国人ニ対シ均等ノ取扱ヲ為スコトトシ且左ノ方針ニ従フコト。

イ、日露漁業協約ノ精神ニ拠ル、之ニ規定ナキカ又ハ之ニ拠ル

コト適当ナラサル事項ニ付テハ別ニ適当ナル管理方法ヲ定ムルコト。

ロ、日本帝国政府ハ船舶ニ依ル漁業ノ為ニ漁港ノ修築其他漁業ニ必要ナル陸上設備ヲ為ス権利ヲ与フルコトヲ得。

ハ、労働者ノ使用及争議解決ノ方法ニ関シテハ本条付属議定書甲中ニ記載スル規定ヲ準用スルコト。

（付属書ニ）

別紙　対露私有財産ニ関スル請求ノ内容説明

第一　(A)工業及商業ノ部ニ於ケル損害額合計、一千百二十六万九千十円六銭、(B)不動産ノ部合計四十五万七百十三円二十五銭及(C)雑ノ部中家財家具（動産）ノ部四十五万二千百九十円六十二銭ハ露国各地ニ在住シ居タル本邦人所有ノ財産ニシテ其儘放置セラレタルモノニシテ其大部分ハ露国官憲ノ徴発スル所トナリタルカ又ハ労働者ノ占有ニ帰シタルモノナルヘシト推測セラルル然ル処此種ノ財産ハ労農露国民法第五十九条註第一ノ規定ニ依リ其ノ返還ヲ求ムルコト能ハサルニ付露国政府此カ責ニ任スヘキナリ

但本邦ヨリ露国ニ輸送ノ途中ニ於テ過激派革命乱ノ為到着シタルヤ否ヤ明ナラサル商品モ本項中ニ包含ス

第二、銀行預金八百七十五万七千三百八十一円五十四銭、会社銀行ノ株券社債券十六万四千五百九円四十七銭及保険料一万九百五十円五十七銭ハ何レモ労農政府ノ銀行会社国有処分ノ結果権利ヲ喪失シタルモノナリ

第三、労農政府及其ノ機関ノ不法行為ニ基ク損害額合計千五百二十四万七千四百三十六円四十四銭ハ不法ニ没収又ハ徴発セラレタル損害額、赤軍ニヨリ財産ヲ破壊、掠奪焼却セラレタル損害、二重課税ニヨル損害、官憲ノ不当ナル圧迫ニ依ル損害等ヲ計上シタルモノトス

第四、旧露国政府諸機関ニ対スル商品売掛代金合計一千百八十二万五千四百四十四円二銭ハ労農露国民法施行法第二条ノ規定ニ依リ請求スルノ途ナキニ至リタルヲ以テ労農政府其責ニ任スヘキモノトス

尚別表ハ露国事変及西比利亜引揚ニ基ク損害救恤申請及対露貿易連合会ノ調査ニ基キ計上シタルモノニシテ何等査定ヲ加ヘタル数字ニアラス従テ右ハ充分ノ信ヲ置クニ足ルモノトモ言ヒ難キモノナレハ別表ヲ其儘露国側ニ提示スルノ趣旨ニ在ラサルモノトス

私有財産ニ関スル請求

A、工業及商業ノ部

一、	機械類	九五、九三〇円〇〇
二、	織物	二五二、八八三円八四銭
三、	採鉱	一一五、三九一円二〇銭
四、	(イ)木材	二八〇、五六三円〇〇
	(ロ)製材工場	二、〇〇〇円〇〇
五、	薬品	八五、一二〇円四〇銭
六、	煙草製造所	一四、四〇〇円〇〇
七、	貯蔵場	三六、五〇〇円〇〇
八、	公益事業	一七、五四〇円〇〇
九、	食料品製造所	五六、七四一円〇〇

一〇、(イ)前記以外ノ商工業上ノ企業設備、什器等

日貨	一、二九二、四四五円〇一銭
露貨	(二二、〇〇〇留〇〇
(換算)	二二、九〇二円〇〇
計	一、三一五、三四七円〇一銭

(ロ)前記以外ノ商品

日貨	四、三七五、一四五円八九銭
露貨	(六、六二二、三四七留九一哥
(換算)	六、八九三、八六四円一七銭
計	一一、二六九、〇一〇円〇六銭

B、不動産ノ部

一、家屋

(イ)日貨	三六一、九〇四円二五銭
(ロ)露貨	(七五、〇〇〇留
(換算)	七八、〇七五円〇〇
計	四三九、九七九円二五銭

二、土地

	一〇、七三四円〇〇
以上合計	四五〇、七一三円二五銭

註　家屋中ニハ長期租借ヲ含ムモノト思考セラル。土地ニ付テハ本邦人名義ヲ以テ所有権ヲ有シ居ルヤ否ヤ甚タ疑ハシ

C、雑ノ部

一、旧露国政府諸機関ニ対スル商品売掛代金

(イ)日貨	一一八、六八四円二一銭
(ロ)露貨	五二五、九五四留二八哥
(換算)	五四七、五一八円四〇銭
(ハ)米貨	三、四五三弗三〇仙
(換算)	六、九五二円五六銭
(ニ)英貨	二六、九五五磅八志
(換算)	二六四、〇五五円〇九銭
合計	九三七、二一〇円二六銭

二、銀行預金

(イ)日貨	二、五一三円五〇銭
(ロ)露貨	(八、四一〇、〇五五留七六哥
(換算)	八、七五四、八六八円〇四銭
合計	八、七五七、三八一円五四銭

三、会社銀行ノ株券社債券

露貨	一五八、〇三〇留三六哥
(換算)	一六四、五〇九円四七銭

四、労農政府及其ノ機関ノ不法行為ニ基ク損害額

a、大正九年三月迄ノ分

(イ)日貨	一二、八五七、八一六円六二銭
(ロ)露貨	一、六四九、三七〇留
(換算)	一、七一六、九九四円一七銭
計	一四、五七四、八一〇円七九銭

b、大正十一年十月迄ノ分

	六七二、六二五円六五銭
以上合計	一五、二四七、四三六円四四銭
五、家財家具（動産）	四五二、一九〇円六二銭
六、保険料	(露貨　一〇、五一九留二八哥
(換算)	一〇、九五〇円五七銭

以上私有財産ニ関スル請求通計　三九、五六二、八一八円六六銭

右以外ニ帝国臣民カ露国個人ニ対シテ有スル売掛代金請求額左ノ如シ

(イ)日貨	二、一〇七、八九六円八三銭
(ロ)露貨	七、〇一九、五四二留
(換算)	七、三〇七、三四三円二二銭
(ハ)英貨	二四六、〇三九磅一二志一片
(換算)	二、四一〇、二〇三円九七銭
計	一一、八二五、四四四円〇二銭

依テ之ヲ私財有産ニ関スル請求中ニ合算セハ合計五一、三八八、二六二円六八銭トナル

(付属書三)

尼港事件及ヒ露国側ノ所謂日本ノシベリア出兵中ノ不法行為ニ関スル説明

一、尼港事件責任問題ニ対スル露国側従来ノ主張ヲ総合スルニ同事件ハ日本カ内政干渉ノ目的ヲ以テ尼港ニ駐兵セルニ基因シ日本軍出征中ニ起レル出来事ニシテ当時尼港ハ労農政府ノ権力下ニアラス又単ニ匪徒ノ行為ニ過キス而カモ日本軍ノ挑発ニ因リテ生シタル事件ナルヲ以テ労農政府ハ之ニ対シ責任ヲ負フ能ハスト云フニ在ルカ如シ

右ニ対シテハ(一)尼港駐兵ハ連合列強共同出兵ノ目的タル「チェック」軍救援ニ胚胎スルモノニシテ大正七年八月独墺俘虜ヲ混入セル尼港過激派軍ハ哈府過激派軍ト策応シ右出兵ニヨル軍事行動ヲ阻害セムトスルニ努メタルノミナラス同方面ニ於テ過激派ト反過激派トノ間ニ紛争ヲ惹起スルニ至リ我居留民ハ其ノ生命財産ノ保護ヲ得ルノ途ナキ重大ナル危険ニ瀕シタルヲ以テ帝国ハ已ムヲ得ス少数ノ兵力ヲ尼港ニ派遣スルニ至リタルモノニシテ我方ハ何等露国内政ニ干渉セルモノニアラス又我軍カ同地ヲ占領セルモノニアラサルコトハ僅ニ二箇中隊ノ兵力ヲ止メ何等占領ノ法理的効果タル行政ヲ行フコトナク又現ニ露国ノ内政ニ干渉セサルコトヲ声明シタルニ依ルモ明ナリ(二)大正八年末「オムスク」政府倒ルルニ至リ労農政府ノ勢力益々黒龍州薩哈嗹州ニ及ヒ九年一月労農ノ正規軍タル赤衛軍ハ尼港ニ迫リ白軍ヲ破リ赤衛軍ハ二月二十九日尼港ニ入リ労農政権ヲ（赤衛軍司令官「トリャピーツィン」、参謀長「ナウーモフ」、秘書「チョールヌイ」）樹立シタル事実並当時哈府ニモ労農側軍隊司令部（軍司令官「ブルガルコフ」、外交部長「ゲイツマン」）アリ尼港赤衛軍司令部ト密接ナル連絡ヲ維持シ居リタルヲ以テ尼港赤衛軍カ労農権力ト密接ナル連繋ヲ有シ居リタルコトハ事実トシテ認ムルノ外ナク(三)尼港虐殺カ単ナル匪徒ノ行為ニアラスシテ軍隊組織ヲ有スル赤衛軍ノ所為ナルコトハ別紙ニ依ルモ明ナリ(四)三月十一日日露軍ノ衝突ハ赤衛軍カ尼港入市後多数ノ露人ヲ逮捕投獄銃殺スル等狂暴残虐ヲ極メタルノミナラス多数ヲ恃ミ却テ日本軍ニ対シ武器全部ノ引渡ヲ要求スルカ如キ日本軍ノ名誉及存立ヲ無視スルノ態度ニ出テ且赤衛軍ハ革命紀念日ヲ期シ

日本軍ヲ鏖殺スヘシトノ風説専ラナルニ至リ遂ニ日本軍ヲシテ已ムヲ得ス自衛上並居留民保護ノ責務上干戈ヲ執ッテ起ツノ余儀ナキニ至ラシメタルモノニシテ尼港事件ハ日本軍ノ挑発ニ因リテ惹起セラレタルモノニアラスシテ狂暴残忍且豹変測ルヘカラサル労農側ノ態度ニ依リ挑発セラレタルモノナリ斯ノ如ク労農政権樹立セラレ居リ労農政府ト連絡ヲ有シ労農政府ノ権力下ニアル尼港ニ於テ労農政府ノ正規軍タル赤衛軍カ帝国領事及領事館員ヲ始メ居留民老幼婦女子全部ヲ不法残忍極マル方法ニ依リ虐殺シタルニ対シ労農政府カ責任ヲ負フヘキハ当然ノ事理ナリトス

二、尼港事件責任問題ニ関連シ露国側ハ日本ノ西比利亜出兵中所謂日本軍ノ不法行為ニ因ル損害ニ付反対要求ヲ提出セムトスルモノノ如キ処帝国カ連合列強ト共同シテ西比利亜ニ出兵シタルハ独墺俘虜ノ混入セル勢力ノ為ニ圧迫セラレ危険ニ陥レル「チェック」軍ヲ救援スルヲ当初ノ目的トシ其後同軍ノ西比利亜撤退後モ西比利亜ノ形勢依然険悪ニシテ無秩序混乱状態ニアリ為ニ朝鮮国境ノ安固ヲ脅威セルノミナラス西比利亜ニ於ケル多数ノ居留民ハ生命財産ノ安全ヲ期スル能ハサルノ実情ニ在リタルヲ以テ帝国政府ハ我接壌地方ノ政情安定シテ鮮満地方ニ対スル危険除去セラレ我居留民ノ生命財産及交通ノ安全保障セラルルニ至ル迄已ムヲ得サル自衛ノ措置トシテ沿海州南部地方ニ一時駐兵シタル次第ニシテ帝国ノ駐兵ハ決シテ露国及露国民ヲ敵トシテ戦ヘルモノニ非ス帝国ニ於テ斯ノ如キ意図ナキハ勿論又斯ノ如キ事実ナク帝国ハ累次ノ宣言ノ通露国ノ領土保全ヲ尊重シ絶対ニ露国ノ内政ニ干渉セサルヲ既定ノ方針トシ日本軍ノ行動ハ前記ノ如ク限ラレタル出兵目的ノ範囲内ニ限ラレタルヲ以テ何等不法行為ニ依リ露国側ニ損害ヲ与ヘタルカ如キコト絶対ニアリ得ヘカラス唯々前記出兵目的達成ノ為鉄道線路ヲ保護シ交通ノ安全ヲ保護スルヲ以テ日本軍ノ重要ナル任務トスル関係上我軍ノ守備スル鉄道ヲ襲撃破壊セムトスル不逞ノ匪徒ヲ防禦撃退シタルコトアルモ斯ノ如キハ已ムヲ得サル措置ニ外ナラス又我軍ノ存立ヲ脅カス重大ナル危険アル場合ニ於テ自衛上右危険ヲ排除シタルコトモ正当ナル自衛行為ニ外ナラス而シテ此等已ムヲ得サル場合ト雖モ我方ニ於テハ努メテ軍事行動ニヨリ露国民ニ損害ヲ与ヘサルコトニ留意シ予メ警告ヲ発シ注意ヲ喚起スル等出来得ル限リノ措置ヲ講シタリ（例ヘハ我軍ハ大正八年一月ノ連合国鉄道管理協定ニ基キ烏蘇里線ノ一部ノ守備ヲ担任シタルカ当時同方面ニ於テ不逞ノ匪徒ニ依ル鉄道破壊頻出シ我軍ニ於テ之ヲ防禦修理スルニ殆ト奔命ニ疲ルルノ有様ニシテ我軍ノ存立為ニ危殆ニ瀕シ事態重大ナルモノアリ現ニ二月中我田中大隊ハ此等匪徒ノ為ニ包囲セラレ全滅セル等ノコトアリ而シテ列国間鉄道管理協定ニ拠ルモ鉄道保護ノ目的ノ為ニハ連合国軍隊ハ鉄道ノ運行ヲ妨害スルモノニ対シテハ武力ヲ以テ之ヲ排除スルノ必要アルコトヲ認メ居リタルヲ以テ当時我軍ハ此等不逞ノ匪徒ノ巣窟ト認メタル黒龍州「イワノフカ」村ニ対シ前後二回ニ渉リ同村ヲ匪徒陰謀ノ中心タラシメサルコトニ付警告シタルモ之ニ応セサリシヲ以テ已ムヲ得ス同年三月同村ヲ攻囲シ砲撃シタル処之カ為火ヲ発シ同村ヲ破壊シ多数ノ死傷者ヲ出シタルカ斯ノ如キハ鉄道守備上並ニ我軍ノ存立上必要已ムヲ得サルニ出テタル自衛行為ニシテ帝国ハ其ノ結果ニ対シ責ヲ負フノ限ニアラサルナリ）従テ帝国ノ西比利亜出兵中所謂我軍ノ不法行為ニ因ル損害ヲ要求セントスルカ如キ露国側主張ハ我方ニ於テ絶対ニ之ヲ認ムル能ハサルナリ

（付属書四）

シベリア出兵中ノ所謂不法行為ニ関スル軍備縮小同志会ノ記述トコレニ対スル陸軍側ノ見解

曩ニ軍備縮小同志会ヨリ「尼港事件ハ吾人ノ深ク痛恨スル所ナリト雖翻テ思フニ彼ノ我ニ対スル恰モ我ノ尼港ニ於ケルト其揆ヲ一ニスルモノナシトセス」トシテ別記十一件ヲ挙ケタルモ其第一、第八及第九ヲ除外スル他ノ八件ハ之皆必要止ムヲ得サル軍事行動ニシテ決シテ自ラ好ンテ之ヲ求メタルモノニアラス不逞ナル徒輩不法ナル露軍ヲ掃蕩討伐スルニ際シ或ハ流弾ニ死傷シ或ハ兵燹ニ財貨ヲ失ヒタル無辜ノ住民必スシモ之レ無キヲ保セスト雖如斯ハ軍事行動ニ伴フ自然ノ結果ニシテ已ムヲ得サルコトニ属ス世間往々我軍ニ於テモ不法残虐ノ行為アルカ如ク称フルモノアルモ之レ露国側ノ宣伝ニシテ我軍ニ於テハ断シテ斯ル行為アルコトナシ而モ其第二乃至第六ノ如キハ総テ日露両軍（米国軍ノ加ハリタルモノモアリ）ノ協同作戦ニ成レルモノニシテ此等ノ場合我軍ハ常ニ露軍ヲ其第一線ニ立タシメ之ヲ支援スルノ態度ニ於テ行動セシモノナリ彼ノ残虐ナル尼港事件ニ之ヲ対比セントスル其何ノ意タルヤヲ知ラス又其第一ハ捏造多ク第八、第九ハ我軍ト何等関係ナキモノナリ詳細別記ノ如シ

（別　記）

一、大正七年三月十二日事件

西伯利出兵ノ名義ヲ得ンカ為ニ在哈爾賓中島少将ノ計画ニ基ク在「ブラゴエチェンスク」諜報部員石光少佐指導ノ下ニ行ハレタル我居留民義勇兵、反過激派連合部隊ノ過激派攻撃

日本義勇兵七十余名ノ中戦死三人、負傷三人、行方不明数名、之カ後始末ニ莫大ナル機密費ヲ投シテ事実ヲ隠蔽シタルモ死者ノ遺族及恩賞ニ漏レタル一部ニ不平者アリ怨嗟ノ声高シ

過激派勢力ノ東漸ニ伴ヒ大正七年二月以来黒龍州「ブラゴウエーシチェンスク」亦漸次過激派化セントスルニ至ルヤ同地ノ我居留民ハ義勇自衛団ヲ組織シ以テ同地反過激派ノ支援ヲ図レリ該自衛団ハ所要武器ノ大部ハ之ヲ購入シ一部ハ同地市役所ヨリ支給ヲ受ケタリ又同時支那領黒河ニ於テモ同地我居留民ハ在郷軍人ヲ基幹トシ義勇団ヲ組織セリ

三月ニ入ルヤ過激派ノ勢威顕著トナリ五日州会ハ過激派ニ帰シ警察権亦其手ニ陥ラントセリ六日夜反過激派ハ過激派ヲ襲撃スルニ決セシモ兵器不足ノ為日本自衛団ニ其貸与ヲ求メタルヲ以テ同団ハ之ヲ容レ其補充ヲ市役所ニ要求シ邦人七名之ヲ市役所ヨリ受領シ帰還ノ途ニ就キシカ過激派ノ為ニ拘留セラレタリ依テ我自衛団ハ過激派本部ニ代表者ヲ派遣シテ交渉中激昂セル露人約二百、支那人百、日本人約五十ノ一団ハ過激派本部ニ迫リテ小銃戦ヲ開始スルニ至リシモ拘留者ヲ放免セルニ依リ戦闘ヲ中止スルニ至レリ

此ノ間同地哥薩克ハ過激派本部ヲ襲ヒ同派首領ヲ拘禁シ過激派ノ大部ヲ掃蕩シ爾後哥薩克及我自衛団ハ市内ヲ掃蕩シ七日夕過激派ノ拠レル海軍根拠地ヲ攻撃セシカ戦況意ノ如ク進捗セス、九日海軍根拠地付近ニ戦闘ヲ生セシモ同日過激派ハ哥薩克ニ講和ヲ提議シテ戦闘中止セラレ爾後商議ヲ行ヒシモ議決スルニ至ラサリシカ十二日過激派ハ未明ヨリ攻勢ニ転シ反過激派側ハ不意ヲ襲ハレ逐次退却ノ止ムナキニ至リ「ブラゴウェーシチェンスク」ハ全然過激派ノ手ニ帰シ我義勇団亦黒河ニ避難スルニ至レリ

情況ハ右ノ如クニシテ当時武市ニ在任セシ石光歩兵少佐及中山騎兵大尉ハ武市ノ我居留民自衛団ニ対シ若干ノ助言等ヲ与ヘタルハ事実ナルモ之ヲ以テ出兵ノ名ヲ得ントセシカ如ク称スルハ誤レリ

二、大正八年二月、三月ニ亘ル黒龍州中部地方ニ於ケル第十二師団ノ過激派大討伐

此ノ中ニ「イワノフカ」村ノ虐殺事件アリ三月二十二日午前十時村民稼業従事中突然日本兵現ハレ全村ヲ砲撃シ焼打セラレタル家屋百三十戸、惨殺セラレタル者約三百名其ノ多クハ枯草ヲ軒下ニ積ミ石油ヲ注キテ放火シ婦女童幼ヲ之ニ投ス或ハ学校ノ物置小屋ニ二十五名ヲ押込ミ外ヨリ火ヲ放チ或ハ十数名ヲ一列ニ並ヘ一斉射撃ノ下ニ斃シ尚絶命セサル者ハ銃剣ヲ以テ刺殺ス是等ノ残虐行為ハ「イワノフカ」村ニ止マラス他村落ニ於テモ同様ナリ

大正七年八月帝国ハ「チェック・スロワック」軍ヲ救援シ過激派軍及之ニ加担スル独墺勢力ヲ排除スル目的ヲ以テ連合与国ト共ニ西伯利ニ派兵セリ斯クテ我第十二師団ハ沿海黒龍両州ニ於ケル過激派軍ヲ撃破シテ同年十月以降守備ノ状態ニ移リシカ同年冬季各地ニ分散潜伏セル過激派ノ残党ハ逐次与党ヲ合シテ再挙ヲ企画セルコト明トナリシ為第十二師団ハ二月初旬ヨリ掃蕩ヲ開始シ其一部隊ハ二月十七日「アンドレーエフカ」（武市ノ東方）ニ於テ敵ノ逆撃ヲ蒙リテ其大半ヲ喪失シ爾後同師団ハ「ブラゴウェーシチェンスク」東方一帯ノ地区ニ敵ノ掃蕩ヲ実施セリ

而シテ「イワノフカ」村ハ戸数約八百、人口千余ヲ有シ黒龍州内屈指ノ大村落ナリ而シテ州内過激派勃興ノ初ヨリ之ニ加担シ有力ナル其巣窟トナリ大正七年三月過激派ノ武市襲撃ニ際シテモ同村ヲ主トシ付近村落ヨリ約二千ノ壮丁ヲ之ニ参加セシメタリ情況斯クノ如クナルヲ以テ我軍ハ大正七年十月以来数回同村過激派ノ掃蕩ヲ行ヒタリ大正八年初ニ至リ同村ノ男子ハ殆ント皆過激派ニ与スルニ至リシヲ以テ二月下旬我一部隊ヲ派遣シ露軍ト協同シ之カ討伐ニ任セシメタリ然ルニ時既ニ過激派ハ西方ニ退却後ナリシヲ以テ討伐隊ハ村内ニ在リシ僅少ノ男子其他ヲ集合セシメ爾今過激派ニ加担シ日本軍ニ敵対スルニ於テハ日本軍ハ断乎タル処置ヲ取ルヘキヲ以テ普ク之ヲ同胞兄弟ニ伝フヘク懇諭シ旦誓約セシメ帰還シタリ然ルニ幾何ナラスシテ「イワノフカ」村ニハ再ヒ過激派集合ヲ初メタルカ如ク其数既ニ二、三百ニ達シ尚逐次ニ集合中ナリ

トノ情報アリシヲ以テ三月二十二日我一部隊ヲ同村方面ニ派遣シ露軍ト協同シテ過激派ノ掃蕩ヲナサシム討伐隊ハ途上ノ敵兵ヲ駆逐シツツ前進シ「イワノフカ」村端ヨリ敵ノ射撃ヲ蒙ルニ至リシヲ以テ歩砲兵ヲ以テ之ヲ包囲攻撃セリ当時風烈シク部落内所々ニ火ヲ発シ延焼速ニシテ兵燹ニ罹レル家屋鮮カラス次テ攻撃前進ヲ行ヒ遂ニ「イワノフカ」村ヲ占領セシカ敵ノ一部ハ家屋防禦ヲ行ヒシヲ以テ其ノ抵抗スルモノニ対シテハ之ヲ掃蕩セリ又村落外ニ遁走セントセルモノアリシモ其大部ハ包囲部隊ニヨリテ射殺セラレタルカ如ク敵ノ死者約百ニシテ小銃十六、弾薬七十五ヲ鹵獲セリ我他ノ一部隊ハ二十二日「アンドレーエフカ」ニ達シ同村ニ在リシ敵四十ヲ駆逐シ二十三日「イワーノフスコエ」ヲ経テ「ブラゴウェーシチェンスク」ニ帰還セントシ午前八時「イワーノフスコエ」ニ達セシカ敗残ノ敵ハ焼残リ家屋ニ占拠シ我ヲ射撃セシヲ以テ支隊ハ之ヲ攻撃シ五六十ノ敵ハ北方ニ潰走セリ敵ノ損害死者十、小銃十、弾薬二百三十ヲ鹵獲セリ

三、大正八年六、七月ニ亘リ兵站部長志岐少将指揮ノ下ニ行ハレタル「ウスリー」地方ノ討伐

（虐殺其ノ数ヲ知ラス）

大正八年四月頃ヨリ沿海州ニ於ケル過激派ノ跳梁甚タシク鉄道沿線ニ出没シ鉄道線ヲ毀壊シ為ニ鉄道ノ運行杜絶シ当時恰モ内地帰還ノ途ニ在リシ第十二師団ノ輸送渋滞セントスルニ至リシヲ以テ軍司令部ハ兵站部長志岐少将ヲシテ鉄道ノ閉塞

排除ヲ為サシメ次テ七月初旬第五師団一部ノ先遣セラルルヤ軍司令官ハ該地方ノ過激派ヲ掃蕩シテ禍根ヲ除キ以テ治安維持ノ任務ヲ達成セントシ第五師団先遣部隊ノ主力ヲ志岐少将ノ指揮ニ属シ七月上旬ヨリ八月上旬ニ亘リ「ニコリスク、ウスリースキー」以北「シイマニコーフカ」付近ニ至ル鉄道沿線及鉄道線以東「タバハザ」河谷ニ至ル地帯ノ過激派ヲ掃蕩シ爾後右地域内ノ各地ニ分駐シテ局地毎ノ掃蕩ヲ続ケタリ此間軍司令官ハ掃蕩地域カ米、支両軍ノ担任セル守備区域（「スパッスカヤ」以北「ウッスリ」迄米軍、「ウッスリ」以北「グベローウォ」迄支那軍）ヲ含ムヲ以テ両軍ニ交渉シテ其諒解ヲ得、米軍ハ「シャモタルスキイ」少佐ノ指揮スル部隊ヲシテ協同セシメタリ

四、大正八年九、十月ニ於ケル東部「ザバイカル」州過激派討伐ニ際シ第五師団ノ暴行

大正八年八月以降過激派ノ黒龍鉄道ニ対スル破壊行為熾盛トナリ殊ニ同鉄道カ構築簡粗ナル多数ノ木橋ヲ有セシ関係ヨリ鉄道橋ヲ焼却シテ鉄道ノ運行ヲ妨害シ八月下旬ノ如キ一夜五十ニ垂トスル橋梁ヲ焼棄セラルルノ情況ニ在リテ西伯利鉄道監督協約ニ基キ黒龍鉄道守備ヲ担任セル我軍ハ之カ対策ニ苦慮スル所甚大ナルモノアリタリ斯クテ九月ニ入ルヤ東部後貝加爾州ノ鉄道運行全然杜絶シ過激派ハ該鉄道沿線ニ蟠居シ且其ノ一部ハ「シイルカ」河々畔ニ抬頭シ互ニ相策応シ為ニ十月初旬以来我「モゴーチヤ」守備隊ハ無援孤立全ク過激派ノ

重囲ニ陥リ其勧降ヲ受クルノ情態トナレリ一方同地南方「アルグン」ト「シルカ」両河ニ狭マレアル三角地帯ニ蟠居セル過激派軍ハ之ヲ討伐中ナル「セミョーノフ」軍ヲ圧迫セントセルノ情況ニ在リテ其我軍ニ及ス影響甚大ナルモノアリシヲ以テ第五師団長ハ「セミョーノフ」軍ヲ支援シテ前記三角地帯ノ敵ヲ掃蕩シテ禍根ヲ除カントシ十月初旬「バグダトウスカヤ」付近ニ於テ之ヲ撃破シ爾後鉄道沿線ノ敵ヲ排除シテ「モゴーチア」守備隊ヲ救援セリ

五、大正八年夏期ヨリ翌春ニ亘ル第十四師団黒龍州ニ於ケル討伐之ニ従事シタル某中隊長ハ熱烈ナル日蓮宗信者ナルカ我軍ノ行為カ光輝アル帝国軍隊ノ汚辱ナリト其ノ蛮行ヲ憤慨ノ余リ一書ヲ著ハシ其筋ノ忌避ニ触レ発狂者ヲ以テ遇セラレ後遂ニ剝官セラル

大正八年四月第十四師団西伯利ニ派遣セラルルヤ先ツ東部黒龍州ニ配置セラレ爾後第十二師団ノ内地ニ帰還スルヤ黒龍州同地域ニ亘ル守備ニ任シアリシカ過激派軍ハ鉄道電線ヲ毀壊シテ我軍ノ連絡ヲ遮断シ小部隊ヲ各個ニ襲フト共ニ武器弾薬ヲ奪ヒ一方鉄道杜絶ニ依ル物資欠乏ノ罪ヲ日本軍ニ嫁シテ日本軍撤退ノ輿論ヲ昂上セント企図セルカ如ク夏季以来鉄道電線ニ対スル破壊行為頻発シ殊ニ鉄道木橋ノ焼却セラルルモノ多ク同鉄道ノ運行常ニ杜絶シ露国鉄道当局及連合軍鉄道委員会ヨリ同鉄道守備ノ完全ヲ懇請セラルルコト一再ニ止マラス因ッテ鉄道掩護ノ任ヲ完フスルタメ大正九年春ニ至ル間鉄道沿線地帯ニ討伐ヲ実施セリ

付記

西比利出動中ノ某中隊長著述ノ件ハ記事ノ内容政治ニ関スルモノニシテ法規ニ違反スルカ故本人ニ対シ注意スル処アリシモ之ヲ肯セス出版セシヲ以テ軍法会議ニ付セラレ禁錮一ケ月、一年間刑ノ執行ヲ猶予セラレタルモノニシテ目下予備役ニ在リ

六、大正九年四月「チタ」地方ニ於ケル第五師団ノ赤軍攻撃

大正九年春「チェック・スロワック」軍ノ東行帰還逐次進捗スルニ従ヒ我第五師団亦逐次兵力ヲ「チタ」付近ニ集結シテ同軍帰還後ニ於ケル撤退ヲ準備セシニ当リ過激派ハ「チェック・スロワック」軍ニ追従シテ東進セシカ我軍ノ「チタ」付近ニ存在スルニ会フヤ同年三月以来逐次「チタ」北方、西方及西南方ノ三面ヨリ其軍隊ヲ分進セシメ我軍ヲ圧倒シテ「チタ」占領ノ目的ヲ達セントスルニ至リシヲ以テ第五師団ハ座シテ其攻撃ヲ受クルハ自滅ニ陥ルモノト認メ四月初旬以来各方面ヨリ近接セル敵ヲ「チタ」西南方ニ撃破シテ其企図ヲ覆滅シ以テ爾後ノ小康ヲ得ルニ至レリ

七、大正九年四月「ハバロフスク」ニ於テ武装解除ノ際ニ武装ヲ解除セル無抵抗ノ露民約三百名ヲ虐殺セリ

同地方ニ於テ第三十連隊カ討伐中ニ行ヒタル残忍行為、「アレキセーエフスク」「ボチカリョウヲ」両村落ニ於ケル非人道行為ハ「イワノフカ」村事件ニ類似セリ

大正九年一月末「ニコリスク、ウッスリースキー」、浦潮ニ政変相踵テ起リ極東露領ノ赤化愈々濃厚トナルヤ浦潮政権ハ民心動揺ニ藉口シテ浦潮ヨリ奥地ニ向ッテスル我軍隊及軍需諸品ノ鉄道輸送ヲ肯セス外国ノ干渉排除ヲ名トシテ我軍ノ撤退ヲ要望シ逐次其兵備ヲ整ヘ我交通々信ヲ妨害シ或ハ無法ノ凌辱ヲ加フル等我ニ反噬ヲ加ヘントスルノ形勢ヲ示シ不逞不遜ノ状言語ニ絶シ情勢看過スヘカラサルモノアリシモ我ハ尚隠忍自重シテ静ニ彼カ動静ヲ観察セリ此時ニ当リ我派遣軍ハ政府声明（大正九年三月三十一日発表ノ治安交通ノ維持並ニ居留民保護ニ関スルモノ）ニ基キ露国側ト平和的交渉ヲ行ヒ四月四日円満ナル協定ヲ遂ケタルヲ以テ翌五日該議定書ニ調印ヲ終ル運ヒトナリアリシニ四日夜突然浦潮政権ニ属スル軍隊ノ挑戦的行動ニ依リ或ハ我軍ノ歩哨狙撃セラレ或ハ我小部隊其攻撃ヲ受クル等ノ事件頻発セシヲ以テ此儘放置センカ或ハ敵ノ為攻撃セラルルニ至ルヘシト認メ遂ニ在浦潮露軍ノ武装解除ヲ断行セリ

尚我軍ハ如斯露軍ノ不法行為ニ基キ危難ノ拡張スヘキヲ慮リ爾余ノ沿海州ノ露軍ニ対シテモ其武装ヲ解除スヘキコトヲ要求スルノ已ムナキニ至レリ斯クテ在「ハバロフスク」ノ我軍隊ハ同地露軍ニ武装解除ヲ要求セントセシカ彼ハ我ニ先チテ準備ヲ備ヘアリシカ為各所悉ク戦闘ヲ惹起シ遂ニ五、六両日ニ亘リ猛烈ナル市街戦ヲ惹起スルニ至リシモ我軍ハ六日夕迄ニ同地露軍ヲ撃退セリ而シテ其一部ハ武装ヲ解除シ大部ハ同地ヲ棄テテ四方ニ遁逃シ爾後我軍ハ同地付近ヲ守備シテ敵ト相対峙スルニ至レリ素ヨリ虐殺等ノ事実アルコトナシ

八、大正九年六月四日「アンドレーエフ」暗殺事件

在「ニコリスク」中部「ウスリー」軍総司令官「アンドレーエフ」ト停戦条約ヲ締結シ軍司令部参謀原田中佐ト携同浦潮政府ニ同行ノ途次「スパスコイ」停車場ニ於テ白軍ノ手ヲ借リテ其副官「フラトノフ」ト共ニ暗殺シ汽関車ノ火中ニ投シテ灰燼トシ罪跡ヲ晦シ行方不明ト公表ス我軍ハ当時自ラ西伯利ノ治安維持ヲ揚言シツツアリシナリ

大正九年四月四日ノ武装解除事変後日露軍事委員商議ノ結果沿海州停戦商議成立シ彼我ノ停戦実行委員倶ニ浦潮ヲ発シ逐次北行シテ「ハバロフスク」ニ於ケル停戦ヲ実施シ浦潮ニ向ヒ帰途ニ就キシカ該委員一行ノ「イマン」ニ達スルヤ曩ニ「ニコリスク、ウッスリースキー」ニ於ケル武装解除事変ニ方リ同地露軍ヲ移転シタル「アンドレーエフ」同行ヲ求メタルヲ以テ我委員之ヲ許可シテ南行セシカ六月四日「スパスカヤ」停車場ニ達スルヤ同人ハ其携同セル「タイピスト」ト共ニ停車場食堂ニ於テ食事中露人数名ニ依リ拉致セラレ停車場ノ一室（我兵現在シアラス）ニ於テ殺害セラレタルカ如シ而シテ数名ノ露人ハ之等過激派首領ノ暗殺ヲ企図セシ反過激派側ノモノナルカ如ク我軍ノ関知セサル処ナリ

九、大正九年六月十九日「ウートキン」暗殺事件

赤軍停戦委員長「ウートキン」及其書記一名ヲ浦潮ニ同行中「イマン」駅ニ於テ「コサック」二名ヲシテ暗殺セシム

八、九両項ノ事件ハ我軍ノ同一企画ニ出テタルコトハ同行中ニアリシ某参謀官ノ書簡之ヲ証ス

浦潮政権ノ代表者トシテ「ハバロフスク」ニ於テ活動セシ「ウートキン」ハ第十四師団参謀長生沼大佐ノ浦潮ニ到ラントシテ「ハバロフスク」ヲ出発スルニ当リ同一列車ニ自己客車ノ連結ヲ乞ヒ容レラレテ同行シ「イマン」ニ到ルヤ同停車場ニアリシ「ポチカレーウオ」(白党タル哥薩克)ノ部下ヲ自己ノ車内ニ招致シ説得セントシ却テ其ノ殺害スル所トナリシカ如ク我軍ノ関知セサル処ナリ

十、大正九年七月九日「ポルターフカ」事件

「ニコリスク」西方八里ノ「ポルターフカ」ハ鮮人部落ナルカ夫レ等ト隙アル馬賊ノ進言ニ乗セラレ遠藤騎兵中尉指揮ノ下ニ支那人家屋二戸ヲ焼キ支那人二十九名ヲ惨殺セリ此ノ行為ハ「ニコリスク」新聞紙上ニテ非難セラレ支那人ヨリ談判ヲ持チ込マレタルコトアリ

大正九年七月五日第十三師団北部守備隊長少将小田切政純ハ同日午前以来「シネロフカ」付近ニ約五百ノ馬賊襲来シ午後二時全村馬賊ノ蹂躙スル所トナリ住民ハ「ニコリスク、ウッスリースキー」方面ニ避難中ナリトノ情報ニ接シ同日一部隊ヲ派遣シテ「ポクローフカ」ニ到著シ「シネロフカ」付近ノ情況ヲ偵察セリ爾後小田切少将ハ諸情報ニ依リ五日「シネロフカ」ヲ襲撃セシ馬賊ハ「ポルターフカ」ニ根拠ヲ有スル「パルチザン」ノ一味ナルヲ知リ七日更ニ一部隊ヲ増遣シ曩ニ派遣セル部隊ヲ合セテ一支隊ト為シ「ポルターフカ」ニ前進シ為シ得レハ同地付近ノ武装団体ヲ処分スヘキヲ以テセリ尋テ該支隊長ハ「パルチザン」ノ首領ハ「ファデースキイ」方面ニ在リトノ情報ニ接シ騎兵中隊(歩兵一小隊ヲ付ス)ヲシテ「ポルターフカ」ニ向ヒ前進セシメ爾余ハ「ファデースキー」ニ転進セシモ得ル処ナク一部ヲ「シネロフカ」付近ニ残置シ爾余ノ部隊ヲ以テ「ニコリスク、ウッスリースキー」ニ帰還セリ此間騎兵中隊ハ九日午前五時五十分西部「タワイザ」(「シネロフカ」西北方約三里)ニ達スルヤ我尖兵小隊ハ前方ニ馬賊二、三十名「スイフン」河ヲ渡リ逃走スルヲ発見シ直ニ之ヲ射撃シテ十五名ヲ射殺セリ爾後中隊ハ午前六時三十分「ポルターフカ」ノ捜索ヲ実施セシモ得ル所ナク十一日「ポクローフカ」ニ帰来セリ

十一、大正十一年五月、撤兵ノ期ヲ前ニシテ第十一師団ハ「ニコリスク」ノ西方四十五露里ナル「シウエイツアン」村ナル鮮人部落三十戸ヲ焼却惨殺シタルコトアリ

「ニコリスク、ウッスリースキイ」西方松田関付近一帯ノ不逞鮮人跳梁セルヲ以テ我軍ノ一部ハ大正十一年四月二十八日ヨリ同五月二日ニ「ポルターフカ」及「ポクローフカ」南方地区ノ不逞団ヲ掃蕩セリ此間二十九日上松田関南側ニ於テ鮮人武装団ヲ攻撃シ尋テ全村落ノ過激派ヲ掃蕩シ又同月其一部ハ「アレクセイ、ニコリスク」南方谷地内ニアリシ共産党本部ヲ掃蕩セリ

三六四　五月二十日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛(電報)

ベッサラビア条約問題ニ付キ妥協講究方請訓ノ件

第三九〇号　(五月二十一日接受)

往電第三八六号ニ関シ露国側ニ於テハ「ベッサラビヤ」ニ関スル条約ハ協約第七条ニ含マシメタルモノトシテ鮮クトモ批准ノ中止ヲ要望シタルハ御承知ノ通ナル処「ベッサラビヤ」問題ニ関シテハ従来ノ会見ニ於テ本使ヨリ日本トシテハ英仏ニ対スル義理合上調印シタルモノ故今更露国側ヨリ苦情ヲ云ハルルモ如何トモ致シ難ク甚タ当惑スル旨説明シ十九日ノ会商ニ於テモ同様ノ説明ヲ為シタルニ拘ハラス「カラハン」ニ於テ執拗ニ上記ノ如ク批准ノ中止ヲ希望シ居リタル次第ニテ先方トシテハ可成本問題ヲ重要視シ居ルモノト信セラルルニ付帝国政府ニ於テモ御困リノコトトハ推察スルモ何等カノ方法ヲ案出スルノ要アリト思考セラル

ルニ付本使トシテハ引続キ当方困難ノ事情ヲ繰返ヘシ説明スルツモリナルモ何等カノ妥協方法至急御講究ノ上御回電相成度シ

三六五　五月二十日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛(電報)

債権及ビ私有財産問題ニ関シ日本側ノ譲歩案提出ノ件

別電　五月二十日在中国芳沢公使発松井外務大臣宛電報第三九五号債権問題ニ関スル条文案

第三九四号　至急極秘　(五月二十一日接受)

債権及私有財産問題ニ関シテハ今日迄貴電第一一五号御来示ノ最後ノ譲歩点ニ付テハ今日迄之ヲ留保シ置キタル次第ナル処往電第三八六号ニテ御承知ノ通リ先方ニ於テハ債権及私有財産問題ヲ頗ル重要視シ我方ニ於テ本問題ヲ譲歩スルニ於テハ尼港問題ニ付キ莫斯科ヲ動カスヘシトノ趣旨ヲ述ヘタルニ顧ミ二十日ノ会見ニハ貴電第一一五号最後ノ譲歩ノ点ニ迄引下ガリ別電第三九五号ノ如キ条文案ヲ提出シタリ尤モ右ノ如ク利権及私有財産ノ件ニ付譲歩スル以上其代償ノ意義ニ於テハ「コンセッション」ヲ提出スル能ハス

従テ北樺太及東部西比利亜ニ於ケル「コンセッション」ノ件ハ尼港問題トノ関係而已ニ止マルコトトナル処右ノ如クスル場合ニ於テハ「コンセッション」ヲ尼港問題ノ賠償トシテ取扱フニ於テハ該問題ノ賠償金額ハ債権ノ如ク多大ナラサルヲ以テ「コンセッション」ハ勢ヒ極メテ限ラレタル範囲ヲ出ツルコト能ハサルコトトナルヘキニ付寧ロ「コンセッション」ハ尼港事件トハ表面上関連セシメス従テ同事件賠償額ノ多少ニ拘泥セス広キ範囲ノ許与ヲ為サシムルコトト為ス方得策ナルヤニ思考セラルルニ付「コンセッション」ニ関シテハ右様ノ方針ニテ進ミタキ考ニ付予メ御含ミ置キアリタシ

（別　電）

五月二十日在中国芳沢公使発松井外務大臣宛電報第三九五号

Gaimudaijin,

Tokyo.

Urgent　No. 395　（極秘）

As regards question of debts to Japan, Japanese Government agree to settle matter at later discussion provided that no treatment less favorable in any way than that accorded to any third Power should be given to Japanese by Government of U.S.S.R.

Yoshizawa

三六六　五月二十一日　在中国芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

債権及ビ利権問題ニ関シカラハント引続キ行イシ討議状況報告ノ件

別　電　五月二十一日発在中国芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛電報第四〇一号

ソヴィエト・イタリア国間条約第二条条文

第四〇〇号　至急極秘　（五月二十二日接受）

往電第三八六号ニ関シ

五月二十日債権問題ノ討議ヲ継続シ我方ヨリ往電第三九五号所報第二案ヲ提出セリ右ニ対シ「カラハン」ハ〔1〕「国家並私人ノ債権及要求権」ト修正シ之ヲ相互的トスルコト〔1〕末段 should be ノ間ニ all other conditions be all equal ナル文句ヲ加フルコトトシタシ〔1〕ノ意味ハ将来露国カ其債務ヲ認ムル場合ニハ仮令現金ヲ以テ支払ハサルモ或ハ利権ノ提供又ハ公債ノ発行等種々ノ方法ヲ案出スヘク例ヘハ英

国ニ対シ利権ヲ提供スルコトトナレハ日本ニ対シテモ同様ニスル趣旨ナル処伊太利トノ条約第二条（別電 第四〇一号）ハ恰モ日本側主張ト同様ノ趣旨ニ付之ニ倣フコトニ同意ヲ得ハ最好都合ナリト述ヘ本使ハ伊露間債権ノ内容ニ就テハ毫モ承知セサルヲ以テ之ニ倣フコトニハ遽ニ同意スルヲ得ス且労農政府カ日本ニ対シ何等債権ヲ有スルヤ否ヤ貴下ニ於テモ承知セストノ趣ナルニ反シ日本ノ債権ハ金額モ分明シ居リ之カ規定ヲ設クルハ極メテ至当ナル（脱）不明ナルモノニ就キ規定ヲ為スノ必要ナク現ニ昨日ハ（脱）文字ヲ削除スルニ同意セラレタリ今日提示セル我方条文案ハ本使ノ最適当ト信スル処ニシテ之以上譲歩ノ余地ナシ但借リタルモノハ返スコト天下ノ通義ナルヲ以テ将来露国側ニモ何等債権ヲ有スルコト判明スル暁ニハ外交手続ニ依リ当然之ヲ請求シ得ヘク日露戦争後ニ於テモ右ノ方法ニテ著々解決ヲ為セル先例アリト説明セルニ「カ」ハ然ラハ貴方ノ案ニ我希望ノ字句ヲ書入ルルコトニ同意ヲ得ヘキヤト問ヒ本使ハ所謂 all other 云々ノ意義ヲ更ニ充分明ニスルヲ要スル処元来我方条文案ハ前日モ説明セルガ如ク本使ノ有スル一般的訓令ニ基キ作成セル処ナルヲ以テ貴方ノ希望ニ応

スルニ就テハ特ニ政府ニ請訓スル等ノ煩累ヲ重ヌル（脱）ト注意セルカ「カ」ハ露国トシテハ絶対ニ戦時債務ヲ認ムルコトナシト思考スルモ仏国ノ如キハ常ニ之ヲ固執スルカ故ニ不幸ニシテ之ヲ認ムルカ如キ場合ニ或ハ利子ハ之ヲ削除シ支払期限ハ二十年トスト言フカ如キコトトナレハ日本モ同様ノ条件ニ従フ趣旨ニ外ナラスト説明シ本使ハ然ラハ我方条文案ノ通リニテ差支ナカルヘク本案ハ例ヘハ仏国ニ与フル条件ヨリモ不利ナルヘカラサルヲ意味スルニ過キス即チ日本ノミカ如何ナル第三国ニ与ヘラルヘキ条件ヨリモ不利ナラサルヲ要スト言フニ過キスト述ヘ「カ」ハ本件ニ就テハ伊太利トノ談判ノ際ノ沿革モアリ斯ル文句ヲ挿入スルモ損トハナラサルヘク伊太利モ之ヲ認メタルカ貴方ノ案ニハ any third power トアリ決シテ互ニ撞著スルコトナシト力説シ本使ハ其意味ナラハ本使ニ関スル限リ右ノ文句挿入ニ異存ナシ尤モ起草ノ際他ノ文句ト共ニ篤ト審議スヘシト答ヘ猶「カ」ハ本条文案ニ就テハ露国側トシテ之ヲ重要視スルハ幾分実質上ニモ関係スト考ヘ居ル為ニシテ債権問題ニ就テハ伊太利トノ取極ノ範囲内ニ於テ協議スヘシトノ訓令アリ又政府及個人ノ請求権ノ点ハ外国人ノ財産ヲ国有

トセル場合若ハ相当ノ理由ニ依リ没収セル場合等ヲモ含マセタキ考ナリ（此点明瞭ヲ欠クモ先方ノ腹ニ有スル請求権ノ内容ヲ明言スルコトヲ避クル為態ト右様曖昧ノ説明ヲ為シタルモノナルヘシト想像セラル）猶相互主義ト為スハ必スシモ之ヲ以テ露国ニ何等請求権アルコトヲ容認スルコトナルニアラス露国請求権ノ有無ハ自ラ別個ノ問題ニ属ス露国トシテモ其ノ有セサルモノヲ作出シテ請求スル考ナキ次第ニ付相互ノ請求権ヲ含マスコトシタシト述ヘタリ依テ本使ハ all other 云々ノ文句ヲ加フルコトニ依リ我条文案ニ同意セラレタルモノト思惟セル処依然伊太利トノ条約第二条案ヲ以テセントスル主張ナリヤト反問セルニ「カ」ハ自分ノ主張ハ要スルニ㈠相互主義ト為スコト㈡政府及個人ノ請求権ヲ含マセ以テ如何ナル第三国ヨリモ不利ナル条件ニ置カサルコトトスルノ趣旨ナリト答ヘ本使ハ貴方ノ主張㈠ノ点カ要スルニ如何ナル第三国ヨリモ有利若ハ不利ニ取扱ハストノ意思ト了解シ妥協ノ精神ヲ以テ之ニ同意セル処㈠ノ点ニ付テハ既ニ説明セルカ如ク相互ナル文字ヲ入ルルノ理由無キヲ以テ之ニ同意スルヲ得スト明言シ置ケリト述ヘタルカ尚「カラハン」ハ露国側ノ最モ重キヲ置クハ債

権及請求権問題ニシテ此点ニ関シ協議纏マルニ於テハ尼港事件ニ関シテハ日本側ノ応諾シ得ヘキ案ニ付莫斯科ニ請訓スル様目下研究中ナリト述フル処アリ本使ヨリ重ネテ我方カ債権ニ重キヲ置ク理由ハ三億六千九百万円ナル金額明瞭ト成リ居ルカ為ナル処露国側ニ付テハ貴下ニ於テモ其ノ有無スラ解リ居ラス従テ之ニ重キヲ置カルル理由ヲ了解シ得ス況ンヤ本使ハ貴方希望ノ字句ノ挿入ニモ同意セルヲ以テ此ノ以上ノ希望ニ対シテハ政府ニ請訓スルコトスラ困難ナリ貴方ノ債権並請求権ハ単ニ有之ヤモ計ラレスト云フニ止マルカ故ニ斯ノ如ク外交機関ヲ通シテ処理スルコト最モ適当ナリト反覆説明セルニ「カ」ハ一方的ニ規定セハ露国側ノ請求権主張ノ根拠無キ事ヲ予断スルコトトナルヘク日本側ノ損失無キ事ニ付強ヒテ反対セラルル時ハ無用ノ疑惑ヲ生スル無キヲ保セス実ニ倫敦ニ於ケル会議ノ露国側委員ノ如キハ労働者出身ノ者ニシテ特ニ債権ニ重キヲ置キ居ル事情ニ付自分ノ立場ノ困難ナル事ニモ同情セラレ度旨ヲ述ヘ時間ノ都合上次回ノ会議ニ於テ討議ヲ継続スルコトトセリ尚当日ノ会議中「カラハン」ヨリ利権問題ニ関スル我方条文案承知シ度旨ヲ申出テタルカ本使トシテハ利権ノ種類、

条件並場所等ニ関シ多少具体的ニ取極メ置クニ非サレハ後日実行上ノ紛議ヲ生スヘキヲ虞レ政府ニ稟請シ置キタル処政府ニ於テモ関係機関ノ意見ヲ徴スル必要アリ近日中回訓ニ接スヘキ処本使トシテハ付属書ヲ以テナリトモ大綱グライヲ定メ置クニ非サレハ空文ニ終ル虞モアリ此点ハ是非取極メ置ク必要アルコトヲ固ク信シ居レル旨ヲ告ケタルニ「カ」ハ然ラハ東京ノ返事ヲ待ツノ外ナキモ多少トモ詳細ノ規定ヲ為スニ付テハ莫斯科ニ於テ専門委員会ノ議ニ付スルヲ要スヘク之カ為ニハ二ケ月位ノ時日ヲ要スヘシ

従テ此際自分ノ為シ得ル範囲内ノ規定トシテハ区域ハ全露就中東部西比利及北樺太ニ亘リ油田、炭田、鉱山等ノ種類ヲ掲ケ本協約締結後六ケ月内ニ日本当業者ト利権ニ関スル協定ヲ結フ旨ノ規定ヲ置ケハ可ナルヘシト述ヘ六ケ月ハ長キニ失スルカ如キモ関係者ノ実地踏査等ノ必要モアリ之位ノ期間ハ必要ト思考スル旨ヲ付言セリ依テ本使ハ貴説ノ趣旨ハ実際的ニシテ一応尤モノコトト思考ス但仮令地域ノ為ニ北樺太ニ於ケル油田若ハ沿海州ニ於ケル森林ト規定スルモ同地方ニハ多数ノ油田森林モアルコト故尚多少詳細ニ規定ヲナスヲ要スヘシト述ヘタルニ「カ」ハ種類ト地域トヲ

合セ規定スルノ御趣旨ノ如キモ実際許シ居ラサル地域モアルニ付東京ノ回答ヲ俟チテ研究スヘシト答ヘタルヲ以テ本使ハ実際許シ居ラサル地域モアルニ於テハ尚更具体的ノ規定ヲ置クニアラサレハ益々空文ニ終ル憂多シ尤モ専門委員ニ研究セシメタル上莫斯科ノ回答ヲ得ルカ如クンハ相当時日ヲ要スルコト勿論ナル可ク就テハ成ルヘク之等ノ不便ヲ生セサル程度ニ於テ協定シタキ考ナル処本件ニ関シテハ本使ハ当初ヨリ折角国交ヲ樹立スルモ後日ノ紛議ノ原因ヲ作ルカ如キハ甚タ面白カラストノ懸念ヲ有セルカ為嘗テ既ニ此点ニ言及シ置キタルモノナルコトヲ説明セリ

右ニ対シ「カ」ハ貴公使ノ御懸念ニ付テハ全然同感ニシテ国交樹立後ノ日露関係ハ主トシテ経済問題ニ存スル処労農政府ノ経済政策ハ利権ノ提供ニ依リ成ルヘク外国資本ヲ招来スルニ在リ従テ利権問題ノ為国交間ノ紛議ヲ招クカ如キハ露国ノ経済政策上到底耐フ可カラサルコトナルカ故ニ其ノ点ハ篤ト了解シ置カレタキ旨ヲ説述シ本使ハ政府ノ回訓ニ接シタル上改メテ何分ノ申出ヲナスヘキ旨ヲ告ケ置キタリ

（別　電）

五月二十一日在中国芳沢公使発松井外務大臣宛第四〇一号

Gaimudaijin,

Tokyo.

No. 401

The Contracting Parties declare that they maintain in force their claims, as well as the claims of their subjects, which exist with regard to the other Party and which refer to properties and rights relative to obligations undertaken by existing Government or the former Governments of each Contracting Party vis-à-vis the claimants.

Moreover, they declare that by the fact of the signing to the present Treaty of commerce and navigation between the two Contracting Parties no prejudice is done to the existing claims relative to the payment of compensation or the restitution of the properties and rights concerned, it being provided that.....all other conditions being equal..... the treatment given to such claims should not be less favourable than the treatment that shall be given to Governments or citizens of another State.

Yoshizawa

三六七　五月二十一日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

債権問題打開ノタメトルベキ方策ニ付キ意見具申ノ件

第四〇二号　至急極秘　（五月二十二日接受）

債権ノ件ニ関シ本使ヨリ最後ノ譲歩案ヲ提出シタルニ対シ先方ニ於テハ之ヲ相互的ノ規定トスルコト及「他ノ条件同一ナルニ於テハ」ノ一句ヲ挿入センコトヲ主張シ居ル次第ハ往電第四〇〇号ヲ以テ報告ノ通ナル処露国側ニ於テハ元元「カラハン」ノ所謂国家並ニ私人ノ債権及請求権トモ之ヲ支払フノ意志ナキハ同人数次言明ノ通ナルヲ以テ本件ヲ相互的ニ規定セントスルノ趣旨ハ西伯利出兵中露国側ノ蒙リタル損害ノ賠償要求ヲ以テ日本側ノ主張スヘキ損害賠償及出来得ルナラハ其債権ニ対抗セシメ之ヲ相殺セントスルノ魂胆ナルハ相像ニ難カラサル次第ナルカ仮リニ之ヲ相互的トナス場合ノ利害得失ニ付攻究スルニ債権ニ付テハ露国側ニ於テ対日債権ヲ有セサルヘキ事実ニ顧ミ右ハ単ニ形式上ノ問題タルニ過キサルヘク帰スル所ハ我方要求ノ損害賠償「クレームス」トノ関係ニ於テ問題ヲ生スルノミナルヘシ

Moreover, they declare that by the fact of the signing to the present Treaty of commerce and navigation between the two Contracting Parties no prejudice is done to the existing claims relative to the payment of compensation or the restitution of the properties and rights concerned, it being provided that.....all other conditions being equal..... the treatment given to such claims should not be less favourable than the treatment that shall be given to Governments or citizens of another State.

Yoshizawa

三六八　五月二十三日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

利権問題ニ関シテハ詳細ナ取極メヲ必要トスル旨及ビ債権規定ヲ双務的トスルコトハ望マシカラザル旨訓電ノ件

第三三〇号

貴電第三九二号及第四〇二号ニ関シ

一、利権ニ関スル条件等ハ基本協定ト同時ニ成ルヘク詳細

然ルニ西伯利ノ日本人ノ状況ニ顧ミレハ我方ノ損害賠償要求額ハ左シタル額ニハ達セサルヘキニ付最悪ノ場合ヲ想像シ（欄外記入）露国側ノ請求権ト相殺セラルルコトアリトスルモ我ニ於テ忍ヒ得サル程度ノモノニ非サルヘク況ンヤ英仏伊等ノ各国ニ於テモ我カ西伯利出兵ト同様ナル事情ヲ有シ居ルカ故ニ我ノミ独リ不利ナル立場ニ置カルルコト無カルヘキヤニ思考セラル唯債権ト「クレームス」トヲ同一条文中ニ規定スルニ於テハ露国側ニ於テ西伯利出兵中ノ損害要償ヲ以テ我方要求ノ損害賠償ノ外更ニ債権ニモ対抗セシメントスルノ虞無キニ非サルヲ以テ之ヲ各別ノ条文ニ規定シテ相互ニ関連セシメサルコトトナスニ於テハ右様ノ危険ヲ避ケ得ヘキカ将又「他ノ条件ニシテ同等ナルニ於テハ」ノ一句挿入ノ件ハ往電第四〇〇号「カラハン」説明ノ通ノ事情ナルニ付之ヲ認ムルモ差支無キヤニ存セラル

前記ノ次第ニテ本使トシテハ債権ト「クレームス」トハ之ヲ各別ノ条文トシ結局前記「カラハン」ノ申出ヲ認ムルコト（債権ノ場合ニハ「ミューチュアル」ノ文字ヲ削除セシメ得ルヤモ知レス）現在ノ状況ノ下ニ於テハ已ムヲ得サル儀ト思考スルニ付右様取計方御承認アリタシ尚貴電第三一三号第二ヲ以テ御来示ノ次第ハ「カラハン」ニ単ニ説明トシテ用フルコトアルヘキモ此際我方主張トシテ申出スコトハ三月九日申入レタル我方条件ニ照シ聊カ逆転ノ気味トナリ面白カラサルヲ以テ差控ヘ置クヘキニ付右様御了承アリタシ

（欄外記入）「之レハ同様ニアラス日本ノ与ヘタル損害ハ他国ノ比ニアラズ注意」

ニ取極メ置カサルニ於テハ後日ニ至リ我方ニ有利ナル様之ヲ取極メントスルモ到底所期ノ目的ヲ達シ得サルヘキハ露国従来ノ遣リ口ニ徴スルモ明ナルノミナラス尼港事件ニ関シ露国側ヲ陳謝セシムルコト及有利ナル条件ニ依リ利権ヲ許与セシムルコトノ二項ハ我方ノ最モ重要視シ今回ノ交渉ノ眼目トスル所ニシテ右利権ニ付詳細具体的ニ取極メサルトキハ仮令其他ノ問題ニ付交渉成立スルモ其ノ価値少カルヘキニ付貴使ニ於テモ充分右ノ趣旨ヲ体セラレ先方ニ対シテハ本件ハ是非此際取極メ置クヲ要スルコトヲ極力主張セラレ尚「カラハン」側ニ専門家ナクハ速ニ之ヲ呼寄スルノ途モアルヘク尚本件ハ普通ノ利権ニ非ルヲ以テ必スシモ利権委員会ノ議ニ付スル必要之レ有ル間敷兎ニ角本件ニ付相当詳細ニ取極メサル限リ協定ヲ成立セシメ得サルヘキコトヲ篤ト説示セラレ努メテ我方主張ヲ貫徹スル様御尽力アリタク右ニ関スル我方提案ハ宮川ヲシテ携行セシメタルニ付右ニ付詳細御了承ノ上先方ト交渉ヲ試ミラルル様致度シ尚「チチェリン」ヨリ直接本大臣ニ宛テ抗議シ来レルハ既電ノ通ナルカ貴地ニ於テ交渉ヲ進メ居ル此際殊更ニ斯カル手段ヲ弄スル露国側ノ態度ニ顧ミルモ利権ニ関スル条件等ハ

基本協定締結ノ際ニ之ヲ決定シ置クノ必要ヲ愈々痛感スル次第ナリ尚利権獲得ノ方法ニ付貴電第三九四号ヲ以テ御稟申ノ義アリタル処北樺太ノ利権ニツキテモ之ヲ無償ニ提供セシムルハ不可能ナルヘク従テ我方ニテハ純利益ノ幾分カハ之ヲ露国側ニ提供スルコトトシ差支ナキ意向ナルト共ニ表面之ヲ尼港事件賠償ニ関連セシメサルコトトスルモ実質上ニ於テ北樺太利権カ尼港事件ノ賠償ナルコトヲ充分ニ説明シ得ルコトニ為シ置クハ対内政策上必要ナルニ付右ノ点篤ト御承知アリタク従テ北樺太利権ト対岸利権トハ之ヲ区別シ取扱フコト便利ナリト思考ス

二、債権ニ関スル規定ヲ相互的ニ改ムルコトハ我方ニ不利ナル結果ヲ生スル虞アルニ付先方ニ於テ何等我方ニ対スル債権ヲ有セサル以上本問題ヲ相互的ニ規定スルハ無意味ニシテ到底我方ニ於テ承認シ難キニ付充分我方主張ヲ支持セラレタシ

三、債権以外ノ「クレームス」ニ関シ之ヲ相互的ニ規定スルトキハ西比利亜駐兵ニ因ル損害ヲ我方ニ於テ承認スルノ結果トナリ如斯ハ我方輿論ノ同意ヲ得ルコト困難ナルヘキニ付之ヲ片務的規定トスル様強硬ニ主張セラレタシ

四、以上二件殊ニ「クレームス」ニ関スル規定ヲ片務的トナスコトニ付露国側ヲシテ我方主張ヲ承認セシムルコト或ハ相当困難ナルヘシトモ思考セラルルヲ以テ前記ノ趣旨ニヨリ交渉ヲ試ミラレ先方ニテ承諾セサル場合ニハ会商ノ進捗ヲ図ル為暫ク商議ヲ他ノ問題ニ転シ例ヘハ双方ノ意向略略一致セル事項即条約問題及通商条約ノ大綱（右ニ関シ宮川携帯ノ案文ニ修正ヲ加ヘタル当方決定案ハ別電ヲ以テ電報ス）等ヲ確定スルコトニ交渉ヲ進メラルルコト得策ナリト認ムルニ付右様取計ハレタシ

五、尚又前記㈡㈢ノ方針ニヨリ債権及損害賠償問題ニ関スル我方主張ヲ固執スル場合或ハ交渉成立ヲ不可能ナラシムルカ如キ事態ヲ見ルコトアルヘシトモ思考セラルル処其場合ニハ尼港事件賠償ノ意味合ヲ以テ北樺太ニ於テ有利ナル条件ニ依リ各種利権ヲ許与セシムルノ外東部西比利亜ニ於テ宮川携帯ノ書類所載ノ趣旨ニヨリ或種特定ノ利権ヲ特ニ我方ニ有利ナル条件ヲ以テ許与セシムル等ノ代償ヲ与フル場合ニハ先方カ西比利亜出兵ニ関スル対抗要求ヲ抛棄スルヲ条件トシ我方ハ対露債権ヲ事実上請求セサルコトトシ（賠償等「クレームス」ノ問題ハ飽ク迄片務的規定トナスニ努メラレタシ）往電第一一五号㈣ノ方法ニ立戻リ局面融通ノ方法ヲ講セラルル様試ミラレタシ

六、「他ノ条件ニシテ同一ナルニ於テハ」ナル字句ハ伊露及瑞露条約中ニモ挿入セラレアル由ナルモ右字句カ総テノ条件ノ絶対的同一ナルコトヲ意味スルモノトセハ事実上斯ル事ハアリ得ヘカラサル所ニシテ我方トシテモ此ノ意味ニ於テハ同意シ難キニ依リ一応之ヲ拒絶セラレタキモ先方ヨリ更ニ的確ナル説明ヲ文書等ニヨリ提出スル場合ニハ更ニ考慮ヲ加フノ外ナキニ付何分ノ儀請訓アリタシ

七、在東京露国大使館ニ付テハ其引渡ニ就キ我方ニ於テ尽力スルコトトスルモ差支ナシ但シ同時ニ在露帝国大使館領事館及其ノ付属品等カ其後如何ナル状態ニ在ルヤ当方ニハ全然不明ナルニ付右ニ就テハ予メ露国側ニ査報ヲ求メラルル様致シタシ

八、北樺太撤兵期限ニ付テハ目下陸軍側ト正式ニ協議中ナルカ従前陸軍側ニ於テハ全部撤兵迄ニハ少クモ三ケ月以上ノ時日ヲ要スヘシトノ意向ヲ洩シ且ソレトテモ気候ノ関係上十一月以後ニハ撤兵実施困難ナル旨ヲ語リ居タリ尚北樺太ニハ現ニ軍事的及公共的設備アリ此等ノ処理ニ関シテモ

予メ露国側トノ間ニ夫々協定ヲ遂クルノ必要アリト思考スルニ付是亦御含置アリタシ

三六九　五月二十三日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

個人請求権ニ関シテハ後日ノ交渉ニ譲リタキ旨請訓ノ件

第四一三号　至急極秘　（五月二十四日接受）

個人請求権ニ関シ五月二十二日ノ会議ニ於テ貴電第三一三号中(二)ノ主旨ヲ貫徹センカ為論争シタル処露国側ハ政府ノ請求権ヲモ持出シ国家並個人ノ請求権ヲ併セ双務的ニ規定セントスルニ対シ本使ヨリ露国側カ右様ノ主張ヲ為スハ我西比利亜出兵ヲ戦争ト認ムル先方ノ議論ト矛盾スルモノナルコトヲ指摘シ議論ヲ上下セル末「カ」ハ遂ニ本件ヲ現交渉ニ於テ決スルハ不可能ナルニ依リ之カ条項ヲ協約ニ設クルコト無ク後日ノ外交交渉ニ譲ラント発議シタルヲ以テ本使ハ其方結局便利ナルヲ思ヒ直ニ本使限リトシテ之ニ応諾セル処「カ」ハ更ニ言ヲ続ケ債権問題モ之ニ包含セシムル意ナルコトヲ主張セルニ依リ本使ハ我方債権ハ露国側ノ所謂（脱）異ナリ其額及種類モ判明シ居ルニ依リ之カ規定ヲ設クルハ極メテ当然ナルコトヲ主張シ結局議纏ラス「カ」ヨリ彼我共ニ考慮スルコトトシ度シト述ヘタルモ本使ハ債権問題ハ此問題絶対ニ譲歩シ難シト言明シテ別レタルカ惟フニ右個人請求権問題ヲ片務的ニ先方ニノミ認メシムルコトハ条理ニ於テ首肯シ難キト共ニ到底成功ヲ期シ難ク又先方カ我出兵ヲ戦争ト看做セル点ヲ利用シ我軍カ露国人民ニ与ヘタル損害ノ責任ヲ不問ニ付セシメントセハ先方ハ我方ニ於テモ西比利亜出兵ヲ開戦ト看做スコトニ同意シタルモノトシ戦争ヲ理由トシテ根底ヨリ之迄ノ交渉ノ遣リ直シヲ要求シ来ルヘキコト二十二日「カ」ノ述ヘタル処ニ依ルモ明カニシテ其結果折角纏リツツアル「ポーツマス」条約効力存続ノ件モ覆ヘルコト明白ナルニ依リ我方債権問題ノミハ協約ニ規定スルコトトシ個人請求権ハ後日ノ外交交渉ニ譲ルコトトスルヨリ外ナキモノト信スルニ依リ右至急御承認ヲ請フ尚債権ニ関スル討議纏ルニ於テハ尼港問題ニ付キ猶多少ノ議論ハ有之ヘキモ他ハ小問題而已ナルカ故成ルヘクハ議論ハ総テ茲数日内ニ結了シ直ニ「レダクション」ニ取掛リタク旁々予テ請訓中ノ各項ニ対シテモ其御含ミニテ速ニ夫々御回訓ヲ煩ハシタシ

三七〇　五月二十三日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

債権及ビ補償請求権ニ関シカラハントノ間デ継続セル討議状況報告ノ件

第四一五号　至急極秘　（五月二十四日接受）

往電第四〇〇号ニ関シ五月二十二日債権及私有財産権問題ノ討議ヲ継続（脱）カ「カラハン」ハ債権問題ニ関スル貴方ノ第二条文案ノ末段ニ all other 云々ノ文句ヲ挿入スルコトニハ御同意ヲ得タル処其前段ハ伊太利トノ条約第二条ノ如ク債権並ニ私有財産ヲ相互的ニclaimsノ中ニ包含セシメ度キ自分ノ主張ナリト述ヘ本使ハ我方条文案ハ我方債権ノミニ関スルモノナル処貴方ニ於テハ他ノ国ヨリモ有利ナル条件ニテハ不可ナリトシ我方ニ於テハ他国ニ比シ不利ナルヲ得ストシ其結果何レノ国ヨリモ有利ニモ不利ニモ非サル条件ト云フニ帰着セリ然モ右ハ請求権トハ別ニ債権ノミニ関スル問題ナルニ拘ハラス貴方ニ於テ之ヲ相互主義トスヘシトノ主張ナルモ露国ノ日本ニ対スル債権ナルモノハ本使ハ勿論貴下ニ於テモ承知スル所ナキ趣ナルヲ以テ片務的規定トナルモ已ムヲ得サル所ナリ従テ債権問題ニ付テハ我方条文案ニ all other 云々ノ文句ヲ入レ其儘独立ノ条文トナシ置キ度シ尚我方ノ私有財産権トハ請求権即チ貴方ノ所謂claimsナリ之ニ関スル条文案ハ未タ作製ニ至ラサルモ要スルニ日本人カ労農露国政府又ハ其機関ニ依リ不当ニ蒙レル損害若ハ其没収セラレタルモノニ付如何ナル第三国ヨリモ不利ナラサル条件ニ於テ之カ賠償若ハ原状回復ヲ請求スルノ趣旨トス右請求権ニ関スル政府ノ訓令ハ三月二十二日提出ノ我方条件中ニ掲ケタルカ如ク之カ相互主義ヲ認メ居ラサル所ナルモ貴方ニ於テ債権問題ヲ片務的ト為スニ同意スルニ於テハ請求権ニ付テハ本使ノ関スル限リ之ヲ相互的トシ外交機関ヲ通シテ交渉スヘシトノ文句トスルモ差支無カルヘシトモ思考セラルル処之ニ付テハ素ヨリ政府ノ同意ヲ必要トスル而已ナラス債権問題ニ関スル我方主張ハ前述ノ通リ其儘之ヲ容認スルヲ要スト述ヘタルカ「カ」ハ請求権ニ付テハ露国側ハ単ニ個人ノ受ケタル損害而已ナラス政府ノ分ヲモ包含セシメ且如何ナル第三国ヨリモ不利ナラサル条件トシタキ考ヘニシテ日本領土内及露領内ニ於テ日本軍等ノ為蒙レル政府財産ノ損害ヲモ予想スルモノナリト主張セリ依テ本使ハ我方ニ於テハ個人ノ蒙レル損害而已ヲ予想

スルモノナルカ故ニ之ヲ相互的トナスハ公平ノ見地ヨリ至当ノコトト思考シ政府訓令ノ趣旨ニハ反スルモ本使ノ関スル限リ貴方ノ主張モ亦無理ナラスト認メタル次第ナル処露国側ノ考フルカ如ク広キ地域ニ亘リ政府財産ノ蒙レル損害ニ対スル賠償迄モ要求セラレントスルハ諒解シ難キ所ナルカ抑々政府財産ノ蒙レル損害トハ果シテ如何ナルモノヲ謂フヤ其具体的ノ例ヲ承知シタキ旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ露領内ニ付テ謂ヘハ例ヘハ日本軍カ西比利亜出兵中妄リニ森林ノ採伐ヲ許可シ何等税金ヲ支払フコトナクシテ之ヲ輸出セシメタルカ如キ又ハ国家営造物若ハ軍事設備ノ処分又ハ破壊ヲ行ヘルカ如キ事例鮮ナカラス日本領土内ニ就テハ其事例ニ乏シキモ露国ノ船舶ニシテ処分セラレタルモノノ如キ是レナリト説明セリ依テ本使ハ西比利亜出兵ハ日本側ニ於テハ之ヲ戦争ト認メ居ラサルニ拘ハラス従来露国側ノ主張ニ依レハ西比利亜出兵ヲ以テ開戦ト看做シ居レル処戦争状態ニ於テハ軍事官憲カ軍事上ノ必要ニ基キテ為セル行動ハ戦時国際法上合法ノモノト認メラレ原則トシテ之ニ依リテ生セル個人並政府財産ノ損害ヲ賠償スルノ義務ナク露国側ノ一面西比利亜出兵ヲ開戦ト看做シ他方之ニ基ク損害ノ賠償ヲ要求セントスルハ主張上ノ矛盾ナルヲ指摘セルニ「カ」ハ露国側カ日本ノ西比利亜出兵ヲ以テ戦争ナリト主張シ来レルハ事実ナルモ当時ノ状況ハ普通ノ戦争状態ト異リ一概ニ国際法上ノ理論ヲ以テ律スルヲ得サル而已ナラス露国側カ「ゼノア」会議ニ於テモ指摘セルカ如ク国際法上ノ違反ヲ論スレハ各国トモ違反行為アル故形式論ヨリモ寧ロ実質上ノ問題トシテ公平ノ見地ヨリ観察セサルヘカラス英国ノ如キハ却テ先方ヨリ提議シテ債権並ニ請求権問題ハ一括シテ将来ノ討議ニ付セントセルハ極メテ穏当ニシテ今日日本ト同様ノ取極ヲ為サントスルハ英、伊等ノ例ニ倣ヒ公平ヲ維持セントスルニ過キス従テ国際法上ノ議論ニ亘ルハ自分ノ本意ニ非サルモ日本軍ノ行為中ニハ軍事上ノ必要ニ基カスシテ行ハレタルモノ少シトセス旁一ニ公平ノ見地ヨリ前述ノ如キ相互的規定ヲ設ケ置ク必要アリト力説シタルニ付本使ニ於テモ主トシテハ公平ノ見地ヨリ露国人民ノ受ケタル損害ニ付テハ本使一個ノ私見トシテハ之ヲ相互的ト為スモ差支無カルヘシト思考セルモ露国政府ニ対シ損害賠償ノ責ニ任スルカ如キハ国際法ノ原則ニ顧ミルモ到底同意シ難キ所ナリト反駁シ午後ノ会見ニ於テ引続キ「カラハ

ン」ハ普通ノ交戦国間ニ於テモ国際法ノ規定ノ遵守セラレサル例甚タ多ク況ンヤ例外的戦争状態ニ在リシ西伯利出兵当時ノ如キハ殊ニ然リ依テ純理論ハ扨テ措キ相互平等ノ見地ノミヨリスルモ若シ日本カ真先ニ露国ヲ承認セントスルモノナラハ兎モ角既ニ英、伊ノ如キ大国カ今日自分カ主張スルカ如キ程度ノ譲歩ヲナシ居ルニ拘ハラス独リ日本ノミニ対シ有利ナル条件ヲ以テ協約ヲ締結シ得サル立場ニ在リト反覆論述シ抑モ私有財産即チ請求権ノ問題ハ日本側ヨリ提起セラレタルモノニシテ露国側当初ノ腹案ニハ存セサリシ所ナルカ将来仮令問題トナル所アルモ何レ相互ニ帳消シトナルヘシト思考スルカ故ニ寧ロ斯ル規定ヲ協約中ニ設クルヲ止メ将来問題トナレル場合ニハ外交手段ニ依ルコトトスルモ一策ト思考ス又独逸トノ条約ニ於テ claims（此ノclaimsハ政府ノ損害ニ対スル賠償ヲモ含ム）ニ付テハ労農露国カ対他国関係ニ於テ之ヲ拋棄セハ独逸モ之ヲ拋棄スヘク露国ニシテ他ノ国ニ対シテ主張ヲ為ス時ハ自動的ニ独逸モ露国ニ対シ主張スル趣旨ノ規定アリ此ノ例ニ倣フモ可ナリト述フル所アリ右ニ対シ本使ハ西伯利出兵ヲ以テ戦争ト看做スハ従来貴下而已ナラス「ヨッフェ」氏モ主張セル所ニシテ其説ニ基キテ論議スルモノトセハ西伯利ニ於ケル日本軍ノ行動ニ付テハ国際法ノ原則ヲ認ムル範囲内ニ於テ請求権ニ関シテ露国側ノ主張ヲ容認スルニ躊躇セスト為スモノ之本使主張ノ要領ナリ本使ハ曩ニ請求権ニ関スル露国側ノ主張ハ将来外交機関ニ依リテ処理シ得ヘキヲ述ヘタル処今日本側ノ分モ同様ノ取扱ト為サントノ提議アリ政府ノ意向ハ素ヨリ不明ナルモ本使トシテハ或ハ一案トモ思考セラルルニ付本使限リ同意スヘキ旨ヲ告ケタルニ「カ」ハ自分ノ所謂「クレエムス」ノ中ニハ債権モ含ミ居ルモノナリト断シタルカ本使ヨリ債権ニ付テハ既ニ反覆説明セルカ如ク我方債権ハ其ノ金額判明シ居リ之ニ関スル規定ヲ設クルハ極メテ当然ナリ之ニ反シ露国側ノ所謂債権及請求権ノ如キハ其ノ種類及金額共ニ貴方ニ於テモ分明シ居ラサルニ非スヤ従テ将来外交機関ヲ経テ処理スルコトニハ異存ナシト云ヘルニ過キス我方債権ニ関スル条文ハ其ノ儘協約中ニ存置スルコト絶対ニ必要ナル旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ日本側ノ債権ノミヲ認ムルハ英、伊ノ例ニ顧ルモ同意シ難キ処ナルカ政府並人民ノ請求権ニ付テハ相互的ト為スヲ得ハ債権ニ関シテハ日本側案ノ如キ片務的条項トスルモ可ナリト云ヒ

タルニ付本使ハ政府並人民ノ請求権ヲ相互主義トシ為スヘク結局債権ヲ相互的トスルト同様ニシテ到底同意スルヲ得ストノ答ク尚債権ニ関スル条項ニ付テハ既ニ貴方ノ修正意見ニモ同意シタル次第ニシテ到底之以上ノ譲歩ヲ為シ得サル処貴方ニ於テ我方債権ノ条項ニ同意セラルルニ於テハ私有財産権ニ関シテハ協約成立ノ困難ナルニ顧ミ之カ削除方ニ付日本政府ノ切実ナル考量ヲ促スコトトスルモ差支ナシト告ケタルニ「カ」ハ日本ノ債権ト云フモ謂ハハ国家ノ請求権ニシテ之ヲ片務的トスルヲ得ス故ニ全部ヲ削除スルカ若ハ請求権ヲ相互主義トシ為スノ外ナク尚篤ト考慮ヲ望ム旨ヲ述ヘ意見ノ一致ヲ見スシテ訣レタリ

三七一　五月二十四日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

通商条約ノ大綱ニ関スル日本側ノ条文案通報ノ件

第三三一号　（別電）

往電第三三〇号ニ関シ通商条約ノ大綱ニ関スル条文案第一案及第二案左ノ通

Article VI. (1st Draft)

Upon the establishment of diplomatic relations between the two Contracting Parties, they shall proceed to the conclusion of a Treaty of Commerce and Navigation between them embodying the principles hereunder mentioned. Pending the conclusion of such a treaty, the relations governing the general intercourse between the two countries shall be regulated in conformity with such principles.

(1) The subjects or citizens of each of the two Contracting Parties shall have the liberty to freely enter into, to travel through and to reside in the territory of the other, and shall enjoy full protection for the safety of their lives and property in accordance with the laws of the country.

(2) Each of the two Contracting Parties shall, to the widest possible extent, accord the right of private ownership to the subjects or citizens of the other, and shall grant them, moreover, the right of engaging as widely as possible in commerce, navigation and industry in its territory.

(3) Each of the two Contracting Parties shall grant to the other the most favoured nation treatment in respect of the matters mentioned in the preceding two paragraphs and of all other matters relative to commerce, industry and navigation, including favours in regard to all kinds of duties and charges as well as any relaxation of state-control relative to the export or import of commodities, if such control exists.

Article VI (2nd Draft)

The two Contracting Parties agree to conclude as soon as possible after the establishment of the diplomatic relations a treaty of commerce and navigation, on the strength of which subjects or citizens and companies of one party shall have the right, to securely establish themselves and enjoy full protection in the territory of the other, subject to the laws of the respective country, both in respect of persons and their properties, including vessels, and shall be able to widely engage in trade, industries and navigation, in accordance with the laws of the respective country. The subjects or citizens and vessels of the one party shall receive in the territory of the other the most favorable treatment accorded to any third country in regard to commerce, navigation, industry and all other matters relative to general intercourse between the two countries.

Pending the conclusion of such a new treaty of commerce and navigation, the relations governing the general intercourse between the two countries shall be regulated in conformity with the provisions mentioned in the above paragraph.

三七二　五月二十四日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

利権問題ニ付テハ直ニ文面ニテ提示セズ口頭ニテ申入レ先方ノ態度ニ応ジ交渉ヲ進メルヨ

ウ訓電ノ件

第三三二号

利権獲得ニ関シテハ宮川ノ携帯セル欧一機密第一〇一号別添第一及第二ノ趣旨ニ依リ交渉ヲ試ミラルヘキハ勿論ナルモ両者孰レモ其面積外国人ノ有スル既得権ノ始末方法及其他ノ条件ニ付相当先方ノ同意ヲ困難トスルモノアルヘキヲ予想セラルル処万一交渉不調ニ終リタル場合先方カ之ヲ公表シテ宣伝ノ具ニ供スル虞アルコトモ考慮ニ加ヘ置ク必要アルニヨリ本件交渉ノ際ニハ直ニ文面ニテ提示セス先ツ図面ニヨリ説明ヲ加フル等ノ方法ニヨリ口頭ニテ先方ニ申入レ先方ノ態度ニ応シ漸次話ヲ進メラルル様致シタシ

三七三　五月二十四日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

ベッサラビア条約問題ニ関シ柔軟ナル考量ヲ加エツツアル旨回訓ノ件

第三三八号

貴電第三九〇号ニ関シ

「ベッサラビヤ」ニ関スル条約ハ既ニ我方ニ於テ調印ヲ了シ居ル以上国際的約束ニ対スル帝国ノ面目及信用ヲ保持スル上ヨリ云フモ当然之カ批准ノ手続ヲ為スヘキ筈ナル次第ナルカ露国側ヨリ貴使ニ対シ再三之カ批准中止方ヲ要請シ来レルノミナラス他方日露間ニハ目下交渉進行中ナル次第モアリ且右交渉ヲ成立セシムルニ就テハ我方ニ於テ露国側カ今後尚各種問題ニ付充分交譲妥協的態度ヲ示スヘキコトヲ期待シ居ル関係モアルニ付本件ニ関シテハ適当ノ時機ニ於テ貴使ハ「カラハン」ニ対シ前顕ノ事情ヲ適当ニ説明セラルルト共ニ露国側ニ於テ今回諸問題ノ解決ニ付誠意アル譲歩的態度ニ出テ交渉ヲ成立セシムルヲ期待シ我方ニ於テハ前記困難ナル事情アルニ拘ラス露国側申出ニ対シ特ニ好意的考量ヲ加ヘ同条約ノ締約国タル欧州諸国カ批准ヲ了スル迄ハ帝国政府ニ於テハ之カ批准ノ手続ヲ見合セ居ル次第ナル旨ヲ口頭ニテ「カラハン」ニ対シ言明セラレ差支ナシ

三七四　五月二十五日（着）　在中国芳沢公使ヨリ松井外務大臣宛（電報）

通商条約問題其ノ他ニ関スル討議状況報告ノ件

第四一九号　至急極秘

往電第四一五号ニ関シ

五月二十三日会議ノ要領左ノ通リ

第一　通商条約問題

協約案第三条中ノ「プロパティス」ナル文字ニ関シ本使ヨリ労農露国ニ於ケル共産制度ト外国人ノ享有スヘキ財産権トノ関係並其ノ保護ノ程度等ニ付質シタルニ対シ「カ」ハ制度トシテハ露国ニ於テハ私有財産権ヲ認メサルモ実際上ハ幾多ノ例外ヲ存セリ例ヘハ土地ニ付テハ之カ所有権ヲ認メサルモ外国人ト雖モ土地ヲ商租シ得ヘク工場店舗商品等ニ対スル完全ナル権利保護ヲ受クヘシ諸外国ニ於テハ外国人ハ其ノ国民ニ比シ狭キ範囲ノ権利ヲ享有スルニ過キサルヲ普通トスルモ露国ニ於テハ全然自国民ト同様ノ権利ヲ認ムルモノナリト説明セリ

協約中最恵国約款ヲ設クヘキ本使ノ提議ニ対シ「カラハン」ハ極力之ニ反対セルカ其ノ重モナル理由ハ㈠露国ハ過去ニ於テモ最恵国約款ノ為ニ苦シミ「ケレンスキー」政府ノ時代ニ於テスラ日本ニ対シ之カ改定ヲ提議セル位ナリ㈡殊ニ労農露国ハ其ノ周囲ニ在ル小国ノ独立ヲ認メス之ヲ保護センカ為関税同盟其他通商上ニモ種々ノ特権ヲ与ヘ居ルヲ以テ之ニ均霑セラルル虞アリ㈢外国貿易ノ如キハ国家ノ「モノポリイ」ト為シ居ル関係上軽率ニ貿易ノ自由ヲ認ムル諸国ノ例ニ倣フヲ得ス㈣尤モ将来通商条約ヲ締結スルニ際シ個々ノ事項ニ付テハ最恵国約款ヲ付スルコトアルヘキモ広キ範囲ニ亘リ今日一般的規定トシテ之ヲ約スルヲ得スト謂フニアリ依テ本使ハ我方提議ノ趣旨ハ素ヨリ労農政府ノ制度ニ干与シ又ハ労農露国ト特殊ノ関係ニアル諸国即チ旧露国ノ一部ヲ構成シ諸国（編註　セル？）ノ特殊利益ニ均霑セントスルモノニアラスシテ帝政時代ニ於テモ外国タリシ諸国カ通商上労農露国ヨリ与ヘラルヘキ利益ニ均霑セントスルモノニ外ナラサル旨ヲ説明シタル上英独伊等トノ通商条約関係ヲ質問セルニ「カ」ハ英国トハ一九二一年倫敦ニ於テ締結セル「サー・ロバート・ホーン」ノ条約ノ外通商条約ナク独逸トハ一九二一年予備的協定ヲ締結シ外国貿易ノ「モノポリイ」ヲ認ムルコト商務官ヲ置クコト物品ノ徴発ヲ為ササルコト等ノ規定アルモ極メテ不完全ナルモノニ過キス伊太利トノ条約ハ頗ル詳細ナルモノニシテ例ヘハ黒海ニ出入スル伊太利船舶ニ就テハ最恵国約款ヲ適用スト言フカ如キ個個ノ場合ニ関スル規定ナキニアラサルモ一般的規定トシテノ最恵国条款ナルモノナシ従テ日本ニ対シテモ通商条約締

結ノ際個々ノ事項ニ関シ最恵国条款ヲ設クルコトトセハ可ナルヘシト説明セリ依テ本使ハ基本協約中一般的最恵国約款ノ規定ヲ為スハ露国側トシテ幾多ノ危険ト不便トアルニ顧ミ到底承諾シ得サル処ナルヲ看取セルヲ以テ試ミニ次ノ如キ「フォーミュラー」ヲ作成シ各条文ニ付加スヘキヲ提議セリ

The Contracting Parties agree to take into consideration in concluding the commercial treaty above mentioned such commercial treaties or agreements, which exist or may exist between third Powers and the other party.

右ニ対シ「カラハン」ハ其実質ニ於テ一般的最恵国約款ト異ル処ナシトテ極力之ニ反対シ殊ニ前記先方ノ反対理由ノ㈡ノ点ヲ力説セルニ依リ「第三国」ノ代リニ「西欧諸国」ト訂正セハ其ノ懸念ナカルヘシト説キタルモ「カ」ハ労農政府ハ今ヤ英国及独逸トモ通商条約締結ノ談判中ナルヲ以テ日本ニ対シ斯ノ如キ規定ヲ設クル時ハ右二国ノ如キモ当然之レニ均霑スルノ先例ヲ作ルニ至ルヘク和蘭ノ交渉ノ如キハ一般的最恵国約款ニ関スル和蘭ノ主張ノ為談判破

裂セル例モアリトテ我主張ノ撤回ヲ求メテ熄マス本使ハ日本トシテハ他国以上ノ利益ヲ得ムトスルモノニアラサルハ勿論右「フォーミュラー」モ労農政府カ西欧諸国ト締結スヘキ通商条約ヲ考量ニ加フルノ趣旨ナルヲ以テ最恵国約款ヲ説クカ如キ種々ノ懸念ナカルヘシト主張セルニ「カ」ハ露国側ノ懸念ヲ避クル案トシテハ極メテ妥当ナルモ土地的区別ヲ条約面ニ表示スルハ主義上好マシカラスト述ヘ本使ハ西欧諸国トセスシテ「旧露国ヲ構成セサリシ国」トスルモ可ナリト告ケタルモ「カ」ハ波斯土耳古ノ如キ露国ト密接ナル関係ヲ有スル国アルヲ以テ之カ限定ヲ為スハ甚タ困難ナリトシ主義上不賛成ナルモ兎ニ角考究スルコトトスル旨答ヘタリ

第二　宣伝禁止問題

協約案第八条ニ関シ本使ヨリ曩ニ我方提出ノ条件中ニ述ヘタル処ニ比シ遙ニ詳細ナル規定ヲ設ケタル事情ヲ質シタルニ「カラハン」ハ要スルニ日本側希望ニ露国側希望ヲモ加ヘタルモノニシテ特ニ詳細ノ規定トナセルハ従来諸外国カ労農政府ヲ以テ特ニ危険ナル宣伝ノミヲ行フモノノ如ク看做シ来レルニ顧ミ其誤解ヲ一掃センカ為宣伝等ヲ行フ意思

ナキコトヲ明示セルモノナルト同時ニ日本側ニ於テモ直接間接白党ニ対シ援助ヲ与フルカ如キコト無キヲ期待スル趣旨ナリト説明セリ本使ハ規定趣旨ニハ異存無キモ第一項末段ノ any kind of intervention ト云フカ如キ広汎ナル意味ノ文句ト為ス時ハ仮令両国何レカノ政治組織等ヲ論評スル者ニ対シ警察官ハ其取締ノ煩ニ堪エサルヘシトモ懸念セラルルヲ以テ kind ト云フカ如キ不明瞭ナル文句ヲ避ケ寧ロ act トスルヲ可トスヘシト述ヘ尚種々論議ノ末結局「カラハン」之ニ同意セリ第二項ニ付テハ本使ニ於テ異議無キ旨ヲ述ヘ置ケリ

第三　協約案第七条ニ関シ本使ハ「ベッサラビア」条約モ此ノ規定ノ関係トナルヘキ趣旨ナルモ同条約ニ関シテハ元来日本トシテ何等ノ利害無キ問題ニ相違無キモ友好国トノ関係上極メテ善意ニ調印セルニ過キサルモノナルニ拘ハラス日露国交恢復ニ当リ之カ廃棄ヲ要求スルハ露国側トシテ余リニ自己ノ立場ノミヲ顧ミルモノナルヲ指摘セルニ「カ」ハ「ベッサラビヤ」地方ノ露国ニ取リ極メテ重要ナルコト羅馬尼ハ単ニ列国ノ支持ニ依リ同地方ヲ維持セントスルモノナルヲ以テ全然利害無キ日本トシテハ羅馬尼ヲ支持スルノ理由無キコト等ヲ説キ立テタルカ本使ハ由来日本ニ於テハ帝国代表者ノ締結セル条約ニ対シテハ例外無ク批准シ来リ「ベ」条約ノミニ対シ批准ヲ見合ストセハ今日迄ノ日本政府ノ不文律ヲ破リ又他ノ連合諸国ニ対シテ信義ヲ失フノ結果トナルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ今日迄数年間批准ヲ為サスシテ昨今ニ及ヒ俄ニ批准スルモノトセハ露国トシテハ当然不安ノ念ヲ抱カサルヲ得サルヘク殊ニ単ニ「プロトコール」ニシテ条約ト謂フニモ非サルヲ以テ批准ニ関スル日本政府ノ不文律ニ違反スルコトモ無カルヘシトテ重ネテ日本政府ノ考量ヲ促サンコトヲ求メテ已マス本使ハ貴述ノ趣旨ハ政府ニ伝達シ置クヘシト答ヘ置ケリ第四尚終リニ債権問題及尼港事件ニ関シ過日来ノ本使ノ主張ハ最後的ノモノナルヲ以テ右二問題ニ対シテハ最切実ナル考慮ヲ加フル様先方ノ注意ヲ喚起シ置ケリ

三七五　五月二十五日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

ポーツマス条約其ノ他日露間ノ条約効力ニ関スル日本側ノ条約案文通報ノ件

第三三九号　（別電）

往電第三三〇号ニ関シ条約問題ニ関スル条文案左ノ通尚宮川携帯ノ協約案第九条（露国提案ニ貴使ノ修正ヲ加ヘラレタルモノ）ニ就テハ猶篤ト研究ヲ要スルニ付改メテ電報スヘシ

Article VII.

The Government of the U.S.S.R. confirm the validity of the Treaty of Peace between Russia and Japan signed at Portsmouth on September 5th 1905. As regards the other treaties and agreements concluded between the Imperial Japanese Government and the former Russian Government, that is to say, the Imperial Russian Government or the Provisional Russian Government which succeeded, the Governments of the two Contracting Parties agree to revise them at a future conference in a manner corresponding to the altered circumstances, on the basis that the rights and interests enjoyed by the respective governments, citizens or subjects of the two countries by virtue of these instruments shall be fully respected, and that accomplished facts accruing from them shall not be affected. As to the treaties and agreements to which both the Imperial Japanese Government and the former Russian Government, that is to say, the Imperial Russian Government or the Provisional Russian Government which succeeded, are signatory, in common with other countries, the two Contracting Parties agree to defer their adjustment until an agreement shall have been reached among all the countries concerned.

Article VIII.

Upon the coming into force of the present Agreement, the Government of the U.S.S.R. agree to proceed to the revision of the Fisheries Convention of 1907, with the accompanying Protocol and Agreement, in conformity with the Treaty of Peace signed at Portsmouth in 1905.

三七六　五月二十六日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

利権問題ノ交渉ニハ特ニ慎重ナ注意ヲ必要トスル旨訓電ノ件

第三四一号

利権獲得ノ取扱振ニ付テハ往電第三三二号ヲ以テ既ニ申進シタル通リナルカ往電第三四二号所載ノ通リ労農側ニテハ此際特ニ交渉進展ヲ宣伝シ居リ或ハ今後我方ヨリ利権等ノ問題ヲ提出シ万一交渉不調ニ帰スル際ニハ其条件ヲ苛酷ナリトシ破裂ノ責ヲ我方ニ帰セムトスルヤモ計ラレサルニ付利権案ノ取扱ニ付テハ精々御注意相成ル様致度

尚宮川携帯ノ英文協定案ハ条約問題、通商条約問題等既ニ電報セル以外ノ諸条ニ付テハ目下尚再考中ナルニ付決定次第電報スヘシ殊ニ付属「ノート」第二東支問題及航行権問題ニ就テハ更ニ何分ノ儀ヲ申進スル迄会談方見合セ置カレタシ

三七七　五月二十七日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

北樺太ノ租借若クハ譲渡ヲ第三国ニ認メザルヨウ保障取付ケ方訓電ノ件

付記　五月二十四日付津野陸軍次官ヨリ松平外務次官

宛西密第二二号
日露交渉ニ際シ陸軍側ノ希望事項送付ノ件

第三四四号

今回ノ交渉ニ於ケル北樺太撤兵問題ニ関連シ陸軍側ヨリモ（編註）希望申出アリタル次第ナルカ将来露国カ太平洋沿岸ニ於テ帝国ニ近接スル露国領土ヲ第三国ニ租借又ハ譲渡スルカ如キコトアラハ帝国ノ安全ヲ脅威シ帝国ノ国防上ニ重大ナル影響ヲ及ホスノ虞アルニ顧ミ此ノ機会ニ於テ露国側ニ於テ斯ノ如キコトヲ為ササル旨ヲ約セシムル様協定ヲ遂ケ置クコトヲ得ハ好都合ナリト思考スルニ付貴使ハ右ノ趣旨ヲ体セラレ「カラハン」ニ対シ我方ニ於テハ尼港事件解決シ協定成立スルニ於テハ北樺太ヨリ撤兵スヘキ意向ナル処若シ撤兵後露国側ニ於テ第三国ニ対シ北樺太ノ一部又ハ全部ノ租借ヲ許シ又ハ之ヲ譲渡スルカ如キコトアラハ事態甚タ好マシカラス国論ニモ少カラサル刺戟ヲ与フヘキヲ以テ撤兵ニ先チ此点ニ関シテハ特ニ予メ不安ヲ除キ将来ノ保障ヲ得置クコト絶対ニ必要ナリ同様ニ又勘察加其他沿岸地方ニ付テモ同地方ハ従来屢々他国ニ租借又ハ売却セラルルカ如キ噂アリシ処同地方沿岸ニ於テハ本邦人カ条約上漁業経営権ヲ

有スル関係モアリ其他国防上ノ見地ヨリ此ノ如キ事態ノ実現ハ我方ニ於テ甚大ノ不安ヲ感スル次第ニ付此際斯カル事ナキ様露国政府ノ保障ヲ得不安ヲ一掃シ置キ度旨ヲ篤ト説明セラレタル上宣言其他適当ノ方法ニ依リ右ノ趣旨ヲ明確ニ約セシムルコトヲ提議セラレタク尚本件ニ関スル先方ノ応答振回電アリタシ

編註　陸軍側ノ希望ニツイテハ次ノ「付記」参照

(付　記)

五月二十四日付津野陸軍次官ヨリ松平外務次官宛西密第二二号

日露交渉ニ際シ陸軍側ノ希望事項送付ノ件

西密第二二号　（五月二十六日接受）

大正十三年五月二十四日

陸軍次官　津野　一輔（印）

外務次官　松平　恒雄殿

北樺太撤兵ニ関スル露国側提案ニ関スル件回答

首題ノ件ニ関シ五月二十二日欧一機密合第四七八号ヲ以テ申越有之候薩哈嗹州派遣軍ノ撤去実施ニ要スル期日ハ陸軍ニ於テ定ムルコトトシ概ネ四月中旬ヨリ十月下旬ニ亘ル該地方船舶ノ航行期間ニ於テ少クモ約三ケ月ヲ要スル次第ニ

候条承知相成度又今次日露交渉ニ際シ陸軍ノ希望事項別紙ノ通及送付候也

追テ本年内ニ撤兵スル場合ニ於テハ軍撤去準備ノ関係上遅クモ七月中旬迄ニ撤兵ヲ決定スルヲ要スル意見ニ付申添候

以上

（五月二十三日　山田少佐持参）

第四次日露交渉ニ際シ陸軍ノ希望事項

一尼港事件ニ関シ日本カ物質的責任ヲ要求セサル場合露国側ハ片務的ニ之カ責任ヲ負フコト及尼港事件賠償ノ意味ニ於テ北樺太ニ於テ有利ナル利権ヲ我ニ供与スヘキハ第三次交渉ニ於ケル我方ノ要求ニシテ露国側ノ概ネ承認セル所ナリ第四次交渉ニ於テモ此方針ヲ以テ進ムヲ要ス

二薩哈嗹ノ撤兵ハ帝国政府ノ屢次声明セルカ如ク尼港問題ト合一不可分ノモノナルヲ以テ其ノ撤兵ノ時機ハ尼港事件解決後之ヲ声明シ且之ヲ実施ス

三撤兵ノ実施期日ニ関シテハ声明後成ルヘク速ニ且ツ至短期日ニ於テスルノ主義ニ依ルコト勿論ナルモ薩哈嗹付近ノ天候季節ノ関係ト軍事施設撤去ノ状況トニ応シ陸軍ニ

（付箋1）

於テ自主的ニ期日ヲ決定スルノ権利ヲ保留ス但シ我軍撤去後ノ治安秩序ヲ維持セシムル為我軍撤去迄ニ露国側ヲシテ諸般ノ準備ヲ整ヘシムルコト肝要ナリ而シテ我軍撤去ニ要スル期日ハ航行期間（概ネ四月中旬ヨリ十月下旬ニ至ル）ニ於テ少クモ約三箇月ヲ要ス

四在薩哈嗹軍政及軍事施設ノ処分ニ関シテハ次ノ要領ニ依ル

(イ)軍政上ノ諸施設ハ従来夫々中央官省ニ於テ根本方針ヲ定メ其範囲内ニ於テ軍ハ実施ノ任ニ当リアリシ関係上其引継ニ関スル交渉措置ハ軍ニ於テ実施セサルヘカラス而シテ此ニ関スル処置ハ成ルヘク駐兵中ニ於テ終ルヲ以テ我ニ利便ナリトス

(ロ)交通通信ニ関スル軍事施設ハ交渉ノ結果各種ノ利権ヲ獲得シ得ル場合ニ於テハ之ヲ撤去スルコトナク其ノ時ノ情況ニ応シ経営セントスル者ニ払下ケ若クハ譲渡スルカ或ハ露国ニ売却或ハ譲渡シ我方ニ於テモ之カ運用権ヲ得ルノ方針ニ出ツルコト

(ハ)建築物及港湾付属設備等ハ前項ノ要領ニ準ス

(ニ)軍撤去ノ際露人ノ避難ハ成ルヘク制限スルニ努ムヘキ

（付箋2）

モ従来ノ関係上軍トシテ放任スルニ忍ヒサルモノアルトキハ人道上ノ見地ヨリ適宜避難ノ便ヲ与フルコト

五第三国カ太平洋沿岸露国要地ノ買収若クハ利権租借ヲ行フニ於テハ帝国国防ニ脅威ヲ与フル所大ナルヲ以テ次ノ要旨ノ約定ヲナサシムルコトニ努ム

日露両国ノ国防ニ脅威ヲ来ササル為日本ハ樺太ノ領地ニ於テ露国ハ樺太ニ於ケル其ノ領地、勘察加県ニ於テ第三国ニ土地ノ譲与ヲ行ハス又軍事施設ニ利用セラルルカ如キ恐アル利権租借ヲ許与セス

（「ポーツマス」条約中軍事ニ関スル事項ノ改訂ニ関シテハ後日意見ヲ提出ス）

（付箋一）

軍撤去準備ノ関係上遅クモ七月中旬迄ニ撤兵ヲ決定スルコト

（付箋二）

列国殊ニ米国ヲ刺戟スルノ虞アルヲ以テ約定法ニ付注意スルヲ要ス

五月二十七日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

締約国ヲ対象トスル秘密協定ヲ第三国ト締結シ居ラザル趣旨ノノートヲ相互的ニ声明スル

コトハ差支エナキ旨回訓ノ件

第三四五号

貴電第三七六号第二ニ関シ

一、露国側提案第七条ニ関シテハ其ノ全部ヲ其儘協定中ニ記載スルコトハ承諾シ難キモ帝国ニ於テハ露国ヲ目的トシ軍事同盟条約其他ノ秘密協定ヲ第三国ト締結シ居ルカ如キ事実ハ全然無之ヲ以テ左記趣旨ヲ「ノート」ニテ相互的ニ声明スルコトハ差支ナシ

The two Contracting Parties declare that there exists no treaty or agreement of military alliance, nor any secret agreement entered into with any third party, which is calculated to infringe upon the sovereignty, territorial rights or to menace the safety of the other.

二、殊ニ貴電第三八二号所載露国側追加条項ハ広ク将来ニ渉リ斯カル条約ヲ締結セサルヘキ旨ヲ約セントスルニアリテ其ノ趣旨ハ兎モ角右ハ将来ニ渉ル条約締結権ニ拘束ヲ加フルモノナルニ依リ枢密院ノ了解ヲ得ルコト困難ナルヘシト思考セラルニ付右ハ採用セラレサル様面ヨリ除外スルコトノ外ハ大体前記御訓令ノ範囲内ニ於テ措置シタル結果ニ外ナラス即チ債権ニ関スル条文ノ如キハ全ク御訓令ニ準拠セルモノナリ従テ本使自身ニ於テ其主張ニ変更ヲ加フルニ於テハ「カ」ヨリモ従来ノ主張ニ対シ種々変更ヲ試ミ来ルヘキハ明白ニ有之其結果今回ノ交渉モ亦失敗ニ終ルヤモ測リ難シ就テハ先方ヨリ債権ニ関スル本使ノ主張ニ譲歩シ来ル場合ニハ本使ヨリ「カ」ニ対スル主張カ其ノ債権ニ関シテハ片務的条文ヲ存置シテ請求権ニ関スル彼我相互ノ主張ハ今回ノ協定ヨリ全然除外シテ将来外交機関ノ交渉ニ譲ルコトト為スヘク将又若シ先方ヨリ本使ノ主張ニ譲歩シ来ラサル場合ニハ大体貴電第三三〇号(五)ノ方針ニ依リ処理スルコトトナルヘク但右(五)ノ内請求権ノ問題ニ就テハ他国トノ条約ニ於テ相互的トナリ居ル処我方ノミ之ヲ片務的ニ規定セムトスルモ先方ニ於テ飽迄之ヲ承諾セサルヘキハ累次ノ往電ニ依リ御承知ノ通リニ有之従テ之ヲ双務的ニ規定スルコトトスヘシ(先方ノ西比利亜出兵ニ関スル対抗請求ヲ放棄セシムルモノトセハ残余ノ露国側請求ハ僅少微細ノ額トナルヘク我方請求権ト双務的ニ規定スルモ何等懸念無キニ至ルヘシ)

(二)尼港事件ハ残虐極悪ノ事件ナルカ故文書ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表スルコト本使ニ於テモ絶対ニ譲歩シ難キ旨ヲ宣明シ居ル次第ナリ「カ」ノ心中トシテハ今春以来対外関係ニ於テ労農政府ノ地位高マリタルニセヨ昨年東京会議ニ於テ文書陳謝ノ主義確定シ居レル以上之ヲ動カスノ容易ナラサル事並ニ今回ノ交渉ヲ纏メ度キ希望アル事ノ二個ノ理由ニ依リ文句ハ兎ニ角トシテ文書ヲ以テ陳謝スル事タケハ之ヲ観念シ居ルヤモ計リ難シ乍去利権ノ提供ヲ賠償ノ意味ニ於テスル事ハ昨年「ヨッフェ」モ峻拒セル処ニシテ「カ」ト雖モ今年ハ尚更之ヲ承認セサルヘキハ明々白々ナルカ故今日ニ至リ飽迄賠償主義ヲ認メシムルコトニ成功セントセハ此上交渉ヲ進捗セシメ難キコト申上クル迄モ無シ尼港事件ノ残虐ハ「カ」ト雖モ敢テ之ヲ否認セサルモ彼ハ西比利亜出兵中ノ幾多残虐行為ノ例ヲ有ストノ唱ヘ居ルニ付本使ヨリ然ラハ承リ度シト述ヘタルニ拘ハラス之ヲ提出セサルハ此問題ノ為論議ニ多大ノ時間ヲ費シ基本協約ノ締結手間取ルヲ恐ルル為ニシテ敢テ材料ニ乏シキカ為ニ非ス此問題ノ我方ニ取リテモ極テ苦痛トス

（欄外記入1）

仕向ケラレタシ

三七九　五月二十七日　在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

北京会談ノ進展振リニ鑑ミ訓令ノ諸点ニ対スル意見並ビニ希望事項具申ノ件

第四二九号　至急極秘　（五月二十八日接受）

宮川通訳官携帯ノ各書類並其後御発送ノ貴電第三三〇号以下各通御訓示ノ各項拝読ノ結果主ナル問題ニ関スル卑見左ニ稟申ス就テハ御考慮ノ上至急何分ノ御電訓ヲ請フ

(一)閣下ノ御配慮ニ依リ委任状ヲ賜ハリタル結果正式交渉ノ会見トナリ該交渉ニ関スル心得トシテ貴電第一一五号及第一五〇号ノ趣旨ニ依リ出来得ル限リ我方屢次(脱)ナル様解決ヲ試ミ成ルヘク速ニ交渉ヲ纏ムル様御訓令相成リタルニ付右御訓令ヲ体シ十四日ヨリ二十三日迄殆ト毎日討議ヲ継続シ八回ノ会議ニ於テ一通リ各項ノ討議ヲ了シタル次第ハ累次ノ往電ニテ御承知（脱）ニ入リタルコトト存ス

本使ハ「カラハン」トノ間ニ纏メタル事項又ハ纏メムトシツツアル事項ハ私有財産ノ請求権ニ関スル条文ヲ協約

ル次第ハ現ニ此ノ問題ト三億円余ノ債権トヲ殆ト棒引キ同様ニ取扱ハントセラルル帝国政府ノ御内意ニ徴スルモ明白ニ有之然ルニ我方ニ於テ尼港問題ノミヲ残虐事件トシテ取扱ハントシ賠償ノ意味ニ於テ利権ヲ提供セシメントスルハ（欧一機密第一〇一号㈠(イ)及(ロ)ノ文意ヲ咀嚼スルニ賠償ノ意味ナル事明カナリ）真ニ至難ノ業ト申スヘク旁本使トシテハ成ルヘク御訓示ノ趣旨ニ副フ様交渉ヲ試ムヘキモ北樺太利権ヲ飽迄特別扱ト為シ以テ賠償ノ意味ヲ明カニセントスルハ遺憾ナカラ成功ノ確信ヲ有セス殊ニ今回ノ協約ハ基本協約ニシテ利権ノ如キモ余リニ詳細ニ規定スルハ不可能ナリ結局ノ処賠償ノ意味ハ曖昧ニ付シテ利権ヲ成ルヘク具体的ニ獲取スル見地ニ於テ北樺太ニ付テハ右貴信付属一ノ条文ハ其儘トシ（但シ期限ハ昨年ノ東京会議ニ於テ既ニ五十五年ニテモ可ナル旨声明シアルニ顧ミ今回ハ最初ヨリ五十五年トス）地域条件等ハ簡略ナルモノヲ作リテ提出商議スルコトトスヘシ又東部西比利亜ニ付テハ将来具体的ニ利権ニ関スル各種契約ヲ締結シ得ル様稍々詳細ナル規定ヲ設クルヲ得ハ最上ノ成績ト申スノ外ナシ貴電第三三〇号ノ㈠ニ於テ利権ニ

（欄外記入2）

（欄外記入3）

付テハ此際詳細具体的ニ取極ムル様極力主張シ「カラハン」ヲシテ専門家ヲ呼寄セシムルモ然ルヘキ旨御来示アリタルニ拘ハラス貴電第三三二号ヲ以テ本件交渉ノ際直ニ文書ヲ提示セス口頭ニテ先方ニ申入レ漸次話ヲ進ムル様御訓示相成リ次テ貴電第三四一号ヲ以テ交渉破裂ノ責ヲ我ニ帰スルコトアルヘキ場合ヲ慮リ精々注意方御訓示アリタル処交渉ニ際シテ極メテ細心ノ注意ヲ要スト ノ御趣旨ハ至極御尤モノ次第ナルモ御訓示ニ依レハ取極ハ詳細ニ而モ具体的ナラサルヘカラス然ルニ交渉ノ方法ニ付テハ余リニ本使ノ裁量範囲ヲ局限セラレ過クルヤノ感ナキ能ハス例ヘハ一寸口頭ニテ申入レタル際先方ニ於テ直ニ反対ノ態度ヲ示ス場合ニハ如何措置シ然ルヘキヤ我方ヨリ提案ヲ為ス場合ニハ提案シテ先方ノ反対ニ遇ヒ忽チ撤回スルカ如クンハ寧ロ最初ヨリ提出セサルニ如カス提出スル以上ハ有効ナル手段方法ニ依リ相当ナル程度迄ハ論議ヲ為スヘク論議シテ形勢不可ナレハ初メテ是レヲ撤回スヘク然ラサレハ却テ種々悪結果ヲ生スヘキハ申上クル迄モ無シ今回ノ交渉ニ於テ帝国政府ノ最モ重キヲ置カレタル点ハ尼港事件条約問題ニシテ債権問題ハ我方ニ取

（欄外記入4）

リテモ重大ナルニ相違ナキモ労農側ハ一層之ヲ重大視シ居レル処条約問題ハ大体我方ニ有利ニ解決セントシ債権問題モ当初ノ御訓令ノ範囲ニ於テ取扱ハレツツアル次第ニテ尼港問題ニ付テハ陳謝ノ文書ヲ徴スルコトトシ利権問題ニ付テハ将来帝国ニ完全ナル契約ヲ締結シ得ヘキ基本協定ヲ設クルヲ得ハ我本来ノ目的ヲ達スルモノナルヤニ思考ス「カラハン」モ他ノ労農首領連ト（脱）難物タルハ同一ニテ目下ノ所当方ノ態度ニ顧ミ大体適当ナル態度ニ出テツツアルニ我方ノ態度如何ニ依リ其態度ニ変化ヲ来スヘキコトノ明白ナルハ勿論ナリ

屡次ノ貴電ヲ拝読スルニ其後ノ往電ニテ御報告ニ及ヒタル談判ノ発展ヲ御考慮ニ入レラレサルヤノ疑アリ例ヘハ債権問題ニ関スル往電第四一五号通商条約ニ関スル往電第四一九号ノ如キハ篤ト御考慮ヲ迎ヘタク切望ス尚又御訓示中東支鉄道問題松花江問題等モ加ハリ居リ右ハ尚会談見合セ方御追電アリタルモ前者ハ米仏両国トノ関係ヲ考慮スルヲ要シ後者ハ支那トノ関係ヲ考慮スルヲ要シ共ニ此際交渉ノ目的ト為スヘカラサルヤニ存ス

利権問題ニ関スル御訓令ハ閣議ニ於テ決定セラレタルモ

ノナル趣ニテ又閣下御苦心ノ程ハ感謝ニ堪ヘサル次第ナルモ交渉ノ成否ニ関スル観測ニ付テハ現場ニ於ケル本使トシテ最モ敏感ナラサルヲ得サルカ故差シ出カマシキ儀乍ラ本使ノ観測ヲ御考慮ニ加ヘラルル様切望ス

（欄外記入1）
此点見込アリヤ

（欄外記入2）
利権ト引替ヘナリ

（欄外記入3）
良好ナル条件ヲ以テセハ可ナリ

（欄外記入4）
訓電発後ニ来タル電報ナリ

（付箋1）　（付箋2）

三八〇　五月二十八日　陸軍省ヨリ　欧米局宛

北京会談ニ関シ陸軍側ヨリ申入レノ件

第四次日露交渉ニ際シ陸軍ノ希望事項ニ就テ

一、尼港事件解決後撤兵ヲ実施スルコトニ約定文書ニ記入スルコトハ異存ナシ

二、撤兵ノ実施期日ニ就テハ陸軍ニ於テ定ムルモ之ヲ約定文書ニ記入スルコトハ異存ナシ

三、第五項ノ第三国ニ土地ノ譲与及租借ヲ許与セサル件ハ絶対ニ主張スルニアラス適当ノ機会ヲ捉ヘ得タル場合此趣旨ノコトヲ提議スルコトニ致度

四、「ポーツマス」条約中軍事ニ関スル事項ノ改訂ハ「ポーツマス」条約ノ改訂ニ触レサル場合ニ於テハ主張セス但該条約ノ改訂ニ触ルル場合ニ於テハ「ポーツマス」条約中ニアル軍事ニ関スル制限全部ヲ撤去スルコトニ致度

（欄外記入）
五、華府会議ノ決議ニ依リ帝国カ受ケアル拘束ニ鑑ミ露国ヲシテ此弱点ニ乗スルカ如キコト無カラシムルハ希望スル所ナリ従テ此ニ関連スル事項ノ交渉アル場合右趣旨ヲ体シテ交渉スルコトニ致度

（付箋1）
尼港事件解決後トハ日露交渉成立後ノ趣旨ナリトス（陸軍記入）

（付箋2）
条約ノ批准後撤兵ヲ実施スルコトニ注意スルコト（陸軍記入）

（欄外記入）
基本協定円満ニ成立スル気運トナル場合ニ此ノ意味ヲ露国側ニ通シ将来露国側ノ軍備拡張等ニ付キ相談スルコトトスルモ可然（外務省欧米局記入）

三八一　五月二十八日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

新聞ノ臆測記事ニ鑑ミ北京会談ノ進捗状況ヲ共同コミュニケニテ公表シタキニ付キ請訓ノ件

第四三一号　（五月二十九日接受）

貴電第三四二号ニ関シ

本使「カラハン」ノ会見ハ五月十四日ヨリ二十三日ニ至ル迄連日行ハレ二十三日ノ会談終了後本使ニ於テ「カ」及随員ノ為招宴ヲ催シタルコト及ヒ其後今日ニ至ル迄休会シ居ルコト等ノ事実ヨリ通信員等ノ交渉モ一通リ終了シタルモノト早合点シ種々臆測シ条文案出ニ腐心シ居タルカ就中当地日本電報支局ハ数日前「カ」ニ対シ露文ヲ以テ質問事項ヲ提出シ「カ」ハ直チニ之ニ答フル処アリ右「カ」ノ回答ハ支局長竹内ノ直話ニ依レハ尼港事件ヲ除ク外大体今回ノ日本電報所報ノ通リナリシ由ナリ右様ノ次第ニテ其結果御来示ノ如キ報道ヲ見タルコトト思考セラル尚二十七日「カ」ハ島田ニ対シ昨今日本新聞カ余リニ臆測ヲ逞クシ居ルニ顧ミ此際寧ロ相当精確ナル報道ヲ与フルコト相互ノ為必要ナル旨ヲ力説シ居タル由ナルカ本使トシテモ此際当地ノ交渉ニ付余リニ誤伝セラルルコトハ甚タ好シカラサルニ付「カ」ト打合セノ上適当ノ「コンミュニケ」ヲ発スルコト然ルヘシト思考シ居レル処右ニ関スル御意見折返シ御回示ヲ請フ

（欄外記入）
交渉ノ進捗ノ妨トナラサル程度ノモノナラハ差支ナシ「カラハン」ト篤ト打合スヘシ

三八二　五月二十九日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

利権問題其ノ他交渉上ノ係争点ニ関シ基本方針訓電ノ件

第三五三号

貴電第四二九号ニ関シ

㈠債権問題ニ関シテハ往電第三三〇号発電後貴電第四一五号接到シタル次第ナルカ「他ノ条件ニシテ同一ナラハ」トノ条件ハ先方ノ新提議ニシテ右ニ関スル「カラハン」ノ説明ニテハ猶充分ニ首肯シ難ク従テ当方ニ於テハ未タ直ニ之ニ同意スルコト能ハサルニ付本件ニ関シテハ前記往電第三三〇号㈥ノ趣旨ニ依リ更ニ交渉セラルルコトト致度シ

㈡債権以外ノ請求権問題ニ関シテハ貴電第四二九号ノ㈠後段括弧内ニ所載ノ如ク先方ヲシテ西比利亜出兵ニ関シ対抗要求ヲ拋棄セシムル場合ニハ其残余ニ就キ双務的ニ規定シ将来ノ交渉ニ譲ルコトトナスモ強テ差支ナカルヘキ処其ノ場合ニハ露国側ヲシテ声明其他適当ノ方法ニ依リ右対抗要求ヲ拋棄セルコトヲ充分明確ニシ置カシムルコトヲ要スルニ付一応先方ト交渉ノ上更ニ請訓アリタシ

㈢尼港事件ノ賠償トシテハ同事件解決ニ関連シテ普通利権以上ニ特ニ我方ニ有利ナル条件ヲ以テ北樺太ニ於テ利権ヲ提供セシムルニ在ルハ川上「ヨッフェ」交渉当時ヨリノ我方針ニシテ右ハ累次ノ往電ニテ申進シタル通ナリ而シテ右賠償ノ意味合ハ貴電第三八一号㈠ノ案文ノ如ク明白ニ之ヲ記載スルヲ得ハ最モ好都合ナルモ先方ニ於テ絶対ニ之ヲ承諾セサル場合ニ於テハ必スシモ協定中ニ文字ヲ以テ之ヲ表示セシムルヲ要セス実質的ニ利権ノ条件ヲ普通利権以上ニ有利ナラシムルコトトシ裏面ニ於テ右賠償ノ意味合ヲ含マシムルコトトシ差支ナキ次第ナルニ付其ノ御含ニテ御交渉アリタシ

㈣利権ノ期限ニ関シテハ閣議決定ニ基キ九十九ケ年トシタ

ル次第ニシテ仮令客年川上公使カ五十五ケ年ニテモ可ナル旨声明セルカ如キ事実アルニセヨ右ハ我方針ニ従ヒ交渉セラレタシ

(五)利権ニ関スル条件ニ関シテハ本件利権カ前記ノ如ク飽ク迄尼港事件賠償（東部西伯利利権ハ交渉ノ成行ニヨリ対露債権ニ充当スル意味ニテ交渉スヘキコトハ往電第三三〇号(五)所載ノ通リナリ）ノ意味合ノモノタルヘキ以上単ニ北樺太ニ於テ露国ノ普通国内法ニ依ル利権ヲ得ルヲ約スルニ止マルカ如キ結果トナルニ於テハ無意味ナルヘキヲ以テ普通国内法ニ依ル利権以上ニ我方ニ特ニ有利ナル条件ニ依ラシムルヲ要スル次第ニ付累次ノ往電ニテ申進シタル通リ当方提案ニ依リ成ルヘク詳細具体的ニ取極ムル様御尽力アリタシ尚口頭ヲ以テ申入レラレタキ旨申進シタルハ貴使ヨリ直ニ文書ヲ以テ提出セラルルコトヲ差控ヘラレタシトノ趣旨ニテ簡単ニ申入ラレタシトノ義ニ非ス又先方カ右申入ニ反対スル場合ニ忽チニ之ヲ撤回セラルルコトヲ予期シ居ル次第ニアラサルニ付相当ノ論議ヲ尽サルル様致度其ノ場合先方ニ於テ之カ記録ヲ取ルカ如キコトアルモ已ムヲ得サルモノト認ム

要スルニ我方ニ於テハ利権ノ区域其他ノ条件ニ関シ基本協定ト同時ニ成ルヘク詳細且具体的ニ取極メ置キタキ希望ナル処同時ニ目下交渉中ノ案件中ニハ右利権問題以外ニモ例ヘハ尼港事件ノ謝罪、条約、債権、損害賠償、通商条約ノ大綱等ノ重要問題存スル次第ニシテ此等ニ付未タ充分ナル解決案ニ達セサルニ先チ利権ニ関スル我方要求条項ヲ提起シテ詳細ニ之カ取極ヲ求ムルトキハ却テ全般ノ交渉ヲ困難ナラシメ露国側ニ対シテハ我方カ細目ニ拘泥ストノ感想ヲ抱カシムルノ虞アリテ面白カラス之ニ反シ之カ論議ヲ前記重要諸問題ニ付大体解決案決定後ニ譲ルトキハ我方ニ於テハ既ニ爾余ノ諸問題ニ付総テ解決ヲ見タルコトヲ考慮ニ入レ得ルヲ以テ露西亜側カ我提案ニ強硬ニ反対スル場合再考ヲ加フルコト容易トナルヘク露国側ニ於テモ同様ノ考量ニ基キ多少我主張ヲ容ルルコト容易トナルヘク其ノ結果ハ双方ニ好都合ナルヘシト思考セラルルニ付其ノ意味ヲモ含メテ従来利権ニ関スル取極ハ成ルヘク後廻ハシトセラルル趣旨ニテ先ツ口頭ニテ先方ニ申入レ徐々ニ事態ヲ誘致セラルル様取計ハルルヲ得策ト認メ居ル儀ナルニ付必要ニ応シ利権問題ニ付テモ交渉セラルルコトハ固ヨリ差支ナキモ詳細ニ渉ル討議ハ成ルヘク後廻ハシトセラレ先ツ前記諸問題即尼港問題、条約、債権「クレームス」、通商条約問題等ニ付更ニ審議ヲ加ヘ漸次確定的ノモノトスル様御尽力アリタシ

(六)本交渉ニ関スル貴使御上申ノ意見ニ対シテハ固ヨリ本大臣ニ於テモ充分之ニ考慮ヲ加フルト共ニ交渉案件ノ或モノニ付テハ其ノ解決ハ相当困難ナルヘキ事情ハ充分之ヲ諒察スル次第ニシテ露国側ニ於テ飽ク迄我主張ニ反対スル点アラハ其或モノニ就テハ更ニ当方ニ於テ考慮ヲ加フルコトトスヘキ趣旨ナルニ依リ目下ノ所ニテハ前項(五)末段所載ノ諸問題ヲ解決スル為累次往電ノ趣旨ニ依リ引続キ交渉ヲ進メラルル様致度シ

三八三　五月二十九日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

北樺太ノ不割譲要求等ハ見合スコトヲ可トスル旨意見具申ノ件

（五月三十日接受）

第四三五号

貴電第三三四号ノ（乙）ニ関シ露国ヲシテ北樺太島ノ不割譲若ハ不租借ヲ約セシムルコトノ国防上望マシキコトハ本使ニ於テモ異存ナキ処ナルモ之ヲ提案スルトセハ尼港事件ニ関スル代償ト云フ以外之ヲ要求スル理由ナキヤニ存セラルル処尼港事件ニ付テハ陳謝若ハ賠償ノ意味ヲ以テ利権ノ譲与サヘ之ヲ為サシムルコト容易ナラサル今日右ノ如キ仮令之ヲ提出スルモ到底応諾セシメ得ヘカラサルハ本使ノ断言シテ憚ラサル処ニ有之況ンヤ双方ノ提案ニ付既ニ一亘リ討議ヲ終ヘタル此際ニ至リ右ノ如キ新要求ヲ提出スルコトハ仮令之ヲ固執スルノ趣旨ニアラストスルモ之カ為メ先方ヨリ反対要求ヲ為シ来ルコトモアルヘク交渉ノ全般ニ対シ甚シキ不利ノ影響ヲ及ホスノ虞アリ従テ右ノ如キ約束ヲ取付クルコト必要ナルニ於テハ露国承認後双方ノ感情良好トナルヲ待チ適当ナル機会ヲ捉ヘテ之ヲ持出スヨリ外ナカルヘシ何レノ途此際斯ノ如キ提言ヲ為スコトハ之ヲ見合セ度ニ付不悪御了察アリタシ

（欄外記入）
尤モナリ

三八四　五月三十一日(着)　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

ベッサラビア問題ニ関スル政府ノ真意御回示

アリタキ旨請訓ノ件

第四三八号
貴電第三三八号ニ関シ
帝国政府ニ於テハ露国側ニ於テ誠意ヲ示シ交渉ヲ成立セシムルニ於テハ此儘「ベッサラビヤ」条約ノ批准ヲ止メラルヘキ御決意アル次第ナリヤ実ハ単ニ一時的ニ見合ハセ居ルト言フノミニテハ「カラハン」ニ於テ何等満足セサルヘキハ明ニシテ懸引ノ為ニハ少クトモ交渉成立スルニ於テハ困難ノ事情アルニ拘ラス批准ヲ為ササルヘキ決意ヲ有スルコト位ハ言明スル必要アルヤニ存セラルルニ付本件ニ関スル政府御決意ノ次第御回示アリタシ

三八五　五月三十一日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

コミュニケ発表差支エナキ旨回訓ノ件

第三六〇号
貴電第四三一号末段ニ関シ
「カラハン」ト御打合ノ上交渉ノ進捗ニ妨ケトナラサル程度ノモノナラハ「コンミュニケ」ヲ発表セラルルコトハ差支ナシ

但引続キ会商ノ度毎ニ之ヲ発表スルコトトスルニ於テハ従来ノ例ニ顧ミルモ好シカラサル結果ヲ惹起スヘキ虞アルニ付此点注意セラレタシ

三八六　六月一日(着)　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

交渉進捗ニ関スル政府ノ訓令ニ接シ其ノ貫徹極メテ困難ナル情勢ニ鑑ミ寧ロ全権委員ヲ交代スル方可ナラズヤトノ意見開陳ノ件

第四四四号　極秘
往電第四二九号ニ対シテハ貴電第三五三号ヲ以テ縷々御申越ノ次第有之本使稟請ノ或点ニ付テハ相当御考慮ヲ加ヘラレ殊ニ其末段ニ於テハ露国側ニ於テ飽ク迄我主張ニ反対スル点アラハ其或ル物ニ就テハ更ニ御考慮ヲ加フルコトトスヘキ御趣旨ナル旨御電示有之御配意ノ次第感謝ニ堪ヘサルモ率直ニ申上クレハ貴電第三三〇号及其後屢次ノ電報ヲ以テ御訓令ノ次第ハ交渉開始ノ当時ナレハ兎ニ角一渡リ当時ノ御訓令通リ論議モ了リタル今日トナリテハ甚タ困難ナル問題ニテ交渉ヲ纏メントスル見地ヨリスレハ勿論程度ノ問題ナルモ到底持出シ難キ「スイーピング」ノ程度ノモノナル

ノ趣旨ハ已ニ貴聞ニ達シ置キタル通リナリ尚例ヘハ貴電第三五三号(四)利権ノ期限ハ是非九十九箇年トシテ交渉スヘキ趣ナルモ提出条件ニ付テハ相当之ヲ説明シ得ヘキ理由ナカラサルヘカラサルニ昨年五十五箇年ニテモ可ナル意思ヲ明カニシ置キナカラ今年ニ至リ其以前ノ状態ニ遡リテ九十九箇年ト為スニ付テハ如何ニ之ヲ説明スヘキヤ将又通商条約ニ付キ最恵国約款ヲ認ムルコトハ露国側ニ於テ之ヲ難シトスル理由アルコトハ往電第四一九号ノ通リナルニ右ニ対シテハ貴電第三五三号中ニ於テモ何等我方主張ヲ固執スルノ理由ヲ垂示セラレス本使トシテモ先方ニ対スル説明振リニ関シ当惑シ居ル次第ナリ将又撤兵期限ニ付テハ陸軍側ニ於テ建物其他ノ設備ヲ引渡ス等ノ事柄アル為少クトモ三箇月以上ノ期限ヲ必要トストノ主張ナルカ如キモ斯ノ如キハ無理ノ注文ト謂ハサルヘカラス北樺太ハ山東省ニ比シ遙カニ小ナルカ為如何ニ見積ルモ三箇月ノ必要ハナカルヘシ殊ニ結氷時期ノ速カニ来ルヘキヲ思ハハ協約調印ノ時期如何ニ依リテハ是非トモ三箇月ヲ其以下ニ短縮スル必要アリ就テハ何卒之等ノ点ニ付御垂示ヲ賜リタシ失礼乍ラ率直ニ申上クレハ御訓令ノ次第ハ非常ニ無理ト思ハルルモ兎ニ角御命令ナルト又閣下ノ御苦心ヲ拝察シ兎ニ角五月三十一日午後「カラハン」ニ会見シ先ツ債権問題ヨリ始メテ北樺太利権問題ニ及ヒ特ニ用意シ置キタル粗末ナル地図三枚ヲ示シテ説明シタル処果シテ「カラハン」モ驚キタル模様ニテ其ノ感想ヲ述ヘタルニ付御訓令ノ趣旨ヲ体シテ極メテ慎重ニ折衝シタルカ為本日ハ先ツ停頓ヲ見ルニ至ラサリシカ今後ノ会見ニ於テ追々詳細ナル提議ニ及ヘハ同人モ茫然タルニ至ルヘシ甚タ遺憾乍ラ今回ノ基本協定ノ商議モ到底蹉跌ノ運命ヲ免カレサルヘシ本使ニ於テモ全ク成算ヲ有セス本使ニ於テハ如何ナル程度迄閣議通リ貫徹スヘキモノナルヤヲ承知セサルモ兎ニ角其ノ大部分ヲ遂行セラルル御趣旨ナリトセハ本使ノ微力到底斯ノ如キ重任ニ堪ヘサルニ付至急適当ナル全権委員ヲ選派セラレ本使ト交代セシメラレンコトヲ請フ

三八七　六月二日(着)　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

御来電ノ回答案ヲカラハンニ手交シ会談セシ模様報告ノ件

第四四七号　極秘

往電第四四四号ニ関シ

五月三十一日会議ノ要領左ノ通リ

第一　貴電第三四三号御来示ノ回答ヲ英文ニ認メ本使之ヲ「カラハン」ニ手交セルニ深ク感謝ノ意ヲ表シ右ハ特ニ莫斯科ニ電報スヘシト述ヘタリ

第二　債権問題

本問題ニ関シ其後先方ニ於テ考量セル結果如何ヲ質シ日本政府トシテハ all other 云々ノ文句ニ付未タ十分納得シ得サル所アリ寧ロ之カ撤回ヲ希望スルモ強ヒテ之ヲ必要トスル次第ナラハ文書ヲ以テ的確ナル説明ヲ提出セラレタキ旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ本問題而已ナラス其他ノ問題ニ付テモ日本政府ノ意向ヲ承知シタシト答ヘ本使ハ債権問題ニ付協定ヲ遂ケ得ルニ至ラハ尼港問題ニ付テハ我方希望ニ副フ様努力スヘキ旨言明ノ次第モアリ先ツ以テ債権問題ノ審議ヲ遂ケンコトヲ主張セルニ「カ」ハ重ネテ問題ノ全般ニ亘リ日本側ノ意見ヲ知ルニアラサレハ何トナク不安ノ感ヲ免カレスト為シ尚二、三押問答ヲ重ネタル結果「カ」ハ債権ニ付テハ条文上ハ之ヲ請求権ト区別スルニセヨ要スルニ両者ハ併セ考フヘキモノナルコト依然露国側ノ主張ナルモ

all other 云々ノ文句ニ関シテハ詳細ナル説明ノ文書ヲ次回会見迄ニ準備スヘシト答ヘ本使ヨリ再応我方ニ於テハ露国側ノ債権ナルモノヲ認メ得サルカ故ニ之ヲ片務的規定ト為シ個人ノ請求権ハ之ヲ後日ノ商議ニ譲ラントスル趣旨ヲ説明シ右先方約束ノ説明文書ヲ見タル上改メテ審議スルコトトセリ

第三　利権問題

本問題ニ関シ「カ」ハ頻リニ我方準備ノ結果ヲ推問シテ已マサリシカ本使ハ本件ニ関シテハ此際成ルヘク詳細ノ取極ヲ為シ置クヲ必要トスル次第ハ従来屢々説明セル通リニシテ殊ニ北樺太ニ付テハ東部西比利亜ニ比シ出来得ル限リ詳細ニ取極メタキ希望ヲ有スル処細目ニ付テハ尚政府ト打合セ中ナリト答ヘタルニ「カ」ハ将来実際日本政府若クハ邦人ニ利権ヲ供与スル場合ニハ詳細ノ点ニ亘リテ規定ヲ為スヘキコト勿論ナルモ基本協定中ニ細目ニ亘ル規定ヲ設クルコト事実上不可能ナルハ已ニ度々説明セル所ナリ又北樺太ト東部西比利亜トニ付区別的規定ヲ為サントスルカ如キハ殊ニ面白カラス只単ニ後日ノ参考トシテ日本政府ノ有スル最大限度ノ希望ハ如何ナルモノナリヤト尋ヌル所アリ本使ハ

此際両国間ニ出来得ル限リ詳細ノ協定ヲ遂ケ置クニアラサレハ後日紛糾ヲ生スルノ惧アルニ依リ単ニ利権ノ種類而已ナラス其地域条件等ニ付キ成ルヘク詳細ナル規定ヲ設ケタキ趣旨ナルコトヲ反覆シ北樺太ニ於ケル利権中此日ノ会見ニ使用センカ為メ特ニ油田炭田及森林ノ三種ニ付キ簡単ニシテ余リ先方ノ神経ヲ刺戟セサル様各別ニ作製セル三葉ノ地図ヲ以テ利権別ニ我方要求ノ大体ヲ示シ其詳細ニ付テハ後日追テ説明ヲ加フルコトトスヘキ旨ヲ告ケタリ右ニ対シ「カラハン」ハ地域ニ付テハ労農政府ハ露西亜全土ニ亘リ日本ニ対シ利権ヲ提供スヘシト云フニ在ル処斯ノ如ク特定ノ地域ヲ指定シテ要求セラルルハ自分ノ頗ル意外トスル所ナリ斯クテハ会議ノ成功モ極メテ困難トナレル印象ヲ得タリ尤モ日本側ヨリノ詳細ノ申出ヲ承知シタル上ニアラサレハ兎角ノ意見ヲ述ヘ難キ次第ナルモ自分トシテハ日本ノ斯クノ如キ要求ニ対シ政府ノ名ニ於テ審議ヲ得ヘキヤ否ヤモ疑問ナリ元来莫斯科ノ意見ハ日本ノ有セサルモノハ進テ提供セントスルニ存シ殊ニ石油ノ如キハ之ヲ日本ニ与フル考ニテ将来専門家ヲシテ具体的取極ヲ為サシムル方針ナリシ処目下専門的資料ヲ有セサル当方ニ於テハ果シテ利権ヲ許容

シ得ヘキ地域ナリヤ否ヤ将又其地区ノ価値ニ応シ条件ヲ定ムルカ如キ当然必要ナル審議ヲ行フヲ得ス尚又条件ニ付テハ日本人而已ニ有利トスルカ如キハ将来トモ到底不可能ニ付予メ御承知置キアリタキ旨極メテ真面目ナル態度ヲ以テ述ヘタリ依テ本使ヨリ恰モ貴下説明ノ如ク利権ヲ許容シ得ル地方ト然ラサル所モアリトノ事ナルヲ以テ後日専門家ヲシテ商議セシムルカ如キ場合種々ノ紛議ヲ生スヘキヲ慮リ此際基本協定ノ取極メト共ニ出来得ル限リ詳細ノ規定ヲ設クルヲ必要トスル次第ニシテ単ニ油田炭田ト云フカ如キハ余リニ空漠ナリ依テ緯度並里数等ニ依リ地域ヲ明カニシ置クハ後日ノ紛議ヲ鮮ナカラシムル所以ナルヘキヲ反覆説明シ何レ詳細ノ点ハ追テ審議スルコトトスヘシト告ケ置キタリ

第四　条約問題

本使ヨリ「ポーツマス」条約ハ其儘存置シ置クコト本使従来ノ主張ナル処右ニ対シテハ露国側ニ於テモ異存ナキ様ナルニ付テハ其以外ノ条約ト一括シテ改メテ一個ノ条文案ヲ作成セル旨ヲ告ケ貴電第三三九号御来示ノ第七条ヲ「カ」ニ提示セリ右ニ対シ「カ」ハ第二項中ニハ秘密条約モ含マ

レ居ル次第ナリヤト質セルニ付本使ヨリ其点ニ付テハ「変化セル事態ニ従テ」ナル文句ニ留意セラレタシト注意シタルニ「カ」ハ「ポ」条約以外ノ条約ハ労農政府ノ主義ニ基キ已ニ消滅セルモノト看做シ居レリ殊ニ通商条約ハ「ケレンスキー」時代ニ消滅セルモノナル処日本側ニ於テハ右第二項ニ依リ具体的ニ果シテ如何ナル条約等ヲ予想シ居ル次第ナリヤ其目録ヲ提示セラレ間敷キヤト述ヘタルカ本使ハ右第二項ハ将来改訂ノ際ニ於ケル根拠ヲ必要トセル趣旨ニシテ此点ハ嘗テ説明シ置キタル所ナリト指摘セルモ猶「カ」ハ既成事実ト云フモ「ポ」条約以前ニ如何ナルモノアリヤ了解シ得サルヲ以テ改訂ヲ要スル協約等ノ目録ノ提示ヲ重ネテ要求スル処アリ依テ本使トシテモ「ポ」条約以外ニ個個ノ既成事実トシテ如何ナルモノアリヤヲ詳ニセサル処要スルニ右第二項ハ通商条約ト同シク其他ノ条約等ニ付テモ将来改訂ノ際ニ於ケル根拠ヲ設ケ置クノ趣旨ニ外ナラスト反覆説明セルニ「カ」ハ夫レモ一策ナルヘキ処自分トシテハ用心スルコトモ必要ナリ且今回ノ案ハ五月十六日ノ貴公使ノ提案トモ大部違フ様ナリト呟キ更ニ本使ヨリ既成事実トシテノ条約ナルモノナク条約協約等ノ結果トシテ生ゼル

事実ヲ考慮ニ加フル必要アリトノ意味ナリト述ヘ結局先方ニ於テモ日露間ノ各条約等ニ付一応研究シ置クコトトセリ

第五　終リニ本使ヨリ債権問題解決ノ緊要ナルコトハ露国側ニ於テ最モ本問題ヲ重要視シ従テ其解決ヲ見ルニ於テハ我方ノ殊ニ重要視スル尼港問題ノ解決ニ着手シ得ヘキヲ期待セルカ為ナル処尼港問題ニ関スル我方主張ハ要スルニ文書ヲ以テスル陳謝及賠償ノ意味ヲ以テスル利権ノ提供ナル二要素ヨリ成リ帝国政府ヨリモ屢々当初ノ主張貫徹方本使ニ訓令ノ次第モアリ成ルヘク速カニ本問題ノ討議ニ移リタキ旨ヲ主張シタルニ「カ」ハ難問タル債権問題解決セハ最モ難関タル尼港問題ノ討議ニ移リ得ヘシトノ考ナリシモ尚大使館移転問題撤兵期限「ベッサラビア」問題ニ付テモ日本政府ノ意向ヲ承知セス殊ニ今日貴公使ヨリ概念ヲ与ヘラレタル利権問題ニ付テハ実ニ一驚ヲ喫シタル処ニシテ債権問題以上ノ難問ニ遭遇シタリ従テ今後更ニ日本側ヨリ続々如何ナル要求ヲ提起シ来ラストモ限ラス誠ニ不安ニ堪ヘスト述ヘ本使ヨリ重ネテ成ルヘク速カニ尼港問題ニ関スル露国側ノ意向ヲ承知シタシト応酬シ会見ヲ了レリ

第六　尚当日会見ノ初メニ「カラハン」ハ過日某日本通信員ヨリ余リ交渉ノ前途ヲ楽観スヘカラストノ注意ヲ受ケタルカ自分ハ楽観モ悲観モシ居ラス答ヘ置キタル旨ヲ語リ居リタリ

三八八　六月二日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

北樺太不割譲ニ関スル我方提案ニ関スル件

第三六六号

貴電第四三五号ニ関シ

北樺太等ノ不割譲又ハ不租借ヲ約セシムルノ提議ハ貴電第三七六号第二項中「カラハン」カ先方提出協定案第七条ニ対スル説明ニ於テ該条項ニ依リ露国カ他国ト実際日本ノ脅威トナルカ如キ約定ヲ為スコトヲ防止シ得ヘシト述ヘタル意思ヲ具体化スル方法トモ見ルヲ得ヘク無論先方ハ貴電第三八二号所載ノ通リ双務的ニ之ヲ規定シタキ趣旨ナルヘキモ既ニ先方ヨリ前記ノ如キ説明ヲナシタル事実アルヲ以テ交渉中適当ナル機会ニ於テ貴官ヨリ本件ヲ提議セラルルモ差支ナカルヘシト思考スルニ付右様取計ハレ度シ尤モ右ハ先方ノ感情等モ考慮ニ加ヘ双方主要問題ニ付協定ヲ遂ケタル後ニ之ヲ提議セラルルコトハ差支ナシ

三八九　六月三日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

諸事打合セノタメ一時帰朝方稟請ノ件

第四五一号　至急

往電第四四四号末段ニ関シ

折角御配慮中ト思考セラルルモ其結果万一交渉継続ノコトトナルニ於テハ

第一　現在ニテハ北樺太利権ニ関スル御訓令ノ儀ハ漸ク先方ニ絵図ヲ示シタル程度ニ止マルモ今後追々細目ニ進ムニ於テハ陣立ノ立直シ等益々困難トナルヘク

第二　日露交渉ヲ纏メシテ可ナルモノナラハ兎ニ角日本ニ相当有利ナル話合ナラハ纏ムル方得策ナリトセハ帰朝ノ点ト北樺太撤兵トノ関係上成ルヘク早ク之ヲ纏ムル必要アリ然ルニ政府ノ御意見ト出先ニ於ケル本使ノ意見トノ間ニ多大ノ距離アリテハ甚タ遺憾千万ナル処電信ノ往復ニテハ時日ヲ費スノミニテ甚タ心許ナク旁々親シク閣下ヲ初メ政府当局御意見ノ次第ヲ承リ又愚見ヲモ開陳シテ我陣立テ確定スルコト急務ナリト思考スルニ付御異存ナクハ往復約二週間ノ予定ニテ本使ニ帰朝ヲ命セラレタ

ク右御認可ヲ得ハ島田領事同伴直ニ出発スヘシ

三九〇　六月三日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

帰朝スルコトナク引続キ交渉ニ従事サレタキ旨及ビ利権ノ期限其ノ他ニ付キ弾力的態度ヲトルモ差支ナキ旨訓電ノ件

第三六八号　至急極秘

貴電第四四四号並四五一号ニ関シ

一、利権ノ期限ニ関シテハ昨年ノ非公式予備交渉ノ際ニモ五十五ケ年ヲ似テ満足シタルモノニアラスシテ已ムヲ得サル場合ニハ右ニ依ルノ外ナシトシタル次第ナリ従テ今次交渉ニ於テモ先方ニシテ尼港事件ニ対スル謝罪其他ニ関スル非公式予備交渉ノ話合ヒヲ承諾スル場合ニハ本件利権ノ期限ニ付露西亜側ニ異存アレハ再考ノ余地アリ

二、通商条約中ノ最恵国約款問題ニ関シテハ貴電第四一九号ニ依レハ「カラハン」ニ於テ兎ニ角更ニ考究スヘキ旨ヲ答ヘ居ル次第モアルニ付当方ニテハ「カラハン」ヨリ考究ノ結果ニ付申出テアルヲ予想シ居ル次第ナリ尚本問題ニ対スル我方詳細ノ意向ハ別ニ電報スヘシ

三、撤兵期限ニ付テハ建物其他ノ設備ヲ引渡ス等ノ為ニ三ケ月トシタル次第ニアラスシテ北樺太ニハ各所ニ軍隊駐屯シ居レルヲ以テ之ヲ全部亜港ニ引揚ケシムルニハ相当ノ時日ヲ要スルノミナラス右人員及持返ルヘキ物件ノ輸送ニハ多大ノ困難アリ即チ貴使限リノ御含迄ニ申進スル次第ナルカ亜港ハ港湾狭小ニシテ輸送船ハ漸ク一隻ツツ入港シ得ルニ過キス加之設備不完全ニシテ兵員其他ノ積込ハ一々艀舟ヲ似テセサルヘカラサル事情アリ此等ノ時日ヲ要スル次第ナリ

右様ノ次第ニシテ当方訓令ハ必スシモ無理ヲ要求セル儀ニハアラス尤モ本交渉カ極メテ困難ナル点アリ貴官ニ於テモ不尠御苦心ノ事情ハ本大臣ニ於テモ充分之ヲ諒察シ居ル次第ナルモ折角此処迄尽瘁セラレタルコトナレハ此際ハ帰朝セラルルコトナク今後トモ引続キ交渉ヲ進メラレ殊ニ往電第三五三号末段所載ノ趣旨ニヨリ先ツ纏マリ付キ易キモノヨリ漸次話ヲ纏メラレ以テ徐々ニ交渉ノ成功ヲ齎ス様此ノ上共御尽力アリタシ

三九一　六月三日　松井外務大臣ヨリ在英国林大使、在米国埴原大使、在奉天船津総領事宛（電報）

北京会談ノ交渉経過ニ関シ関係公館ニ通報ノ件

合第一六六号

日露交渉ニ関シテハ「ヨッフェ」ニ代リ北京ニ来レル「カラハン」ヨリ客年九月二十二日芳沢公使ニ対シ交渉開始ニ関スル帝国政府ノ意向ヲ承知シタキ旨申出テ来レルモ我方ヨリハ回答ヲ為スノ運ヒニ至ラサリシ処本年二月同公使ニ対シ「カラハン」ト会見シテ日露間重要諸問題ニ関スル先方ノ意見ヲ突止ムヘキ旨訓令シタル結果爾後両者間ニ意見ノ交換ヲ重ネタルカ右会談ハ浦潮ニ於ケル邦人拘禁事件等牽連セル為遅々トシテ進捗ヲ見サリシ処五月五日ニ至リ露国側ヨリ相互全権委任状ヲ交換シテ交渉センコトヲ提議シ且我方ニ於テ之ヲ承諾セハ交渉ハ充分積極的結果ヲ齎ラスノ望アル旨申出テ来レルヲ以テ我方ニ於テハ先方ノ希望ヲ容レ芳沢公使ニ日露修好通商等ニ関スル事項ニ付商議ヲ為シ取極ニ調印スルノ全権ヲ付与シ大体㈠尼港事件ニ付テハ文書ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表セシメ且右賠償ノ意味合ヲ以テ北樺太其他ニ於テ特ニ有利ナル長期利権ヲ許与セシムルコト㈡「ポーツマス」条約ハ其ノ儘効力ヲ認メシメ㈢債権問題ニ付テハ已ムヲ得サル場合ニハ北樺太及東部西比利亜ノ重要利権ヲ無償又ハ有利ナル条件ニテ提供スルニ於テハ尼港事件ノ賠償ト一括シテ我方ヨリハ之ヲ請求セサルコトトスルカ又ハ本件処理上我方ヲ第三国ニ比シ不利益ナル地位ニ置カサルコトヲ約セシメテ後日ノ協議ニ留保スヘク㈣個人損害賠償問題ニ付テモ場合ニヨリテハ同様ノコトヲ約セシメテ後日ノ協議ニ留保シ差支ナク㈤通商航海条約ノ大綱トシテ生命財産ノ安全ヲ成ルヘク広ク通商及産業ノ自由ノ保障及最恵国待遇ヲ約セシムヘク㈥互ニ宣伝行為ヲ為ササルヲ約スヘク以上諸項ニ関スル取極成立セハ撤兵及正式承認ニ同意シ差支ナシトノ趣旨ニテ交渉セシムルコトトシ五月十四日ヨリ正式交渉ヲ開始スルニ至レルカ翌十五日「カラハン」ハ日本側ノ意向及莫斯科側ノ一般的見解ヲ考量シ試ニ作成セリトテ大要㈠協約調印ト同時ニ外交及領事関係ヲ樹立スルコト相互大使館領事館其他国有財産ノ引渡㈡調印後二週間内ニ北樺太撤兵㈢外交関係回復後通商条約ノ締結㈣露国領土内殊ニ東部西比利亜及北樺太ニ於ケル鉱産森林等開発利権ヲ日本臣民及法人ニ許与スルコト㈤外交関係回復後直ニ「ポーツマス」条約及一九〇七年ノ漁業協約ニ依

リ規定セラレタル条件ニ依リ漁業協約ヲ締結スルコト(六)将来ノ会議ニ於テ相互ノ国家及個人ノ「クレームス」及債務（尼港事件ニ関スル日本ノ要求ヲ含ム）ノ問題ヲ討議シ公正ニ之ヲ解決スルコト(七)第三国トノ条約協定ニシテ他ノ一方ノ主権領土権ヲ侵害シ又ハ其ノ安全ノ脅威ヲ為スモノハ本協約調印ト共ニ互ニ之ヲ無効トシ同時ニ此種条約ヲ将来締結セサルコト(八)互ニ国家的主権ヲ尊重シ内政干渉殊ニ煽動、宣伝及一切ノ干渉並此等ノ援助ヲ為サス他方ニ敵対スル団体ヲ設ケ又ハ支持セス之カ為領土内ニ斯カル団体其ノ手先又ハ機関ノ滞在ヲ許ササルコトトノ趣旨ノ協約案ヲ提出セリ而シテ同日以後ノ交渉ニ於テ露国側ハ条約問題ニ就テハ「ポーツマス」条約ハ其儘効力ヲ認ムルモ差支ナキ意向ヲ洩セルモ尼港事件陳謝ニ付テハ一年前ト異ナリ国内情況変化ニ依リ労働者農民等ヲ納得セシムルコト不可能ナル状態トナレリトテ之カ承諾困難ナルヲ主張シ利権ニ付テハ協約中ニハ区域ヲ前顕ノ通漠然北樺太又ハ東部西比利トシ油田、炭田、鉱山等ノ種類ヲ掲ケ協約締結六ケ月内ニ日本当業者ト利権ニ関スル具体的協定ヲ結フ旨ノ規定ヲ置ケハ可ナルヘシト述ヘテ我方ノ主張スル区域期限其他ノ条件ヲ成ルヘク詳細具体的ニ取極ムルコトハ之ヲ困難トスル意向ヲ洩ラシ通商条約締結ノ大綱方針トシテ一般的ニ最恵国待遇ヲ保障スルコトニモ極力反対シ第三国トノ条約ノ例トシテ「ベッサラビヤ」条約ノ批准中止ヲ要求シ居リ更ニ債権問題ニ就テハ之ヲ重要視シ此際之ヲ露国ノ希望スル様片付クルヲ得ハ尼港事件ニ関シ日本側希望通リ政府ニ稟請スヘシト述ヘ我方ヨリ「日本ニ対スル債務問題ニ関シテハ之ヲ将来ノ商議ニ於テ決定ス但シ労農政府ハ我方ニ対シ他ノ何レノ第三国ヨリモ不利益ナル待遇ヲ与ヘサルヘシ」トノ提案ヲ為セルニ対シ「カラハン」ハ(イ)国家及個人ノ債権及請求権問題ト修正シ且相互的規定トスルコト(ロ)第三国ニ比シ不利益ナラサル保障ニ関シテハ伊太利及瑞典トノ例ニ倣ヒ「他ノ総テノ条件ニシテ同様ナラハ」ナル文句ヲ加フルコトヲ主張シ要スルニ西比利亜駐兵ニ由ル先方対抗要求ヲ維持シ債務、私有財産其他ノ損害賠償問題ヲ一括シテ之ヲ支払ハサルノ意向ヲ示シ種々論議ヲ重ネ居ルモ未タ意見ノ一致ヲ見ス以上諸問題其他ニ付テハ尚引続キ交渉中ナリ右内密ノ御参考迄電報ス

（在英大使ヘハ）在欧各大使及公使ヘ転電アリタシ

（在奉天総領事ヘ）哈爾賓、天津、上海ヘ転電アリタシ

三九二　六月四日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

英文協定草案ニ対スル修正案ヲ三毛中佐ニ託送セル旨通報ノ件

第三七二号

一、宮川携帯ノ英文日露協定草案ニ対シ其後当方ニ於テ修正ヲ加ヘタルモノヲ四日当地出発朝鮮経由九日午前貴地着ノ予定ナル三毛中佐ニ託送セリ

尤モ右ノ内或モノハ未タ確定案ニハアラサルニ付交渉ノ進行ニ応シ更ニ電報スヘキニヨリ此点御含置アリタシ尚右修正中差当リ必要ト認メラルル条文ノミ不取敢別電第三七三号ヲ似テ電報ス

二、尚尼港事件ニ関スル陳謝ヲ付属公文第一（陳謝文案ハ尚考究ヲ要スルモ御参考迄一応電報ス）ニ移シタルハ露国側ニ於テ協定中ニ之ヲ記載スルヲ困難トスヘキヲ考量ニ入レタル結果ニ外ナラス従テ右ニ関連シテ北樺太撤兵ニ付テモ成ルヘク之ヲ同様ニ「ノート」ヲ以テ取極ムルコトニ取計ラハレタシ

三、又批准ヲ要スルコトトシタルハ此種協定ハ手続ヲ慎重ニスルヲ適当ト認ムルノミナラス「カラハン」ノ委任状ニハ批准ヲ要スルコトトナリ居リ且露国憲法ノ規定ニ依ルモ此種内容ノ取極ハ批准ヲ要スルモノト思考スルカ故ナリ但シ撤兵時期ノ関係其他ニ鑑ミ我方ニ於テモ批准交換期ハ出来得ル限リ迅速ナラシムルコトトシ且北京ニ於テ之ヲ行フモ差支ナキ意向ナリ

三九三　六月五日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛

東部シベリアニ於ケル利権獲得ニ関シ両案作成ニ付キ送付ノ件

欧一機密第一一三号

大正十三年六月五日

松井大臣

在支　芳沢公使

樺太以外ノ東部西伯利亜ニ於ケル利権ニ関スル件

露国側ニ於テ債務ノ代リニ利権ヲ提供スルコトヲ承認スルコトトナル場合ニ対スル参考トシテ北樺太以外東部西伯利亜ニ於ケル利権ニ付キ別添（編註　第二案見当ラズ）（第一案及第二案）作製シタル

ニ依リ左記注意ト共ニ右及御送付候也

左　記

一、北樺太以外東部西伯利亜ニ於ケル利権ニ付テハ調査資料ニ乏シキノミナラス条件等ハ北樺太ノ利権ニ関スル交渉ノ落着ヲ参酌スル必要アリ殊ニ露国側カ債務ノ代リニ利権ヲ提供スルコトヲ承諾スル場合ニハ如何程ノ利権ヲ提供セムトスル意向ナリヤヲ懇談的ニ突止ムルヲ適当ノ方法ト認ムルニ付キ其ノ場合本件獲得案ヲ念頭ニ置キ露国側ト交渉ヲ試ミラルルコト然ルヘシ尚当方ニ於テハ必スシモ列記ノ各利権全部ヲ問題トスルニハアラス先方ノ意向如何ニヨリテハ其ノ中ノ或ルモノ例ヘハ旧沿海州ニ於ケル森林、炭坑其ノ他ノ鉱山及農業経営等ノミヲ選択シ取纏ムルモ一案ナリト思考ス

何ノ途本件交渉進行スルトキハ先方ノ意向ヲモ具シ請訓セラレタシ

二、別添中第一案ト第二案トアル処当方トシテハ此ノ際利権ノ地域ヲモ大体画定シ置クヲ得ハ第一案ヲ可トスルモ対岸利権ニ付テハ北樺太ニ比シ利権ノ調査不充分ナルノミナラス此ノ方面ノ利権ニ付テハ外国人ノ利害関係等モ一層慎重ニ考量ニ容ルル必要モアリ旁々露西亜側ニ於テ此際地域ノ明記ヲ困難トスル事情アルニ於テハ第二案ニ依ルモ不可ナシ

三、本案添付ノ条件ハ大体北樺太利権ニ関スルモノヲ援用シタルモ北樺太ノ場合ト事情ヲ異ニスル次第モアリ多少条件ヲ変更セル点アリ

(イ)露国側ニ提供スヘキ純収益ノ歩合ヲ百分ノ十ト為セリ（本文）

(ロ)付属議定書丙第二条件一ハ北樺太ノ場合ノ之ニ該当スル部分ト多少異ル処アリ

(ハ)第一案付属議定書丙五、六（第二案ニハ六ヲ省略セリ）ハ北樺太ノ場合ト多少字句ノ相異アリ

(ニ)対岸ノ利権ニ付テハ場合ニ依リ日露合弁案ヲ採用スルモ可ナリト認メ右ニ関スル条項ヲ挿入シ置キタリ

(ホ)対岸ノ場合ニ付テハ農業利権ヲ加ヘタリ

四、第一案ト第二案トノ差

(イ)前途ノ如ク第二案ニ於テハ地域ノ決定ヲ本協定署名後ニ延期セリ

(ロ)第二案ニ於テハ第一案付属議定書丙第二条件六ヲ省略セリ

(ハ)農業ニ関スル地域ニ付テハ第二案ニ於テハ別ニ地域ヲ決定セス東部西比利亜全部ト為セリ

五、尚注意ヲ要スルハ農業利権ニ付テハ第一案第二案共露国政府ヨリ直接日本臣民ニ該利権ヲ提供セシムルコトト為セル点ナリ

此ノ点ハ油田、鉱山、森林等ニ関スル利権ヲ一応日本政府ニ提供セシムルコトト為セルト異ル

第一案

「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ東部西比利亜ニ於テ付属議定書丙ニ於テ石油、石炭其ノ他ノ鉱物及森林ニ関スル富源開発ノ権利ヲ本協定実施ノ日ヨリ九十九年間付属議定書丙ニ記載スル条件ニ依リ日本帝国政府又ハ日本帝国政府ノ特許スル日本会社、組合又ハ日本臣民ニ許与スルコトニ同意シ日本帝国政府又ハ日本帝国政府ノ特許スル日本会社、組合又ハ日本臣民ハ右開発企業ノ純収益ノ百分ノ十ヲ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニ年々支払フヘキコトヲ約ス

本協定ノ効力発生以前ニ於テ露西亜国国民又ハ別国ノ政府

若ハ国民カ前記地域ニ関シテ有スル一切ノ権利及利益ニシテ前項ノ規定ト抵触スルモノニ対シテハ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニ於テ一切ノ責任ヲ負担シ日本帝国政府又ハ日本帝国政府ノ特許スル日本会社、組合又ハ日本臣民ニ於テハ何等ノ義務ヲ負ハサルモノトス

「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ東部西北利亜ニ於テ付属議定書丁ニ記載スル地域内ニ於テ農業（牧畜ヲ含ム）ヲ経営スルノ権利ヲ本協定実施ノ日ヨリ九十九年間付属議定書丁ニ記載スル条件ニ依リ日本帝国臣民ニ特許スルコトニ同意シ日本帝国臣民ハ企業ノ純利益ノ百分ノ十ヲ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニ年々支払フヘキコトヲ約ス

付属議定書（丙）

本日締結シタル日露修好ニ関スル協約ニ調印スルニ当リ同協定第　条ニ関シ下ニ署名セシ全権ハ左ノ如ク協定セリ

第一　地域又ハ場所

（甲）鉱山、炭田、油田

一、蘇城炭坑ノ鉱業権

二、「チュテイヘ」地方ニ於ケル鉛、銀及亜鉛鉱山ノ鉱

業権

三、沿海州「オリガ」、「ウラジミル」湾及「ワイフジン」河付近ニ散在スル鉄山ノ鉱業権

四、「オホーツク」海ニ注ク「コリ」河沿岸、「アムグン」河及黒龍江沿岸並両河ノ支流タル「チリカ」河、「ウヅイルビツシ」、「アリヨール」、「チリカ」諸湖付近ニ散在スル砂金地、炭田其他ノ鉱山ノ鉱業権

五、「アヤン」、「オラ」、「ギジカ」諸河流沿岸及「ウダ」河、「デヤナ」河、「ネムキ」河、其他「ウードスカヤ」湾ニ注ク諸河沿岸ノ油田、砂金地其ノ他ノ鉱業権

六、「セレムジヤ」河、「ゼーヤ」河、「ブレヤ」河、「ビラ」河及「ブレヤ」河口ト「ビラ」河口トノ間ニ於テ黒龍江ニ注ク諸川並其ノ支流ノ流域ニ於ケル砂金地其ノ他ノ鉱山ノ鉱業権

七、「シルカ」河、「モーゴチヤ」河及其支流（後貝加爾州「ネルチンスク」郡）ノ付近ニ散在スル砂金地其ノ他ノ鉱山ノ鉱業権

八、「ペトロパウロフスク」郡（「カムチャッカ」半島）ニ於ケル油田、炭田其ノ他ノ鉱山ノ鉱業権

（乙）森林

㈠　烏蘇里河流域ノ森林

(イ)烏蘇里河支流「ダウビヘ」川流域森林

(ロ)烏蘇里河支流「ウラヘ」川流域森林

(ハ)烏蘇里河支流「イマン」川流域森林

(ニ)烏蘇里河支流「ビキン」川流域森林

(ホ)烏蘇里河支流「ホール」川流域森林

㈡　沿海県「キジ」「カダ」湖付近森林

㈢　沿海州東海岸地方即「シホタリーン」山脈以東ノ区域

㈣　黒龍江流域「ソフィスク」ノ北方「ブリサ」村以北同河河口ニ至ル流域一帯、「チリカ」湖付近

㈤　「アムグン」河流域

㈥　「ウダ」河流域及「マイヤ」河流域地帯

第二　条件

一、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ日本帝国政府又ハ日本帝国政府ノ特許スル日本会社、組合又ハ日本臣民カ東部西比利亜ニ於テ自由ニ石炭、石油及鉱石ヲ採掘、精煉及精製シ又木材ヲ伐採造材シ此等ノ企業ニ関連スル機械的及化学的工業ヲ営ミ並此等各種生産品ヲ自由ニ販売其ノ他ノ処分ヲ為スニ異存ナシ

二、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ本企業並付帯事業ニ必要ナル範囲ニ於テ交通、衛生、教育其ノ他ニ関スル企業者ノ施設ヲ認許シ且右ニ対シ有効ナル便宜及援助ヲ供与スヘシ

三、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ本件企業及付帯施設ニ必要ナル労働者ノ使用ニ付左ノ通リ約諾ス

一、労働ノ組織及労働者ノ雇傭ニ関スル一切ノ事項ニ付テハ企業者ノ自由タルヘシ但シ各種企業ニ使用セラルル労働者ノ約三分ノ一迄ハ露西亜国国民ヲ使用スルコトヲ希望ス

二、賃銀ノ制定並勤務及休暇規定ハ労働法ノ適用ヲ受ケサルコトヲ得

三、本件各種ノ企業ニ対シテハ労働保険ノ強制的適用ヲ免除スヘシ

又ハ

三、(ママ)日本帝国政府又ハ日本帝国政府ノ特許スル日本会社、組合又ハ日本臣民カ東部西比利亜ニ於テ本企業及付帯

施設ノ為ニ使用スル人員ノ国籍ニ関シテハ何等ノ制限ヲ設クルコトナカルヘク又「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ労働ノ管理及組織ニ関シ何等ノ干渉ヲナスコトナカルヘシ

四、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ本企業及付帯施設ニ対シ其ノ名称ノ如何ヲ問ハス一切ノ課金ヲ免除ス

五、日本帝国政府又ハ日本帝国政府ノ特許スル日本会社ハ其ノ名称ノ如何ヲ問ハス何等ノ課金ヲ課セラルルコトナクシテ自由ニ企業ノ生産物、企業及付帯施設ニ必要ナル一切ノ物件（牛馬ヲ含ム）及物資ヲ輸入シ又ハ輸出スルコトヲ得

六、日本船舶ハ本企業及付帯施設ノ為日本国及其ノ他ノ地方ト露西亜国トノ間及露西亜国各港間ヲ自由ニ往復シ何等ノ課金ヲ課セラルルコトナクシテ企業ノ生産物、企業及付帯施設ニ必要ナル人員物件及物資ヲ運搬スルコトヲ得

七、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ本企業及付帯施設ノ経営ヲ容易ナラシムル為有効ナル便宜及援助

ヲ供与スヘク且右ニ対シ支障トナルヘキ措置ヲ執ラサルコトヲ約ス

八、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニ於テ前掲各種ノ企業ニ付若シ露西亜国国民ト日本帝国臣民又ハ会社トノ合弁経営ヲ希望スルニ於テハ日本政府ハ本協定第　条及本議定書ノ規定ニ拠ルノ外更ニ左記ノ条件ニ依リ之ヲ承諾スヘシ

(イ)合弁ノ会社又ハ組合ハ日本国法ニ依リ組織セラルルモノトス

(ロ)露西亜国側ノ出資ハ合弁資本総額ノ百分ノ三十ヲ超加スルコトヲ得ス会社又ハ組合ニ於テ増資スル場合又同シ

(ハ)本件各種利権（油田、鉱山、土地等）ノ価値ヲ露西亜国側ノ出資ト為サス

(ニ)合資会社ノ株式又ハ組合ノ持分ヲ譲渡シ又ハ株式ヲ担保ニ供スル場合ハ夫々日露両国政府ノ認許ヲ得ルコトヲ要ス

(ホ)会社又ハ組合ノ利益ハ其ノ出資額ニ応シテ分配ス

(ヘ)会社又ハ組合ノ役員及表決権等ノ配分ニ於テモ総テ出資ノ割合ニ応スルモノトス

九、前記各項ニ定ムル以外ノ諸点ニ付テハ本協約実施後六ケ月以内ニ日露両国政府ノ代表者ニ於テ之ヲ協定スヘシ

付属議定書　（丁）

本日締結シタル日露修好ニ関スル協約ニ調印スルニ当リ同定協第　条ニ関シ下ニ署名セシ全権ハ左ノ如ク協定セリ

「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ日本帝国臣民ニ特許スヘキ農業（牧畜ヲ含ム）経営ノ利権ニ関シ本協定付属議定書丙ニ掲クル条件ノ各項ヲ準用スルノ外左ノ通リ約定ス

第一　地域

(一)沿海州

一、「ニコリスク、ウスリースキー」郡就中興凱湖付近一帯

二、「スイフン」河流域

三、興凱湖北方烏蘇里鉄道沿線一帯

四、烏蘇里河流域一帯

五、黒龍江流域一帯

六、蘇城河流域一帯

七、「オリギンスキー」郡内日本海ニ面スル一帯

(二)黒龍州

一、「ブラゴヴェシチェンスク」付近ノ黒龍江流域一帯

(三)後貝加爾州

一、「シルカ」河流域及「アルグン」河流域一帯

第二　条件

一、利権ノ区域ハ農耕地ニ付テハ少クトモ個人ノ場合五百町歩、会社ノ場合其ノ五倍タルヘク放牧地ニ付テハ少クトモ個人ノ場合五千町歩、会社ノ場合其ノ五倍タルヘシ

二、農業（牧畜ヲ含ム）ニ関スル利権ハ権利者ニ於テ自由ニ「ソヴィエト」露西亜国国民又ハ日本帝国臣民ニ譲渡其ノ他ノ処分ヲ為スコトヲ得

三、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ農業ニ関スル利権ニ付テハ右利権期間満了ノ際日本政府ト協議ノ上本協定及付属議定書丙及丁ノ規定及条件ニ照シ有利ナル条件ヲ以テ該利権ノ存続ヲ認ムヘキコトヲ約諾ス

三九四　六月五日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

露支協定、利権問題其ノ他ニ関シカラハンノ宮川ヘノ談話報告ノ件

第四五九号　（六月六日接受）

六月三日「カラハン」ハ宮川ヲ茶ニ招待シタル際大要左ノ如ク談話シタル趣ナリ

一、露支協定問題カ米仏ノ干渉及顧維鈞ノ妨害ニ依リ一時停頓スルヤ張作霖ヨリ満州ニ関スル問題ナリトモ同人ト協定センコトヲ申出テタルニ依リ自分ハ之ニ応シ広東ニ派遣シ置キタル「ボヒディン」(ロ?)ヲ奉天ニ急派シ内密張作霖ト会商セシメタリ張ハ種々ノ難題ヲ持出シ容易ニ纏ラサリシカ最近ニ至リ成案ヲ得当ニ調印センハカリトナレリ之ヲ聞込ミタル顧維鈞ハ大ニ狼狽シ多少字句ノ修正ヲ加ヘタルモ大体三月十四日調印ト同一ノ協定ニ調印スルコトトナレリ張作霖トノ協定案ハ北京トノ協定ニ比シ不利ナル而已ナラス支那全体ヲ相手トスル協定ハ矢張リ北京ト締結スルコト得策ナルヲ以テ其儘調印セサルコトトセリ

二、露支協定ノ結果自分ハ最初ノ労農公使トナルヘキモ莫斯科ノ希望アルニ付九月頃ニハ帰国スルコトトナルヘシ露支正式会議ハ協定通リ其内一応開催スル意向ナルモ暑気ノ為暫ク休会トシ其間自分ハ南支方面ニ旅行スル考ナリ

三、「ヒューズ」カ国務卿タル間ハ米国ノ承認ヲ期待スルコト困難ナルヘシ米国ノ農業者及石油業者ハ露国ト列国トノ通商関係円滑トナル時ハ露国ノ農産物及石油ハ世界市場ニ於テ米国ノ夫レト競争スルニ至ルヲ以テ露国ノ承認ヲ希望セス是レ「スタンダード」石油会社ト密接ナル関係ヲ有スル「ヒューズ」カ露国承認ニ反対スル所以ナリ然レトモ他方米国ノ工業及銀行業者ハ製品ノ販路及投資場ヲ必要トスル結果露国ノ承認ヲ主張シ居レハ年内ニハ期待シ得サルモ早晩承認論勝ヲ制スルニ至ルヘシ

四、「スタンダード」ト競争ノ地位ニ在ル「シンクレーヤ」ハ頻リニ露国ニ活動センコトヲ画策シ昨年自分ノ莫斯科ニ居リタル頃全露国ノ石油経営ヲ一手ニ引受ケンコトヲ申出タルコトアリ勿論莫斯科ハ之ニ応セサリキ尚「シンクレーヤ」ノ北樺太ニ於ケル石油利権ハ甚タ広汎ナルモノナルモ同会社ハ僅カノ積立金ヲ為シタル迄ニテ種々違約ノ節モアリ多分契約ノ破棄ヲ見ルコトトナルヘシ

五、最後ニ「カラハン」ヨリ利権問題ニ言及シタルニ依リ宮川ヨリ昨年「ヨッフェ」ト川上公使トノ間ニ行ハレタル会議ノ議事要領全文ヲ日本新聞ニ与ヘタル為日本一般ニ露国カ尼港事件ニ関シ陳謝ノ意ヲ表シ北樺太及東部西比利亜ニ於テ特ニ有利ナル条件ニテ利権ヲ提供スルコトハ既定ノコトト承知シ居ル旨述ヘタルニ「カ」ハ夫レハ一年前ノ話ニテ当時ニ在リテハ英伊ノ承認モナク日本ノ承認ニ対シテハ相当代償ヲ払フモ可ナリト思考セルモ今日ハ事態全然変化セリ現在露国トシテハ日本ニ対シ第三国ヨリ不利ナラサル条件ニテ一般利権法ニ準拠シ利権ヲ与ヘ得ルニ過キス且其ノ詳細ハ基本協定調印後一定期間例ヘハ六カ月以内ニ取極ムルト謂フカ如キコトトスル以外ニハ応諾スルコト困難ナルヘシ自分ノ手許ニハ目下専門家ナク詳細ノ取極ヲ為スコト不可能ナリト語リ宮川ヨリ専門家ナシトセハ斉多ヘハ莫斯科ヨリ呼出ス方法モアルニアラスヤト述ヘタルニ「カ」ハ莫斯科政府ハ容易ニ応セサルヘシト答ヘ

六、尚漁業家トノ間ニ於ケル懸案ニ関連シ「カ」ハ実ハ露国ニハ最初漁業問題ヲ政治的ニ利用シ国交回復迄日本人ニ漁区ヲ与ヘサルヲ可トストノ意見アリタルモ自分ハ斯ノ如クスルトキハ却テ漁業家ヲ怒ラセ如何ナル乱暴ヲ仕出カサレストモ計ラレサルニ付漁区ヲ与フレハ相当国庫ノ収益トナル旨ヲ力説シ結局政治問題ニ利用スルコトヲ思ヒ止マラシメタル趣内話セリ

本電第一項奉天へ転電セリ

三九五　六月六日　在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

債権、撤兵問題其ノ他ニ付キカラハントノ討議内容報告ノ件

第四六八号　（六月七日接受）

往電第四四七号ニ関シ

六月四日ノ会議ニ於テ先ツ本使ヨリ債権問題ニ関スル all other 云々ノ説明書（別電第四六九号）ヲ求メ次テ宮川携帯ノ原文ニ対シ五月二十六日迄ノ屡次ノ貴電ニ依リ修正ヲ加ヘタルモノノ内ヨリ通商条約第六条及利権ニ関スル第九条及付属書ヲ除キタル全部即チ宮川携帯条文案中第一条乃至第五条第十一条第十二条ノ各条文（付属書ヲ除ク）並ニ其ノ後修正セル通商航海条約改訂（第六条）漁業協約改訂（第七条）「ポーツマス」条約ノ効力存続（第八条）問題ニ関スル我条文案及主権侵害秘密協約ニ関スル「ノート」案文ヲ提示シ尚該談判ノ進捗ニ害ヲ及ホササル程度ニ於テ必要ニ応シ「コムミュニケ」ヲ発表スルコトシタキ処其ノ公表文ハ双方協議ノ上タル可キコトヲ提議セルニ「カラハン」ハ誤報ニ対スル弁明若ハ取消ヲナス権利ヲ留保シタシト答ヘ本使ヨリ我方提議ハ正ニ其ノ趣旨ニ基クモノナルヲ説明シ次テ左ノ諸問題ニ就キ討議セリ

第一　大使館引渡問題

「カラハン」ハ我方条文案ニ対シ本件ハ単ニ引渡問題ニ過キサルニ拘ラス第三項アルカ為恰モ何等カ裏面ニ思惑アルモノノ如キ感想ヲ与ヘ不安ニ堪エスト述ヘ本件引渡ノ如キハ各国共当然ノコトトシテ之ヲ行ヒ支那ノ如キ自主権ニ乏シキ国スラ鮮明ニ国交恢復ト共ニ引渡ヲナスコトヲ承認シ右ノ如キ条項ヲ設ケストテ其ノ削除ヲ求メタリ依テ本使ハ各条項ハ引渡ノ際日本側ヨリ何等困難ヲ搆

ヘンカ為ニアラサルコト双務的規定ナルコト及本件引渡ノ如キハ事実問題ニシテ本条項ニ対シ深ク邪推ヲ廻ラス必要ナキコトヲ説明セルニ「カ」ハ敢テ邪推スルニアラサルモ本条ノ為一見条件付ノ如キ感想ヲ与フルト共ニ現占有者ノ立退並ニ之ニ関連スル治外法権問題ノ如キ困難ヲ予想シ直ニ引渡ヲ実行シ得サルコトヲ意味スルモノト思考セル旨ヲ以テ更ニ本使ヨリ露国大使館ノ敷地ニ関スル付属書ノ趣旨ニ依リ詳細ナル説明ヲ与ヘ本条項カ白人ノ立退ニ関スルモノニアラサルヲ指摘セルニ「カ」ハ能ク事情ヲ了解セル旨ヲ答ヘ市区改正等ノ必要ニ基クモノナラハ露国側トシテモ勿論交通ヲ妨クルカ如キ意思ナキヲ以テ之ニ反対セサルモ協約中ニ敢テ掲クル程ノ事モナカルヘク寧ロ第三項ハ之ヲ削除スルモ差支ナカル可シト主張セルカ本使ハ大使館ノ移転ヲ必要トスルカ如キ場合ニハ互ニ便宜ヲ与フルノ趣旨ヲ了解セラレタルモノトセハ本使ノ関スル限リ本条第三項ノ趣旨ハ之ヲ付属書ニ移スニ異議ナキ旨ヲ告ケタルニ「カ」ハ本条約ハ「労農政府ハ東京市区改正ノ為其ノ大使館ノ地区ノ改正ヲ商議スル事ヲ諾ス」ト云フカ如キ文書ヲ交換スルモ可ナルヘシ

但シ引渡ニ付テハ是非「直ニ」ト言フ文句ヲ挿入シタシト主張シ本使ハ現在ノ大使館ヲ其儘直ニ引渡シ得サルヤモ計リ難キヲ以テ其点ニハ遽ニ同意シ得サルモ文句ノ点ハ何レ適当ニ協定シ得ヘシト告ケ置キタリ就テハ本件可然御詮議ヲ請フ

第二　撤兵問題

撤兵期限ヲ三カ月トスル我方ノ文案ニ対シ「カラハン」ハ頗ル意外トセルモノノ如ク本使ヨリ貴電第三六八号中㈢ノ事情等ヲ説明セルニ対シ「カ」ハ種々ノ御説明ニ拘ハラス三ケ月ノ期限ニ対シテハ到底同意スルヲ得ス財産ノ処分其他合法ナル行為ノ如キハ露国官憲ニ占領地方ヲ引渡シタル後ト雖モ為シ得ヘク日本軍ノ兵数其他ニ関スル露国側ノ調査ニ依レハ一週間ヲ必要トセサル趣ナリ殊ニ日本ノ如キ諸般ノ完備セル機関ヲ有セル国トシテ三ケ月ノ撤兵期間ヲ必要ト為スカ如キハ其理由ヲ解スルニ苦シム処ナリト論シ本使ヨリ撤兵ニ関スル往年山東撤兵ノ際期限内ニ完了ヲ急キ為ニ種々ノ困難ト紛糾トニ遭遇セル事例アリ況ンヤ交通極メテ不便ナル北樺太ニ付テハ是非相当ノ期限ヲ見込ミ置ク必要アル旨ヲ力説シタルニ

「カ」ハ北樺太ノ如キハ山東ト異リ日本ト接壌ノ地方ニシテ日本ニシテ真ニ撤兵ノ決意アルニ於テハ今日ヨリ其準備ヲモ為シ得ヘク斯ノ如キ撤兵期限ノ条項ヲスラ必要トセサルナリ殊ニ曩ニ日本側ニ於テハ協約成立ノ暁ニハ直ニ撤兵スト声言シ今日ニ及ヒ三ケ月ノ期限ヲ必要ナリト主張スルニ於テハ莫斯科ノ思惑モ如何カト懸念セラルル而已ナラス本件ノ如キハ日露両国軍事専門家ノ調査ヲ比較スルトキハ直ニ判明スヘキ問題ナルカ故ニ重ネテ自分ノ主張ヲ容レラレ度シト切言セルカ本使ハ撤兵期限ニ関シ余リニ論議ヲ闘スハ軍事専門事項ノ知識ヲ有セサル我々ノ宜クセサル処ナルカ日本政府ニ於テハ三ケ月ヲ必要トシ其ノ理由ハ既ニ詳細説明ノ如シ依テ本件討議ヲ打切リ露国側意見ヲモ政府ニ報告ノ上改メテ審議スヘシト述ヘ置ケリ

第三　債権問題

all other 云々ニ関スル「カラハン」ノ説明書ニ対シ本使ハ露国側ニ於テハ依然 debts と claims トヲ一括シテ解決セントスル趣旨ナルカ如シト雖モ由来債権ニ付テハ日本ノ対露債権ハ其ノ種類金額モ明カナルニ反シ露国ノ日

本ニ対スル債権ナルモノ判明シ居ラス従テ之ヲ協約中ニ掲クルヲ得サルカ為ニ之ヲ片務的規定ト為シ個人請求権ハ将来外交機関ノ解決ニ俟ツヘシトノ本使ノ提議ナル処貴方ニ於テ飽迄之ニ同意スルヲ得ストセハ三月（脱）ノ我方条件ニ従ヒ主義上我カ債権ヲ放棄シ得サルモ北樺太及東部西比利亜ニ於テ有利ノ長期条件ヲ提供セハ債権ヲ実行セストノ主張ニ立戻ルノ外ナシ然ルニ貴方ニ於テハ債権ト請求権トヲ一括シテ解決セントスル主張ヲ捨テサルニ顧ミ此際北樺太及東部西比利ニ於テ提供スヘキ利権ニ就キ稍具体的取極ヲナシ且ツ西比利出兵ニ基ク露国側ノ「クレームス」ヲ放棄スルニ於テハ我方債権ニ就テハ事実上之ヲ請求セサルコトトシ個人ノ請求ハ之ヲ双務的トスルノ案ニ同意ナルニ於テハ政府ニ稟請スヘシト告ケタルニ「カ」ハ債権ニ就テハ元来露国側トシテハ伊太利トノ案ニ従ヒ将来会議ニ於テ決スヘキ主張ナルコトハ夙ニ御承知ノ如シ今貴公使所述ノ案ニ依リ貴公使カ本件難問解決ノ為努力セラルル誠意ハ深ク之ヲ多トスルモ又同時ニ如何ニ日本側ニ於テ周囲ノ事情ヲ諒解シ居ラサルカヲ示スモノナリ之ヲ英国トノ例ニ徴スルモ英国カ露国ニ

駐兵セルハ其ノ範囲並危険トモ日本ノ駐兵ニ比シ遙ニ狭小ニシテ併カモ戦時債権ハ日本ニ比シ遙ニ鉅額ナルニ拘ラス英国ハ其ノ戦時債権ト其ノ駐兵ニ依リ露国ノ被レル僅少ノ損害トヲ相殺セントス併シ日本ハ其ノ英国ヨリ遙ニ小額ナル戦時債権ト駐兵ニ依リ露国ノ被レル甚大ナル損害トヲ其ノ儘相殺スルヲ肯ンセサルノミナラス更ニ利権ヲ獲得セムトス労農露国如何ニ愚ナリト雖モ英国ニ対スルヨリモ不利ナル日本ノ提案ニ同意ヲ敢テスヘキヤト論シ尚屢々述ヘタル通リ戦時債権ハ絶対ニ支払ハサル意向ナル故ニ充分日本政府ノ諒解ヲ迎ヘタシト述ヘタリ次テ先方ヨリ対案ヲ陳述スルコトトナレルモ時間ノ都合上之ヲ次回ニ譲レリ

三九六　六月七日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

債権及ビ利権問題ニ関スルカラハンノ強イ難色ニ付キ報告ノ件

第四七〇号　至急極秘　（六月八日接受）

往電第四六八号ニ関シ

六月五日債権並利権問題ニ関スル議事要領左ノ通リ

前日ノ引続キトシテ「カラハン」ヨリ債権問題ニ関スル意見ヲ開陳シ労農政府ハ戦時債務支払ノ責ニ任セサルコトヲ反覆シ日本カ本問題ニ付其ノ主張ヲ固執スルハ代償ヲ得ントスルヨリモ寧ロ他列国トノ関係上独リ日本ノミ譲歩スルヲ惧ルルニ基クモノト観察シ居ル処有利ナル長期利権ヲ取得スルニ於テハ其債権ヲ主張セストノ案ハ結局代償ヲ要求スルモノニシテ露国側ノ同意シ難キ処ナリト前提シ次ノ三案ヲ提言セリ

㈠　将来ノ会議ニ於テ解決シ第三国ヨリモ不利ト為ササル主旨ノ所謂伊国案

㈡　債権及請求権ハ日露双方ヲ相殺スルコト露国側調査ニ依レハ日本ノ西比利亜出兵ニ依リ蒙レル損害ハ町村ノ焼失営造物ノ破壊等ヲ見積ルトキハ日本ノ債権額ノ十倍ニモ上ルヘシト雖モ本来露国トシテハ列国ヨリ斯ノ如キ損害ノ賠償ヲ受クル意志無ク他国ヨリ戦時債権ノ要求アルカ如キ場合ノ対抗策トシテ其調査ヲ為シ置ケルニ過キス

㈢　債権及請求権ノ全部ヲ協約面ヨリ除去スルコト但シ日本側ニ於テハ斯クテハ将来トモ露国カ債権ヲ支払ハストノ懸念若ハ将来突然請求権ヲ提起シ来ルヘシトノ憂ヒア

ルニ於テハ付属文書ヲ以テ債権並請求権ニ付テハ将来相互協議成立ノ場合ニ於テノミ之ヲ審議ストノ規定ヲ設ケ置クモ可ナリ

右ニ対シ本使ハ㈠及㈢ハ基本協定ヨリ債権及請求権問題ヲ除去セントスル点ニ於テ同一ナリ唯㈡ノ案ハ利権ヲ考慮ニ加ヘサルコトノ外ハ実際ニ於テ本使提案ト最モ近キカ如シト指摘セルニ「カ」ハ利権ニ付テハ債権ト関連セシメテ是レヲ提供スルヲ得ス尤モ露国トシテハ経済上、国防上日本トハ常ニ密接ノ関係ヲ保持セントスルモノナルカ故ニ他ノ問題ト関連セシメサルニ於テハ利権ノ如キハ出来得ル限リ日本ノ希望ニ応シタキ考ナリト述ヘタルカ本使ハ昨日ノ本使ノ提言ハ一言ニシテ云ハハ日本トシテハ債権、露国側トシテハ日本出兵ニ関スル損害賠償請求権ヲ共ニ抛棄シ東部西比利亜ニ於ケル利権提供ハ稍々具体的ニ規定シ置クコトトシテ日露双方ノ残余ノ請求権ハ双務的ニ規定シ置カントスルニアリタル次第ナルモ前記㈠ハ一切ノ債権請求権ヲ相殺セントスルモノニシテ他ノ提案トハ相異セリ但シ利権ノ提供ハ債権ノ抛棄ニ関連セサルモ結果ニ於テ異ル処ナシ本使ノ提案ト貴案トノ差ハ僅ニ残余ノ請求権ヲ相互存続セシムルヤ否ヤニアルノミ思フニ論議モ茲迄ニ進展シタル以上既ニ最後ノ点ニ達シタルモノト思考スルノ外ナキカ故ニ本使トシテハ此上ハ政府ニ請訓スヘシト告ケタルニ「カ」ハ貴公使ノ云ハルル如ク個人ノ請求権ヲ認ムルコトトナルニ於テハ日本ノ西比利亜出兵中露国民ノ蒙レル損害ハ日本人ノ露国ニ於テ受ケタル損害ヨリ遙ニ大ナルモノアリ国交恢復後ニ至リ斯ノ如キ問題ニ付論議ヲ為スハ甚タ面白カラサル処ナルモ個人請求権ヲ存置セントスル御意向ナルニ於テハ是レヲ「モスコー」ニ取次クヘシト述ヘタリ依テ本使ハ本使ノ趣旨ハ日本ハ其ノ債権ヲ実行セサルヘク露国ハ西比利亜出兵ニ基ク対抗要求ヲ抛棄スヘシト云フニアリテ右対抗要求中ニハ露国政府及人民両者ノ請求ヲ含ムモノナリ即チ双務的ニ規定セントスル請求権ノ内露国側ノ分ハ西比利亜出兵ニ基ク対抗要求以外ノモノ而已ト云フノ趣旨ナリ而シテ西比利出兵ニ基キ露国側損害カ我方債権額ノ十倍ニ上ルト云フカ如キハ如何ニ計算スルモ到底アリ得ヘカラサル所ナリ尚我方債権中個人ノ分六千九百万円ニ付テハ日本政府ヨリ債権者ニ勧告シテ之ヲ抛棄セシメ

ントスルハ政府トシテ困難ナキ能ハサルヘク兎ニ角本問題ニ付テハ政府ニ請訓スルコトトスヘシ

尚又我方トシテハ債権ヲ実行セサル場合ニハ利権ヲ之ニ関連セシムル趣意ナリシモ貴方ニ於テ絶対ニ両者ノ関連ヲ忌避スルカ故ニ仮ニ形式上別個ノ問題トシテ取扱フ場合ニ於テモ東部西比利ニ於ケル利権ニ付テハ稍々具体的ノ協定ヲ為シ置キタキ希望ナル旨ヲ述ヘタル処「カ」ハ重ネテ債権ト利権トノ区別討議ニ付念ヲ押シタル上前日本使ヨリ一括提出ノ条文案中北樺太利権ニ関スル条文ニ付本問題ハ予テ危惧セルカ如ク果シテ本交渉ニ累スヘシトノ感想ヲ深クセリト前置シ抑モ本条文案ハ露国ハ日本ニ対シ何等カノ義務ヲ負担シ居ルモノナルヤノ観念ニ基クモノノ如ク本交渉ノ最大難関タルヘシト思考セリ直言スレハ彼ノ「ポーツマス」条約ノ如キハ日本カ戦勝国トシテ帝政露国ニ命令シテ締結セルモノナルニ拘ラス二年後ニ至リテ漸ク漁業協約ノ成立ヲ見タルニ過キス然ルニ日本ハ戦敗国ニモ非サル今日ノ露国ニ対シ斯ノ如キ要求ヲ為スハ驚クノ外ナク要スルニ対等国ニ対シ為スヘキ要求ニ非ス日本ハ尚未タ日露国交ノ重要ナルヲ了解セス従

テ国交回復ノ齎スヘキ結果ヲ評価シ得サルモノナルハ衷心遺憾ノ情ニ堪ヘス殊ニ利権ニ関シテハ詳細ナル付属書モ有之ヤノ趣ニシテ益々悲観ノ材料ヲ加フルニ過キサルヘシ実ハ本件ニ関シテモ早速莫斯科政府ニ報告スヘキ筈ナリシモ莫斯科ニシテ本件日本側ノ要求ニ接センカ必スヤ本交渉ニ対スル一種ノ爆弾投下ト看做シ直ニ交渉ヲ頓挫セシムルニ至ルヘク従テ自分ノ立場ハ頗ル窮境ニ陥ルヘキヲ以テ報告ヲ差控ヘ来レリ右ハ自分カ全ク真剣ニ申述フル所ナリト陳述セルカ本使ハ利権ニ関シテハ後日ノ紛糾ヲ避ケンカ為其ノ地域条件ノ如キハ成ルヘク具体的ニ取極メ置ク必要アルコトハ既ニ再三述ヘ置キタル通ナルカ我方条文案ニ対シ貴方ノ同意シ得サル点アルニ於テハ其ノ理由ヲ聞キ本使ニ於テモ尤モナル理由ト認ムル場合ハ之ヲ政府ニ取次キテ其ノ考量ヲ促スヲ辞セサルカ故ニ全般的批判ノ外尚具体案反対理由ヲモ承知シタキ旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ利権ニ関シテハ曩ニ露国側ヨリ進ンテ協定案第四条ヲ提出シアルヲ以テ日本側ニ於テ尚不充分ト認メラルル点アラハ之ニ何等カノ追加ヲ為スコトヲ提議シ得ヘカリシニ拘ラス全然露国側条文案ヲ無視シテ

長文ノ条文ヲ作成シ其ノ上付属書ヲ以テ種々ノ要求ニ出テラルルモノノ如シ元来自分ハ利権ノ詳細ニ亘リテ審議スルコトヲ予想セス又実際上之ヲ審議スルノ知識モ材料モ有セサルヲ以テ折角貴公使ノ御希望ナルモ全ク手ノ着ケ様ナキ次第ナリ従テ右第四条ニ何等追加ヲ為ストスルモ細目ニ付テハ追テ協定スヘシト云フカ如キ条項ノ外其ノ内容ノ審議ニ亘ルハ自分ノ為シ能ハサル処ナリ要スルニ嘗テ利権契約ヲ為セルコトナキ自分トシテハ日本側ノ案ヲ基礎トシテ審議ヲ為スハ実際上不可能ナル立場ナルニ付テハ貴公使ニ於テモ篤ト御考量ヲ煩ハシタシト繰返ス所アリ予定ノ時間経過セル為其儘散会セリ

三九七　六月八日(着)　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛(電報)

利権問題ニ関スルカラハントノ討議状況報告ノ件

第四七一号　至急極秘

往電第四七〇号ニ関シ

六月六日利権問題ニ関スル議事要領左ノ通リ

北樺太ノ利権ニ関スル我方条文案ニ対スル「カラハン」前

日ノ陳述ニ対シ本使ハ利権ニ関スル取極ニ付テハ契約締結ノ如キ詳細ナル規定ヲ設クル必要ナキモ地域並条件ノ大綱ヲ定メ置クノ必要アルコトハ従来屢々述ヘ置キタル処ナルヲ以テ其点ハ是非承諾ヲ得度シ尤モ我方条文案ニ対シ道理アル修正ヲ提出セラルルナラハ本使ニ於テモ考慮ヲ加フルコトトスヘキモ右条文案ハ兎ニ角北樺太利権ノ根拠ヲ為スモノニシテ地域並条件ハ追テ付属書ヲ以テ取極ムルノ趣旨ナル事ヲ説明シタルカ「カ」ハ本問題ニ付テハ既ニ前日詳細ニ亘リ述フル処アリ今更反覆ノ必要ナキ処本条文ハ提案ト云フヨリハ寧ロ要求ト称スヘキモノナリ故ニ仮令付属書ヲ見ルモ自分ノ有スル訓令ノ範囲内ニ於テハ之カ審議ヲ為シ得サル次第ナルニ付露国側協約案第四条ニ追加的規定ヲ設ケ多少精確ニ定ムル事ナラハ差支ヘナシ元来詳細ノ条件ヲ定メテ利権ノ要求ヲ為スカ如キハ今日ノ露国ニ対シテ為スヘキ処ニ非スト答弁セリ依テ本使ハ我方条文ノ実質ノミナラス其ノ形式モ又不可ナリト云フ次第ナリヤト質シタルニ「カ」ハ然リト答ヘ形式ト実質トヲ明カニ区別スル迄モナク其ノ形式ニ於テモ応シ得サル処ナリト述ヘタリ

依テ本使ハ我方条文ノ内容ヲ考究スルニ露国側協約案第四

条ニ比シ長文ニシテ詳細ニ亘リ居ルコト事実ナルモ労農政府カ斯々ノ権利ヲ許与ストノ書方ニ於テハ両者相異ナル処ナク毫モ労農政府ノ権威ヲ害スルカ如キ形式トハ認ムルヲ得ス就テハ我方条文案ノ何レノ点ヲ不可ナリトスルヤヲ推問セルニ「カ」ハ何分政府ヨリ概括的規定トセヨトノ訓令ヲ受ケ居リ付属書ト共ニ全部ニ亘ル日本側ノ意向ヲ承知シタル上ハ一般的意見ナリトモ述ヘ得ヘキ処今日ハ何分ノ意見ヲ述ヘ得サル状態ニ在リト答ヘ本使ヨリ不日整フヘキ付属書ニ於テハ例ヘハ地域ニ付テハ数字ヲ以テ之ヲ現ハシ又油田炭田ノ如キ事業経営ニ関スル諸般ノ折衝若ハ労働者等ニ付テモ詳細ノ規定ヲ設ケ度キ意向ニシテ何レ五、六日後ニハ提出シ得ヘキ予定ナリト告ケタルニ「カ」ハ然ラハ本件ハ付属書ノ提出迄審議ヲ見合ハスカ又ハ我方第四条ニ日本側ノ希望ニ副フヘキ追加案規定ヲ設クルカノ孰レカノ方法ニ依ルノ外無シト述ヘ尚将来誤解ナキヲ期センカ為露国側トシテハ利権ニ関シテハ日本人ノミニ有利ナル条件ヲ与フルヲ得ス必ス国内法ノ規定ニ準拠スルヲ必要トスルカ故ニ斯ノ如キ空想ヲ抱ク事ナキ様予メ断リ置キ度シト付言セリ依テ本使ハ然ラハ付属書整ヒタル上ニテ審議スルコトトシ本使ハ莫斯科政府ノ訓令ハ詳細ニ亘リ規定スルヲ得ストノ趣ナル処同シク詳細ト云フモ程度ノ問題ニシテ相当或ル程度迄詳細トスルハ妨ナシトノ趣旨ナリヤ参考迄承知シタシト質問セルニ「カ」ハ自分カ協約案第四条ニ追加シテ幾分正確ト為サントセル意味ハ例ヘハ北樺太ニ於テハ長期有利ナル利権ヲ付与スト謂フカ如キコトナラハ差支ナシト考ヘタル次第ナリ但九十九ケ年ト謂フカ如キハ一種ノ印象ヲ与フル数字ニシテ之ヲ何十年トスルカハ将来ノ取極ヲ俟ツヘシト答ヘタリ本使ハ我方ニ於テ詳細ト云フハ単ニ長期有利ト云フニ止マラス多少具体的トスルノ趣旨ナル処参考迄如何ナル程度迄詳細ト為シ得ル貴方ノ意向ナリヤヲ承知シタシト推問セルニ「カ」ハ自分ハ莫斯科ノ空気ヲ好ク承知シ居リ長期有利トスルノ程度ナレハ政府ヲ承諾セシメ得ルヤモ計リ難キモ夫レ以上詳細ト為スハ全ク困難ナルヲ明言ス尚貴公使ヨリ政府ニ報告ノ際ニハ自分カ交渉全権トシテ日本案ヲ審議スルコトスラ峻拒セル旨明確ニ報告セラレタシト繰返セリ尚本使ハ長期有利ト而已ニテハ同意シ得ス依テ多少地域条件等ヲモ掲クル必要アリ然ラサレハ後日当業者ノ契約締結等ニ際シテモ手数ト紛糾トヲ免レス従テ本協約

スヘシト述ヘタルニ更ニ「カ」ハ其ノ点ニハ異議無キモ其間貴公使ニ於テモ労農政府ハ利権ノ詳細ニ付審議スルハ絶対不可能ナリト切言シ居ル旨ヲ政府ニ報告セラレ度ク尚又貴方条文案中ニハ露国政府ノ責任ニ於テ露国々民カ自国領土内ニ於テ得タル権利利益ヲ拋棄セシムルカ如キ規定アリ斯ノ如キハ宛然戦敗国ニ対スル要求ニシテ其ノ承諾ハ勿論之カ審議ヲサヘ為シ能ハサル処ナリ加之漁業ニ関シテハ漁区ノ貸下ナラハ兎ニ角其ノ管理権ヲ与フヘシトノ規定アリ是レ主権ノ一部ヲ拋棄セシメントスルモノナリ之等ノ規定ニ顧ミルモ日本政府カ如何ニ事態ヲ諒解セス常ニ支那ニ臨ムカ如キ観念ニ支配セラレ居ルカヲ察スルニ足ルヘシ蓋シ情誼ヲ以テ考フルモ今ヤ日露親善関係ヲ樹立セントスルニ当リ果シテ斯ルコトカ出来得ヘキモノナリヤ否ヤ篤ト日本政府ノ反省ヲ促ササルヲ得ス実ハ自分ハ貴公使従来ノ態度ニ推服シ出来得ル限リ自己ノ感情ヲ抑制シテ談話シ居ルモノナルカ仮リニ右ノ条文ヲ莫斯科政府ニ報告ストセハ必ス交渉中止ノ訓令ニ接スヘシト確信ス就テハ日本側ニ於テモ提案ノ作成ニ当リテハ相手方ノ感情ヲモ考慮ニ加エル様希望セサルヲ得スト切言セリ

ニ於テ将来契約締結ノ根拠トナリ得ル程度ニ於テ地域条件ヲ掲クル必要アリ就テハ本条文ニ其儘同意シ得ストセハ更ニ低キ程度ニ於テ詳細規定ヲ為スニ付テハ是非同意ヲ得タシト主張シタルニ「カ」ハ長期有利ノ条件モ実ハ自分ノ私見ニ過キサルヲ以テ御話ノ如ク詳細ト為スコトニハ莫斯科政府ハ応セサルヘシ蓋シ利権ハ種類ニ依リ期限及条件ヲ異ニシ此際数字ヲ以テ期限ヲ表ハスカ如キハ不可能ノコトナリ日本側ニ於テハ詳細ト為ス理由トシテ将来ノ紛議ヲ恐ルルカ為ナリト謂ハルルモ莫斯科ニ於テハ決シテ然ル理由トハ思ハスシテ露国々力ノ薄弱ナルニ乗シ此機会ニ取リ得ル限リノモノヲ獲得シ置カントスル考ナリト断スヘキカ故ニ右ノ事情ハ日本政府ニ対シ特ニ説明シ置カレタシト熱心ナル説明ヲ繰返セルカ本使ハ重ネテ長期有利ノ条件ト云フ而已ニテハ乍遺憾同意スルヲ得ス我方条文程詳細ト為シ得ストスルモ多少詳細ノ規定ハ是非必要ナル旨ヲ反覆シタルニ「カラハン」ハ然ラハ何等カノ考案ヲ提示スルコトトセラレ間敷キヤト述ヘ本使ヨリ帝国政府ニ於テハ本条文ニ対シ非常ニ重キヲ置キ居ルヲ以テ政府ニ相談ノ上ニアラサレハ本使トシテハ別段ノ考案ヲ作製シ得スト告ケ置キタルカ

「カラハン」ハ尚自分ノ私見ナリト断リタル上日本政府カ事態ヲ諒解シ居ラサルヲ遺憾トスル旨ヲ繰返シ露国トシテハ当初ヨリ交渉ハ相互主義ノ基礎ニ於テ行フヘキコトヲ明カニシ居ルニ拘ハラス日本側ニ於テハ両国ノ国交回復ハ露国ニ而已利益アルモノト考ヘ居ルモノノ如ク其間非常ニ多大ノ相違アルモノノ如シト歎シ利権ニ関スル当日ノ討議ヲ終レリ

三九八　六月八日　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

債権、請求権及ビ利権問題ノ其ノ後ノ進展ニ鑑ミ意見具申ノ件

第四七二号　至急極秘　（六月九日接受）

債権及請求権問題ニ関シテハ往電第四七〇号ヲ以テ概略報告ノ通ナル処右会見ヲ以テハ「カラハン」ニ於テモ結局言ハント欲スル処ヲ言ヒ尽シ本使ニ於テモ反駁スヘキハ反駁シ主張スヘキハ主張シ双方共本問題ニ対シテハ結局ノ処迄行キ着キタル姿ニテ此上ハ本使トシテハ帝国政府ノ御決定ニ待ツヨリ外ナキコトト相成リタル次第ナルカ本使ノ意見ニ依レハ債権及請求権ハ日露双方トモ全部棒引トスルコトトシ利権ハ敢テ表面上之ト関連セシメサルモ将来詳細ニ取極ヲ為ス際ノ根拠ヲ確保スル程度ノ大綱ニ止ムルコトトシテ以テ債権請求権東部西比利亜利権問題全部ヲ解決スルコトト致シタシ惟フニ我方ノ個人債権（六千九百万円）又ハ請求権（即私有敗産）ヲ復活セシメントセハ「カラハン」ニ於テハ必ス西比利亜出兵ニ基ク対抗要求ノ内露国人民ノ請求権ノ復活ヲ主張シテ止マサルヘシ元来貴電第一一五号ニ依レハ利権ヲ獲得スレハ債権ヲ抛棄スルモ差支ナキコト相成リ居ル次第ニ付右ノ通リ西比利亜出兵ニ基ク対抗要求（人民ノ分トハ云ヘ）ヲ抛棄セシムルコトヲ得ハ寧ロ頗ル良好ナル結果ト申スモ差支ナカルヘシト存ス就テハ右解決案ニ御同意相成ル様希望ス何分ノ儀御電訓アリタシ

三九九　六月九日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　松井外務大臣宛（電報）

利権問題ニ関スル政府ト本使トノ見解ノ差異甚シキニ付キ一時帰朝方稟請ノ件

第四七九号　至急極秘

貴電第三三〇号及欧一機密第一〇一号貴信御訓命中殊ニ利権等ニ関シテハ「カラハン」等ノ考ヘ居ル処ト頗ル大ナル距離アリ其儘之ヲ持出ストモ到底先方ノ承諾ヲ得ヘキ望無ク交渉ヲ取纏メントスルノ趣旨ヨリスレハ寧ロ始メヨリ之ヲ提出セサルヲ可トストハ御訓令拝読当初ヨリノ本使ノ意見ニシテ右ハ既ニ屢次ノ往電ニテ貴聞ニ達シ置キタル通ナルモ貴電第三五三号等ヲ以テ兎ニ角提出スヘシトノ御命令ナリシ為三十一日ニハ地図ヲ以テ利権ノ所在ヲ説明シ次テ六月四日ニハ北樺太利権ニ関スル条文ヲ示シ同五日ニハ利権ニ関スル付属文書ノ趣旨ヲ口頭ニテ申聞ケタル次第ニシテ右ニ対スル「カラハン」ノ感想並弁論ハ往電第四四七号、第四七〇号及第四七一号等ニテ御承知相成ヘキ通ニ有之先方ニ於テハ本使予想通リ極メテ頑強ニ反対ノ意思ヲ表明シ居レリ抑モ我方ニ於テ樺太利権ヲ詳細具体的ニ規定セントスルハ尼港事件ニ対スル賠償ノ趣旨ニ出テタルモノナルモ我軍西伯利出兵中ノ行為ヲ念頭ニ置ケル露国側トシテハ尼港事件賠償ヲ片務的ト見做ス為カ賠償ノ主義ハ之ヲ承認セシムルコト殆ト不可能ニ有之然ルニ我方提案ハ此ノ賠償主義ヲ基礎観念トシテ基本協約締結ノ際極メテ綿密ナル要求条件（其ノ内ニハ露国行政権ノ一部ヲモ我手ニ収メントスルモノアリ）ヲ提出セルモノニシテ彼等議論ノ枘鑿相容レサルハ当然ノ事ニ属ス右ノ如キ事情ナルカ故我方ニ於テ飽迄利権ニ関スル我提案大部分ヲ貫徹セントスルモ理屈ノ言合ヒトナレハ我方ニ於テ必スシモ勝味アリト云フヲ得サルヤニ思考セラルルノミナラス我方提案ノ儘ニテハ先方ニ於テ聊カ匙ヲ投ケル気味アリ此ノ上弁論ヲ闘ハスモ交渉ハ寧ロ我ニ不利ナル形勢ニ発展スルノ虞アリテ本使ニ於テモ鮮カラス当惑シ居ル次第ナリ元来今次ノ如キ重大ナル交渉ニ際シテハ出先全権ニ於テ好ク政府ノ意図ヲ了解スル為予メ親シク御訓示ヲ受クル事普通ナルヤニ被存ルルモ今回ハ偶然ニモ外国駐在中ノ本使ニ交渉ノ全権ヲ与ヘラルル事トナリタル為直接政府ノ御意向ヲ拝承シ若ハ本使ノ腹蔵ナキ意見ヲ貴聞ニ達スルノ機会ナカリシ次第ナル処出先全権ノ充分納得セス従テ其ノ主張カ全権自身ノ確乎タル信念ニ基カサルモノナル限リ如何ニ政府ノ御趣旨ヲ徹底セシメント努力スルモ其ノ主張ニ相手方ヲ屈服セシムル力ヲ欠クヘキハ真ニ已ムヲ得サル処ニ有之右ハ今次交渉ノ近状ニ就キ本使ノ最近特ニ痛感スル処ナリ重要問題特ニ北樺太ノ利権問題ニ関スル帝国政府ノ御意見カ不幸ニシテ本使ノ見ル処ト多大ノ差異アリ到底先方ヲ説得シ得サルハ勿論或ハ遂ニ交渉

破裂ノ因タルヘキ虞アル事ハ既ニ累次ノ電報ノ通リニシテ又政府御趣旨ノ存スル所モ累次ノ御電示ヲ蒙リ居ルニ拘ハラス不幸ニシテ未タ完全ナル諒解ニ達スルニ至ラス此上電報ノ往復ヲ重ヌルトモ徒ラニ時日ヲ費ヤスニ過キサルヘキハ想像ニ難カラス旁交渉ヲ円満ニ継続スルノ見地ヨリスレハ本使ノ帰朝ハ絶対的ニ必要ト思考セラルルニ付往電第四五一号稟請ノ件ニ付是非御再考ヲ給ハリ度ク此際二週間ノ交渉断絶ハ不本意ナラサルニ非サルモ電報ノ往復ヲ重ネ居ルニ於テハ二週三週ハ直ニ経過シ而モ何等適確ナル了解ニ達セサル可キハ明瞭ニシテ此際ノ帰朝ハ結局交渉ノ促進ヲ見ルヘキ唯一ノ途ト信セラルルニ付御承認アリ度数次ノ御懇篤ナル御電示ニ対シ余リニ自説ヲ固持スルノ嫌ナキニ非サルモ交渉ニ対スル本使ノ苦衷ヲ諒トセラレ御寛恕アラン事ヲ希望ス本使ノ一時帰朝御認可ノ事トモナラハ島田ヲ同伴スヘク従テ本使不在中ハ宮川ヲ当地ニ止メ置キタキ所存ニ付貴電第三八〇号御来示ノ次第アルモ少クトモ本電ニ対スル何分ノ御返電ニ接スル迄宮川ノ出発ハ見合サシメタリ

四〇〇　六月九日(着)　在中国芳沢公使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

ヘク露国側トシテハ是非本問題ト関連セシメ何等カノ規定ヲ為シ置キ度キ考ヘナリト述ヘ本使ハ「ベッサラビヤ・プロトコール」ニシテ仮ニ労農政府ノ主権若クハ領土権ヲ侵害スルモノトシ又仮ニ日本カ同「プロトコール」ヲ批准セサルモノトセハ其他ニハ労農露国ノ主権ヲ侵害スルカ如キ条約若クハ協定一モ存在セサルヲ以テ我方案文ノ如ク宣言セハ足ルヘキヲ再説セルカ「カ」ハ日本側ニ於テハ斯ル条約等ナシト言フモ莫斯科トシテハ遽ニ安心シ得サルヘク本件規定ノ本来ノ趣旨ハ国交樹立ニ当リ安心ヲ与フルニアルヲ以テ再考ヲ希望スル旨ヲ繰返シ又将来ニ関スル点ハ相互的ナルノミナラス自由意思ヲ以テ自国ノ主権ヲ制限スルコトハ其例無キニ非サルヘシ例ヘハ宣伝禁止ノ如キ又此類ナリ依テ将来ニ対スル保障ノ点ヨリスルモ亦再考ヲ煩ハシタキ旨主張セルカ我方ニ於テ既ニ斯ル条約無シト宣言スル時ハ万々一有之トスルトモ其効力無キニ等シク莫斯科ニ於テ不安ヲ感スルノ理由無カルヘシ又将来ニ亘リ主権ヲ制限スルモノノ例トシテ宣伝禁止問題ヲ上ケラレタルモ右ハ政府ノ行政事項ナルニ反シ条約ノ締結ハ我カ憲法上天皇ノ大権事項トシテ規定

漁業条約其ノ他ノ問題ニ関シカラハントノ討議状況報告ノ件

第四八〇号　極秘
往電第四七一号ニ関シ
六月七日議事要領左ノ通リ

第一　秘密協約廃棄問題

本使ヨリ貴電第三四五号御来示ノ通リ之ヲ付属「ノート」トシタキ旨並日本政府ハ此種条約若クハ協約ナルモノ事実存在セサルヲ以テ単ニ斯ルモノナキコトヲ宣言セハ足ルヘシトノ意見ナリ尤モ貴方トシテハ「ベッサラビヤ」問題ヲ云為セラルヘキモ本問題ニ付テハ目下政府ノ意向問合セ中ナリ又将来ノ問題トシテハ我方トシテハ事実斯ル条約ヲ締結スルカ如キコトナキモ将来ニ亘リ或ル種ノ条約ヲ締結セストノ取極ヲ為スハ帝国憲法上ノ天皇ノ大権ヲ制限スルコトトナルニ付応諾シ得サル旨ヲ説明セリ右ニ対シ「カ」ハ本件ヲ「ノート」若クハ宣言ノ形式トスルニ付テハ異議ナシ但シ其内容ニ付テハ日本側ニ於テハ斯ル条約等ナシト称スルモ「ベッサラビヤ・プロトコール」ノ如キモノ現ニ存スルノ事実ハ否認スルヲ得サルセラレ将来之ヲ束縛スルカ如キ約定ヲ為スハ枢密院ニ於テモ之ヲ黙過セサルヘク政府トシテモ立場ニ窮スヘク況ンヤ事実上将来斯ノ如キ条約ヲ締結スルコト無シトセハ露国側ニ於テモ其ノ意ヲ安ンシテ可ナルヘシト説キタルニ「カ」ハ然ラハ宣言ニ止ムル点ニ付テハ日本案ニ同意スヘシ但シ「ベッサラビヤ」問題ニ関シテハ付属文ヲ以テナリトモ何等カノ規定ヲ設クルコトシタシ尚将来ノ点ニ関シテハ例ヘハ一九一四(ママ)年ノ日露秘密条約ハ主権束縛ノ規定ニシテ右ノ如ク自由ノ意思ニ依リテ一種ノ束縛ヲ為スハ其例ニ乏シカラストテ重ネテ我方ノ再考ヲ促シテ已マサリシカ本使ハ「ベッサラビヤ」問題ニ付テハ政府ノ回答ヲ俟チ居ルモ貴下ノ例示セル一九一四年ノ協約ニ依リ主権ノ束縛ヲ受ケタルハ寧ロ支那ナルヘシ日本政府ノ困難ハ枢密院ノ反対ノ為本条項而已ナラス本協約全体ニ累スルノ虞アルカ為ナリト述ヘタルニ「カ」ハ然ラハ此ノ点ニシテ我々両者間唯一ノ意見相違ノ点ナル場合ニハ莫斯科ニ於テ其意見ヲ変更スル様稟請スヘシト答ヘタリ

第二　漁業協約

前日本使ヨリ「カ」ニ手交セル我カ修正条文案中ノ第七条ニ対スル先方ノ意向ヲ質シタルニ「カ」ハ本案ノ儘ニテハ同意シ難シ実ハ莫斯科ヨリ詳細ノ訓令アリ漁業協約問題ニ関シテハ尚追加的規定ヲ設クヘシトノ趣ニシテ本件条文ノ実質ヲ変更スル次第ニ非サルモ露国々内法ノ変化セサル結果特ニ追加的規定ヲ必要トセルモノナリ蓋シ日本案ハ漁業協約ハ尚其ノ効力ヲ存続シ居ルモノトシテ之カ改訂ヲ為サントスルモノナルモ露国側ニ於テハ右協約ハ既ニ其効力ヲ失ヘルモノトノ建前ヲ維持シ最近ノ漁区貸下ノ如キハ右協約ニ依レルモノニ非スシテ現行国内法ニ基キテ行ヘルモノナリ故ニ付則トシテ追テ新漁業協約成立ニ至ル迄ハ現今ノ漁区貸下法ニ依ルコト及魚族保護ニ関スル規定ニ依リテ漁業ヲ行フヘキ規定ヲ追加スルニ於テハ日本案ニ同意スヘシト答ヘタリ右ニ対シ本使ハ仮リニ漁業協約カ今日既ニ其ノ効力無キモノトスル観念ヲ基礎トシテ考ヘルコトトスル時ハ「ポーツマス」条約ハ露国側ニ於テモ其ノ効力ノ存続ヲ認ムル趣ナルヲ以テ同条約ニ基キ新漁業協約ヲ締結スルコトニ同意スル旨ヲ協約中ニ規定シ付属文書ヲ以テ露国側希望ノ如キ事項ヲ

規定スルコトナラハ同意シ得ヘシト述ヘタルニ「カ」ハ兎ニ角漁業協約ノ効力ハ之ヲ認ムルヲ得サル露国側ノ立前ナルモ然ラハ日本側ノ条文ハ其儘トシ付則トシテ新漁業協約成立ヲ見ルニ至ル迄ハ現ニ行ハルル方法ニ依リ漁業ヲ為スヘキコトヲ規定シ置キタシ右付則ノ文面ハ追テ作製スヘシト述ヘタリ

第三　「ポーツマス」条約並其他ノ条約問題

本使ヨリ我カ条文案中ノ第六条ニ関シ先方ノ意見ヲ叩キタルニ同条第三項ハ其儘ニテ可ナリ露国側ニ於テハ条約ノ改訂問題ハ成ルヘク一般的トシ度キ意向ニシテ然モ改訂スヘキモノハ戦前ノ条約ニ限リ戦争中ノモノハ廃棄セルモノナルコトヲ明カニシ置クヲ要ス尚「ポ」条約ニ付テハ露国側トシテハ極メテ一般的ノ書キ方ヲ選ヘル処同条約ハ其内容ニ於テ労農政府ノ主義ト容レサル点アリ例ヘハ朝鮮ノ如キハ露国ヨリ日本ニ譲渡セルカ如キコトトナリ居リ甚タ不愉快ナルカ故ニ追加規定ヲ以テ「ポ」条約ハ承認スルモ労農政府ハ該条約締結ニ関スル責任ヲ負ハサル旨ヲ付記シタシト述ヘタリ

第四　批准交換問題

本件ニ関スル我方改正条文案第十条ニ関シ本使ヨリ批准セラルル条文若ハ協約ノ例ニ顧ミレハ批准交換ノ後効力ヲ発生スルコトヲ原則トスル処何レノ途調印セハ直ニ批准ヲ為シ批准書ハ北京ニ於テ交換スルヲ得ヘキ旨ヲ説明セルニ「カ」ハ稍意外ノ面持ニテ批准ヲ行フニハ労農政府ノ手続トシテ書類ノ作成其他ノ為少カラサル日子ヲ要スルノミナラス更ニ批准書ヲ莫斯科ヨリ送付スルニ就テハ東京北京間ノ如ク短時日ニテ送達スルヲ得ス効力ノ発生迄非常ナル時日ノ経過ヲ見ルコトトナルヘク取極ハ単ニ協約ナルモ調印ト同時ニ効力ヲ発生セシムルコト諸般ノ事情ニ顧ミ好都合ニアラスヤト述フル処アリ

本使ヨリ名ハ協約ト言フモ内容ノ重大ナルニ鑑ミ且規定事項トシテモ例ヘハ第一条第二項ノ外交官ノ特権ニ関スル規定ノ如キハ普通通商条約中ニ規定セラルル処ニシテ通商条約カ普通批准セラルルニ顧ミ本協約亦批准ヲ必要トスルモノナルヘシト説明ヲ加ヘタルカ「カ」ハ批准交換迄諸般ノ手続ノ為ニ時日ヲ失フハ面白カラス依テ調印ト同時ニ効力ヲ発生スルコトトスルカ若ハ批准ノ終了ヲ互ニ電報ヲ以テ通知スルカ如キ弁法ヲ講スル必要アルヘシト述ヘ第一条ノ追加条項ノ如キハ是非日本側ニテ新ニ付加セル処ニシテ斯ノ如キ追加ノ続々現ハルルニ就テハ内心不安ノ念ニ堪ヘサル処ナリト繰返シタルカ本使ハ批准ノ結了ヲ電報ヲ以テ通知スル方法ニ就テハ先例ヲモ調査スルコトトスヘシト述ヘ置キタリ

四〇一　六月九日　松井外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

北樺太撤兵問題ニ関スル陸海軍側意向通報ノ件

別電　六月九日松井外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第三八六号
北樺太撤兵問題ニ関スル陸海軍側意向通知ノ件

第三八五号

貴電第三七三号所載北樺太撤兵ニ関スル露国側提議ニ関シ陸海軍側ノ意見ヲ問合セタル処陸軍ヨリハ別電第三八六号所載ノ趣旨ニテ取極ヲ希望スルト共ニ右ハ両国政府代表ニ於テ交渉スルコトト致度旨回答アリ又海軍ヨリハ今般ノ日露交渉成立シ油田、炭田其他ノ利権問題解決シ将来ノ経営上不安ナキニ於テハ海軍ノ関スル限リ撤兵ニ異存ナク且右

ノ場合成ルヘク速ニ撤兵スルコトトシ之ニ要スル期間ハ夏季約一ケ月秋季ハ概ネ天候不良ナル為約一ケ月半ニシテ冬季結氷期タル十月下旬ヨリ五月ニ至ル期間ハ実施不可能ナル旨回答アリタリ本件撤兵手続ニ関スル問題ハ爾余ノ問題ト関連シ先方ト論議スルノ必要到来スルコトトモナルヘキモ別ニ取急キ当方ヨリ先方ニ申入ルルコトハ如何ト思考ス兎ニ角右不取敢電報ス

（別　電）

六月九日松井外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第三八六号

北樺太撤兵問題ニ関スル陸海軍側意向通知ノ件

第三八六条　別電

薩哈嗹州派遣軍撤去手続及諸施設等引継ニ関スル議定事項

第一　日本軍ハ諸施設等ノ引継並撤収ニ伴ヒ左ノ区分ニ依リ北樺太ヨリ撤兵ス

東海岸方面地区　（完了期限九月上旬）

中部及西海岸方面地区　（完了期限十月下旬）

（注意）七月中旬以前ニ撤兵ヲ決定セラルル場合ニ於テハ前記完了期限ハ之ヲ繰上ケ得ルコトアルヘシ

交渉及引継遅延ノ為撤兵ヲ本年中ニ完了スルノ見込ナキ場合ニ於テハ已ムヲ得ス撤兵並軍政等ノ撤去ヲ来年ニ於テ行フ

第二　日本軍ハ撤兵ト同時ニ当該各地区ニ於ケル軍政ヲ撤去スルモノトス其ノ時期ハ予メ薩哈嗹州派遣軍司令官ニ於テ告示ス軍政撤去後当該各地区ニ於ケル治安秩序ノ維持等一切ノ責任ハ露国側ニ移ルモノトス

（注意）日本軍ニ代リ治安秩序ノ維持ニ任スル露国民警等ハ日本軍ノ撤兵前ニ在リテハ宿営力ノ関係上成ルヘク少数且逐次ニ渡来スルコト

第三　諸施設等ノ引継ノ為両国政府ハ委員ヲ任命ス

該引継委員ハ　月　日迄ニ亜港ニ会同シ引継ニ関スル細部ノ協定ヲ行フ

（注意）

一、日本側委員ハ薩哈嗹州派遣軍ノ職員及其ノ他所要ノ人員ヲ以テ組織ス

二、要スレハ東海岸方面地区引継委員ノ会同地点及時期ヲ定ム

第四　日本軍ノ押収物件ハ現在ノ儘露国側ニ引渡ス

日本軍カ施シタル交通、通信及都市等ニ於ケル諸施設、建築物並港湾付属設備等ノ一部ヲ追テ協定スヘキ条件ニヨリ露国側ニ譲渡スルコトアルヘシ（条件ハ我方ニ有利ナルヘシ）（編註）

編註　六月七日付津野陸軍次官ヨリ松平外務次官宛通牒ノ別紙「議定事項」ノ末尾ニハ「……付属設備等ハ有利ナル条件ヲ付シテ其ノ一部ヲ露国側ニ譲渡スルコトアルヘシ」トアリ

四〇二　六月九日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

差当リ取纏メ易キ問題ノ審議ヲ進メ交渉ノ停頓ヲ避クルヨウ訓令ノ件

第三八七号

貴方交渉ハ従来訓令ノ趣旨ニ依リ商議ヲ進メラルルコトハ固ヨリ差支ナキモ貴電第四七二号ノ如キ重大ナル問題ニ付テハ目下内閣辞表提出中ナル事態ニ顧ミ直ニ回訓スルコト困難ナルニ依リ右御含ミ相成度尚若シ右ノ結果双方ノ商議纏リ兼ヌルカ如キ事項ハ成ルヘク其ノ討議ヲ避ケラルルト共ニ差当リ取纏メ易キ問題又ハ案文ノ確定ヲ要スル問題ノ審議ヲ為シ交渉ノ停頓ヲ見サル様仕向ケラルルコト得策ナリト思考ス

四〇三　六月十日　松井外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

新内閣成立マデ帰朝ヲ見合セ交渉継続方訓電ノ件

第三九二号

貴電第四七九号ニ関シ

新内閣成立ノ上ハ何レ本交渉ニ関シ何等指示アルコトト思考スルニ付此際本大臣トシテハ貴使ニ於テ帰朝セラレス引続キ交渉ヲ進メラルルコト適当ト認ムルニ依リ右ニ御承知相成タシ

四〇四　六月十二日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

北京会談ノ懸案事項ニ関シ新外相ノ考慮ヲ仰ギタク卑見稟申ノ件

第四九八号　至急極秘

御新任早々日露交渉ニ関シ閣下ノ御考慮ヲ仰ギタク卑見左ニ稟申ス

㈠北樺太撤兵問題ハ露西亜側ニ於テ最重キヲ置ク点ノ一ニシテ仮令協約成立スルモ万一撤兵ニシテ実行セラレサルニ

於テハ露西亜側ニトリ協約締結ノ効果ヲシテ其一半ヲ失ハシムル次第ナルカ故ニ右撤兵ヲ迅速ニ行フコトニ対シテハ露西亜側ハ非常ニ重キヲ置クモノノ如シ而シテ最近ニ至リ日本新聞紙上往々尼港事件ニシテ充分満足ニ解決セラレサル以上北樺太ノ撤兵ハ実行シ難シ云々ノ趣旨ノ記事現ルルカ故露西亜側ハ恰モ日本ハ撤兵ヲ欲セサルカ故困難ナル条件ヲ提出セルモノナルカノ如ク解シ居ルモノニヤ大イニ神経ヲ悩マシ居ルモノノ如シ

御承知ノ通リ十月ニ入リテハ気候ノ関係上撤兵困難トナル次第ニ付九月迄ニ之ヲ完了スルコト望マシク旁々協約ノ成立モナルヘク速ニ実現セシムルコト必要ト存ス元来撤兵期限ハ最初最小限三ケ月ナリシ処今回最大限三ケ月ニ御修正相成リタル次第ナルカ此点ハ何トカシテ更ニ今一歩短縮方御詮議ヲ希望ス三毛中佐ノ談ニ拠レハ北樺太ニハ現在兵数約二千アリテ軍隊自身ノ引揚ハ勿論左程ノ日子ヲ要セサルヘキモ軽便鉄道無線電信兵舎軍需品等ノ撤回又ハ運搬ニ多大ノ日数ヲ要スルカ為此等ノ撤回又ハ運搬ノ完了迄軍隊ヲ止メ置キタシトノコトナルモ之ヲ大局上ヨリ考フルニ日露国交ノ回復ヲ計ラサル儀ナレハ格別国交ヲ回復シ協約ヲ締結シテ更ニ今後利権ノ経営ニ際シ成ルヘク露国側ノ好感ヲ得ル様努ムルコトコソ得策ト言フヘク撤兵ノ断行ヲ遅疑シテ恰モ未練ヲ残シ居ルカ如キ感想ヲ与ヘ不愉快ナル印象ヲ残サシムルハ極メテ不得策ト存ス一昨年ニ於ケル山東鉄道沿線ノ撤兵ハ（小幡王正廷協定）兎ニ角一ケ月ニテ之ヲ完了シタル次第ニテ況ンヤ貴電第三八六号第四ニ拠レハ日本軍ノ施シタル各種施設ノ中一部ハ露国側ヘ譲渡スヘキコトヲ予想シアルノミナラス協約成立ノ結果北樺太ニ於テ日本政府又ハ会社カ利権ノ経営ヲ為スニ当リ右施設中ノ一部引継キヲ望ム場合モアルヘク之等ノ事情ヲ篤ト考慮セハ主トシテ各種施設軍需品等ノ撤回運搬ノ為メ三ケ月ヲ要スルコトハ大ニ考慮ノ余地アリト認メサルヲ得ス加之各種施設及軍需品ノ撤回又ハ運搬ニ時日ヲ要スルコトニ対シテハ「カラハン」ニ於テモ首肯致シ居ル処ニシテ従テ軍隊ヲ先ツ撤退スルコトトシ施設及ヒ軍需品ノ管理ニ付テハ経理官及ヒ小数ノ相当軍人軍属ヲ居残ラシメ之ニ当ラシムルコトトスルヲ得ハ好都合ナリト思考ス

就テハ如上ノ次第篤ト御考慮ノ上撤兵期限ヲ可成一ケ月半位ニ短縮相成度如何ナル場合ニ於テモ二ケ月ヲ超過セサル様御詮議ヲ希望ス

㈠第一条ノ第二項ハ最近ノ御追加ニ係ル所謂通商条約中ニ規定セラルヘキ事項ニシテ而シテ通商条約ハ本協約案第五条ニ基キ追テ締結セラルヘキモノナルカ故ニ右第二項ノ如キハ此際本協約中ニ規定スル必要ナシト思考セラルルニ付之ヲ削除スルコトト致度シ（本規定ナシト雖モ通商条約締結ニ至ル迄相互外交官及ヒ領事官ノ待遇ニ付何等懸念ナシト思考ス又日露戦争後両国々交ヲ回復シタル「ポーツマス」条約中ニモ斯カル規定之ナシ）

㈡第四条北樺太利権問題ハ前大臣御訓令通リニシテ遺憾ナカラ到底本使ノ微力如何トモスル能ハス貴電第三九二号ヲ以テ本使一時帰朝ノ儀ハ之ヲ見合セ引続キ交渉スヘキ旨御来示相成タルモ右ハ本問題ニ関スル従来ノ御訓令通リ実行スヘシトノ御趣旨ナリヤ又ハ御訓令ヲ修正セラレントスルモノナリヤ否ヤ判明セサルニ依リ本問題ニ関シ往電第四八六号ヲ以テ申進タル卑見篤ト御考慮ノ上御採用アランコトヲ切望ス尚本問題ニ関スル往電第四七〇号ノ後半第四七一号第四七九号等ヲ御参照ノ上本使上申ノ案ノ如ク本省案ヲ修正セラルルカ又ハ事情御聴取ノ為メ一時帰朝ヲ命セラルル様御詮議ヲ希望ス

㈢第一条ノ第二項ハ最近ノ御追加ニ係ル所謂通商条約中ニ規定セラルヘキ事項ニシテ而シテ通商条約ハ本協約案第五条ニ基キ追テ締結セラルヘキモノナルカ故ニ右第二項ノ如キハ此際本協約中ニ規定スル必要ナシト思考セラルルニ付之ヲ削除スルコトト致度シ（本規定ナシト雖モ通商条約締結ニ至ル迄相互外交官及ヒ領事官ノ待遇ニ付何等懸念ナシト思考ス又日露戦争後両国々交ヲ回復シタル「ポーツマス」条約中ニモ斯カル規定之ナシ）

㈣第十条最近ノ御修正ニ依リ本協約ヲ批准セラルル御趣旨ニ拝承シタル次第ナルカ往電第四八〇号ノ第四ニテ申進メタル通露西亜側ノ批准ハ交通ノ関係其他ノ事情ノ為遅延スヘク旁批准ヲ交換シテ後初メテ効力ヲ発生セシムルコトニ対シテハ「カラハン」ニ於テ非常ニ反対シ居ル次第ナリ貴電第三七二号ノ三ニ依レハ「カラハン」ノ委任状ニハ批准ヲ要スルコトトナリ居リ且露国憲法ノ規定ニ依ルモ此ノ種内容ノ取極ハ批准ヲ要スルモノノ如シトノコトナル処右ハ其通リニ相違ナキモ露国側ニテハ本協約ハ調印ト同時ニ効力ヲ発生セシムルコトトナリ居リ露西亜側ノ批准ト我方ノ御批准トハ少シク性質ヲ異ニスルモノノ如ク思考セラル

協約締結ニ至ルモ批准交換迄ハ其効力発生セストセハ撤兵ハ非常ニ遅延シ本年内ニ之ヲ完了スルコト能ハサルニ至ルヘク露西亜側ニ取リ本協約締結ノ意味一半ヲ失フコトトナルヘシ元来今回ノ交渉ハ陛下ノ信任状ヲ拝受シタル次第ニハ非サルヲ以テ日本側ノ関スル限リ必スシモ批准ヲ要セスト思考ス（第一条第二項ヲ削除セントスルハ此ノ趣旨ニ出テタルモノナリ）尚本件ニ付テハ往電第四八二号モ是非御

閲読ノ上御批准ノ必要ナキコトニ御詮議ヲ請フ

(五)尼港事件陳謝

本件ニ関シテハ往電第四〇〇号及第四四七号第二報告ノ通「カラハン」ニ於テハ債権請求権ノ問題ニシテ満足ナル解決ヲ告クルニ於テハ尼港事件ノ解決方ハ成ルヘク本使ノ希望ニ副フ様尽力スヘシト明言セル次第モアリ且陳謝ノ文字ハ兎ニ角陳謝ノ文書ヲ提出セシムルコト丈ハ我方ニ於テ絶対ニ譲歩シ難キ旨始終本使ヨリ明確ナル態度ヲ示シ居レルニ付此ノ点ハ多分成功シ得ヘシト存ス但シ債権及請求権問題ニ関スル本使ノ解決案ハ貴電第一一五号最初ノ御訓令以上ニシテ即チ帝国政府ノ非常ニ厄介視セラルル西伯利出兵ニ基ク対抗要求ヲ棒引ニスルモノニシテ頗ル我方ニ有利ナル次第ニ付是非御採用アランコトヲ希望ス

(六)「ベッサラビア」議定書ニ付テハ御詮議中ト思考スルモ成ルヘク速ニ御電訓ヲ請フ

(七)北樺太不割譲声明ノ議ハ曩ニ往電第四三五号卑見ヲ上申シタルニ対シ貴電第三六六号ヲ以テ往電第三七六号中ノ「カラハン」ノ言説ヲ引用シテ御意見御回示ノ次第アリタル処「カラハン」カ先方提出協約案第七条ノ説明ニ於テ該

条項ニ依リ日露一方ノ安全ヲ脅スカ如キ実質ヲ有スル第三国トノ取極ヲ防止スルヲ希望シ居ル次第ナリト述ヘタルモ右ハ例ヘハ攻守同盟ヲ目的トスル条約ノ如キモノヲ指スモノニシテ日露一方カ自国ノ領土ヲ第三国ニ割譲シ又ハ租貸シテ相手国ヲ脅スヲ目的トスル条約又ハ協約ヲ指スモノニ非ス「カラハン」カ協約案ヲ提出スルニ当リ自国ノ領土割譲又ハ租貸ヲ予想セル条文ヲ作成スルハ夢想タモ為シ能ハサル所ナリ要スルニ本件ノ声明ハ提出セサルコトトスヘシ

(八)東支鉄道及松花江航行問題ニ関スル御訓令ニ付テハ往電第四二九号末段ヲ以テ卑見申上ケ置キタル通此ノ際之ヲ商議ノ題目ト為スモ徒ラニ交渉ヲ紛糾セシムル而已ニテ効果ヲ奏スルコト全然望ミナシト謂ハル而已ナラス松花江航行問題ノ如キハ寧ロ支那ト開談スヘキモノナリ又東支鉄道ニ付テハ露支協約ノ成立ニ顧ミ事実御訓令実行シ難シ旁樺太不割譲ノ声明ト同様ニ取扱フコトトスヘシ

(九)尚茲ニ一言付加致シ度キハ露国側ニ於テハ本交渉ノ開始スルト殆ト同時ニ養妻少佐、松井大尉以下ノ釈放、漁業査証官本邦派遣等ヲ決行シテ我方ノ甘心ヲ買フ積リナリシ処日本新聞紙上ニハ撤兵ノ容易ナラサルカ如キ報道、両軍人

ノ釈放セラレタル今日敢テ遠慮ヲ要セスト諷スルカ如キ記事散見スルト同時ニ帝国政府ヨリ本使ニ対シ強硬ナル電訓発送セラレタル旨ノ報道伝ハリ次テ本使ヨリ「カ」ニ対シ右報道ヲ確認スルニ足ルヘキ交渉ヲ為シタル為彼ニ於テ頗ル落胆失望ノ色ヲ示シ居レリ「カラハン」ノ態度ハ暫ク別トスルモ交渉ヲ纏メスシテ可ナルモノナラハ兎ニ角之ヲ纏メントセラルル帝国政府ノ御意向ナルニ於テハ此ノ際政府ニ於テ何トカ態度ヲ緩和セラレ実行不可能ナルモノハ之ヲ撤回セラルルコト絶対必要ト存ス乍僭越卑見禀申ス

四〇五　六月十三日　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

尼港事件ノ賠償トシテ北樺太利権ヲ詳細ニ規定シテ獲得セントスル方針ニ関シ意見具申ノ件

第五〇三号　（六月十四日接受）

尼港事件ニ関シ帝国政府ニ於テハ之ヲ無類ノ残虐事件トシテ取扱ハントシ従テ文字ノ上ニ現ハササルニセヨ其ノ意中ニ於テハ飽迄露国ヲシテ賠償セシムル見地ヨリ北樺太ニ於ケル利権ノ殆ト全部ヲ而モ具体的且詳細ニ基本協約中ニ規

定セントセラルル次第ナルモ露国側ニ於テハ我軍西伯利出兵中ニハ幾多ノ尼港事件同様ノ残虐行為アリタリト思考シ居ル始末ニテ此ノ両者ノ基礎観念ノ相違ニ依レハ彼我ノ主張ニ大ナル扞格ヲ生スル次第ナルニ付日露交渉ニ関シ御詮議相成際最モ重要ナル点ノ一トシテ徹底的ニ御考究アランコトヲ希望ス右ニ付テハ往電第四二九号第四七九号等ノ中ニ卑見申上ケ置キタル次第アルモ為念重ネテ禀申ス

四〇六　六月十四日　幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）

芳沢公使ノ一時帰朝許可方訓電ノ件

第四〇〇号

貴電第四九八号等ヲ以テ御禀申ノ諸点ニ対シテハ新内閣成立匆々ノ際ノコトトテ未タ回訓ノ運ヒニ至ラサル処貴使一時帰朝ノ件ニ付テハ既ニ屢々御禀請ノ次第モアリ当方ニ於テモ交渉ノ実情等ニツキ詳細聴取リ度ニ付館務ノ都合ヲ見計ヒ此際一時帰朝セラレタシ尤モ右ニ就テハ露国側ニ誤解ヲ抱カシメサルコト肝要ナルニ付「カラハン」ニ対シテハ新内閣成立ト共ニ種々打合セヲ為スヲ便トスル所政府ヨリモ直接事情聴取シタキ旨電報シ来レルニヨリ一時帰朝スル

モノナル旨適宜説明ヲ加ヘラレタシ島田ハ先方ト連絡ヲ保ツ必要モアルヘキニ付貴地ニ留メ置カレタシ

四〇七　六月十六日　三土農商務次官ヨリ
松平外務次官宛

北樺太ノ利権中漁業権獲得ニ関スル農商務省ノ見解申進ノ件

水第一三一三号

大正十三年六月十六日

農商務次官　三土　忠造（印）

外務次官　松平　恒雄殿

尼港事件解決ニ際スル北樺太利権獲得ニ関スル件ニ関シテハ五月三日付十二年鉱第一六八号ヲ以テ当省ノ意見申進候処該事項中漁業関係ニ付テハ若シ原案ノ通過絶対ニ困難ト被認候節ハ左記ニ依リ御交渉相煩度此段重ネテ申進候也

記

一、協定本文ノ一ケ条トシテ左記ノ趣旨ノ取極文ヲ置クコト

「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ露領薩哈嗹島ニ於テ現ニ日本国臣民カ経営スル漁区及製魚区ノ租借権、同島「ヌイオ」、「チャイオ」、「バイカル」湾及「アレキサンドル」港ニ於テ各一箇所ノ漁港ノ設置及其ノ使用権並該漁港ヲ根拠トシテ為ス漁業権ヲ本協定実施ノ日ヨリ九十九ケ年間（漁港設置ノ関係モアルヲ以テ可成長期タルコトヲ要ス）日本帝国及日本帝国臣民ニ許与スルコトニ同意シ日本帝国政府ハ同島ニ於ケル重要魚族養殖ノ為メ必要ナル施設経営ヲ為シ前記漁港ノ使用ハ日本国臣民ト同様ニ露西亜国人民ニ許与セラルヘキモノナルコトヲ約ス

前項ノ取極ニ関シ必要ナル細目ハ付属議定書ニ之レヲ定ム

二、付属議定書中ニ左記ノ趣旨ノ取極ヲ置クコト

イ、漁区及製魚区ノ租借権及漁港ヲ根拠トシテ為ス漁業権ノ行使ニ依リ得タル純益ノ百分ノ五ヲ其対価トシテ之ヲ露西亜国政府ニ納付ス

ロ、前記漁区及製魚区ノ経営並漁港ヲ根拠トシテ為ス漁業ノ経営ニ関シテハ使用労働者ノ国籍ニ制限ナク其他漁業ニ関スル一切ノ事項ニ関シテハ日露漁業協約ノ規定ニ準スルコト

ハ、漁港ヲ設置スヘキ地点及敷地ハ現場ニ付調査ヲ為シ別ニ之レヲ定ムルコト

前記漁港ノ設置及之レカ維持修築ニ必要ナル土、砂、礫、石、木材其ノ他諸材料ハ無償ニテ採取使用シ得ヘキコト

ニ、魚族ノ増殖ニ関スル施設トシテ日本帝国政府ハ毎年一千万尾以上ノ鮭ノ孵化放流ヲ「ツイミ」河流域ニ於テ行フコト

前記施設ニ必要ナル敷地ハ露西亜国政府之レヲ無償ニテ貸与シ又ハ採卵ニ供スヘキ親魚ノ捕獲ヲ認ムルコトホ、前各項ニ規定セラレサル事項ト雖本協定ニ関スルモノニ付テハ各締約国ハ相互ニ利便ヲ許与スルコトニ同意スルコト

四〇八　六月十六日　中里海軍省軍需局長ヨリ
広田外務省欧米局長宛

北樺太石油・石炭利権獲得ニ関スル海軍省ノ見解申進ノ件

軍需機密第三二号

大正十三年六月十六日

中里海軍省軍需局長

広田外務省欧米局長殿

北樺太利権問題ニ関スル件

本件ニ関シ別紙御参考迄ニ送付ス

一、石油石炭ノ利権地域ハ更ニ縮小スルノ余地ナキヤ

我方要求ノ石油利権地域ハ敢テ北樺太全土ニ亘ルニ非ス西海岸「ランゲリー」地方乃至東海岸油田南部ノ如キ之ヲ除外シアリ

元来石油利権ハ国防上産業上我国ノ最モ熱望セサルヲ得サルモノニシテ北樺太カ我ニ対シテ特ニ緊要ナル意義アルハ一ツニ石油カ此地ニ存在スルニ因ルモノト云フヘシ現時世界ノ列強ハ石油ノ新利権獲得ニ対シテハ殆ント熱狂的態度ヲ執リ外交ノ一半ハ石油ノ争奪戦ニ在ルハ吾人ノ面ノ当リ見ル所ニシテ現ニ世界産額ノ六割ヲ産出スル米国又ハ宇内ノ各地ニ石油産地ヲ領有スル英国ノ如キサヘ虎視眈々惟レ日モ足ラサラントス翻テ我帝国ニ在リテハ其ノ資源特ニ貧弱ニシテ産出額ハ平時海軍ノ所要量ニモ達セサル現状ヨリ観ルモ吾人ノ北樺太ニ期待スルモノ真ニ国情止ムヲ得サル

ニ出ツ其ノ今日迄政府ノ数百万円ヲ投シタル洵ニ故アリト云フヘシ

此見地ヨリスレハ石炭利権ノ如キハ第二義ニ位シ従属的ノモノト見ルヲ得ヘシ殊ニ同地ニ於ケル石炭ハ日本又ハ支那地方ニ於テ求メ得サル程優良ノモノニ非ラス実際稼行者タル三菱側ニ於テモ当分経済的経営ノ困難ナルヲ洩シ大ナル期待ヲ有セサルヤニ察セラル特ニ運輸可能期間ニ制限アルコト大量生産ニ対シテハ将来莫大ノ投資ヲ要スル上原価ハ其ノ割合ニ低下セス当分日本炭又ハ支那炭ト市場競争ノ見込立タサルモノノ如シ之ニ反シ石油ハ其ノ試掘時代ニ於テハ多大ノ危険アルモ一旦良油田ヲ発見シタル後ニ於テハ生産費低廉トナルノ利アリ

右ノ主旨ニヨリ当方ノ譲歩限度ヲ左ノ如ク予定ス

第二案

石油　原案通

石炭　南方界　北緯五十度
　　北方界　北緯五十一度三十分
　　東方界　海岸線ヨリ二十露里ノ距離ニ於テ海岸線ト平行ナル線

西方界　海岸線

第三案

石油　第二案同様

石炭　封鎖区域

二、利権企業ノ際先方ニ納付スル利益配当ハ修正ノ余地ナキヤ

三、利権企業ノ際課金ノ免除ハ絶対的ナルヤ

前掲二項ハ事業ノ経営難易ヲ支配スル要素ナルカ故ニ最モ慎重ニ考慮スルヲ必要トス而シテ之ヲ決定スルニ当リ先ツ利権企業ニ際シ果シテ幾何ノ利益アルヤヲ決シ其ノ利益ノ最大幾割迄ヲ先方ニ（種々ノ名儀ヲ以テ）与フルモ当方ハ尚有利ニ稼行ヲ継続シ得ルヤヲ確メ其ノ範囲内ノモノナラハ課金トシテ之ヲ与フルモ差支ナシトスル限度ヲ決定スルコト第一ナリ

利益ノ多少ハ市価ノ変動ニ依リテ左右セラルルカ故ニ当方トシテハ課金制度ニスルヨリモ利益配当制ニスル方其支払ニ困難ヲ来タスコトナク又利益カ例ヘ予定以上ニ甚シク大ナル時ニ於テモ当方ノ計算法ニ依リ純益金トシテノ計上額ハ如何様ニモ調節シ得ルノ利点アリ然レトモ当方ニ有利ナルモノハ先方ニ不利ナルカ故ニ先方トシテハ或ハ課金制ヲ主張シ来ルヤモ知レサルモ当方ハ全然之ヲ許サス若シ強テ課金制度ヲ強要スルニ於テハ利益配当トシテ最低金額ヲ協定スルコトニ当方ヨリ主張スルヲ可トセン斯クテモ先方ハ飽クマテ課金制ヲ採用セント欲セハ鉱区税鉱産税ノミヲ認メ其ノ他ノ課金（欄外記入）ハ一切之カ要求ヲ容レサルコトトシ前二種課金ヲ併セ前述最低ノ金額ヲ超過セサル如ク調節スルヲ要ス

尚課金制ノ当方ニ不利ナル点ヲ考慮スルニ大体左ノ如シ

利権地域ハ実際稼行地域ニ比シ甚タ広大ナルヲ以テ全地域ニ対シ鉱区税ノ如キモノヲ課セラルルハ事業未タ安定セス利益尠キ企業当初ニ在リテハ当方ノ負担ニ堪ヘサル場合ヲ生スヘシ故ニ極メテ低率ノモノトスルカ又ハ期限ヲ定メ企業後相当期間ヲ経過シタル後トスルカ或ハ鉱産額カ予定数量ニ達シタル後トスルカ或ハ企業経営ニ足ル出油地ニ対シテノミ課金スルカ何レカノ一法ヲ条件トスルヲ要ス

鉱産税ニ至ツテハ一般的ニ観レハ至当ナルカ如キモ内地ト異リ北樺太ノ如キ土地ニ在リテハ年額十万瓲以上ノ産出ヲ得ルニ到ラサレハ利益安定セス企業経営ノ基礎甚タ不安ナルヲ免レス従ッテ本課金ノ如キモ之ヲ課スルトセハ前述ノ如ク極メテ低率ノモノトスルカ又ハ期限或ハ数量ヲ其ノ条件トスル必要アリ

之ヲ要スルニ先方ニ与フル金額ハ其ノ名義ノ如何ヲ問ハス我カ利権企業ノ経営ニ対シ之ヲ与フルモ危険ヲ感セサル限度ヲ目安トセサルヘカラス

北樺太石油事業ハ現地諸種ノ関係上当分年産額十万瓲ヲ甚シク超過スルコト実際ニ於テ困難ナルノミナラス固定設備ニ多大ノ投資ヲ要スル割合ニ利益大ナラサルヤヲ想ハシムルヲ以テ差当リ年額十万瓲乃至二十万瓲程度ヲ以テ最モ経済的数量ト観ルヘシ

右ニ依リ年額十万瓲ヲ目途トシテ収支計算ヲ行フトキハ原油一瓲現地海岸渡約二十四円ノ原価トナリ運賃四円ト見テ内地渡原価約二十八円トナル而シテ最近七、八年間ニ於ケル加州原油（Be二十度平均）ノ内地渡価格平均三十五円ナルヲ以テ内地市価ヲ三十五円トシテ押エル時ハ一瓲ニ対シ純利益七円トナリ総利益七〇〇、〇〇〇円トナルカ故ニ固定資本四、〇〇〇、〇〇〇円運転資本一、〇〇〇、〇〇〇円合計五、〇〇〇、〇〇〇円ニ対シ利率約一割四分ニ相当ス

（註）固定資本四、〇〇〇、〇〇〇円ノ内容ハ大体油田調査ノ正味作業ニ費消シタルモノヲ見込ミタルモノニテ海軍三、〇〇〇、〇〇〇円北辰会一、〇〇〇、〇〇〇円ノ出資割合トセリ

而シテ石油事業ハ事業ノ性質上一般ニ一割以上少クトモ一割二分以上ノ利廻リトナラサレハ株主ヲ誘導スルコト困難ナルノ情況ナルヲ以テ純益ノ二割以上ヲ先方ニ与フルヲ得ス

即チ一瓲ニ付純利益七円ノ時十万瓲ヲ内地ニ輸送スル場合ハ総利益七十万円トナリ其ノ二割即チ十四万円ハ先方ニ与フルモ我ハ甚シク苦痛ヲ感セス

右十四万円ハ一瓲一円四十銭ノ割トナルヲ以テ先方要求ノ次第ニヨリテハ鉱区税及鉱産税ヲ併セ一瓲ニ付一円四十銭迄ノ課金ハ之ヲ許容スルモ差支ナカランカ但シ主義トシテハ飽迄利益配当制ヲ以テ進ミ課金制ヲ認メサルコトトスルヲ要シ万一課金制ニ同意スルノ不止得場合ニ於テハ利益配当ハ全然之ヲ許ササルコトトスルコト勿論ナリ

四、露国側ヨリ合弁事業ヲ提案シタル場合我ハ如何ニ之ヲ処置ス可キヤ

ノ必要ナキハ勿論ナリ

惟フニ労農政府ハ曲リ乍ラモ既ニ英伊ノ承認ヲ得最近更ニ露支条約ノ訂結アリ月ヲ経年ヲ重ヌルニ従フテ列強トノ国交ハ漸次恢復セラルルモノト見ルヘク斯クノ如クンハ彼ハ益々強硬ノ態度ヲ執リ反対ニ大正九年ノ尼港事件ニ対スル我国民ノ公憤ハ次第ニ其度ヲ弱メ後年ニ於ケル交渉ハ今次ノ交渉ヨリ一層譲歩的ニ陥リ易キ傾向ヲ帯フヘキハ蓋シ自然ノ趨勢ナランカ此見解ニシテ誤リナシトセハ今回交渉ヲ纏ムルコトハ我カ為ニハ好都合ト云ハサルヘカラス万一彼ノ提案スル合弁経営ニ同意セサルカ為交渉断絶ヲ来タスノ虞アルカ或ハ先方申出利益配当率カ明カニ合弁事業ニ比シ一層我ニ不利ヲ与フルカ如キ場合ニハ止ムヲ得ス合弁経営ノ主義ニ依テ交渉ヲ進ムルノ外ナシ此場合我ノ主張セサルヘカラサル要点概ネ左ノ如シ

一、合弁経営ハ日露人間ノ範囲ニ止メ第三国ノ参加ヲ許ササルコト

二、我ハ絶対多数株ヲ保持シ事業ノ管制権ヲ収ムルコト

三、鉱区利権等ハ出資額ニ計上セサルコト

四、露人ノ旧権利者例セハ「スタヘエフ」（先方ニテ之ヲ旧権利者ト認ムルヤ否ヤハ疑問ナルモ）ノ如キモノハ要スレハ先方ノ株主トシ株主トシテノ優先申込ミヲ許可セシムルコト

要之ニ合弁経営ニ対スル投資物ハ彼我共ニ現物提供払込ミノ主義ニテ交渉ヲ進行スルヲ必要トス但シ従来我政府及北辰会ノ投資金ハ払込ミ済ミノモノト見做スヘキハ勿論ナリトス

（欄外記入）
その他の課金　地税、海関税、消費税、その他の新税

四〇九　六月二十日（着）　在中国太田臨時代理公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

ステートメントノ発表及ビ北樺太利権問題ニ関シカラハンヨリ島田ニ対スル談話ノ件

第五二七号

芳沢公使ヘ

十七日「カラハン」ハ島田ニ対シ此際日露交渉ニ関連シ加藤内閣ニ対スル自己ノ希望ヲ「ステートメント」トシテ発表シ度キ処貴見如何尤モ其ノ書方ハ極メテ婉曲ト為シ日本側ニ於テ毫モ悪感ヲ抱カサル様致スヘク又右ハ日露間ノ難

石油利権ノ利用ニ関シ先方ヨリ合弁経営ヲ提案スルトセハ第一ニ考慮スヘキ点ハ合弁事業ノ利害得失問題ナルヘシ

国民性、風俗、習慣、思想等ニ於テ相異セル二国民カ単ニ営利ノ目的ノ為ニ結合団体ヲ形成スルモ其結合カ頗ル弱ク経営上多大ノ不利アルヲ免レサルト戦時ニ際シ国際関係ヲ複雑ナラシムルノ虞アルト更ニ利益ノ或ル部分ヲ日本以外ニ収メラレ惹テ国富ノ一部ヲ失フコト等ハ合弁事業ノ不利ナル点ナルモ外国領土ニ於ケル企業ニ於テ当該国国民乃至政府カ企業ニ参与スルコトハ財産ノ保護ハ勿論各種ノ点ニ於テ補助的援護ヲ受クル機会多キコト乃至第三国ノ利権割込者ニ対シテ日本ノミカ独占的ニ利権ヲ獲得スルモノニアラサルヲ立証シ我国ノ立場ヲ有利タラシムルコト又利益ノ配分ハ投資額ニ比例スルヲ以テ先方ニ配分セラルル利益ハ必スシモ無償ニテ提供セラルルニ非スシテ外資ノ多ケレハ随テ開発ヲ促進スルニ容易ナルコト等ハ寧ロ合弁経営ノ利点ト云フヲ得ヘシ

然レトモ其ノ根底ニ溯リテ之ヲ考察スルニ合弁経営ハ結局全部日本単独ニテ経営スルノ有利ナルニ如カサルハ明ニシテ合弁ノ利点ハ消極的ナルヲ以テ特ニ我ヨリ之ヲ提案スル

問題ヲ円満ニ解決シ以テ仏国新内閣ニ先ンシテ日露交渉ヲ成立セシメ度キ希望ニ基ク次第ナリト内話シタル由ナルカ本官ハ此際斯ル事ヲ行フハ面白カラスト認メ「カ」ニ於テ之ヲ思ヒ止トマル様十八日島田ヲシテ反対セシメ「カ」ハ一応承服シタル由ナルモ昨今当地通信員ヨリ頻ニ「カ」ヲ突キ居ルニ依リ或ハ通信員等ノ質問ニ対スル回答トシテ宣伝的発表ヲ為スヤモ知レス右御含置キアリタシ

次ニ「カ」ハ北樺太ハ之ヲ「モノポリー」的ニ日本ニノミ付与スル次第ニ非ス例ヘハ油田ノ如キ一部ハ露国政府自身モ開発シ度キ考ヘナリ条文ニ書キ現ハストセハ露領就中東部西伯利北樺太ニ於テ無償（「リゴマヌイエ」）及有利且長期ノ条件ニテ油田炭田森林漁業鉄坑等ノ利権ヲ日本ニ許与スヘシトシ度キ考ヘナリト云ヒ島田ヨリ然ラハ十六日芳沢公使ニ対スル言明ト相違スルニ非スヤト指摘セルニ「カ」ハ公使ニ対スル自分ノ言明モ右条文ノ如キ意味ナリシナリトテ十六日ノ言明ヲ訂正セル趣ナリ

四一〇　六月二十七日　幣原外務大臣ヨリ　在中国太田臨時代理公使宛（電報）

ステートメント発表問題ナドニ関スルカラハ

ンノ主張ニ対シ芳沢公使ノ見解進達ノ件

第四二三号
芳沢公使ヨリ
貴電第五二七号ニ関シ

一、「カラハン」ノ「ステートメント」発表ノ希望ニ付テハ同人ニ於テ加藤内閣ノ方針ヲ的確ニ承知セサル今日「ステートメント」ヲ発表スルモ如何カト思ハルルモ先方ノ意見ヲ発表スルコトハ強ヒテ之ヲ阻止シ難キノミナラス書キ振リ如何ニ依リテハ必スシモ差支アリトモ思考セラレサルニ付其辺前以テ先方ト篤ト了解ヲ遂ケ置カルルニ於テハ「ステートメント」発表セシメラレ差支ナシ

二、十六日ノ会見ニ於テ本使ヨリ利権ハ付テハ単ニ長期有利ナル条件云々位ニテハ我カ方ニ於テ到底承諾シ難ク当初ヨリ本使ニ於テ繰返シ堅ク主張セル通リ地域条件等ニ付テハ稍詳細ナル規定ヲ設クルコト丈ケハ飽ク迄固執スル次第ニ付此儀諒承アリ度キ旨ヲ述ヘタル処同人ハ之ヲ首肯シタル上自分モ莫斯科ニ進言スヘキ旨ヲ答ヘタル次第ニテ御来示ノ趣ハ或ハ多少右ト相違スルヤニモ見受ケラルルニ付同人ニ対シ島田ヲシテ本使ニ於テハ右ノ如キ了解ヲ以テ日本政府ト打合セヲ遂クル所存ニテ帰朝シタル次第ナル旨ヲ告ケシメラレ同人ニ於テ其態度ヲ変更スルコトナキ様注意ヲ喚起セシメラレ結果電報アリタシ

四一一　七月七日　幣原外務大臣ヨリ　在中国太田臨時代理公使宛（電報）

目下議会開会中ノタメ事務打合セニ更ニ時間ヲ要スル事情カラハンニ説明方ノ件

第四三一号
芳沢ヨリ

日露交渉ノ件ニ付テハ本使帰朝後大臣始メ当局ト精々打合中ナルモ何分目下議会開会中ニモアリ大臣始メ当面ノ事務ニ忙殺セラレ居ラルル為打合ハセ終了迄ニハ尚多少ノ時日ヲ要スヘキニ付其ノ辺ノ事情島田ヲシテ然ルヘクカラハンニ説明セシメ置カレタシ

四一二　七月九日（着）　在中国太田臨時代理公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

北京会談ノ中断状態ニ対スルカラハンノ危惧ノ念ニ対シ事情説明セシ旨報告ノ件

第五七九号　極秘

貴電第四三一号ニ関シ
芳沢公使ヘ左ノ通リ

御来示ノ次第ハ本官七月八日他用ヲ以テ「カラハン」ト会見ノ機ニ於テ然ルヘク「カ」ニ説明シタル処「カ」ハ一応謝意ヲ表シ且閣下ヘ「コンプリメンツ」伝達方依頼シタル上甚タ失礼乍ラ率直ニ申セハ日本政府ハ公使ノ利権問題ニ関スル主張ヲ聴キ日露両国間見解ノ余リニ差アルニ驚キタルモ去リトテ今更本交渉ヲ打切ルコトモ四囲ノ事情ニ鑑ミ不可能ナルヲ以テ「タクチック」トシテ此際種々ナル口実ノ下ニ公使ヲ長ク引止メ置キ不得要領ニ荏苒交渉ヲ遷延セシメムトノ底意ナラスヤト疑ハル現ニ昨日莫斯科ヨリ問合アリ右ト同様ノコトヲ莫斯科政府モ考ヘ居ル模様ニテ自分ハ公使帰任迄待ツヘキコトヲ約束シ行動ヲ束縛セラレ居ル関係上頗ル困難ナル立場ニ在リ近日中貴方ヘ「ノート」ヲ送ラムカト考ヘ居リタル際ナルカ一体本交渉ハ此儘停頓スル虞アルニアラスヤトテ本官ノ私見ヲ求メタルニ付本官ハ右危惧ノ全然無用ナルコト交渉ハ引続キ北京ニ於テ行ハルヘキモノト思考スルコト其他種々事情ヲ説明シテ誤解ヲ解クニ努メタル処「カ」ハ之ヲ諒トセリ

四一三　七月十日　幣原外務大臣ヨリ在中国太田臨時代理公使宛（電報）

芳沢公使ハ北樺太視察旅行ヲ終エテ帰任後北京会談ヲ再開スルニ付キ其ノ旨カラハンニ申入レルヨウ連絡ノ件

第四三六号

貴電第五七九号ニ関シ

芳沢公使ヨリ

本使滞京ノ永引キ居ル事情ハ前電ニテ御承知ノ通ナルカ政府ニ於テ北京交渉ヲ継続スルコトニ決定シ居ルコトハ過日外務大臣ノ議会演説ニヨリテ明白ニシテ交渉カ此ノ儘停頓スル虞ナキコトハ貴官説明ノ通ナリ尚本使ハ日露交渉ノ最重大問題タル撤兵ニ関シ実地視察ヲ為スコト適当ナルヲ認メ明十一日当地発二週間ノ予定ヲ以テ北「サガレン」ニ出張スルコトセル処右視察ヲ了ヘ帰京ノ上ハ直ニ帰任交渉再開ノ運ト相成ルコトト思考スルニ付貴官ハ重ネテ右ノ趣「カラハン」ニ説明セラレ先方ノ杞憂ヲ一掃スルニ努メラレ度シ

四一四　七月十二日（着）　在中国太田臨時代理公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

芳沢公使ノ北樺太視察旅行ノ効果ニ対スルカラハンノ懐疑的見解ニ付キ報告ノ件

第五九二号

貴電第四三六号ニ関シ

十一日本官「カラハン」往訪芳沢公使申越ノ次第（但シ撤兵問題云々ヲ一般事情実査ノ為ト云ヒ置ケリ）ヲ篤ト「カ」ニ伝ヘタル処同人ハ委細承知セル旨ヲ述ヘ且公使ノ厚意ヲ謝シタル上自己一個トシテハ公使カ此際貴重ナル時日ヲ費シテ北樺太ニ旅行セラレタリトテ実際上同地ノ交渉ニ如何程ノ効果アルヤヲ疑フモノニシテ交渉ノ将来ニ付益々悲観セサルヲ得スト付言セルニ依リ適宜其然ラサル旨ヲ反駁シ置キタリ尚同人ノ奉天行ニ関スル風説ハ事実ナリヤト尋ネタルニ然ラスト云ヒ差当リ何所ニモ旅行スル模様ナキモ同夜当地日本通信員ノ主ナルモノ「レベジェフ」ヲ招宴シタル際「レ」ハ通信員ニ対シ「カ」ハ芳沢公使ノ帰来ヲ便々トシテ待ツヤ疑ハシト宣伝シ居タル由ナリ

四一五　七月十四日　在中国太田臨時代理公使ヨリ幣原外務大臣宛

芳沢公使ノ北樺太視察ニ関スルカラハンノステートメント送付ノ件

公第二八〇号　（七月二十二日接受）

大正十三年七月十四日

在支那

臨時代理公使　太田　為吉（印）

外務大臣男爵　幣原　喜重郎殿

芳沢公使ノ帰任延引ニ関スル「カラハン」ノ「ステートメント」送付ノ件

芳沢公使北樺太視察ノ報ニ接シタル「カラハン」カ公使ノ帰任延引ニ関連シ「ステートメント」ヲ発表シタル次第及其内容ニ関シテハ既ニ東方通信其他ニ依リ御承知ノコトト被存候処右「ステートメント」原文写茲ニ及御送付候間御査閲相成度此段申進候也

In an interview with representatives at Peking of the Japanese press, Mr. L. Karakhan, Extraordinary Plenipotentiary Representative of the Union of Soviet Socialist Republics to China, made a statement to the following effect:

Mr. Karakhan considers that he does not know what motives actuated the Japanese Government in instructing Mr. Yoshizawa to go to Saghalien. Yesterday, Mr. Oota, Japanese Chargé d'Affaires, informed Mr. Karakhan that in view of the importance of the Saghalien question the Japanese Government has instructed Mr. Yoshizawa to make a study of the matter on the spot. However, Mr. Karakhan does not believe that a few days' investigation of Northern Saghalien could help the Japanese Government in the solution of the question.

If everything hangs on Mr. Yoshizawa having to investigate Saghalien on the spot, it means, Mr. Karakhan believes, that things are taking a bad shape. Mr. Karakhan has much sympathy for Mr. Yoshizawa's difficult position and wishes him good success, however, not so much in Saghalien as in To-

kyo. Mr. Oota's statement had to be merely taken to cognisance.

Mr. Karakhan regrets that the delay of the negotiations is continuing and that the restoration of relations is now being put off not from day to day, but from month to month.

The proposition of negotiations was handed by Mr. Yoshizawa to Mr. Karakhan in writing on the 22nd of March. Then, out of the four month or so that have elapsed since March 22, nine/tenths of the time were spent in interruptions and the waiting for instructions, while only one-tenth was taken up by negotiations.

Mr. Karakhan declined to answer to the query whether he would wait for Mr. Yoshizawa's return, saying that it would depend on when Mr. Yoshizawa would come back.

四一六　七月二十九日　北京会談ノ再開ニ当リ芳沢公使ニ対シ条約案

付キテハ露国側ニ於テモ大体我方ノ主張ニ異存ナキモノノ如クナルニ依リ別添条約案ノ通リ取極ムルコトトスヘク尚ポーツマス条約ニ付属スル満州ニ於ケル鉄道接続業務仮条約等双方ノ為等シク便益ナル協定ハ成ルヘク其ノ効力ヲ承認セシメ置クヲ可トスルニ付其ノ含ニテ然ルヘク措置アリタシ其他ノ条約及協定ニ付キテハ先方ノ意向ヲモ参酌シ単ニ将来ノ会議ニ於テ新事態ニ適応スル様之ヲ改訂シ又ハ消滅セシムルコトトセリ

三、通商条約ノ大綱ニ関シテハ我方ノ目的トスル所ハ来ルヘキ新条約ニ於テ一般通商航海ニ関スル保障ノ外入国居住財産ノ保有ニ関シテモ併セ規定シタルコト並右新条約締結ニ至ル迄ノ間ハ暫行的ニ本大綱ニ依リ両国国民ノ往来、居住及通商航海ノ関係ヲ律セムトスルコトトノ二点ニアリテ右ニ付最恵国待遇ヲ得ントスルニアル処最恵国待遇ノ一般的許与ニ関スル露国側ノ異議ハ相当強硬ナルカ如ク我方ニ於テモ亦労農露国カ旧露西亜帝国ノ一部ヲ構成シタル新興国又ハ特定ノ接境国ニ対シ付与スル特殊利益ニ強ヒテ均霑セントスル趣旨ニ非ルヲ以テ之等特殊利益ヲ除外シ事実上ニ於テ日露両国孰レモ接壌国以外ノ

等交付ノ件

付属書一　日本国及「ソヴィエト」社会主義共和連合国間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約

二　付属議定書㈠

三　付属議定書㈡

四　付属公文

日露交渉ニ関シ大正十三年七月二十九日芳沢公使ニ交付セラレタル訓令

過般来北京ニ於テ貴使カラハン閣ニ行ヒタル日露交渉ハ之ヲ継続シ左記諸項ノ趣旨ヲ体シ別添両国修好ニ関スル条約案及付属議定書案並付属公文案ニ依リ交渉ヲ取纏ムルニ努メラレタシ

一、別添中ニハ前記ノ如ク㈠日露修好ニ関スル条約案㈡付属議定書案及㈢付属公文案ヲ包含セル処右ハ尼港事件ニ対スル先方謝罪ヲ付属公文トシ其ノ他比較的ニ永久的性質ヲ有スル事項ハ之ヲ条約中ニ一時的又ハ特殊ノ性質ヲ有スルモノハ之ヲ付属議定書ニ規定セントスルノ趣旨ナリ尤モ付属議定書モ条約ト同一ノ効力ヲ有セシムルコトトシ其ノ旨各議定書ノ末尾ニ記載スルコトトセリ

二、条約問題中ポーツマス条約ノ承認及漁業協約ノ改訂ニ欧米各国又ハ支那ニ与フル権利、特権並免除ニ付テハ他ノ一方ノ締約国ニ之カ均霑ヲ許スノ趣旨ヲ以テ別添条約案第四条第三項ノ通協定スルコトトシタシ尚両国ノ経済関係ヲ調整増進スル為随時特別ノ商議ヲ両国政府間ニ為スヲ得ヘキコトニ取極メラルヘシ

四、宣伝ノ禁止ニ関スル事項ハ成ルヘク之ヲ明確ニ規定シ置クコト双方ノ為ニ利益ナルニ依リ別添条約案第五条ノ通リ之ヲ協定スルコトトシタシ

五、批准ニ関シテハカラハンカ有スル全権委任状ニ依ルモ交渉成立後批准ヲ要スルコトトナリ居ルノミナラス且交渉ノ内容重要ナルモノアルニ顧ミ条約ノ形式ニ取極メ批准ヲ経ルヲ適当トス尚往年労農政府ハ伊露協約ヲ調印シタルニ拘ラス之カ批准ヲ拒絶シタル実例モアルニ付事態ヲ明確ニスル為批准ヲ要スルコトトセリ但シ批准交換ニ日子ヲ要スル結果条約ノ効力発生時期ヲ遅延セシムルカ如キコトナカラシムル為メ先方ノ希望ニ応シ批准ヲ了シタル上ハ北京ニ於テ両国代表者ヨリ右批准完了ノ旨ヲ正式ニ通知スルコトニ依リ条約ノ効力ヲ発生セシムルコトトセリ

六、撤兵ニ関シテハ之ヲ議定書中ニテ声明スルコトトシタシ尤モ本件ハ先方ノ提議ニ応シ既ニ条約中ノ一条項トシテ露国側ニ提示シタル関係モアルニ依リ之ヲ我方声明トスルニ対シ露国側ニ於テ反対スル場合ニハ之ヲ約束ノ形式トスルモ差支ナシ

撤兵期間ハ必要ナラハ一ケ月半位ニ短縮スルコト不可能ナラサルヘク又撤兵地区ハ治安ヲ維持スル為直ニ露国官憲ニ引渡ス方針ナルカ本条ヲ先方ニ提出スル場合ニハ右期間ノ箇所ハブランクニテ提案セラレタシ蓋シ十一月以後ハ北樺太ヨリノ撤兵困難ナルヲ以テ遅クトモ九月中旬迄ニ本条約ノ効力ヲ発生セシムルニ非レハ本年中ニ撤兵スルコト不可能ナリ旁々先方ヨリ右撤兵期日ニ付問質ス場合ニハ曩ニ示シタル三ケ月ノ期間ハ之ヲ若干短縮シ得ト思考スルモ兎ニ角本年中ニ撤兵スルトセハ成ル可ク速ニ本交渉ヲ取纏メ且及フ限リ迅速ニ批准ヲ行フノ必要ナル所以ヲ説示シ以テ交渉ノ成行ニ応シ右期日ヲ示ス様致シタシ

但右期日ヲ取極記入セムトスル際ニハ予メ請訓セラレタシ

七、利権問題ニ付一般的規定トシテハ大体「カラハン」提案ヲ基礎トスル別添条約案第六条ノ通リニテ可ナルモ北樺太ニ於ケル或種利権ハ今次交渉ニ於テ我方ノ特ニ重キヲ置ク所ニシテ右ニ関スル協定ヲ単ニ目下露国側ノ主張スル如ク空漠タル約束ニ止ムルコトハ後日紛議ノ禍根ヲ胎スモノニシテ我方ノ重要視スル実質的利益ヲ確保スル所以ニ非ス又何レノ時期ニ於テカ協定スヘキ此種事項ハ此際之ヲ取極ムルコト寧ロ懸案一掃ノ趣旨ニ合致シ日露双方ニ好都合ナルヘキニ付此際詳細且明確ニ利権ヲ許与スル旨ヲ取極ムル様極力努メラレタシ尤モ本件ニ関シテハ先方ニ於テモ態度甚タ強硬ナルニ顧ミ利権ノ種類区域生産分配率其他ニ付従来ノ要求ヲ緩和シ別添議定書案(二)ノ通リ変更スルコトトセリ尚本案ニ記載ノ地域生産分配率其ノ他ノ条件等ニ付先方カ絶対ニ同意セサル場合ニハ改メテ請訓セラレタシ

八、尼港事件ニ関シテハ露国側ヲシテ我方付属公文案ノ通リ遺憾ノ意ヲ表セシムルヲ要ス

九、債権問題ニ関シテ露国側ニ於テハ我方ニ対シ現実ニ債権ヲ有スルコトヲ主張シ得サル実状ニ顧ミ片務的規定トシテ将来ノ解決ニ保留スルコトトシ差支ナシ

尚右債権問題ニ関連シ先方ハ請求権問題ヲ提起シ来ルヘク而シテ其中ニハ日本ノ西伯利出兵ニ起因スル損害ニ付要償セントスヘキ処右先方ノ主張ハ到底我方ノ容認シ得サル所ニシテ斯ノ如キ不当ナル要求ニハ応シ難キ旨ヲ説示シテ之ヲ拒絶シ双方ノ請求権ニ関スル問題ハ今次交渉ノ議題中ヨリ之ヲ削除シ条約又ハ議定書ニ於テモ本問題ニ付何等ノ記載ヲ為ササル様主張セラレタシ但シ先方ニシテ飽ク迄モ右ノ方法ニ不同意ヲ唱ヘ其ノ請求権ノ記載ヲ頑強ニ固執シ之カ為メ交渉ノ成否ニ関係スルカ如キ事態ヲ生シタル場合ニハ事情ヲ具シ更ニ請訓セラルル様致度シ

前記ノ如ク我債権問題ヲ将来ノ解決ニ保留スルハ全ク我方ノ譲歩ヲ示ス次第ナレハ露国側ニ於テモ互譲妥協ノ精神ニ依リ利権其ノ他ノ問題ニ付同様ノ譲歩ヲ為スノ至当ナルコトヲ篤ト説示シ北樺太利権問題等ニ付我方ノ有利ニ交渉ヲ取纏メラルル様致度シ

一〇、曩ニ大使館及領事館建物並其ノ付属品ノ引渡ニ関シ詳細ノ取極ヲ設ケントシタル趣旨ハ付属品等ノ引渡ニ付

後日紛議ヲ惹起スル事ヲ避ケントスルニ外ナラサリシモ右ニ付露国側ニテ異存アル以上強テ此種ノ問題ヲ固執スルノ必要ヲ認メサルニ付後日ニ至リ露国側ニ於テ右付属品等ニ関シ苦情ヲ提起セサルコトヲ前提トシテ之ヲ削除スルコトトセリ右ノ次第ハ先方ニ説示シ置カルヘシ

一一、第三国トノ間ニ軍事同盟ニ関スル条約又ハ協定其ノ他秘密協定ヲ締結シ居ラサルコトニ関シテハ別添議定書(一)案第四条ノ通互ニ之ヲ声明スルコトトシ差支ナシ

一二、帝国ニ接近セル露国領土ノ不割譲ニ関シテハ我方ハ北樺太ニ於テ各種利権ヲ獲得スヘキヲ以テ若シ同地方カ後日第三国ニ売却租借又ハ割譲セラルル事アルニ於テハ事態ヲ紛糾セシムルノ虞アリ其他勘察加地方ニ関シテモ我方ニ於テ漁業権ヲ有スル関係上又同様ナルモ此際斯ル要求ヲ提出スルハ徒ラニ交渉ヲ混雑セシムルニ過キスト認メラルルニ依リ之カ提議ハ見合セラレ度シ

一三、尚漁業協約ノ改訂ニ際シテハ先ニ訓令シタル通リ本邦漁業者ノ経営ヲ経済的ニ困難ナラシメサル様努ムヘキハ勿論ナルモ此際右ニ付露国側ヨリ何等言質ヲ得ルコトハ容易ナラサルヘキニ付右ハ提議見合セラレ度シ

一四、東支鉄道ニ関シテハ我方ニ於テ債権ヲ有シ又満鉄トノ接続関係上重大利害関係ヲ有スルノ外東支鉄道南線一部譲受ニ関シテハ日露間ニ協定成立セル等ノ事実アルモ此際本問題ヲ提議スルモ有効ナル結果ヲ得ルコト困難ナルヘキノミナラス交渉ヲ紛糾セシムル虞アルニ付後日条約改訂ニ関スル交渉ノ際等適当ナル機会ヲ待ツコトトシ此際ハ之カ提議ヲ見合セラレタシ

一五、黒龍江及松花江航行権問題ニ関シテモ前項ニ準シ之カ提議ヲ見合ハスコトトシタシ

一六、「ベッサラビア」ニ関スル列国協定ニ関シテハ露国側ハ英露会議ニ於テモ英国ニ対シ我ニ対スルト同様ノ希望ヲ申出タルカ如キモ英国ハ関係諸国ト協議スルコトナクシテ平和条約関係諸条約ヲ同会議ノ議題トナシ得サルコトヲ主張シ露国側ノ希望ヲ拒絶セル例アルニ依リ我方ニ於テモ本件ニ関スル露国側申出ハ之ヲ拒絶スルコトトシ可然

（付属書一）

日本国及「ソヴィエト」社会主義共和連合国間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約

日本国及「ソヴィエト」社会主義共和連合国ハ両国間ニ善隣及経済的協力ノ関係ヲ増進セムコトヲ冀望シ前記関係ヲ律スル基本的法則ヲ包含スル取極ヲ締結スルニ決定シ之カ為ニ

日本国皇帝陛下ハ　ヲ

「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ　ヲ

各其ノ全権委員ニ任命セリ

依テ各全権委員ハ互ニ其ノ委任状ヲ示シ其ノ良好妥当ナルヲ認メ以テ左ノ如ク協定セリ

第一条

両締約国ハ本条約ノ効力発生ト共ニ両国間ニ外交並領事関係ヲ設定スルコトヲ約定ス

第二条

「ソヴィエト」社会主義共和連合国ハ千九百五年九月五日ノ「ポーツマス」条約カ完全ニ効力ヲ存続スルコトヲ承認ス

千九百十七年十一月七日以前ニ於テ日本国ト露西亜国トノ間ニ締結セラレタル前記「ポーツマス」条約以外ノ諸条約、協約及協定ハ両締約国間ニ将来開カルヘキ会議ニ於テ審査ノ上新事態ノ要求ニ応シ改訂セラレ又ハ消滅セシメラルルコトアルヘキヲ約定ス

前項ノ規定ハ日本国及露西亜国ト共ニ他国カ調印国タル諸条約、協約及協定ニ対シ何等影響ヲ及ホスコトナカルヘシ

第三条

両締約国政府ハ本条約ノ効力発生ノ上ハ千九百七年ノ漁業協約及其ノ付属議定書並之ニ関連スル諸取極ヲ千九百五年九月五日ノ「ポーツマス」条約ニ従ヒ改訂スヘキコトヲ約定ス

第四条

両締約国政府ハ本条約ノ効力発生ノ上ハ左記ノ原則ニ従ヒ通商航海条約ヲ締結スヘク且右条約ノ締結セラルル迄両国間ノ一般通交関係ハ該原則ニ依リ律セラルヘキコトヲ約定ス

㈠両締約国ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ他ノ一方ノ法律ニ従ヒ其ノ領土内ニ至リ旅行シ又ハ居住スルコトニ付完全ナル自由ヲ有スヘク且身体及財産ノ安全ニ対シ常ニ充分ナル保護ヲ享有スヘシ

㈡両締約国ノ一方ハ其ノ領域内ニ於テ及フ限リ最モ広汎ナル範囲ニ於テ且相互条件ノ下ニ他ノ一方ノ臣民又ハ人民ニ対シ私有財産権及通商航海産業其ノ他一切ノ平和的業務ニ従事スルノ自由ヲ付与スヘシ

㈢両締約国ノ一方ハ他ノ一方ニ対シ前二項ニ掲ケタル一切ノ事項ニ付相互条件ノ下ニ於テ両締約国ノ孰レニモ接壌セサル別国又ハ両締約国ノ双方ニ接壌スル別国ニ対シ与ヘ又ハ与ヘラルヘキ一切ノ権利特権及免除ヲ供与スヘシ

前記権利特権及免除中ニハ各種ノ課金又ハ租税ニ関スル事項及貨物ノ輸出若ハ輸入ニ対シ国家ノ管理実施セラルル場合ニ於ケル之カ管理ノ緩和ニ関スル事項ヲモ含ムモノトス

両締約国政府ハ又両国間ニ於ケル経済関係ヲ調整増進スルノ目的ヲ以テ通商及航海ニ関スル特別協定ヲ締結スル為随時必要ニ応シ商議ヲ為スヘキコトヲ約定ス

第五条

両締約国ノ一方ハ㈠他ノ一方ノ政治上及社会上ノ制度ヲ破壊スルノ目的ヲ有スル宣伝ヲ行ハサルコト㈡同一ノ目

的ヲ有スル団体又ハ集団ヲ組織又ハ支持セサルコト及(三)自国ノ領土内ニ此種ノ団体又ハ集団ノ存在ヲ許ササルコトヲ約ス

第六条

「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ両国間ノ経済関係ヲ増進スル為其ノ領土内ノ富源ニ就キ日本ノ需要ヲ充タスノ目的ヲ以テ日本国政府、臣民又ハ法人ニ対シ「ソヴィエト」社会主義共和連合国ノ領土内ニ存在スル鉱山森林及其ノ他ノ富源ノ開発ニ関スル利権ヲ許与スルノ意思ヲ有ス

第七条

本条約ハ批准セラルヘシ

各締約国ノ批准ハ成ルヘク速ニ北京駐剳外交代表者ヲ経テ他方締約国政府ニ通報セラルヘク而シテ其ノ終ノ通報ノ日ヨリ本条約ハ完全ノ効力ヲ生スヘシ

正式ノ批准交換ハ成ルヘク速ニ北京ニ於テ之ヲ行フヘシ

右証拠トシテ両締約国全権委員ハ本条約ニ記名調印スルモノナリ

千九百二十四年　月　日

北京ニ於テ之ヲ作ル

（署　名）

（署　名）

（付属書二）

付属議定書　(一)

日本国及「ソヴィエト」社会主義共和連合国ハ本日両国間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約ニ署名スルニ当リ同条約ニ関連スル諸問題ヲ協定スルノ有益ナルコトヲ認メ両国全権委員ニ依リ左ノ諸条ヲ約定セリ

第一条

両締約国ノ一方ハ自国領土内ニ現存スル他ノ一方ノ大使館及領事館所属動産及不動産ヲ右他ノ一方ニ引渡スヘキモノトス

「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ在東京露西亜国大使館ノ敷地カ公共ノ目的ノ為又ハ都市計画ニ関連シ必要トセラルル場合其ノ全部又ハ一部ヲ日本国政府ニ返還スルニ同意ス但シ日本国政府ハ同大使館ヲ東京ノ他ノ場所ニ移転スルニ付「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニ対シ及フ限リ便宜ヲ供与スヘキモノトス

「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ日本国政府カ「ソヴィエト」社会主義共和連合国ノ領域内ニ日本国大使館及領事館ヲ設置スル場合適当ナル場所及建物ノ選定ニ付日本国政府ニ対シ及フ限リ便宜ヲ供与スヘシ

第二条

前露西亜国諸政府即チ露西亜帝国政府及之ヲ継承セル臨時政府ノ日本国政府又ハ臣民ニ対スル一切ノ債務ニ関スル問題ハ日本国政府ト「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府トノ間ニ将来開カルヘキ会議ニ於テ解決ノ為之ヲ留保ス但シ右解決ニ当リ日本国政府又ハ臣民ハ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府カ同様ノ問題ニ付他ノ何レノ国ノ政府又ハ国民ニ付与スルコトアルヘキモノヨリ不利益ナル地位ニ置カルルコトナカルヘシ

第三条

日本国政府ハ本議定書ノ効力発生ノ時ヨリ〇〇〇〇以内ニ日本軍隊カ北薩哈嗹ヨリ完全ニ撤去セラルヘク而シテ日本軍隊ノ引揚ケタル各地区ハ完全ナル主権ニ於テ直ニ「ソヴィエト」社会主義共和連合国ノ当該官憲ニ還付セラルヘキコトヲ声明ス

第四条

両締約国ハ何レモ第三国トノ間ニ他方締約国ノ主権領土権又ハ其ノ安全ヲ侵害又ハ脅威スヘキ軍事同盟条約若ハ協定又ハ其ノ他ノ秘密協定ノ現実ニ存在セサルコトヲ相互ニ声明ス

本議定書ハ同日調印ノ日本国及「ソヴィエト」社会主義共和連合国間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約ノ批准ト共ニ批准セラレタルモノト看做サルヘシ

右証拠トシテ両国全権委員ハ本議定書ニ記名調印スルモノナリ

千九百二十四年　月　日

北京ニ於テ之ヲ作ル

（署　名）

（署　名）

（付属書三）

付属議定書　(二)

日本国及「ソヴィエト」社会主義共和連合国ハ本日両国間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約ニ署名スルニ当リ北薩哈嗹ニ於ケル富源ノ開発ニ関シ特ニ取極ヲ為スノ有益

ナルヲ認メ両国全権委員ニ依リ左ノ諸項ヲ約定セリ

一、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ日本国政府ニ対シ何等ノ係累ヲ伴フモノナク㈠北薩哈嗹東海岸ニ於テ「ビリングヴォ」川口以北「シュミット」半島「トロント」湖以南東海岸線ヨリ幅員三十露里ノ地域ニ於ケル石油及㈡北薩哈嗹西海岸ニ於テ日露国境以北「ワンドキ」岬以南西海岸線ヨリ幅員二十露里ノ地域ニ於ケル石炭ノ開発ニ関スル利権ヲ許与ス但該利権ハ左ニ規定スル条件ニ従ヒ且本議定書ノ効力発生ノ日ヨリ五十五年間有効ナルヘキモノトス

二、日本国政府ハ前項ノ油田及炭田ノ経営ヨリ生スヘキ生産高ノ百分ノ五ヲ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニ年々交付スヘキコトヲ約ス

三、日本国政府ハ本件油田及炭田ノ生産物ヲ自由ニ処分スルコトヲ得ヘシ

四、日本国政府ハ本件油田及炭田ノ開発ニ必要ナル範囲ニ於テ北薩哈嗹ニ於テ伐木、港及鉄道ノ建設、輸油管ノ敷設、電気通信及其ノ他ノ施設ヲ為スコトヲ許サルモノトス

五、前記企業ノ各部面ニ於ケル労働者其ノ他従業員ノ雇傭ニ関シテハ何等ノ制限ヲ加ヘラルルコトナカルヘク又該企業ニ使用セラルル労働者ノ管理並組織ニ関シテハ「ソヴィエト」社会主義共和連合国官憲ヨリ何等干渉セラルルコトナカルヘシ

六、前記各項ニ記載スル企業、該企業ノ生産物並該企業ヲ経営スルニ必要ナル一切ノ物件及物資ノ輸出入ニ対シテハ何等ノ課金又ハ租税ヲモ賦課セラルルコトナカルヘシ

七、日本船舶ハ本企業ヲ経営スルニ必要ナル範囲ニ於テ日本国ト北薩哈嗹トノ間及北薩哈嗹ニ於ケル各港間ヲ往復シ且何等ノ課金又ハ租税ヲモ賦課セラルルコトナクシテ前項ニ規定セラルル生産物、物件及物資並該企業ニ使用セラルル人員ヲ運搬スルコトヲ許サルルモノトス

八、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ本企業ノ経営ニ必要ナル完全ノ保護、便宜及援助ヲ与フヘキモノトス

九、本議定書ニ依リ許与セラレタル各種利権ハ前記期間満了ノ際日本国政府及「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府間ノ合意ニ依リ更新又ハ改訂セラルヘシ

一〇、日本国政府ハ本件各種利権ヲ日本会社ニ譲渡スルコトヲ得ヘク右譲渡ヲ受ケタル日本会社ハ本議定書ニ規定スル日本国政府ト同一ノ権利ヲ有シ義務ヲ負フモノトス

本議定書ハ同日調印ノ日本国及「ソヴィエト」社会主義共和連合国間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約ノ批准ト共ニ批准セラレタルモノト看做サルヘシ

右証拠トシテ両国全権委員ハ本議定書ニ記名調印スルモノナリ

千九百二十四年　月　日

北京ニ於テ之ヲ作ル

（署　名）

（署　名）

（付属書四）

付属公文

本日日本国及「ソヴィエト」社会主義共和連合国間ノ関係ヲ律スル基本的法則ニ関スル条約ニ署名スルニ当リ「ソヴィエト」社会主義共和連合国全権委員タル下名ハ千九百二十年「アムール」河畔「ニコラエフスク」市ニ於テ行ハレタル残忍且罪悪的行為ノ事件ニ付茲ニ日本国政府ニ対シ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ノ誠実ナル遺憾ノ意ヲ表スルノ光栄ヲ有ス

千九百二十四年　月　日

北京ニ於テ

（署　名）

四一七　八月四日　幣原外務大臣ヨリ在英国林、在米国吉田臨時代理各大使、在奉天船津総領事宛（電報）

日露交渉継続ニ関スル件

大正十三年八月四日

幣原大臣

在英　林　大使

在米　吉田代理大使

在奉天　船津総領事

合第二三二号

日露交渉ノ経過ニ関シテハ曩ニ往合第一六六号ヲ以テ通報シ置キタル処現内閣成立ト共ニ交渉ノ実情等ニ付詳細聴取ノ為六月十四日芳沢公使ニ帰朝ヲ命シタル次第ナルカ其後

諸般ノ事情ニ付篤ト研究ヲ加ヘタル結果懸案ノ或ル点ニ付テハ要求ヲ緩和スルコトトシタルモ大体従来交渉ノ経過ニ基キ討議ヲ継続セシムルコトトシ旨ヲ同公使ニ授ケタルカ同公使ハ先月二十九日東京出発本月三日北京ニ到着シタルヲ以テ不日交渉再開ノコトトナルヘシ

（在英大使ヘハ）在欧各大公使ヘ転電アリタシ

（在奉天総領事ヘハ）哈爾賓、天津、上海ヘ転電アリタシ

四一八　八月五日　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

再開会談ニテ提出セル日本側新協約案ニ対スルカラハンノ反応報告ノ件

第六五七号　至急極秘　（八月六日接受）

八月四日本使「カラハン」ヲ往訪シ挨拶交換ノ後直ニ交渉ノ歩ヲ進メルコトトセル処諸般ノ問題ハ之迄既ニ一通リノ論議ヲ尽シ居リ此際更メテ一部ノ問題ヨリ談判ヲ始ムル時ハ非常ニ時日ヲ費スヘキノミナラス今回ノ御訓令中ニハ露国ニ於テ遽ニ同意シ難カルヘク思考セラルル点ナキニアラサルモ又比較的先方ヲシテ同意セシメ易キ点モアリ全体トシテ「アクセプタブル」ナル印象ヲ与フヘキニ顧ミ且交渉ノ主張ニ聴従シ得サルハ真ニ已ムヲ得サル処ナリ殊ニ利権問題ニ関シテハ其地域条件等ノ如キハ詳細ニ之ヲ規定シ置ク必要アルコトハ当初ヨリ本使ノ主張シ来レル処ニシテ単ニ長期有利ト云フカ如キ取極ニハ到底同意シ能ハサルコトニ付テモ亦再三貴方ノ注意ヲ促シタル処ナリ現ニ本使帰朝出発ノ際ニモ此点ニ関スル我方立場ヲ説明セルニ対シ貴下ニ於テモ之ヲ諒トシ其趣莫斯科ニ進言スヘシト言明セラレタリ

本件ハ要スルニ本使ニ於テ終始一貫シテ主張シ来タレル処ナリ本案ハ貴方ノ主張ニ比シ遙ニ詳細ナルコト勿論ナルモ従前ノ案ニ比スレハ種々ノ点ニ於テ遙ニ緩和セラレタルモノナルコトヲ発見スヘシ尚撤兵期間ニ関シテハ該条文審議ノ際説明スヘキモ之又従来ノ期間ヨリハ兎ニ角短縮シ得ヘキ意向ナル旨ヲ説明セリ

尚「カ」ハ従来自分ハ極力日本ヲシテ労農政府ノ立場ヲ諒解セシムルニ努力シ来タレルニ拘ラス今日尚斯ノ如キ日本側ノ提案ニ接シ切ニ自分ノ努力ノ足ラサリシヲ恥ツルノ外ナシ貴公使出発前ノ会談ニ際シ利権問題ニ関シ自分カ妥協的態度ヲ示セルコト事実ニ相違無キモ戦敗国ニモアラサル

ノ手順ニ付テハ本使ノ裁量ニ御一任ノ次第モアリ種々考慮ヲ重ネタル上「プレアンブル」ヲ除ケル協約案ノ全部ヲ提示スルニ決シ本協約案ハ外見ハ兎モ角其内容ニ於テ全然新規ノ提案ニアラサルコト並従来ニ比シ極メテ妥協的ノモノナルコトヲ説明ノ上各条別ニ協約案ノ全部ヲ提出シタリ

「カラハン」ハ我方提案ヲ一読ノ上日本側ハ従前未解決ノ問題ニ付テハ依然其主張ヲ固執シ居ルモノノ如ク殊ニ最モ難関タル利権問題ノ如キハ之ヲ長期有利トナス以上ノ譲歩ヲナス能ハサルコトハ既ニ屢次自分ノ力説セル処ニシテ一ニ日本側ノ主張緩和ヲ期待シ居レルニ拘ラス今日尚斯ノ如キ強硬ナル要求ニ出テラルルニ対シテハ殆ト挨拶ノ辞無キニ苦シム又撤兵期限ニ付テモ従来相互ノ主張ニ多大ノ懸隔アリ切ニ日本側態度ノ緩和ヲ期待シ居レル処本案ニハ期限ノ記入ナク日本側ノ真意ヲ諒解スルニ苦シム処ナリト一般的批評ヲ試ミタルカ本使ハ更ニ委細ニ本案ノ全体ニ亘リテ其内容ヲ研究スル時ハ如何ニ我方従来ノ主張ノ緩和セラレタルカヲ諒解スヘシ日本政府トシテハ問題ニ依リテハ出来得ル限リ妥協的態度ヲ以テ露国側ノ主張ニ接近スルニ努メタルモ或点ニ付テハ到底譲歩シ得サルモノアリ悉ク露国側露国トシテハ飽ク迄対等ノ立場ニテ日本ト交渉スルヲ必要トシ他ノ孰レノ国ニモ与ヘ得サルカ如キモノヲ仮令樺太ニ於テノミナリトモ之ヲ日本ニ許与スルヲ得ス殊ニ利権ニ関スル条件中ノ労働者ニ関スルモノノ如キハ露国ノ国内法ヲ変更セントスル要求ニシテ日本ニ対シ斯ノ如キ義務ヲ負担スル理由毫モ之無キ処ナリトテ極力利権ニ関シ詳細ナル規定ヲ設クルコトヲ回避セントスルノ態度ニ出テタルカ本使ハ利権ニ関シ日本カ斯ノ如キ要求ヲ為ス所以ノモノハ既ニ従来ノ会見ニ於テ充分説述セル処ニシテ現ニ貴方ノ協約案中ニモ特ニ利権ヲ許与スヘキ条項ヲ掲ケ居レリ既ニ利権ヲ許与スル以上ハ現実ニ之ヲ利用シ且後日ノ紛糾無カラシムル様地域条件等ノ詳細ニ亘リ取極ヲ為スコト当然ナリ率直ニ言ヘハ利権ノ問題ハ当初尼港事件ニ対スル賠償ノ意味ナリシ処貴方ノ主張ニ顧ミ賠償ノ意味ヲ削除セルモノニシテ利権ノ提供ニ就テハ貴方ニ於テモ異議無キ処ナリ依テ事業ノ経営ニ必要ナル規定ヲ設ケントスルモノニシテ日本政府ニ於テモ出来ル限リ露国側ノ面目ヲ傷ケスシテ協約ヲ成立セシメントシ従来ノ主張ヲ緩和シタル結果廟議ニ於テ今回ノ案ヲ決定セルモノニシテ本案ハ何等懸引ナキ日本政府ノ

決定ナルノミナラス従来交渉ノ成行ニ鑑ミ敢テ提案ノ全部ヲ提示セル次第ニ付其含ヲ以テ篤ト提案ノ内容ヲ研究アリ度キ旨ヲ説述セリ

然ルニ「カラハン」ハ我方提案カ閣議ノ決定ヲ経タルモノナリトセハ稍最後通牒的ノモノト解セサルヲ得スト述ヘ且利権ニ関スル規定ハ撤兵ノ代償ト云フカ如キ気味モアルニアラスヤト考ヘラレタル処右ハ将来ノ紛議ヲ避ケンカ為ナリトノ御説明ハ多大ノ興味ヲ以テ聴ケル処ナリ

尤モ後日ノ紛議ヲ避ケムカ為ニハ自ラ他ニ方法ナキニアラス又労農政府ハ日本ニノミ有利ナル条件ヲ以テ利権ヲ許与スルコト困難ナリトスルモ兎ニ角将来多数専門家ヲシテ懇談ヲ遂ケシメ得ヘク要スルニ露国側カ従来常ニ最小限度ノ提案ヲ為スニ反シ日本ハ常ニ最大ノ要求ヲ以テ露国ニ望マムトスルハ甚タ不満ナリトテ頻ニ不平ヲ鳴ラシ猶曩ニ提示セラレタル利権ニ関スル日本側ノ条文案ハ莫斯科政府ニ報告セサリシ処其後斯ノ如キ提案ハ之ヲ審議スルコトスラ不可能ナル旨ヲ報告セルニ莫斯科政府ハ自分ノ態度ヲ是認シ来レリ従テ自分ハ今日ト雖利権問題ノ詳細ヲ審議シ得サル束縛ノ状態ニ在ルヲ遺憾トスルト繰返セリ依テ本使ハ本案ヲ以テ作成セラレタルモノナルカヲ諒解アリタキ旨ヲ付言シ会見ヲ終レリ

〰〰〰

続トシテ現ニ行ハルル露国国内法ニ準拠スヘキヤ否ヤニ付テハ元来露国国内法ニ依ル現行ノ弁法ハ我カ漁業家ニ取リ不利益ナルヤニ聞キ及ハルルヲ以テ我カ漁業家ノ実際上ノ利害ヲ篤ト考慮スルノ必要アリ兎ニ角文面ヲ見タル上決定スルコトトスヘシト答ヘ「カ」モ之ニ同意セル処尚「カ」ハ日本漁業家トシテモ現行手続ニ依ル方却テ利益ナリト述ヘタルカ本件ニ関シテハ往電第四八〇号御参照ノ上前記(一)(二)ノ先方申出ニ対スル諾否ニ関シ何分ノ儀御回示相成リタシ

第四条ニ付「カ」ハ其(二)中段「レシプロシティ」ノ次ニ in accordance with the laws of the country ノ一句ヲ挿入シタシト提議シ本使ハ右ハ一見尤モノ申出ト思考シタルモ此ノ種ノ事柄ハ何レ通商条約商議ノ際仔細ニ審議サルヘキモノナル而已ナラス相互主義ヲ条件トスルモノナルカ故ニ此ノ際国内法ニ従フヘキ旨ヲ掲クルニ及ハサルヘキヲ説示セルニ「カ」ハ相互ノ国内法上外国人ニ許与スル権利ノ範囲ニ自ラ広狭ノ差アルヲ以テ国内法ニ基キ且相互主義トスルニ非サレハ不公平ナル結果ヲ免レサルヘシト主張シ本使ハ日露国交回復後ハ日本人ノ浦塩又ハ欧露ニ行ク者鮮カラサルヘク旁居住営業ニ関スル規定ハ相当重要ナルヲ以テ本使ニ於テモ篤ト研究スヘキ旨答ヘ置キタリ就テハ貴方ニ於テモ御研究ノ上本件先方申出テノ文句挿入方ニ付追テ何分ノ儀御回示アリタシ

次ニ「カ」ハ第四条ノ(三)ハ全部之ヲ承認スルヲ得ス蓋本条約ノ趣旨タル最恵国条款ニ付テハ露国側トシテ到底承認シ難キ事情ハ曾テ（往電第四一九号参照）詳細ニ亘リ其ノ理由ヲ説明シタル通ニシテ当時貴公使ヨリ彼我双方ノ主張ヲ参酌セル提案アリ右提案ハ之ヲ莫斯科政府ニ報告シタル処莫斯科ヨリ右提案ノ趣旨ナレハ承認スルモ差支ヘ無シトノ回訓アリ旁今更新提案ニ付莫斯科ニ請訓スルヲ得スト主張シテ止マス之ニ対シ本使ハ貴下ノ只今ノ御説明ハ全ク意外トスル処ニシテ実ハ帝国政府ニ於テハ貴下ノ主張ヲ尊重シテ第四条ノ(三)ヲ作成セルモノニシテ之ニ対シ不満足ヲ述ヘラルルハ了解シ難シトテ我カ提案カ「カラハン」ノ希望ト合致セル次第ヲ詳細説明シ尚「カ」ニ於テ本項ニ反対スル所以ハ莫斯科政府カ既ニ曩ニ本使ヨリ提議セル案ニ同意セル為ナリヤ将又我方新案ノ実質ニ異議アル為ナリヤ尋ネタルニ「カ」ハ本項ノ実質ニモ反対ナリ惟フニ本項ヲ設クルノ結果極メテ複雑ナル関係ヲ生シ将来意外ノ紛糾ヲ招ク事ナキヲ保セストテ強硬ニ其ノ主張ヲ固持シ結局之ヲ後日ノ論議ニ留保セリ尚「カ」ハ第三(四?)条末段ニハ大体異議無キモ或ハ字句ノ修正ヲ申出ツル事アルヘキヲ付言セリ

就テハ第四条(三)ニ関スル先方ノ態度ニ関シ御意見ノ次第承知致シタシ

次ニ「カ」ハ撤兵ニ関スル「プロトコール」(a)第三条ノ規定ヲ協約本文ノ第二条ト為シ且「声明」ニ代フルニ shall completely withdraw ナル文句ノ形トシ度キヲ提議セルカ本使ハ本使ノ関スル限リ各提議ニ対シ差シテ異存無キモ元来本条ヲ「プロトコール」トセルハ撤兵問題ノ如キハ一時的性質ノモノニシテ本協約中ニ掲ケルニ及ハサルモノナルカ為ナルト本件ハ元来尼港事件謝罪ニ関スル条文ト密接ノ関係アリ従テ撤兵ニ関スル条文ヲ本文ニ移ス時ハ尼港事件ニ関スル付属書モ亦本文中ニ併置セサルヲ得サルコトトナルヘキ所此種一時的性質ノモノト共ニ本文ニ掲ケサルコト適当ナルヲ以テ撤兵ニ関スル条文中ノ声明ナル文句ハ露国側希望ノ通リ変更スルコトトシ尼港事件ニ関スル条文ト共ニ本文中ニ移ササルヲ妥当トスヘシト述ヘタルニ「カ」ハ尼港事件ハ審議未了ノ件ナルヲ以テ本件ハ重ネテ考慮ノ上決定スルコトトシタシトテ俄カニ論議ノ歩ヲ進ムルコトヲ回避シタリ終リニ「カ」ハ執拗ニ撤兵期間ニ関スル質問ヲ反覆シ今回日本側カ其期間ヲ明示スルヲ避ケントスル態度ヲ非難シ右期間ニ付テハ已ニ十分ノ予想モ付キ居ルニ相違ナキニ拘ハラス強テ之ヲ示ササルハ極メテ不誠実ナル懸引ノ魂胆ナリトテ期限ノ記入ヲ迫リテ已マサリシカ本使ハ撤兵ノ実行ハ北樺太ノ気候ト協約ノ効力発生時期如何ニモ依ル次第ナルヲ以テ成ルヘク速ニ協約ヲ成立セシムルコト最緊要ナル所交渉ノ進行如何ニ依リテハ協約成立前適当ノ時機ニ於テ期限ヲ記入シ得ルニ至ルヘシ但其期限ハ従来主張ノ三ケ月ヨリモ多少短縮シ得ヘキ見込ナル而已ナラス帝国陸軍ニ於テモ出来得ル限リ迅速且完全ニ撤兵セントスル誠意ヲ有スルモノナルコトハ本使ノ保証スル所ナルヲ以テ一ニ本使ノ言明ニ信頼セラレタキ旨ヲ説示シタルカ「カ」ハ日本軍憲ト雖モ敢テ撤兵セサル意向ナリトハ考ヘ居ラス分カリ居ルモノヲ示ササルハ諒解ニ苦シム所ナリト繰リ返シタル後散会セリ

四二〇　八月七日　幣原外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

日本側ノ協約案ニ対スルカラハンノ異論ニ対シ回訓ノ件

第四九八号　極秘

貴電第六五九号ニ関シ

漁業協約ノ改訂及通商航海条約ノ大綱ニ関スル事項ニ就テハ別ニ電報スヘキ処

一、協約案第二条第一項「ポーツマス」条約ノ効力ハ完全ニ之ヲ承認セシムルヲ要スル次第ニシテ若シ右承認ノ効力ヲ弱メ又ハ不逞鮮人ノ運動ニ気勢ヲ添フルカ如キ影響アル趣旨ノ文句ヲ追加的規定トシテ条約中ニ挿入スルコトハ我方ニ於テハ到底之ニ同意シ難キニ付右ノ御含ニテ可然応酬アリタシ

二、同条第三項ノ規定ハ元来性質上当然ノ事項ナルモ為念規定ヲ設ケタルモノナルノミナラス本条約案ハ両国間限リノ関係事項ノミヲ規定スルモノナルニ付露国側ニ於テ強テ之カ削除ヲ希望スルニ於テハ先方ヲシテ前記ノ趣旨ヲ認メシメタル上之ニ同意セラレ差支ナシ

三、「ポーツマス」条約以外ノ条約協定ノ効力ニ関シテハ将来両国間ノ協議ニヨリ改廃セラルル迄ハ我方ニ於テハ有効ニ存続スルコトノ趣旨ニテ立案セルモノナルニ付此等ヲ当然効力ナキモノナリトスル先方ノ主張ハ我方ニ於テ之ヲ承認スルモノニ非サル旨ヲ明ニセラレタシ

四、撤兵ニ関スル事項ニ就テハ露国側ノ希望通リ我政府ノ声明ノ形トセサルコトニハ異存ナシ但シ我カ法制上軍ノ統帥権ハ大権ニ属シ政府カ軍隊ヲ動カス形式トナスハ適当ナラサルニ付我英文案 that 以上六字ヲ削リ Japanese troops shall be completely withdrawn ト書キ改ムルコトトセラレタシ尚本件ハ貴使説明ノ如ク一時的ノ規定ナレハ可成議定書ニ記載スルコト適当ト認ムルノミナラス議定書モ条約ト効力ニ差異ナキコトナレハ其旨篤ト説明セラレタク尤モ強ヒテ条約中ニ入ルルコトヲ希望スル場合ニハ本件ハ元来尼港事件陳謝ト密接ノ関係アルニ顧ミ右両者ヲ共ニ条約本文中ニ移スヲ要ス尚其ノ場所モ両者ヲ並ヘ記載スルコトトセラレタシ

四二一　八月八日（着）　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

利権問題等ニ関シクルイシコノ島田ニ対スル談話報告ノ件

第六六三号　極秘

八月七日朝島田ハ偶然「ホテル」ニ於テ同宿中ノ「クルイシコ」ト会見シタルヲ以テ島田ヨリ「ク」ニ対シ支那側トノ交渉ハ開始シタル次第ナリヤト尋ネタルニ「ク」ハ目下準備中ニ属スト答ヘ次テ島田ヨリ貴下ハ日露交渉ニハ関係セラレサルヤト問ヘルニ「ク」ハ日露交渉ハ従来ノ行懸モアリ引続キ「カラハン」氏専ラ之ニ当ルヘシ自分ハ大体之ニ干与セサル方針ナリト答ヘ続テ実ハ昨六日ノ本使「カ」会談ニ於ケル利権問題ニ関シ「カラハン」ヨリ篤ト承知シ労農側ニ於テ慎重該問題ヲ審議考量ヲ加ヘタルカ自分一己ノ考トシテハ

㈠利権契約ノ締結ハ在莫斯科利権委員会ノ管掌スル所ニシテ「カ」ニ於テ之ヲ為スコト能ハス

㈡既ニ数年前ヨリ北樺太ハ日本軍ノ支配内ニ在リ露国官憲ハ何処ニ利権アリヤ更ニ知ル所ナシ従テ目下ノ処技術上利権契約条件ヲ定ムルコト能ハス

㈢労働規定ヲ適用セストスルカ如キ日本側ノ条件ハ露国ノ到底承諾シ得ル所ニアラス若シ之ニ応センカ恰モ奉天長春間鉄道沿線ニハ日本人ノミアリテ横暴ヲ極メ居ルト同様北樺太ノ東西両岸一帯ニハ日本人ノミ活動シ露国人ノ影ヲ見サルコトトナルヘシ

㈣日本側案ニハ産出高ノ四分(五?)ヲ労農側ニ交付ストノコトナルモ其ノ「パーセンテイジ」ニ関シテハ利権政策ノ見地ヨリ各個ノ場合ニ応シ各別ノ契約ヲ為スヘキモノニシテ或ハ一割以上トナルコトモアリ得ヘク漫然一括シテ五分ト言フカ如キハ利権政策カ商業的見地ヨリ立テラレ居ルニ顧ミ到底不可能ノコトナリ

㈤日本側ノ案如何ニモ高圧的ニシテ之ヲ見タル露国側トシテハ精神上多大ノ不快ヲ感スルモノナリ日米関係ノ不良ナル今日日本ハ露国ヲ友トセサルハ自分ノ誠ニ意外千万トスル処ナリ

㈥本来露国側ハ日本側ニ利権ヲ与ヘスト言フニハアラス将来一定ノ期限迄ニ契約ヲ締結スヘシト言フニ在リ日本側ノ不安ヲ除去スルニハ自ラ他ニ弁法モアラム云々ト思考スト語レリ

右ニ対シ島田ハ日本人中ニハ「カラハン」氏ニ於テ撤兵期

限ヲ大体見積リ置キ日露協約ノ締結ヲ出来得ル丈ケ長ク引延ハシ間際ニ至リテ急遽譲歩的態度ニ出ツルモノト観察シツツアルモノモアリト言ヘルニ「クルイシコ」ハ右ハ必ス誤解ナルコトヲ言フヲ憚ラス自分ハ「エストニヤ」トノ交渉ニ際シ「ヨッフェ」氏ノ書記官タリシコトアリ「ヨ」氏ハ小出（コダン）主義ヲ以テ交渉ヲ行フヲ常トセシカ「カラハン」氏ハ之ト異リ散兵線主義ノ外交官ナリ右ハ「カ」氏カ当初日本側ニ対シ一括露国側ノ提案ヲ示シタルニテモ明ナリ又「カ」氏カ懸引シテ最大限度迄引延ハサムトスルカ如キ意志ナク寧ロ此際急速取片付ケタキ意向ナルコトハ「カ」氏カ八月四日以来連日芳沢公使ト会見シ居ルヲ以テモ明ナリト述ヘタリ

次テ島田ハ自分ハ北樺太ノ利権ニ就キ知ル処少キモ油田ノ如キハ日本側ノ既ニ調査中ニシテ中ニハ現在試掘乃至再掘中ノモノモアルヤニ聞キ居レリ従テ日本側ニ於テ撤兵後モ引続キ右試掘採掘ニ従事シタキ意向モアラスト思考（ソウ？）ス協約成立シ撤兵終了シ追テ利権契約締結ニ至ル迄事業ヲ中止放置スル能ハサルナリ又露国側ニ於テ利権ヲ将来之ヲ与フヘシト云ハルルモ油田ノ最モ良好ナルモノハ露国側ニテ国有トナシ又ハ「シンクレヤ」利権契約カ復活サルル等ノ為結局日本側カ最モ不良ナル利権ヲ提供セラルルノ破目トナル無キヲ保セス之即チ日本側カ今ニ於テ一括利権ヲ得タシト希望スル所以ナラント思考スト云ヘルニ「クルイシコ」ハ撤兵終了ノ時ヨリ追テ利権契約締結ニ至ル迄同地ニ日本側ノ試掘乃至採掘中ノ油田其他ニ付テハ別個ノ暫行取極ヲナスコトヲ得ヘシ願クハ日本側ニ於テ具体的ニ何処ニ存在スル如何ナル利権ヲ希望セラルル次第ナリヤ具体的ニ示サレタシ又不良ナル利権ノミヲ日本ニ付与スルニ至ルヘシトノ疑惧ニ関シテハ目下ノ処露米関係ハ日露関係ヨリモ不良ナレハ日本側ニ不利益ナル利権ヲ与ヘテ他国ニ良好ナル利権ヲ与フルカ如キコトアリ得ヘカラス殊ニ日露協約カ露米協約ヨリモ先ニ成立スルニ於テハ利権問題カ必然日本トノ間ニ先ニ論セラルルニ至ルヘキナリ但シ独占的利権ヲ日本ニ与フルカ如キハ絶対ニ不可能ナリ試ニ日本側ノ提案ニ基キ北樺太地図ニ赤色ノ記入ヲナサンカ露国ハ北樺太ヲ失ヒタルト同一ノ感ヲ抱クナルヘシ日本側トシテモ充分露国側ノ蒙ル精神上ノ打撃ニ多大ノ注意ヲ払ハレンコトヲ望ム云々ト述ヘタリ

四二二　八月八日（着）　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

利権ニ関スル日本ノ要求等交渉内容ヲ公表シタシトノカラハンノ意見ニ対スル応酬振リ報告ノ件

第六六六号　至急極秘

八月六日ノ会議ニ於テ「カラハン」ハ協約案ノ審議ニ入ルニ先チ一言シタシト前提シ昨今日露交渉ニ対シテハ両国民トモ多大ノ注意ヲ払ヒ殊ニ利権問題ハ一般ニ本交渉ノ成否ヲ決スル問題ト観察セラルルニ至リタルカ此際自分トシテハ利権問題ニ付日本ハ如何ナル要求ヲ為シ居ルヤニ関シ露国国民ニ正確ナル智識ヲ与ヘ置ク必要ヲ認メ依テ之ヲ自国ノ言論機関ニ発表シタキ考ナリト申出テタリ右ニ対シ本使ハ日本新聞ノ本問題ニ対スル報道ハ多クハ政府筋ヨリ出テタルモノニアラスシテ大抵根拠乏シキ想像ニ出テ政府トシテハ鮮ナカラス迷惑ヲ感シ居ル次第ニテ世間ニ於テモ之等ノ記事ニ対シテ余リニ重キヲ置キ居ラス然ルニ今之ヲ公報トシテ露国新聞ニ発表セラルルニ於テハ其確実性ニ顧ミ日本新聞モ之ヲ転載スヘキヲ以テ日本ノ輿論モ亦刺戟ヲ受ケ互ニ感情ニ走ルヲ免カレサルヘク之カ為メ或ハ予見セサル事態ヲ発生シ延テ交渉ニ累ヲ及スコトナキヲ保セス是レ本使カ貴下ノ提議ニ同意シ難キ所以ニシテ日本政府モ亦貴下ノ申出ニハ必ス反対ナルヘク旁々切ニ貴下ノ再考ヲ希望スルモノナリ猶曩ニ本交渉開始ノ当初本使ヨリ交渉ノ内容ハ互ニ之ヲ発表セサルコトトスヘキヲ提議セルニ対シ当時莫斯科政府ニ於テモ之ヲ承認シ爾来右ノ約束ハ今日迄大体満足ニ守ラレ来レル所今ヤ利権問題ハ重大ナル交渉案件トナレル際之ヲ一般民衆ニ発表セントスルハ不測ノ障碍ノ為交渉ノ成功ヲ害セラルルコトナカラシメントセル当初ノ約束ニ背クコトトナルヘシ尤モ英露会議ノ例ニ倣ヒ或程度ノ「コンムニケ」ヲ発表セントスル趣旨ナラハ一応政府ニ稟請スルモ差支ナキ処唯一方的ニ交渉ノ内容ヲ発表セントスルニ対シテハ必スヤ日本政府ニ於テ同意セサルヘシト信スル旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ日本新聞紙ハ想像ニ基ケル記事ヲ掲ケ居ル趣ナルモ最近「ルーター」通信ノ如キハ利権ノ内容ニ関シ極メテ正確ナル報道ヲ伝ヘ居ルニ顧ル時ハ東京ニ於テハ何人カ交渉ノ内容ヲ発表スルモノアリト想像スルヲ得ヘク独リ露国側ノミ秘密厳守ノ束縛ヲ受クル理由ナク

進ンテ世間ノ誤解ヲ解クノ権利ヲ有セサルヘカラス殊ニ最近日本新聞紙上自分ニ対スル攻撃的記事鮮カラス日本ハ毫モ過大ノ要求ヲナシ居ルモノニアラスシテ其当然要求シ得ヘキ利権ヲ得ントスルニ過キサルニ拘ラス「カラハン」ハ不当ニ右ノ要求ヲ拒絶シ居ルモノノ如ク非難セリ自分トシテ露国国民並歴史ノ前ニ甚大ナル責任ヲ負フモノニシテ不当ナル若クハ誤解ニ基ク責任ヲ負フハ自分ノ堪ヘ能ハサル処ナリ尚又露国新聞ニ発表ノ結果日露両国ノ輿論ヲ刺戟スヘシトノ御懸念ナルモ正確ナル報道ヲ以テ両国民ヲ導クハ却テ双方ノ為談判ノ進捗ニ影響スヘシトハ思考スルヲ得ス猶「コンムニケ」ノ件ニ関シテハ英露会議ニ於テハ極メテ詳細ニ亘リ交渉ノ内容ヲ発表セル次第ナルカ今回モ詳細正確ナル「コンムニケ」ヲ発表セムトスルモノナラハ夫レニテモ可ナリト述ベ猶本使ヨリ為念先方ノ為サムトスル発表ノ方法ハ公報トシテ何月何日斯々ノ論議ヲ為セリト公表スル次第ナリヤ将又出所ヲ示サス漏洩ノ形式ヲ以テスルモノナリヤト質シタルニ「カ」ハ露国側トシテハ「ロスタ」通信ニ依リ同通信ノ聞ク処ニ拠レハ日本側ヨリ斯々ノ要求ヲ提出シタルニ対シ露国側ハ斯々ノ返答ヲ為セリト言フカ如ク発表スル趣旨ニシテ要スルニ日本新聞ノ自分ニ対スル攻撃ニ対シ正当ニ自分ノ立場ヲ擁護スルノ必要アルカ為ナリト答ヘタリ

依テ本使ハ段々ノ御説明ニ拠レハ貴下カ利権問題ニ関シ世間ニ発表ノ必要ヲ認ムルニ至レルハ先般貴下発表ノ「ステートメント」ニ対スル日本新聞ノ批評ニ依リ感情ヲ害セラレタルカ為ナリト思考セラルル処貴下ノ立場ニ対シテハ本使ニ於テ同情ヲ表スルニ躊躇セサルモ貴下ニ於テ本交渉ヲ成立セシメムトスル熱誠ヲ有セラルルニ拘ラス或ハ交渉ニ累ヲ及ホス虞アル発表ヲ敢テセムトスルハ少シク感情ニ捉ハレ過キタルニアラサルヘキヤ新聞紙ノ報道乃至批評ヨリモ吾人ノ交渉ノ重大ナルハ貴下ニ於テモ夙ニ諒承セラレ居ル処ナルヲ以テ日本新聞紙ノ能度ハ兎モ角トシテ此際交渉ニ累ヲ及スカ如キ発表ハ之ヲ見合スコトトシテハ如何ト説キタルモ「カ」ハ自分一個人ニ対スル攻撃ノ如キハ意ニ介スル所ニアラサルモ労農代表トシテ自分ノ執レル措置ニ対スル批難ハ労農代表トシテノ立場ヨリ之ヲ弁明セサルヘカラストテ容易ニ其決意ヲ翻ス模様ナク依テ本使ハ事実ト事実トシテ発表スルハ一寸(一向?)差支ナキカ如シト雖モ交渉ニ累ヲ及スノ惧アルモノハ仮令事実ト雖モ其発表ヲ避クルコト可然又事実ニ相違スルモ交渉ニ累ヲ及ホササルカ如キモノナラハ深ク意ニ介スルニ及ハサルヘシ尤モ今回ノ申出ハ極メテ堅キ決意ニ出スルモノノ如ク見受ケラルル所凡ソ交渉ニ関スル発表ノ如キハ其時機ヲ考慮スルコト最モ必要ニシテ利権問題ノ如キハ今僅ニ序幕ニ入リタルニ過キサル今日到底発表ノ時機ニアラスト考ヘラルルニ付テハ貴下ノ申出ニ対シテハ何等名案ノ有無ニ付両三日間考慮スルコトトシタシト提議シタルニ「カ」ハ之迄モ屢々世間ノ誤解ヲ避クル為メ事態ヲ明カニセンカ為メ発表ヲ思ヒ立チタルモ其都度隠忍シテ今日ニ及ヘル所貴公使ニ、三日考慮ノ期間ニ対シテハ欣然同意スヘシト答ヘ之ニテ発表事件ハ一時暫ラク取止ムルヲ得タル次第ナルカ何等御意見ノ次第アラハ至急承知致シタシ

四二三　八月八日(着)　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

利権問題ニ関スル日本側提案ノ案文ニ対スル
カラハンノ反論ト討議ノ模様ニ付キ報告ノ件

第六六七号　至急極秘

往電第六六六号ニ関シ

「カラハン」ハ引続キ我方提案第五条宣伝禁止ノ条文ニ付大体異議ナキモ猶多少ノ追加ヲ申出スルヤモ知レスト述ヘ次イテ「カ」ハ第六条利権問題ニ付本条ハ最初露国側ヨリ提出シタル案文ニ依リテ作製シタルモノノ如クナルモ政府ニ対シ利権ヲ許与ストアル「政府」ナル文字ヲ削除セラレタシ又此条文中ニハ露国側提案中ニ記載セル「就中北樺太」ナル文句ヲ削除シ却テ日本側ニ不利益トナレリ依テ此文句ハ矢張リ之ヲ挿入スルコトトシ且曩ニ貴公使提議ノ趣旨ニ基キ稍々詳細ナル規定ヲ追加スルコトトシ之ト引換ヘニ「プロトコール」(b)全部ヲ削除スルコトトシタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ右ニ対スル見解ハ後ニ述フヘキモ先ツ貴下ノ所謂稍詳細ナル規定トハ如何ナルモノナリヤト反問シタルニ「カ」ハ右ハ例ヘハ長期有利又ハ特典的利権ト謂フカ如キ文句ヲ付加スルノ意味ナリト答ヘタルヲ以テ本使ノ最初申出タル所謂稍詳細ナル規定トハ地域条件等ニ就キテ相当詳細ニ規定スヘシトノ意味ニシテ決シテ長期有利又ハ特典的利権ト云フカ如キ簡単ナル文句ヲ意味シタルニアラサル旨ヲ説明シタルニ「カ」ハ然ラハ稍詳細トハ具体的ニ何

ヲ意味シタルヤト反問シタルニ付本使ハ曩ニ地域条件等ニ就キテハ稍詳細ナル規定ヲ設クル必要アルヲ述ヘタル当時政府ヨリハ極メテ詳細ナル規定ヲ訓令ニシテ送付シ来レリ右ハ条文及付属書ノ二部ヨリ成リ其条文ハ当時貴方ニ交付シタル所右ニテハ到底応諾シ難キ趣ニテ殊ニ漁業管理権ノ如キハ痛ク批難ヲ招ケル所ナリ然ルニ付属書ニ於テハ一層詳細ナル規定ヲ存シタルヲ以テ之カ提出ヲ見合セタルカ当時ノ条文ト付属書トヲ合スレハ極メテ詳細ナル規定トナル次第ナリ然ルニ本使帰朝ノ後新内閣ニ於テ審議決定セルモノ即チ今回ノ提案ニシテ本協約第六条ハ単ニ利権提供ノ主義ヲ規定シタルニ止マリ是レ而已ニテハ実際ノ効用ヲナサス依テ少ナクモ北樺太ニ関シテハ「プロトコール」(b)ヲ以テ地域条件等ニ付キ稍詳細ニ規定スルコトセリ右ハ勿論相当詳細ナリト雖之ヲ先般ノ提案ニ比較スレハ非常ニ緩和セラレ居リ例ヘハ森林及漁業管理権ニ関スル規定等ヲ削除シタリ就テハ本案ニ対シテハ是非共賛同ヲ得サルヘカラサル旨ヲ力説シタリ然ルニ「カラハン」ハ露国側ノ建前ハ此協約ニ於テハ単ニ主義而已ヲ規定シ具体的取極メハ之ヲ後日ニ譲ラントスルニ在リ尚若シ日本側ニ於テ此付属文書丈

ケノ規定ヲ以テ直ニ利権ノ経営ヲ開始シ得ヘシトナサハ夫ハ甚タシキ誤想ナリ元来露国ニ於ケル利権ノ経営ニハ常ニ四、五〇ケ条ヨリ成ル詳細ナル利権契約ノ取極ヲ必要トナシ日本側提案ノ如キ簡単ナル取極ヲ以テ直ニ利権ノ経営ヲ開始スルカ如キハ思ヒモ寄ラサル誤算ナリ仮令之カ為メニ今回ノ交渉不成立ニ了ルコトアリトスルモ断シテ此種ノ要求ニ応スルコトヲ得ス若シ斯ル要求ニ応シタリトセンカ自分ハ露国代表トシテ国民ニ見ユルノ辞ナカルヘシ元来露国側ニ於テハ本協約中ニハ単ニ主義的規定ヲ設クルニ止メ将来何ケ月ノ期間内ニ日本政府ノ指定シタル日本ノ法人個人ト利権契約ヲ締結セントスル意向ナリ今日本ノ言分ニ従フモノトセハ北樺太東岸ノ油田並西岸ノ炭田ハ悉ク日本ノ所有トナリ残ル処ハ不毛ノ荒地ノミトナルヘシ斯ノ如クンハ日本ノ撤兵ハ果シテ何ンノ意味ヲ有スヘキヤ而モ日本側ニ於テハ地域及条件ヲ勝手ニ指定シ居ルモ北樺太ハ事実上既ニ数年ニ亘リ露国ノ手ヲ離レテ日本ノ支配ニ属セシヲ以テ労農露国トシテハ殆ト同地ノ地理ヲモ詳カニセサル状態ナリ要スルニ日本側ハ撤兵ヲ行フモ尚撤兵セサルト同一ノ結果ヲ得ントスルモノニシテ斯ノ如キ条件ヲ以テ日本ニ利権

ヲ提供スルニ於テハ露国トシテハ北樺太ヲ失ヒタルモ同様ニシテ支那ナラハイサ知ラス斯カル屈辱的要求ハ露国ノ到底応諾シ難キ処ナリト弁シタルカ本使ハ我方提案ノ趣旨ハ決シテ土地其物ヲ獲得セントスルモノニ非ス該地域内ノ石油又ハ石炭ノ採掘ヲ目的トスルニ過キスト応酬シタルニ「カラハン」ハ日本側ノ観念ニハ余程誤解アルカ如シ我方ニ於テハ例ヘハ油田ノ利権ヲ許与スルニ当リテハ先ツ其ノ調査ヲ許シ一定期間ノ経過後始メテ採掘ヲ許可スルモノトス日本側提案ノ如キハ他ニ比類無キ暴案ナリ労農政府トシテハ主義上東海岸ニ於テ油田ヲ許与スルコトニ異議無キ次第ナルモ必要ナル程度ノ詳細ナル取極ヲ為サスシテ妄リニ許与スルコトヲ得ス又油田ヲ許与スト云ヒタル以上事実油田ノ存在セサル西海岸ニ於テ之ヲ与ヘントスルカ如キ悪意ヲ有スルカ如キ事全然無之ヲ以テ之等ノ点ハ須ラク露国側ヲ信頼シ将来ノ取極メニ一任スルコト然ルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ日本政府ノ見ル処ヲ以テスレハ貴説ノ如ク単ニ長期有利又ハ特典的利権ト云フカ如キ漠然タル規定ヲ以テシテハ折角利権ノ提供ヲ受クルモ実際運用ノ途無ク後日種種ノ紛糾ヲ生スルノ原因タルヘシ日本政府ノ調査ニ依レハ

労農政府カ他ノ地方ニ於テ他国ニ提供シタル利権ハ実際ノ経営ニ当リテ種々ノ不便ト紛糾トヲ生シ経営者ハ困難ナル立場ニ陥レル例少キニ非サルヲ以テ旁日本トシテハ此際明確ナル取極メヲ為シ置キ後日ノ紛糾ヲ避ケントスルモノナリ又利権ノ許与ヲ受クルモ単ニ文字ノ上ノミニテハ何等ノ用ヲ為サス利権ヲ実際経営センカ為ニハ何レノ日カ一度ハ必要ナル取極メヲ為ササルヘカラス然ラハ各種懸案ヲ一掃セントスル此際之ヲ協定シ置クヲ最モ得策トスヘク斯ノ如クセハ一旦国交樹立ノ上ハ最早ヤ何等紛議ノ余地ナカルヘシ若シ露国側ニシテ真ニ国交回復懸案一掃ノ誠意アルニ於テハ是非トモ我方提案ニ同意アリタシト説述シタルニ「カラハン」ハ利権ノ貸与ニ関シテハ地域条件等ニ付テモ勿論詳細ナル規定ヲ設クルノ必要アルヘキ処北樺太ハ多年日本軍ニ占領セラレ労農官憲ノ駐剳セサリシ地方ナルカ故自分等ニトリテハ今直チニ之等細目ノ契約ヲ締結セントスルモ事実不可能ナリ貴公使ハ日露国交回復ノ為ニハ此際利権ノ取極ヲ必要条件トセラルルカ如キモ自分ノ見ル処ヲ以テセハ国交樹立ハ原因ニシテ利権ハ其結果ニ過キス国交ノ回復ハ須ラク大局ヨリ考ヘ得ヘキモノニシテ利権ト云フカ如キ

モノニ関連セシムヘキモノニ非ス

又露国ニ於テ利権ノ貸与ヲ受ケタルモノハ悉ク満足シテ其経営ニ当リ居リ何等ノ紛糾ヲ生シタルコトナシ勿論露国トシテハ自国ノ為ニモ有利ナル条件ノモノニ許与スルモノニシテ然ラサルモノニ対シテハ之ヲ拒絶シ居レル処之等拒絶セラレタルモノハ素ヨリ労農政府ニ対スル反感ヲ有スルモ日本政府ノ得タル情報ハ之等ノモノノ讒誣中傷ニ基クモノナルヘシ又貴公使ハ早晩一度ハ取極ヲ要スヘシト述ヘラレタル処此取極ニハ法律家技師等各専門家ノ参加ヲ求メ以テ詳細ニ審議決定ヲナスヲ必要トス現ニ予ノ手元ニアル石油契約ハ一ハ二十三ケ条、一ハ六十一ケ条ヨリ成レリ貴方提案ノ如キ簡単ナル条件ヲ以テセハ却テ将来紛擾ノ原因タルヘキノミト述ヘタルカ本使ハ国交ハ原因ニシテ利権ハ結果ナリトノ説ハ普通ノ場合ニ付テハ一応尤ナルモ現在ノ日露関係ハ之ト趣ヲ異ニス由来北樺太ニ於ケル日本軍ノ駐屯ハ大正九年尼港事件ノ結果ニシテ当時相手トスヘキ露国政府ナカリシ為後日同事件ノ満足ナル解決ヲ期セムカ為ニ北樺太ノ保障占領ヲ行ヘルモノナリ即チ日露国交回復ノ為ニハ尼港事件ヲ解決スルコトトシ尼港事件ヲ解決セムカ為ニハ右保障占領ノ解除ニ代フルニ尼港事件ノ賠償ヲ受クルヲ必要トス然ルニ貴方ニ於テハ尼港事件ノ賠償ニ応スルヲ得スト主張セラルルニ顧ミ北樺太ニ於ケル利権ヲ要求シタル次第ニシテ右利権ノ許与ニ就テハ露国側ニ於テモ異議ナキ処ナリ既ニ利権ヲ許与スルコトニ双方一致シタル以上此際之カ運用ニ必要ナル規定ヲ設ケ紛議ヲ将来ニ胎ササラムトスル帝国政府ノ方針ハ前内閣当時ヨリ一貫シテ変ラサル処ナリ既ニ現下ノ日露関係ニ於テハ利権ハ国交樹立ノ結果ニアラスシテ条件ナリ此点篤ト諒解アラムコトヲ望ム次ニ貴下ノ説ニ拠レハ露国ニ於テハ利権ノ許与ヲ受ケタル他国人ハ皆満足シテ経営ニ当リ居レル由ノ処日本政府ノ得タル情報ニ拠レハ労農政府ハ此等外国人ニ種々ノ条件ヲ課シ満足ナル経営ハ困難トスル処ナル由尤モ其実例ノ如キハ本使ノ詳ニセサル処ナルモ少クトモ日本政府ニ於テハ此等ノ事例ニ顧ミ此際具体的条件ノ取極ヲ主張スルモノナリ猶貴国内ニ於テ利権ヲ経営シツツアル外国人トノ契約ノ実例ノ回示ヲ得ハ幸ナル処右ハ単ニ参考ノ為ニシテ何等我方ニ於テ譲歩ノ意アルニアラサルヲ以テ其辺誤解ナカランコトヲ望ム尚本使ノ印象ニ依レハ利権問題ハ日本政府ノ最モ重キヲ置

ク所ニシテ之ヲ譲歩スルカ如キハ到底予想シ得サル所ナル旨ヲ付言シタルニ「カ」ハ利権問題ト国交回復トヲ相関連セシムルコトハ同意スルコトヲ得ス兎ニ角利権ハ新シキ問題ニシテ日本政府カ後ニ至リテ案出セルモノナリト観察ス尚又本件ハ実際国交回復上如何ニ重要ナルモノナリト雖モ自分トシテハ此際全然之ヲ解決シ得ヘシトハ信セス従テ日本側ニ於テ若シ之カ解決ノ可能ヲ信シ居ルモノトセハ夫ハ甚タシキ誤想ナルコトハ茲ニ重ネテ明言シ置ク所ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ英（語）ニテ半ハ諧謔的ニ斯ノ如クンハ日露交渉モ茲ニ決裂ヲ見ルノ外ナシト述ヘタルニ「カラハン」ハ夫レハ日本側ノ責任ナリト答ヘタリ依テ本使ハ我方ニ於テハ本協約ノ効力発生ト同時ニ利権ノ経営ヲ開始セントスル意向ナル処貴方ノ腹案トハ大ナル懸隔アル如ク此懸隔ヲ接近セシムルニアラスンハ本交渉モ成立ノ見込ミナシト述ヘタルニ「カラハン」ハ我方ニ於テハ一般北樺太ノ主権ヲ回復シ然ル後詳細取極ノ上利権ヲ許与スヘク日本而已独占的ニ許与スルコトヲ得ス露国側ニ於テモ共ニ石炭石油等ノ採掘ヲ行ヒタキ意向ナリ但日本側ニハ良キ場所ヲ与フルコト勿論ナリ兎ニ角只漫然地区ノ如何ニ関セス採掘ノ

権利ヲ得ントスルハ主権ヲ無視シタル遣リ方ナリ露国ニ於テモ法律制度存在スルヲ以テ斯ノ如キ遣リ方ニハ到底同意スルコトヲ得ス対露問題ニハ日本側ノ意見ヲ貫徹シ得ヘキ点ト貫徹シ得サル点トアリ其辺十分御了解アリタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ本日ハ利権ノ主義上ノ討議ヲナシタルモノナルヲ以テ尚次回ヨリハ「プロトコール」(b)ノ内容ニ付討議シタシト述ヘタルニ「カ」ハ自分トシテハ該規定ニ関シ意見ヲ述ヘルノ資格モナク知識モ有セサルモノナリ元来石油契約ノ締結等ハ専門的知識ヲ必要トシ例ヘハ納付金ノ如キモ噴出石油坑ノ場合ニハ四割トスルカ如ク油坑ノ種類ニ依リ必スシモ一様ナラス日本側提議ノ如ク爾ク簡単ニ取極ムルコトヲ得スト答ヘタルヲ以テ本使ハ参考ノ為メ例ヘハ米国人トノ利権契約ノ写ヲ申受ケタシト述ヘタルニ「カ」ハ一応之ヲ諾シタル後現ニ効力ヲ有スル利権契約ハ妄リニ第三者ニ示スコトヲ得サルヲ以テ調査ノ上差支ナキモノナラハ其写ヲ差進スヘシト答ヘ更ニ本使ヨリ利権問題ハ帝国政府ノ最モ重キヲ置ク所ニシテ我方主張ハ之ヲ譲歩スルヲ得ス貴下ニ於テモ譲歩セラレストセハ本交渉ハ今日ヲ以テ事実上決裂シタルカ如キ感ヲ抱カサルヲ得スト述ヘ更ニ翌

翌日会議ヲ継続スヘキヲ約シ散会シタリ

四二四　八月九日　幣原外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

利権問題ニ関スル日本側提案ノ公表反対方訓電ノ件

第五〇二号　極秘

貴電第六六六号ニ関シ

利権問題ニ関スル我方提案ヲ発表セントスル露国側要求ハ我方ニ於テ之ニ同意スルヲ得ス蓋シ今回ノ交渉ノ内容ヲ厳秘ニ付スルコトニ付テハ交渉開始ノ条件トシテ交渉開始ニ当リ露国側ニ於テ明確ニ之ヲ承諾シタル所ナルノミナラス我方今回ノ提案ハ露国側主張ニ対シ現内閣ニ於テ露国側ノ意向ヲモ参酌シタル結果利権ノ如キモ前内閣時代ノ提案ニ大修正ヲ加ヘタルモノニシテ如斯ハ我方ニ於テ国内ニ強硬論者アルニ拘ラス現政府カ日露交渉ヲ取纏メムトスル誠実ナル努力ニ外ナラス然ルニ今若シ露国側ニテ之ヲ発表スルカ如キコトアルニ於テハ或ハ露国側ニ於テ民論ノ刺戟ヲ見ルコトアルヤモ知レサルカ我方ニ於テモ今次提案ヲ前内閣時代ノ要求ト比較シテ我強硬論者ノ有力ナル反対ヲ惹起シ其ノ結果ハ交渉ニ累ヲ及ホスヘキハ明ニシテ交渉成立ヲ図ル所以ノ途ニ非ス元来今回ノ如キ重要案件ニ関スル交渉ニ於テハ双方当局ニ於テ区々タル感情問題ヲ超越シテ冷静ニ双方ノ利害ヲ鑑ミ公平ニ交渉ヲ取纏ムルニ努ムルコト最モ肝要ナリ若シ此ノ点ヲ顧慮セスシテ最モ双方国民ノ感情ヲ刺戟シ易キ利権問題ノ如キニ付之ヲ発表スルトキハ必スヤ輿論ヲ悪化シ為ニ成立スヘカリシ協定モ遂ニ破ルルノ結果トナルヘシ加之「カラハン」ノ懸念セル日本新聞紙ノ報道ノ如キハ何レモ単ニ想像ニ基ケル記事ヲ掲載セルニ過キサルコトハ一度其ノ内容ヲ我方実際ノ提案ト対照スルトキハ直チニ明瞭スヘク又「カラハン」ノ指摘セル「ルーター」通信ニ付テハ当方ニ於テ取調ヘノ結果東京ニ於テ洩レタルモノニアラスシテ寧ロ其ノ出所ハ北京ニアルコトハ略々判明セル次第ニシテ我方ニ於テハ交渉ノ内容ハ絶対ニ発表シ居ラサルヲ以テ之ヲ以テ露国側ニ於テ利権問題発表ノ理由ト為スヲ得サルモノト信ス固ヨリ露国側ニ於テ強テ交渉ノ内容ニ付発表スルコトヲ希望スルニ於テハ時々双方代表者間ニ協定ノ上適宜「コンミュニケ」ヲ発表スルコトトスルニハ異議ナシ然レトモ其ノ場合ニ於テモ発表ノ程度ニ就テ

ハ充分考慮ヲ加フルノ必要アリ徒ニ両国国民間ノ感情ヲ刺戟シ双方国民間ニ重大ナル感情上ノ紛争ヲ激成シ交渉ヲ失敗ニ帰セシムルカ如キ虞アル事項ニ就テハ飽ク迄之カ発表ヲ避クルヲ要ス就テハ貴使ハ右ノ趣旨ニ依リ篤ト「カラハン」ニ説示シ置カレタシ

四二五　八月九日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

利権問題ニ関シカラハントノ再度ノ応酬報告ノ件

第六七三号　至急極秘　（八月十日接受）

往電第六六七号ニ関シ

八月八日ノ会議ニ於テ本使ハ「カラハン」ニ対シ利権問題ハ本交渉案件中我方ノ最モ重キヲ置ク処ナル処本問題ニ関スル帝国政府ノ意ノ存スル処ハ尚未タ充分貴下ニ徹底シ居ラサルモノノ如ク之カ為本交渉ニ禍ヲ来スカ如キ事アルニ於テハ本使ノ職責上真ニ遺憾トスル処ナルヲ以テ他ノ問題ニ移ルニ先立チ重ネテ日本政府ノ意向ヲ明カニシ度ク就テハ貴下段々ノ所説ニ対シ本使ノ推服シ得サル左ノ二点ニ関シ所見ヲ述フヘキ旨ヲ告ケ㈠一昨日ノ貴下ノ所説中本協約ハ日露国交樹立上ノ原則ノミヲ規定スヘキモノニシテ利権ニ関スル我方提議ノ如キ詳細ナル規定ヲ設クヘキニ非ス利権ノ実地経営ニ関スル詳細ナル規定ノ如キハ他日ニ譲ルヘキモノニシテ而モ「プロトコール」(b)ノ如キハ利権ノ実地経営ニ関スル規定トシテハ簡単ニ過クル旨ヲ力説セラレタル処我方ニ於テハ国交樹立ト同時ニ一切ノ問題ヲ解決シ予メ将来ノ紛議ヲ杜絶セントスル趣旨ナルヲ以テ之カ為綿密ナル規定ヲ設クルニ付テハ毫モ異存ナシ而モ他方撤兵期限ノ問題モアリ本協約ハ出来得ル限リ簡潔ト為ス必要アリ前内閣当時ノ案ハ本案ニ比シ更ニ綿密ナル規定ヲ設ケアリタルモ短日月ノ間ニ斯ノ如キ詳細ナル規定ヲ協議シ得サルヘキヲ慮リ一ニ貴方ノ希望ニ副フ様出来得ル限リ簡単ト為セル次第ニシテ偏ニ貴下ノ主張ヲ考慮ニ入レタル結果ナリ㈡又我方要求ノ油田炭田ノ地域極メテ広キニ亘リ殆ト北樺太全部ヲ譲渡スルノ観アリトノ御懸念ナル処油田炭田ノ存スル地方ヲ区画スレハ其ノ地域ハ一見広大ナルモノノ如シト雖モ我方ノ要求ハ地域其物ノ譲渡ニ非スシテ同地域内ノ石油石炭ノ採掘権ニ過キス地域ノ点ヨリ見レハ「シンクレヤ」ニ許与セル利権地域ノ如キモ又極メテ広大ナルカ労農

政府ハ其ノ地域内ノ開発ヲ許与セルニ過キサルト同断ナル旨ヲ指摘シタルニ「カ」ハ予ハ日本側提案ノ内容ニ入リ審議ヲ為スヲ得サルモノナルモ貴説ニ対シテハ勢所見陳述ノ必要アリ只今ノ御話ニテ日本ノ求ムル処ハ「シンクレア」ノ利権ト同様ナルモノノ如ク承ハレル処日本側ニシテ果シテ該地域内ニテ将来ニ対スル各油田ノ契約ヲ締結スト云フ趣旨ナラハ甚タ面白キ話ニテ何レ後日専門家ヲシテ各油田ニ付テノ条件等ヲ決定セシメ得ヘシ然ルニ日本側提案中ニハ之等地域内ニ於ケル露国官憲ノ監督権ノ有無ニ関シ何等ノ記載無ク従テ同地域ヲ其儘譲渡スヘシト云フカ如キ心証ヲ得タル次第ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ本使ノ述ヘタル処ハ「シンクレア」利権ト同様ニスル趣旨ニ非ス地域ノ広狭ヲ論スレハ「シンクレア」モ広大ナル地域内ノ油田ヲ許与シ居ル事ヲ指摘セルニ過キス従テ右油田ニ付将来利権契約ヲ締結スルモ可ナリト述ヘタル次第ニ非サル旨ヲ注意セリ然ルニ「カ」ハ「シンクレア」契約ニ於テハ一定ノ地域内ニ於ケル利権ヲ許与シタルモノニシテ一定年限内ニ調査ヲ行ヒ次テ特定ノ油田ニ付試掘ヲ許与セントスルモノナルカ日本ノ提議ハ之等ノ順序ヲ無視シ一足跳ニ事業ノ経営ニ

移ラントスルモノナリト述ヘ右ニ対シ本使ハ我方提案モ concessions for exploitation of oil fields 云々トアリ或ル地域内ノ油田炭田開発ノ権利ヲ要求スルニ過キサル趣旨ナリト説明シタルカ「カ」ハ貴公使ノ利権ト云ハルル点ハ自分ノ未タ充分了解シ得サル処ナルモ右ハ暫ク措キ元来国家ノ代表者ハ其ノ言責ヲ重ンスヘキモノト思考スル処先般ノ商議ニ於テ露国側ヨリ利権ニ関スル案文ヲ提出セルニ当リ貴公使ハ地域条件ニ関シ稍々詳細ナル規定ヲ設クル事トセハ可ナリト述ヘラレ又利権ニ関スル先般ノ日本側提案ニ於テハ agree to grant トアリテ将来ノ事ヲ規定セル形ナリシ処今回ハ grants トアリテ契約ト同様本協約成立ト同時ニ事業ヲ経営シ得ル様ニセントスルモノナリ斯クテハ話ハ漸次逆行スル次第ニシテ交渉上甚タ面白カラスト述フル処アリ依テ本使ハ利権問題ニ関シ本使カ言責ヲ重ンセサルカ如キ御話ナルモ本使トシテハ言ヲ二ニセル覚ヘ無ク当初ノ貴方案ニ於テハ労農露西亜ノ領域内ニ於テ利権ヲ与フト規定セルニ対シ本使ハ右ハ単ニ主義ヲ規定セルモノニシテ主義ノ規定トシテハ敢テ異存無キモ地域条件等ニ付テハ更ニ詳細ニ規定スルノ必要アリ右ニ就テハ当時政府ト

打合セ中ナルヲ断リ置キタル次第ナルカ主義ヲ規定セル貴方条文案而已ニテ満足セルカ如キ所説ハ事実ニ反セリ又 agree to grant ト云フモ grant ト同様ノ意味ニシテ将来ノコトヲ約セントセル趣旨ニアラス猶今回ノ案ニ於テハ条件ヲ減シ年限ヲ短縮シ利権ノ種類ヲ削減スル等多クノ点ニ於テ緩和セラレタルモノナルヲ以テ再応篤ト考慮ノ上是非共同意アリタキ旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ折角ノ御説明ナルモ遺憾乍ラ今回モ日本側カ譲歩シ来レルモノト考フルヲ得ス条件ニ於テ多少緩和セラレタル趣ノ御説明ナルモ若シ実地経営ヲ目的トスル契約トセハ簡単ナル規定ニテハ却テ将来ノ紛糾ヲ招クヘシ予ハ将来北樺太ニ於ケル油田炭田ノ利権契約ヲ結フ義務ヲ負フト云フ趣旨ナラハ同意スヘキモ今日直ニ実地経営ニ移ルヘキ契約ヲ締結スルコトハ断シテ為シ能ハサル所ニシテ何等ノ準備ヲモ有セサル自分ノ立場トシテ乍遺憾貴意ニ応スルヲ得サル旨ヲ繰リ返シタリ本使ハ将来ノ紛議ヲ避クル為メ地域条件ニ付テハ詳細ニ規定スル必要アルコトハ当初ヨリ貴方ノ注意ヲ促シ置キタル所ニシテ今日尚貴下ニ於テ利権問題ノ詳細ヲ審議スル準備ナシトハ信スルヲ得ス少ナクモ本使ハ必ス其準備ヲ有セラルルモ

ノト信シ居ルモノニシテ莫斯科ヨリノ新聞電報ニモ貴下カ利権問題審議ノ全権ヲ委セラレタル旨ヲ報シ居リ又「チチェリン」ハ其私的会談ニ於テ報酬金ノ金額ノ外ハ大体異議ナカリシ趣ニモ聞キ及ヒ居レリ従テ地域条件ノ詳細ヲ規定スルコトハ本交渉ニ於テ絶対ニ必要ナルコト予テ熟知シ居タル貴下トシテ今日猶審議ノ準備ナシトハ本使ノ到底首肯シ得サル所ナリト突込ミタルニ「カ」ハ依然審議ノ準備モ訓令モナキコトヲ繰リ返スノ外ナシトテ実ハ問題其物ヲ審議スル全権ヲ委任セラレ居ルハ事実ナルモ斯ノ如キ複雑ナル事項迄決定スルノ権限ヲ有セス「チチェリン」ノ会談ニ対シテハ今晩ニモ其実否ヲ照会スヘシトテ固ク我方提案ノ内容ニ付論議ノ歩ヲ進ムルヲ肯セス更ニ本使ハ貴下ハ飽ク迄審議ノ準備ナシト云ハルルモ貴方ニ於テハ撤兵問題ノ為メノ武官モアリ北樺太ノ知識ヲ有スルモノモ来リ居ルヤニ仄聞シ居リ左迄謙遜スルニ及ハサルヘシ抑々詳細ノ規定ヲ為スノ必要アルコトハ今日初メテ申出テタルコトニアラスシテ万一貴方ニ於テ準備ナシトスルモ夫ハ毫モ我方ノ責（脱）ニアラス現ニ六月十六日本件ニ関シ貴下ハ莫斯科ニ稟議スヘキ旨言明セラレタルニ拘ハラス今日猶審議ノ準備

ナシト称スルハ首肯シ難キ所ナリト詰レルニ「カ」ハ従来我方主張ヨリ更ニ少シク詳細トスル程度ナラハ敢テ同意スヘキモ貴公使ノ主張ハ恰モ契約其物ヲ作製スルモノノ如ク詳細ニ為サントスルモノナルカ故ニ斯ル審議ニハ応シ得サルコトヲ明カニスルモノナリト反覆シ本件ニ関シテハ翌日更ニ討議ヲ継続スルコトトナレリ

終リニ「カラハン」ハ公表問題ニ関シ本使ノ意見表示ヲ督促シタルニ付利権問題ハ我方ノ最モ重キヲ置ク所ナル而已ナラス貴方ニ於テモ重要視セラルル所ナルニ本問題ノ条件ニ貴方ノ意見ヲ加ヘテ公報的ニ発表セラルルカ如キハ従来先例ナキニモ顧ミ到底承諾スルヲ得サル旨ヲ答ヘタルニ「カ」ハ実ハ六日ノ会議後本件ニ関シ莫斯科ニ電報スルト同時ニ本使ノ希望ヲモ併セテ電報シタル次第ナルカ莫斯科ニ於テ或ハ何等ノ方法ヲ以テ公表スルニ至ルヤモ計リ難シト述ヘタルニ付飽ク迄発表セントスル意向ナラハ一応帝国政府ニ請訓ノ上其同意ヲ得ルヲ必要トスル旨ヲ告ケ置キタリ就テハ往電第六六六号ニ関シ何分ノ儀御電訓ヲ請フ

四二六　八月十日　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

ハ政府ニ於テモ非常ニ不愉快ヲ感スヘシ就テハ貴下ニ於テモ莫斯科ニ上申ノ上本議定書ノ内容ヲ審議シ得ル様打合セラレタシト述ヘタルニ対シ「カ」ハ自分トシテハ本問題ニ関シテハ一定ノ訓令ヲ有シ居リ右ニ基キ十分露国側ノ立場ヲ説明シタル次第ナルモ将来事態ニ変化ヲ来タスニ非レハ本件審議方ニ関スル問合セヲ為スヲ得ス尤モ日本側提議ハ自分トシテ其審議ヲモ拒絶セル旨既ニ報告スミナルモ右ニ対シテハ何等回答ナク莫斯科政府モ自分ノ態度ヲ是認シ居ルモノト思考シ居ル次第ナリト答ヘ本使ハ貴下ノ報告ニ対シ回答ナキハ莫斯科ニ於テハ貴下ノ態度カ余リニ強硬ナルカ為メ困却シ居ルカ故ナルヤモ測ラレス依テ我方提案ノ審議ヲ為スモ差支ナキヤ否ヤハ一応照会セラレ然ルヘシ尚利権契約ノ写ニシテ差支ナキモノアラハ入手シ度キ旨重ネテ申入タルニ「カ」ハ契約写ニ付テハ確実ナル約束ヲ為シ得サルモ調査ノ上何分ノ返事ニ及フ処利権問題審議拒絶ニ関スル自分ノ報告カ莫斯科ニ於テ却テ迷惑シ居ルニアラサルヤノ御懸念ニ付テハ元来莫斯科ニ於テハ自分ヨリモ一層強硬ナル態度ナリシヲ以テ其御懸念ニ及ハス又日本ニ於テハ利権問題ニ関シ

利権、通商条約、批准交換、大使館引渡、債権、撤兵、秘密条約及ビ尼港問題等全般ニ亘ルカラハントノ会談模様報告ノ件

第六七八号　至急極秘　（八月十一日接受）

往電第六七三号ニ関シ

八月九日議事経過左ノ通

第一、利権問題

本使ハ「カラハン」ニ対シ協約本文中ノ各条文ニハ貴下ニ於テ大体御異存ナキモノノ如キモ利権ニ関スル議定書(B)ニ付テハ絶対ニ其内容ニ入リ審議スルヲ得サル趣ナルヲ以テ本使トシテハ一応政府ニモ請訓スル必要アリ旁此問題ハ暫ク後廻トシ其間他ノ問題ヲ審議スルコトトスヘシト述ヘタルニ「カ」ハ利権問題ニ付テハ如何ニモ両者ノ見（脱）途ナク微細ニ亘リ陳述セル自分ノ主張ハ日本側ニ於テモ善ク了解セラレタルモノト思考スルニ付貴公使ノ決意ハ大ニ歓迎スルト同時ニ其結果ニ対シテハ多大ノ期待ヲ有スルモノナリト答ヘタルカ本使ハ帝国政府ニ於テハ利権問題ニ対シ最モ重キヲ置キ居ルヲ以テ貴下ニ於テ我方提案ノ内容ニ入ルヲ拒絶シタル旨ヲ報告スルトキ種々楽観的報道ヲ莫斯科ヨリ得ラレタル趣ナルモ自分ハ莫斯科ヨリ何等右様ノ報道ニ接シタルコトナク若シ自分ニ於テ日本側ノ有スル情報ノ如キ訓令ヲ有セシモノナラハ躊躇ナク利権問題ノ内容ヲ討議セシナラムトテ英文大阪毎日新聞ヲ示シ該新聞ニ日本外務当局ノ談トシテ日本政府ハ独占的利権ヲ要求シ居ルモノノ如ク伝ヘラルルハ意外ナリトノ記事アリ右ハ恰モ貴公使カ政府ノ訓令以上ノ要求ヲ為シ居ルモノノ如キ印象ヲ与フル記事ナルカ右ニ拠レハ日本ハ必ス更ニ妥協的ナル第二案ヲ有スルモノト信セラルルモ新聞記事ノコトモアリ余リ重要視スルニモ及ハスト述ヘ利権問題ノ討議ヲ中止シタリ

第二、通商条約問題

第四条第三項ノ最恵国約款ニ関シ本使ハ新聞電報ニ拠レハ英国外務次官ハ英露条約ニ於テ最恵国条款ノ成立ヲ声明セル趣ナルカ本件我方条項ハ完全ナル最恵国条款ニアラスヤト述ヘタルニ「カ」ハ英露協約ノ原文ヲ有セサル今日確実ナル説明ヲ為シ得サルモ同協約ハ恐ラク数十ケ条ヨリ成リ英国ヨリ露国ニ対シ種々有利ナル条件ヲ与ヘタルノミナラス英国カ購買資金ヲ（脱）シテ財政上ノ援

助ヲ与ヘタルカ為部分的最恵待遇ヲ与ヘタリトノ意味ナルヘク日本側提案ノ如ク漫然広汎ナル最恵国条款ヲ規定シタルモノニアラサルヘシト説明セルニ付本使ハ新聞電報ニ拠レハ無条件ニ与ヘタリトアリタリトテ新聞ヲ示シタルニ「カ」ハ一覧ノ上英国貨物ノ露国ヘ輸入ノ場合ニ関シ規定シアルモノナリト答ヘ更ニ本使ヨリ英国ノ貨物ハ特殊ノ商品ヲ限定スルコトナク一般的ニ露国ニ於テ最恵国待遇ヲ受クルモノノ如シト指摘シタルニ「カ」ハ英国ハ露国ニ対シ五千万磅以上ノ購買資金ヲ貸与シ此資金ヲ以テ露国ノ為必要ナル商品ヲ輸出シ輸入業者並製造業者ニ便宜ヲ与フルモノナルヲ以テ露国ハ此等輸入品ニ対シ最低ノ税率ヲ許スコトトセル次第ナリ猶参考迄申添フヘキモ元来関税率ノ低キコトノミニテ安心スルヲ得ス露国ニ於テハ外国貿易ヲ政府ノ「モノポリー」トシテ内国生産品ヲ保護ノ為同種外国品ノ輸入ヲ為ササルコトニセハ如何ニ低キ税率ノ取極モ全ク空文ニ等シカルヘシト弁明セルカ本使ハ英露協約ノ内容不明ナル今日適当ナル所見ヲ述ヘ得サル処ナルモ英露協約中果シテ最恵国約款アリトセハ少クモ日本提案ノ程度ノモノハ之ヲ認メラルル様希望スル旨ヲ述ヘタルニ対シ「カ」ハ折角ノ御希望ナルモ㈠曩ニ貴公使ヨリ本問題ニ関シ提出セラレタル案ハ既ニ莫斯科政府ノ承認ヲ経居ルヲ以テ右案ナラハ可ナルコト㈡漫然最恵国待遇ヲ与フルヲ得ス事柄ニ依リ最恵国待遇ヲ与フル様将来通商条約締結ノ際取極ムヘキモノナルコト右理由ニ依リ貴公使ノ提議ニ応スルヲ得ス本件ハ英国ニ於テモ非常ニ重要視シ過去半年間ノ努力ノ後漸ク成立シタルモノナルノミナラス英国ハ露国最初ノ承認国ニシテ且金融上ノ便宜ヲ与ヘタリ依テ日本ニ対シ容易ニ英国同様ノ条件ヲ許与シ得サルハ当然ナリト述ヘタルカ本使ハ日本ヨリハ何等有利ナル代償ヲ得サルカ為英国ニ対スルカ如キ待遇ヲ与フルヲ得ストノコトナルモ斯ノ如キ通商上ノ事項ハ要スルニ将来ノ通商関係ヲ密接ナラシメムカ為ニシテ政治的事項トハ異リ代償ノ有無ヨリハ将来通商ノ発達ヲ計ルヲ以テ目的トス最恵国条款モ亦此趣旨ニ出ツヘキ筋合ナル旨ヲ説キタルカ「カ」ハ最恵国条款ハ本来相互ノ利益ヲ目的トスルモノナルモ右ハ主トシテ資本国間ニ就テ言フヲ得ヘシ露国ノ如ク外国貿易局若ハ「コーペラチーブ」等種々ノ機関アリ実際上相互的トナラサルカ故労農政府トシテハ本問題審議上常ニ慎重ナル態度ヲ執ル必要アル旨ヲ説明シ結局本問題ハ追テ後日ノ討議ニ譲ルコトトセリ

第三、批准交換問題

我協約案第七条ニ就キ「カ」ハ大体異存ナキ旨ヲ述ヘタルカ本協約成立ノ上ハ之ヲ莫斯科ニ送付スル為二週間ノ時日ヲ要スヘク為ニ撤兵完了ノ期限ニ影響スルコトナキヤヲ懸念セル旨ヲ述ヘ本使ハ協約成立ノ上ハ電報ヲ以テ報告シテ批准ヲ求ムルヲ得サルヤヲ質シタルニ「カ」ハ甚タ困難ナルヘシト思考スルモ右ニ関シテハ既ニ莫斯科ニ問合アリ或ハ出来得ルヤモ測ラレスト答ヘタリ

第四、大使館引渡問題

議定書(a)第一条第二項ニ関シ「カ」ハ此儘ノ形ニテハ同意スルヲ得ス曩ニ本件ニ関シ貴公使ニ説明ヲ求メタル際大使館敷地問題ニ関シテハ別ニ文書ノ交換ヲ以テ互ニ諒解ヲ遂ケ置クノ趣旨決議セリ然ルニ本条項ノ如キハ国交回復上斯ル義務ヲ負担スルコトトスルハ体面上ヨリ莫斯科ニ於テモ反対ナキヲ保セス（脱）ラハ今直ニ承諾スルモ差支ナシト述ヘタルヲ以テ本使ハ露国側ノ異論ハ要スルニ形式論ニシテ本条項ノ実質ニ反対アルニアラサルヘシト反問セルニ「カ」ハ本件ハ左シテ重大ニアラス規定ノ場所モ此儘ニテ差支ナシ唯少シク書方ヲ変更シタク何レ案文ヲ考究シ置クヘシト答ヘタリ

第五、債権問題

議定書(a)第二条ニ対シ「カ」ハ本条ハ此形ニテハ同意スルヲ得ス本件ニ就テハ曩ニ種々議論ヲ重ネ当時露国側ヨリ本問題解決ニ関スル三種ノ案ヲ提議セリトテ六月五日ノ会議ニ於ケル先方ノ提案ヲ繰返シ当時貴公使ニ於テハ我方案ノ一ニ賛成セラレタリト記憶スルモノナルカ故ニ再応貴公使ヨリ請訓ノ上右三案中ノ何レカ一ニ依ル様取計ハレタシト述ヘタルニ依リ本使ハ今回ノ我方条文案ハ貴下ノ所謂三案中ノ第一即チ伊太利案ニ依レルモノナリ尤モ請求権ニ至リテハ日露双方共ニ其権利アリト主張シ居ルニ過キサルカ故ニ之ヲ規定セサルコトトスヘシ然ルニ債権ハ其額モ判明シ居リ此際将来ノ解決ニ譲ルコトト規定シ置ク次第ナリ右ハ其趣旨ニ於テ伊太利案ト同一ナリト説明シタルニ「カ」ハ元来露国側トシテハ債権並請求権ハ必ス之ヲ同時ニ取扱フ所存ニシテ日本軍西比利亜

出兵中露国ノ被ムレル損害ハ日本側ヨリ債権ノ主張アル場合ニハ必ス之ヲ持出ス考ナリ依テ㈠債権及請求権ハ日露双方ノモノヲ相殺スルコト㈡債権及請求権ノ全部ヲ協約面ヨリ除去スルコト若ハ㈢伊太利ノ例ニ依リ両者共ニ将来ノ会議ニ於テ解決スルコトノ三案中ノ一ニ依ラサルヘカラスト主張セリ本使ハ西比利亜出兵ニ基ク貴方ノ所謂請求権ノ主張ニ対シテハ日本政府ニ於テハ軍事行動ニ基ク損害ニ対シ賠償ノ責ヲ負フノ理由ナシトスル見地ヨリ断シテ之ニ応スルヲ得ス我方債権ニ至リテハ其額モ判明シ居ルヲ以テ之ヲ主張スルハ極メテ当然ニシテ之ヲ後日ノ解決ニ譲ルハ多大ノ譲歩ト言ハサルヘカラス況ンヤ伊太利ニ於テモ先例モアリ我方提案ハ至極穏当ナルモノナルヲ以テ之ニ同意アリ然ルヘシト説明シタルカ「カ」ハ日本側提案ハ決シテ譲歩ニアラス曩ニ自分ヨリ提議セル all other conditions being equal ナル文句モ亦削除セラレタリ又伊太利案ニ依ルモノナリトノ御説明ナルモ伊太利案トハ個人ノ請求権ヲモ全部一括シ後日ノ解決ニ譲リタルモノニシテ伊太利案ノ一部ニ則レルニ過キス債権ト請求権トヲ別々ニ規定スルモノナラハ兎モ角妄リニ戦時債務ヲ承認セリトノコトニシテ少額ナルカ故ニ日本ノ戦時債権ヲ認メサル次第ニアラサルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ英国ニ対スル戦時債務承認ノ情報ハ何等カノ間違ナルヘク個人債権其他特定ノ債権ヲ認メタルモノニ過キス尤モ貴公使ノ指摘セル情報ニ就テハ本国ニ問合ハスヘキ処英国ハ露国ヨリ提議セル出兵中ノ損害ヲ審議セル筈ナリト弁明スル処アリ本問題ハ更ニ後日ノ討議ニ譲ルコトトセリ

第六、撤兵問題

本問題ニ関スル議定書(a)第三条ニ関シ「カ」ハ重ネテ期限ノ記入ヲ求メタルカ本使ハ本条文ニ於テハ「声明」ノ文句ヲ削除スル方ノ提議ニハ異議無ク又本条ノ書方ヲ修正スヘシトテ貴電第四九八号(四)ノ通訂正シ其条文ノ位置ニ関スル御来示ノ趣旨ヲ説明セシニ「カ」ハ本条文ヲ議定書ニ置クコトハ異存無キモ条文完備シ居ラサルヲ以テ(期限未定ノ点ヲ意味ス)之ヲ審議スルコト困難ナリト述ヘ其儘トシタリ

第七、秘密条約問題

議案書(a)第四条ニ関シ「カ」ハ本条文ニ関シ当然起ルヘ

我方請求権ヲ削除シ之ニ関シ規定ヲ設クルノ権利ヲ奪フハ相互主義ノ見地ヨリスルモ不都合ナリトテ伊太利トノ本問題ニ関スル協定条文ヲ提示セリ依テ本使ハ伊太利トハ請求権ノミヲ規定セルモノニアラスヤト述ヘタルニ「カ」ハ請求権トハ損害賠償其他一切ノ債権ヲ包含スルコトニシテ日本側ニ於テ用語上ノ区別ヲ為サムト欲スルナラハ夫レニ従フモ可ナリト弁明シタルカ本使ハ別ニ請求権ニ関シ本条項同様ノ規定ヲ設クルハ日本政府ノ同意セサル処ト信ス債権ト請求権トヲ同等ニ取扱ハムトスルハ露国トシテハ極メテ巧妙ナル主張ナルヘキモ西比利亜出兵ノ損害ヲ金額モ判明シ居ル日本ノ債権ト同様ニ取扱フハ到底同意スルヲ得ス尤モ右損害賠償ハ将来外交手段ニ依リ請求セラルルハ任意ニシテ日本カ如何ニ之ヲ処理スルヤハ本使言明ノ限リニアラスト述ヘタルニ猶「カ」ハ請求権ニ就テハ現ニ英国トモ論議ノ結果終ニ英国モ妥協的ニ出テタルモノニシテ元来露国側ニ於テハ戦時債務ハ之ヲ認メサル立前ナルモ日本側ニ於テ頻ニ之ヲ主張スルカ故ニ請求権ヲ一括シテ規定セムトスルモノニ過キスト主張シテ熄マス本使ハ英国ニ対シテハ二千五百万磅ノキハ「ベッサラビヤ」条約問題ナルカ右ニ関スル日本政府ノ意向如何ト質シタルヲ以テ本使ハ本問題ニ関シテハ帝国政府ニ於テモ同情ヲ以テ詮議シタル処ナルカ外国トノ条約ハ帝国憲法上枢密院ノ諮詢ヲ(脱)天皇之ヲ批准セラルルノ規定ニシテ一旦調印セル条約ヲ批准セストノ約束ヲ為スハ天皇ノ批准権ヲ拘束シ大権ヲ侵犯スル憲法違反ニシテ帝国政府ノ敢テ為シ得サル処ナリ仄聞スルニ英露会議ニ於テ露国側ヨリ同様ノ提議アリタルニ対シ英国ハ平和条約署名列国ト協議スルヲ要スル趣ヲ以テ拒絶シタリトノコトナリ日本モ又同様ノ立場ニアリ仮令政府ニシテ批准ノ意向ナシトスルモ(脱)文ヲ以テ之カ約束ヲ為スヲ得サル旨ヲ説明セルニ「カ」ハ然ラハ政府ヨリ批准ヲ奏請セサルコトトセハ憲法上ノ大権ヲ侵スコトトモナラサルヘク其方法ニ就テハ国内法上ノ関係モアリ然ルヘク御研究ヲ請ヒタシ本問題ニ就テハ批准済ノ英国ハ兎モ角日本及伊国ニ対シ羅馬尼ヨリ最近特ニ運動シ居ル趣ナルヲ以テ出来得レハ秘密協約トスルモ可ナリト述ヘタルモ本使ハ仮令秘密協定トスルモ之ヲ約束スルハ出来難シ但御説明ノ趣ハ日本政府ニ伝ヘ置クヘシト答ヘ伊国

ニ対シ本件ニ関シ同様ノ提議ヲ為シタルコトノ有無及其結果如何ヲ尋ネタルニ「カ」ハ公表セルモノハ無之モ実ハ伊国トハ本件ニ関シテハ相当ノ諒解ヲ遂ケ居リ其証拠ニハ羅馬尼国会ニ於テ伊国カ該条約ヲ批准セサルコトニ関シ大騒ヲ為セリト語リタリ次テ「カ」ハ秘密条約ニ就テハ将来ニ関スル点ヲモ規定スルコトヲ提議シアリタルコトヲ述ヘタルカ本使ヨリ将来斯々ノ条約ヲ締結セサルコトヲ約束スルハ等シク条約締結ニ関スル憲法上ノ大権侵犯トナリ到底同意シ難キ旨ヲ説明シタルニ「カ」ハ之ヲ諒ト為シ此点ニ就テハ強テ主張スルコトナカルヘシト述ヘタリ

第八、尼港事件

本件ニ関スル付属公文ニ関シ本使ハ右ハ貴方ノ希望ニ基キ之ヲ本文ニ規定セスシテ付属公文ト為セルモノナルカ故ニ本公文ニ就テハ無論異議ナカルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ此種ノ公文ヲ協約ニ付属セシムルコトニハ異議ナキモ公文ノ実質ニハ大イニ議論アリ本件ニ関シテハ曾テ債権及利権問題ノ解決ヲ見タル上相互ニ同意シ得ヘキ形ニ規定スヘキ旨ヲ述ヘタルコトアリト言ヘルニ依リ本

使ハ債権問題カ満足ニ解決ノ上ハ日本ノ希望通リ本件ヲ解決スヘキ旨述ヘラレタルハ事実ナルモ利権問題ノ解決ヲ条件トシタルコトナシト指摘セルニ「カ」ハ果シテ然リトセハ夫レニテモ可ナリ要スルニ利権問題ニ比スレハ左程重大ナル問題ニアラスト述ヘ当日ノ会議ヲ終リ追テ次回会議ハ既ニ一通リ協約各条文ノ審議ヲ為セルコトニ付数日休会ノ後打合セ開会スルコトトセリ

四二七　八月十二日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

利権問題ニ付キ島田ヘノカラハンノ内話報告ノ件

第六八四号　極秘　（八月十三日接受）

八月十二日島田往電第六八三号ノ要件ヲ帯ヒ「カラハン」ヲ往訪シタル際「カ」カ打明話ナリトシテ本使ヘ伝達方依頼シタル事項中左記御参考迄ニ電報ス

(一)利権問題ニ関スル露国側案文ニ長期有利云々ナル文句ヲ加フルノ外更ニ数（スウ）（脱）文字ヲ付加シテ之ヲ詳細ニスルハ差支ナシ

右以上日本側要求ニ応スルノ意思絶対ニナシ

(二)利権契約ハ原則トシテ在莫斯科最高利権委員会ニ於テ取扱フモノナルモ在外大使ノ許ニ専門家技師等ヲ四、五名臨時従属セシメ右大使ニ於テ利権契約ヲ締結スルコトトナスヲ得又利権委員会ヨリ浦潮ニ特別委員会ヲ特派シ日本側ト商議セシムルモ可ナリ其締結期間ハ協約成立後三ケ月トスルモ可ナリ

四二八　八月十二日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

利権、債権、最恵国条款、撤兵及ビ尼港問題等交渉上ノ難問題ニ対スル打開策ニ付キ意見具申ノ件

第六八五号　至急極秘　（八月十三日授受）

今回ノ談判中難問ト認メラルヘキモノハ北樺太利権問題、債権問題、最恵国条款問題、撤兵問題、尼港事件陳謝問題等ニシテ其他尚多少ノ論議ヲ要スヘキ廉ナキニシモアラサルモ之等ハ比較的容易ニ解決スヘク要スルニ今後尚大ニ努力ヲ要スル事項ハ前記各項ノ問題ナルカ其ノ内

(一)債権問題ニ付テハ五月以来「カラハン」ノ主張ニ顧ミ請求権ヲ債権ト共ニ協約中ニ規定セサルコトハ到底妥協ノ望ナキハ明白ニ有之又請求権ノ問題ヲ後日ノ商議ニ譲ルコトトスルモ我方ノ真意カ債権ニ付テハ差向キ放棄同様ノ憂ヒヲ有スル以上何等差支ヘナキヲ以テ右ノ如ク修正スルコトトシテ本件ヲ妥結致シタシ

(二)尼港事件陳謝問題ハ債権請求権ノ問題ニシテ右ノ通妥結スルニ於テハ容易ニ解決スヘシ

(三)撤兵問題ハ帝国軍隊カ現ニ北樺太ニ駐屯セル以上労農側ニ於テ如何ニ苦慮百端スト雖モ我方ニ於テ之ニ応セサル以上何トモ致方ナク従テ二ケ月ト云フモ之ヲ二週間ト比較シテ五十歩百歩ノ差ト称スルモ不可ナク要スルニ利権問題ニシテ解決ノ見込タツ場合ニ最低限度ノ一ケ月半ノ期限ヲ記入シテ解決スルコトトシタシ

(四)最恵国条款ノ帝国政府案ハ五月談判ノ際「カラハン」ノ為シタル一部ノ説明ニ基キ立案セラレタルモノナルモ其後本使ヨリ「カラハン」ニ屢々其ノ意思ノ決定ヲ促シタル結果今回本使帰任後ノ会見ニ於テ彼ト談判シタル際ノ印象ニ依レハ先方ニ於テモ其後或ハ莫斯科ト往復シタル結果ニヤ種々研究ヲ遂ケタルモノノ如ク容易ニ我カ提案ヲ承諾セス今日ノ処是亦頗ル困難ナル問題ノ一ナル事ハ

事実ナリ乍去尚本問題ニ付テハ多少談判ノ余地無キニ非サルニ付更ニ論議シ度キ所存ナルカ若シ利権問題ノ解決ヲ見ルカ如キ場合ニハ本問題亦一層解決ノ望ミヲ増スニ至ルヘシ

(五)利権問題ハ本月八日及六日ノ両日ニ亘リ本使ニ於テモ極力努力スル処アリ何トカ先方ヲシテ議定書(B)ノ内容論議ニ釣込マント努メタルモ彼ハ只管逃ケヲハリ如何ニスルモ之ニ応セサリシ次第ハ当該往電ニテ御承知ノ通ニテ何等乎手段ヲ変更スルカ如キ事アラハ或ハ彼ノ態度ニ変化ヲ見ルヤ図リ難キモ現在ノ儘ニテ進ムルハ容易ニ我カ目的ヲ達シ難シト思考ス旁此際閣下ニ於テモ篤ト御考慮有度ク殊ニ出発前御内談ノ件ハ此際御詮議ヲ給ハル事決シテハイエンニ失スルノ憂ヒ無シト存ス(但成否ハ判明セサルモ)尚又帝国政府ニ於テ此際本問題ノ為今回ノ交渉モ前途ノ見込無シトノ断定ヲ下サルモノトセハ敢テ交渉ノ末路ニ至ルヲ俟タス最恵国条款、債権問題、尼港陳謝問題等尚未解決ナル今日早キニ臨ミテ露国側ノ各種問題解決ノ誠意無キ事ヲ口実トシテ決裂ニ決定セラルル事モ一策ニ有之若シ利権問題ヲ最後迄懸案トシ債権問題及其他ノ問題ヲ殆ト全部解決シタル後単ニ利権問題ノ未解決ヲ口実トシテ談判ヲ破裂セシムルカ如キハ帝国政府ノ立場ヲシテ極メテ不利ナラシムルモノト思考ス尤モ「カラハン」ノ肚裏ハ飽迄強硬ヲ装ヒ仮令多少譲歩スル意アリトスルモ結局ノ場合ニ至ラサレハ之ヲ示サス偏ニ日本側ヲ釣リ寄セントスル策略ナルヤモ知レサルニ付此際多少ナリトモ我方ニ於テ譲歩ノ色ヲ示ス事ハ彼ヲシテ益々付ケ上ラシメ際限無キ譲歩ニ導クノ奇観(危険?)無キニ非ス加之万一交渉不調ノ場合ヲ想像スレハ債権問題其他ヲ殆ト全部解決シタル後単ニ利権問題ノ為ニ交渉不調ニ至リタルカ如キ印象ヲ外部ニ与フル事ハ前述ノ如ク帝国政府ノ立場ヲ不利ナラシムルモノナルニ付撤兵時期等ノ関係等ニ依リ先方ニ於テ其ノ真意ヲ明カニセサルヲ得サルニ至ル時期迄我方トシテハ暫ク交渉ヲ中止シ最恵国条款債権問題等ニ関シテ今日以上之ヲ進捗セシメス静ニ観望ノ態度ニ出ツルト同時ニ万一不調ノ場合ニハ露国側ノ各種問題解決ノ誠意無キ事ヲ指摘シ得ルノ余地ヲ存シ置ク事得策ナルヤモ知レス累次ノ往電ニ依リ交渉ノ全局ニ亘リ深ク御考慮中ト拝察スルモ不取敢卑見電稟スル次第ニ付何分ノ

御電訓ヲ請フ

四二九　八月十四日　幣原外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

日露漁業協約改訂ニ関シ訓電ノ件

第五一八号　極秘

貴電第六五九号中漁業問題ニ関シ其ノ(一)ニ付我方トシテハ御来示ノ通リ主義上一九〇七年ノ漁業協約ノ効力持続ニ関スル主張ヲ固持スルモノニシテ露国側ニ於テモ我方提案ニ基キ原則トシテ同協約ノ改訂ニ同意スル以上先方申出ノ如キ過渡的規定ヲ設クルノ必要ナキモノト認ム尤モ本年我当業者カ露国当局ト締結セル三個年間ノ漁区租借契約ハ右協約ノ規定ト合致スルモノニ非サルニ顧ミ協約改訂ニ至ル迄ノ事実上ノ便法トシテ該租借契約ノ効力ニ付何等カノ規定ヲ設ケムトスルニ於テハ我方モ之ヲ考慮スヘキニ付右ニ基キ交渉セラレ其ノ応酬振回電アリタシ

次ニ其ノ(二)ニ付テハ先方ノ所謂現在ノ事態ニ適合シテ云々トハ之ニ依リ先方カ如何ナル事柄ヲ主張セントスル意向ナルヤ判然セス此際漫然斯ル辞句ノ挿入ニ同意スルニ於テハ後日我方ニ取リ不利益ナルヘキヲ憂慮セラルルニ付是等ノ点ハ漁業協約改訂ノ際商議スヘキモノナリトシ此際ハ断然先方ノ提議ヲ斥ケ置カレタシ

四三〇　八月十四日　幣原外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

北京会談ノ其ノ後ノ交渉経緯ニ鑑ミ政府ノ方針訓電ノ件

第五一九号　極秘

貴電第六八五号ニ関シ

単ニ利権問題ノ為ニ交渉不調ニ至リタルカ如キ印象ヲ外部ニ与フルハ帝国政府ノ立場ヲ不利ナラシムヘシトノ理由ニ基キ貴見御稟請ノ処客年川上「ヨッフェ」間交渉ニ於テ尼港事件謝罪問題利権問題等ニ就テハ既ニ相当話合成リタル事実アルノミナラス今回貴官「カラハン」間ニ於テハ数ケ月ノ商議ヲ経来リタル次第ナルヲ以テ此際各種問題ニ就キ何等纏マル所ナクシテ交渉不調ニ終ルカ如キコトトナル場合ニハ却ッテ世論ノ非難ヲ招クヘキハ明白ナリ加之元来利権ニ関スル我方今回ノ提案ハ何等不当ノ要求ニ非サルヲ信シ仮令之カ為談判破裂ニ終ルトスルモ帝国政府ノ立場ヲ不利ナラシムルノ理由ナカルヘキニヨリ貴官ニ於テ引続キ交

渉ヲ継続セラレ利権問題ノ外未解決ノ諸問題ニ付テモ成ルヘク速ニ之カ解決ニ努メラルル様致シタシ

前記貴電中

㈠債権問題ニ付テハ露国側自ラ明示スルコトヲ得サル露国側債権ヲ考量ニ加ヘテ本規定ヲ双務的トスルコトハ同意シ難シ尚請求権問題モ露国側ノ主張余リニ漠然タルモノナレハ我債権ノ規定トハ全ク之ヲ引離スノ外ナキ処露国側ニ於テハ結局如何ナル規定ヲ設ケントスルモノナリヤ更ニ先方ノ意向ヲ突止メラルル様致シタシ

㈡尼港事件陳謝問題ハ我方既定ノ方針ニ依リ成ルヘク速ニ案文ヲ確定スルニ努メラレタシ

㈢撤兵問題ニ関シテハ撤兵期限ヲ「ブランク」ト為セルハ何等懸引ノ意味ヲ含ムモノニ非ス若シ九月十五日頃迄ニ協約ノ効力発生スルコトトナル場合ニ於テハ結氷期タル十月末迄ニハ撤兵ヲ完了シ得ヘキ予定ナルモ協約成立ノ時期如何ニヨリテハ事実撤兵ヲ完了シ得サルノ事態ヲ発生スルコトアルヘキニ付帝国政府トシテハ此際直チニ右撤兵期限ニ付明確ナル約束ヲ為スコトハ敢テシ得サル所ナル旨ヲ篤ト露国側ニ説示セラレタシ

㈣最恵国約款問題ニ関シテハ「カラハン」ハ頻リニ貴官ニ於テ曩ニ既ニ提案ヲ為シ双方ニ相当了解纏マリ居ルカ如キ主張ヲ為シ居ル処右ハ勿論貴官限リノ私見ヲ提示セラレタルモノニ過キスシテ貴官ノ御趣旨モ帝国政府ヲ拘束スルノ意味合ニ非サルコト明瞭ナルニ付其ノ旨篤ト露国側ニ説明シ置カレタク而シテ我方新提案ハ充分露国側ノ主張ヲモ参酌シ露国ニ於テ其ノ接壌諸国ニ与フルコトアルヘキ待遇ニ対スル均霑ヲ除外シ此点ニ於テハ我方ヨリ見レハ事実上露国側ニノミ有利ナル片務的ノ規定トモ解シ得ラルヘキ次第等ヲ充分ニ説明セラレタシ

㈤殊ニ利権問題ニ関シテハ今日迄「カラハン」ノ示セル態度ニ徴スレハ或ハ今回ノ交渉モ遂ニ決裂ノ外ナキモノト思ハルル次第ナルモ或ハ「カラハン」ニ於テ我方ノ主張ヲ了解シ居ラサル点アルヤモ測ラレス又「カラハン」ノ主張ハ我方ニ於テ未タ了解シ難キ所アリ今一応論議ヲ尽シ少クトモ双方ノ所見ヲ明ニシタル上ニテ決裂ト否トヲ決スルコトト致シタキ考ナル旨篤ト「カラハン」ニ説示セラレ貴官ヨリモ既ニ大体御説明済ノコトナルモ猶疑問ノ廉ヲ明ニスル為左記諸点ヲ指摘セラレ篤ト先方ノ再考ヲ促サレタシ

(1)「カラハン」ハ戦敗国ニ非サル露国トシテハ飽ク迄対等ノ立場ニテ日本ト交渉スルヲ要スト主張セルモ我方ニ於テハ露国ヲ戦敗国トシテ取扱ハントスル意思毫モナク飽ク迄対等ノ立場ニ於テ交渉セルコトハ現ニ利権問題ニ就テモ其ノ経営上実際純益ノ有無ニ関セス年々生産高ノ一部ヲ露国側ニ交付スヘキヲ約セルニ依リテモ明ニシテ若シ戦敗国ニ対スル関係ナラハ利権ノ許与ニ対シ斯カル生産高分配ノ約束ヲ提議スヘキ筈ナシ

(2)「カラハン」ハ又他ノ何レノ国ニモ与ヘ得サルカ如キモノヲ仮令樺太ニ於テノミナリトモ日本ニ許与スルヲ得スト主張セル処我方ニ於テハ露国カ他国ニ如何ナル実質ノ利権ヲ与ヘ居ルカハ之ヲ審ニセサルモ元来北樺太ハ尼港事件解決ノ保障トシテ占領シ来レルモノナルニ拘ラス今回協約ノ表面ニ右尼港問題ト利権問題トノ関係ヲ明記スルコトヲ避クルコトトセルハ全ク露国側ノ面目ヲ重ンスルノ趣意ニ出テタルモノニシテ我方ノ苦衷ハ「カラハン」ニ於テモ充分諒得セムコトヲ望ム

(3)「カラハン」ハ労働者ニ関スル条件ニ付異議ヲ述ヘタルモ我方ニ於テハ何等政治上又ハ社会政策上ノ主義ニ基キ露国国内法ノ除外ヲ要求スルカ如キ趣旨ニアラス本件利権ノ如キ純益ノ有無ニ拘ハラス其ノ生産高ヨリ露国側ニ相当ノ分配ヲ為サントスル次第ナレハ露国側ニ於テ若シ労働者ニ関シ種々面倒ナル制限ヲ設クルトキハ事実上資源開発事業ヲ困難ナラシメ右生産高ノ分配モ到底行ハレ難キニ至ルヘキヲ顧慮セルモノニシテ即チ単ニ経済上ノ理由ニ基キ提案セルモノニ外ナラス

(4)「カラハン」ハ又利権問題ノ詳細ヲ審議スルノ権限ヲ有セスト主張セルモ斯ノ如キハ露国側内部ノ問題ニ過キスシテ利権委員会ヨリ「カラハン」ニ本件審議ヲ委任スル方法モアルヘク苟クモ今回交渉ノ重要案件タル利権問題ニ付露国側全権タル「カラハン」カ之ヲ審議スルノ権限ヲ有セストシ又「カラハン」自ラモ之ヲ審議シ得サル様莫斯科政府ニ稟請セルト云フカ如キハ其ノ真意ヲ了解スルニ苦シムモノナリ

(5)「カラハン」ハ又露国ニ於ケル利権ノ経営ニハ常ニ四五十ケ条ヨリ成ル詳細ノ取極ヲ必要トスト言ヘル処我方ニ於テハ露国側ニシテ利権ニ関スル付属議定書(B)所載事項

ノ趣旨ニ同意スル限リ他日更ニ詳細ナル利権契約ヲ締結スルコトトスルモ差支ナク例ヘハ通商条約ノ締結ニ関スル条文ニ倣ヒ利権問題ニ関スル我方提案ヲ将来利権契約取極ニ対スル基本条項トシテ付属議定書中ニ規定シ且右利権契約成立ニ至ル迄ハ前記付属議定書ノ基本条項ニ依リテ現在着手セル作業ノ継続実行ヲ為スコトトスルモ可ナリ尤モ露国側ニ於テハ利権ノ許与ハ露国側ニ於テ一旦北樺太ノ主権ヲ回復シタル後ニ為スヘキヲ主張シ居ル処右ハ露国側ニ於テハ我方カ北樺太占領地域内ニ於テ現ニ試掘等ニ着手シ居レル事業迄モ撤兵ト共ニ一併撤退セシメントスルモノニシテ斯ル主張ハ全然現実ノ事態ヲ無視スルモノナレハ我国論ヲ沸騰シ或ハ撤兵其ノ者ニモ大ナル反対論ヲ惹起スルノ結果トナルノ虞アリ

(6)「カラハン」ハ又日本側提案ニ依レハ北樺太ノ油田炭田ハ悉ク日本ノ所有トナリ残ル所ハ不毛ノ荒地ノミトナルヘシト言ヘルモ右ハ明ニ事実ニ反シ炭田ノ如キハ我方ノ要求セル区域以外ニ尚多々存在セルハ明白ニシテ油田ニ就テモ同様ナルヘク要スルニ露国側ニ於テ我方カ北樺太全体ノ利権ニ就キ地域的ニ独占的要求ヲ為スモノノ如ク

主張スルハ誤レリト云ハサルヘカラス

(7)又露国側ハ調査材料ヲ有セサル為取極ヲ為スヲ得スト云フモ北樺太ハ露国ノ多年領有シタル所ニシテ露国側ニ於テ調査材料ヲ有セサルモノトハ想像スルコト能ハス

(8)又露国側ハ利権問題ト国交回復トヲ相関連セシムルコトニハ同意スルヲ得スト主張スル処我方ニ於テハ国交関係設定後ニ於テ日露間ニ完全ナル親交ヲ保チタキ希望ニ基キ予メ出来得ル限リ両国間ニ不愉快ナル論争ノ原因ヲ残スコトヲ避ケムトスルモノニシテ故ラニ利権問題ト国交関係設定トヲ関連セシメムトノ趣意ニ出テタルモノニ非ス我方ニ於テハ露国側カ主義トシテ利権ヲ我方ニ許与スルニ異存ナキ旨ヲ述ヘナカラ何カ故ニ此際直チニ之ヲ具体的ニ取極ムルコトヲ非トスルノ理由ヲ解スルニ苦シム次第ナリ

(9)又露国側ハ日本提案ニ依レハ利権許与区域ニハ露国ノ監督権等ニ関スル行政権ヲ認メサルカ如シト云ヘルハ大ナル誤解ニシテ協定成立セハ日本軍ハ北樺太ヨリ完全ニ撤退スヘク占領中日本軍ノ行ヒ来リタル軍政モ直チニ之ヲ撤去シテ完全ナル主権ニ於テ北樺太ヲ露国官憲ニ引渡ス

ヘキハ勿論ニシテ露国側ニ於テ何等疑懼スルノ理由ナシ

四三一　八月十五日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

利権ニ関スル既定方針ノ変更ヲ可トスベキ旨意見具申ノ件

第六九三号　至急極秘　（八月十六日接受）

往電第六八五号末段ニ関シ

右ハ或ハ露国側ヨリ折レテ来ルコトモアルヘキヲ前提トシタルモノナルモ万一然ラサル場合ニ如何ニスヘキヤ此点モ亦考慮シ置ク必要アリ「カラハン」ハ内心妥協ノ成立ヲ希望シ居ルハ勿論ナルヘキモ露国側内部ノ事情ノ為到底北樺太利権問題ニ関シ相当譲歩ヲ為シ来ラサルヤモ知レス右様ノ場合我方トシテ此儘成行ニ委セ観望ノ態度ヲ継続スルモノトセハ交渉ハ自然ニ立消ヘトナルヘキ処此方法ハ如何ニモ拙劣ト思考セラルルニ付相当ノ時機迄ニ折レ来ラサル場合ニハ日露国交回復ノ重要ニシテ今回ノ時機ヲ失スルニ於テハ更ニ有利ナル解決ヲ期シ難カルヘキニ顧ミ此際利権ニ関シ相当譲歩ヲ為スモ交渉ヲ纏ムルコト結局得策ナリト思考スルモ若シ帝国政府ニ於テ利権ニ関スル既定方針ヲ変更セラルルコト不可能ナリトセハ往電第六八五号稟申ノ通リ最恵国条款其他二三ノ問題ノ未解決ヲ理由トシテ決裂ヲ声明セラルル方可然ク何レニセヨ最早八月モ一半ヲ経過シタル今日ニ付速ニ何レニカ態度ヲ決定セラルルコト必要ト思考ス

四三二　八月十九日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

北樺太利権問題ニ関スル回示ニ接シカラハントノ折衝経過報告ノ件

第七〇六号　至急極秘

貴電第五一九号ニ関シ

八月十八日本使ハ「カラハン」ニ対シ貴電御回示ノ諸問題ニ付一々我方提案ノ趣旨ヲ反覆説明シ殊ニ北樺太利権問題ニ付テハ御来示ノ諸点ニ亘リ詳細先方ノ主張ヲ反駁スルト共ニ本問題ニ関スル我方要求ノ趣旨ヲ敷衍シテ懇切ナル説明ヲ加ヘタリ右ニ対シ「カ」ハ利権以外ノ問題ニ対スル露国側ノ異議ハ暫ク措キ利権ニ関シテハ何故ニ日本政府カ今日ニ於テ本問題ノ解決ヲ必要トスルモノナルカヲ諒解セリ蓋シ北樺太ニ於テハ日本ハ現ニ利権事業ヲ遂行シ其生産品

ヲ輸出シ居ルモノノ如クナル処日本軍撤退ノ暁ニハ自然之等事業ヲ中止シ労働者ヲモ引揚ケサル可カラサルニ至ルヘク之カ為現ニ使用中ノ機械モ後日使用ニ堪ヘサルカ如キ状態トナルハ企業上並経済上ノ見地ヨリ多大ノ損失ト云フヘク従テ右ニ対シテハ何等カ適当ノ方法ヲ講スルノ必要アルヘキ旨早速莫斯科ニ電稟ス可シト述ヘ但シ之ト同時ニ日本側ニ対スル希望アリトテ莫斯科ニ対スル具体的稟請ノ必要上日本ハ現ニ北樺太ノ何レノ地点ニ於テ如何ナル人カ油田炭田事業ヲ如何ナル方法ニテ経営シ居ルヤニ関スル詳細ナル材料ヲ承知シ度ク貴公使モ最近同地ヲ実地視察セラレタル次第ニモアリ現状ヲ承リ度キ旨申出タリ

依テ本使ハ現ニ日本カ着手中ノ作業ヲ中止シ得サル可キ事ニ関シ莫斯科ニ稟請シテ其ノ諒解ヲ求メラレントスルノ趣旨ハ本使ノ多トスル処ニシテ之カ為日本カ現ニ如何ナル地点ニ如何ナル事業ヲ遂行シ居ルヤノ材料ヲ必要トスル趣モ亦至極尤モナル処本使トシテハ後日誤解ヲ生スルコト無カラシメンカ為莫斯科ニ対シテハ成ルヘク正確ナルコトヲ報告セラルルヲ希望スル次第ニ付貴下ノ申出ハ早速政府ニ電報ノ上正確ナル材料ヲ取寄スルコトトスヘシ

「カ」ハ其点ニ付テハ遺憾ナカラ同意スルヲ得ス日本側ニ於テハ利権問題ハ元来尼港問題ト関連シ撤兵問題解決ノ為提起セルモノナル趣ナルモ日本側ニ於テ尼港事件ヲ云為スルニ於テハ露国側ニモ言分アリ利権ヲ日本ニ与フル必要ナキ而已ナラス却テ日本ヨリ求ムル処ナカルヘカラス尚自分ニ於テ利権問題ヲ審議シ得サルニ於テハ専門家ヲ呼寄スルモ可ナルヘシトノコトナルモ実ハ自分ハ利権契約ノ委任権ヲ有ス只此際専門家ヲ呼寄セ数ケ月ノ時日ヲ費スコトトナルニ於テハ結局撤兵ヲ来(?)年中ニ完了シ得サル結果トナルカ如キハ甚タ面白カラス殊ニ本協約ト同時ニ利権契約ヲ締結スルトキハ露国ノ承認ハ利権ヲ以テ償ハレタルモノノ如キ印象ヲ与フヘク極東平和ノ為国交ヲ樹立ストノ歴史的事業ノ趣旨ニ反スルヲ以テ利権ハ飽迄国交樹立ノ協約トハ別ニ是ヲ提供センコトヲ望ムモノナリ

尚日本政府ニ於テハ此際一切ノ問題ヲ解決シ将来ノ紛議ヲ一掃シタシトノ趣ニシテ右ハ露国側ニ於テモ希望セサルニ非サルモ本協約ノ締結ハ差向キ急ヲ要スルモノナルカ故ニ単ニ主義上ノコトヲ取極メ置クニ止メタキ趣旨ニシテ現ニ英国トノ協約ニ於テモ将来ノ解決ニ委ネタル問題鮮カラス

就テハ差向莫斯科政府ニ対シテハ現ニ着手中ノ事業ヲ中止セシメサル様取計ハレ度キ旨主義上ノ事ノミヲ稟請セラレ追テ近日日本側ヨリ正確ナル現業調書入手ノ筈ナル旨ヲ付加スルニ止メ置カレタシト述ヘタルニ（実ハ大体ノコトナラハ本使ニ於テ即答シ得ル処ナルモ利権事業ノ現状ヲ先方ニ打チ明クルニハ御承認ヲ得ル必要アルヲ慮リ右様答ヘ置キタル次第ナリ）

「カ」ハ莫斯科ニハ其ノ通リ報告スルコトトスヘキ旨ヲ答フ莫斯科政府トシテモ日本カ現ニ遂行中ノ事業ヲ不利ナラシメサルコトニ関シテハ何等カノ便法ヲ講セサルヘカラサルモノト考ヘ得ヘク尤モ露国側ニ於テハ日本カ北樺太ニ於テ現ニ左程盛ニ事業ヲ経営シ居ルモノトハ思考セス主トシテ将来利権事業カ他人ノ手ニ移ルコトヲ惧レ居ルモノナルコトモ承知シ居ルヲ以テ莫斯科ニ対シテハ自分ヨリモ日本側ノ立場ヲ支持シテ上申スヘシ但シ自分カ支持スヘシト言フハ日本ノ現ニ遂行中ノ事業ニ付何等カ保存方法ヲ講スルノ必要アルヘキ旨ヲ上申スルノ意味ナリト述フル処アリ依テ本使ハ然ラハ我方「プロトコール」(b)ノ趣旨ヲ基本条項トシテ設ケ置クコトニハ異存無キ次第ナリヤト質シタルニ従テ日本トノ問題中ニモ其ノ解決ヲ希望スヘクシテ急速ニ実行シ得サルモノアルハ已ムヲ得サル処ナリ尚貴公使ハ付属議定書ノ如キ規定ヲ存置シテ利権契約締結ニ至ル迄ノ基本条項ト為シ置カントセラルル処右ハ形式上露国側提案ノ建前ニ類似シ此ノ点ニ於テ何等カ解決ノ途アルニ非スヤト感セラル但シ右記載条項ハ現業保存ノ問題ト区別シテ考フル必要アリ貴公使カ曩ニ主張セラレタル稍詳細ナル規定ト云ヒ露国側ノ所謂長期有利ト云ヒ要スルニ程度ノ問題ニシテ我方トシテモ必スシモ右ノ二事ニ限ル必要ナク一定ノ条件ヲ設ケ此条件ノ下ニ将来利権契約ヲ締結スルコトトセハ可ナルヘシト述ヘ更ニ誤解ナキ様付言シタシトテ将来詳細ナル利権契約締結ノ基礎タルヘキ基本条項トシテ一定ノ条件ヲ曩ニ露国側ヨリ提議セル案ニ付加シタキ趣旨ナリト説明セルカ本使ハ日本政府トシテハ基本条項トシテ「プロトコール」(b)ノ趣意ヲ維持スルコト絶対ニ必要ナリト主張セルニ「カ」ハ否単ニ数種ノ条件ヲ規定スルニ止ムヘシト固執シ本使ハ我方主張ノ趣旨ハ例ヘハ通商条約締結ニ至ル迄ハ協約中ニ基本条項ヲ規定シ置キ之ニ基キ両国間ノ通商関係ヲ律セントスル場合ト同シク追テ詳細ナル利権契約締結

ニ至ル迄ハ「プロトコール」(b)ヲ基本条項トシテ存置シ之ヲ以テ現行ノ作業ヲモ支配セントスル次第ナル旨ヲ反覆力説シタルカ「カ」ハ飽ク迄之ニ反対シ本問題ハ現行作業ノ保存協定ト将来締結スヘキ利権契約トノ二問題ニ区別シテ考フルヲ要ス露国側トシテハ或種ノ条件ノ下ニ将来利権契約ヲ締結スルノ義務ヲ負担スルモ夫レ迄ハ現行事業ノ保存行為而已トシテ之カ為暫行的便法ヲ設クヘク現行事業モ冬季ニ入リテハ自然休止スヘク旁々機械設備ノ破損ヲ防止スル等ノ方法ヲ講スルノ必要ハ之ヲ認ムルモノナリト述ヘ之ニ対シ本使ハ貴下ノ御説明ハ十分判明セサルモ我方ノ主張ハ将来利権契約ノ基本条項ヲ設ケ之ヲ以テ現行作業ノ保存行為ヲモナサントスルモノナリ貴下ノ所謂或種ノ条件ノ下ニ利権契約ヲ締結スル所謂条件トハ我方提議ノ基本条項ヲ意味スルモノナラハ差支ナキ旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ簡単ナル条文ヲ以テ直チニ作業ヲ継続セントスルモノナラハ同意スルヲ得サルモ現行作業ノ保存方法ニ就テハ莫斯科政府ニ稟請スルヲ得ヘシト繰返シ本使ハ未タ十分意思ノ疏通セサル点アルモノノ如シト指摘シ貴方ニ於テハ機械設備等ノ破損ヲ防クコトヲ現業ノ保存行為ト見ルモノノ如キモ我方トスルヤ否ヤヲ決シタシトノ意味ナリヤト質シタルニ「カ」ハ然リト答ヘ其儘討議ヲ終レリ

貴電御来示ニ依レハ現ニ作業中ノ事業ヲ其儘継続スルコトトナルニ於テハ「プロトコール」(b)ノ趣旨ヲ基本条項トシテ存置シ追テ之ニ基キ利権契約ヲ締結スルコトニ御異存ナシトノコトナルカ故ニ十八日ノ会見ニ於テ上記ノ如キ談判ヲ試ミタル次第ナルカ「カ」ハ談判ノ末段ニ於テ保存行為ト而已為スヘキヤ否ヤハ現業ノ調査ヲ見タル上ニテ決定シタシト述ヘ少シク腑ニ落チ兼ヌルヲ以テ十九日更ニ島田ヲ同人ノ許ニ派シ現業継続ニモ努力スルニアラサレハ東京政府ニ作業ノ現状通報方ヲ要求シ難キ旨声明セシメ之ニ同意セシムル様努力スル所存ナルカ何レノ途右ノ如キ official data　至急御作製ノ上御電報相成リタシ（石油石炭ノ経営者場所経営振リ現状等）尤モ本使ニ御一任相成ルニ於テハ宜シト存ス

四三三　八月二十一日　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

コミュニケ公表ノ主張ヲカラハンハ撤回セシ模様報告ノ件

第七一五号　（八月二十二日接受）

ニ於テハ現在着手セル事業ハ継続遂行スルコトヲ必要トシ冬季中ハ事業ノ一部ハ中止スルコトアルヘキモ全部ノ事業ヲ中止スルコトノ必要ナキヲ以テ利権契約締結ニ至ル迄ハ依然事業ヲ継続シ得ヘキ基本条項ヲ設クルノ必要アル趣旨ナルコトヲ説明セルカ「カ」ハ露国ニモ主権、法律アリ漫然数ケ条ノ規定ヲ以テ日本ノ自由ニ遂行セル事業ノ継続ヲ認ムルヲ得サル旨ヲ反覆シ本使ヨリ「カ」ノ莫斯科ニ対スル上申ハ単ニ貴方ノ所謂保存行為ニ就テ而已ナラス現行作業ノ継続方ニ付テモ稟申セラルヘキ趣旨ナラハ可ナルモ然ラサレハ同意シ難シト述ヘタルニ「カ」ハ現行作業モ冬季ニ入レハ継続出来難カルヘシト述ヘタルニ付本使ハ冬季ニ入ルモ単ニ一部ノ作業ヲ休止スル而已ニテ他ノ部分ハ休止セサル而已ナラス協約ノ効力ハ仮リニ九月中旬ニ発生スルモノトセハ九月中旬ヨリ冬季迄依然全部ノ作業継続ノ必要アリト説明シタルニ「カ」ハ少シク窮シタルモノノ如ク又又難関ニ到達シタリト呟キ現業ニ関スル実際ノ状況調査ノ上ハ現在ノ作業継続ノ必要ナク臨時保存行為而已ニテ足ルヤモ計ラレスト述ヘタルヲ以テ本使ヨリ貴下ノ趣意ハ日本政府ノ現業ニ関スル調書ヲ取調ヘタル上ニテ保存行為而已往電第六八三号ニ関シ

八月十八日本使「カ」ト会見ノ際「カ」ハ「コミュニケー」発表ノコトニ致シタク委細ハ追テ「ノート」ニテ申越ス旨語リ居リタルカ翌十九日島田他用ヲ以テ「カ」ニ面会ノ折「カ」ハ発表ノ件ハ折角日本政府ノ申出モアリ露国側ニテハ之ヲ見合ハスコトセル旨語レル由ナリ

四三四　八月二十二日　幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）

北樺太利権獲得ノ基本方針ニ付キ再ビ訓電ノ件

第五三二号　極秘

貴電第七〇六号ニ関シ

北樺太ニ於ケル石油石炭作業ノ情況ニ関シテハ貴官ニ於テモ大体御視察ノ通リニシテ特ニ又陸海軍側ヨリハ之ニ通暁セル武官ヲ夫々貴方ヘ派遣シ居ル次第ナルニ付貴官ニ於テ此等武官ト協議ノ上本件資料御作成相成先方ヘ内示セラレ差支ナシ尤モ右資料作成振如何ニ依リテハ北樺太ニ於ケル前記石油石炭作業ハ国際法上占領軍ニ認メラルル処ヲ越ヘタリト云フカ如キ問題ヲ惹起スルコトトナルノ虞アルノミナラス協商不成立ノ場合ニハ露国側ノ為ニ之ヲ利用セラルルノ虞アルニヨリ右資料中ニハ他日問題ヲ生シタル場合ニ

右我方作業ハ国際法上占領軍ニ属スル権限内即チ同軍ノ軍事上必要ナル範囲内ニ限定セルモノトシテ大体説明シ得ル様篤ト注意ヲ加ヘテ之ヲ作成セラルル様致シタシ

尚我方ニ於テハ占領軍ノ軍事上ノ必要ニ基キ例ヘハ石油ノ如キハ北辰会ヲシテ作業ヲ行ハシメ居ル処我方提案中議定書(B)ニハ先ツ帝国政府ニ於テ利権ヲ獲得スルコトトシ其ノ上ニテ場合ニ依リテハ之ヲ日本会社ニ譲渡スルコトヲ得ヘキ旨規定セルモ今後露国ヨリ実際利権ヲ獲得シタル上ハ之ヲ現在作業ニ当ラシメ居ル会社ニ譲渡スルヤ否ヤニ就テハ未タ決定セル次第ニアラサルニ付右御含ノ上本件資料内示ノ際先方ヲシテ右ノ点ニ就キ誤解セシメサル様御留意相成度又現ニ作業セルモノハ我方ノ要求セル区域中ノ一部分ニ過キサルモ其他ノ部分ニ付キテモ既ニ調査進捗シ居ル次第ナルニ付我方ハ現在作業ニ着手セル地点ノミナラス付属書(B)ニ記載スル地域全部ニ渉ル利権ヲ得ントスルモノナルコトモ留意シ置カレタシ

尚前記貴電ニ拠レハ「カラハン」ハ現行作業ノ保存協定ト将来締結スヘキ利権契約トノ二問題アルコトヲ述ヘ前者ニ関シテハ莫斯科ニ稟請スヘキヲ述ヘ居レルモ我方ノ要求スル地域全部ニ渉ル利権ヲ此際現実ニ我方ニ許与スルコトニ就テハ何等具体的ニ約スル所ナキモノノ如キ処我方トシテハ付属書(B)ノ趣旨ニ依リ先ツ利権獲得ノ大綱ヲ決定シ追テ利権契約締結ニ至ル迄ノ間単ニ機械設備等ノ保存ニ止マラス現実ニ右大綱ニ依リ現行作業ヲ継続シ得ル状態ニ置クコトトシ而シテ更ニ詳細ノ利権契約ハ前記大綱ニ基キ或一定期間内ニ之ヲ締結セムトスル意向ヲ有スル次第ニシテ何処迄モ露国側ヲシテ我方ノ要求スル地域内全部ニ渉ル利権ヲ此際現実ニ我方ニ許与セシムルヲ主眼トスルモノナルニ付此ノ点ハ特ニ御注意相成様致シタシ

四三五　八月二十二日　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

北樺太ノ利権開発ノ作業問題ヲメグルカラハントノ討議報告ノ件

第七二〇号　至急極秘　（八月二十三日接受）

往電第七〇六号ニ関シ

八月二十一日ノ会議ニ於テ本使ヨリ為念「カラハン」ニ対シ日本ノ北樺太ニ於ケル利権開発事業ニ関シテハ島田ノ報告ニ依レハ貴方ニ於テハ余程詳細ノ材料ヲ必要トセラルル趣ニシテ此際右調査材料ヲ提出ス可キヤ否ヤニ関スル日本政府ノ意向ハ未タ承知セサルモ本使トシテハ油田炭田ニ付其経営ノ場所経営者並使用機械ト云フカ如キ程度ノモノニテ足ル可シト思考スル処如何ト訊シタルニ「カ」ハ利権問題解決上ノ知識トシテ莫斯科政府トシテモ亦成ルヘク詳細ノ事ヲ承知スル必要アルヘク自分トシテハ㈠作業ノ所在地面積並「シャフト」㈡労働者及技術者ノ数㈢機械ノ種類状態㈣油田採掘機械ノ状況㈤設備ノ状況㈥軽便鉄道ノ長サ㈦建物ノ状態等ヲ承知シ度ク将来利権契約締結ニ至ル迄現在ノ作業ニ対シ如何ナルモノヲ莫斯科政府ハ承諾シ得ルカヲ決定スル材料トシテ必要ナル旨ヲ答ヘ自分ハ事業保存問題ニ付テハ莫斯科政府ニ対シ日本ノ為之ヲ支持ス可シトサヘ述ヘ居ル次第ニテ日本カ現ニ如何ナル事業ヲ遂行シ居ルヤノ実況ハ之ヲ承知セサルモ察スルニ現在ノ作業ヲ中止スルモ左程損失トナルカ如キ大規模ノ経営ヲ為シ居ルモノニ非サル可シ但シ実際百万「プード」モ産出スルカ如キ事業ヲ経営シ居ルモノトセハ自ラ別箇ノ考慮ヲ要ス可シト述ヘ本使ハ我方トシテハ利権契約成立ニ至ル迄ハ兎モ角現在ノ作業ヲ継続シ得ル事ヲ必要トスルモノナル処貴下ハ試掘ノ程度ノモノナラハ差支ナキ旨島田領事ニ語レル趣ナルカ単ニ試掘調査ト云フ程度ノモノナラハ作業継続ノ必要ヲ認メラル可キ事勿論ナリト述ヘタルニ「カ」ハ試掘調査ト云フ点ハ甚タ面白キ話ニシテ此事ニ付自分ノ述ヘントスル所ハ或ハ自己ノ職責ニ反スル事ナルヤモ計リ難キニ付内々ニ聴取セラレ度キ処幾名ノ技師労働者ヲ用ヒ何レノ地点ヲ調査試掘セリト云フカ如キ事ナラハ自分ハ政府ニ対シテモ之カ許可ヲ申稟シ得ヘシ然ルニ表面ヨリ事業ノ経営ヲ許可スヘシト要求セラルル時ハ莫斯科政府トシテモ如何ナル大規模ノ事業ヲ実行シ居ルモノナルヤニ付危惧ノ念ヲ免カレサル処ナル可シ右ハ全然自己一個ノ私見トシテ貴公使ノ御含迄ニ申述フル処ナリト付加シタリ本使ハ北樺太ノ利権ハ我方ニ於テ極メテ重キヲ置キ居ルモノナルコトハ既ニ十分御承知ノ通リニシテ現ニ作業シ居ルモノハ是非トモ其ノ継続ヲ承諾セラルルニ非サレハ本交渉ノ成否モ覚束ナシト思考スル次第ナルカ現在ノ作業ト云フモ石炭百万「プード」ヲ産出シ又ハ商品トシテ石油ヲ搬出シ居ルカ如キコトナシ従テ貴方ニ於テ現在ノ作業ヲ認ムルコトニ異存ナシトセハ日本政府トシテモ是カ材料ヲ提出スルニ異議ナカルヘシト述ヘタルニ

「カ」ハ貴方ノ建前ハ至極尤モナルモ現在如何ナル事業ヲ遂行シ居ルヤヲ知ラシメスシテ予メ其ノ継続ヲ提議セラルルハ恰モ金額ヲ記入セサル手形ニ署名セヨト云フト同様ニシテ国民ニ対シ責任ヲ有スル自分トシテハ容易ニ承認シ得サル処ナルハ篤ト御諒解ヲ得タシ本問題ニ付テハ今後トモ随分曲折アルヘキ処兎ニ角作業ノ保存ニ付テハ自分ヨリモ莫斯科政府ニ対シ是ヲ支持スルコトトスヘク又作業継続ノ点ハ日本側ヨリ切ニ希望セル旨ヲ申添フルコトトスヘシ依テ此点ハ兎ニ角調査材料ヲ得タル上ノコトトシタシ蓋シ百万「プード」ノ石炭ハ産出シ居ラストスルモ或ハ五十万「プード」ヲ産出シ居ルヤモ測ラレス其ノ点ハ率直ニ事実ヲ明示セラレタク是ヲ秘密ニスル程露国側ノ疑惑ヲ深クスヘシト述ヘタルニ依リ是ニ対シ本使ハ貴官ニ於テハ率直ニ事実ヲ明示シテ事業継続ノ許否ヲ決スルヲ可トスヘシトノ主張ナルモ当初ヨリ予メ現在ノ作業ノ継続ハ許可スルヲ得スト云フトキハ労農政府ハ日本政府ニ対シ非友誼的ノ態度ヲ執ルモノトノ感想ヲ与フヘク従テ日本政府ハ現在ノ作業状態ヲ示スモ詮ナキコトト考ヘ得ヘシ依テ寧ロ虚心担懐ニ既ニ作業シ居ルモノハ其ノ儘許スヘシトノ度量ヲ示ストキハ必スヤ日本政府モ満足スヘシト説ケルニ「カ」ハ寛大ノ態度ヲ以テ接スヘシトノ貴公使ノ説ハ露国人ノ特性ヲ諒解シ居ラルルモノトシテ甚タ愉快ニ感スル処ナリ然レトモ実ハ日本ハ我々ノ希望ニ反シ現ニ作業ヲ為シ居ルモノニシテ是ニ対シ尚且ツ寛大ナル態度ヲ示スコトヲ求メラルルハ甚タ苦痛ヲ感セサルヲ得ス兎ニ角日本側ノ調査資料ヲ得タル上早速之ヲ莫斯科ニ転達シ日本側ノ作業継続ヲ希望スル事業ハ斯々ノモノナリト指摘シ申送ルコトトセハ可ナルヘシ尚自分ノ莫斯科政府ニ対シ日本ノ為ニ支持シ得ル点ハ作業ノ保存ナリ但右ハ利権ニ関スル露国側ノ主義的規定ニ同意セラルルコトヲ前提トスルモノニシテ両者ハ互ニ相関連セシムルヲ要ス而モ主義的規定中ニハ日本側希望ノ条件ヲ補足スルコトトスヘク以テ本問題ヲ解決スルコトトスヘシ即チ現在ノ事業ヲ完全ニ保持シ得ルコトトセハ主義的規定ニ付テハ露国側ノ案ニ依ルコト最モ妥当ナルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ作業継続ニ関スル今日迄ノ談合ノ程度ニテハ日本政府ハ現行作業ニ関スル材料ヲ提出スルヤ否ヤ疑問ナルノミナラス露国側ノ主義的規定トハ単ニ或種ノ条件ヲ以テセントスルニ反シ我方トシテハ「プロトコール」(b)ヲ以テスヘシトノ建前ナリ殊ニ保存行為ノ如キハ単ニ一時的ノ措置ニ過キサルニ拘ハラス主義的規定ハ将来永キニ亘ル主要問題ナルヲ以テ両者ヲ交換的ニ解決スルカ如キハ到底同意スルヲ得ス而モ我方トシテハ利権契約締結ニ至ル迄ノ間ハ現行作業ハ右主義的基本条項ヲ以テ支配セントスル趣旨ナリト説明セルニ「カ」ハ自分モ本問題ノ適当ナル解決方法ニ関シテハ随分熟慮ヲ重ネタルモ目下ノ処他ニ名案無キニ苦シム次第ナリト述ヘ本件討議ヲ打切リタリ

終リニ「カラハン」ハ莫斯科ヨリ問合セアリタルコトナリトテ曾テ日本ヨリ米国ニ対シ北樺太ノ石油利権開発上日本人ハ石油ニ関スル知識モ充分ナラス或ハ資本機械等ニ関シ姑息ナルヤノ趣ニテ多分三菱アタリヨリ米国人トノ共同経営ヲ提議セリトノコトナルカ事実如何ト尋ネタルニ依リ本使ハ本使ノ関スル限リ日本側ヨリ右様ノ申出ヲ為セル事ヲ聞カサル旨ヲ答ヘタルニ「カ」ハ莫斯科ニ報告上本件事実ノ有無ヲ承知シタキ旨ヲ述ヘタルカ右ハ米国トノ合同経営ニ対スル日本側ノ意向ヲ探ランカ為ナリトモ察セラルル処本件ニ関シテハ本使ヨリ一応本国政府ニ照会スヘキ旨ヲ約シ置キタルニ付テハ何分ノ儀御回報相煩度シ

四三六　八月二十二日　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

北樺太利権問題譲歩案ニ関スルカラハンノ内話報告ノ件

第七二一号　極秘　（八月二十三日接受）

往電第七〇六号末尾ニ関シ八月十九日「カラハン」カ利権問題ニ関スル露西亜側最後ノ譲歩案ナリトテ島田ニ内話セル処左ノ如クナリ

㈠八月十八日ノ会議ニ於テ「カ」ノ提議セル所謂一定条件トハ例ヘハ北樺太東海岸ニ於ケル油田西海岸ニ於ケル炭田ヲ長期且有利又ハ特権的ノ条件ニテ之ヲ日本側ニ許与スヘク之カ契約ハ協約成立後六ケ月以内ニ莫斯科ニ於テ締結スヘシ（従来三ケ月ト言ヒシハ極東ニテ契約ヲ締結スヘキ場合ノコトナリ）ト言フカ如シ日本側ニシテ露国提案ノ主義ノ規定ニ同意セラルルニ於テハ一定ノ条件ノ内容ニ関シ更ニ進ンテ討議スルノ準備アリ日本側案「プロトコール」(b)ハ余リニ独占的ニシテ之ニ応スル能ハス尚契約ハ之ニ対スル莫斯科政府ノ認可ヲ迅速且確実ナラシムル為ニハ莫斯科ニ於テ日露両国代表者間ニ於テ之ヲ

協議スルヲ可トス

(二)現業ノ保存問題ニ付テハ必要ノ措置ヲ講スル必要アルコト至極尤モノ話ニシテ此点ハ莫斯科モ反対ナラサルヘシト思考ス又自分ヨリ政府ニ対シ本件ヲ支持スルコトヲ得ヘシ次ニ現業ノ継続問題ニ関シテハ日本側ノ調査資料ヲ一覧シタル上ニ非サレハ確言シ難キモ資料拝見ノ上右継続ナル意味カ小規模ナルモノ例ヘハ試掘調査ト言フカ如キ程度ノモノナルニ於テハ自分ハ之カ解決左迄困難ナラスト思考ス而シテ右継続ナルモノカ大規模ノ作業ニ関スルモノナルニ於テハ之カ解決困難ナルヘシ従テ作業継続問題ニ関シテハ各利権別ニ充分詳細ナル調査資料ヲ拝見スルヲ要ス単ニ漠然総括シテ技師何人労働者何人ト言フカ如クンハ不可ナリ

〰〰〰

本ノ建前ニシテ其点ニ於テ露国側ノ建前ト同シカラスト弁明スル処アリ依テ本使ハ然ラハ試掘ノ如キ小規模ノ事業ハ之ヲ承認スルコトトナル場合ニハ生産高ニ対スル報酬金等ニ付テハ別ニ規定ヲ設クル次第ナリヤ日本側トシテハ議定書(b)ヲ基本条項トシテ斯ル場合ニモ生産高ノ百分ノ五ヲ納メントスルモノナル処其辺ノ規定ナシトセハ如何ニスヘキヤト反問セルニ「カ」ハ右ハ余リニ進ミ過キタル御質問ニシテ保存行為ニ付テスラ未タ政府ノ意向不明ナルニ当リ事業継続ノ場合ニ於ケル取極ヲ審議スルヲ得サルヘシト答ヘ更ニ本使ヨリ然ラハ小規模ノ事業ニ付テモ容易ニ其継続ヲ承諾シ得サル意向ナリト諒解シテ可ナリヤト追究セルニ「カ」ハ其ノ点ニ付テハ未タ政府ト打合セヲナシ居ラサルヲ以テ自分ヨリ如何返答スヘキヤヲ知ラス尚保存行為ニ関シテモ政府ノ見解ハ承知セサルモ此点ハ自分トシテモ道理アルコトト考ヘタルカ故ニ日本ノ為ニ支持スヘシト申述ヘタル次第ニシテ此点ト雖モ日本カ主義的規定ニ関スル露国側ノ建前ニ同意セル上ノコトニ過キスト答ヘ本使ヨリ重ネテ然ラハ議定書(b)ニ付テハ到底貴方ノ意見ヲ聞クノ余地ナキヤト質シタルニ「カ」ハ然リト答ヘ結局本件当日ノ討議

ヲ止メタリ

尚終リニ「カラハン」ハ議定書(a)第四条ニ関シ「ベッサラビア」条約ニ対スル日本政府ノ意向ヲ承知致シタク猶将来此種ノ密約ヲ締結セサルヘシト約束スルコトハ天皇条約締結権ノ侵害ナルヲ以テ到底応シ難シトノコトナリシ処其後我方調査ニ拠レハ現ニ日本ハ華府会議ニ於ケル九国条約ノ調印国ナル処同条約第二条ニハ将来斯々ノ条約ヲ締結セサルヘキ旨ノ規定アリ依テ我方要求ニ応スルモ差支ナキニアラスヤト述ヘタルニ付本使ハ九国条約第二条ハ例外的ノモノニシテ唯一ノ事例ナリ日本トシテハ此種例外的事例ノ増加ヲ欲セス猶「ベ」条約批准見合セニ関スル貴方申出ニ対シテハ前回会議ノ際日本政府トシテハ仮令密約トスルモ之ヲ約束スルコトヲ得スト思考スルモ一応御申出ノ次第ハ政府ニ報告シ置クヘキ旨答ヘタルニ止マリ別ニ請訓スヘシト言ヘルニアラス従テ本件ニ関シテハ政府ヨリ何等ノ回示ナキ旨ヲ告ケタルニ「カ」ハ「ベ」条約ノ問題ハ重要ナルヲ以テ日本側意向是非共承知致シタク猶九国条約ハ一ノ例外ニ過キストノ趣ナル処或ハ此外ニモ同種ノ事例ナシトモ限ラス何レニシテモ九国条約ノ事例現存スル処ナルヲ以テ露国ニ対シテモ他国並ノ待遇ヲ与ヘラレタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ「ベ」条約ニ関シテハ政府ニ請訓スルコトトスヘク又九国条約ノ点ニ就テハ篤ト研究ノ上適当措置スルコトトスヘシ尤モ貴方ニ於テハ頻リニ「ベ」条約問題ノ重要ナルコトヲ主張セラルルモ我方トシテハ利権問題ヲ極メテ重要視シ居ルコトハ露国側ニ於テモ充分承知ノ筈ナルニ拘ラス議定書(b)ノ如キハ其審議ヲモ為スヲ得スト言ヒ乍ラ「ベッサラビア」条約ニ関スル我方意向ヲ承知シタシト言フカ如キハ余リニ手前勝手ニシテ日本政府トシテモ甚タ不快ニ感スヘシ本使トシテハ議定書(b)ニ関シ此上トモ切ニ其ノ反省ヲ促ササルヲ得サルモノナリト説示セルニ「カ」ハ之ヲ首肯シ「ベ」条約問題ハ勿論利権問題ヲ解決シタル後ノコトトスヘク日本側ノ立場ハ充分諒解シ居ル処ナル旨ヲ答ヘ次回会議ハ追テ打合セノ上開会スルコトトシ散会セリ

四三八　八月二十四日(着)　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

シンクレアニヨル北樺太石油ノ調査試掘ニ関スル宣伝ノ件

第七二七号　極秘

情報ニ依レハ在当地「シンクレヤ」代表者ハ日本軍ニシテ北樺太ヨリ撤兵セハ「シンクレヤ」側ハ其翌日ヨリ起算シテ約定期間内ニ調査試掘ヲ行フヘシト宣伝シ居レル由ナルカ右ニ関シ八月十九日「カラハン」ハ島田ニ対シ「日本側ハ正当ノ所有者タル露国政府ヨリ利権ヲ付与セラルルモノナレハ日本側トシテハ何等「シンクレヤ」問題ヲ考慮スルノ必要ナキ次第ナリ」ト云ヘル由ナリ

四三九　八月二十四日(着)　薩哈嗹州派遣軍参謀長ヨリ　陸軍次官宛（電報）

北樺太派遣軍ノ撤兵計画ニ関スル現地軍ノ方針進達ノ件

薩参特四二～四五　極秘

薩哈嗹州派遣軍北樺太占領解除計画

日露修交ニ関スル協定成立シ大正十三年秋ニ於テ一月半ヲ越エサル期間ニ薩哈嗹州派遣軍ヲ北樺太ヨリ撤去スル場合ヲ顧慮シ其ノ占領解除ノ要領ヲ左ノ各項ノ如ク概定ス但シ撤去ニ関スル命令ヲ軍司令部ニ受領シタル当日ヲ撤去第一日トス

一、占領ヲ左ノ如ク四期ニ別チ之ヲ解除ス

第一期　東海岸ニ於ケル北緯五十三度ノ点ト西海岸ニ於ケル北緯五十一度三十分ノ点トヲ連ヌル線以北ノ地区ノ占領ヲ概ネ撤去第十五日ニ解除ス此期間ニ「ポゴビ」守備隊ヲ亜港ニ「オハ」守備隊ヲ「チャイオ」付近ニ移シ其ノ軍需品殊ニ兵器弾薬ヲ該線以南ニ移ス

但シ第一日カ九月十五日以前ナル時ハ漁業保護ノ為海軍ノ協力ニ依リ多少之ヲ延期スルコトアリ

第二期　北緯五十一度三十分以北第一期占領ヲ解除シタル地区ノ南端迄ノ地区ノ占領ヲ概ネ撤去第二十八日ニ解除ス此期間ニ於テ「ヌイオ」（之ヲ含ム）以北ノ軍隊ヲ該線以南ニ移ス

但シ「チャイオ」「ヌイオ」ニ於テ還送軍需品塔載ノ為海軍ノ協力ニ依リ多少之ヲ延期スルコトアリ

第三期　北緯五十一度三十分以南ノ地区ノ内東経百四十二度三十分以東ノ地区ノ占領ヲ概ネ撤去第三十二日ニ解除ス此期間ニ於テ南樺太駐屯部隊ヲ除ク軍ノ全力ヲ亜港付近ニ集結ス

第四期　北緯五十一度以南東経百四十二度三十分以西ノ地区ノ占領ヲ概ネ撤去第四十日ニ解除ス此ノ期間ニ於テ

軍ハ亜港ニ於テ乗船ヲ終ル

二、以上ノ期間ハ多少変更スルコトアルヘシ

三、占領ノ解除ハ当日正午トス本計画ハ陸軍次官及参謀次長ニ報告（暗号電報ト書面郵送トノ併用）シ且要旨ヲ臨時海軍防備隊司令官ニ通報ス

四四〇　八月二十四日　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

北樺太利権問題ニ関スル双方ノ主張依然平行線ヲ辿ル現状ニ鑑ミ今後採ルベキ方針ニ付キ請訓ノ件

第七三〇号　至急極秘　（八月二十五日接受）

往電第七二八号ニ関シ

次回会議ハ露国側ノ希望ニ基キ重大ナル事情ノ発生ナキ限リ来ル二十七日頃打合セノ上再開スヘキ筈ナリシモ八月二十三日特ニ本使ヨリ要求ノ結果会議ヲ開催シ本使ハ「カラハン」ニ対シ熟々本交渉ノ維持ニ付考慮スルニ本協約ハ諸般ノ関係上今月中位ニハ少クトモ成否ノ考立タサルヘカラサル処貴方ニ於テハ利権ニ関スル我方提案ハ絶対ニ其内容ヲ審議スルヲ得スト固執シ居ル状態ニシテ斯クテハ貴方ノ

最モ重要視スル北樺太ノ撤兵ノ如キモ果シテ今年中ニ完了シ得ルニ至ルヤ否ヤヲ危フマサルヲ得ス而モ八月モ早ヤ幾何モ無キニ至レル際便々数日間休会スルカ如キハ交渉ノ前途ノ為甚タ心細シト謂ハサルヘカラス然レハ貴下ニ於テモ同感ナルヘシ依テ今日特ニ会議ノ開催ヲ求メ利権問題ニ付テハ果シテ解決ノ考アリヤ否ヤヲ明カニスルト共ニ他ノ問題ニ付テモ出来得ル限リ各条文ニ関スル意見ヲ取リ纏メタキ所存ナル旨ヲ告ケ更ニ利権問題ニ関シテハ従来ノ説明不充分ナル為露国側ニ於テ十分我方主張ヲ諒解セサルモノアリトセハ甚タ遺憾ナリト謂ハサルヘカラス依テ同問題ニ関シ今日重ネテ意見ノ交換ヲ行ヒ又且解決ノ途付カストセハ本使ニ於テモ到底本問題解決ノ考ナキコトヲ政府ニ上申シテ本交渉ヲ中止スルコトトモセサルヘカラサルヘシ就テハ先ツ以テ利権問題ニ関シ別方面ヨリ意見ヲ申述フヘキ処実ハ我方ニテ入手シ居ル情報中確実ナリト信セラルルモノニ依レハ「シンクレア」会社トノ石油利権契約ニ於テハ其ノ地域ハ北緯五十一度以北ノ全部ニ亘リ調査試掘ノ利権ヲ有シ一定期間ノ後其全地域中ノ二分ノ一ヲ留保シ更ニ半年ノ後其ノ二分ノ一ヲ留保スル仕組ニシテ結局ニハ最モ有利ナル地域ヲ独占セシムルモノナリト然ルニ先般来ノ貴下ノ主張ニ依レハ日本ノ要求スル地域ハ広キニ過キ日本ノ独占ニ帰ストノ御所存ナル処当方トシテハ是非共利権ノ供与ヲ得ルコト必要ニシテ而モ貴方ニ於テモ既ニ利権開発ヲ供与スヘシト云ヒ居リ此点ニ関シテハ双方ノ主張ハ全ク合致シ居ル処ナリ然ルニ此ノ日本ノ求ムル所ハ之ヲ拒否シ「シンクレア」ノ如キ商業ノ目的ヲ有スルモノニ対シテ事実上独占的ノ利権ヲ与フルハ頗ル不公平ナリト言ハサルヲ得ス既ニ「シ」社ニ対スルカ如キ例アルニ拘ハラス何故ニ日本ニ供与スル事ヲ拒絶スルヤ諒解ニ苦シマサルヲ得ス利権ノ地域ニ関シ既ニ斯ノ如キ矛盾アリ其他巨細ニ調査スル時ハ尚幾多ノ矛盾アル可キモ先ツ以テ地域ノ点ニ関スル駁論ヲ述ヘ之ニ対スル説明ヲ求メントスルモノナリト述ヘタルニ「カ」ハ区域ノ問題ニ付テハ当初ヨリ自分ノ主張スルカ如ク契約ノ条件中ニ入ルヘキモノナルモ契約条件審議ノ権能ナキ自分トシテハ右ニ対スル意見ヲ述フルヲ得ス唯日本ニ対シテハ北樺太ニ於テ利権ヲ与フト言ヒ得ルニ過キス但シ「シンクレア」契約ニ関スル貴公使ノ所説ハ全然根拠ナキモノト云ハサル可カラス蓋シ「シ」社トノ契約ヲ見ルニ其地域ニ付テ

ハ先ツ調査ノ上半分ヲ切リ捨テ次テ更ニ半分ヲ切リ捨テル事ト為リ居ルモ結局ハ北樺太ノ二十分乃至二十五分ノ一位トナルモノニシテ貴公使ノ言フカ如ク広キ地域ニ亘ルモノニ非ス又日露国交樹立ニ際シ日本ニ対シ利権ヲ供与セントスルハ主トシテ政治上ノ考慮ニ出テ愈利権契約ヲ締結スル事トスル時ハ其契約ハ商業上ノ見地ヨリスヘキモノニシテ「シ」社トノ契約モ亦右ノ見地ヨリ露国ノ為ニモ有利ナルモノナリ従テ日本ニ対シテモ「シ」社トノ契約及其他ノ油田契約ニ倣フ可キモノト思考ス唯今日ノ処実際利権問題ノ具体的条件ハ莫斯科ニ於テモ審議シ居ラサル処ニシテ従テ自分ニ対シテモ之ニ関スル訓令無ク右条件ハ露国側ノ主義上ノ建前ニ同意セラルル場合ニ於テノミ審議セラル可ク今日ノ処全ク之カ審議ノ準備ナシト述ヘタルヲ以テ本使ハ元来利権問題ニ関シテハ本年五月以来屢々説明セルカ如ク我方ニ於テハ本問題ヲ極メテ重要視シ居ル処ニシテ殊ニ五月下旬ニハ本問題ニ関スル日本政府ノ大体ノ意向ヲモ示シ又本月四日余ノ帰任後初メテ会合ノ場合ニモ日本政府ノ覚悟ヲ充分説明シタリ依テ我方ニ於テハ何レノ内閣ヲ問ハス最モ重キヲ置キ居ル点ナル事ハ本使従来ノ説明ニ依リ夙ニ御

承知ノ筈ナリ然ルニ貴下ニ於テハ利権契約ノ如キハ追テ締結スヘキモノニシテ今日ハ単ニ右契約ノ原則タル基本条項ヲ定ムヘク事業自体ヲ支配スルカ如キ具体的条項ハ之カ審議ヲサヘ為ス能ハサル而已ナラス其ノ準備ヲモ有セスト云フカ如キハ余リニ日本ノ意向ヲ無視セルモノニシテ斯テハ此上日露交渉ヲ進捗セシメ得サル可シ若シ貴下ニ於テ利権ニ関スル具体的条項ヲ審議スルノ権限ヲ付与セラレ居ラストセハ先ツ以テ其権限ヲ付与サルルヘキコト当然ナリト主張セルカ「カ」ハ五月末貴公使ヨリ利権問題ニ関スル日本側提案ヲ示サレタル当時自分ハ之ヲ審議スルヲ得スト答ヘ貴公使帰朝ノ際ニモ露国側ノ建前ニ従フニ於テハ条件ノ審議ヲ為スヲ得ヘシト述ヘ置キタルヲ以テ貴公使帰任後提出セラレタルカ如キ詳細ナル提案ニ接シ得ヘシトハ予期セサリシ処ニシテ寧ロ自分ニ於テ日本側ノ態度ヲ意外トセサルヲ得ス日本側主張ノ如キ案ニ付テハ到底之カ討議ヲ為シ得サルコトハ屢々自分ノ繰返シタル処ニシテ右ハ自分カ全権トシテ言明セル処ニシテ日本ニ於テハ或ハ自分ノ右ノ言明ヲ充分考慮セラレサリシニ非サルカ貴公使カ自分ニ対シ詳細ナル条件審議ノ権限ヲ委任セラル可シト云フハ尤モナル言

ナルモ自分トシテハ将来ノ利権契約ノ基礎タルヘキ主義的条件ナラハ莫斯科政府ニ請訓シ得ヘキモ貴方ノ主張スルカ如ク直ニ事業ノ経営ヲ為シ得ルカ如キ主張ニ付審議センコトヲ上申スル時ハ自分ハ如何ナル利権ヲ審議セントスルモノナリヤトノ反問ヲ受クヘク自分ハ之カ説明ニ窮スルニ至ルヘシ自分ハ道理ナキ談判ハ為スヲ得サルモ道理アリト認ムルニ付テハ現ニ保存行為ノ問題ノ如キモ已ニ莫斯科ニ電報済ナリト弁シ右ニ対シ本使ハ利権契約ノ基礎タルヘキ主義的基本条項ニ付テハ之カ審議方禀請シ得ヘシトノ趣ナル処貴方ノ所謂主義的基本条項トハ如何ナルモノナリヤ大体ニテモ承知致シタシ貴方ニ於テハ実ハ未タ之ニ関シ研究モ為シ居ラストノコトナルモ日本提案ノ如キ条項ハ之ヲ審議スルヲ得スト為シ而カモ露国側ノ所謂基本条項ナルモノモ判明シ居ラスト謂ハルル貴方ノ態度ハ了解ニ苦シム処ナリ貴方ノ基本条項トハ如何ナルモノヲ謂ハントスルモノナリヤ開示アリタシト述ヘタルニ「カ」ハ基本条項ニ付テハ未タ手許ニ準備ナク仮リニ其準備アリトスルモ莫斯科政府ハ之ヲ提出スルコトヲ許ササルヘシ莫斯科政府トシテハ基本条項ナルモノハ之ニ依リテ事業ヲ経営的トスルモノナリヤ

将又将来利権契約ノ基礎トスヘキモノナリヤヲ決定スルノ要アリ而シテ其ノ何レカニ依リ其ノ内容ヲモ異ニスヘシ若シ基本条項ヲ以テ直ニ事業ヲ経営セントスルモノナルニ於テハ莫斯科政府ハ直ニ之ヲ拒絶スヘシ若シ又露国側ノ建前ニ応スルニ於テハ其主義ニテ基本条項ヲ作製スルコトトナルヘシ我方建前ニ応セサレハ仮リニ各条項ノ腹案ヲ有スルモ之ヲ開示スルヲ得ス貴方ノ有スル「シンクレア」契約ニ付キテ見ルモ利権契約ノ如何ニ複雑ナルモノナルカヲ知ルヲ得ヘク従テ我方カ何故今簡単ニシテ而カモ契約ニ等シキ効力ヲ有スル条項ヲ取極ムルコトニ反対スルカヲ了解セラルヘシ又「シ」契約ハ日本ノ考フルカ如ク有利ナルモノニアラスト弁明セリ依テ本使ハ貴下ノ所説ヲ約言スレハ結局議定書(b)ヲ以テ基本条項トスルコトニハ到底同意セス而カモ貴方ノ主義的規定モ之ヲ開示スルヲ得スト謂フニ帰着シ斯クテハ利権問題ハ到底交渉ノ余地ナシト思考スル処如何ト述ヘタルニ「カ」ハ議定書(b)ハ其本質ニ於テ審議シ得サルコトハ再三述ヘタル通リナリ然レトモ若シ主義的条項ヲ設クルコトニ同意アルニ於テハ該条項中ニ議定書(b)ノ内容若クハ其他ノ条項ヲ入ルルコトトシ之カ為種々意見ノ

交換ヲモ為シ得ヘシ議定書(b)ハ末タ其内容ノ審議ニ入ラサルモノナルヲ以テ其内ノ条項ノ採否ノ問題ヲ生セス露国側ノ建前ニ基キ論議スルコト唯一ノ活路ナリト思考ス尚為念申述フヘキ処「ウルクハルト」ノ利権契約ノ如キハ借款ニ関スル問題ヲモ伴ヒ且英国承認前ノ問題ナリシヲ以テ露国側ニ於テハ極メテ之ヲ重要視シタルモ露国トシテハ常ニ一定ノ見解ヲ持シ之ニ反スルモノハ如何ニ有利ナルモノト雖モ之ヲ拒絶スル場合アルコト通例ナリ日本ニ対シテハ露国財政上ノ理由ヨリスルモ油田開発ノ利権ヲ許与セントスルモノニシテ決シテ利権ヲ許与セスト謂フニアラス徒ラニ頑強ナル主張ニ依リ談判ヲ不調ニ了ハラシムル次第ニアラスト述フル処アリ依テ本使ハ貴下ノ所説ニ此際ハ利権契約ノ基礎トナルヘキ主義的規定ヲ設クヘシトノコトナル処右主義的規定ノ内容トシテハ議定書(b)ノ一部若クハ全部ノ内容ヲ加フルコトニハ異存ナキ趣旨ナリト諒解シテ可ナリヤト問ヒタルニ「カ」ハ露国側基本条項ノ規定ハ其内容ニ於テ議定書(b)ノ一部ニ似タルモノナルヤモ計ラレス右ハ実際論議ノ上ニアラサレハ明言シ難キモ主義的規定ノ二、三項位ハ其形、表ハシ方ニ於テ議定書(b)中ノ主題ヲ取レルカ如キ問題ニ関シテハ貴公使ヨリ政府ニ報告セラレ将来利権契約ヲ締結スル事トシ今日ハ単ニ其ノ主義的規定ニ付商議スヘキ建前ニ同意ヲ得タル上審議スヘク何レニスルモ右ハ極メテ一般的規定トスルニ止メ度シト主張セルカ本使ハ政府ニハ報告スヘキモ貴方ノ主義的規定ト云フハ甚タ漠然タルモノニシテ政府トシテモ之ニ応シ難カル可シト述ヘタルニ「カ」ハ条件ハ建前ヲ決定セル上ノ事ニシテ主義上ノ建前ヲ決定セスシテ先ツ以テ条件ヲ知ラントスル日本ノ態度ハ誤レルニ非スヤト述ヘ本使ヨリ仮ニ貴方ノ建前ニ同意スルトスルモ主義的規定トハ果シテ如何ナルモノナリヤ其ノ一部ヲ知ラントスルハ無理ナル事ニ非サルヘキニ付説明アリ度シト述ヘタルモ「カ」ハ遺憾ナカラ貴意ニ応スルヲ得ス但シ若シ貴公使ニ於テ露国側ノ建前ニ応セラルルモノナラハ即刻莫斯科ニ電報シ主義的規定ノ内容ヲ照会ノ上数日内ニハ回示シ得ヘシト答ヘ本使ハ右ハ政府ニ報告スヘキモ日本政府ハ之ニ応スヘシトモ思考セラレサル旨ヲ告ケタルニ更ニ「カ」ハ自分ノ見ル処ヲ以テスルニ本問題ニ関スル日本ノ態度ハ確固タル信念ニ基クモノト考フルヲ得ス蓋シ日本側ニシテ露国側ノ建前ニ応シタリトスルモ内容条件ニ付

モノトナルヘシ尚誤解ナキ様申述フヘキ処議定書(b)ノ箇条ハ何レモ之ヲ拒否スルモノナリ唯主義的規定トシテハ同議定書ノ theme ヲ執ルニ過キスト断ハリタルカ本使ハ地域期限等ノ theme ヲ存スヘキコトハ当然ナルカ仮リニ貴下ノ主張ニ従ヒ所謂或種ノ条件ヲ審議スルモノトセハ議定書(b)ノ条件ニ付審議ヲ行ヒ之ヲ貴方ノ条件中ニ加フル事ニ異存ナキヤト反問セルニ「カ」ハ議定書(b)ノ書キ方ニテハ一箇条ト雖モ同意シ得ヘキモノナク自分ノ趣旨ハ更ニ一般的ノ形ト為サントスルモノナリト答ヘタルニ依リ本使ハ然ラハ締結議定書(b)ノ第一条ノ地域ニ関シテハ如何ニ書カントスル積リナリヤト訊シタルニ「カ」ハ右ハ互ニ意見ノ交換ヲ為シタル後取極ム可キモノニシテ何等腹案ヲ有スルニ非ス此際ハ単ニ一般的主義ノミヲ取極メントスル事露国側従来ノ建前ナリト答ヘ重ネテ本使ヨリ地域ノ如キハ元来具体的ノモノナルヲ以テ単ニ主義ヲ記スト云フモ漠然タル事ニシテ了解シ難キ処貴方ノ所謂主義ヲ記スモノトセハ如何ナルモノヲ書カントスル積リナリヤト追究セルニ「カ」ハ其点ハ貴方ノ希望ヲモ聴キタル上取極メラル可キモノニシテ自分トシテハ北樺太全体ト云フノ外ナカルヘシ要スルニ本異議アル時ハ討議ヲ中止スルコト自由ナルヘク露国側ノ建前ニ応スルモ内容タル条件ニ同意スルノ義務ヲ負フモノニアラスシテ結局何等失フ所ナカルヘシト力説セルカ本使ハ惟フニ利権問題ニ付テハ互ニ其ノ謂ハントスル所ヲ尽セルモノノ如ク本使トシテハ是レ以上ノ進境ヲ見ルコト能ハサルヘシト思考スル処貴見果シテ如何ト試問シタルニ「カ」ハ兎ニ角相互ノ意見ハ従来既ニ之ヲ尽シタル所ナルモ自分トシテハ貴方ニ於テ此上トモ必要アリト認メラルル場合ニハ欣然商議ニ応スヘキ処此上ハ日本政府ニ於テ其ノ意向ヲ決定シ審議ヲ継続スヘキヤ否ヤヲ判断スルノ外ナカルヘシト答ヘ本件討議ヲ了ハレリ

利権問題ニ関スル討議ノ経過如上ノ通リナルニ付テハ本問題ニ付向後本使ノ執ルヘキ態度ニ関シ何分ノ儀御回訓相成ル様致シタシ

尚終リニ「カラハン」ハ利権問題ニ関スル相互ノ意見相扞格スル処ヲ「コンミュニケ」トシテ発表シタキ旨ヲ申出テ其ノ内容トシテ日本側ハ十箇条ヨリ成ル条件ヲ提出シ右ニ依リ直ニ事業ヲ経営シ得ル様ニスヘキコトヲ主張シ之ニ対シ露国側ニ於テハ単ニ主義上ノ規定ヲ設クルニ止ムヘキ建

前ニテ討議スル旨ヲ発表シタク尤モ出来得ヘクンハ議定書(b)ノ全部並ニ其説明及露国側説明トヲ発表シ得ハ更ニ好都合ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ提案ノ内容全部ヲ公表スルカ如キハ同意シ難キモ公表ノ内容ニ付テハ追テ相互ニ打合セノ上決定スルコトトスヘキ旨ヲ告ケ置キタリ

四四一　八月二十七日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

当面利権問題以外ノ問題ノ討議ヲ進メタキ旨提議及ビコレニ対スルカラハンノ反応報告ノ件

第七四〇号　至急極秘　（八月二十八日接受）

往電第七三〇号ニ関シ

八月二十六日ノ会議ニ於テ「カラハン」ヨリ北樺太ニ於ケル現業調書ノ提示方ニ付督促スル処アリタルモ本使ハ右ニ関シテハ尚一両日待タレタク利権問題ニ関スル最近ノ討議ノ成行ニ顧ミル時ハ右調書ヲ提示スルモ同問題ノ解決上別ニ加フル所モ無カルヘシ就テハ兎モ角他ノ問題ノ審議ヲ進ムルコトトスヘキ旨ヲ提議シタルニ「カ」ハ利権問題解決ノ為ナラハ尚大ニ論議スル勇気ナキニアラサルモ他ノ問題ニ付テハ未タ充分研究ヲ為シ居ラサルモノアリ其審議ニハ頗ル気乗リセサル旨ヲ答ヘ尚現業ニ関スル正確ナル調書ヲ提出セラルル時ハ莫斯科政府ニ於テモ之ヲ考慮ニ加フヘク問題ノ解決上夫レ丈ノ利益ナキニ非サル可シ又作業継続ノ点ハ之ヲ必要トスル日本側ノ理由ヲ聴キタル上ハ或ハ持説ヲ変更スル事モアリ得ヘク兎ニ角実際ノ作業状況ヲ承知スルハ必スシモ徒爾ナラサル可シト主張セルカ本使ハ仮ニ露国側ニ於テ現在作業ノ継続ヲ容認スルモ利権契約締結ニ至ル迄ハ之ヲ支配スヘキ規定トシテ少クモ議定書(b)ノ如キ基本条項ヲ設クルニ非サレハ継続作業ハ結局労農政府ノ国内法ヲ以テ支配セラルル事トナル可シ尚主義的基本条項ニ関スル貴方ノ主張ハ既ニ政府ニ報告シアルヲ以テ現業調書提示ノ問題モ主義的規定ノ問題ニ対スル政府ノ意向如何ニ依リ果シテ提示スヘキモノナリヤ否ヤヲ決セラルヘキモノナリト述ヘ本件調書提示方ニ関シテハ何レ一両日中確答スヘキ旨ヲ告ケ置ケリ次テ「カラハン」ヨリ債権及請求権ノ問題ニ関スル貴公使カラノ説明ニ依レハ日本政府ハ本問題ニ関スル相互主義ノ規定ト為ス事ニハ反対ナルモ露国側ニ於テ強テ希望スルニ於テハ請求権ニ付テハ別箇ノ規定ヲ設クルモ可ナリトノ事ナリシヤニ記憶スル処如何ト尋ネタルニ付本使ヨリ再応貴電第五一九号ノ趣旨ニ基キ債権及請求権ヲ同一ノ規定トシテ双務的トスル事ニハ勿論不同意ナルノミナラス露国側ノ所謂請求権ナルモノハ漠然トシテ了解シ得サルヲ以テ之ヲ認ムルヲ得サルモノナル処仮ニ債権ト別ニ独立ノ規定ヲ設クルモノトセハ如何ナル事ヲ規定セントスルモノナリヤ承知シ度キ趣旨ナリト説明シタルニ「カ」ハ露国側トシテハ債権ト請求権トヲ同一ニ取扱フヘキ希望ナルカ之ヲ別ニ規定スルコトトスルモ其ノ趣旨ハ英露協約第七条ノ規定ニ則レルモノトシタク何レ其案文ヲ作成スヘキ処右ノ趣旨ノ案文ニ対シ日本政府ハ如何ニ考ヘ得ヘキヤト推問スル所アリ本使ハ露国側ノ所謂請求権ナルモノニ対シテハ日本政府ハ兎ニ角反対シ居ルモノナリト答ヘ其儘解散セリ

四四二　八月二十九日　幣原外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

最恵国条款ノ挿入其ノ他ノ問題ニ付キ訓電ノ件

第五四四号　極秘

貴電第六五九号並往電第四九八号二及同第五一九号四ニ関シ貴官御参考ノ為更ニ申進ス

(一)当方提案第四条(2)号ニ於テ特ニ国法遵由ナル字句ヲ削除セル理由ハ露国ノ現法制ノ範囲内ニ於テハ外国人ニ対シ財産所有権ヲ許与スルノ範囲極メテ狭少ナルニ鑑ミ先方ヲシテ事情ノ許ス限リ現行法ヨリモ出来得ルタケ之ヲ緩和スルノ義務ヲ負担セシメントスルニ在ルモ交渉ノ模様ニ依リテハ先方申出ノ一句ヲ挿入スルコトニ異議ナシ尤モ該字句ハ reciprocity ノ次ニ入レス本条項ノ末尾即チ pursuits ノ次ニ付記スルコト条文ノ体裁上ヨリ適当ナリト思考ス

(二)同上第四条(3)号ニ関シテハ帝国対外通商条約ニ対スル根本政策トシテ如何ナル国トモ無制限ナル最恵国条款ノ挿入ナキ限リ条約ヲ締結セスト為シ居ルニ拘ラス妥協的精神ヲ以テ出来得ルタケ先方ノ主張ニ近ツカシムル目的ヲ以テ先方ニ於テ旧露国ノ構成部分ナリシ諸国並波斯「アフガニスタン」等特殊関係アル国ニ与フル利益ニ我ヲ均霑セシメサルコトトスルモ差支ナキコトト為ス為右(3)ノ案文ヲ立案シタルモノナルカ我提案ニ対シ先方ニ於テハ何レノ点ニ付異議アリヤ具体的ニ承知シタシ殊ニ最近締

結ノ英国トノ条約ニ於テ無制限最恵国待遇ノ付与ニ同意シナカラ日本ニ対シテハ等シク接壌国タル支那同様ノ待遇スラ与フルヲ得スト主張スルハ不当ト思考ス

四四三　八月三十日(着)　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

北樺太ノ油田、炭田ノ採掘事業ノ進行状況ニ関スル調書提出ノ件

付記　八月三十日発在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛

北樺太油田、炭田ニ関スル調書

第七六一号　至急極秘

貴電第五四一号ニ関シ当方作製ノ調書ハ八月二十一日及二十二日ノ会議ニ於テ先方申出ノ綱目ヲ基礎トシ尚篤ト貴電第五三二号御来示ノ趣旨ヲ考量ノ上現在作業状況ノ大要ヲ表トシテ示セルモノナルカ右ハ英訳ノ上八月二十九日ノ会議ニ於テ之ヲ「カ」ニ提示シ委細ハ口頭ヲ以テ説明ヲ加フル事トセリ右ニ対シ「カ」ハ本件調書ノ提出ヲ求メタル趣意ハ現業ノ保存行為トシテ何等カノ方法ヲ講セントスルニアリタル処本調書ハ果シテ右ノ趣意ニ適合スルモノナル可キヤト述ヘツツ仔細ニ調書ヲ点検スル処アリ依テ本使ハ否、単ニ保存行為ニ止マラス現ニ八月二十一日ノ会議ニ於テ「カラハン」内々ノ私見トシテ幾名ノ技師、労働者ヲ用ヒ何レノ地点ヲ調査試掘セリト云フカ如キ事ナラハ莫斯科政府ニ対シテモ之カ継続許可方ヲ稟申シ得ヘシト述ヘタル点其他八月二十二日ノ会議ニ於テ事業ノ継続ニ付テ尤モナル理由アリト認メラルルモノハ考量ノ余地ナキニ非スト述ヘタル点等ヲ指摘シ単ニ保存行為ノミナラス作業ノ継続ニ付テモ之ヲ容認シ得ル様尽力セラル可キ「カ」ノ意向ナルニ顧ミ本調書ヲ提出スルニ至リタルモノナル事ヲ懇ニ説明セルニ「カ」ハ元来此種材料ヲ得タル上ハ保存行為ニ付テハ自分ヨリ政府ニ稟申スヘキヲ述ヘタルハ貴方ニ於テ将来利権契約ノ基礎タルヘキ主義的条項ヲ以テ此際基本条項ヲ作ルヘシト云フ露国側ノ建前ニ応セラルル事ヲ前提トシタルモノナル処日本ハ此建前ニ応諾セラレタルモノト諒解シテ可ナリヤト反問セリ

依テ本使ハ本使トシテハ只今ノ処所謂露国側ノ建前ノ問題ト関係ナク現在作業ノ保存並経営ヲ容認セラレ度キ希望ナルモ的確ノ所ハ一両日考慮ノ上回答スヘシト答ヘタルニキテ審議ヲ進ムルノ外途無シト考ヘ居ル次第ニシテ日本側カ飽ク迄「プロトコル」(B)ヲ固執シテ露国側ノ建前ニ応スル事ナク而モ保存行為ヲ認ムヘシトノ主張ナリトセハ莫斯科政府カ利権問題ヲ審議スルニ当リテモ日本ハ将来ノ利権契約ノ基本条項ヲ取極メスシテ保存行為ノミヲ要求スルハ問題ノ一部ノミヲ解決セントスルモノナリトシ本問題ノ成行ニ関スル自分ノ報告ヲ不充分ナリト為スヘク此点ニ付テハ莫斯科ニ対スル自分ノ立場モ篤ト諒解セラレ度ク追テ日本側ノ何分ノ回答ヲ期待スル旨ヲ述ヘ尚調書ノ内容ニ付種種質問スル処アリ夫々一応ノ説明ヲ与ヘタルカ時間ノ都合上次回会議ニ於テ詳細ノ説明ヲ加フル事トシ散会シタリ

尚右英文調書写郵送ズミ

（元来保存行為ニセヨ経営ニセヨ露国側ノ建前ニ関係ナク之ヲ承認セシメ度キ希望ナルモ「カラハン」ハ夙ニ露国側ノ建前ヲ容諾スルヲ前提トスル次第ニテ即チ二十一日ノ会議ニ於テ「カ」ハ作業ノ保存ハ利権ニ関スル露国側ノ主義的規定ニ同意セラルル事ヲ前提トスルモノニシテ云々ト述ヘ居リ右ノ次第ハ往電第七二〇号ヲ以テ電稟シタル通ナリ然ルニ貴電第五四一号ヲ以テ調書ヲ提示シテ作業経営方要求ス可キ旨御電訓ニ接シタルニ付御電訓ヲ実行シタル処「カ」ハ前記ノ露国建前ヲ持チ出シタルニ付本使ハ調書提出ノ御訓令アリタル事実ニモ顧ミ不取敢上記ノ通リ濁シ置キタル次第ナルカ露国側ノ建前ニ応諾スルカ如キハ不可トスルモ為念「カ」ヘノ確答振至急御電訓ヲ請フ）「カ」ハ将来利権契約ノ基礎タルヘキ主義的条項ニ関シテハ露国側ノ建前ニ基

（付記）

八月三十日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛

北樺太油田、炭田ニ関スル調書（八月二十九日芳沢公使ヨリカラハンニ提示セルモノ）

OIL EXPLORATION OPERATIONS.

I. Those exploration operations are being conducted by the Hokushinkai & Co. on behalf of the Government.

II. Operations	Locations	Areas	Test boring	
			Oil	No oil
Oha	Two & half miles west of Urkt Bay, in the valley of the River Oha.	2500 acres	3	7
Ehabi	One mile west of Ehabi Bay.	1600 〃	None	3
Pilutun	Six miles south-west of Kyakr Bay, along the River Pilutun.	1200 〃	None	3
Nutovo	Five miles west from the mouth of the River Nutovo	2500 〃	1	2
Chaivo	Three miles west of Chaivo Bay, along the Boatasin River	1200 〃	1	1
Nuivo	Seven miles west of Nuivo Bay, in the valley of Nogric River. (a branch of the Tuimi River.)	1600 〃	1	2
Vuigrektui	Three miles south of the mouth of the River Tuimi, along the valley of that River.	800 〃		2
Katangli	On the shore of Lake Katangli north of Nabilisky Bay	1600 〃	1	4

III. Experts employed : 20
Workingmen : 400 (in summer time)

IV. Machinery

Hydraulic Rotary system	3	for deep boring.
Standard cable system	5	
Diamond Boring system	2	for shallow boring.
Spring Boring system (worked by man power)	10	

V. Outfit.

A) For communication : Telephone lines connecting the several operations, wireless stations at Oha and Chaivo.

B) For transportation : One small steamer and several motorboats which are used in summer time for connecting the several operations, besides a dozen lighters and janks.

C) Establishments :	Oha	Ehabi	Pilutun	Nutovo	Chaivo	Nuivo	Vuigrektui	Katangli
Houses for personnel and workers.	10	3	2	7	5	6	3	7
Boring rigs.	10	3	3	3	1	3	2	5
Power houses.	3	0	0	1	0	0	0	1
Oil reservoir (earthen)	3	0	0	0	0	0	0	0
Fuel oil tank (steel)	1	0	0	0	0	0	0	0
Tanks in course of building	3	0	0	0	0	0	0	0

VI. Light railway none.
A trolley extending for two & half miles between Urkt Bay and works at Oha.

VII. Exportation of oil none.

COLLIERY WORKS.

I. Exploiters.
Due mine : The Mitsubishi & Co. is working it on behalf of the occupation army.
Rogatui mine : is worked by the Staheeff & Co. and Mitsubishi as a joint enterprise.

II. Location of the mines.
Due mine : about six miles south of the harbour of Alexandrovsk, in the valley of Postvaya close to the sea. There are two level pits now in operation, but no shaft. The output for 1923 was about 50,000 tons.
Rogatui mine : About ten miles south of Alexandrovsk harbour toward the sea. Two pits now in operation. No shaft. The output for 1923 about 30,000 tons.

III. The number of experts and workers

Due mine :	five	about 200
Rogatui mine :	three	about 150

the numbers are those in summer time.

IV. Machinery.

In both mines no machinery is used, both digging and transportations being carried on by man power and on horse back.

V. Establishments.

No special establishments for colliery purpose except less than a quarter mile of trolley leading from the Due mine to the sea shore.

VI. Exportation.

The output of the Due mine is consumed by the occupation army and the people residing within the occupation area, no part of it being taken out of the island.

About 30,000 tons of the output of the Rogatui mine is said to have been exported in 1923 by Mitsubishi and Staheff.

四四四　九月一日(着)　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

日本側提出ノ現業調書ニ基ヅキ北樺太利権ノ許与方針ニ関シカラハントノ会談報告ノ件

第七六九号　至急極秘

往電第七六一号ニ関シ

八月三十日ノ会議ニ於テ前日提示ノ現業調書ニ関シ本使ヨリ貴電第五三二号第二項御来示ノ趣旨ヲ篤ト説明シタルニ「カラハン」ハ労農政府トシテハ利権ハ必ス日本臣民又ハ法人ニ与フル方針ニシテ日本政府ニ与フルコトヲ約束スルヲ得サルモ後日具体的取極ヲ為ス場合ニハ日本政府ノ紹介スル個人又ハ特許セル会社又ハ同政府ノ組織セル資本団体ニ許与スルコトトナルヘシ又地域ニ関シテハ勿論我方提示ノ現業調書ノ範囲ニ限ラムトスル意向ニアラス去リトテ議定書(B)ノ地域ニ就キ只今審議スルヲ得サルモ将来ハ右調書主張ハ議定書(B)ヲ其儘協約中ニ入ルルカ然ラスハ其中ノ「テーム」ヲ幾何程協約中ニ取入ルヘキカ要スルニ基本条項ノ強弱如何ノ問題ト諒解セラルル処右ニ対シテハ先ツ以テ建前ノ問題ヲ決定シタル上其内容ノ強弱ヲ審議セサルヘカラスト答ヘ更ニ本使ヨリ仮ニ露国側ノ建前ニ応スルモノトシテ此際基本条項中ニ取入ルヘキ議定書(B)中ノ「テーム」ニ就キ審議スルヲ得サルヤト推問セルニ「カ」ハ(脱)的ニ準備セルモノナク政府トモ打合ヲ為シ得サル場合ニ在ルヲ以テ右ハ一ニ貴公使トノ商議ニ依リ具体化セシメサルヘカラス唯「テーム」トシテハ利権経営上重要ナル「テーム」ヲ取ラムトスルモノナリ尤モ貴公使ニ於テハ定メシ自分ニ対シ斯ル問題ニ就キ未タ政府ト打合ヲモ為シ居ラサルヤト反問セラルヘキモ莫斯科政府トシテハ日本側ハ依然同政府ノ承認シ得サル議定書(B)ヲ以テ其ノ建前ト為シ居ルモノト信シ居ルヲ以テ日本側ノ建前ニ変更ナキ限リ自分トシテハ仮想的建前ニ基キ其内容ニ就キ請訓スルヲ得ス但シ露国側ノ建前ニ応セラルル以上極メテ短時日ノ間ニ本問題ヲ議了シ得ヘシト述ヘタルカ本使ハ我方トシテハ今日ノ処到底露国側ノ建前ニハ応シ得サルモ仮ニ応シタリトシテ試ニ以外ノ地域ニ在ル利権ヲモ許与スヘキコト勿論ナリト答ヘタリ次テ本使ハ右調書提示ノ際ニモ切言セルカ如ク我方トシテハ現在作業ノ保存行為ノミナラス其ノ継続ニ就テモ是非共承認ヲ得ル必要アリ尤モ右ニ就テハ主義的規定ニ関スル露国側ノ建前ニ応スルコトヲ前提トスル露国側ノ主張ナルモ其ノ点ニ対シテハ追テ回答スヘク兎ニ角我方トシテハ建前ノ如何ニ拘ラス作業ノ継続ハ是非必要トスルモノニ付重ネテ露国側ノ充分ナル諒解ヲ得置キタキ旨ヲ述ヘ更ニ元来保存行為ト言ヒ継続ト言ヒ共ニ利権契約締結ニ処ル迄ノ一時的性質ノ措置ナル処露国側ニ於テハ主義的規定ニ関スル建前ニ応諾スルニアラサレハ之ヲ認ムルヲ得ストノ主張ニシテ若シ我方ニ於テ之ニ応諾スルヲ得サル場合ニハ保存行為乃至継続ノ問題モ共ニ立消トナラサルヘカラサル処斯ル場合ニハ我方トシテハ飽迄議定書(B)ヲ基礎トシテ将来ノ利権契約ノ基本条項ヲ設ケサルヘカラス然ルニ茲ニ仮定的議論ヲ設ケ仮リニ露国側ノ建前ニ応シ基本条項トシテ主義的規定ノミヲ設クルコトトシ保存行為ノミナラス継続ヲモ為シ得ルモノトセハ議定書(B)中ヨリ取リ得ヘキ「テーム」ナルモノ果シテ何々ナリヤト尋ネタルニ「カ」ハ貴公使ノ

議定書(B)中ノ「テーム」ヲ取リテ審議スルヲ得サルヤヲ問ヘル次第ニシテ御説明ノ通リニテハ結局露国側ノ建前ニ応スルニアラサレハ此上話ヲ進ムルコト不可能ナリト言フニ帰スル処果シテ然リヤト推問セルニ「カ」ハ略々貴説ノ通リナリト答ヘ元来基本条項ナルモノハ今後互ニ商議セムトスル未定ノ問題ニシテ或ハ日本側ノ希望スルカ如キ条項ヲ入レ得ヘク議定書(B)ハ絶対ニ不可能ナリトスルモ討議ノ上ニテ双方ニ便宜ナル条項ヲ入レ得ヘシト信ス但シ保存及継続カ何等カノ方法ニ依リ解決スルトスルモ今日ヨリ直ニ事業ノ経営ヲ為シ得ルカ如キ契約条項ニハ絶対ニ応スルヲ得ス結局利権問題ハ露国側当初ヨリ主張スル如ク主義的規定ニ基キ商議ヲ進ムルノ外途ナキ次第ナリト述ヘ此上論議ノ余地ナキコトニナレルカ終ニ「カラハン」ハ由来日本政府ニ於テハ露国側ニテ常ニ懸引ヲ為シ居ルモノトノ印象ヲ有スルモノノ如クナルモ労農政府ノ態度ハ英露伊露協約ニ顧ミルモ其主張ニハ常ニ一定ノ限界線アリ如何ナル場合ニモ主義上ノ主張線ヲ譲ルヲ得サルモノナルコトハ特ニ日本側ニ於テ注意セラレ度シト述ヘタルニ付本使ハ右様ノコトハ労農政府ニ対シテモ述ヘ置キ度シ新聞報道ニ拠レハ貴方ニ

於テハ日本側ニハ第二第三ノ案ヲ有スルカ如ク思考セラルル趣ナルモ之ハ大ナル間違ナリ莫斯科政府モ少シク反省シテ譲歩セサルヘカラスト述ヘタルニ「カ」ハ今回ノ問題ノ如キモ若シ日本側ニシテ露国側ノ建前ニ応セラルル以上利権問題ハ勿論其他ノ問題ニ就テモ自分トシテ出来得ル限リ日本側ノ希望ニ応シ得ル様努力スル考ニシテ自分ノ此言明ニ対シテハ充分信頼セラレ差支ナシ唯利権問題ニ就テハ当初ノ日本案ハ今日ノ如ク複雑ナルモノニアラサリシ故自分ヨリハ当初得タル印象ニ依リ莫斯科ニ報告シアル為今日自分トシテハ極メテ具合悪シキ奇妙ナル立場ニアル内情ナリト語リタルカ本使ハ利権問題ニ関シ日本政府カ此際具体的取極ヲ為ス必要アリト為ス所以ノモノハ表面上大綱ノミノ取極ニテハ後日ニ及ヒ種々ノ口実ノ下ニ或ハ煩瑣ナル命令ノ適用若ハ課金ノ賦課等ニ依リ利権ノ許与ヲ有名無実トセラルルナキヤヲ懸念シ理由モアル次第ナリト述ヘタルニ「カ」ハ驚キタル顔色ヲ為シ労農政府ハ今日迄二十余ヵ国ト種々ノ契約ヲ締結セルモ先方ニテ違約ナキ限リ常ニ極メテ正直ニ約束ヲ履行シ居ルハ事実ノ証明スル処ナリ殊ニ利権ニ就テハ経営者ニモ利益アル契約ヲ締結スヘキハ勿論ナ

リト熱心ニ弁明スル処アリ其儘散会セリ

四四五　九月一日(着)　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

利権問題ニ関スル露国側ノ「建前」ニ付キ説明ノ件

第七七〇号　至急極秘

八月三十日ノ会議ニ於テ「カラハン」ハ所謂露国側建前ニ依ルニ非サレハ此上利権問題論議ノ余地無キ旨最後的言明ヲ為スニ至リタル次第ハ往電第七六九号所報ノ通リナル処同人カ飽迄我方議定書「B」ヲ基礎トシテ審議ヲ為スヲ肯セサルハ右議定書ハ全般的ニ露国ノ威厳並国内法律ヲモ度外視スルカ如キ印象ヲ免レサルモノナルベシ（脱?）労農幹部一流ノ体面論ニ基ク内部的非難ニ備フル為ニ非スヤト推察セラルル処右ニ関シ曾テ「カ」ノ秘書ハ館員ニ対シ例ヘハ議定書「B」中ノ free and clear of all encumbrances ト云フカ如キハ余リニ広汎ナル露国側ノ義務ヲ強ユルモノニシテ其ノ意味ノ説明如何ニ拘ハラス形式上斯ル提案ヲ基礎トシテ審議ニ応スルハ莫斯科ノ空気ヲ承知セル「カラハン」トシテ到底為シ能ハサル処ナルヘキ旨ヲ語レル事アリ

殊ニ八月三十日ノ会議ノ終リニ於テ「カ」カ今日自分ハ莫斯科ニ対シ極メテ工合悪シキ立場ニ在ル内情ナリト語リ沈痛ナル苦笑ヲ洩セルカ如キ前後ノ成行ニ顧ミルモ其ノ所謂建前ヲ固守スルノ外到底我方提案ノ内容ニ入リ審議ヲ為シ得サル羽目ニ在ルモノナルヤモ計リ難シ彼トシテハ今後トモ我方現業調書ニ基ク作業ノ保存及継続ノ点ニ付テモ其ノ所謂露国側ノ建前ニ応スルニ非サレハ莫斯科ニ稟請シ得スト繰返ヘスニ過キサルヘシ然ルニ一方「カラハン」ハ我方ニシテ先方ノ建前ニ応スル以上ハ現在ノ作業ノ保存ハ勿論継続ニ付テモ考量ノ余地無キニ非スト云ヒ又主義上議定書「B」ヲ基礎ニシテ討議スル能ハサルモ其ノ内容タル問題ハ協約中ニ取入レ得サルニ非ス只其ノ程度ニ付テハ篤ト議論ノ上ニ非サレハ今ヨリ具体的審議ヲ為ス能ハサルカ為ニ其ノ点ニ関シ莫斯科ニ稟請シ得ル様兎ニ角其ノ所謂建前ニ応セラレ度シト主張シ来レル次第ナルカ八月三十日「カ」ハ日本側ニシテ右ノ建前ニ応セラルル以上利権問題ハ勿論其他ノ問題ニ付テモ出来得ル限リ日本側ノ希望ニ応スル様努力スヘク此事ハ期待セラレ差支ヘ無シト切言セルハ前記往電所報ノ通リナリ就テハ此際先方ノ建前ニ応スヘキヤ否

ヤニ関シ御詮議相成ル場合ハ如上ノ諸点ヲモ御考量相成様致度シ

四四六　九月一日　幣原外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

利権問題ニ関スル「露国側建前」或ハ具体的ナ付与方式等ニ付テノカラハンノ意向ヲ確認方訓電ノ件

第五五一号　極秘

貴電第七六一号第七六九号及第七七〇号ニ関シ

「カラハン」ハ我方ニ於テ露国側建前ニ応諾セサル限リ利権ニ関スル我方提案ノ審議ニ入ルヲ得サル旨主張シ居レル趣ナル処其ノ所謂「露国側建前」トハ㈠単ニ抽象的ニ「利権契約ハ後日ニ締結スルコトトシ此際ハ右ニ関スル基本条項トシテ主義的規定ヲ設クルコト」ヲ意味スルヤ又ハ㈡具体的ニ利権ノ地域期間利権ノ許与ヲ受クル者課税等ノ点ニ付露国側ノ主張スル主義ヲ予メ我方ニ於テ同意スヘシトノ意味ナリヤ右ノ点ニ関スル先方ノ意向ヲ確メラレタク将又先方ノ所謂現業ノ保存行為ナルモノニ就テモ其ノ意義並範囲明確ナラサルニ付詳細ニ先方ノ意向ヲ突止メ尚或地方油田ハ現在我方ニ於テ採油シツツアル処右採油ヲ継続スルコトハ所謂保存行為中ニ包含セラルル次第ナリヤ（石炭ニ就テモ亦同様ナリ）又石油ニ就テハ現ニ「ボーリング」ヲ行ヒツツアルモノアル処露国側ノ意図ハ此等進行中ノ「ボーリング」ノ完成モ右保存行為中ニ含マシムル意味ナリヤ確メラレ先方ノ応酬振回電アリタシ尚八月二十九日貴官ヨリ「カラハン」ニ提示セラレタル英文表至急電報アリタシ

四四七　九月二日　幣原外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

北樺太ヨリノ撤兵ニ要スル期間ニ付キ指示ノ件

第五五二号　極秘

北樺太撤兵ニ要スル期間ニ関シテハ往電第五一九号㈢ヲ以テ申進置キタル通ニシテ貴官ニ於テモ既ニ露国側ヘ十分説明相成リタルコトトハ思考スルモ一方最早結氷期迄ニ二ケ月ヲ剰スノミトナレルノミナラス御承知ノ通本年中ニ撤兵ヲ完了スル為ニハ結氷期以前ニ於テ一ケ月半ノ日子ヲ必要トスルノ外運送船ノ傭船其他ノ準備ニモ多少ノ日子ヲ要スヘキニ付本月十五日前ニ基本条約ノ効力ヲ発生セシムルニアラサレハ今年中ニ北樺太ヨリ軍隊ヲ撤去スルコトハ事実上不可能トナルヘク従テ貴官ノ御説明ニ拘ラス万一先方ニ於テ今猶二週間位ニテ撤兵ヲ完了シ得ルモノト考ヘ居ルニ於テハ後日ニ至リ意外ノ紛糾ヲ惹起スル虞アルニヨリ予メ斯クノ如キ誤解ノ発生ヲ除クノ趣旨ニテ念ノ為トシテ前記ノ実情ヲ先方ヘ説示シ置カレタシ

四四八　九月二日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

「露国側建前」ニ応諾スル形式ノ声明文ヲ日本側ガ提出スルコトニヨリ打開ヲ計ル案ヲカラハン示唆セル件

第七七七号　至急極秘　（九月三日接受）

貴電第五五一号前段ニ関シ

所謂露国側ノ建前トシテ「カラハン」ノ主張スル処ハ本件討議ニ関スル累次ノ往電所報ノ通リ本協約中ニハ後日締結スヘキ利権契約ノ基本条項トシテ主義的規定ヲ設クヘシト言フニアルコト貴電御来示ノ㈠ノ通リナリ然ルニ従来本使再三ノ推問ニ対シ「カラハン」ハ主義的規定ノ内容並其ノ強弱即チ如何ナル条項ヲ設ケ且如何ナル程度迄具体的且詳細ニスヘキヤニ至リテハ一ニ商議ノ上決定セラルヘキ処ナリト答ヘ居ル次第ニシテ（露国側建前ニ応スル時ハ我提案即チ議定書㈡ノ審議ニ入ルヘシト述ヘタルコトナシ唯議定書㈡ノ「テーム」ヲ入ルル意向ナル旨ヲ述ヘタルノミ）利権契約ノ条項ニ就キ「露国側ノ主張スル主義」ト言フモ別ニ具体的ノ主張ヲ為シ居ルニアラス従テ先方ノ建前ナルモノハ「具体的ニ」利権ノ地域期間利権ノ許与ヲ受クルモノ若ハ課税等ノ点ニ就キ「露国側ノ主張スル主義」ニ予メ同意スヘシトノ意味トハナラサル次第ナル処御来示ノ諸点ニ関シテハ九月二日早速黒沢及島田ヲ「カラハン」方ニ遣ハシ委細確メタル処「カ」ハ従来通リノ説明ヲ繰返シ且日本側ハ露国側ノ建前ニ応シタル上ハ内容条件ニ就テモ直ニ露国側ノ主張ニ同意セルコトトナルヘキヲ懸念シ居ルモノナルヘキモ此点ニ関シテハ曾テ自分ノ述ヘタル通リ実際論議ノ上条件ニ就キ折合ハサル時ハ其時ニ及ヒ審議ヲ中止スルコト自由ニシテ露国側トシテモ日本側カ審議ニ入ル形式ニ同意セリトテ其内容ニ付キ予メ日本側カ譲歩セルモノト考フル次第ニアラス依テ日本側トシテハ次ノ如キ声明ヲ以テ右ノ如キ懸念ナカラシメ得ヘシトテ自ラ左ノ文言ヲ起草シテ之ヲ提示セル由

『日本側ハ将来締結セラルヘキ利権契約ノ主義的規定ヲ設クヘキ「カラハン」氏ノ建前（フォーミュラ）ニ応諾ス但右建前ニ基ク主義的規定ハ（日本側ノ為ニ）一層「アクセプタブル」ノモノト為ス様協議ノ上更ニ具体的ノモノトスルノ権利ヲ保留スヘキコトヲ声明ス』

次ニ前記貴電後段ニ関シ「カラハン」ハ本件事業ニ関スル専門的知識ナキヲ以テ具体的ノ説明ヲ為シ得サルモ現業ノ保存行為トハ要スルニ後日何時ト雖モ直ニ事業ヲ継続実行スルニ就キ何等経済上並技術上ノ損害若ハ手数ナキ様手配シ置クノ意味ニシテ例ヘハ工場ノ竈ノ火ヲ絶ヤス時ハ作業再開ノ為之ヲ焚付クルニハ多量ノ石炭ト多クノ時間及手数トヲ要スルモノナルカ故ニ「ストライキ」煽動ノ場合ニモ竈ノ火ハ之ヲ絶ヤササル様手配セル経験アリ従テ保存行為ノ範囲モ右ノ趣旨ニ準シテ之ヲ決定スヘク右ハ事業ノ性質ニ依リ一々専門家ノ鑑識ニ俟タサルヘカラス石油ノ井戸及炭坑ノ如キモ雪又ハ水等ノ溜ル虞アルモノハ常ニ之ヲ排除若ハ予防スル手段ヲ講スルコト必要ナルヘキモ事業ノ経営ニ属スル採油ノ如キハ保存行為中ニ包含セシメ得サルヘシトノ説明ヲ為シタルヲ以テ然ラハ現ニ「ボーリング」進行中ノ石油井戸ノ如キハ「ボーリング」ヲ中止スルニ依リ或ハ地層ノ崩壊ヲ見ル虞モアルヘク又現ニ出油ヲ見ツツアル試掘井戸ノ如キモ其ノ良否ヲ決定スル為出油量ノ試験ヲ行ヒ若ハ更ニ下層ノ油脈迄掘下クル必要上作業ヲ継続スルコトハ経済上ノ見地ヨリ所謂保存行為中ニ包含セシメサルヘカラサルヘシト質シタルニ「カ」ハ夫等ノ点ハ専門家ニ諮リタル上ニアラサレハ確答シ難キモ右ハ「ノート」シ置キテ莫斯科ニ照会スヘク自分トシテハ保存行為トシテ技術上ノ説明ヲ為シ得ルモノナル限リ成ルヘク日本側ノ為ニ有利ニ解釈スル様稟請スル所存ナリト答ヘタル趣ナリ

四四九　九月四日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

撤兵期間ニ関シ検討ノ余地無キヤ請訓ノ件

第七八三号　至急極秘　（九月五日接受）

貴電第五五二号ニ関シ撤兵問題ニ付テハ七月二十六日付機密第一四三号並ニ貴電第五一九号御訓示ノ次第ニ基キ応酬致シ居リ現ニ八月五日及八月十八日ノ会議ニ於テ御訓示ノ趣旨ヲ明カニシタルノミナラス八月二十三日ノ会議ハ撤兵時期切迫ニ顧ミ特ニ本

使ヨリ会見ヲ求メタルニ依ルモノニシテ右ノ次第ハ同日会見ノ劈頭ニ於テ本使ヨリ「カラハン」ニ指摘シタル次第ニ有之「カ」ニ於テハ我方ノ主張ニ係ル一ケ月半ノ期間ニ対シテハ承服シタリトハ見做シ難キモ結氷期迄一ケ月半ノ期間内ニ撤兵ヲ完了スルコトトシテ本月十五日前ニ協約ノ効力ヲ発生セシムヘシトスル我方ノ主張ハ之ヲ聴取リタル事ハ事実ナリ八月十八日ノ会議録ハ九月二日発送シタルニ付尚御落手迄ニハ両三日ヲ要スルコトト思考セラルルニ付会議録中ヨリ為念右撤兵期日ニ関スル本使ノ陳述並八月二十六日本使ノ為シタル陳述ヲ別電第七八四号ヲ以テ電報スルニ付御査閲相成度シ元来我提案中撤兵期間ハ「ブランク」トナリ居ル故「カラハン」ニ於テハ或ハ撤兵期間ニ付テハ尚我方ニ於テ多少ノ駈引ヲ弄スルカ如ク考ヘ居ルヤモ計リ難シ前記ノ如ク本使ニ於テ撤兵期ノ切迫ヲ「インプレス」スルコトニ努力シタルニ拘ラス如何ニモ悠々タル態度ヲ示スハ本使ニ於テモ少シク不審トスル程ナリ乍去「カラハン」ノ思惑ハ兎ニ角トシテ最少限度一ケ月半ニ変化無シトセハ九月十五日迄余ス処僅カニ十日ニ過キサル今日ニ於テ利権問題ノ現状御承知ノ通ナルカ故協約ノ効力ヲ十五日迄ニ発生セシムルコトノ不可能ナルハ申ス迄モ無之従テ撤兵モ不可能トナル事疑ヲ容レサル処ナリ此ノ故ニ此際協約ノ成立ニ成功セムト欲セハ撤兵期日ニ付例ヘハ一ケ月位ニ短縮スルトカ何トカ一工夫スルヲ要ス実ハ貴電御来示ノ通リ実行スレハ「カラハン」ニ於テハ直ニ之ヲ以テ撤兵セサル旨ノ通告ト見做スヘキハ自然ノ結果ナリト思考セラルル処以上具申ノ成行及理由ニ拘ハラス御訓令ヲ実行スヘキヤ折返シ御電訓ヲ請フ

四五〇　九月四日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

撤兵期限ニ関スル説明振リ報告ノ件

第七八四号　至急極秘　（九月五日接受）

一、八月十八日ノ会議ニ於ケル撤兵期限ニ関スル本使ノ説明左ノ通リ

撤兵期限ニ関シテハ協約案中ニ規定シ置カサリシ処右ハ決シテ撤兵ヲ欲セサルカ為ニアラス実ハ斯ル事情ニ依ルモノナリ即チ例ヘハ九月十五日迄ニ協約効力発生スルコトトナレハ結氷期タル十月末ニハ撤兵完了スルコトヲ得ヘシト信ス即チ一ケ月半内ニ撤兵スルコトヲ得ヘシ然レ

トモ若シ本協約ノ成立ニシテ遅延シタル場合ニハ事実上已ムヲ得ス撤兵スルコトヲ得サルニ至ルヘシ依テ只今ヨリ之ヲ規定シ置キ難キ処ナリ即チ撤兵ニ関シテハ本協約成立ノ遅速如何ニ依リテ決定セラルヘキモノナルヲ以テ之ヲ記入シ置カサルモノナルニ付此点ニ関シ何等憂慮セラレサラムコトヲ望ム

二、八月二十三日ノ会議ニ於ケル本使ノ説明左ノ通リ

昨日ノ会議解散ノ際ニ於ケル申合セニ拠レハ特別ナル必要生セサル限リ三日間休会シ来週火曜日（二十六日）頃次回会議ヲ開催ノコトトナリ居レル処熟々本交渉ノ推移ニ就キ考慮スルニ最重要問題タル利権問題ニ関シ貴方ニ於テハ「プロトコール」(B)ノ審議ヲ拒否シ居リ此ノ状態ニテハ本交渉ノ前途モ憂慮ニ堪ヘス然ルニ本交渉成否ノ見込ハ本月一杯位ニ判明セサレハ北樺太撤兵ハ本年中ニハ事実上不可能トナルヘク貴方ノ最重要視スル撤兵ハ不可能トナルハ誠ニ遺憾ナリ而モ今月モ早ヤ幾何モナキニ至レル際便々数日間休会スルカ如キハ交渉ノ前途ノ為甚タ心細シト言ハサルヘカラス定メシ貴下ニ於テモ同感ナルヘシ云々

日本側ハ追テ締結セラルヘキ利権契約ノ主義的規定ヲ設ケムトスル露国側建前ニ対シ左ノ了解ヲ条件トシテ之ニ応諾ス

一、右応諾ハ利権契約ニ関スル主義的規定ノ内容ニ対スル日本側主張ニ何等ノ影響ヲ及ホササルモノトス

二、露国側ハ日本側カ八月二十九日提出ノ調書ニ記載セル作業ヲ保存及継続スルコトヲ承認シ就中

(A)現ニボーリング進行中ノモノハ其ノ工事ヲ継続シ完成スルヲ得セシムルコト

(B)現ニ出油スル地点及目下ボーリング進行中ノ地点ヨリ半径（radius）二哩ノ範囲内ニ於テハ新ニ試掘ヲ為スヲ得セシムルコト

(C)日本側ノ行ヒタル試掘ノ結果生スル出油ハ日本側ニ於テ之ヲ採取処分スルヲ得セシムルコト

(D)炭田ニ関シテモ油田ニ準ス

三、利権契約成立ニ至ル迄ノ間ニ於テ露国側ハ問題ノ油田及炭田ニ付右契約成立ノ障碍トナルヘキ何等ノ処置ヲ為ササルコト

四五一　九月五日　幣原外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

利権問題ニ関スル閣議決定ニ基ク政府ノ最終妥協案訓電ノ件

別　電　同日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第五五四号　我ガ方最終妥協案

第五五三号　極秘

帝国政府ハ今日迄貴官「カラハン」間交渉ノ経過ニ顧ミ此際我立場トシテ及フ限リ考量ヲ尽シタル上別電ノ通露国側ノ主張ヲ参酌シタル最終妥協案ヲ決定セリ

貴官ハ本案ヲ提出セラルルニ方リ以上ノ趣旨ヲ十分先方ニ徹底セシムル様極力努力セラレタシ尚北樺太方面ニ於ケル結氷期モ追々切迫シ今年中ニ同方面ヨリ撤兵ヲ完了スル為ニハ此際速ニ基本条約ヲ締結シテ之カ効力ヲ発生セシムルコトヲ要スル事情ヲ繰返シ説明ヲ加ヘ切ニ露国側ノ急速ナル決断ヲ求メラレタシ尚利権ニ関スル主義的規定ノ作成ニ就テハ曩ニ我方ヨリ提出セル議定書(B)ノ内容ヲ取入ルル様十分努メラレタシ

（別　電）第五五四号　我ガ方最終妥協案

利権問題ニ関シ我方ヨリ露国側ニ対シ左ノ通提議スルコト

四五二　九月六日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

利権問題ニ関スル政府ノ訓電ノ趣旨ニ付キ回電方請訓ノ件

第七九一号　至急極秘　（九月七日接受）

貴電第五五四号ニ関シ露国側ノ建前ニ応諾スルニ付テハ利権契約ニ関スル主義的規定ノ内容ニ対スル日本側主張ニ何等ノ影響ヲ及ホササル事ヲ第一条件トセラルル処右「主義的規定ノ内容ニ対スル我方主張」トハ要スルニ我方従来ノ主張タル議定書(B)ノ内容ヲ以テ該規定ヲ設クルノ意味ニ外ナラサルヘク又御来示ノ第二条件ハ事業ノ保存及継続ニ在ルカ故右二個ノ条件ヲ合併スルトキハ結局議定書(B)夫レ自身ト成ルヘキヤニ解釈セラルル処先方従来ノ主張ハ主義的規定ハ彼我双方ノ間ニ審議ヲ尽シタル上決定セラルヘキモノナリトシ又現在作業ノ保存及継続ノ問題ニ至リテハ所謂露国側ノ建前ニ応諾スルコトヲ前提トスルモノナル事ヲ繰返シ居ル次第ハ累次報告ノ通ナリ従テ露国側ノ建前ニ応諾ストノ御来示ナルモ右ノ条件ヲ先方ニ於テ予メ承認スルコトヲ必要トシ殊ニ主義的規定ノ内容ニ対スル我方主張ニ寸

毫ノ影響ヲ及ホササル事ヲ予メ承認セシメントセハ先方トシテハ事実右ノ建前ニ応諾スルモノト見ルヲ得サル旨ヲ主張スルニ相違無ク従テ依然主義的規定ノ内容ヲ審議シ且現在作業ノ保存及継続ニ関スル先方ノ意向ヲモ確メ得サル結果トナルヘシ尤モ御来示ノ各条件ハ先方ノ建前ニ応シ実際内容ノ審議ニ入ル場合ニハ本使トシテモ之カ達成ニ最善ノ努力ヲ為ス所存ナルモ御来示ノ通ニテハ依然門口ノ議論ニ終リ到底問題ノ開展ヲ期シ難カルヘシト思考セラルルニ付テハ御来示ノ前記二条件ハ字義通リ飽迄厳格ニ先方ノ建前ニ応諾スル前提条件トシテ申入ルル御趣意ナリヤ将又兎モ角先方ノ建前ニ応諾スルモ右ハ㈠主義的規定ノ内容ニ対スル我方主張ヲ放棄スル次第ニ非サル事ヲ先方ニ了解セシメタル上議定書(B)ノ内容ヲ出来得ルタケ其内ニ取入ルルノ御趣旨ナリヤ㈡現在作業ノ保存継続ニ付承認ヲ与フル様予メ単ニ了解ヲ為サシメ置クノ御趣意ナリヤ大至急折返シ何分ノ儀御回示アリタシ

四五三　九月八日　幣原外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

利権問題ニ関シソヴィエト側ノ建前ノ容認ト現在作業ノ保存・継続トノ関連ニ付キ政府ノ方針ノ徹底方訓令ノ件

第五五八号　至急極秘

貴電第七九一号末段㈠ニ関シ

往電第五五四号第一条件ハ議定書(B)ノ内容ヲ以テ主義的規定ヲ設クルコトヲ条件トシテ露国側建前ニ応諾スルノ趣意ニハ非スシテ我方ハ露国側建前ニ応諾スルモ右ハ主義的規定ノ内容ニ対スル我方主張ヲ拋棄スル次第ニ非ス単ニ右主張ヲ留保シ置ク旨ヲ明ニセントスルノ趣意ニ外ナラス尤モ主義的規定ノ作成ニ付追テ双方審議ノ際ニハ同議定書ノ内容ヲ取入ルル様十分努メラレタキハ往電第五五三号末段ヲ以テ申進置キタル通リナリ又前記貴電末段㈡現在作業ノ保存継続ニ就テハ先方ニ於テ之ヲ承認スル様予メ単ニ了解ヲ為サシメ置クヲ以テ足レリトセス蓋シ我当初ノ提案タル議定書(B)ニ依ルトキハ基本条約締結ト同時ニ現実ニ利権ヲ許与スルト共ニ同議定書所定ノ条件ニ依リ如何ナル規模ノ経営ヲモ為シ得ル次第ナルモ今回ノ我方提議ハ利権契約成立ニ至ル迄ハ単ニ八月二十九日貴官ヨリ「カラハン」ニ提示セラレタル調書記載ノ作業ノ保存継続ニ付露国側ノ承認ヲ求メムトスルモノナルカ故ニ往電第五五四号所載第一条件及第二条件ヲ合併スルモ議定書(B)トハナラサル次第ニシテ利権契約ハ露国側ノ建前ニ応シ之ヲ後日ニ締結スルコトトシ夫レ迄ノ間ハ利権契約ニ基クニ非スシテ単ニ現在作業ヲ事実上持続セムトスルニ過キス従テ従来ノ我方主張ト比較スレハ大ナル譲歩ヲ為セルモノナリ然ルニ此際単純ニ露国側ノ建前ニ応シ利権契約ノ締結ヲ他日ニ譲ルコトニ同意スルトキハ右作業ノ保存及継続ニ対スル露国側ノ承認ヲ求ムル我立場ハ著シク薄弱トナルヘク又本件保存及継続問題ハ前記ノ通リ現在ノ作業ヲ事実上持続セムトスルニ過キサル次第ニシテ性質上前記露国側ノ建前トハ関係ナキ問題ナルカ故ニ若シ「カラハン」ニ於テ我方カ先ツ露国側建前ヲ無条件ニ応諾セサル限リ保存及継続問題ヲ莫斯科ニ取次クヲ得スト云フカ如キコトアラハ右ハ理由ナキコトト思考ス

従テ現在作業ノ保存及継続ニ付テハ露国側ノ建前ニ応諾スルト同時ニ露国側ヨリ明確ニ承認ヲ取付ケ置クコト必要ナルニ付貴官ハ右御含ノ上「カラハン」ニ対シ篤ト説明ヲ加ヘラレ速ニ交渉ヲ纏ムル様努メラレタシ

四五四　九月十日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

利権問題ニ関スル政府ノ妥協案ニ対スルカラハンノ対応ニ付キ報告ノ件

第八〇〇号　至急極秘　（九月十一日接受）

貴電第五五八号ニ関シ

九月九日本使ヨリ「カラハン」ニ対シ会議ノ再開ヲ求メタルニ対シ「カ」ハ当日恰モ同人家族莫斯科ヨリ到着取込ミ中ナルヤニテ会議ハ翌日ニシタキ趣ナリシモ本使ヨリ強テ会見ヲ求メ帝国政府ニ於テハ利権問題ノ露国側建前ニ関スル主張ヲ考量セル結果最終妥協案ヲ決定セル処右ハ追々北樺太ノ結氷期モ近ツキ今年中ニ撤兵ヲ完了スルカ為ニハ速ヤカニ協約ヲ取纏メ其効力ヲ発生セシメサルヘカラサルカ為ニ他ナラスシテ交渉促進ノ必要ニ付テハ定メシ貴下ニ於テモ同感ナルヘシ就テハ貴方ニ於テモ右日本政府ノ態度ヲ「レシプロケイト」シ交譲妥協ノ精神ヲ以テ速ヤカニ協約ノ成立ヲ期センコトヲ望ム旨ヲ告ケ貴電第五五四号及五五八号ノ趣旨ヲ説明シタルニ「カ」ハ撤兵期限切迫ノ関係モアリ成ルヘク速ヤカニ交渉ヲ取纏メタキ点ハ至極同感ナル

モ然リトテ撤兵ヲ取急クカ為ニ利権付与ノ問題ニ関シテ損害ヲ招クヘキニ非ス今回日本政府決定ノ妥協案ナルモノヲ聞クニ結局議定書(B)ノ提案ヨリ一層過酷ナル感アリ蓋シ貴公使所説ノ第二段（貴電第五五四号御来示ノ二ヲ指ス）ニ依レハ採油並ニ其ノ処分ヲモ為シ得ルヲ要スル趣ナル処曩ニ自分ハ日本側ヨリ提議ノ議定書(B)ノ如キモノスラ不可ナリトシ利権ニ付テハ更ニ遙カニ詳細ナル契約ノ取極ヲ要スルモノナルコトヲ述ヘ置ケルニ拘ラス何等報酬金其他生産品ノ輸出ニ関スル規定ヲモ設クルコト無クシテ単ニ事実上事業ノ継続実行ヲ為サムトスルカ如キハ一層甚タシキ要求ト云ハサルヘカラス但シ露国側ノ建前ニ応シ主義的規定ヲ設クルコトニ対シテハ自分モ執拗ナル主張ヲナシ来タリ日本側ニ遂(モ?)ニ之ニ同意セントスルニ付テハ議定書(B)中ノ問題モ採用セラルル様其ノ主張ヲ留保セラレタル貴公使所説第一段ノ点ハ尤ノ儀ニシテ右様ノ次第ナラハ早速報告ノ上実行作業ノ機械設備及事業上ノ保存行為ニ付テモ稟請スヘキ処石油ノ採取及処分ノ如キ貴公使所説第二段ノ問題ノ為右第一段ノ点ヲ破壊スルノ嫌アルハ遺憾ニ堪ヘス就テハ右第二段ノ如キ問題ノ為メ又々交渉ヲ渋滞セシムルコト無キ様

切ニ日本側ノ再考ヲ望ム尚追テ利権契約締結ニ至ル迄ノ間ニ於テ双方共ニ右契約成立ノ障碍トナルカ如キ処置ヲ為ササルコトハ当然ノコトニシテ自分一己ノ私見トシテハ此点ニ関シテハ「ノート」ノ交換ヲ以テナリ何等カノ取極ヲ為シ置クモ可ナルヘシト思考セラルルヲ以テ其旨莫斯科ニモ稟請スヘシト述フル所アリ依テ本使ハ今回ノ妥協案カ議定書(B)ヨリモ一層過酷ナリトノ批評アルモ右ハ充分本案ニ就キ熟慮ヲ加ヘラレサルカ為ニ外ナラス第二段ノ諒解事項ハ要スルニ大体現在作業ノ保存及継続ヲ目的トシ試掘ノ結果タル生産品ノ採取並ニ処分ノ如キハ試掘ヲ認ムル当然ノ結果ニシテ小規模乍ラ試掘作業ノ結果自然生産品アリ従テ其処分ニ付一応露国側ノ承認ヲ得置クヲ至当トシ特ニ申出タルモノナルカ右ハ利権契約締結ニ至ル迄僅カニ数ケ月間ノ問題ニ過キス旁莫斯科政府ニ於テモ強テ異存ナカルヘシト思考ス尚「ボーリング」進行中ノモノハ其工事ノ継続ヲ承認セラレタキ点並ニ試掘ノ結果生スル出油ノ採取処分ノ如キモ之カ作業ニ基ク技術上ノ損害ト経済上ノ損害ナカラシメンカ為ニシテ実ハ一種ノ保存行為ニ外ナラス又「ボーリング」進行中ノ地点ノ付近ニ試験的「ボーリング」ヲ行フハ試掘事業上其実当初ノ「ボーリング」ノ継続トモ云ヒ得ヘク之等ノ点ハ技術上大体事業ノ保存行為中ニ包含セシメ得ル次第ニ付右ニ対シテハ是非承認ヲ得タシ尚又第三ノ諒解事項ニ付テハ双務的ニ利権契約成立ノ障碍トナルヘキ措置ヲ執ラサルコトトスヘキ希望ナルモ帝国政府ノ趣旨ハ双務的ニアラスシテ単ニ露国側ニ於テノミ斯ノ如キ措置ヲ取ラサルコトヲ求ムル趣意ニシテ例ヘハ「シンクレヤ」トノ契約ノ実行ハ之ヲ見合スルカ如キコトヲ予想スル次第ナル処強テ之ヲ双務的トスル貴下ノ希望ナルニ於テハ此点ハ政府ニ取次キ置クヘシ尚終リニ一言シタキハ帝国政府ニ於テハ兎ニ角露国側ノ建前ニ応諾ストテ之迄歩ミ寄レルモノナルカ故ニ貴方トシテハ尚議論モアルヘキモ本使トシテハ此際露国側ヨリモ歩ミ寄ルノ態度ニ出ンコトヲ希望スルモノニシテ日本側折角ノ妥協案ハ又感服シ得サル点アリトテ此上尚妥協ヲ肯セサルカ如クンハ全然日本側ヨリノミ歩ミ寄ラサルヘカラサルコトトナル結果非常ニ困難ナル局面ヲ生スルコトナキヲ保セス従テ本使ノミナラス日本政府トシテモ国民ニ対シ極メテ困難ナル立場トナラサルヘカラサル次第ヲ恐ルル旨ヲ説示セルニ「カ」ハ日本側ニ於テハ露国側ノ建前ニ応シ譲歩セルモノナリトノコトナルモ利権問題ニ付テハ数個ノ主義的規定ヲ設ケントスル露国側従来ノ主義ニ比スレハ決シテ譲歩ト見ルヲ得ス殊ニ第二ノ諒解事項ノ如キハ此際順当ニ進行スヘキ事態ヲ紛糾セシメタルモノト言ハサルヘカラス然リトテ日本政府カ露国側ノ建前ト主張ヲ考慮セラレタルハ一ニ貴公使努力ノ結果ト認ムルモ第二ノ諒解事項ヲ保存行為トシテ承認シ得ヘシトノ御主張ハ其実質ニ於テ然ラサルモノヲ名目ヲ換ヘテ強ユルト同様ニシテ具体的ニ日本側ノ提案ヲ莫斯科ニ報告スルトキハ莫斯科政府ハ到底納得セサルヘシ御説明ニ依レハ試掘ヲ認ムル以上其結果タル生産品ハ之ヲ処分セサルヘカラストノ事ナルモ露国側トシテハ試掘モ保存行為モ未タ承認セル訳ニアラス況ンヤ更ニ別ノ地点ノ試掘ヲモ行ハントスルカ如キハ余リニ進ミ過キタル話ト言ハサルヘカラスト答ヘ時間ノ都合上更ニ翌日討議ヲ継続シタキ旨ヲ申出タルカ本使ハ右第二ノ諒解事項ニ付テハ更ニ充分説明ノ上ハ必ス諒解スル処アルヘシト告ケ散会シタリ

四五五　九月十一日　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

利権問題ニ対スル日本側ノ妥協案ヲメグルカラハントノ応酬ニ付キ再度報告ノ件

第八〇一号　至急極秘　（九月十二日接受）
往電第八〇〇号ニ関シ

九月十日ノ会議ニ於テ本使ハ我提案ニ対スル前日ノ説明ヲ補足シ石油鉱業ハ「ボーリング」ノ結果ノ良否ニ依リ事業ノ成否ヲ決定スルモノナルカ故ニ「ボーリング」ノ為ニハ当初ヨリ多数ノ資本投下セラルルヲ原則トシ殊ニ北樺太ノ如ク地理上其気候特異ニシテ交通亦至難ナル地方ニ在リテハ三千尺ノ試掘井戸ノ為四十五万円乃至五十万円ノ費用ヲ要シ従テ已ニ着手セル作業ヲ中止スルハ経済上莫大ノ損失ヲ蒙ラサルヘカラス而シテ一度「ボーリング」ニ着手セル以上仮リニ第一ノ油脈ニ会スルモ其ノ出油量及品質ヲ検査ノ上多クノ場合更ニ下層ノ油脈ニ向テ掘リ下ケ以テ油井ノ価値ヲ決スヘキモノトス従テ「ボーリング」進行中ノモノハ経済上ノ見地ヨリスルモ俄ニ之ヲ中止スルヲ得サル而已ナラス更ニ技術上ノ見地ヨリ「ボーリング」継続ノ切実ナル理由アリ蓋シ油井ニ対スル水害ノ外部ヨリスルモノハ遮水工事ニ依リ之ヲ防キ得サルニアラサルヘキモ内部ノ水脈ヨリノ漏水ハ「ボーリング」ヲ継続スルニアラサレハ点検シ得サル而已ナラス地層ノ崩壊若クハ鉄管ノ膠着等ノ事故ハ掘鑿ヲ中止スル場合ニ起ル障碍ナルヲ以テ「ボーリング」ノ継続ハ保存行為トシテモ是非共必要トスル処ナル旨種々説明ヲ加ヘタル処「カラハン」ハ一々之ヲ書キ取リタル上深ク之ヲ首肯シ更ニ現在「ボーリング」中ノ地点以外ニ新ニ油井ヲ設ケントスル理由ヲ質ス処アリ右ニ対シ本使ハ試掘事業ハ元来最モ有望ナル地点ニ油井ヲ発見セントスルモノナルヲ以テ現在「ボーリング」中ノ井戸ニシテ地層等ノ関係上思ハシカラサル場合ニハ更ニ付近ノ地点ヲ掘鑿シテ試験スル必要モアルヘク従テ付近ノ地点ニ新タニ「ボーリング」ヲ行フハ既ニ着手セル試掘作業ノ継続ニ外ナラス但実際上ハ之ヨリ冬季ニモ際シ新タニ掘鑿ヲ開始スルコトモナカルヘク思考セラルルモ試掘作業ノ技術上ノ見地ヨリ或ハ斯ル必要ナキヤニアラサルヘキヲ以テ殊ニ此点ニ付テモ予メ承認ヲ求メ置クヲ適当ト認メタル次第ナリト答ヘ次テ「カ」ヨリ炭田ノ現業継続ニ対スル理由ヲ求メタルヲ以テ本使ハ右ハ要スルニ現状ノ維持ニ付承認ヲ求メタルモノニシテ炭田事業ニ付テハ其ノ保存行為トシテ油田程複雑

ナル関係ナシ但貴下ノ所謂保存行為ナルモノハ単ニ機械設備等ノ保存ニ過キサルモノノ如キ所炭田ニ於テモ作業ヲ中止スルトキハ炭層ヨリノ漏水又ハ瓦斯ノ漏洩等ノ事故ナキヲ保セス又既ニ雇傭セル人夫ノ関係等ヨリ多大ノ損害ヲ来スコトモアルヘク旁々現状維持ヲ必要トスル意味ニ外ナラスト説明セルカ「カラハン」ハ元来利権問題ニ付テハ此際主義的規定而已ヲ設ケ置キ後日利権契約ヲ締結セントスルコト露国側当初ヨリノ主張ニシテ偶々現業ノ保存行為問題ヲ想到セル処日本側ニ於テハ保存行為而已ナラス事業ノ継続ヲモ要求スルニ至レリ依テ若シ右ノ成行ヲ莫斯科ニ報告スル時ハ保存行為而已ナラス何故ニ事業ノ継続ヲモ為サントスルヤヲ反問シ来ルヘク此際莫斯科ヲ刺戟セサル様何トカ此難関ヲ切リ抜ケサルヘカラス自分ハ昨日以来ノ貴公使ノ説明中殊ニ技術上ノ見地ヨリ保存行為トシテモ作業継続ノ必要ナル所以ヲ聴キ大イニ啓発スル所アリ従テ右ニ付テハ莫斯科ニ稟請シ得ヘキ考ナリ自分ニ対スル内部ノ非難ニシテ衷心日露国交回復ノ為ニ努力スル自分ノ熱誠ニ拘ハラス不道理ノコトヲ以テ莫斯科ニ稟申ヲ強ヒラルルカ如キコトナキ様少シハ自分ノ立場ニ対シ同情セラレンコトヲ懇望スル次第ナリトテ沈痛ナル語調ヲ以テ哀訴セシカ本使カ貴下ノ意ハ諒トセサルニ非サルモ貴下所述ノ二点ノ内第一点ニ付テハ現ニ「ボーリング」中ノ地点ノ付近ニ新ニ「ボーリング」ヲ行フハ或ハ新ナル試掘ト称シ得ヘキモ一定ノ地点ヲ掘ルモ技術上直ニ付近ノ他ノ地点ヲ掘鑿スル必要生スヘク之レ実ハ最初ノ「ボーリング」ノ継続ニ過キス尤モ冬ニ入ル時ハ実際ハ斯ルコト無カルヘキヤモ知レサルモ日本政府トシテハ必要ノ場合為念承認ヲ求メタルモノナルカ若シ貴下ニ於テ到底此ノ点ハ承認シ得ストノコトナルニ於テハ兎ニ角此ノ点ニ付テハ其ノ趣政府ニ報告スルコトハ差支ナシ唯第二点ニ付テハ遺憾乍ラ貴説ニ同意スルヲ得ス即チ炭田ニ付テハ保存行為トシテモ作業ノ継続ヲ必要トスルコト前述ノ通ナルモ今ヤ日露国交ヲ回復セントスルニ当リ仮ニ厳格ナル見解ニ於ケル保存行為ニ非ストスルモ此ノ理由ノミニ依リ炭田ノ現行作業ヲ停止スルカ如キハ甚タ遺憾千万ナリ多少ノコトハ更ニ大ナル政治的見地ヨリモ観察スルヲ要スヘク殊ニ右ハ利権契約締結迄僅々数ケ月間ノ問題ニ過キスシテ此ノ位ノコトハ莫斯科政府ニ於テモ飽迄之ヲ認メ得スト謂フコト無カルヘク況ンヤ保存行為トシテ充分説

明シ得ルニ於テヲヤ貴下ニ於テモ右ノ趣旨ニ依リ更ニ努力セラレ然ルヘシト思考スル旨ヲ説キタルニ「カ」ハ自分トシテハ出来得ル限リ都合良キ形式ヲ以テ政府ニ報告シ以テ商議ヲ楽ニ進メタキ所存ナル処政治的見地ヨリ炭田事業ノ継続実行ヲ稟請スルハ却テ局面ヲ困難ナラシムヘキヲ遺憾トス蓋シ今日何等利権契約モナク報酬金其ノ他事業経営上必要ナル手続ニ関スル規定ナキニ当リ石炭ノ採掘輸出ヲモ為シ得ルコトトスヘシト稟申スル時ハ益々内部ノ体面論ヲ誘起シ労農代表ノ会議等ニ於テモ何等ノ根拠ナクシテ露国領土ニ於テ石炭ノ採掘ヲ許ス理由ナシトノ議論ニ対シ説明ノ方法ナカルヘシ依テ保存行為トシテ充分ノ理由ヲ付シ得ルモノナラハ解決容易ナルヘキモ労農露国内部ノ事情ニ顧ミル時ハ要求ハ其ノ儘承認ヲ得ルコト不可能ナルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ利権契約成立ニ至ル迄ノ過渡期ニ対シ報酬金其ノ他ノ規定ナキ為事業ノ継続ヲ許スヲ得サル意ナラハ是等必要ナル規定ヲ設クルニ付テハ政府ニ稟申スルモ可ナリ然ルニ尚右ニ拘ハラス炭田事業ノ継続ハ之ヲ認ムルヲ得ストノコトナラハ到底同意スルヲ得スト述ヘタルニ「カ」ハ折角ノ貴説ナルモ事業ノ継続ニ付臨時手続ヲ設クルコトハ結局「プロトコール」Bニ逆戻リスルモノニシテ甚タ面白カラス自分トシテハ石炭ニ付テモ石油ト同シク保存行為トシテ莫斯科ニ稟申スルコトナラハ異存ナク此ノ際互ニ論議ヲ重ネルハ時間ヲ空費スル結果トナルヘキニ付寧ロ事務的ニ話ヲ進ムルコトシタク就テハ未タ案文ヲ作レル次第ニハ非サルモ自分ノ莫斯科ニ対スル稟申振ニ付貴公使ノ意見ヲモ聞キ如何ニ稟請スヘキカヲ決定シタシトテ別電第八〇一号ノ如キ説明ヲ為シ右ニ御同意ナルニ於テハ早速莫斯科ニ電報シ許可ヲ求ムヘシト述ヘタリ右ニ対シ本使ハ今回ノ日本政府ノ提議ハ最終妥協案ナルヲ以テ貴下ノ莫斯科政府ヨリ許可ヲ求メントスル案ニハ容易ニ同意シ能ハサルヘキモ右貴下ノ稟請案ハ貴下ニ於テモ最善ノ考量ヲ尽サレタル結果ト思考セラルルカ故ニ右ヲ莫斯科ニ稟申セラルルコトハ異存無シ但シ右ニ対シテハ日本政府ニ於テ果シテ同意シ得ルヤ否ヤ不明ニ付其点ハ含ミ置カレ度旨ヲ告ケタルニ「カ」ハ然ラハ自分カ莫斯科ニ稟請シテ許可ヲ得タル後日本側ヨリ又々異議ヲ申出ラルルトキハ自分ハ極メテ困難ナル立場ニ陥ルコトトナルヘキニ付寧ロ日本政府ノ確答ヲ得タル上稟請スルコトトスヘシト述ヘタルヲ以テ本使

ハ其点ハ我方モ同様ニシテ日本政府ノ確答シタルモノニ対シ莫斯科政府ニ於テ異議ヲ唱フル場合ニハ之又同様ノ結果トナルヘシト答ヘタルニ「カ」ハ其点ニ付テハ自分ノ稟請中之ハ日本政府ノ確答ナルカ故是非同意アリタシト稟請スルニ於テハ莫斯科ニ於テモ多分同意スヘシト答ヘタルニ付本使ハ然ラハ「カ」ノ莫斯科ニ対スル稟請案ナルモノハ一層具体的ニ承知スル必要アル旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ別電第八〇三号ノ如キ「フォーミュラ」ヲ作成セルカ右ハ「カ」ノ稟請案ノ説明ニ比シ不充分ナル嫌アリト指摘シタルニ「カ」ハ右ハ謂ハハ電信案ニシテ其内容ハ要スルニ先刻自分ノ説明セル通リニシテ「ボーリング」継続ノ点ハ保存行為トシテ必要ナル旨別ニ付加シ遣ル積リナリト説明セルカ本使ハ本件ハ日本政府ニ報告スルニ付テモ極メテ重大ナル問題ニ付莫斯科ヘノ稟請案ノ趣旨ハ本使ニ於テモ充分諒解スル必要アル旨ヲ告ケ翌日更ニ篤ト審議スルコトトセリ尚終リニ本使ハ現在作業ノ保存継続ノ問題ニシテ決定スルモノトセハ撤兵ノ時期切迫ノ関係モアリ成ルヘク速ヤカニ基本協定ヲ取リ纏ムル必要アルヲ以テ兎モ角利権ニ関スル主義的規定モ速ヤカニ取極メタク右ニ関スル準備アラハ早速承知シタク準備ナシトセハ至急莫斯科ニ照会セラレタシト述ヘタルニ「カ」ハ主義的規定ニ就テハ双方審議ヲ尽シタル上莫斯科ニ報告シタキ所存ナルカ日本側ニテ何等案ヲ提出セラルレハ審議上好都合ナル処議定書(B)ノ内容ハ其儘取リ入ルルコトノ不可能ナルコトハ予メ断リ置キタシト述ヘ本使ハ我方ニテ其案ヲ作成スルモ差支ナキモ参考ノ為大体貴方ノ意見ヲ承知シ置キタシト試問シタルニ「カ」ハ自分一個ノ私見トシテハ例ヘハ最モ重要ナル期限ノ問題ノ如キハ各利権ニ依リ異ル次第ニモアリ旁々初メヨリ何十年ト一定シテ取極ムルヲ得ス或ハ利権ヲ付与スルニ付定ムル期限ハ一定ノ範囲内ニ規定スルコト即チ或ル期間ト或ル期間トノ間ト謂フ具合ニ取極ムルカ如シ（例ヘハ三十年ト五十年ノ間ト云フ意味ト了解）又利権ノ範囲ハ従来屢々述ヘタルカ如ク独占的ニスルコト能ハスシテ大体如何ナル部分如何ナル場所ニテ与フルカヲ取極ムヘク尚納入金ノ如キハ利権ノ種類及期限ニ依リ差異アリ一律ニ定ムルヲ得サルヲ以テ大体ノ範囲内ニ取極メ置ク等ナリト答ヘタルニ付本使ハ主義的規定ヲ先ツ露国側ヲシテ製作セシムルヨリハ我方ニ於テ先ツ原案ヲ作成スル方作戦上有利ナリト認メタルニ付

兎ニ角我方ニ於テ原案ヲ作製シテ審議ニ入ルヘキ旨答ヘタル上莫斯科ヘノ電稟案確定迄ニハ二三日ヲ要スヘク要スルニ茲二三日ハ他ノ問題ノ討議ニ移リ以テ協約案取纏メノ促進ヲ図ルコト緊要ナル次第ヲ述ヘタル処「カ」モ同感ヲ表シ散会セリ

四五六　九月十一日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

利権問題ニ関スル日本側ノ妥協案ヲメグルカラハントノ応酬続報ノ件

第八〇二号　極秘　（九月十二日接受）

今回日本側提案ノ第一ト第三トニ対シテハ異存ナシ第二ニ関シテハ日本側ニ於テハ四項ノ要求ヲ提出シ居ル処我方トシテハ此ノ四項ニ代フルニ「油田及炭田工業ニ関シテハ保存行為ヲ行フコト」ナル簡単ナル書方ヲ以テ之ニ第二ノ一項ノ「ボーリング」ノ継続ハ技術上ヨリ保存行為トシテ必要ナルコトヲ付記スルコトトスヘク我方案ハ大体如上ノ如キモノナリ

第二ノ二項ニ就テハ如何ニ御説明アルモ応諾スルコトヲ得ス之ハ成ル程試掘ノ継続ト云フコトヲ得ヘケンモ現存ノ油坑ニ関連シテ継続ト云フコトヲ得サルヘシ

第二ノ三ニ関シテハ試掘ヲ継続スレハ石油ノ産出アルヘキ処冬期ニ至ルモ労働者モ居リ家屋其他ノ設備モアリ石油ヲ消費スルノ必要アルヘキモノナルニ此等ノ人及設備ノ為ニ同地ノ産出セル石油ヲ使用スルコトヲ禁シ他ヨリ別ニ購入スヘシト云フハ滑稽ナル次第ナルヲ以テ余一己トシテハ産出石油ヲ原則トシテ保存スルコトトシ唯燃料燈火用トシテ使用スルコトヲ得ト云フ形式ニ致シタキ考ナリ（但シ莫斯科カ之ニ同意スルヤ否ヤハ不明ナリ）

第二ノ四ノ炭坑ニ関シテハ炭坑ノ保存行為ヲ許可スルコトトシ現場ニ於テ必要ナル程度ニ於テ消費ヲ許スコトトスヘシ

四五七　九月十三日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

北樺太撤兵後ノ邦人保護ニ関スル申入レ並ビニ油田発掘事業ノ保存・継続ニ関シ再ビカラハント会談ノ件

第八一〇号　至急極秘

往電第八〇〇号ニ関シ

九月十一日ノ会議ニ於テ本使ハ先ツ基本協定成立シ追テ利権契約ヲ締結スルモノトセハ北樺太ノ撤兵後同地ニ残留スル現在事業関係者ノ保護ハ労農政府ノ十分ナル警備ニ俟タサルヘカラサル次第ナル処同地ニ於ケル事業関係者ハ往年「パルチザン」来襲ノ苦キ経験ヲ有スル為撤兵後ノ治安ニ関シテハ深ク憂慮シ居ルヲ以テ斯ル憂ヒナカラシムル様充分其保護ヲ全フスヘキ措置ヲ講セラレタク此点ニ関シ特ニ露国側ノ考量ヲ促シ置キタキ旨ヲ述ヘタルニ「カラハン」ハ同地方ニシテ一度労農政権ノ支配ニ属スル以上毫モ然ル危険ノ憂ヒナシト信ス蓋シ往年ノ「パルチザン」蜂起ノ如キハ当時尚白党ノ権力行ハレ且ツ外国軍隊ノ駐在セル時代ノ話ニシテ今日ニ於テハ「パルチザン」ノ如キ党類モ無ク沿海州其他ノ地方モ労農政権行キ渡ル所トナレル以来十分治安モ維持セラレ居ル状態ナルニ顧ミ北樺太ニ付テモ御懸念ニ及ハサル処ナリト答ヘタルカ本使ハ北樺太ニハ今日「パルチザン」ノ徒ナキハ勿論ナルモ冬季間宮海峡結氷ノ際ニハ西比利亜ニ於ケル浮浪ノ徒屢々北樺太ニ渡リ来ルカ為同地方ノ邦人ハ皆万一ノ場合ヲ危惧シ居ル次第ニ付為念撤兵後ノ治安維持ニ付考量ヲ煩ハサントセル趣旨ニ外ナラスト付言セリ次イテ「カラハン」ノ莫斯科政府ニ対スル稟請案ニ関シ「ボーリング」ノ継続モ保存行為ト認ムヘキモノナル事ヲ特記シ炭田ニ付テモ採掘継続ヲ為シ得ルコトトシ且生産品ノ輸出販売ヲ為シ得サル文字ヲ除外セル修正案ヲ提示シ石炭採掘ノ継続ヲ認ムルハ或ハ事業ノ経営ヲ許スモノト解セラルルヤモ測リ難キモ実際ニ於テハ之ヨリ冬季ニ際シテハ極メテ小規模ノ採掘ニ過キスシテ事業ノ経営ト称スル程ノコトナシ又輸出販売ノ如キハ交通ノ関係上冬季ニ於テハ事実上行ハレサル処ナルヲ以テ特ニ之ヲ掲クルニ及ハサルモノナル旨ヲ説明セルニ「カ」ハ石炭ノ採掘ハ貴説ノ如ク実際上ハ左程行ハルルニ（脱）モノトセハ炭坑ノ石炭ハ斯々ノ目的ノ為メニ使用セラルヘシト言フカ如キ文句トスルモ可ナルヘシ但石油ニ関シテハ「ボーリング」ノ継続ノ点ヲ貴方修正案ノ如ク明記スルハ余リ強ク響ク嫌アリト述フル処アリ依テ本使ハ「ボーリング」ノ継続ハ保存行為トナル旨昨日貴下ニ於テ承認セルニアラスヤト述ヘタルニ「カ」ハ其義ニ就テハ元来自分ハ若シ日本側カ利権問題ノ規定ニ関スル露国側ノ建前ニ応スル上ハ莫斯科政府ニ対シ現在作業ノ保存行為ニ就テハ日本ノ為ニ之ヲ支持スル

コトトシ「ボーリング」継続ノコトハ貴公使ノ説明ニ拠レハ保存行為ノ中ニ含マルルモノナリトノ趣ナル旨ヲ付言シテ稟申シ果シテ作業ノ継続モ保存行為トシテ認ムヘキヤ否ヤノ決裁ヲ求ムル趣旨ナリシト述ヘタリ

依テ本使ハ昨日ノ会議ニ於テ本使ハ経済上並技術上ノ理由ニ基キ「ボーリング」ハ中止スルヲ得ス之ヲ継続スルコトハ保存行為ノ範囲内ニ属スヘキモノナルコトヲ詳細ニ説明セルニ貴下ニ於テモ好ク諒解セラレ其旨稟請スルコトトナレリ而シテ貴下ノ稟請案ノ審議ニ及ヒ貴下ハ先ツ以テ日本政府ノ意向ヲ確メタル上稟請スルコトトスヘシト述ヘラレタルニ対シ本使ハ莫斯科政府カ果シテ貴下ノ稟請ニ異議ナカルヘキヤヲ懸念スル旨ヲ述ヘタルニ貴下ニ於テハ其点ハ自分ノ莫斯科ニ対スル上申振ニ依リ是非莫斯科政府ヲシテ承諾セシムルヲ得ヘシト言明セラレタルヲ以テ本使ハ其言明ニ信頼シ居レル次第ナルヲ以テ「ボーリング」ノ継続モ保存行為ト看做サルヘキモノナル旨貴下ノ稟請案ニ明記セラルヘキモノト諒解セル次第ナリト述ヘタルニ「カ」ハ保存行為ハ是非許スヘキ様政府ニ進言スル心算ナルモ「ボーリング」ノ継続モ保存行為ナリトノ御主張ハ自分ヨリ支持ノ為ニ支持スヘキモ作業ノ継続ハ不可ナリトスル主張ナルカ「ボーリング」ノ継続モ保存行為ナリトノ貴公使ノ説明ハ技術上ノ問題ニシテ自分トシテハ之ヲ支持スル訳ニハ行カサルモ御説明ノ趣旨ハ報告スル積リナリト答ヘ得ルノミニシテ本使ノ説明ヲ以テ「カ」ヨリ稟請トシテ莫斯科ニ進言スルヲ肯セス依テ本使ハ昨日ノ会議ノ際ニハ「ボーリング」ノ継続モ保存行為トシテ必要ナリトハ尤モナリトシテ莫斯科ノ承認ヲ稟請スヘキ旨述ヘラレ又成ルヘク莫斯科ニ於テ納得シ易キ形ニテ上申スルヲ得策ナリトシ「ボーリング」継続モ保存行為ノ形ニテ申シ送ルコトニ異存ナカリシニ拘ラス今日ニ於テハ「ボーリング」ノ継続ハ保存行為ニ関係ナキ別個ノ継続作業ト解セラルカ如キハ昨日ノ言明ト大ニ相違セリト詰レルニ「カ」ハ「ボーリング」ノ継続ヲ別個ノ作業ト見ルニアラス唯素人ノ自分ニハ果シテ然ルヤ否ヤ判別シ得サルノミ依テ継続ノ問題ニ付テハ切実ナル考量ヲ払フ様莫斯科ニ進言スルコトナラハ差支ナシト答ヘ本使ハ単ニ夫レノミナラス「ボーリング」ノ継続ハ保存行為ノ一部トシテ承認スルモ差支ナカルヘシトノ貴下昨日ノ諒解ノ上上申セラルルニアラサレハ利権契約締結ニ至ル迄ノ過渡期ニ処スル話ヲ纏メ得サル結果トナルヤモ計ラレサルヘシ尚今後出油井戸ノ採油継続ヲ為スヲ得サルモノトセハ昨日説明ノ如ク浸水其他種々ノ障害ヲ生シ既ニ投下セラレタル多額ノ資本モ無効ニ帰スヘク本使昨日ノ説明モ徒労ニ帰シタルモノナリト告ケタルニ「カ」ハ昨日ノ稟請案ハ要スルニ稟請ノ要領ヲ示セルモノニ過キサル処茲ニ一策トシテ報告ノ案ハ兎ニ角日本政府ニ報告セラルルコトトシ之ニ対シ日本政府ヨリハ「ボーリング」ノ継続ハ是非共必要ナリト指摘シ来ルヘキニ付其上自分ハ日本政府ヨリ斯ク言ヒ越セル旨ヲ指摘シ自分ノ稟請案ト共ニ莫斯科ニ突キ付クルコトトスヘシト述ヘタルカ本使ハ代表者タル貴下ヨリ継続ノ点ハ是非必要ナルヘキ旨進言スト主張セルニ「カ」ハ然ラハ『本件ニ於テ日本側ニテハ保存行為ナル文字ノ内ニハ「ボーリング」ノ継続ヲモ含ムモノト解ス』ト書キ加ヘテ莫斯科ニ報告スルコトトシテハ如何即チ貴公使ヨリ露国側案文ヲ東京政府ニ報告シ其結果「ボーリング」ノ継続モ保存行為ニ含ムモノト解スヘキ旨ノ回訓ニ接セハ自分ハ莫斯科ニ対シ自分ノ原案ヲ承認セラレタキ旨ヲ稟請シ同時ニ保存行為ニ付テハ日本側ハ前述ノ如ク斯々ト解スル旨ヲ付記シテ政府ニ進言スルニアラス自分ハ素人ナルヲ以テ貴公使説明ノ如ク「ボーリング」ノ継続モ畢竟保存行為ト看做シ得ヘキヤ否ヤ充分ノ確信ヲ有セサルモノナルカ故ニ妄リニ政府ニ対シテ其点ヲ支持シ露国側専門家ノ見解ニ依リテ自分ノ進言ニ誤アリト言フカ如キコトトナラハ莫斯科政府ハ将来自分ノ稟請ニ就キテハ警戒ノ眼ヲ以テ見ルコトトナルヘシサレハ自分トシテハ唯貴公使ニ於テハ斯々ノ説明ヲ為シ居ラルル旨ヲ付言スルニ止メサルヲ得スト弁明セリ

依テ本使ハ「ボーリング」ノ継続ハ保存行為トシテモ必要ノコトナリトノ本使ノ説明ニ対シ貴下ハ右ハ尤モノコトナル旨莫斯科宛電報中ニ付言スヘシト述ヘラレタリ然ルニ今日ニ至リ若シ右ノ陳述ヲ否定スルモノトセハ根本ヨリ討議ノ順序ヲ遣リ換ヘサルヘカラスト指摘セルニ「カ」ハ貴公使諒解ノ如ク述ヘタル次第ニアラスト答ヘ本使ハ昨日貴下陳述ノ上ナラハ本使ヨリ兎ニ角日本政府ニ稟申スヘキ所存ナリシ処本使諒解ノ上ニアラストセハ昨日迄ノ話ハ全然覆ヘサレタルモノニシテ遺憾乍ラ本件此上ノ討議ハ甚タ無益ナルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ頗ル困惑セル面持ニテ実際困難ナル事態トナレル処元々自分ハ保存行為ニ付テハ日本

スル次第ナリト述ヘタルニ依リ本使ハ保存ナル文字ノ次ニ括弧ヲ設ケ其内ニ日本側ニ於テハ保存行為ナル文字ノ内ニハ「ボーリング」ノ継続ヲモ含ムモノト解ス云々ノ文字ヲ書キ入レタル上右ノ文句ノ趣旨ト擡着スル former ナル文字ハ削除シ右ハ日本政府ニ於テモ承認セルモノナルカ故ニ之亦承認ヲ得タシトノ稟請ノ仕組ナラハ本使ニ於テ満足スヘシト述ヘタルニ「カ」ハ自分ヨリ右ノ文字ヲ削除スルコトハ責任上為シ得サルヲ以テ日本政府ヨリ文字ヲ修正シ来ルニ於テハ之ヲ報告スルコトニスヘシ実ハ自分トシテハ責任ヲ莫斯科ニ転嫁シタキ考ヘナリト述ヘ議論終結セサリシモ時間ノ都合上本件議論ヲ翌日ニ譲ルコトトセルカ本件ニ関シテハ叙上本使ノ主張ニ拘ラス「カ」ハ莫斯科ニ対スル後日ノ責任ヲ懸念シ到底我方主張ヲ其儘支持スルヲ肯ンセサル次第ナルニ就テハ本使トシテハ本件今後ノ討議ニ当リ先方ノ案文報告ノ結果帝国政府ヨリハ前記ノ通リ回示アリタル旨ヲ告ケ以テ「カ」ヲシテ「ボーリング」継続ニ関スル莫斯科政府ノ諒解ヲ得セシメタキ所存ニ付右様御含ノ上本件ニ関スル往電第八一一号上申ノ儀御詮議アリタシ尚当日会議ノ終リニ際シ本使ハ本交渉ノ遷延ニ伴ヒ益々撤

兵ノ可能性乏シクナリツツアルコトニ対シテハ果シテ如何ニ考ヘ居ルヤヲ試問シタルニ「カ」ハ此点ハ自分ニ於テモ極メテ重大視シ居ル所ナルモ露国側トシテハ是迄時日ヲ空過セルコトナシ折角協約成立スルモ撤兵ヲ完了シ得スハ甚タ無意味ナルヲ以テ今日ヨリ撤兵ヲ開始セラルルモ可ナルヘシト述ヘタルヲ以テ協約カ成立スルヤ否ヤモ不明ナルニ当リ撤兵ヲ行フヲ得サルハ当然ナルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ北樺太ノ駐兵ハ露国ニ対スル脅威ニモ亦交渉ニ対スル懸引トモナラス唯日本ノ為ニ計ルニ協約成立前ニ撤兵セハ立派ナルヘシト思考スルノミト述フル処アリ仍テ本使ハ成ルヘク速ニ協約ヲ成立セシムルコトカ吾人ノ任務ナルヲ以テ一ニ交渉促進ノ必要ニ顧ミ撤兵問題ニ言及セルニ過キス況ンヤ北樺太駐兵ヲ以テ露国ヲ脅威シ若ハ交渉上ノ懸引トスカ如キハ想像モ及ハサル所ナリ唯今日ヨリ撤兵スルモ可ナルヘシトノ説ニ対シテハ同地占領軍ハ保障占領ニ基ク軍政ヲ施行シ同地方ノ治安ヲ保持シ住民保護ノ任ニ当リ居ルモノナルカ故ニ同地ノ行政ヲ引受クヘキモノ決定セサルニ際シ漫然撤兵ヲ行ヒ軍政ヲ撤去スルカ如キ無責任ノ行動ヲ敢テシ得ヘキモノナリヤ否ヤ多言ヲ要セスシテ明ラカナル

ヘク為念一言弁明シ置ク次第ナリト述ヘ散会シタリ

四五八　九月十三日　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

最恵国約款問題ニ関シカラハントノ応酬ニ付キ報告ノ件

第八二二号　至急極秘　（九月十四日接受）

往電第八一〇号ニ関シ

九月十二日ノ会議ニ於テ本使ハ「カラハン」ニ対シ昨日提示ノ貴下ノ莫斯科宛稟請案ハ之ヲ政府ニ報告シ「ボーリング」ノ継続ハ保存行為中ニ包含セシムヘキモノト日本側ニ於テ解シ居ル旨ヲ付記スルコトニ付（不明）セリト告ケタルニ「カ」ハ露国側ノ原案ヲ承諾シ得ルヤ否ヤヲ照会セル次第ナリヤト反問セルヲ以テ本使ハ然リト答ヘ且ツ貴下ニ於テハ根本ノ解釈問題ニシテ決定スル時ハ文句ハ重要ニアラスト述ヘ居ラレタル次第ニモアリ日本政府ノ回訓如何ニ依リテハ多少字句ノ修正ヲ求ムルコトトナル可シト述ヘタルニ「カ」ハ之ヲ首肯シ唯主義的規定ノ審議ニ際シ又々種種ノ問題ニ遭遇スルナキヤヲ憂フルモノナル処自分ノ有スル利権問題ニ関スル訓令ハ極メテ一般的規定ヲ作ルニアリ

テ日本側ノ主張スルカ如キ詳細ナル規定ヲ審議セントスルモノニ非ルヲ以テ此点ニ関シテハ又々難関ニ遭遇スルコトナキ様主義的規定案ノ作成ニ当リテモ特ニ留意アリタシト断ハリタルヲ以テ本使ハ貴意ハ了シ居ルモ貴下ニ於テハ日本側ニシテ露国側ノ建前ニ応スル以上ハ利権問題ハ勿論其ノ他ノ問題ニ付テモ出来得ル限リノ努力ヲ惜マサル旨言明セラレタル次第モアリ本使ニ於テハ右貴下ノ言明ニ信頼シ居ルモノナル旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ道理アルモノニ付テハ日本ノ主張ヲ支持スヘキ自分ノ言明ニハ期待セラレ差支ナキモ日本側ニ望ム処ハ常ニ露国側ノ主義上ノ立場ヲ考量セラルルコト是ナリ従テ利権問題ニ付テモ成ルヘク一般的ノ規定ニ留メタキ露国側本来ノ趣旨ナルヲ以テ余リニ技術的方面ニ亘ルコトナキ様希望スル旨ヲ繰返セルカ本使ハ話題ヲ転シテ最恵国条件ニ関スル協約案第四条第三項ハ一応全部之ヲ拒絶セラレ後日ノ討議ニ留保セラレ居ル処抑モ本規定ハ特ニ貴方ノ主張ヲ考慮セル結果作成セラレタルモノニシテ之ニ反対シタルハ我方ノ頗ル意外トスル処ナリ

労農政府ハ何レノ国トモ最恵国約款ヲ締結セストノ御説明ナリシモ現ニ英国及丁抹トモ之ニ関スル約定ヲ為セルニ

拘ラス独リ日本ニ対シ之ヲ約シ得サル理由ナカルヘシ殊ニ日本ノ提案ハ完全ナル最恵国約款ニアラスシテ露国ト特殊ノ関係アル諸国ニ対スル利益ニ均霑スルコトハ除外シアルニ就テハ右日本案ニ同意セラルルモ差支ナカルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ英国トノ条約ハ数十ケ条ヨリ成ル詳細ナル取極ヲ有シ漫然最恵国条款ヲ許セルモノニアラスシテ相互ノ利益ヲ考慮セル結果ニ外ナラス従テ英国ニ対シテハ多大ノ利益ノ代償トシテ与ヘタルモノニシテ何等ノ代償ナキニ拘ラス一般的ニ日本ニ許与スルカ如キハ不公平ナル結果トナルヘシ現ニ英露協商第二条ヲ見ルニ英国ハ労農露国ノ外国貿易ニ関スル機関ヲ公然承認シ且其ノ権利ヲ認メ其ノ第十二条及第十三条ニモ特殊ノ規定アリ右ハ多大ノ努力ノ結果設ケラレタルモノニシテ日本トモ他日通商条約ヲ結フ場合ニハ最恵国待遇ヲ与フルコトトナルヘキモ此際何等ノ代償ナク漫然之ヲ約束スルハ自分トシテ極メテ重大ナル責任アルヲ以テ此点ハ切ニ日本側ノ了解ヲ煩ハシタシト述フル所アリ仍テ本使ハ貴下ノ説明ハ要スルニ㈠最恵国待遇ハ或ハ利益ノ代償トシテ与フヘキモノナリトノコトナルモ本件約款ノ如キハ文明国間ニハ大抵存在スル所ニシテ特殊利益

ノ代償アル場合ニノミ之ヲ約スルカ如キ性質ノモノニアラス殊ニ貴下ハ通商条約締結ノ際ニハ日本ニ対シテモ之ヲ約スルヲ得ヘシトノコトナルカ今日ハ通商条約ノ基本条項ヲ設ケ置キ他日通商条約成立迄ハ之ヲ以テ通商関係ヲ支配セムトスルモノナルカ故ニ斯カル規定ナキトキハ日本ノミナラス露国外国貿易部トシテモ多大ノ不便ヲ生スヘク本条項除外ノ結果両国間ノ通商モ行ヒ得サルニ至ルヘシ㈡又我方提案ハ一般的ニシテ広キニ失スルモノナリトノ御説ナルモ右提案ハ前述ノ如ク露国トノ接壌国其他特殊ノ関係ヲ有スル諸国以外ノ国ニ与フル利益ニ均霑スルニ止マリ決シテ広キニ失スルニアラス極メテ限定セラレタルモノナルニ拘ラス之ニ対シ異議ヲ唱ヘルハ了解ニ苦シム所ナリト述ヘタルニ「カ」ハ労農露国ハ御承知ノ通リ極メテ特殊ノ国柄ニシテ外国貿易部ノ如キ機関アリ他ノ諸国ニテ普通ニ行フコトモ労農露国ニテハ極メテ慎重ナル態度ヲ以テ之ヲ行ヒ居レル次第ニシテ丁抹伊国トモ詳細ナル規定ノ下ニ外国貿易ヲ認ムル等ノ取極ヲ為セル結果最恵国待遇ヲ約スルニ至レルモノナルヲ以テ此等露国側特殊ノ事情ヲモ考慮セラレタシト説明セリ依テ本使ハ我方提案ノ如キ最恵約款ナシトセ

ハ双方共種々ノ不便ヲ感スヘキコト前述ノ通リナル処此点ニ対シテハ如何ナル考ヲ有スル次第ナリヤ殊ニ我方提案ハ貴方ノ主張ヲ尊重シテ作成セルモノナルニ拘ラス之ヲモ拒絶セラルルハ誠ニ意外トスル所ナル旨ヲ指摘シタルニ「カ」ハ日本側今回ノ提案ハ曩ニ自分カ本件ニ関スル反対理由トシテ述ヘタル所ヲ利用シタルモノカ又ハ自分ノ説明ノ一部分ヲ根拠トセルモノニシテ誠ニ遺憾ナリ蓋シ本件譲与ノ如キハ正式通商条約ニ於テノミ掲クヘキモノナル処該条約成立迄ハ左程時日ヲ要セサルヘキニ付其ノ間双方ノ国内法ヲ以テ律スルコトトセハ可ナルヘシ

労農露国ノ外交政策トシテ或一国ニ特ニ有利ナル権利ヲ認ムルコト能ハサル次第ナルカ本問題ニ関シ日本側ノ危惧スル所カ将来日本ニノミ不利ナル待遇ヲ与ヘラルルニアラスヤトノ点ニ存スヘキモ労農露国ノ法制トシテ特ニ顕著ナルハ外国貿易ノ国営ニ存シ些細ナルモノノ輸出入ト雖「ライセンス」ヲ必要トシ右ハ何レノ国ニモ適用セラルル特殊ノ制度ナリ従テ通商条約締結ニ至ル迄ハ各自ノ国内法ニ拠ルコトトシ且現行法制ヨリモ大ナル制限ヲ加フルコトナカルヘシトスルニ於テハ日本人モ安ンシテ通商ニ従事シ得ヘシ

就テハ今日ヨリ概括的ニ最恵国待遇ヲ条件トスル期待ハ是非思止マラレタシト主張セルカ本使ヨリ労農露国ニ於テハ或一国ニノミ特殊ノ利益ヲ与フルヲ得ストノ趣ナルモ現ニ他ノ幾多諸国ニ最恵国待遇ヲ与ヘ独リ日本ニノミ之ヲ約シ得スト謂フハ貴下ノ言明ニ矛盾アルモノノ如シト述ヘタルニ「カ」ハ双方ノ主張ニ尚行違アルモノノ如クナル処然ラハ日本ニ最恵国待遇ヲ与フルモノトセハ例ヘハ英国カ露国ニ与ヘタルカ如キ利益ヲ日本ニ於テモ与フヘキヤト反問セルヲ以テ本使ハ我方提案ノ趣旨ハ基本協約ニ於テ本条項ノ如キ規定ナキトキハ実際上種々ノ不便アルヘキヲ慮レル結果ニ外ナラスシテ英国カ露国ニ与フルト同様ノ利益ヲ与フヘキヤ否ヤハ通商条約締結ノ際審議セラルヘキモノナリト答ヘタルニ「カ」ハ通商条約締結ニ至ル迄ノ過渡期間ト雖モ他ノ諸国カ多大ノ犠牲ヲ払ヒテ獲得セルモノヲ日本ハ無為ニシテ之ヲ得ントスルハ不可ナリ況ンヤ将来締結セラルヘキ通商条約ニモ其主義ヲ適用セントスル日本側ノ主張ハ尚更不可ナリト弁シタルヲ以テ本使ハ我方提案ハ相互主義ニ基クモノニシテ独リ日本ノミ利益セントスルニアラスト述ヘタルニ「カ」ハ露国ハ普通諸国ノ与フル最恵国待遇ヨ

リ一層有利ナル待遇ヲ対手国ヨリ得タル代償トシテ最恵国待遇ヲ与ヘ居ルモノナルヲ以テ反対給付アル利益ニ対シ日本側覚書ノ如キ機械的ニ均霑セントスルハ不法ノ要求ト謂ハサルヘカラスト述ヘ尚例ヲ以テ説明センニ例ヘハ英国ヨリ機械ノ輸出ヲ為スニ当リ露国ニ仕向クルモノハ百円ノ輸出税ヲ三十円トシ露国ヨリ英国ニ仕向クル亜麻ノ輸出税十円ヲ三円ニ減スル規定アルモノトセハ日本カ右最恵国条款ニ均霑スル結果無償ニテ七割減ノ利益ヲ得ルコトトナルヘシト説明シ飽ク迄我方提案ニ反対ヲ唱ヘ時間ノ都合上其儘散会セリ次回ハ「カラハン」ノ都合ニテ十五日会見ノ筈

四五九　九月十五日　幣原外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

利権問題ニ対スルカラハンノ態度ニ鑑ミコノ上交渉継続ノ価値疑問ニ付キ日本側ノ主張ヲ露本国ニ取次グヨウ申入レ方訓電ノ件

第五七三号　至急極秘

今回我方ノ提出セル妥協案ハ十分露国側ノ立場ヲモ参酌シタルモノニシテ同案中ニ掲ケタル事業継続ノ点ニ付テモ尤モナル理由アリト認メラルルモノハ考量ノ余地アル旨「カラハン」自ラ嚢ニ明言シタル次第ナル処最近「カラハン」ハ「ボーリング」継続ノ如キ明白ナル理由アルニ拘ラス其ノ保存行為ニ属スルト否トヲ標準トシテ莫斯科政府ニ稟申スルト否トヲ決セムトスルモノノ如シ将又作業ニ依ル産出物ノ処分ニ関シテハ「カラハン」ハ右産出物配分問題ヲ協定セスシテ我方カ現物ヲ自由ニ処分スルコトニ反対スルト共ニ此際右配分問題ヲ協定スルコトモ所謂露国側ノ建前ニ反スルヲ理由トシテ亦等シク反対スル趣ナル処我ハ元来産出物ニ対シ何等配分ヲ為サストノ意ニ非ス唯露国側ノ建前ヲ尊重シ且畢竟数ケ月間ノ問題ト認ムルカ故ニ配分ノ提議ヲ差控ヘタル次第ナルニ付或ハ将来利権契約締結ノ上ハ同契約中ノ産出物配分規定ハ今回ノ協約成立ノ日ニ遡リテ適用スルコトトスルノ便法モアルヘシ何レニスルモ我妥協案ニ示セル事業ノ保存及継続共ニ我方ノ最重要視スル所ニシテ露国側ニ於テモ大局ニ顧ミ交譲ノ誠意ヲ以テ我提案ヲ迎ヘサルニ於テハ我ハ此上交渉ヲ継続スルノ価値アリヤ否ヤヲ慎重ニ考量セサルヲ得ス貴官ハ此ノ趣旨ヲ篤ト説明セラレ今一応「カラハン」ニ対シ本件ニ関スル我方主張ヲ至急莫斯科ニ取次キ同政府ノ意向ヲ徴スルコトニ取計ラフヘキ

旨強硬ニ申入レラレ結果回電アリタシ

四六〇　九月十七日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

最恵国条款其ノ他ノ問題ニ関シカラハント会談ノ件

第八四六号　至急極秘　（九月十八日接受）

往電第八三一号ニ関シ

九月十五日ノ会議ニ於テ本使ハ「カラハン」ニ対シ第一　最恵国条款ニ関シテハ露国側ニ一定ノ主義アリトノ事ニシテ我方提案ニハ極力反対セラルル処「ポーツマス」条約第十二条ニモ通商条約ハ将来締結スルコトトシ夫レ迄ハ最恵国待遇ヲ与フヘキ一般的規定ナリ殊ニ我方今回ノ提案ハ貴下ノ云フカ如ク露国側ノ反対理由ヲ利用スルモノニ非スシテ寧ロ其ノ点ヲ考慮シテ作製セルモノナルヲ以テ提案ニ国内法ニ依ルト云フカ如キ貴下ノ主張ニハ同意スルヲ得サルモ夫レ以外ニ何等考案アラハ承知シ度シト述ヘタルニ「カ」ハ将来通商条約締結ノ際ニハ最恵国条款ヲ取極ムル事トナルヘキモ今日ノ場合自分ノ既ニ述ヘタル意見以外ニ別ニ名案無キニ苦ム又「ポーツマス」条約締結当時ハ露国今日ノ外国貿易国営……ト云フカ如キ制度モ無ク全ク其ノ状況ヲ異ニス尚日本側ニ於テハ無条件最恵国約款ヲ考ヘ居ルモノノ如キモ露国側ハ或種ノ権利ニ付制限的ニ之ヲ設ケントスルモノナルヲ以テ本件ニ付テハ此上執拗ニ主張セラレサル事ヲ希望スト繰返ヘセルカ本使ハ我方提案ニ於テ均霑セントスル利益ハ㈠露国ト接壌セサル第三国ニ与フル利益及㈡日露両国ノ接壌国ニ対スル利益ノ二種ニシテ前者ハ例ヘハ英国ニ対スル利益ニシテ後者ハ支那ニ対スル即チ之ナリ然ルニ貴方ノ主張ハ右支那ニ対スル利益ニモ均霑スルヲ許ササル趣意ナリヤト推問シタルニ「カ」ハ英国ニ与フル利益ニ付テハ既ニ説明セルカ如ク多大ノ犠牲ヲ伴ヘル結果ニシテ日本カ漫然一般的ニ均霑セントスルハ甚タ不公平ナリ仮ニ日本側要求ニ応シタリトシテ後ニ露国カ英国ヨリ得タルト同様ノ条件ヲ日本ニ要求スル場合ニ日本ハ最恵国条款ヲ無条件ニテ得タル事ヲ楯ニシテ之ヲ肯セサルカ如キ事アラハ露国ハ言ハハ馬鹿ヲ見ル結果トナルヘク又支那ニ関シテハ事態極メテ特殊ノモノアリ露支両国ハ長キ国境ヲ有シ新疆省ノ如キハ露国トノミ国境ヲ接スル地方ノ通商関係ニ於テモ多少ノ除外例ヲ設クルハ已ヲ得サル処ナルノ

ミナラス蒙古ニ対シテモ其ノ地方ノ事情ニ応シ特殊ノ規定ヲ必要トスルモノナリ依テ日本ニ対シテモ之等ノモノト同様ノ待遇ヲ与フルコトヲ得ス尤モ満州ノ如ク日露支(ママ)両国トモニ密接ナル関係ヲ有スル地方ニ関シテハ将来特殊ノ取極メヲ為スヲ得ヘシ尚将来日露両国ノ経済関係ノ重要ナルニ顧ミ関税其他ニ関シテモ互ニ便宜ヲ図ル事トスヘキハ勿論ナルモ今日一般的最恵国条款ヲ設クルハ到底不可能ナリト述ヘ更ニ本使ヨリ最恵国条款ヲ設クルハ相互主義ヲ基礎トスルモノナルカ故ニ必スシモ日本ノミ利益スル結果トナル次第ニ非ス殊ニ国交回復後ニ在リテハ露国ノ産物ニシテ日本ニ輸出セラルルモノ甚タ多カルヘク其際最恵国待遇ヲ受クルハ露国ノ為ニモ利益トナル次第ニ付日本ノミ利益スルモノト考ヘルハ誤解ト云ハサルヘカラス又露支両国ノ国境ハ日露ノ国境ニ比シ遙ニ長キニ相違無キモ海ヲ隔テテ相接近スル日露ノ関係モ又極メテ重要ナルモノアリ従テ露国ノ支那ニ与フル待遇スラ日本ニ与フルヲ得スト云フハ却テ不公平ト云ハサルヘカラス就テハ文字ノ点ハ多少修正スルコトトスルモ暫行弁法トシテ兎ニ角此種ノ規定ヲ設ケ置ク事是非必要ナルヘシト主張セルモ「カ」ハ英露協商ニ付テハ既ニ詳細ノ説明ヲ為シ充分御了解ノ事ト思考セラルルヲ以テ再説セサルモ支那ニ至リテハ関税ノ自主権ヲモ有セサルカ如クナルヲ以テ之ニ対スル労農露国ノ態度カ曩ニ発表セル対支宣言ノ如ク極メテ特殊ノ国交関係ヲ結フニ至レルモノナリ従テ露支交款ノ関係ハ直ニ之ヲ日本ニ適用シ得サルハ已ムヲ得サル次第ナリ猶前述ノ新疆省ノ如キハ主トシテ羊毛ノ如キ原料品ノミヲ輸出スル地方ナルニ反シ日本ノ如キ工業国ヨリハ機械等ノ輸出盛ニ行ハルルニ至ルヘク従テ複雑ナル関係ヲ有スル支那ニ与フル利益ニ就キ日本カ簡単ニ均霑スルコトトナルニ於テハ後日ニ至リ意外ノ故障ヲ生スルコトナキヲ保セサルヘシ猶伊国トノ条約ニ於テ同国ニ与ヘタル権利ハ品物ノ種別ニ依リ或ハ三歩減若ハ無税トシ其他ニ就テハ最恵国待遇ヲ与フルト言フカ如キ複雑ナル規定ヲ設ケタルモノナル処日本カ此際一躍最恵国待遇ヲ得ムコトヲ主張スルハ諒解シ得サル処ナリト弁シタルカ本使ハ貴下ノ説明ハ要スルニ露国側ハ有条件最恵国約款ノミナルニ反シ我方ハ無条件主義ヲ主張スルヲ不可ナリト為スモノノ如キモ我方提案ニ於ケル一定ノ除外例ヲ設ケタル次第ナルヲ以テ必スシモ無条件主義ト言フヲ得サル処ナルモ本件

ニ関シテハ既ニ随分議論ヲ重ネタル処ニシテ貴方ノ主張スルカ如キ複雑ナル最恵国条款ニハ日本政府ハ応シ得スト思考スルモ右論議ハ一応此儘トシ猶我方提案ニ対シ何等対案若ハ修正案ヲ提出スルヲ得サルヤト強硬ニ質問シタルニ対シ「カ」ハ翌日迄何等カノ案ヲ作ルヘキコトヲ約シタルカ先方ノ主張ハ要スルニ一般的ナル無条件最恵国約款ヲ基本協約中ニ設クルハ絶対ニ不可能ナリトスルニ在リテ先方ニ於テ作成スヘキ案ト雖通商条約締結ニ至ル迄ノ過渡期ニ対シテハ双方ノ国内法ヲ以テ通商関係ヲ律スルコト及将来通商条約締結ニ際シテハ第三国トノ最恵国約款ヲ考慮ニ加フルコトトスル以上ニ出テサルヘキヤニ思考セラルルモ先方ヨリ提出スヘキ案ハ直ニ電報スヘキニ付テハ本件既往ノ討議篤ト御参照ノ上本問題ニ対シ今後我方ノ執ルヘキ態度ニ付キ何分ノ儀御回示相煩ハシタシ

第二　債権及請求権問題

本問題ニ関シ本使ハ債権ト請求権トヲ一括シテ規定スルハ勿論請求権其物ニ関スル露国側ノ主張ハ我方ノ承認シ得サル所ナルモ仮ニ債権ト離レテ請求権ヲ取扱フモノトセハ如何ナル規定ヲ設ケントスルモノナリヤニ関スル八月二十六日ノ会議ニ於ケル本使ノ質問ニ付先方ノ注意ヲ促シタルニ「カラハン」ハ其案文ハ翌日迄用意スヘキ所露国側トシテハ債権ト請求権トヲ別個ノ規定トスルコトニハ異議ナク唯債権ニ就テモ之ヲ双務的トシ且曩ニ文書ヲ以テ説明シ置ケル all other conditions being equal ナル文句ヲ付加シタシト答ヘ尚英露協約第七条ノ如ク債権ト請求権トヲ同一条文ノ内ニ規定スルモ若クハ請求権而已ニ付英国トノ例ニ倣ヒ別ノ条文トシテ規定スルモ可ナリト述ヘタルカ本使ハ仮令請求権ニ就テハ別個ノ規定トスルモ日本政府ハ之ヲ承認セントスルニアラス単ニ如何ナル規定ヲ設ケントスルモノナリヤ試ミニ承知シタキ趣旨ニ外ナラスト述ヘ置キタル所本件ニ関シテハ已ニ往電第六八五号ヲ以テ卑見申進メ置キタル次第モアリ何分ノ儀至急御回示アリタシ

第三　「ポーツマス」条約

本問題ニ関スル貴電第四九八号御来示ノ（三）ニ就キ本使ヨリ朝鮮ノ独立運動ニ気勢ヲ添フルカ如キ規定ヲ追加スルモノナルニ於テハ到底我方ノ承認スルヲ得サル所ナルカ故ニ其点ハ十分（脱）レタキ旨ヲ告ケタルニ対シ「カ」ハ必スシモ朝鮮人ノ為メニスルカ如キ規定ヲ追加スルモノニア

ラサルモ日露戦争並ニ「ポーツマス」条約ハ要スルニ帝政露国ノ責任ニシテ労農政府ノ与ラサル所ナル趣意ヲ明ラカニスル極メテ一般的ノ規定ヲ予想スルニ過キスト答ヘ次テ本問題ニ関スル我方提案第二条第三項ノ削除方ニ付我方考慮ノ結果ヲ反問セルニ依リ本使ハ本項ノ削除ニ付テハ大体異存ナキモ右ニ就テハ一応断リヲ付シ置キタキ次第アルニ付含ミ置カレタキ旨ヲ答ヘタルカ前記貴電（二）御来示ノ趣旨明瞭ナラサル而已ナラス先方ヲシテ「前記ノ趣旨ヲ認メシメタル上」トハ書面ニテモ取リ付クル御趣意ナリヤ折返シ何分ノ儀御回示アリタシ

第四　秘密条約

本問題ニ関シ「カラハン」ハ八月二十二日ノ会議ニ於テ我方提案「プロトコール」(A)第四条審議ノ際将来此種条約ヲ締結セサルコトニ関シテハ既ニ九国条約ノ先例ヲ援用シ置ケル所右ニ対スル我方ノ意向如何ヲ訊シタルニ依リ本使ハ九国条約第二条ノ如キ例外ヲ増加スルコト能ハサル次第ハ当時既ニ説明シ置ケル所ナルモ元来本問題ハ「ベッサラビヤ」条約ニ関連シテ提起セラレタルモノナルカ故ニ同条約問題ト同シク之カ審議ハ利権問題解決後ニ譲リタシト答ヘ置ケリ

第五　漁業問題

本問題ニ関シ本使ヨリ貴電第五一八号（一）御来示ノ趣旨ヲ説明シタルニ対シ「カ」ハ出来得レハ翌日迄ニ案文ヲ作製シタル上篤ト審議シタシト答ヘ尚右貴電御来示ノ（二）ノ趣旨ヲ説明セルニ対シ「カ」ハ将来漁業改訂(?)ノ際ニハ当然露国現行法制ヲ参照スルコトトナルヘキモ本件ニ就テモ案文作製ノ上審議シタシト述ヘ散会セリ

四六一　九月十七日　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

日本側新提案ノ提示ヲ高圧的トシテカラハンノ反撥セシ模様報告ノ件

第八四九号　至急極秘　（九月十八日接受）

九月十六日ノ会議ニ於テ「カラハン」ハ利権ニ関スル主義的規定案ノ提示ヲ求メタルカ本使ハ右原案ハ既ニ作成済ナルモ一応政府ニ請訓ノ上提示スルコトトシタシト答ヘ猶利権契約締結ニ至ル迄ノ過渡期ニ対スル措置ニ就テハ露国側ノ提案並之ニ関スル最近論議ノ経過ヲ詳細政府ニ報告シ置ケル処右ニ関スル電訓ニ接シタルヲ以テ之ヲ披露スヘシト述ヘ前顕貴電御来示ノ趣ヲ説明シタリ右ニ対シ「カラハン」ハ日本政府ノ貴公使ニ対スル訓令ハ多大ノ注意ヲ以テ傾聴スル処ナルカ本交渉ヲ行フニ当リ今日ニ及ヒ威脅ヲ用ヒルカ如キハ誤レルノ甚シキモノナリ蓋シ此上交渉継続ノ価値アリヤ否ヤヲ考慮セサルヲ得スト言フカ如キコトナラハ談判ヲ決裂セシムルノ外ナカルヘシト言フニ等シク誠意ヲ以テ談判ヲ行フモノナラハ斯ル威脅ノ文句ヲ用フヘキニアラス莫斯科政府トシテモ斯ノ如キ言ヒ方ニ動カサレ日本ノ要求ニ承認ヲ与ヘ来ルカ如キコト万ナカルヘシ労農政府ハ全世界挙テ露国ニ反対ノ態度ヲ執レル際ニ於テモ亦(脱)モ其所信ヲ枉ケサリシ処ナルニ今日ニ及ヒ何ヲ怖レテ威脅ノ為ニ其意見ヲ変更スルコトアルヘキヤ要スルニ斯ノ如キ日本ノ態度ハ却テ談ヲ破ラムトスルモノニシテ一ニ目下ノ事態ヲ諒解セサルニ出テタルモノト考ヘルノ外ナシ固ヨリ労農露国トシテハ衷心大国タル日本トノ善隣関係樹立ヲ希望シテ已マサルモノナルカ故ニ過去六ケ月ニ亘ル交渉ノ経験ニ徴スルモ其応諾シ得サルモノト応諾シ得ルモノトニ就テハ常ニ慎重ナル考量ヲ加ヘ来リ或ル事件（浦潮ニ於ケル邦人拘禁事件ヲ言フモノナルヘシ）ニ就テモ冷静ナル考量ヲ払ヒ隠忍以テ之ヲ解決シ其後ニモ亦同様ノ事例アリタルニ拘ハラス日本政府ニ於テハ今日尚依然高圧的態度ニ出テラルルハ全ク労農露国ヲ理解セサルモノニシテ遺憾ニ堪ヘサル所ナリ次ニ日本政府訓令ノ内容ニ対シテハ如何ニ挨拶スヘキカ困惑スル所ニシテ自分ノ政府ニ対スル禀請案ニ付東京政府ノ意見モアラハ併セテ莫斯科ニ申送ル手筈ナリシ処右ニ関シテハ何等言及スルコトナク突然御説明ノ如キ要求ヲ申出テラレタル次第ヲ報告スル時ハ莫斯科ニ於テハ必然感情ヲ害シ益々事態ヲ紛糾スヘキヲ恐ル殊ニ順調ニ話合進行中ナルニ当リ斯ル状態ニテハ此ノ上交渉ヲ継続スヘキヤ否ヤヲ考慮セサルヘカラスト謂フカ如キハ莫斯科ニ対スル挑戦ニシテ莫斯科ヲシテ同様ノ態度ニ出テシムルモノナル処既ニ貴公使ヨリ政府ノ訓令トシテ伝ヘラレタル以上右ハ之ヲ莫斯科ニ報告スルコトトスヘシ就テハ自分ヨリハ茲ニ休会ヲ提議シ莫斯科政府何分ノ指図ヲ仰クコトトシタシト述ヘタリ右ニ対シ本使ハ帝国政府ノ訓令ハ是非莫斯科ニ御伝ヘヲ請フ従来本使ハ現在ノ作業継続ノ点ハ保存行為ノ内ニ含マシムルコトニ依リテナリトモ如何ニカシテ之ヲ認メラルル様請求シ今日迄随分執拗ニ論議ヲ重ネ此ノ点ハ日

本政府ニ於テ特ニ重要視スル所ナルカ故ニ之ヲ認メラルルニ非サレハ極メテ困難ナル事態トナルヘキヲ累次説明シタル次第ナリト答ヘタルニ「カ」ハ此ノ際ノ事故自分ハ事態ヲ明確ニシ置キタキ処保存行為ノ意義ニ付テハ日本政府ノ意見ヲモ聞キタル上莫斯科ニ取次キタキ考ナルカ日本政府今回ノ如キ訓令ヲ突然莫斯科ニ報告スル時ハ莫斯科ニ於テハ極メテ意外ニ感スヘク或ハ却テ談判ヲ破ル結果トナル無キヲ保セス従テ此際他ノ問題ヲ審議スルモ詮ナキ事ニシテ莫斯科ヨリ指図アル迄休会スヘシ又保存行為ノ点モ元来自分ノ私見トシテ思付キタル問題ニシテ莫斯科政府ノ意見ヲ得タル上ハ莫斯科政府ニ対シ日本ノ為ニ支持スル筈ナリシモ事態斯ノ如クンハ将来此点モ支持セサル事トスヘシト述ヘ本使ハ日本政府ニ対シテハ貴下ノ案モアリ本使ノ意見モ共ニ報告シ置ケル次第ナルカ兎ニ角今回ノ訓令ハ貴下ニ於テ莫斯科ニ取次カルル趣ニ付本使トシテハ夫レニテ満足スヘク莫斯科ヨリ回答アル迄休会スヘシトノ貴下ノ主張ナラハ夫レモ已ムヲ得サル処ナリト答ヘタルニ「カ」ハ日本政府ハ如何ナル事ヲ望ム趣旨ナリヤト嘯キタルヲ以テ本使ハ単ニ現業ノ保存ノミナラス其ノ継続ヲモ認ムヘシト云フニ在リト述ヘタルニ「カ」ハ保存行為ニ付テハ莫斯科ニ禀請シテ日本ノ為ニ支持スルコトトシ「ボーリング」ノ継続ハ貴公使ニ於テモ保存行為ト認ムヘキモノナリト説明セラレ居ル旨ヲ付言シテ申送ル筈ナリシ処今日日本政府ノ主張ハ如何ナル事ヲ云ハントスルモノナリヤト推問セルニ依リ本使ハ重ネテ前言ヲ繰返ヘセルニ「カ」ハ今回訓令ノ要領ヲ文書トシテ交付セラルレハ国民ニ発表シテ輿論ノ判断ニ訴フル上ニモ好都合ナリト述ヘタルカ本使ハ兎ニ角政府訓令ノ通正確ニ伝ヘタルモノナルカ故ニ更ニ文書ヲ以テ伝フルニ及ハサルヘク殊ニ発表スルコトアルヘキモノヲ書物（カキモノ）トシテ交付スルコトニハ同意スルヲ得スト答ヘ尚貴下ニ於テ保存行為ニ付テハ将来之ヲ支持セサルニ於テハ過渡期ニ対スル措置モ不能トナル次第ニシテ貴下ノ云フカ如ク休会スルノ外ナカルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ本交渉カ今日ノ如ク極メテ事務的ニ商議ヲ進メツツアルニ方リ日本政府カ本問題ニ関シ斯ル形ニテ其主張ヲ申出テラレタル真意ハ諒解ニ苦シム所ニシテ何レノ点ニ付キ異議アリトノコトナラハ尚篤ト審議ヲ重ヌヘキ所突然商議ノ経路ヲ離レテ今回ノ如キ申出ヲ為サレタルハ遺憾ナリト繰リ返セルカ本使ハ従来交

渉ノ経過ハ詳細ニ報告シアル所右ノ如キ訓令ナルヲ以テ本使トシテハ其通リ伝フルノ外ナシト述ヘタルニ「カ」ハ自分トシテハ何カ故ニ日本カ斯ノ如キ態度ニ出テタルカヲ承知スル必要アリトテ日本ニ於テハ露国ノ飢饉ニ関スル報道其他ノ事情ニ顧ミ此際交渉ヲ継続スル必要ナシトノ考ニ出テタルモノトモ察セラルト述ヘ（「スレパック」ヨリノ東京新聞ノ記事報道ニ基ク推測ナルモノノ如シ）尚日本政府ノ意思ハ此際議定書(B)ノ主張ニ逆ラハントスルモノナリヤ将又何レノ案ヲ主張セントスルモノナリヤ判明セス結局日本政府ハ談判ヲ継続スル意思ナキモノト思考スル旨莫斯科ニ申送ルノ外ナカルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ貴下ノ莫斯科ニ対スル電信案ニ就テハ本使ヨリ兎ヤ角云フヘキ限リニアラサルモ日本政府今回ノ訓令ハ曩ニ貴下ヨリ提示アリタル現業ノ保存及継続ニ関スル禀請案ニ言及スルコトナキヲ以テ貴下ノ案ハ承認セラレタルモノト認ムト答ヘタルニ「カラハン」ハ然ラハ利権ニ関スル今日迄ニ至ル経過ノ要領ヲ記セル「ノート」ヲ作製スヘキニ付之ヲ日本政府ニ伝達アリタク右ニハ単ニ事実ノ経過ヲ記スニ止ムヘキモ莫斯科政府ヨリハ未タ継続ヲ認ムルカ否ヤニ付何等明確ナル回答ナキニ先チ突然意外ノ申出アリタルコトハ事実ニ付其点ハ特書シタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ何レ該「ノート」ヲ見タル上政府ニ伝達シ得ヘキヤ否ヤヲ決スヘキ所本使ニ於テ説明シ得ル点ニ付テハ本使ヨリ返答スヘク尚貴方ニ於テ了解シ得サル点アラハ東京ニ照会スルモ可ナリト答ヘ散会セリ

貴電ニハ強硬ニ申入ルル様特ニ御訓示相成リタルニ付御来示ノ次第ヲ強硬ニ申入レタルハ勿論「カ」ヨリ休会ヲ申出テ又ハ保存行為ノ支持撤回ヲ声明シタルニ拘ハラス取縋ルカ如キ返答ヲ為サス勝手ニスルカ宜シト云フ態度ニ出テタル処之カ為「カ」ハ却テ予期ニ反シタリト云フカ如キ面持ニテ多少狼狽ノ体ヲ示セリ尚貴電第五六四号ニ関シ「カラハン」ニ対シ御来示ノ趣ヲ告ケタルニ「カ」ハ早速莫斯科ニ電報スヘシト答ヘタリ尚当日「カラハン」ハ露支協定ニ関連シ東支鉄道問題ハ六月七日付ヲ以テ我方ヨリ申出テタル「ノート」ニ対シ其後莫斯科政府ヨリノ回訓ニ基キ作製セル回答ヲ用意シ置ケル処今日迄失念シ居レルモノナリトテ七月十日付ノ「ノート」ヲ本使ニ交付セルカ右ハ要スルニ東支鉄道問題ハ露支両国間而已ノ問題ニシテ第三者ノ容

喙スヘキコトニ非サル旨ヲ簡単ニ述ヘタルモノニ過キサル処本使ハ「カ」ニ対シ同鉄道ニ対シ日本カ何等ノ利害関係ナシト謂フハ当ラサル所ニシテ露国革命後同鉄道ハ支那ニノミ其管理ヲ委ネ置ク能ハサル状態ナリシヲ以テ利害関係アル連合国ニ於テ一時其管理ノ任ニ当レルモノニシテ同鉄道ノ今日アル所以ニ付テハ右連合国殊ニ日米両国ノ管理ニ負フ所鮮カラス又日本トシテハ同鉄道ニ対シ売掛代金ノ如キ権利ヲ有シ旁密接ナル利害関係ヲ有スル次第ニテ莫斯科政府ノ回答ハ甚タ不満足ニテ到底承認シ難キ旨一応断リ置キタリ「カラハンノート」郵送ス

尚当日「カラハン」ヨリ債権問題ハ双務的トスルコト及請求権問題ヲ別箇ノ条文トシテ相互的ニ後日ノ決定ニ留保スル趣旨ノ案文ヲ提出セルカ右ハ郵送ス

四六二　九月十九日　閣議決定

北樺太ノ駐兵継続ニ関スル閣議決定ノ件

日露交渉ニ関スル薩哈嗹州派遣軍ノ駐兵継続ニ就テ

今次ノ日露交渉ニ於テ両国間ニ於ケル条約ノ効力カ遅クモ本年九月中旬迄ニ発生スルニ於テハ本年中ニ薩哈嗹州派遣軍ヲ撤去スルコトニ予定シアリシカ未タ該交渉成立ノ運ヒニ至ラサル為該地方船舶航行等ノ関係上本年内ニ撤兵ヲ実行スルコト困難ナルヲ以テ駐兵ヲ継続スルモ勉メテ駐屯人員ヲ減少スルコトニ致度

（欄外付記）

陸軍省ヨリ閣議提出ノ趣外務省ハ提出前何等協議ヲ受ケス　九月二十四日山田少佐持参

四六三　九月二十日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

休会中ノ会議ヲ再開シタキ旨カラハンヨリ島田ニ対シ申出アリタル件

第八六八号　極秘　（九月二十一日接受）

九月十九日「カラハン」ハ島田ニ対シ露西亜側ノ都合ニ依リテ休会数日ニ亘ルコトハ甚タ好マシカラサルニ付明日ヨリ引続キ会議ヲ継続シタキ旨申出ツルト同時ニ本交渉ハ九月末迄ニ是非成立セシムルノ必要アリ自分ハ現在所持セル人民委員会ノ委任状ニ依リ調印シ得ルモ中央執行委員会ノ批准ヲ受クル為ニハ協約原本ヲ「クリエール」ニテ莫斯科ニ送付スルヲ要シ右ニ十五日ヲ見積リ置クヲ要ス尤モ両全権ノ作成シタル条文ヲ片端ヨリ政府ニ電報シ置キ原本ノ到達前批准ヲ得ヘキ方法ニ就キ折角考慮中ナリ又撤兵ニ就キ日本側ノ言ハルル一ケ月半ハ最早無之処仮ニ本月末ニ調印ノ運トナルニ於テハ日本側ニ於テ自分ニ信頼シ十月初ヨリ撤兵ニ著手セラルル様致シタシ結氷期迄ニ占領ヲ解除スルヲ得ストセハ戦闘部隊ノ撤去丈ケニテモ可ナリ猶批准ナキカ（脱）場合ニハ再ヒ戦闘部隊ヲ後戻リサセテモ可ナラスヤ云々ト語リタル由

右御参考迄

四六四　九月二十六日　幣原外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

北樺太利権ノ主義的規定及ビ債権請求権問題ニ関シ閣議決定ニ基キ訓電ノ件

別　電一　九月二十六日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第五九四号

北樺太利権ニ関スル主義的規定

二　九月二十六日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第五九五号

債権問題

右御参考迄

三　九月二十六日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第五九六号

請求権問題

第五九三号　至急極秘

貴電第八四七号ニ関シ

慎重審議ノ結果貴電第八四八号（編註）ノ趣旨ヲ基礎トシ且成ルヘク付属議定書(二)ノ条項ヲ取入ルル趣旨ヲ以テ別電第五九四号（英文共）ノ通リ決定セリ

該案中期限ノ点ハ先方ノ意向ヲ参酌シ出来得ル限リ之ヲ短縮シ又報償ノ点ニ付テモ先方ノ立場ヲ考慮シ石油ニ付テハ純収益ノ百分ノ二十ヲ提供スルカ又ハ生産高ノ百分ノ五以上累進ヲ以テ提供スルコトセルカ石炭ニツキテハ技術上石油ト同一ニ取扱フコト不可能ナルニ付画一的ニ規定セリ但シ右報償ニ関スル好意的考慮ハ先方ニ於テ企業、企業ノ必要物件、企業ノ生産物等ニ対シ一切課税セサルコトヲ条件トスルモノナルニ付此点ハ特ニ留意セラレタク猶右ノ内輸出入税免除ノ点ニ関シテハ先方ハ外国貿易法等ヲ引用シテ本案ニ異議ヲ称フルコトアルヤモ測ラレサル処其場合ニハ我方ハ前述ノ如ク特ニ先方ニ有利ナル報償ヲ提供スルノ

ミナラス労農当局ニ於テハ黒竜江以北諸港及北樺太地方ニ対スル輸入貨物ノ無税通関ヲ規定セル千九百十四年六月二十一日付規則ヲ廃止セス故ニ依然無税通関ヲ認ムヘキ旨昨千九百二十三年三月浦潮税関等ニ通牒ヲ発シタルノ事実アリテ北樺太ハ関税ニ関スル特別区域ニ属スルヲ以テ右異議ハ不当ナル次第ヲ篤ト先方ニ説示セラレタク其他本案ハ労働関係ノ事項ニ付テモ貴案ニヨリ充分ニ我方主張ヲ緩和シタルモノナルヲ以テ右諸点御含ミノ上先方ヲシテ本案要求ヲ承認セシメラルル様努メラレタシ

尚貴電第八五九号ヲ以テ御送付ノ分ニ当方ニテ修正ヲ加ヘタル債権問題及請求権問題ニ関スル案文別電第五九五号及第五九六号ヲ以テ英文共送付ス右ニ問題ニ就テモ修正案ニ就キ承知セラルヘキ通リ先方ノ立場ヲ考慮シ出来得ル限リ我主張ヲ緩和シタル義ナルニヨリ先方ニ篤ト右ノ次第ヲ説示スルト共ニ尼港事件謝罪文其他ニ関スル我方要求ノ貫徹ニ利用セラルル様致サレタシ

編註　在中国公使館作成ニカカル利権等ニ関スル試案（英文）ナルモ省略セリ

（別　電一）

九月二十六日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第五九四号

北樺太利権ニ関スル主義的規定

別電第五九四号　（至急極秘）

締約国ハ本協約ノ効力発生後直チニ商議ヲ行ヒ右期日ヨリ箇月以内ニ締結セラルヘキ利権契約ノ基礎トシテ左ノ通約定ス

「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ日本国政府又ハ日本国政府ノ指定スルコトアルヘキ日本当業者ニ対シ四十年乃至五十年ノ期間㈠北薩哈嗹東海岸ニ於テ日本ノ試掘ヲ行ヘル区域ヲ包含スル四千平方露里ノ地域ニ於ケル油田㈡西海岸ニ於テ旧封鎖区域ヲ包含スル一定ノ地域ニ於ケル炭田ヲ開発スルノ権利ヲ許与スヘク日本国政府又ハ右指定セラレタル日本当業者ハ右「コンセッション」開発ノ為必要ナル範囲ニ於テ北薩哈嗹ニ於テ伐木、港及鉄道ノ建設、輸油管ノ敷設、電気通信及其他ノ施設ヲ為スコトヲ許サルルモノトス

日本国政府又ハ其ノ指定スルコトアルヘキ日本当業者ハ右「コンセッション」ニ対スル報償トシテ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニ対シ毎年石油ニ付テハ純収益ノ二〇「パーセント」又ハ年産額五十万噸以下ナル場合ニハ企業ノ総生産高ノ五「パーセント」、年産額五十万噸以上百万噸以下ナル場合ニハ企業ノ総生産高ノ一〇「パーセント」、年産額百万噸以上ナル場合ニハ企業ノ総生産高ノ一五「パーセント」ヲ石炭ニ付テハ純収益ノ二〇「パーセント」又ハ企業ノ総生産高ノ五「パーセント」ヲ提供スヘシ前記報償提供ニ顧ミ且ツ当該区域ノ地理上ノ位置其他一般状態ニ依リ本企業ノ受クヘキ不利ヲ考量シ本企業ノ経営並之ニ必要ナル一切ノ物件、物資及本企業ヨリ得タル生産物ノ輸出入ニ就テハ何等課税又ハ事業ノ成功ヲ阻碍スルカ如キ制限ヲ受クルコトナカルヘキヲ約ス「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ又本企業ニ対シ一切ノ合理的ナル保護及便宜ヲ供与スヘク且本件「コンセッション」ト抵触スヘキ何等ノ権利ヲモ設定又ハ支持セサルヘシ

（右英文）

The Contracting Parties have agreed upon the following as the basis for the Concessions Contract to be negotiated immediately upon the coming into force of the present Convention and to be concluded within (　　) months from that date.

The Government of the U.S.S.R. shall grant to the Government of Japan or to Japanese concerns which the latter Government may nominate, the right to exploit for a period of from forty to fifty years (1) oil fields on the east coast of Northern Saghalien over an area of four thousand square versts, including districts where test drillings are being conducted by Japan, and (2) coal fields on the west coast over a certain area including the former closed district, it being understood that the Government of Japan or the Japanese concerns so nominated shall be permitted to fell trees, to construct harbours and railways, to lay oil-carrying pipes, and to set up electric communications and other undertakings in Northern Saghalien, in so far as may be necessary for the exploitation of the said concessions.

The Government of Japan or Japanese concerns which it may nominate shall make over annually to the Government of the U.S.S.R., as royalty for the said concessions, in case of oil fields, either twenty per cent of the net profits or the following percentage of the gross output:

1. Five percent, when the annual output is less than five hundred thousand tons;

2. Ten percent, when the output is more than five hundred thousand tons and less than one million tons;

3. Fifteen percent, when the output is more than one million tons.

In case of coal fields, such royalty shall be fixed at either twenty per cent of the net profits or five per cent of the gross output.

In consideration of the royalty above-mentioned and taking also into account the disadvantages under which the enterprises are to be placed through the

geographical position and other general conditions of the districts affected, it is agreed that the working of the enterprises, and the importation and exportation of any articles, materials or products needed for or obtained from such enterprises shall not be subject to taxation or to such restriction as may prevent the success of the undertakings.

The Government of the U.S.S.R. shall also accord all reasonable protection and facilities to the said enterprises and shall refrain from creating or supporting any rights that may be incompatible with the said concessions.

（別　電二）

九月二十六日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報五九五号

債権問題

別電第五九五号

第　条

前露西亜国政府即チ露西亜帝国政府及之ヲ継承セル臨時政府ノ発行セル公債及大蔵省証券ニ依リ日本国政府又ハ臣民ニ対シテ負ヘル債務ニ関スル一切ノ問題ハ日本国政府ト「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府トノ間ニ将来開カルヘキ会議ニ於テ解決ノ為之ヲ留保ス但シ右解決ニ当リ日本国政府又ハ臣民ハ一切ノ他ノ条件ニシテ均等ナラハ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府カ同様ノ問題ニ付他ノ何レノ国ノ政府又ハ国民ニ付与スルコトアルヘキモノヨリ不利益ナル地位ニ置カルコトナカルヘシ

（右英文）

It is agreed that all questions of the debts due to the Government or subjects of Japan on account of public loans and treasury bills issued by the former Russian Governments, to wit, by the Imperial Government of Russia and the Provisional Government which succeeded it, are reserved for adjustment at subsequent negotiations between the Government of Japan and the Government of the U.S.S.R.: Provided that in the adjustment of such questions, the Government or subjects of Japan shall not, all other conditions being equal, be placed in any position less favourable than that which the Government of the U.S.S.R. may accord to the Government or nationals of any other country on similar questions.

（別　電三）

九月二十六日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第五九六号

請求権問題

別電第五九六号

第　条

両締約国ノ一方ノ政府ヨリ他ノ一方ノ政府ニ対スル請求権並一方ノ締約国民ヨリ他ノ一方ノ政府ニ対スル請求権ニ関スル一切ノ問題ハ日本帝国政府ト「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府トノ間ニ将来開カルヘキ会議ニ於テ解決ノ為之ヲ留保ス

（右英文）

It is agreed that all questions relating to claims of the Government of either Party to the Government of the other, or of the nationals of either Party to the Government of the other, are reserved for adjustment at subsequent negotiations between the Government of Japan and the Government of the U.S.S.R.

四六五　九月二十八日　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

利権規定ニ関スル日本側ノ新提案ニ対スルカラハンノ反応報告ノ件

第九一一号　至急極秘　（九月二十九日接受）

貴電第五九三号ニ関シ

九月二十七日ノ会議ニ於テ本使ハ利権ニ関スル主義的規定案及債権及請求権ニ関スル我方案文ヲ「カラハン」ニ提示スルト共ニ前者ニ就テハ本案カ帝国政府ニ於テ深ク露国側ノ立場ヲ考慮シ多大ノ苦心ト最善ノ努力トヲ費セル結果出来得ル限リ我方従来ノ主張ヲ緩和セルモノナルヲ以テ右我方妥協的態度ニ顧ミ本件ニ同意ノ上速ニ基本協定ノ成立ヲ期センコトヲ希望スル旨ヲ述ヘ猶後者ニ付テハ元来債権ハ日本政府及臣民而已カ現実ニ之ヲ有スル所ナルヲ以テ露国側主張ノ如ク之ヲ双務的トスル理由ナキコト我方従来ヨリノ建前ナルカ請求権ニ至リテハ篤ト露国側ノ主張ヲモ勘考ノ上本条文ヲ作製セル次第ナルカ故ニ本案ハ十分露国側ノ満足ニ値スヘキ筈ナリ就テハ尼港事件謝罪文ニ付テモ我方提案ニ同意ヲ表セラルヘキヲ期待スル次第ナル旨夫々敷衍説明ヲ加ヘタリ

右ニ対シ「カラハン」ハ今回ハ日本側ニ於テモ交渉ヲ進捗セシメントスル誠意ヲ有スルモノナルコトヲ窺フヲ得テ満足スル次第ナルカ利権ニ関シテハ依然詳細ナル規定ヲ設ケントスル主張ヲ曲ケサルモノノ如ク案文中露国側トシテ同意シ難キ諸点ニ付テハ何レ篤ト説明スル所アルヘシト答ヘタルニ付本使ハ然ラハ如何ナル点ニ付テ不同意ナリヤト質問シタル所「カ」ハ差向キ自分一個ノ見解トシテ左ノ諸点ヲ列挙セリ

㈠利権ノ貸与ヲ受クヘキモノトシテハ労農政府ハ何レノ外国ニ対シテモ政府ニハ之ヲ貸与セサル方針ナルカ故ニ日本ニ対シテモ日本ノ当業者若クハ人民ト云フカ如キ書キ方トシタシ

㈡期限ニ付テハ今日アマリニ限定的トスルハ将来利権契約審議ノ際不便ヲ感スヘキニ依リ三十年又ハ二十五年乃至五十年ト云フカ如ク其範囲ヲ広クシタシ

㈢油田ノ地域ヲ四千平方露里トセルハ東海岸ニ於テ日本ノ要求全部ノ地域ヲ面積ヲ以テ表示セルニ過キサルヘキ処斯クテハ依然独占的ニ油田ヲ獲得セントスルモノニシテ

以上例ヘハ三割又ハ四割ニ増額シ得ルコトトシタク尚石炭ニ付テモ従来ノ利権契約ノ例ニ徴スルニ総生産高ノ五「パーセント」乃至十二「パーセント」トナリ居レリ

㈥尚最後ノ二項ノ点ハ或ハ道理アル要求ナルヤモ測リ難キモ今ヨリ斯クノ如キ取極ヲ為サントスルハ却テ事態ヲ紛糾セシムヘキヲ虞ルルカ故ニ之等ノ点ハ寧ロ削除スルコトトシタシ

㈦冒頭ノ利権契約締結期間ノ記入ナキハ如何

㈧ former closed district トハ如何ナル意味ナリヤ

右ニ対シ本使ヨリ夫々反駁説明ヲ加フヘキ旨ヲ述ヘタルカ「カ」ハ約束ノ時間モ切迫シ居リ㈦及㈧ノ外ハ次回会議ニ譲ラレ度キ旨申出タルニ付本使ハ㈦ノ点ハ双方協議ノ上三ケ月乃至六ケ月ノ期間ニ取極ムルカ如キ趣旨ナルカ長クモ六ケ月内トスルヲ要スヘキ旨並ニ㈧ノ点ハ露国帝政時代ヨリ許可セサル西海岸ニ於ケル炭田ノ一小区域ヲ指スモノナルコトヲ説明シ尚今回ノ我方提案コソハ難キヲ忍ンテ多大ノ譲歩ヲ為セルモノニシテ字句ニ付テハ多少ノ修正ヲ為スコトアリトスルモ其趣旨ニ於テ帝国政府トシテハ之レ以上ノ譲歩ハ全ク不可能ナル次第ニ付十分含ミ置カレ度且ツ我到底同意スルヲ得サルカ故ニ北樺太全油田ノ一割五分乃至二割ト云フカ如ク取極メタシ「シンクレヤ」ニ与フル処モ実際ハ四千平方露里ノ十分ノ一ニモ足ラス

㈣伐木、築港、鉄道敷設等ノ事項ハ将来利権契約締結ノ際実際ノ必要ヲ慎重考慮ノ上取極ムヘキモノニシテ此際ハ単ニ一般的ニ利権経営ノ付随的必要ヲ満ス希望ヲ容認スル趣旨ノ取極トシタシ蓋シ労農露国ノ憲法ニ依レハ鉄道ノ敷設ノ如キハ国家ノミ之ヲナスヲ得ル旨ノ規定ヲ存スル次第ナルカ利権経営ニ必要ナル内部的鉄道敷設ノ如キハ極メテ道理アルコトトシテ将来之ヲ認許スルコト当然ナルモ今ヨリ斯ル規定ヲ掲クルハ却テ問題ヲ紛糾セシムヘキヲ恐ル

㈤報酬金ニ付露国側トシテハ従来トモ収益ノ幾割ト云フカ如キ取極ニハ応セサル方針ニシテ生産高ノ幾割トスルヲ要スル処日本側提案ノ如ク石油ニ付テハ生産高ノ五「パーセント」ト云フカ如キハ問題トナラス自分ノ私見トシテ莫斯科ニ上申スヘキハ総生産高ノ一割乃至二割ト云フカ如キ大体ノ取極トシ詳細ノ点ハ追テ規定スルコトトスルニアル処若シ噴出油坑アル場合ニハ前記「パーセント」

方トシテハ利権契約締結ニ至ル迄ノ過渡期ニ対シテハ油田ノミナラス炭田ノ採掘継続ヲモ堅ク主張シ居ルモノナルヲ以テ此点ニ就テモ至急莫斯科政府ノ回答ヲ得ル様致度キ旨念ヲ押シタルニ「カ」ハ今日ノ日本側提案ハ早速莫斯科ニ報告スヘク事業ノ継続問題ニ付テモ近日中莫斯科ノ回訓ニ接スヘキ処主義的既定案中数字ニ関スルモノノ如キハ日本側提案ト異レル数字ヲ申出スルコトハ已ムヲ得サル次第ナリト答ヘ散会セリ

四六六　九月三十日(着)　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

利権問題ニ付キ採油作業ノ保存・継続ニ関スルソヴィエト側ノ譲歩的態度報告ノ件

第九一八号　至急極秘

九月二十九日ノ会議ニ於テ「カラハン」ハ莫斯科ヨリ照会ノ次第アリタリトテ利権問題ニ関シ日本側ニ於テ現在作業ノ保存ノミナラス其継続ヲモ必要ナリト云フハ日本側カ生産物ノ処分トシテ輸出販売ハ之ヲ為ササルコトヲ認メタル上ノコトナリヤ否ヤヲ明カニシタキ旨ヲ申出テ且石炭ニ付テハ未タ決定的回答ナキモ石油ニ付テハ作業継続ヲ認ムヘキ莫斯科ノ意向ナルカ如シ但シ生産物ノ処分ニ関スル日本側ノ主張ニシテ輸出販売ヲモ意味スルモノナラハ絶対ニ反対スヘキカ故ニ日本政府何分ノ意見ヲ承知シタシトノコトナリシヲ以テ本使ハ差当リ石油ノミナラス石炭ニ付テモ作業ノ継続ヲ認ムルコト絶対必要ナリトスルニアリ但シ生産物ノ採取処分ニ至リテハ必要上ノ消費ノミヲ意味スルモノナリヤ将又輸出販売ヲ為シ得ルコトヲモ意味スルモノナリヤ充分明カナラサル処露国側ノ意向ハ輸出販売以外ノ処分ナラハ差支ナシト云フ意味ナリヤト反問セルニ「カ」ハ夫ナラハ勿論差支ナシト答ヘ日本カ輸出販売ヲ為ササルコトノ条件ヲ認ムルヤ否ヤハ極メテ重要ノ点ナルヲ以テ翌々日頃迄右ニ対スル日本政府ノ確答ニ接シ得ル様ナラハナマジ莫斯科政府ヨリ不愉快ナル回訓ニ接スルニ先立チ自分ヨリ莫斯科ニ対シ利権問題ニ関スル全般的訓令ノ発送ハ夫レ迄待ツ様申進メタシト述ヘタルカ惟フニ本問題ハ露国側トシテハ利権契約締結ニ至ル迄ノ過渡期即チ大体結氷期ニ対スル主義上ノ問題ナルト同時ニ我方トシテハ事実上右期間ニ於テ輸出販売ヲ為シ得サルニ顧ル時ハ右結氷期間ニ対シテハ露国側ノ主張ニ従フコトスルモ支障ナキ処ナルモ利権

契約ノ成立ニシテ結氷期以後ニ遷延スルニ於テハ輸出販売ノ如キ処分行為モ又之ヲ必要トスル旨ノ留保ヲ付スルコトシテ先方ノ希望ヲ容レ以テ石炭ノ採掘ニ於テモ之カ継続ヲ認メシムルコトトスルコト然ルヘキヤニ思考セラル就テハ右ノ趣旨ニテ応酬シ差支ナキヤ本件ハ前記ノ如ク「カラハン」ヨリ莫斯科ニ請訓ノ都合上至急帝国政府ノ意向承知シタキ趣ナルニ依リ特ニ請訓セル次第ニ付右御含ミノ上至急何分ノ儀御電示相成タシ

四六七　九月三十日　幣原外務大臣ヨリ
在英国林大使、在米国吉田臨時代理大使、在奉天船津総領事宛（電報）

北京会議ノ交渉経過ヲ関係在外公館ニ通報ノ件

合第二五六号　極秘

往電合第二三二号ニ関シ其後ニ於ケル日露交渉経過大要左ノ通

芳沢公使ハ八月四日ヨリ交渉ヲ再開シ我方ニテ作成セル基本条約案及付属議定書案等ヲ提示シ逐条審議ヲ行ヒタルカ露国側ハ右ノ内「ポーツマス」条約効力存続ノ承認ニ付テハ大体異議ナク又漁業協約問題ニ付テモ其ノ改訂ニハ異存ナキモ多少ノ修正ヲ留保シ又通商航海条約ノ大綱中最恵国約款ニ関スル我方提案ハ一般的ニシテ広キニ失スト為シ後日通商条約締結ノ際個々ノ場合ニ審議スルコトトスヘシト主張シ無条件且一般的ニ最恵国待遇ヲ許与スヘキコトニ同意セス右ニ対シ我方ヨリ反駁ヲ加ヘタル結果露国側ヨリ提案スルコトトナリ債権問題ニ付テモ我方提案ノ如ク一方的ニ対露債権ノミ規定スルコトニ反対シ債権及其他ノ請求権ヲ一括シテ相互的形式ニテ規定スルコト又債権問題解決上第三国ニ比シ不利益ナラサル保障ニ関シテモ伊太利瑞典等ノ例ニ倣ヒ all other conditions being equal ナル一句ヲ挿入スルコトヲ主張シ秘密条約問題ニ付テモ「ベッサラビヤ」条約ヲ批准セサルコトヲ求メ又将来ニ対シテモ相互ニ両国ノ主権ヲ侵害スルカ如キ条約ヲ第三国ト締結スルコトナカルヘキ旨ノ規定ヲ設ケムコトヲ希望シ其他尼港事件陳謝ニ付テハ此種ノ公文ヲ条約ニ付属セシムルコトニハ異議ナキモ公文ノ実質ニハ議論アリトノコトナリシカ結局債権問題及利権問題ノ解決ヲ見タル上成ルヘク日本ノ満足スル様取計フヘシト述ヘタリ而シテ我方ノ重要視スル利権問題

ニ付テハ「カラハン」ハ露国側ノ建前ハ基本条約ニ於テハ将来利権許与ニ関スル主義的規定ヲ設ケ利権契約其者ノ締結ハ之ヲ後日ニ譲ラントスルニアリトテ北樺太ニ於ケル利権ニ付テモ此際直チニ具体的ナル利権契約ヲ締結スルコトニ反対セリ茲ニ於テ我方ハ先方ノ主張ヲ詳細ニ反駁スル所アリタルカ露国側ハ其ノ建前ヲ固執シテ動カサルニヨリ我方ハ先方ニシテ利権契約成立ニ至ル迄我方ニ於テ北樺太ニ於テ現在着手セル石油石炭作業ノ保存及継続ヲ為スコトヲ承諾スルニ於テハ他日詳細ナル利権契約ヲ締結スルコトトシ差支ナキ旨ヲ説明セシメタル処「カラハン」ハ現業ノ保存ニ付テハ日本側ノ主張ヲ支持シテ莫斯科ニ稟申スヘキヲ約セルモ作業ノ継続及産出物ノ自由処分ニ関スル我方主張ニ同意セス依テ我方ハ更ニ芳沢公使ヲシテ事業ノ保存及継続共ニ我方ノ重要視スル所ナルヲ以テ本件ニ関スル我方主張ヲ至急莫斯科ニ取次キ同政府ノ意向ヲ徴スルコトニ取計ラフヘキ旨強硬ニ申入レシメタル処「カラハン」ハ北樺太利権ノ主義的規定ニ関スル日本案ノ提示ヲ受ケタル後両者ヲ一括シテ莫斯科ニ報告シテ政府ノ何分ノ指図ヲ仰クコトトスヘキ旨ヲ述ヘタルニヨリ帝国政府ハ九月二十六日利権ニ関スル主義的規定トシテ前顕付属議定書ノ要項ヲ記載シ先方ニ提議セシムルト共ニ未タ双方ニ意見ノ一致ヲ見サル債権及請求権問題ニ付テモ先方ノ意向ヲ参酌シタル妥協案ヲ作成シ之ヲ芳沢公使ニ電送シ交渉ヲ纏ムル為努力セシメツツアリ右貴官内密ノ参考迄ニ電報ス

（在英大使ヘハ）在欧各大使及公使ヘ転電アリタシ

（在奉天総領事ヘハ）哈爾賓、天津及上海ヘ転電アリタシ

四六八　十月二日(着)　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

北樺太油田ノ試掘調査地域ニ関スル カラハン トノ意見ノ応酬振リ報告ノ件

別電　十月二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第九三一号
油田区域ニ関スル芳沢公使ノ私案

第九三〇号　至急極秘

往電第九二三号ニ関シ

九月三十日ノ会議ニ於テ本使ヨリ地域ニ関スル何等案文ヲ作成セリヤト質シタルニ対シ「カラハン」ハ利権ニ関スル莫斯科政府ノ訓令ヲ精査スルニ地域ニ就テハ数字ヲ以テ取極ムルコトナク利権ノ一部ヲ提供スル趣旨ノ規定ト為スコトカ莫斯科政府ノ意思ナリ殊ニ北樺太ニ付テハ日本ノ占領以来事態ノ変化モアルヘク利権ニ関スル具体的取極ヲ為スコト困難ナル事情アル旨ヲ答ヘ依然昨日先方ヨリ提議セルカ如キ案ヲ以テスルノ外ナカルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ貴下昨日ノ提案ニモ数字記載シアリ尤モ二割ト云フカ如キ数字ニハ到底同意スルヲ得サル処現在試掘中ノ地域ノ如キハ極メテ狭小ナル地区ナルヲ以テ其以外ノ地域ニ於テモ将来試掘ヲ為シ得ルノ趣旨ニテ取極メタキ旨ヲ述ヘ一個ノ試案ヲ（茲ニ必要ナキニ付省略ス依テ議事録ニテ御承知アリタシ）提出シタルニ右試案ニ対シ「カ」ハ四千平方露里内ニ於テハ試掘調査ノミナラス経営ノ権利ヲモ得ントスルモノナルカ故ニ原案ト全ク同一ナリト述ヘ尚自分ノ有スル訓令ニハ前述ノ通油田ノ一部ヲ与フヘシトアル処四千平方露里ト云フトキハ油田ノ全部ヲ包含スルヤモ計リ難シトテ反対ヲ唱ヘタルニ依リ本使ハ右面積ハ油田ノ面積ニ非スシテ石油ノ出ツル見込アル地方ノ一部分ニ過キス従テ此外ニモ同様見込アル地方鮮カラサルヲ以テ之ヲ油田ノ全面積ト考フルカ如キハ大ナル誤解ナル旨ヲ説明セル処「カ」ハ曩ニ日本側ノ現業調書入手ノ際露国地質学者ノ北樺太ニ於ケル油田調書ト比較研究セルニ日本側調書中ノ石油坑ハ悉ク其中ニ記載シアルヲ知レリ此等ノ地域ハ従来幾多ノ人ニ依リ採油ニ著手セラレタル地方ニシテ日本ノ調書ニ依リテ初メテ発見シタルモノニアラス而モ右ハ北樺太ニ於ケル油田ノ全部ニシテ此外ニ油田ナシ従テ悉ク之ヲ提供スル能ハサル次第ニシテ其二割若ハ二割五歩ヲ与フルコトトスルヲ以テ露国側ノ結論トス故ニ自分ノ考案ニ拠レハ「日本側調書中ノ油田ノ二割ヲ提供シ其外一千若ハ二千平方露里ノ範囲内ニ於テ試掘調査ノ権利ヲ認ム」ト言フ趣旨ノ取極ト為スノ外ナシト陳述セリ右ニ対シ本使ハ貴下昨日ノ提案ニ拠レハ日本ノ現ニ試掘中ニ属スル地域ヲ包含スル北樺太産油地ノ二割ヲ提供スト言フニアリタル処今ヤ更ニ之ヲ局限シ現業調書記載ノ油田ノ二割ト為サムトス加之日本ノ現在作業中ノ地域ハ従来既ニ世人ニ知ラレタル地域ナリトノ主張ナルモ従来露国ニシテ当該地方ノ油田開発ヲ試ミタルモノアルコトハ我方トシテモ夙ニ承知シ居ル処ニシテ本件我方要

求ハ日本カ初メテ発見セルモノナリト主張シ以テ之ヲ根拠トスルモノニアラス然ルニ現ニ試掘中ニ属スルモノニ就テモ其二割ヲ提供スルニ止メムトスルカ如クムハ到底交渉ヲ継続スル余地ナク今日迄日露交渉成立ノ為蹇々ノ努力ヲ吝マサリシ予トシテモ此際寧ロ政府ニ対シ進テ交渉ヲ打切ルヘキヲ禀請スヘシト声明セルニ「カ」ハ昨日ノ自分ノ提案ハ必スシモ日本側調書ニ記載スル油田ノ二割ノミヲ提供スルコトトハナラス若シ其以外ニ油田アラハ共ニ合計セルモノノ二割ト言フ趣旨ナルヲ以テ或ハ右調書記載ノ分ノ五割トナルヤモ測リ難シ従テ右調書ニ記載セル八ケ所ノ区域ヲ其儘全部与フルニアラスムハ談判ヲ継続スルヲ得スト断定スルハ早計ナルヘク（五割ナラハ二割ヨリハ全部ニ近シト言フノ意味ナラム）其点ハ双方政府ニ請訓ノ上決スヘキモノト思考ス尚亦若シ日本カ試掘ノ為多大ノ投資ヲナセルコトヲ理由トシテ全部ノ要求ヲナスモノナラハ間違ナリ元来露国側トシテハ北樺太ニ於ケル何等日本ノ権利ヲ認メ居ルモノニアラスシテ勝手ニ事業ニ着手セリトテ之ヲ其ノ儘容認スル理由ナシ且本件ニ関スル日本側ノ主張ハ所謂主義的規定ニアラスシテ今ヨリ具体的取極ヲナサントスルモノナルヘシ何等ノ権利ヲ有セスト云ヒ日本ノ提案ハ主義的規定ニアラスト難スルカ如キ貴下今日ノ態度ニ付テハ其ノ豹変ノ甚シキニ驚カサルヲ得ス斯ノ如クハ到底交渉ヲ取纏ムルノ見込ナシト断スルコト極メテ当然ト云フ可シト先方ノ態度ヲ責メタルニ「カ」ハ自分トシテハ毫モ従来ノ態度ヲ変更セルモノニアラサルコトヲ種々弁明シ且主義的規定ニ関スル露国側ノ考ハ九月一日ノ会議ノ際ニモ大体述ヘ置ケル処ナルモ日本側ノ案文ハ詳細ニ過クルカ故ニ主義的規定ト見ルヲ得スト述ヘタル次第ニシテ本使ノ悲観ニ傾ケルハ何等誤解ヲ抱ケルカ為ナルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ如何ニ主義的規定ト言フモ我方提案位ノ規定ヲ設クルコト当然ナルノミナラス現ニ去ル二十七日本案提示ノ際ニハ貴下ニ於テモ全体トシテ極メテ満足ノ意ヲ表セリ元来主義的規定ナルモノハ貴方ノ発案ナルニ拘ラス貴方ニ於テ準備ナキ趣ナリシカ為苦心ノ結果我方ニ於テ作成セルモノナルカ二十七日ニハ本案ヲ基礎トスル審議ヲ承認シ今日ニ至リ遽ニ詳細ニ過クト言ヒ最早交渉ノ余日ナキ今日ニ及ヒ今更北樺太ニ於ケル日本ノ行動ハ勝手ノ所業ナリト言フカ如キハ徒ニ論議ヲ遷延スルノ外何等益ナキ処ニシテ本使ニ於テ悲観ニ傾ケルハ貴下ノ言分ヲ正シク諒解セルカ為ニ外ナラスシテ何等誤解ニ基クニアラスト反駁シタルニ「カ」ハ自分ノ陳述カ貴公使ノ感触ヲ害セルモノアリトセハ甚タ遺憾ニ堪ヘサル処ナリト陳弁シ本使ノ解釈カ先方ノ趣意ニ一致セサルコトヲ以テ通訳ノ不正確ニ帰セムトセルカ本使ハ議論ヲ重ヌル時ハ際限ナキヲ以テ試ニ別電第九三一号ヲ作成シ之ニ同意ナルニ於テハ日本政府ニ採用方ヲ禀申スヘキ旨ヲ告ケタリ（稲石少佐ノ調査ニ拠レハ北樺太ニ於ケル石油産出ノ見込アル地方ハ約二万平方露里ナルカ故別電ノ通リ作成セルモノナリ）右ニ対シ「カ」ハ此上ハ貴我双方ノ案ヲ具シテ莫斯科ニ報告スルコトトスヘシ唯茲ニ直ニ回答ヲ求メムトスル次第ニアラサルモ予テ申述フル通リ露国側トシテハ日本側現業調書ニ揚クル油田ノ全部ハ之ヲ与フルヲ得サル次第ナルヲ以テ日本側ニ於テハ右調書中ノ何レノ油田ヲ保留セムト欲スルモノナリヤ予メ研究シ置カレタシト述ヘタリ

依テ本使ハ右ハ㈠現業調書中ノ油田ハ全部ヲ与フルコトナク単ニ一部ノミヲ与ヘムトスル趣旨ナリヤ㈡貴我双方ノ案ヲ莫斯科政府ニ提示シテ其意見ヲ質スヘシトノコトナルカ果シテ然リヤト念ヲ押シタルニ「カ」ハ右二点共ニ其通リ

ル処露国側トシテハ過去五ケ年間ニ亘ル北樺太ノ実情ヲ承知セス漫然日本側ノ主張ニ従ヒ北樺太油田ノ全部ヲ与ウルノ結果トモナラハ国民ニ対シ如何ニ之ヲ説明スヘキヤ本問題ニ就テモ責任アル吾々当事者トシテハ何レモ此ノ困難ナル局面転開ノ為努力スル必要アリ就テハ日本側ニ於テモ之レ丈ケノ要求ハ是非其ノ儘容認スヘシト云フカ如キ一徹ノ主張ヲ固持セラレサランコトヲ希望スト弁疏セリ依テ本使ハ利権問題今日迄ノ経緯ハ今更述フル迄モナキ所ナルモ貴下ニ於テハ日本側当初ノ案ニ対シテハ飽迄同意スルヲ得スト主張シ主義的規定ニ関スル露国側ノ立前ニ応セハ自余ノ問題ニ付テハ日本側ノ希望ニ副フ様最善ノ努力ヲナスヘク右言明ニ対シテハ充分信頼セラレテ可ナリトノコトナリシノミナラス之ヨリ先北樺太ノ利権ハ有利ニ日本ニ許与スヘキ旨ノ言明アリ貴方ニ於テハ北樺太ニ於ケル我方利権要求ノ決心ノ存スル処ハ既ニ充分承知ノ筈ナリ而シテ我方今回ノ主義的規定案ニ対シテハ日本ノ誠意ノ存スル処ヲ諒解セリトテ多大ノ満足ノ意ヲ表セラレ更ニ昨日ノ会議ニ於テハ日本ノ現ニ試掘中ノ地域ハ当然貴下ノ提案中ニモ包含セル趣旨ナリシニ拘ラス今日ニ至リ今更日本ハ元来北樺太ニ対

ナリト答ヘタルニ付本使ハ然ラハ莫斯科ニ対シテハ現在試掘中ノ油田ノ一部ノミヲ与フルト云フカ如キコトナラハ本使ニ於テ絶対ニ同意スルヲ得スト堅ク明言シ居ル旨ヲ付言シテ報告セラレタシ蓋シ現在ノ試掘事業ノ為ニハ既ニ多大ノ経費ヲ投シタルノミナラス其地域ヲ合計スルモ五六十平方露里ニ過キサル面積ナルヲ以テ北樺太ニ於ケル石油産出ノ見込アル地域ヲ概ソ二百平方露里トセハ露国側ノ主張ハ其内僅ニ五六十平方露里ノ地域ニテ其全部ハ与フルヲ得スト云フニ帰スルカ故ナリ此点ハ政府ノ意向ハ兎ニ角本使トシテハ仮令交渉ノ破裂ヲ見ルコトアルモ断シテ譲ルヲ得スト告ケタルニ「カ」ハ貴公使ノ態度ハ強硬ニシテ手ノ付ケ様ナカリシ旨ヲ報告スヘシ尚貴公使ニ於テハ現在ノ試掘中ノ五十平方露里ノ地域サヘ与フル時ハ満足スト報告シ然ルヘキヤト反問シ本使ヨリ不同意ノ旨ヲ答ヘタルニ「カ」ハ更ニ右五十平方露里ノ地域ニ付テハ経営方ヲ許与シ其外一定ノ広キ地域ヲ試掘地域トシテ許可スルコトモ一案ト思考スル旨ヲ述ヘタルカ本使ハ我方要求ノ面積以外ニモ石油ノ生産地ヲ存スル処我方要求ノ趣旨ハ将来露国人若ハ外国人等カ日本ノ経営スル地域ニ割込ミ来リ種々ノ条件等ノ錯雑

紛糾ヲ来スコトヲ惧ルルカ為作業中ノ各地域ヲ連続包含スル面積ヲ必要トスルニアリ依テ現在作業中ノ地域全部ノ外其近接地方ニ於テ二千五百若クハ三千平方露里ノ試掘地域ヲ許与スルノ趣旨ナラハ兎モ角政府ニ稟申スルモ可ナリト述ヘタルニ「カ」ハ自分トシテハ利権問題全体ノ形勢ヲ具シテ莫斯科ノ決定ニ委スヘシト答ヘ本使ヨリ重ネテ我方トシテハ現在試掘中ノ地域ハ是非必要トシ之ニ連続セル相当面積ハ将来試掘地域トシテ必要トスル主義ハ絶対ニ枉クルヲ得サル旨ヲ言明シ暫ラク本問題ノ討議ヲ打切リ次回ヨリ他ノ問題ニ移ルコトトシ散会セリ

（別　電）

十月二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第九三一号

油田区域ニ関スル芳沢公使ノ私案

第九三一号別電

An area of land on the east coast of Northern Saghalien including districts where test driping are being conducted by the Japanese and constituting 20% of all the prospective oil fields which are estimated approximately at 20,000 square versts.

四六九　十月三日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

北樺太ノ石油・石炭利権問題ノ主義的規定案ニ関スル討議ノ件

別　電　十月二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第九四一号

付帯施設ニ関スルカラハンノ私案

第九四〇号　至急極秘

十月一日ノ会議ニ於ケル利権ニ関スル主義的規定案討議ノ経過左ノ通リ

第一　地域問題ニ関シ本使ハ「カラハン」ニ対シ往電第九三一号本使提案ノ趣旨ハ北樺太ニ於テ石油産出ノ見込アル地域ハ大体二万平方露里ナルヲ以テ其二割ヲ将来ノ試掘区域トシ且試掘ノ結果利権トシテ経営スルコトアルヘキ土地トシテ日本ニ許与スヘシトノ意味ニシテ趣意ニ於テ貴下二十九日ノ提案ノ趣旨ト一致スルモノナルカ更ニ再応為念申述フル旨ヲ告ケタルニ「カ」ハ地域問題ニ関スル先日来ノ討議ハ日本側要求ノ核心如何ヲ詳細ニ莫斯科ニ知ラシメムコトヲ主眼トセル処莫斯科政府トシテハ北樺太ニ於ケル利権ノ状況ヲ詳ニセサル為現在ノ利権ノ一部ヲ与ヘタシトノ意向ニシテ貴公使ノ案ハ形式上ハ成程自分ノ案ト類似スルモ日本ノ現在行ヒツツアル油田事業ハ結局北樺太ノ全油田ニ亘ルモノナルコト略確実ナリ従テ莫斯科政府トシテモ斯ル全部ノ油田ヲ自分ノ提案中ノ所謂二割ノ中ニ含メテ日本ニ与フルカ如キコトナカルヘシト答ヘタルカ本使ハ我方主張ノ趣旨ハ殆ト悉ク説明シ尽シタル次第ニシテ貴下ヨリ既ニ莫斯科ニ報告セラレタルコトニモアリ兎ニ角莫斯科政府ノ回答ヲ待ツコトトスヘシト述ヘ置ケリ

尚炭田ノ地域ニ関シ「カ」ハ自分トシテハ今日ノ処詳細ノ事情ニ通セス旁兎角ノ意見ヲ述ヘ得サルニ付日本側提案ノ通リ莫斯科ニ報告セルヲ以テ封鎖区域ノ点モ政府ノ決定ニ委スコトトセリト述ヘタリ

第二　報効金問題ニ関シ「カ」ハ日本側提案ハ純益若ハ生産高ノ幾割ト言フニ在ル処未タ莫斯科政府ノ訓令ナキ今日其何レヲ以テ報効金ノ基礎ト為スヘキヤ不明ナルモ従来露国ニ於テハ常ニ生産高ヲ以テ取極メ居リ且日本側ニ於テハ何レヲ基礎トスルモ差支ヘ無キ模様ニ付生産高ニ依リ報効金ノ歩合ヲ取極ムルモノトシテ意見ヲ述フヘキ処

此際ハ将来ノ主義ヲ定ムルモノナルカ故ニ現場ノ事情ヲ知ラサル露国側トシテハ俄ニ日本側ノ主張ニ同意スルヲ得ス依テ生産高ノ数量ニ依リ差別ヲ設クル事ナク単ニ歩合ノ範囲ヲ如何程ト為スヘキヤヲ取極ムルニ止メタシ蓋将来ハ地理上気候上其他場所ノ善悪交通不便等ノ関係ヲ考慮シ詳細審議ノ上取極メラルル事トナルヘキ処石油ニ対スル報効金ノ歩合ハ露国従来ノ例ニ徴シ一割乃至二割トスルヲ至当トスヘシト述ヘタリ右ニ対シ本使ハ露国ニ於ケル従来ノ経験ヨリセハ或ハ生産高ノ一割乃至二割ト云フハ至当ナルヤモ計リ難キモ茲ニ注意スヘキハ北樺太ハ高加索ノ如キ地方トハ気候交通其他ノ点ニ付非常ノ相違アルコトニシテ殊ニ冬期ニ於テハ他地方ニ比シ事業経営上相当ノ費用ヲ要スルニ拘ハラス生産高ハ減少スル事情ナリ従テ同地ノ事業ニ対シ他地方ノ例ヲ適用スルハ公平ヲ欠クヘシ就テハ歩合ノ点ハ五分乃至一割五分トシ若ハ生産高最低五十万噸以内ト最高百万噸以上トノ中間ニ適宜按排適用スルモノトシテ其間ノ階級ヲ記ササル事トナラハ政府ニ稟請スルモ可ナリト述ヘタルニ「カ」ハ将来ハ兎ニ角今ヨリ生産高ノ数量ト関連セシメテ報効金ノ

歩合ヲ定ムル事ハ労農政府トシテ到底承認セサルヘシト答ヘタルカ本使ハ生産高ト報効金トハ密接ナル関係ヲ有シ露国側主張ノ如ク単ニ報効金ノ最低及最高歩合ノミヲ規定シ生産高ノ如何ニ拘ハラス或ル歩合ヲ適用スルコトトナラハ当業者ニ取リ意外ノ誤算ヲ生セシムル事トナルヘキヲ以テ生産高ニ付テモ其ノ最高ト最低額トヲ規定シ置ク事是非必要ナリ之即チ主義的規定アル所以ナルヘシト説明セルニ「カ」ハ露国側トシテハ貴公使ノ案ニ応スル事困難ナルヘシト思考スルモ兎ニ角其儘莫斯科ニ報告スヘキ処自分トシテハ本問題又地域問題同様ノ難関ト思考セサルヲ得スト述ヘタルカ本使ハ石油ニ関スル報効金ニ付歩合ノ差等ヲ設ケントスル貴下ノ標準ハ生産高ノ如何ニ依ルニアラスシテ場所ノ善悪交通ノ便否等ノ理由ニ基ク次第ナリヤト質シタルニ「カ」ハ勿論然リト答ヘ例ヘハ油田カ便利ナル場所ニ在リテ盛ンニ搬出セラルルトキハ市場ノ価格ヲ下落セシムヘク露国ニ於テハ生産高ニ依リ報効金ノ歩合ニ差等ヲ設クル取極方ノ例ナキカ如シト答ヘタルヲ以テ本使ハ生産高カ報効金ノ歩合ヲ定ムル主要ナル考慮ノ材料ナルコトハ現ニ貴下カ噴出油坑ノ場

合ニハ歩合ヲ増加スル必要アリト述ヘタルニ顧ミルモ理由アルコトト思考スル旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ噴出坑ノ場合ト雖モ生産高多額ニ上ルカ為メニアラスシテ採取ノ費用ヲ要セサルカ為メニ外ナラス日本側提案ノ如ク生産高ノ数量ヲ掲クルハ莫斯科ニ於テモ必ス論議ノ種トナルヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ貴下説明ノ如ク将来ト雖モ気候ノ如何殊ニ場所若ハ運搬ノ状況如何ニ依ル報効金ノ額ヲ取極ムルカ如キハ極メテ複雑ニシテ利権契約締結ノ際非常ナル困難アルヘシト思考セスヤト反問セルニ「カ」ハ利権契約締結ノ際ニハ詳細ニ諸般ノ事情ヲ調査シテ取極ヲ為スヘク厳格ニ云ヘハ貴公使ノ憂ウルカ如キ困難モアルヘキ処従来多数ノ契約ハ案外困難ナク成立シ居レリト答ヘ次テ石炭ノ報効金ニ関シ「カ」ハ生産高ノ五分ト云フハ少キニ過クルヲ以テ五分乃至一割五分トシ度シト述ヘタルカ本使ハ石炭ニ付テハ五分乃至一割五分ト云フカ如キハ我方ノ到底同意シ得サル処ナルノミナラス石炭ニ付テハ石油ノ場合ト異ナリ歩合差等ヲ設クル必要ナク一律ニ五歩トシ然ルヘシト思考スルニ付之又莫斯科ニ稟申セラレ度シト述ヘタルニ「カラハン」ハ何レ莫斯科ノ

決定ヲ待ツコトトスヘシト答ヘタリ

第三我方主義的規定第二項末段 it being understood 以下ノ点ニ関シ「カ」ヨリ別電第九四一号ノ如キ対案ヲ提出セルカ本使ハ既ニ地域及報効金ニ関シテ多大ノ論議ヲ重ネタル次第ニモアリ本件ノ如キハ多少先方ニモ花ヲ持タセ置ク方得策ト認メ本使ノ関スル限リ其趣旨ニハ強テ異存ナキモ字句ノ点ハ篤ト考慮ノ上何分ノ修正ヲ申出ツルヤモ測リ難シ尚伐木ノ点ハ日本政府トシテ殊ニ重キヲ置キ居ルヤモ測ラレス従テ此点ハ削除シ得スト述ヘタルニ「カ」ハ伐木ヲ許スコトハ何レノ利権契約ニモ記載シアルヲ以テ之ヲ今ヨリ主義的規定中ニ掲クルニ及ハサルヘシト思考セル次第ナル旨ヲ答ヘタリ

第四主義的規定最後ノ二項ニ関シ「カ」ハ右ハ課税問題其他複雑ナル事項ニ亘ルモノナルカ故ニ自分トシテハ寧ロ之ヲ削除セムコトヲ主張スルモノナル処日本側主義的規定案ハ既ニ全部莫斯科ニ電報済ナルヲ以テ何レ回訓接到ノ上討議シタシト述ヘタルニ依リ本使ハ右二項目ハ我方ニ於テ極メテ重キヲ置キ居ル処ニシテ利権経営ニ必要ナル物件並産出セル石油石炭ニ対スル課税ノ如キハ報効金

ヲ以テ全部之ヲ済マサントスル趣旨ニ基キ報効金ノ歩合ヲ定メタルモノナルカ故ニ我方トシテハ此等一切ノ課税ハ免除セラルヘキコトヲ前提トスルモノナリト説明セルニ「カ」ハ御説明ノ趣旨ハ莫斯科ニ報告ノ上其考慮ニ資スルコトトスヘシト答ヘタルカ本使ハ更ニ北樺太地方ニ対スル輸入貨物ノ無税通関ニ関スル貴電第五九三号御来示ノ次第ヲ説明シタルニ「カ」ハ北樺太ニ対シ「ポルト・フランコ」ノ規定適用アリトセハ一層好都合ナル次第ニシテ益々此種規定ノ必要ナキニ至ルヘシト述ヘ更ニ本使ヨリ輸出入関係ノミナラス其他ノ課税ニ就テモ日本側トシテ少カラス心配シ居ル次第モアリ字句ノ点ハ多少修正スル要アリトスルモ此種規定ノ趣旨ハ是非共必要ニ付此上トモ貴下何分ノ配慮ヲ煩ハシタシト述ヘタルニ「カ」ハ何レ政府ノ訓令ヲ得タル上商議スルコトトシタシト答ヘタリ

終ニ「カラハン」ハ利権以外ノ問題ニ就キ往電第九四二号所報ノ如キ修正案ヲ交付セルカ時間ノ都合上其儘散会セリ

（別　電）

十月二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第九四一号付帯施設ニ関スルカラハンノ私案

第九四一号別電（至急極秘）

It being understood that Japanese concern shall be allowed to erect various constructions with a view to facilitate communication and transport of materials and of the oil and coal produced. Details to be established in future concession contract.

四七〇　十月三日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

利権問題、宣伝禁止問題、ポーツマス条約問題等ニ関シ討議要領報告ノ件

第九四八号　至急極秘　（十月四日接受）

往電第九四〇号ニ関シ十月二日ニ於ケル議事要領左ノ通

第一　大使館問題

協約案付属議定書(A)ノ第二条ニ関スル先方修正ノ点ニ付「カラハン」ニ対シ本使ノ関スル限リ別ニ異議ナキモ右ハ日本ニ電報済ナルヲ以テ何等回訓ニ接セハ知ラスヘキ旨ヲ告ケ置ケリ

第二　「ポーツマス」条約問題

協約案第二条ニ対スル先方ノ修正ニ関シ本使ハ右修正ノ主タル目的ハ畢竟スルニ「ポ」条約ノ朝鮮ニ関スル規定ニ付断リヲ付シ置カントスルニ在ルヘキ処労農政府ハ日本トノ間ニ締結スヘキ本協定中ニ今更帝政露国ノ結ヘル条約ノ内容ニ付労農政府ハ其ノ責任ニ任セスト云フカ如キハ該条約ノ効力ヲ認ムル趣旨ト一致セス蓋シ一面ニ於テ其ノ効力ヲ認メ同時ニ其ノ内容ニ付テハ道徳上並ニ政治上ノ責任ヲ負ハスト云フハ撞著ナリ殊ニ条約ハ法律上ノモノナルカ故ニ之ニ対シ道徳上ノ責任ノ有無ヲ云為スル必要ナシト思考スト述ヘタルニ「カ」ハ右修正ハ朝鮮ニ関スル「ポ」条約ノ規定ヲモ意味スルモノナルカ元来当初ノ考ハ一層詳細ニ是等ノ点ヲ規定セントスルニアリタルモ種々考慮ノ結果本修正案ノ如ク極メテ一般的書キ現ハシ方トセル次第ニ付其ノ書振ハ多少変更スルトスルモ全然之ヲ削除スルヲ得ス思フニ「ポ」条約ノ如キハ帝政露国政府モ我々ノ意志ニ反シ敗戦セル結果締結セルモノナルヲ以テ之ニ対シ道徳上ノ責任ヲ問フヲ得ス但シ日本ノ為ニハ歴史的意義アル条約ナルモ労農政府トシテモ該条約ノ効力ヲ認ムルニ依リ法律上ノ責任ヲ負フニ於テハ夫ニテ日本トシテハ充分ナルヘシト説明セルカ本使ハ右修正案中道徳上並政治上ノ責任ヲ負ハスト云フハ朝鮮ニ対シテモ帝政露国ノ行ヘルカ如キコトヲナスヘキニアラストノ労農政府ノ底意ヲ現スモノトセハ益々同意シ難キ処ナリ殊ニ条約中道徳上ノ責任ヲ負ハスト云フカ如キ規定ヲ設ケタルモノノ例ヲ聞カスト述ヘタルニ「カ」ハ朝鮮問題ハ過去ノ問題ニシテ今更之ニ触ルルモ詮ナキコトニシテ「ポーツマス」条約ノ如キモ既ニ二十年前ノ歴史的事実ニ過キス唯労農政府トシテハ御承知ノ通リ旧露国帝政ニ対シ極メテ深キ怨恨ヲ抱キ居ルモノナルカ故ニ其ノ行ヘルモノニ対シテハ常ニ反感ヲ有スル特殊ノ事情アリ従テ本件修正ノ趣旨モ労農露国国策ノ反影ニ過キサルニ付テハ日本側ニ於テモ虚心坦懐ニ承引アリタシト述フルト処アリ依テ本使ハ我方トシテハ仮令如何ナル文句トナスモ所詮露国側ノ目的トスル意味ニハ同意スルニアラサル次第ナルヲ以テ本件ノ如キハ之ヲ協約中ニ規定セス本協約成立後露国側ニ於テ任意ニ其ノ欲スル所ヲ発表セハ可

ナルヘシト主張セルニ「カ」ハ其ノ点ニ付テハ自分モ付属声明ヲ為スカ如キ方法モ考ヘサルニ非サリシ処斯テハ斯ル声明ヲ為ス理由ノ説明ヲモ必要トスヘク従テ其ノ内容モ詳細ニ亘ラサルヘカラサルニ顧ミ寧ロ目立タヌ様簡単ニ条文中ニ付加スルヲ却テ穏当ト思考スル旨ヲ述ヘ更ニ本使ヨリ斯ノ如キ追加的規定ヲ設クル時ハ枢密院ヲ通過スルコト至難ナリ又協約成立ノ後声明ヲ発表スルモノトスルモ既ニ国交回復シ親善関係ヲ結フニ際シ日本ノ感情ヲ害スルカ如キ声明ヲ発表スルハ素ヨリ面白カラスト説示セルカ「カ」ハ単独ノ声明ヲ発表スルコトセヘ前述ノ如ク種々其ノ理由及説明等ヲ書キ立ツルコトトナリ却テ日本ノ感情ヲ害スルヲ免レサルヘク従テ物議ヲ醸ササランカ為ニハ矢張リ簡単ニ協約文中ニ追加規定ヲ設クル外ナカルヘシ但シ文句ノ点ニ付テハ更ニ互ニ攻究スルコトトスヘシト述ヘタルカ本件ニ付テハ先方ニ於テ主義上ノ問題トシテ飽迄固執セルニ付後廻シトナシ置キタルカ御意見ノ次第御回示ヲ得ハ幸甚ナリ

第三　宣伝禁止問題

協約案第五条ノ㈠先方修正案ニ付「カ」ハ右ハ現今尚反

労農政府運動ヲ為ス者アリ例ヘハ日本ニ亡命中ノ「セメヨノフ」等ノ陰謀ヲ阻止セントスルヲ目的トセルモノナルカ日露国交恢復後ニ於テハ日本モ斯カルモノヲ援助スルカ如キ事ナカル可キモ何分労農政府ニ対シ反感ヲ有スルモノ無キニ非ラサル次第ニ付一応此趣旨ノ規定ヲ必要トスルモノナル事ヲ説明セルカ本使ハ露国側修正案ノ如ク我方原案ノ文句ヲ削除スル理由ナキヲ以テ原案ノ文句ヲ其儘トシ更ニ先方ノ修正文ヲ付加スレハ可ナルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ自分ノ修正案ノ方明瞭ナルカ如シト答ヘ本使ハ本件ハ何レ追テ討議スル事トス可シト述ヘ次テ

第四　利権問題

利権問題中利権契約締結ニ至ル迄ノ過渡期ニ於ケル生産物ノ輸出販売ノ点ニ関スル日本政府ノ意向如何ニ付「カラハン」ヨリ質問スル所アリタルヲ以テ本使ハ事業ノ継続ノ点ニ関スル莫斯科政府ノ回答如何ヲ反問セルニ「カ」ハ事業保存行為ハ之ヲ承認ス又油田ノ「ボーリング」継続ハ好意ヲ以テ審議スヘキ旨莫斯科ヨリ回答アリタルモ炭田事業継続ニ付テハ生産物ノ輸出販売ニ関スル日本側

ノ態度判明ノ上ハ利権問題全体ノ形勢ヲ具シテ稟申スヘキ旨莫斯科ニ申送リアルヲ以テ輸出販売ノ点ニ関スル日本ノ意向報告ノ上ハ炭田ノ事業継続ノ点ニ付テハ何分ノ回訓ニ接スヘキ旨ヲ答ヘタルニ依リ本使ハ貴電第六〇五号前段御来示ノ次第ノミヲ告ケタルニ「カ」ハ多少憤懣ノ色ヲ表ハシ自分トシテハ本件ニ関シテモ既ニ充分露国側ノ主張ヲ説明シアル次第ニ付日本政府ノ回答ニ対シテハ此ノ際反駁ヲ加フルコトヲ敢テセサルヘシ就テハ其ノ儘莫斯科ニ報告致スヘシト述ヘタルカ本使ハ政府ノ訓令ハ右ノ通ナルヲ以テ右露国政府ニ報告ノ上炭田事業ノ継続油田ノ地域報効金ニ関スル三点ニ対スル同政府ノ回答ヲ得タシ其ノ回訓接到ノ上ハ速ニ申出アリ度ク右三点ニ対スル露国側ノ態度如何ニ依リテハ生産物ノ輸出販売ノ点ハ更ニ何分ノ考慮ヲ加フルコトナキニアラサルヘシト告ケタルニ「カ」ハ日本側ノミ頑強ニ其ノ主張ヲ固執スト呟キ要スルニ利権問題カ交渉ノ最難関ナリト嘆スル処アリ尚終リニ「カ」ハ漁業協約ニ関スル修正案ハ明日ニモ提出スヘク最恵国条件ニ関シテハ既ニ案文提出シアルニ付右ニ対スル日本側ノ回答ヲ待チ居レリ次ニ「ベッサラビヤ」条約問題将来秘密条約ヲ締結セサルヘキ件モ確定シ居ラサルモ尼港事件陳謝文ハ何トカナルヘシ唯露国側ノ希望モ容レラルル様致シ度シ尚此ノ際双方意見ノ一致セル問題ニ付条文ヲ整理シ逐次之ヲ莫斯科ニ送付シタシト云ヒ散会シタルカ別レニ際シ「カ」ハ斯クテ残ルハ撤兵問題ナリト軽ク揶揄スルトコロアリ

四七一　十月四日(着)　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛(電報)

北樺太ヨリノ撤兵問題ニ関シ討議ノ件

第九五一号　至急極秘

日露交渉ノ進況ハ累次ノ電報ニテ御承知ノ通リナル処北樺太ヨリ撤兵完了ノ為ニハ予テ一ケ月半ヲ要スル趣ニテ此点ニ付テハ協約案ニ記入シテ提議セル次第ニアラサルモ本使ヨリ累次「カラハン」ノ注意ヲ促シ置キタルハ既報ノ通リ然ルニ十月三日ノ会議ノ終ニ臨ミ「カラハン」ハ他ノ諸問題ノ経過ヲ通覧シタル上撤兵ニシテ今年中ニ完了不可能ナルコト事実ナリトセハ即刻莫斯科ニ電報ノ必要アルヲ以テ速ニ日本政府ノ確答ヲ得タク場合ニ依リテハ協約ノ運命ニモ影響スルコトナキヲ保セスト述ヘ本使ヨリ早速政府ニ

回答(問合?)スヘキ処日本軍ニシテ撤退スルモノトセハ露国側ニ於テハ何レノ方面ヨリ之ニ代ルヘキ軍隊ヲ送リ又如何ニシテ治安維持ノ警察其他ノ行政ヲ施行セントスルヤ右ニ関シテハ曾テ述ヘタルカ如ク「パルチザン」来襲ノ如キ苦キ経験ヲ有スル我方トシテハ深甚ナル注意ヲ払ヒ居ル次第ナル旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ夫等ノ点ニ関シテハ未タ具体的考案ナキモ軍隊ハ多分浦潮ヨリ送ルコトトナルヘク又北樺太ノ守備ニハ「コンミサール」ヲ任命派遣シテ秩序ノ維持ニ任セシムヘク要スルニ日本側ヨリ露国官憲ニ対シ現場ニ於テ官有財産ノ目録ヲ交付スルヲ以テ事足ルヘシト答ヘタルカ本使ハ日本側ノ従来施行シ来レル軍政ハ撤兵ト共ニ露国官憲ニ引継カサルヘカラサルヲ以テ右ニ付テハ予メ数ケ条ノ原則ヲ定メ置キ例ヘハ東海岸ヨリノ撤兵ハ何日間ニ完了スヘク西海岸ニ付テハ何時迄トシ又引継ノ為ニハ両国ノ委員ノ任命並ニ引継ノ細目ヲ取極ムルコト及日本軍ノ押収セル物件其ノ他公共営造物ノ引渡等ノ取極ヲ為シ置クコト必要ナルヘキ処曾テ貴下ニ於テハ島田領事ニ対シ全部ノ撤兵不可能ナラハ戦闘部隊ノミニテモ引揚クレハ可ナルヘシト述ヘラレタル趣ナルカ今日トナリテハ東海岸ノ如キハ全ク船

ヲ寄スル能ハサル実情トナレリ唯為念貴下ノ所謂戦闘部隊ノ撤退トハ如何ナル意味ナリヤ承知シタキ旨ヲ述ヘタルニ「カ」ハ自分ハ従来北樺太ノ日本軍占領ノ状態ヲ詳カニセサリシ処軍隊ハ同時ニ行政機関ナルモノノ如ク軍隊ノミ引揚クルモ意味ヲ為ササルコトトナルヘキモ気候ノ関係上果シテ撤兵不可能トナリ従テ協約モ不成立トナルカ如クンハ尚気候ノ許ス際予メ撤兵ニ着手スルモ然ルヘシト考ヘシ次第ナリシト答ヘ尚本使ヨリ占領軍ハ治安維持ノ任ニ当リ居ルモノナルカ故ニ今ヨリ引揚ヲ開始シ協約成立前数日迄ニ過半ノ引揚ヲ了スルモノトセハ其ノ数日間ニ於テ万一不慮ノ事変ノ為生命財産ノ損害アル場合ニハ日本政府ハ其ノ責任ヲ負ハサルヘカラス従テ責任観念ヨリ云ヘハ治安維持ニ必要ナル数ノ軍隊ハ是非留メ置クヲ要シ畢竟撤兵ハ事実不可能ト云フニ帰スヘキ旨ヲ説明シタルニ「カ」ハ日本軍ノ数、所在地其ノ他北樺太ノ在留邦人数等ノ点ニ関スル質問ヲ為シ夫々本使ヨリ説明ヲ与ヘタルカ前記ノ如ク要スルニ「カラハン」ハ撤兵期日ニ関スル我方今日ノ意向カ果シテ一ケ月半ノ時日ヲ絶対ニ必要トスルモノナリヤ否ヤニ依リ協約調印ニ対スル露国側ノ態度ヲ決スル必要アリト謂ヒ居ル次第ニ付此ノ点ニ関シ何分ノ儀至急御回示相成様致シタシ

四七二　十月七日(着)　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛(電報)

利権問題ニ関スルソヴィエト政府ノ回訓ニ付キ討論ノ模様報告ノ件

第九六二号　至急極秘

十月六日「カラハン」ハ利権問題ニ関スル莫斯科政府ノ回訓ニ接シタル趣ヲ以テ会議開催方申出タルニ付之ニ応シタル処主トシテ主義規定中ノ地域ニ関スル点ニ付我方主張ト多大ノ距離アリ討論五時間ノ後莫斯科政府ノ回訓ナルモノハ帝国政府ニ取次ク迄モナク本使ニ於テ絶対ニ承諾シ難キ旨宣明シ置キタルカ会議ノ経過多分明日委細電報スヘキモ不取敢

四七三　十月七日(着)　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛(電報)

北樺太ノ石油・石炭利権ニ関スルソヴィエト政府ノ回訓内容報告ノ件

第九六三号　至急極秘

労農政府ハ九月二十七日ノ会議ニ於テ「カラハン」氏ニ通知セラレタル提議並芳沢氏カ其後ノ会議ニ於テ為シタル説明ヲ慎重且真面目ニ審議シタリ

労農政府ハ石油及石炭ニ対スル日本ノ必要ヲ考慮シテ欣ンテ日本ニ迎合セントスルモノナリ

石炭ニ関シ連邦政府ハ将来利権契約ニ於テ西海岸ニ於ケル石炭産地ヲ提供スヘシ其ノ範囲ハ将来ノ利権契約ニ於テ定メラルヘキモノトス然レトモ労農政府ハ採掘禁止区域ヲ解放スヘシトスル日本ノ提議ニ応諾スルコトヲ得ス労農政府ハ之ヲ国際討議ノ議題トナスコトヲモ得サルナリ蓋シ本件ハ純然タル国内問題ナレハナリ

利権ニ関スル報効金ニ関シテハ或ル石炭区域ハ石炭総産出高ノ五分ヲ取ルコトトシテ付与サルルコトヲ得ヘク之ト同時ニ其他ノ場合ニ於テハ控除スヘキ歩合ハ増額セラレサルヘカラサルコトトスヘク斯テ控除歩合ハ各関係区域ヲ一層有利ナラシムル天然其他ノ条件ヲ考慮シテ之ヲ定メラルヘキモノトス従テ控除歩合ハ将来ノ利権契約ニ於テ定メラルルヲ要スト定ムルヲ正当トスヘク現在ニ於テハ右歩合ハ五

分以下タラサルヘク又一割以上タラサルコトト定ムルヲ以テ足レリトスヘシ

石油ニ関シテハ労農政府ハ現今両当事国ハ将来締結セラルヘキ利権契約ニ対スル主義ノミヲ定ムルコトニ同意セリト思考ス今ニ於テ規定シ置クヲ要スル主要問題ハ利権ノ範囲其ノ支払金及期限ニ関スル問題ナリトス労農政府ハ日本占領以前ニ於テ久シク判明シ居リ且殆ト全部決定シ居レル産油地ヲ包含セル四千平方露里ヲ付与スヘシトスル日本ノ提案ニ同意スルヲ得ス

労農政府ハ既ニ判明シ居レル産油地ノ大部分ヲ日本ニ与フルコトヲ得ヘク同時ニ若シ将来日本ノ手ニテ新ニ産油地ヲ発見シタリトセハ其ノ大部分カ同様日本ニ付与サルヘキコトニ応諾スルヲ得ヘシ

既ニ判明セル油坑ニ関シテハ「ソビエット」連邦ハ四割ヲ日本ニ与フルコトヲ得ヘク尚付与セラルヘキ油坑ノ具体的決定ハ将来ノ交渉ノ目的タルヘキモノトス既ニ判明セル産油地ノ内ニハ八月二十九日付日本側調査資料ニ示サレタル区域ヲモ包含スルモノトス

『斯クテ現今日本人ノ作業ヲ行ヒツツアル区域ハ「ソビエット」政府ノ提供ニ係ル比例ヲ以テ将来ノ利権契約ノ目的物ノ数ノ内ニ包含セラルヘキモノトス』（本『』内ハ後ヨリ「カ」ニ於テ削除セルモノ）然レトモ日本ノ利益ヲ単ニ現存油坑ニ限ルハ好マシカラサルニ依リ連邦政府ハ調査ノ為一千平方露里ノ地域ヲ日本ニ提供スルコトヲ得ヘク且是等調査ノ結果決定セラレタル産油地ノ四割カ同様日本人ニ提供セラルルコトニ応諾スヘシ前掲地域ハ五ケ年間付与セラルヘク且右期間内ニ調査ヲ完了スルヲ要スルモノトス

利権ニ対スル支払ニ関シテハ連邦政府ハ日本ノ為シタル提案ノ主義中ノ第二即チ支払ハ石油総生産高ノ一定歩合ヲ控除スルコトト為スニ同意スルモノナリ然レトモ連邦政府ハ今ニ於テ前記控除歩合ヲ石油ノ産出額ニ関連セシメテ定ムル事ハ不可能ナリトシ而シテ右歩合ハ利権トシテ付与サルヘキ産地ノ地質上気候上其他ノ徴候ニ基キ定メラルルヲ要スト為スモノニシテ之等徴候ハ目下ノ談判ニ際シテハ定メラルル事能ハサルモノニシテ将来ノ談判ニ於テ技術専門家参加ノ上慎重討議セラルヘキ議題ト成ルヘキモノナリ故ニ政府ハ現今ニ於テハ利権ニ対スル支払ハ一割以上一割五分以下ノ歩合ヲ以テ石油総産出高ヨリ之ヲ控除スルノ方法ヲ

以テ定メラル可キモノナリト為スヲ以テ適当ナリトセム是ト共ニ連邦政府ハ若シ何レカノ作業ニ於テ石油ノ噴出ヲ見タル場合ニハ此種噴出油坑ヨリノ控除歩合ハ五割ト定メラレサルヘカラスト付記スルノ必要ヲ認ムルモノナリ

連邦政府ハ石油産出額ハ僅少ナル程度ニ於テ控除歩合ノ高ニ影響ヲ及ホシ得ルニ過キスシテ主要ナル標準ハ地質上及其他天然的条件ニシテ之等条件カ石油ノ価格ヲ定ムヘキモノニシテ従テ利権ニ対スル支払ノ高サヲモ定ムヘキモノナリト思考シ居レリ乍遺憾此種条件ハ現今『「ソビエット」政府ノ罪ニ基カスシテ』（『　』「カ」削除ス）之ヲ定ムル事ヲ得サルナリ

（参　考）

利権問題ニ対スルソヴィエト政府ノ回訓ニ付海軍省側ノ見解

日露交渉ニ関スル芳沢公使発電第九六三号

莫斯科政府訓令ニ対スル疑問

㈠　産油地ノ意味ノ疑義

莫斯科政府訓令中「既ニ判明セル産油地ノ大部ヲ提供ス」トアルモ芳沢公使ノ云フカ如ク産油地ハ何ヲ意味スルヤ

(a)現ニ油ヲ産出スル地方ナルヤ

(b)日本カ試掘セシ所ヲ云フヤ

(c)露国側ノ調査ニヨル所謂二十一ケ所ヲ云フヤ

(d)又ハ一般ニ地質上ノ有望ナル可シトノ見込アル地方ヲ云フヤ

(e)又産油地ノ面積ハ如何ニシテ定ムル積ナリヤカ疑問ナリ

若シ真ニ産油地ト云フ意味ナレハ今日ノ所判明セル企業上ノ見込アル「オハ」及「ヌトウ」以外ニハ産油地ト称スルモノナシ即チ産油地ノ意味カ(a)カ(b)カ(c)カ又ハ(d)カニヨリテ其地積ニ非常ナル相違ヲ来ス可シ、「カラハン」ハ之ヲ(c)ノ如ク解シ日本ニ対シテハ(c)ノ四割タル(b)ノ大部ヲ譲渡スルカ如シト雖モ莫斯科ニテハ或ハ(b)ノ四割ヲ意味スルカ又ハ現在真ノ産油地タル「オハ」及「ヌトウ」各地ニ於テ其四割ヲ譲渡スルノ意ナルヤモ知レス

要スルニ産油地ノ定義ハ芳沢公使ノ謂フカ如ク正体ナキ影ニ近シ此点ハ明ラカニスルノ要アリ

此等ノ誤解ナキ様日本ニテハ

現ニ日本カ試掘セル区域ヲ含ミ面積……ノ石油権ヲ得度

ト主張スルモノナリ

(二)　四割ノ意義

労農政府ハ既ニ判明セル産油地ノ大部分ヲ日本ニ与フ云云トアリ既ニ大部分ト云フ以上ハ少クモ半分以上ナラサルヘカラス然ル所後段記載スル所ヲ総合スルニ此ノ大部分トハ結局四割ニ過キサルカ如シ此点不明ナリ尚四割トアルハ

(イ)油田地ノ総数（即チ日本ノ提示ニヨレハ二十一ケ所）ノ四割丈ケノ数ノ油田地ナリヤ

(ロ)総面積ノ四割ナレハ何レノ所ヲ取ルモ差支ナキモノナルヤ

(ハ)各地別ニ四割宛ノ意味ナルヤ

露国側ノ真意ハ恐ラクハ(ハ)項ナル可ク之ヲ「カラハン」ハ(イ)ノ如ク説明セントシアリ日本ニテハ幾割ト称スルナレハ下記ノ如ク解釈シ度シ

油田地ヲ得タル時ハ彼我同数ノ委員会ニテ試掘ノ成績及地質調査ノ結果ヲ総合シテ推定セル有望区域ヲ一定ノ割合ニテ（直線ニテ）二分スルコト

斯クスレハ不公平少ナシ猶場合ニヨリテハ油田地ノ交換ヲ行ヒ成ル可ク日露別々ノ油田地ヲ設置スルコトノ方針ヲ採ル

(三)　産油地ト油坑トヲ区別シタル理由如何

（以上）

過渡期ニ関スル取極メ

本件ニ関シテハ異存ナシ

交渉ヲ纏メル主旨ヨリスレハ此以上ハ要求出来サル可シ但シ期間六ケ月ト限ラレアルモ此ハ交渉纏マルモ細目協定ニ永クカカル場合アリト想像スル時ハ寧ロ之ヲ

交渉成立シ利権契約成立ニ至ル迄

トスル方ヲ可トセン日本ハ決シテ悪意ヲ以テ細目協定ノ成立ヲ遅延セシムルモノニアラス又之ハ日本ニ対シテモ作業ノ範囲ヲ増加シ得サル点及輸出販売ヲ行ヒ得サル点ニ於テ見ルモ不利ナルヲ以テ此点ハ先方ニテモ安心シテ可ナル可シ

四七四　十月八日（着）　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

北樺太利権問題ニ関スルソヴィエト政府ノ回訓ニ対スル疑義ニ付キカラハント討議ノ件

第九六五号　至急極秘

往電第九六二号ニ関シ

「カラハン」カ莫斯科政府ノ回訓トシテ披露セルハ別電第九六三号ノ通ナル処右ニ対シ本使ハ明ニ諒解シ難キ点ト失望セル点トアリ而シテ先以テ之ニ明ニシタキハ主義的規定ノ外現業ノ保存継続ニ関スル問題中石炭ノ継続ハ果シテ之ヲ承認セラレタル次第ナリヤト質シタルニ「カ」ハ莫斯科回訓ハ一方ナラサル苦心ヲ重ネ種々禀請セル結果ナリト縷々勿体ヲ付ケタル上実ハ事業ノ継続ニ関シテハ油田ノミナラス炭田ニ付テモ之ヲ承認スヘキ旨ノ回訓ヲ得タリ但シ(一)作業ノ継続期間ハ六ケ月トスルコト即利権契約成立ニ至ル迄トスル趣旨ナルヘキモ此期間ニ付テハ電文中判然セサル処アリ　(二)輸出販売ヲ禁止スルコト　(三)右継続ハ将来ノ日本ノ権利トハ関係ナキコト即チ現在作業中ノ地域カ其ノ儘日本ノ権利ニ帰スル次第ニアラサルコト　(四)継続事業ハ其ノ規模並労働者ノ数ニ於テ日本側調書ノ範囲ヲ超エサル可キコト　(五)右ノ諸点ハ普通議定書若ハ「ノート」ヲ以テ取極メ置クコトノ諸条件ヲ必要トスト答ヘタルカ本使ハ事業ノ継続ヲ六ケ月ノ期間ニ限リテ(一)其ノ期間内ニ利権契約成立セサルトキハ直ニ事業ヲ停止セサル可カラサル可ク此点ハ注意ヲ要スト指摘セルニ「カ」ハ露国側トシテモ不安ナル過渡期ノ状態ヲ長引カスヲ得サルヲ以テ利権契約ハ善意ヲ以テ至急取極メタキモ既ニ事業ヲ行ヒ居ル日本側トシテハ何等カノ口実ヲ以テ契約ノ成立ヲ延引セシムルコトヲ有利ト考フルコトナキヲ保セス旁々露国トシテハ寧ロ日本側トハ反対ノ心配ヲ有スル次第ナリ尚序ニ申述フヘキコトアリ即チ利権契約ハ利権委員会其他ノ機関存在スル莫斯科ニ於テ商議スヘキ旨特ニ日本ニ伝ヘ置ク可シトノ訓令アリト述ヘ

本使ハ過渡期ニ関スル取極ニ付テハ本使ニ於テ露国側ノ主張ニ同意セル次第ニ非サルモ兎ニ角一応政府ノ意向ヲ問合スコトトスヘキ処莫斯科回訓中ノ油田ノ地域ハ日露両国ノ専門家カ石油産出ノ可能性アル地方ヲ知リ居ルカ故ニ其地域ノ四割ヲ提供スヘシトノコトナルカ仮ニ六ケ月内ニ利権

契約ヲ締結セサルヘカラサルモノトセハ日本ノ当業者ハ其期間内ニ希望ノ地方ヲ申出サルヘカラス而モ其地方ハ日露専門家ノ取調ヘタル産油地域ノ四割内ニ含マルルヲ要ス然ルニ産油地域ナルモノ定マラサルニ当リ漠然其四割ト云フモ之ヲ算出スル能ハス従テ当業者希望地方ノ可否ヲ決スルヲ得サルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ御尤ノ話ナルモ貴公使モ自分モ将又莫斯科ニ於テモ正確ナル処ヲ承知セサル次第ニ付漸次四割ヲ与フルコトトスルノ外ナク日本トシテハ現実ニ利権ヲ獲得スル側ナルヲ以テ具体的ニ提供スヘシト主張スルハ尤ナルモ露国側トシテハ現ニ知ラサルモノヲ与ルハ困難ナリ殊ニ我々両者間ノ話トシテハ多少不可解ノ点アリトスルモ将来専門家ニ於テハ容易ニ取極メ得ルコトナルヤモ計ラレス従テ此際ハ已ムヲ得ス斯ル形ニテ取極ルモ強チ道理ナキコトニ非スト思考スル旨ヲ答ヘタルカ本使ハ今日判明セサルモノト云フモ何レノ範囲ノ地域ナルヤ明カナラス明カナラサルモノノ四割ト云フモ意味ヲナサス露国側ノ所謂四割ト云フカ如キハ正体ナキモノノ影ニ過キスシテ斯ノ如キ主義的規定ヲ以テ将来利権契約ヲ結ヒ得ル所存ナリヤト推問シタルニ「カ」ハ莫斯科ニ於テ「ポレヴォイ」

ナル地質学者其他専門家カ慎重審議ノ結果右回訓ニテ差支ナシトセル次第ナルカ北樺太ニ関シテハ実ハ日本側ニ於テ其ノヨク事情ヲ承知シ居ルヘキ筈ニテ最近ノ書類地図等ヲ有セサル露国側ニ対シ正確ナル事ヲ求ムルハ無理ナリ自分トシテハ将来双方専門家カ審議スル時ハ右露国側案ニ依リ利権契約締結上支障ナシト信シ居ルモノナリ曩ニ「ベルサイユ」会議ノ際ニモ諸大国間ニ「メソポタミヤ」ノ油田ヲ各幾割ト云フカ如ク分配セル例アリト不得要領ノ説明ヲナセルカ本使ハ既ニ判明セル石油産出ノ見込アル地方ト云フ意味ナリヤト反問セルニ「カ」ハ要スルニ現ニ存在セル油田ノ四割及将来発見スル油田ノ又其ノ四割ヲ提供スルコトカ莫斯科回訓ノ趣旨ナリト答ヘ更ニ本使ヨリ既ニ判明セル油田四割又ハ将来発見スル油田ノ四割ト云フハ十本(一〇)ノ井戸ヲ掘レル場合其四本ト云フ趣旨ナルヤト質シタルニ「カ」ハ吾人ハ専門家ニアラサルヲ以テ深ク専門的事項ニ入リ説明ヲ為スコト困難ナルモ地下ニハ油層アリ自然多数ノ油井ヲ穿ツ次第ニシテ油田ハ即チ油井ト云フカ如キ心配ナシ油田トハ孰レノ地点ヲ掘ルモ石油ノ出ツル地域ヲ云フモノナリ又将来発見スル油田ニ就テハ例ヘハ「オハ」ノ油田二千五百「エーカー」トセハ其ノ地域ノ四割ニ当ル面積ヲ円形若ハ方形ニ区画シ其ノ範囲内ノ地域ニ於テハ何十本ノ油井ヲ穿ツモ差支ナシ其内ニハ噴出油井ヲ見出スコトモアルヘク他ノ六割地域内ニハ何等出油ヲ見サルコトモアリ得ヘシト説明セリ右ニ対シ本使ハ貴下ノ説明ニ拘ラス却テ益々不安ノ念ヲ増セルニ過キス元来四割ナル目安ハ何ヲ標準トスルモノナルカ不明ナルノミナラス日本側ノ調書記載ノ油田モ其ノ幾割ハ取戻サントスルモノノ如ク斯ノ如キハ絶対ニ同意スルヲ得ス蓋シ全産油地ノ四割ト云フハ現ニ作業中ノ地域ヲ包含スル産油地ノ四割ト解セラレ我方要求トハ莫大ナル間隔アリ且ツ斯ノ如キ漠然タル規定ヲ基礎トシテ将来利権契約ヲ締結スルカ如キハ極メテ困難ナリト謂ハサルヘカラス

日露交渉ハ本問題ノ為メ最後ノ難関ニ逢着セルモノト信ス尚報効金ノ点モ石炭ニ関シテハ其最高ヲ一割トシ尚石油ニ付其最低ヲ一割トスルカ如キハ到底政府ニ取次クヲ得ス思フニ右莫斯科ノ回訓カ多大ナル貴下ノ努力ノ結果ナリトノコトナルモ其効果ノ甚タ乏シキヲ遺憾トセサルヲ得ス蓋シ露国側ニ於テハ曩ニ露国ノ全領土ニ亘リ進ンテ利権ヲ提供スヘシト云ヒ殊ニ北樺太ニ於テハ有利ナル条件ヲ以テ許与スヘシト声明シ来レルニ拘ラス現ニ作業中ノ地域ノ一部ヲ与フヘシト云フカ如クハ利権問題ハ到底妥協ノ途ナシ就テハ此旨莫斯科ニ回報アリタシト告ケタルニ「カ」ハ労農政府ハ其経済政策上外国ニ対シ努メテ利権ヲ与フル方針ナルモ北樺太ノ油田ハ極東露領ニ於ケル唯一ノ産油地ナルヲ以テ其幾部分ハ自国ノ需要ノ為メ保留スル必要アルコトハ日本政府トシテモ容易ニ了解シ得ヘキ処ナリ此点ハ報効金如何ニ拘ラサル処ニシテ日本ニ対シ与フル利権ト雖モ日本ノ国防上ノ理由等ニ顧ミ極メテ有益ナルヘシトノ政治上ノ意味ヲ有スル次第ナリ尚油田ノ地域ニ関シ更ニ具体的説明ヲ為サンニ一九二三年ノ出版ニ係ル浦潮地質学会ノ調査ニ依レハ北樺太油田ハ二十一ケ所アリ右ノ内日本側調書ノ八ケ所モ包含セル処斯ノ如ク現ニ判明セル油田並ニ将来発見スヘキ分ヲモ合セ各其四割ノ地域ト云ヘハ決シテ狭少ト云フヘカラス兎ニ角右露国側ノ案ニ依ルモ日本ノ現ニ試掘中ニ属スル地域ハ殆ント全部日本ニ提供セラルル結果トナルヘシ従テ地域ノ問題ハ難問ニ相違ナキモ之ヲ以テ本交渉ノ難関トセラレサランコトヲ希望スト弁シタルカ本使ハ追テ

利権契約締結ノ際ニハ結局日本希望ノ如キ油田ノ地域ヲ取込ムコトヲ得ヘシトノ貴下ノ解釈ナルモ本使貴下間ニ於テ過去数ケ月ニ亘リ親シク談合ノ結果其到達シ得タル処猶且斯ノ如キモノトセハ将来ノ利権契約審議ニ際シテハ如何ナル困難ニ逢着スヘキヤ想像ニ難カラス貴下所説ノ如ク日本ノ現在作業中ノ地域ハ結局全部取込ムヲ得ヘシトセハ其理由ノ根拠如何ト反問シタルニ「カ」ハ前述ノ如ク露国側調査ニ依レハ油田二十一ケ所アリ其四割ハ区分ノ方法ニ依リ日本側調査中ノ八ケ所全部ヲ取込ミ得ルニアラスヤト考ヘシ次第ナリ尤浦潮地質学上ニ於テハ「オハ」ノ油田ヲ二区域ト為シアルヲ以テ其一ヲ日本ニ与フルコトヲ得ヘシ但各各箇所ヲ分割シテ四割ノ面積ヲ提供セントスル趣旨ニアラス露国側ノ為メニモ集団的ニ与フルコト監視上其他ノ便宜アル次第ナリト答ヘタルヲ以テ本使ハ更ニ為念現ニ日本ノ試掘中ニ属スルモノモ其六割ヲ取上ケ四割而已ヲ与フヘシトノコトニアラスヤト質シタルニ「カ」ハ成ル程訓令ニハ四割トアルモ前述ノ如キ調査資料ニ付研究スルモ又之ヲ理論上ヨリ看ルモ二十一ケ所ノ油田ノ四割ト謂ヘハ日本ノ現ニ作業中ニ属スル八ケ所ノ地域殆ト全部ヲ包含スルモノトスルモ之ヲ保障セヨト要求セラルル時ハ之ニ応スルコト困難ニシテ自分トシテハ日本ノ試掘中ニ属スル油田ノ全部又如何ニ不利ニ考フルモ其ノ大部分ハ四割中ニ包含セラルルモノト期待シ得ヘキコト莫斯科回訓理論上ノ解釈ノ当然ノ帰結ナリト説明セルカ本使ハ鮮クモ現ニ試掘中ノ油田ハ確実ニ其全部ノ提供ヲ保障セラルルコト絶対ニ必要ニシテ其ノ外数千平方露里ノ試掘区域ヲ提供スヘシト云フコト我方最少限度ノ主張ニシテ要スルニ露国側今次ノ案ニ対シテハ到底同意スルヲ得ス尚ホ其他ノ点ニ就テモ本使ノ今日迄有スル訓令ノ範囲内ニ於テハ到底此上審議ヲ進ムルヲ得ス尚又炭田ノ区域ニ就テハ日本側ノ主眼トスル処ハ封鎖区域ニ存シ其他現ニ三菱「スタヘーエフ」間ノ合同企業契約ニ基ク経営事業アリ就テハ今回ノ如キ莫斯科ノ回訓ニ就テハ此ノ上討議ノ必要無シト認ムル旨ヲ告ケタルニ「カ」ハ封鎖区域ト云フハ極メテ狭少ナル区域ニ過キス其ノ他ノ地域ニ至リテハ現ニ鉱業権ヲ有スルモノ一人モ無キ筈ナリ要スルニ封鎖区域ヲ解放シ得サルハ国内問題ニ過キス又其ノ他ノ地域ニ於ケル炭坑ノ経営ハ帝政露国若ハ日本ノ国法ニ依リ許与セラレタルモノナルヘク労農政府ハ一九一八年国有

解釈シ得ヘシト答ヘタルカ本使ハ莫斯科ノ回訓ヲ如何ニ解釈スルカハ本使ノ関スル所ニアラス本使トシテハ少ナクモ日本ノ現ニ作業中ノ地域ハ当然貴方ノ所謂四割中ニ包含セラルルコトノ必要ナルヲ主張スルモノナリト述ヘタルニ「カ」ハ莫斯科（脱）曖昧ナル嫌アルヲ以テ其他ノ点ニ就キ貴公使ニ於テ異議ナシトノコトナラハ右地域ノ点ハ自分ノ考フルカ如ク解釈シ得ル様莫斯科ニ照会スヘシト述ヘタルカ本使ハ不明ノ点ニ付照会スルハ当然ノコトニシテ其他ノ点ニ関スル本使ノ意向如何ニ拘ハラス曖昧ナル点ヲ明カニスルハ貴下ノ為メニモ有益ナルヘシト突込ミタルニ「カ」ハ遂ニ此際莫斯科ノ回訓ハ自分ノ解釈ノ如ク解シ差支ナキコトヲ明言ス従テ別電第九六三号中段「斯クテ現今日本人ノ作業ヲ行ヒツツアル区域云々」ノ文句ハ之ヲ削除スト答ヘタルニ付本使ハ然ラハ日本ノ試掘中ニ属スル八ケ所ノ油田ハ現実ニ全部之ヲ提供シ其他ハ一千平方露里ノ地域ハ之ヲ試掘地域トシ将来出油ノ見込立ツ時ハ其ノ四割ヲ提供スル趣旨ト解スヘキヤト重ネテ念ヲ押シタルニ「カ」ハ其ノ後半ハ貴説ノ通ナルモ其ノ前半ニ関シテハ莫斯科ノ回訓ノ解釈上右自分ノ説ノ如ク解スルコト極テ道理アルコトト信

法ノ発布以来旧法令ニ基ク一切ノ権利ヲ認メス殊ニ帝政政府ノ行ヘル処ニ対シテハ国家ノ債務ト雖モ之ヲ否認セントスルコト夙ニ御承知ノ通ナリト弁スル処アリ依テ本使ハ世界各国ノ等シク認メタル帝政露国ノ法令並旧政府ノ行ヘル処ハ一切之ヲ認メストノコトナラハ千島樺太交換条約ヲモ無効トシ日本ハ北樺太ヲ取リ戻スコトトナリ其ノ結果最早利権問題討議ノ必要モ無キコトトナルヘシト応酬散会シタリ

当日「カラハン」ハ利権ニ関スル莫斯科政府ノ回訓ヲ披露シタル上莫斯科政府ハ本協約ノ調印ハ此ノ冬迄ニ撤兵カ完了セラルルニ依リ価値アルモノト考ヘラルルヲ以テ撤兵ヲ可能ナラシムル様協約ニ調印スルコト必要ナル旨訓令ノ次第アリ右ハ貴公使ヨリ日本政府ニ伝達セラレタシトノ趣ナリト付言スル処アリタルニ付右ニ対シテハ本使ハ態ト何等言及セス其ノ儘聞キ流シ置ケリ

当日ノ談判大体右ノ次第ナルニ付テハ帝国政府ニ於テモ本使ノ態度ヲ是認セラレ決裂ニ至ルコト御覚悟ノ上此ノ際到底露国側ノ意見ニ同意シ難キ旨回答セラルル様致シ度ク何分ノ御電訓ヲ仰ク

四七五　十月八日　幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）

通商航海条約ニ関スル修正案訓電ノ件

別　電　十月八日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第六二〇号
両国経済関係等ノ増進ヲ阻害スルカ如キ措置ハトラサル旨ノ修正案

第六一九号　極秘

貴電第八四六号第一及第九一二号ニ関シ

先方ニ於テハ関税、内国税、船舶ノ待遇等ノ事項ニ付テハ国交開始後締結セラルヘキ通商航海条約ニ於テ各事項毎ニ専門家ノ審査ヲ経タル後最恵国待遇交換ノ可否ヲ決定センコトヲ欲スルト同時ニ本邦提案第一号及第二号所載ノ如キ国民ノ入国、居住、旅行、営業ニ関スル事項ニ付テハ此際之カ保障ヲ約スルモ差支ナシトスルニ在ル処右後段国民ノ交通ニ関スル事項ノミヲ約シ関税、輸出入其他船舶貨物ニ関スル待遇ニ関シ何等ノ保障ヲナスコトナク全然之ヲ来ルヘキ新通商条約締結ノ際ニ譲ルトキハ恰モ明治四十年日仏協約締結ノ際不取敢印度支那ニ関スル宣言書ヲ以テ日本国官民ノ身体財産ニ関シ最恵国待遇ヲ約セシメ船舶貨物ノ待遇ニ関シテハ何等言及スルコトナクシテ之カ保障ハ後日商議セラルヘキ通商条約ニ譲リシカ為今日ニ至リ尚解決ヲ見ルニ至ラサルト同一ノ轍ヲ履ムニ至ルヘキヲ虞ル就テハ本邦提案第三号ハ彼我互譲ノ趣旨ヲ以テシ別電第六二〇号ノ通リ修正スルコトトシタシ

蓋シ同修正ニヨレハ本協定成立ニ伴ヒ両国政府ハ両国ノ通商航海等ニ関スル事項ニ対シ出来得ル丈ケ最恵国待遇ヲ付与スルノ意向ヲ以テ両国経済関係ノ増進ヲ妨害スヘキ不当ノ措置ヲ採リ得サルコトヲ約スルニ止マリ之カ為メ直チニ最恵国待遇ヲ受クルノ権利ヲ生スルニ非ス又等シク将来締結セラルヘキ通商条約ニ於テモ如何ナル程度迄最恵国待遇ヲ付与シ得ヘキハ事項毎ニ其ノ際之ヲ決定スレハ差支ナキ次第ナリ

尚本邦原案第四条第二項特別取極ニ関スル規定ハ削除セラルルモ差支ナシ

（別　電）
十月八日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第六二〇号
両国経済関係等ノ増進ヲ阻害スルカ如キ措置ハトラサル旨ノ修正案

第六二〇号　（別電）

(3) Neither High Contracting Party shall apply to the other any inequitable measures of prohibition, restriction or impost that may serve to hamper the growth of intercourse, economic or otherwise, between the two countries; it being the intention of the two High Contracting Parties that the commerce, navigation and industry of each country shall be placed as far as possible on the footing of the most favoured nation.

四七六　十月十日　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

北樺太ノ石油・石炭利権其ノ他ノ問題ニ付キ島田ヲシテ非公式ニカラハンノ意図ヲ打診セシメタル件

第九七五号　極秘　（十月十一日接受）

両三日来島田ヲシテ「カラハン」側ニ対シ我方ニ於テハ油田区域ニ就テハ尠クモ現在ノ八箇所ハ総テ経営スルヲ要シ炭田ニ就テハ尠クモ封鎖区域ハ譲歩スルヲ得ス、期限ニ関シテモ石炭ノ最大限及石油ノ最少限ニハ同意シ難キ旨通知セシメタル処十月九日「カラハン」ハ島田ノ来訪ヲ求メ約二時間ニ亘リ大要左ノ通語レル由ナリ

㈠　油田問題

北樺太油田ハ過去ニ於テ散々試掘シタルコトニモアリ将来トモ油田トシテノ価値頗ル乏シキモノト自分ハ思考シ居ルモ莫斯科トシテハ日本側カ右油田ヲ重要視シ之ヲ以テ協約ノ運命ヲ賭スルモ可ナルカ如キ態度ナル為或ハ最近五箇年間占領中大々的油田ニテモ発見セラレタルモノカト考ヘ益益慎重ノ態度ヲ執ルニ至レリ従テ区域八箇所ヲ全部日本ニ許与スルコトヲ躊躇スルモノナリ四割ヲ提供スルコトニシタルハ自分ヨリ強硬ニ政府ニ稟請シタル結果ナルモ六日ノ会議ニ於テ日本ノ不満ヲ買ヒ其結果四割ニテ満足スヘシト考ヘ居タル莫斯科ハ自分ニ対シ多大ノ不平ヲ言ヒ来リ居レリ其後自分ヨリ更ニ四割以上ニ増率スル様稟申シタルモ政府ハ之ニ応セス要スルニ区域八箇所全部ヲ今ヨリ日本ニ提供スルハ到底不可能ナリ

㈡　炭田問題

封鎖区域ハ帝政時代ニ国防上之ヲ封鎖セシモノナルカ自分

ヨリハ政府ニ対シ之ヲ日本人ニ開放スルモ差支ナカルヘキ旨稟申シタルモ政府ハ矢張リ国防上必要ナリトノ理由ニ依リ強硬ニ之ニ反対シ来レリ

(三)　報効金問題

報効金ノ歩合ニ関シテハ油田、炭田トモ妥協ノ余地アリ

(四)　期限問題

期限ニ就テハ莫斯科ヨリ最大限ヲ四十年トシタシトノコトナリシニ自分ヨリ稟申ノ結果内密ニ言ヘハ五十年ニ応シ来リ居レリ結局妥協ノ余地アルヘシ

(五)　利権ニ関スル其他ノ問題ニ就テハ政府ノ回訓着々来リツツアルニ依リ揃ヒ次第案文ヲ作成シ現業ノ保存継続ニ関スル付属「ノート」案文ト共ニ出来次第近々日本ニ提示ノ所存ナリ

(六)　撤兵問題

本件ニ就テハ今九日当地発「クリエル」便ニテ「チチェリン」ニ対シ「日本ハ早カレ遅カレ労農側ニ交付セラルヘキ北樺太ニ此冬季駐兵スルハ素ヨリ喜ヒ居ラサルコトニテ其間何等故意ニ占領ヲ継続セシメンカ為交渉ヲ長引カシメタルモノト看做スヘキニアラス極メテ善意ニ解シ以テ撤兵問題ヲ考慮スルノ必要アル旨」ヲ切実ニ説キタル書面ヲ発送シ置ケリ然レトモ政府部内ニハ国交樹立セルニ拘ラス自国領土ノ一部ニ外国軍隊占領ノ継続シ居ルコトハ極メテ好マシカラストスルモノアルヲ以テ日本側ニ於テモ労農側ノ立場ヲ考慮シ軍人丈ケハ何トカシテ引揚ケラルルコトトシ大砲、軍需品其ノ他各種ノ財産ニハ来春迄管理人番人等ヲ残シ置クコトトセラルル様致シタシ我方トシテハ仮令寒中ニテモ民警其他ノ諸官吏ヲ北樺太ニ派シ保安ノ責ニ任スヘシ身分ハ軍人ニアラサルモ前記軍人ノ引揚カ此冬迄ニ技術上全然不能ナリトハ信スル能ハス要スルニ撤兵問題ハ難問題ト日本側ニ於テモ御考ヘヲ請フ

(七)　斯クテ結局両国間ニハ大要左ノ如キ協約成立スル次第ナリトテ「カ」氏日本側最後ノ協約案ヲ取リ出シ逐条左ノ通リ説明セリ

(イ)　協約名称中……Embodying basic rules of the relations……ヲ削除シタキモ強ヒテ日本側ニ於テ主張スルニ於テハ之ニ応スルモ可ナリ

(ロ)　前文案ハ欠如シ居レルモ日本側ニ於テ日本天皇陛下云々ト入ルル時ハ労農側ハ之ト振リ合上中央執行委員会

云々トスル必要アルニ付早速右ニ必要ナル委任状ヲ取リ寄スル手続ヲ為ササルヘカラス目下ノ処労農側トシテハ連邦政府ハ云々ト致シタキ所存ナリ

(ハ)　第一条原案通リ

(ニ)　第二条第一項原案通リ、第一項ノ後ニ付加規定ヲ入ル（往電第九四二号参照）

第二項原案通リ、第三項削除ノコト

(ホ)　第三条近ク自分ヨリ修正案ヲ提出スヘシ

(ヘ)　第四条最恵国待遇ノ件ヲ除キ他ハ全部原案通リ

(ト)　第五条往電第九四二号修正案ヲ加ヘ原案通リ

(チ)　第六条日本政府ナル文字ヲ削除シ原案通リ

(リ)　第七条原案通リ

(ヌ)　議定書

第一条往電第九四二号修正ヲ施シ原案通リ第二条日本側新提案ニ対シ今回莫斯科政府ヨリ債権請求権ヲ一ケ条ニ規定シタク且ツ「将来ノ会議ニ於テ」トアルヲ「将来外交上ノ交渉ニ依リ」ト修正シタキ旨申来リ居レリ右ハ本協約成立後ニ於テ細目会議ノミヲ限ラス其後ニ於テモ何時ニテモ問題ヲ提議シ得ル様致シ度キニ依ルモノナリ

第三条撤兵期限サヘ確定セハ原案通リ

第四条「ベッサラビア」条約ニ付日本側ヨリ「ノート」ヲ得タシ又将来ノ件モ規定シ置キタシ、他ハ原案通リ

(ル)　尼港事件陳謝文

付属「ノート」陳謝文中 sincere 及 brutal and criminal acts ヲ削除シ原案通リ但シ右ト交換ニ日本側ヨリ一寸シタル「ノート」ヲ貰ヒタキ希望ナリ（右ニ対シ島田ハ右日本側ヨリノ「ノート」トハ正ニ陳謝ヲ受ケタル旨声明ノ「ノート」ナリヤト質シタルニ「カ」ハ否日本側ノ驚クカ如キモノニアラス安心アリタシト語レルカ島田ニ於テハ右「カ」ノ言ハ或ハ「ベッサラビア」条約ニ関スル「ノート」ヲ日本側ヨリ得ントスルモノニアラスヤト察セラレタル由ナリ）

斯クテ協約ハ大体纏ル可キニ拘ハラス利権ノ区域問題ノ如キ商業的価値ノ問題ノ為国交樹立スル能ハストセハ遺憾此ノ上ナカル可シ交渉纏ラス不幸決裂スル様ノコトアラハ両国関係ハ自然敵対的関係トナリ一般ノ空気ヲ悪化セシメ将

来何時再会シ得ヘキヤモ計ラレス双方ノ為甚大ノ損失ナリ自分トシテモ本交渉決裂センカ中央ニ対スル威信失墜シ事毎ニ遣リ難キ破目ニ陥ル可ク従来費セル多大ノ努力ハ水泡ニ帰スヘシ就テハ此際ハ極メテ冷静ニ事態ヲ考慮シ是非共芳沢公使トノ間ニ本交渉ヲ成立セシメタキ所存ナリ云々

四七七　十月十一日　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

交渉ノ行詰マリ打開ノタメ若干ノ対ソ強硬手段ノ考慮ノ要モアルニ付キ意見具申ノ件

第九八二号　至急極秘　（十月十二日接受）

十月六日ノ会議後更ニ「カラハン」側ニ対シ利権ノ地域及報効金ノ点ハ我方トシテ到底譲歩ノ余地ナキコトヲ告ケシメ之ニ対スル「カ」ノ応酬振リハ往電第九七五号所報ノ通リニシテ「カ」ハ本交渉不成立ノ場合ニハ莫斯科ニ対スル同人ノ権威ヲ失墜スル結果トナルヘシト苦慮シ居ル模様ナルニ拘ラス報効金ノ点ハ兎ニ角油田及炭田ノ地域ニ就テハ全ク譲歩シ得サルモノノ如シ尤モ北樺太ニ関シテハ我国将来ノ利益関係上此際寧ロ之ヲ買収スルコトモ一策ニシテ本件ニ関シテハ曩ニ太田代理公使ヨリ往電第六一〇号ヲ以テ

報告ノ次第アリタル処右買収案モ此際御考慮ニ価スト信スルモ右ニシテ御考慮相成ラサルモノトセハ「カラハン」ニ於テ譲歩セサル以上本交渉ハ茲ニ決裂ノ外ナク従テ我方トシテハ今ヨリ決裂後ニ処スル方策ヲ考究スル必要アリ尤モ今回ノ交渉仮令成立ノ見込ナキ場合ニモ少クモ我方ヨリハ進テ決裂ヲ宣明セス此儘成行ニ委セ徐ニ他日ノ機会ヲ俟ツコト一策ナリトスル説有之ヤ測リ難キモ労農政府従来ノ遣口ニ鑑ミル時ハ本交渉成立セサル場合ニハ必ス種々ノ悪辣手段ヲ弄シテ我方ヲ苦シムヘキコト明白ニシテ現ニ「カラハン」モ本交渉不成立ノ場合日露両国ノ関係ハ結局敵対関係トナルヘキ旨ヲ語リ居ル次第ニモアリ旁々我方トシテハ居留民ヲシテ彼等ノ毒牙ヨリ免レシメ先ンシテ先方ノ圧迫手段ヲ制スルノ必要上将又極東ニ於テ我国ヲ無視スルノ不便不利ヲ痛感セシムル必要上此際出来得ル限リ彼等ヲ苦ムル方策ニ出ツルコト緊要ナルヘク卑見ヲ以テスレハ先ツ以テ㈠速ニ浦潮ニ於ケル領事館其他露領ニ於ケル在留邦人ノ引揚ヲ断行スルコト「カラハン」側ニ於テハ日本カ浦潮ニ領事館其儘存続スルヲ以テ我方ニ於テハ日露交渉ニ未練ヲ有スルモノノ如ク思惟シ従テ交渉不成立ノ場合此ノ方面ニ

圧迫ヲ加フルノ虞アルニ付先シテ之ヲ制スルノ必要アリト存ス

㈡当地莫斯科間ヲ頻繁ニ往復スル労農政府ノ官吏並使者等ニ対シテハ満鉄カ我手ニ在ルヲ利用シ警察権其他利便ノ許ス範囲ニ於テ有ラユル峻厳ナル圧迫ヲ加フルコト等ハ極メテ有効ナル方法ト思考セラル猶日露間郵便交換ノ停止及莫斯科滞在ノ大竹通信員等ノ引揚等モ之ヲ断行セラルルコト最緊切ナリト思考ス

四七八　十月十四日　津野陸軍次官ヨリ
松平外務次官宛

北樺太ヨリノ撤兵ハ十一月以降ハ不可能ナル旨陸軍省ノ意見通牒ノ件

陸軍省
送　達西密第四七号

日露交渉ニ於ケル北樺太撤兵ニ関スル意見送付ノ件通牒

大正十三年十月十四日

陸軍次官　津野　一輔（印）

外務次官　松平　恒雄殿

曩ニ九月十九日閣議ヲ以テ薩哈嗹州派遣軍駐兵継続ニ関スル件決定セル処之カ為メ日露交渉ノ成立ニ重大ナル影響ヲ及ホスカ如キ場合ニ於テハ薩哈嗹派遣軍ハ海上輸送ノ可能期間ニ於テ日露間条約ノ効力発生セハ為シ得ル限リ其ノ一部ナリトモ帰還セシムルコトハ異存ナキモ十一月以降ニ於テハ撤兵ノ実施不可能ナルヲ以テ閣議決定ノ如ク駐兵ヲ継続スヘキ意見ニ付及通牒候也

追テ炭田ノ利権ニ就テハ当方ノ関スル限リ封鎖区域ヲ保有スルコトニ致度意見ニ候条申添候

四七九　十月十四日　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

日本側ニ許与スベキ油田区域ノ範囲ニ付キカラハンヨリノ妥協案提示ヲメグリ応酬ノ件

第九九九号　（十月十五日接受）

本使ハ「カ」ニ対シ十月六日ノ会議経過並ニ九日「カ」ヨリ島田ニ為サレタル説明等ニ関シテハ既ニ政府ニ電報済ナルカ政府ヨリハ今日迄何等ノ回答ニ接セス右ハ政府ニ於テ利権ノ区域ニ関スル貴方ノ回答ニ到底詮議ノ余地ナシト為シ居ル為ナリト思考ス右貴方ノ回答ハ本使ニ於テ如何ニ考

ヘ見ルモ妥協ノ余地ナク斯テハ折角ノ本協約モ成立ノ見込ナカルヘシト謂ヘルニ「カ」ハ六日ノ会議経過今回ノ莫斯科回訓ニ対スル日本側ノ態度並ニ八日九日ニ亘リ島田ヲ経テ為サレタル説明ニ関シテハ詳細莫斯科ニ電報シ置キタル処其ノ後政府ヨリ労農側ハ油田ノ全部ヲ与フルコト能ハストノ立前ナリ而シテ日本側指定ノ八ケ所ヲ与フルハ全部ヲ与フルト同一ニシテ之ニ応スルコト能ハス但シ「パーセント」ノ問題ナレハ又討議ノ余地ナキニ非ス又炭田ニ関シ封鎖区域ハ国内法ノ問題ニ付論スルヲ得ストノ回答ニ接シ居レルカ昨十二日ニ至リ莫斯科ヨリ更ニ来電アリ六日ノ会議後一週間ヲ経過シ日本側ヨリ何等ノ挨拶モナキ処撤兵期限モ愈僅少トナリタルニ付テハ交渉ハ如何ナル状態ニ在リヤト問合セアリテ自分モ頗ル困却シ居レリ就テハ何等カ適当ノ妥協方法ナキヤトテ一方強硬ノ態度ヲ示スト共ニ他面折入リテ懇願スル所アリ尚「カ」ハ利権ノ区域問題ノ為交渉決裂ヲモ厭ハスト為スカ如キ日本側ノ態度ハ到底諒解スル能ハサル所ナリト付言セルニ付本使ハ我方ニ於テ区域問題ヲ重要視シツツアル由来理由等ヲ詳細懇切ニ説示シ「カ」ノ深甚ナル注意ヲ喚起シタルニ「カ」ハ熟慮ノ結果全然自分一個ノ思付ナリトテ現在並ニ将来ノ産油地ノ四割ヲ日本ニ許与スヘク残リ六割ニ関シテハ之ヲ外国ニ許与セントスル場合ニハ日本ニ優先権ヲ与フルコトシテハ如何ト云ヘリ右ニ対シ本使ハ日本政府ハ現ニ作業中ノ八ケ所ヲ全部我方ニ許与スヘキコトヲ主張スヘキハ勿論ニシテ且ツ政府ヨリ何等回訓ナキ今日自分トシテモ何等意思ヲ述フルコト能ハス又「パーセント」ニ付テモ我方ハ勿論不満ナル処局面打開ノ一方法トシテ自分一個ノ思付トシテ「八月二十九日ノ調書ニ掲クル現存油田八ケ所ノ「エーカー」ニテ表セル各区面積ヨリ例ヘハ夫々四割ヲ我方ニ許与スルコトトシ之ニハ我方現存油井（現ニ出油ノ有無ヲ問ハス）全部ヲ包含セシムルコトトシ労農側ニハ我方油井ノ存セサル部分ヲ分ツコトトシ而シテ此部分ト雖モ労農政府ニ於テ之ヲ自ラ経営スルニアラサレハ日本側ニ許与スルコト、若シ合弁事業トスル時ハ日本側ト合弁タラシムルコト同時ニ右八ケ所以外ノ現産油地及将来ノ産油地ニ関シテハ例ヘハ其四割ヲ試掘ノ為我方ニ付与シ他ヲ労農側ニ保持シ此部分ニ於テモ同様労農政府ニ於テ之ヲ経営スルニアラサレハ日本側ニ許可スルコト若シ合弁事業トスルトキハ日本側ト合弁トスルコト右ニ同シ」トスルカ如キハ如何ト云ヘルニ「カ」ハ労農トシテハ受身ノコトニモアリ何等日本側ヨリ適当ノ案ヲ提出セラレタキ処右ノ如クスルコトニ付テハ大体自分一個ノ考ヘトシテハ異議ナシ即チ「八月二十九日ノ調書ニ示セル現行油田八ケ所ノ各区面積ノ各四割ヲ日本側ニ許与シ他ハ労農側ニ於テ保持シ若シ外国ニ許与スル場合ニハ日本ニ優先権ヲ与フル右以外ノ産油地及将来発見ノ産油地（一定ノ地域内ニ於テ試掘ノ上発見スルモノ）ノ四割ヲ日本ニ許与スルコトニ付テハ是非許可スル様政府ニ稟申シ得ヘク日本ノ作業中ナル現存油井ヲ全部前記各区面積ノ各四割ノ内ニ包含セシムル事ハ日本側ノ切ナル希望ニ付成ル可ク之ヲ採用セラルル様致シタシト付記稟申シ得ヘシ」ト云ヘリ

右ニ対シ本使ハ油井全部包含ノ件ヲ希望事項ト為スハ不可ナリト云ヘルニ「カ」ハ然ラハ日本側ハ右油井全部前記面積四割ノ内ニ包含セシムルヲ条件トシ之ニ応スルコトトセラルレハ可ナラスヤ要スルニ日本側ハ労農政府カ空約束ヲ為シ又ハ欺カン事ヲ虞レ又第三国ノ割込ヲモ虞レ居ルモノノ如クナルニ付労農側トシテハ右ニ対シ充分安心ヲ与フルノ必要アリト云ヘリ

次イテ本使ハ油田問題ニシテ何等カ展開策ヲ発見セラルルトスルモ炭田問題ニシテ解決セサレハ利権問題ニ到底解決不能ナルニ付封鎖炭田タケハ是非許与サレ度旨執拗ニ主張シタルモ「カ」ハ飽ク迄之ヲ拒絶シタルニ付本使ハ全然自分一個ノ私見トシテ鮮クモ「ズエ」ノ炭坑タケハ日本ニ許与スルコトトシ其他ハ凡ヘテ日本ニ優先権ヲ与フルコトトスヘシト頑強ニ主張シタルモ「カ」ハ「ズエ」ノ炭坑ハ極東露領ニ於ケル品質最良ノ石炭ナリ実ハ労農側トシテハ石油ハ欧露ヨリ運搬シ得ヘキニ依リ油田ヲ日本ニ許与スルコトハ比較的容易ナルモ炭田ニ関シテハ左様ニハ行カス従テ実ハ油田ヨリモ炭田ヲ重要視シ居ル次第ナリ故ニ封鎖区域ヲ許与スルコトハ到底不可能ナリト述ヘタリ

四八〇　十月十五日　幣原外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

ソヴィエト政府ノ訓令中ノ産油地ノ範囲、油坑ノ定義ナドニ付キカラハンノ説明ヲ求メル

ヨウ訓電ノ件

第六四四号　至急極秘

往電第六三〇号末段ニ関シ

貴電第九六三号所載「カラハン」ニ対スル莫斯科訓令中

(一)既ニ判明セル産油地トハ(イ)現ニ油ヲ産出スル地方ナリヤ又ハ(ロ)露国側調査ニ依ル所謂二十一ケ所ヲ云フヤ或ハ又(ハ)一般ニ地質上有望ナルヘシトノ見込アル地方ヲ云フヤ

(二)又既ニ判明セル産油地ト云フ以上露国側ニハ其ノ面積ハ既ニ算定セラレ居ル次第ナリヤ果シテ然ラハ其ノ面積如何若シ然ラストセハ右面積ハ如何ナル方法ニテ之ヲ算出セントスルヤ

(三)労農政府ハ既ニ判明セル産油地及将来日本ノ手ニテ発見セラルヘキ産油地ノ各大部分ヲ日本ニ与フルヲ得ヘシト言明シ居ル処一方ニ於テハ大部分ト云ヒナカラ他方ニ於テハ既ニ判明セル油坑ニ関シテハ四割ヲ日本ニ与フヘシト云ヒ又調査ノ為日本ニ提供セラルヘキ地域ニ於テハ之カ調査ノ結果四割ヲ日本人ニ与フヘシト云ヒ結局四割ヲ我方ニ許与セムトスルモノナルカ如ク大部分ヲ日本ニ与ヘムトスル先方建前ト矛盾スル処右ハ如何ナル事由ニ基クモノナリヤ

尚又右所謂四割トハ(イ)油田地ノ総数例ヘハ露国側ノ説明スルカ如キ二十一ケ所ノ四割ト云フ意味ナリヤ(ロ)油田地総面積ノ四割ナリヤ又(ハ)各油田地別ニ四割宛ノ意味ナリヤ将又以上(イ)(ロ)(ハ)ノ場合其ノ選択ハ日本側ニ委スル次第ナリヤ

(四)露国側ノ所謂「産油地」ト「油坑」トノ明確ナル意義区別如何

(五)労農政府ハ既ニ判明セル産油地ノ大部分ノ外別ニ調査ノ為若干平方露里ノ地域ヲ日本ニ提供スヘシト為セル処右ハ当初ヨリ直ニ若干平方露里ノ地域ヲ限定セムトスルモノナリヤ将又特ニ一定地域ヲ限定スルコトナク日本側ニ於テ希望スル所ニ従ヒ一定年限内ニ結局前記ノ若干平方露里ニ達スル地域ニ於テ漸次調査ヲ行フコトトシ差支ナキヤ尚又「ボーリング」ニハ多額ノ費用ヲ要スル処右地域内ニ於テ其ノ結果発見セラレタル油坑数ノ六割ハ無償ニテ露国側ニ取ラントスル趣旨ナリヤ

(六)炭田ニ関シテハ我方ニ於テハ旧封鎖区域ヲ労農政府ニ於テ禁止区域ニ編入シタルカ如キ事実ヲ承知セス従テ我方ノ趣意ハ其ノ国内法制ニ干渉セムトスルモノニアラスシテ単ニ便宜上旧封鎖区域ナル各称ヲ使用シタルニ過キス若シ労農政府ニシテ之ヲ禁止区域ニ編入セル事実アリトセハ其ノ時日及如何ナル手続ニ依リ右区域ニ編入シタルモノナリヤ

我方疑問ハ以上ノ通リナルニヨリ貴官ハ右諸点ニ付更ニ「カラハン」ニ対シ明確ナル説明ヲ求メラルルト共ニ尼港事件陳謝問題及漁業協約問題其他ニ関スル先方ノ案文ハ之ヲ至急提出スル様督促セラレ結果回電アリタシ

四八一　十月十六日　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

油田・炭田ノ区域問題ニ付キカラハントノ討議ノ件

第一〇〇二号　至急極秘　（十月十七日接受）

往電第九九八号ニ関シ

十月十四日本使「カ」会談要領左ノ通リ

第一　油田炭田区域問題

油田ノ区域ニ関シ「カラハン」ハ多忙ノ為昨日ノ話大意ニ基ク解決案文ヲ作成スルニ至ラサリシトテ本使ノ面前ニ於テ自ラ露文ニテ之ヲ作成シタル上本使ノ一読ヲ求メタルカ其ノ内容大要左ノ如シ

(一)労農側ハ八月二十九日日本側調査ニ「エーカー」ニテ示セル油坑面積ノ四割並右油坑以外ノ北樺太現産油地及将来発見セラルヘキ産油地ノ四割ヲ日本ニ許与スルコトニ同意ス

(二)前記以外ノ六割ノ油坑産油地及将来ノ産油地ハ労農側ニ於テ之ヲ保有スヘシ

(三)日本側ハ現ニ其ノ作業シツツアル油井ハ全部之ヲ前記四割ノ「エーカー」ニテ示セル面積中ニ包含セシムヘキコトヲ希望ス

(四)労農側ニ於テ将来前記六割ノ油坑産油地及将来発見セラルヘキ産油地ヲ外国人ニ許与セントスル場合又ハ合弁事業タラシメントスル場合ハ日本人ニ優先権ヲ与フルコト

右ニ関シ「カ」ハ右ハ昨日貴公使ト懇談ノ結果当座ノ思付トシテ莫斯科ニ稟申セントスル案ナリ自分トシテハ右ニ同意スルモ政府カ如何様ニ見ルヘキカハ今言明スルコト能ハス就中現在作業中ノ油井全部ヲ日本ニ交付スルコトニ対シテハ必スシモ賛成セサルヘシト思考スト述ヘタリ

右ニ対シ本使ハ本使又本案ニ対スル日本政府ノ意向ヲ承

知セス従テ本案ノ如キモノヲ協定スル為譴責ヲ受クルヤモ測ラレサルモ昨日モ申シタル如ク現在油井全部ヲ包含セシムルコト是非共必要ニシテ之ヲ日本側ノ希望ト為スハ不可ナリ条件トセサルヘカラスト云ヘルニ「カ」ハ日本側カ斯ク主張スルハ差支ナク自分又莫斯科ニ電報スヘキモ余自ラ斯ク本案ニ記載スルヲ憚ル次第ナリト述ヘタリ

次テ本使ハ油田ノ区域ニ関シ斯ク条件案ヲ案出スルモ炭田ノ区域ニ関シテハ解決案ヲ設クルニアラサレハ仮ニ油田区域問題解決スルトスルモ結局利権問題ハ解決セサルコトトナルヘシ右炭田解決案トシテ本使ノ思付ヲ云ヘハ「炭田ノ区域ニ関シテハ「ズエ」ノ炭坑ヲ我方ニ提供スルノ外其ノ以外ノ封鎖炭田ハ之ヲ外国ニ許与スル場合ニハ日本側ニ優先権ヲ与フルコトトシ更ニ封鎖区域外ニ於テ一定ノ地域ニ亘リ炭田ヲ我ニ許与スヘキ事」之ナリト言ヘルニ実ハ自分トシテハ封鎖区域存置ノ必要ヲ認メサルモ陸、海軍其他関係者ニ於テ之カ存置ヲ主張シ居ル関係上莫斯科トシテモ日本ニ之ヲ開放スルハ到底不可能ナリ殊ニ「ズエ」炭坑ハ太平洋沿岸露領ニ於ケル唯一ノ良

炭産地ナルヲ以テ之ヲ失フヲ欲セサル次第ナリ将又日本ニ優先権云々ハ頗ル自分ノ立場ヲ困難ナラシムルモノニシテ之ニ応スル能ハス但本件貴公使申出ノ次第ハ莫斯科ニ委細電報シ何等ノ指示ヲ請フコトトスヘシト答フル所アリ本使ハ炭田ノ現業継続ヲ許可シ乍ラ将来契約締結ニ際シテハ之ヲ取上クヘシトスルカ如キハ矛盾ノ甚タシキモノニシテ我方トシテハ到底之ニ応スル能ハス就テハ前記本使ノ私案ハ之ヲ取消スヘシ即チ我方トシテハ炭田区域ニ関シテハ政府ノ訓令ニ係ル最初ノ案ヲ依然主張スルコトトスヘシト述ヘ置ケリ

別レニ際シ「カ」ハ前顕解決案ハ後刻英訳ノ上之ヲ本使ニ送付スヘキ旨約束シタルカ其後本使ノ接到シタル英訳ニハ「カ」カ本使ノ面前ニ於テ作成セルモノト異ナレル点二三アリタルニ依リ目下右ニ付「カ」トノ間ニ交渉中ナリ

第二　最恵国待遇問題

本件ニ関シ本使ハ貴電第六一九号ノ趣旨ヲ篤ト「カ」ニ説示シ貴電第六二〇号案文ヲ提示シタルニ「カ」ハ案文ノ前半ニ関シ「当事国ノ国法ニ従ヒ」ナル文句ヲ挿入シタキ希望ナリ尤モ日本側ノ怖ルル点ハ将来労農側ニ於テ通商経済其他ノ関係ヲ阻害スルカ如キ法令ヲ新タニ発センコトヲ怖ルルニアルヘキヲ以テ仮令将来法令ヲ発スルコトアリトスルモ該法令ハ通商経済其他ノ関係ヲ阻害スルモノニアラサル様制限ヲ加フル様ニセハ可ナラスヤ抑々労農側カ之ヲ主張スル所以ハ労農露国ハ他国ト異ナル制度法令ヲ有シ居ルニ拘ラス前記当事国ノ国法ニ従ヒナル文字ナキトキハ日本側ニ於テ前記貿易国営其他ヲ認メスト主張スルニ至ルナキヲ保セス我国亦同様ノ事情アルヘシ就テハ更ニ修正案ヲ提出スヘシト云ヘルニ付本使ハ右貴方ノ修正案ヲ見タル上篤ト研究スヘキモ我方今回ノ案ハ正ニ貴方希望ニ添フモノナルヲ以テ右様了承アリタキ旨述ヘ置ケリ

尚右会談ノ際「カ」ハ日本側協約案第四条㈡中ノ相互主義ハ之ヲ除去シタシト重ネテ申出テ右ニ対シ本使ハ本件ニ対スル両者会談ノ件ハ先日政府ニ報告済ミニシテ目下其ノ回答ヲ待チツツアル次第ナリト答ヘ置ケリ

「カ」ハ仮令協約ノ諸問題ニ付妥協成立スルトスルモ撤兵ニシテ実現セラレサルニ於テハ協約ノ調印覚束ナカルヘシ

ト為スハ莫斯科ノ意見ニシテ今回莫斯科政府ヨリノ訓令ニ基キ貴公使ニ対シ自分ヨリ撤兵問題ニ関スル「ノート」ヲ送付スルコトトナレリ就テハ右一覧ノ上日本政府ニ取次カレタシト謂ヘルニ付本使ハ右「ノート」ヲ一覧ノ上何分ノ儀申進ムルコトニスヘシトテ引取レリ

四八二　十月十七日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

利権区域問題ヘノ疑問点ノ調査時期ハ当方ニ任セラレタキ旨稟申ノ件

第一〇一二号　極秘　（十月十八日接受）

貴電第六四四号ニ関シ

御承知ノ通リ「カラハン」ハ非常ニ懸引多キ男ニシテ殊ニ相手方ノ顔色、出方ニ関シ臨機種々ノ策略ヲ行フモノナルニ付貴電御来示ノ趣旨ハ至極御尤モノ次第ナルモ今之ヲ持出ストキハ先方ハ日本側カ莫斯科回訓ノ範囲内ニ於テ之ニ応スル意思アルヤモ知レスト考フヘク斯クテハ利権区域問題ハ本使ニ於テ目下試ミツツアル試案ニモ及ハサルコトトナルナキヲ保セサルニ付貴電御来示ノ件調査方ニ関シテハ之カ実行ノ時期ヲ本使ニ御任セ相成様致シタシ

四八三　十月十七日　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

油田・炭田区域ノ解決私案ヲ双方ヨリ提示ノ件

別電一　十月十七日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛
電報第一〇一六号
油田区域ニ関スルカラハンノ私案

二　十月十七日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛
電報第一〇一七号
油田・炭田地域ニ関スル芳沢公使ノ私案

三　十月十七日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛
電報第一〇一八号
炭田区域ニ関スルカラハンノ私案

第一〇一五号　極秘　（十月十八日接受）

往電第一〇〇二号前段ニ関シ油田区域ニ関スル解決私案トシテ十四日「カ」ヨリ本使ニ送付セルモノハ別電第一〇一六号ノ通リニシテ右ハ「カ」自ラ作成シタル露文ノモノトハ異ナレル点アルニ依リ不取敢十五日別電第一〇一七号本使ノ私案ヲ島田ヲシテ先方秘書官ニ交付セシムルト共ニ右ニ示ス「パーセント」ハ仮定的ノモノナル事又該私案ハ全然本使ノ私見ニシテ何等日本政府ヲ拘束スルモノニ非サル

事ヲ説示セシメ置キ更ニ十六日島田ヲ「カラハン」方ニ遣ハシ先方解決私案ノ（脱）両者間ノ話合ヒト異ナレル点ヲ篤ト指摘セシメタルニ「カ」ハ英訳ニ際シ体裁ヲ多少変更シタルハ事実ナルカ此ノ案ニ依ルニ非サレハ莫斯科ノ同意ヲ期シ難ク自分ノ当初ヨリ重キヲ置キテ話ヲ為セルハ所謂八箇所ニシテ事実右ノ外ニハ産油地トシテ価値アルモノ殆ト無キニ付日本人ニ優先権ヲ付与スルトスルモ右八箇所ノ分ニノミ適用スルコトセル次第ナリ此点ハ右以上ニ拡張スルヲ得ス右ノ案ハ自分カ完全ニ賛同スルモノニシテ莫斯科又異議ナカルヘシト信シテ貴方ニ送付セル次第ナリ

先日来公使トノ私的会議中公使ノ為サレタル主張ハ正ニ公使記載（別電第一〇一七号）ノ通ニシテ其点ハ自分モ良ク了解シ既ニ莫斯科ニモ報告シ置ケリ只自分トシテハ優先権云々ヲ更ニ八箇所以外ノ現在及将来ノ産油地ニ迄拡張スルコト即チ全体ノ六割ニ適用スルコトニ此際同意スルヲ得ス又事実上右八ケ所以外ニ於テ外国資本家ノ割込ムコトハ有リ得ヘカラサルコトニ付此点ハ日本側ニ於テモ篤ト諒解アリタシ尚石炭ニ関シ労農側トシテハ封鎖区域以外ニ於ケルモノヲ日本ニ許与シタキ意向ナリ北樺太現在ノ石炭ハ総額

少ナクトモ十五億噸ニ達スル由ニ付充分日本側ニ許与シ得ヘキ炭田アリ依テ本使ハ十七日「カ」ヲ往訪シ「カ」ノ私案ニ関シ重ネテ其ノ反省ヲ促ス処アリ殊ニ過日来ノ話合ニ顧ミ優先権ヲ本使主張ノ通リ全般ノ六割ニ拡張方厳重ニ主張セルモ「カ」ハ実ハ当初ハ広キ意味ニテ話ヲナシ居タルヘキモ自分トシテハ日本側ト同様自国ノ利益ヲ擁護スルノ義務アリ若シ全般ニ亘ル六割ニ付優先権ヲ与フルコトトセハ結局北樺太油田全部ハ日本ニ取ラルル形トナリ頗ル具合悪シキニ依リ此ノ点ハ何卒八ケ所ノ六割ニノミ適用スルコトニ致シタシトテ如何ニ追求スルモ終ニ之ニ応セス結局「カ」ハ彼ノ私案ト共ニ本使ノ私案ヲ莫斯科ニ電報スヘク且ツ本使ノ私案ハ未タ日本政府ノ同意ヲ得サル本使一個ノ私案ナル旨ヲ付記スルコトトシ其ノ回電振ヲ待チ通知スヘキ旨述ヘタルニ付本使ハ別電第一〇一七号ニアラサレハ同意スル能ハサル旨念ヲ押シ置キタリ尚「カ」ハ自分ノ案ノ内最初ノ二箇条ハ必ス莫斯科ニ於テ応諾スル様自分ニ於テ支持スルモノナルカ末項（「ノート」ニ）日本ノ希望トシテ莫斯科ノ容ルル所ナラハ本使私案ノ如クナル次第ナリト説明シ次テ「カ」ハ炭田ニ関シ本使ノ面前ニ於テ別電第一〇一八号ノ如キ私案ヲ作成シタルカ本使ハ右ニ「ズエ」炭坑ヲ入ルレハ本使限リハ差支ナキモ別電第一〇一八号ノ儘ニテハ到底本使限リニテモ応諾スルコト能ハスト言ヘルニ「カ」ハ兎ニ角何等カノ御参考迄ニ日本政府ニ報告セラレタシトノ希望ヲ述ヘタリ

別レニ際シ「カ」ハ利権問題ニ関シ莫斯科ヨリ今明日ニモ回電アルヘキニ付引続キ会議ヲ継続シタキ旨ヲ述ヘ尚債権以外ノ問題ニ関シテモ双方ノ回電到着シ居ラハ条文ノ整理作成ニ着手シタシト云ヘリ

就テハ別電ノ通リ御考慮ノ上今一応強硬ナル御訓令ニ接シ本使ハ之ヲ楯トシテ更ニ「カ」ヲ圧迫スル様致シタシ「カ」ハ其ノ心底ニ於テ是非本交渉ヲ纏メタキ熱望ヲ有スルニ拘ハラス種々懸引ヲ弄シテ尚本使ノ主張ニ抵抗シツツアル次第ニ付今一段ノ努力ヲ要スル事ト信ス何分ノ御電訓ヲ請フ

（別　電一）

十月十七日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一〇一六号
油田区域ニ関スルカラハンノ私案

第一〇一六号　別電　極秘

1. The Union of Soviet Socialist Republics agrees to grant to Japanese Nationals 40% of oil deposits (field) mentioned in the Japanese Memorandum August 29th, to be exploited as concessions. However, should the Union of Soviet Socialist Republics decide to give concessionary rights to foreigners with regard to the remaining 60% wholly or partially, it will make prior offer of such concessions (option) to Japanese Nationals.

2. As regards any other established oil deposits, in addition to those specified in the said Memorandum of August 29th, Japanese Nationals will be likewise entitled to 40% with reference to new oil deposit which may be established as a result of Japanese explorations. It is understood that Japanese Nationals will be entitled to a 40% share therefrom.

Note

1. It is understood that in calculating 40% with regard to the sections specified in the Memorandum of August 29th, the total area of oil fields as stated in acres in the Memorandum of August 29th, shall serve as a basis.

2. Japan expresses the desideratum that all the drilling wells where drilling work is at present being carried on shall be included in another 40% which the Union of Soviet Socialist Republics is prepared to grant out of the 8 sections specified in the Memorandum of August 29th.

Yoshizawa

（別　電二）

十月十七日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一〇一七号
油田・炭田地域ニ関スル芳沢公使ノ私案

第一〇一七号　別電　極秘

Oil.

1. The U.S.S.R. agrees to grant to Japan 40% of the oil fields mentioned in the Japanese memorandum of August 29, it being understood that all the oil wells now being working by Japan are to be included within that percentage.

2. The U.S.S.R. also agrees to grant to Japan 40% of all other oil fields now known in North Saghalien and of those to be discovered in future.

3. The remaining 60% of the oil fields in North Saghalien shall be retained by the U.S.S.R., provided, however, that in case the latter decide to grant concessions to foreign nationals out of this 60%, or to start a joint enterprise hereon with foreign nationals, Japan shall be given a prior option.

Coal.

It is agreed that the Due mine within the former closed district shall be granted to Japan. The remaining coal mines within the said district shall be retained by U.S.S.R., it being understood that in case these mines are to be granted to foreign nationals, the option therefore shall be given to Japan. It is also agreed that coal mines shall be granted to Japan over a specific area outside the closed district.

Yoshizawa

（別　電三）

十月十七日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一〇一八号
炭田区域ニ関スルカラハンノ私案

第一〇一八号　別電　極秘

It is agreed that the coal mines within the former closed district in case if these mines decide to grant to foreign nationals, Japan shall be given a prior option.

It is also agreed that coal mines shall be granted to Japan over a specific area outside the closed district.

四八四　十月十七日　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

ふふくレアくノ利権譲渡問題ニ付キカラハンヨリ島田くノ内話ノ件

第一〇一九号　極秘　（十月十八日接受）

十月十六日「カラくン」ヘ島田ニ対シ「シンクレヤ」利権問題ニ関シ右ハ元来政治上ノ意味合ヲ以テ許与セラレタルモノナルカ契約後二ケ年内ニ事業ニ着手セス又右ニ付米国

政府ノ支持ヲ得サルニ於テハ該契約ハ労農政府ニ於テ之ヲ破棄シ得ルコトトナリ居ル処「シンクレヤ」ノ代表ハ昨年自分方ニ出頭北樺太視察ヲ申出テタルニ依リ充分ノ便宜ヲ与ヘ置ケルモ同代表ハ日本軍憲ノ為体ヨク送リ出サレ其後再ヒ当地ニ来リ種々日本軍憲ノ態度ニ関シ不平ヲ述ヘタル際自分ヨリ右代表者ニ対シ米国政府ノ支持ヲ得タリヤト質問シタルニ同人ハ何等政府ノ支持保護ヲ得タルコト無シト謂ヘルニ依リ我方ハ今回之ヲ利用シ北樺太並ニ「バクー」両油田ニ関スル「シンクレヤ」トノ契約ヲ破棄シ茲ニ「シンクレヤ」トハ全ク没交渉トナレリ従テ労農政府ト米国政府トノ関係極メテ不良ナル今日北樺太油田ニ関シ「シンクレヤ」ノ復活又ハ他ノ米国人ヲ割込マシムルコトハ思ヒモ寄ラヌコトナリ此点ハ日本側ニ於テ安心アリタシ云々ト語レル由

四八五　十月二十一日　幣原外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

北樺太ヨリノ撤兵時期ニ付キ弾力的ニ考慮ノ余地アル旨訓電ノ件

第六五八号　至急極秘

北樺太石油石炭利権地域其他ニ関スル件

曩ニ官房機密第八八八号ノ二ヲ以テ北樺太石油石炭利権地域ノ件ニ関シ当省ノ所見申進置候処其ノ後日露交渉ノ経過ニ鑑ミ研究ノ結果当省トシテハ利権地域並報効炭油分配率ヲ大約左記ノ通トシ差支無之意見ニ到達致候

右申進ス

記

一　利権ノ地域

石油

(イ)交渉成立ト同時ニ北樺太ニ於テ日本カ撰定スヘキ百平方露里ノ地域ニ於ケル試掘並ニ採掘権ヲ日本ニ許可スルコト

(ロ)日本ハ北樺太ニ於テ(イ)項以外ノ地域ノ調査試掘ヲ行ヒ有望油田ノ発見ニ当ルヘク有望油田ヲ得タル時ハ日本ハ其七割ニ対スル採掘権ヲ得ヘク残余三割ハ無償ヲ以テ之ヲ労農政府ニ返還ス将来労農政府ニ於テ日本カ発見返還セル油田ノ開発ヲ合弁経営又ハ外国ニ許可セントスル場合ニハ日本ニ其ノ参加又ハ許可ノ優先権ヲ与フルコト

貴電第一〇〇二号第三撤兵時期ヲ約定スルコトハ交渉成立期日トノ関係モアリ之ヲ困難トシタル次第ナルモ九月十五日頃迄ニ協約ノ効力発生スルコトトナル場合ニ於テハ十月末迄ニハ撤兵ヲ完了シ得ヘキ予想ナリシハ貴官ヨリ曩ニ露国側ニ説明セラレタル通ニテ今日ニ於テモ帝国政府ノ責任アル約束トシテハ右日限ヲ変更スルコトヲ得サルモ事実問題トシテハ結氷ノ時期ハ年ニヨリ一定セサルヲ以テ此際協約速ニ成立セハ海上輸送ノ可能期間ニ於テハ出来得ル限リノ撤兵ヲ実行スルニ努ムルコトトスヘキニ付貴官ハ右御含ミアリタク尚必要ト認メラルルニ於テハ「カラハン」ニ対シ右ノ趣旨ヲ適宜説明セラレ差支ナシ

四八六　十月二十一日　安保海軍次官ヨリ松平外務次官宛

油田・炭田ノ利権地域等ニ関シ海軍側ノ意見伝達ノ件

官房機密第八八八号ノ六

大正十三年十月二十一日

海軍次官男爵　安保　清種（印）

外務次官　松平　恒雄殿

石炭

露国側ニ於テ封鎖区域採掘権ヲ絶対ニ応諾セサル場合ニハ封鎖区域中日本側カ既ニ多額ノ資本ヲ投セル「ズエ」炭鉱ヲ包含スル封鎖区域ノ三割ニ対シ日本ニ採掘権ヲ許可シ別ニ封鎖炭田ノ残余七割ニ相当スル箇所ヲ日本側ニテ別箇所ニ撰定ス可キニ依リ労農政府ハ之ニ対シテモ石炭採掘権ヲ許可スルコト

・将来労農政府ニ於テ封鎖炭田ノ残余七割ノ開発ヲ合弁経営又ハ外国ニ許可セムトスル場合ニハ日本ニ其ノ参加又ハ許可ノ優先権ヲ与フルコト

二　報効油炭分配率

(イ)石油、出油量ノ五分乃至一割五分ノ歩油ヲ労農政府ニ提供ス但シ自噴油ニ対シテハ前記歩油ノ三倍迄ヲ提供スルモ差支ナシ

(ロ)石炭、出炭量ノ五分ヲ歩炭トシテ労農政府ニ提供ス

利権地域ハ前記ノ如ク之ヲ定ムト雖モ已ムヲ得サレハ石油ニ関シテハ露国側ノ利益ヲ考慮シ之ヲ下記ノ如クスルモ異存無之

利権地域中(イ)項及(ロ)項ノ有望油田ハ共ニ其ノ三割ヲ露国

側ノモノトシ残ル七割ヲ日本側ノ油田トシ之ヲ合併シテ共同経営ヲ行フ

但シ之ニ要スル事業経費ハ日露油田ノ比例ニヨリテ支出シ利益ハ出資ノ割合ヲ以テ分配スルモノトス尚歩油ハ利益分配ノ割合ヲ以テ負担スルモノトス

以上ハ海軍トシテ達成ヲ希望スル条件ナリト雖モ交渉ノ成立上万已ムヲ得ストセハ利権地域ニ関シテハ之ヲ更ニ左ノ如ク改更セラルルモ致方無之

(甲)石油利権地域(イ)項ノ三割ハ之ヲ無償ヲ以テ労農政府ニ返還ス

但シ将来労農政府ニ於テ日本ノ返還セル油田ヲ合弁経営又ハ外国資本ニヨリ開発セントスル場合ニハ日本ニ利権参加乃至許可ノ優先権ヲ与ヘシムルコト(ロ)項ノ条件ニ同シ

(乙)又(イ)及(ロ)項ニヨリ労農政府ニ返還ス可キ油田ノ割合ハ之ヲ全体ノ三分ノ一ト改更スルモ差支無之

(丙)石炭利権地域ニ関シテハ海軍トシテハ封鎖炭田ヲ放棄シ右以外ノ地ニ於テ之ニ匹敵、相当スル炭田ノ採掘権ヲ許可セシムルコトトスルモ可ナリ

但シ将来労農政府ニ於テ封鎖炭田ノ開発ヲ合弁経営又ハ外国ニ許可セムトスル場合ニハ日本ニ其ノ参加又ハ許可ノ優先権ヲ与ヘシムルコト

四八七　十月二十二日(着)　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

本国政府ヨリノ回訓ヲ受ケカラハンヨリ会議再開ヲ申越シノ件

第一〇三九号　至急

十月二十一日「カラハン」ヨリ突然会議開催方申入アリタル処本使トシテハ莫斯科ノ回訓ニシテ少クトモ本使ノ私案（未タ政府ノ御承認ヲ得居ラサルモノ）ニ接近セルモノニ非サレハ仮令会議ヲ続開シタリトテ何等意義無キ事ト思考シタルニ依リ二十一日島田ヲ「カ」ノ許ニ遣ハシ右ノ次第篤ト申入レシメタルニ今回ノ莫斯科回答ハ本使ノ私案ニモ及ハサル内容ノモノナル事判明シタル処「カ」ヨリ其後モ再三会議再開ノ希望ヲ申越セルニ付テハ兎ニ角往電第一〇一五号ニ対シ何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

四八八　十月二十二日　幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）

北樺太利権問題以外ノ諸事項ニ対スル政府ノ譲歩案訓電ノ件

第六六一号　至急極秘

随時貴電ヲ以テ請訓セラレタル北樺太利権問題以外ニ関スル各事項ニ付テハ左ノ趣旨ニ依リ先方ト折衝シ一方「カラハン」ヨリ提出スヘキ案ニ就テハ迅速提示ヲ求メラレ交渉進捗方努力セラレタシ

一「ポーツマス」条約ノ有効承認ニ追加規定ヲ設ケムトスル先方申出ハ別電第六六二号所載ノ理由ニ依リ到底承諾シ難シ

二通商条約ニ関スル条項ニ付テハ別ニ電報スヘシ

三貴電第九四二号其一ノ(二)宣伝禁止ニ関スル先方修正案ニ従フ時ハ取締ルヘキ目的物狭少ニ失スルヲ以テ我方第二項ハ其儘トシ我原案ノ次ニ左ノ通リ追加スルコトトシタシ

Each of the High Contracting Parties also engages not to support any organizations or groups pretending to be a government of the other party, or agents of such organizations or groups.

四貴電第九五三号第二、一般利権ニ関スル協約案第六条中ヨリ「日本国政府」ノ文字ハ之ヲ削除シ差支ナシ

五貴電第九四八号第一大使館敷地問題ニ関スル露国提案中旧露国大使館ノ property 云々トアルハ露国側ニテハ本件敷地モ露国ノ所有ナルカ如ク誤解シ居ルヤニ認メラルル処本件敷地ハ元来日本政府ヨリ露国大使館ニ貸与セルモノニシテ東京ノ都市計画等ノ為早晩必要トナルコトナルヘキニ付露国側ノ提案ノ趣旨ニ必要ノ修正ヲ加ヘ別電第六六三号ノ通リ対案ヲ作成セリ

尚往電第三八三号在露日本大使館及領事館ノ現況査報方至急督促ノ上何分ノ儀電報アリタシ

六「ベッサラビヤ」条約問題ニ付テハ従来申進シタル理由ニ依リ我方トシテハ右条約ヲ批准セサルコトニ付何等約束スルヲ得ス

四八九　十月二十二日　幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛（電報）

ポーツマス条約ノ効力ヲ毀損スルカ如キ規定ノ挿入ニハ絶対ニ応シ難キ旨訓電ノ件

第六六二号　至急極秘

貴電第九四八号第二「ポーツマス」条約問題ニ関シ「カラハン」ハ曾テ労農政府ハ同条約ノ締結ニ関スル責任ヲ負ハサル旨付記シタシト云ヒ今回ハ更ニ同条約ノ内容ニ対シ責任ヲ負フヲ得スト付記センコトヲ主張シタル趣ナルカ既ニ一方ニ於テ本条約ノ存続ヲ公認スル以上同条約ハ国際的ニハ完全ニ効力ヲ発生スルモノニシテ之カ締結又ハ内容ニ付政治的ニ又ハ道徳的ニ責任ヲ負ハスト云フカ如キハ全ク露国側一方ノ国内問題ニ属シ斯ルコトヲ国際条約中ニ記入セントスルカ如キハ甚タ当ヲ得サル次第ナルノミナラス斯ル記入ハ同条約ノ効力ヲ承認ストノ趣旨ヲ毀損スルモノニシテ万一幾分ニテモ「ポーツマス」条約ノ効力ヲ傷ツクルカ如キ規定ヲ挿入スル場合ニハ貴説ノ通リ枢密院ノ通過至難ナルハ勿論国内輿論ノ到底認容スル所トナラサルハ明瞭ニシテ如斯追加ハ当方ノ絶対的ニ応諾シ能ハサル処ナリ貴官ハ右ノ趣旨ヲ体シ右ノ如キ修正案ハ先方ニ於テ之ヲ撤回スル様説得セラレタシ

尤モ先方カ本条約締結後ニ至リ帝政露国カ日本国ト「ポーツマス」条約ヲ締結シタル責任ヲ負ハサル旨任意ノ声明スルカ如キコトアルモ帝国政府トシテハ如何トモスルコト能ハサルモ我方ニ於テハ先方カ斯ル声明ヲナスコトニ付テモ此際予メ同意ヲ与フルコトヲ得サル次第ナルニ付是亦御承知置キアリタシ

四九〇　十月二十三日　幣原外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

油田・炭田利権ノ区域、期限等ノ点ニ付キ回訓ノ件

別電　甲　十月二十三日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第六六九号

乙　北樺太利権ノ区域、期限等ニ関スル我方ノ案

十月二十三日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第六七〇号

北樺太利権ノ区域、期限等ニ関スル我方ノ案

第六六八号　極秘

貴電第一〇一五号及第一〇三九号ニ関シ

北樺太利権ノ区域、期限、利権ノ許与ヲ受クル者及付帯事業ノ点ニ関シテハ累次ノ貴電ニ依リ篤ト考慮ヲ加ヘタル上今般別電第六六九号第六七〇号ノ通決定セルニ付貴官ハ右ノ趣旨ニ依リ交渉ヲ取纏ムルニ努メラレタク以上ノ外往電第五九四号ヲ以テ電報シタル北樺太利権ニ関スル主義的規定中後ノ三項即チ報償、課税免除、保護便宜ノ供与及本件利権ト抵触スル権利ヲ設定支持セサルコトニ関シテハ大体従来通ノ方針ニ依リ我方提案ヲ維持スルコトトシタシ尤モ油田中自噴油井（gusher）ヲ見タル場合ニハ之ニ対スル報償ハ我原案記載ノ報償歩合ノ三倍ヲ交付スルコトトスルモ差支ナキニ付右御含ミアリタシ

尚油田炭田開発ニ関スル優先権ヲ設定スルトキハ華府会議等ニ於テ我方ノ声明シタル機会均等主義ト抵触スルモノトシテ批難ヲ惹起スルノ虞アルヲ考慮シ別電ノ通リ立案シタル次第ナルニ付右貴官限リトシテ御含ミ置キアリタシ

将又前記別電各項ニ番号ヲ付シタル結果之ニ接続スヘキ往電第五九四号ノ最後ノ三項ニハ順次八、九、十ノ番号ヲ付スルコトトナル次第ナリ

（別電　甲）

十月二十三日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第六六九号

北樺太利権ノ区域、期限等ニ関スル我方ノ案

別電甲　第六六九号

The Contracting Parties have agreed upon the following as the basis for the Concession Contracts to be negotiated immediately upon the coming into force of the present Convention and to be concluded within months from that date.

1. The Government of the U.S.S.R. agrees to grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan the concession for the exploitation of 60%, in area, of each of the oil fields in Northern Saghalien which are mentioned in the Memorandum submitted to the Russian Representative by the Japanese Representative on August 29th, 1924, it being understood that all the wells now being drilled or worked by Japan are to be included within that percentage.

2. As regards the remaining portion of the oil fields mentioned in the said Memorandum, it is agreed that if the Government of the U.S.S.R. does not undertake on its own account the exploitation of any of these oil fields within three years after the coming into force of the present Convention, it shall

grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan the concession for such unexploited oil fields.

3. The Government of the U.S.S.R. also agrees to grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan the concession for the exploitation of 60%, in area, of all the other established oil fields in addition to those mentioned in the said Memorandum as well as of all the oil fields which may be established in future as a result of Japanese exploration in Northern Saghalien.

4. The Government of the U.S.S.R. agrees to grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan the concession for the exploitation of (1) the coal field in the southern part of the former closed district, constituting 30% of that district and including that portion which is now being exploited by Japan, and (2) coal fields over a specific area outside the former closed district.

5. It is agreed that if the Government of the U.S.S.R. does not undertake on its own account, within three years after the coming into force of the present Convention, the exploitation of the remaining portion of the coal field within the former closed district, it shall grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan the concession for such, unexploited coal field.

6. The period of the concessions for the exploitation of oil and coal fields stipulated in the preceding paragraphs shall be from forty to fifty years.

7. The said Japanese concerns shall be permitted to fell trees needed for purposes of the enterprises and to set up various undertakings with a view to facilitating communication and transportation of materials and products. Details connected therewith shall be arranged in the Concession Contracts.

（別電　乙）

十月二十三日松原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第六七〇号

北樺太利権ノ区域、期限等ニ関スル我方ノ案

別電乙第六七〇号

締約国ハ本協約ノ効力発生後直チニ商議ヲ行ヒ右期日ヨリ箇月以内ニ締結セラルヘキ利権契約ノ基礎トシテ左ノ通約定ス

一、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ一九二四年八月二十九日日本全権ヨリ露西亜全権ニ提示セル覚書所載ノ北樺哈喱ニ於ケル油田ノ各箇ニ付其ノ地積ノ六割ヲ開発スルノ利権ヲ日本政府ノ推薦スル日本当業者ニ許与スルコトニ同意ス右六割中ニハ現在日本ニ於テ掘鑿又ハ作業中ナル一切ノ坑井ヲ包含スルモノトス

二、前記覚書ニ記載セル油田ノ爾余ノ部分ニ関シテハ本協約ノ効力発生後三年以内ニ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニ於テ此等油田中自ラ開発ヲ行ハサルモノアルトキハ日本政府ノ推薦スル日本当業者ニ右未開発油田ニ対スル利権ヲ許与スヘキモノトス

三、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ更ニ北樺哈喱ニ於テ前記覚書ニ記載セルモノ以外ノ一切ノ確定セル油田並日本側調査ノ結果将来確定セラルヘキ一切ノ油田ニ付其ノ地積ノ六割ヲ開発スルノ利権ヲ日本政府ノ推薦スル日本当業者ニ許与スルコトニ同意ス

四、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ日本政府ノ推薦スル日本当業者ニ対シ(一)旧封鎖区域炭田中現ニ日本側ニテ稼行中ノ炭坑ヲ包含スル南部三割及(二)右封鎖区域以外ノ場所ニ於テ特定地積ノ炭田ヲ開発スルノ利権ヲ許与スルコトニ同意ス

五、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニ於テ旧封鎖区域炭田中爾余ノ部分ニ付本協約ノ効力発生後三年以内ニ自ラ開発ヲ行ハサルトキハ右未開発ノ炭田ニ対スル利権ヲ日本政府ノ推薦スル日本当業者ニ許与スヘキモノトス

六、前記諸項ニ規定セル油田及炭田ノ開発利権ノ期限ハ四十年乃至五十年タルヘシ

七、日本当業者ハ本企業ノ為必要ナル伐木ヲ行ヒ並交通ト物資及生産品ノ運輸トヲ容易ナラシムル為各般ノ施設ヲ為スコトヲ許サルヘシ

右ニ関スル詳細ハ利権契約中ニ規定セラルヘキモノトス

四九一　十月二十五日　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

利権問題以外ノ諸点ニ対スル新訓令ヲメグル
カラハントノ討議報告ノ件

別　電一　十月二十五日在中国芳沢公使発幣原外務大臣
宛電報第一〇六四号
漁区協約問題ニ関スル露国側ノ修正案
二　十月二十五日在中国芳沢公使発幣原外務大臣
宛電報第一〇六五号
樺太西海岸ニ漁区ノ設定ヲ許ササル旨ノ露国
側声明案

第一〇六三号　至急極秘　（十月二十六日接受）

利権問題ニ関スル屢次ノ往電ニ対シ未タ御訓令ニ接セサル内（貴電第六七〇号ハ当地政変ノ結果十月二十五日拝読セリ）貴電第六五八号及第六六一号乃至六六四号等接到御訓令ノ次第モアルニ付十月二十四日会議ヲ再開シ右貴電御来示ノ諸問題ニ付夫々敷衍説明ヲ加ヘ之ヲ「カラハン」ニ披露シタリ右ニ対シ「カ」ハ

第一、宣伝禁止ニ関スル我方修正追加案ニ対シテハ篤ト研究ノ上確答スヘシト答ヘ

第二、大使館敷地問題ニ関スル我方対案ニ付テハ別段異議ナキヤト考ヘラルル旨ヲ答ヘ

第三、在露日本大使館及領事館ノ現況査報方ニ関シテハ既ニ電信報告ニ接シタルカ大使館ノ外見ハ兎ニ角其ノ内部ハ相当荒廃シ居ルモノノ如ク右ハ最近労農政府ノ管理シ得ルニ至ル迄「ペトログラード」カ反過激派騒擾ノ巷トナリ充分監視モ行届カサリシ為ナルカ何レ詳細ハ書面ノ報告アル筈ナリト答ヘタルヲ以テ本使ヨリ速カニ書面報告接到ノ運ヒトナル様尚電報ヲ以テ督促方ヲ請求シ「カ」ハ之ヲ承諾セリ

第四、通商条約問題ニ関スル我方原案第四条㈠ニ付「カ」ハ本使ノ説明ヲ諒トシ更ニ解リ易キ様案文ヲ作成スルコトトスヘシト述ヘ㈡ニ付テハ次回会議ニ於テ双方ノ説明ヲ明カニスルコトトシ㈢ニ関スル貴電第六二〇号御来示ノ我方提案前段ヲ

The two High Contracting Parties shall establish their trade relations in accordance with the laws of each country, and neither shall apply to the other especially any inequitable measures

（以下我方提出案通リ）ト追加修正シタリ

右ハ外国貿易部ヨリノ注意ニ基キ外国貿易国営ニ伴フ制限例ヘハ輸出入許可証等ノ制限ヲ維持スルカ為国内法ニ従フヘキ旨ヲ記載セルモノニシテ然ラサルトキハ後日日本側ヨリ斯ル手続ノ必要ナキコトヲ主張セラルルコトナキヲ保セスト説明シ本使ヨリ右ノ文句挿入ノ可否ニ関スル帝国政府ノ意向ヲ問合スヘキ旨ヲ答ヘ置ケルニ付テハ右ニ対シ何分ノ儀御回示アリタシ

第五、「ベッサラビヤ」問題ニ関シ「カ」ハ日本政府ニ於テ同条約ヲ批准セサルコトヲ約スルヲ得ストセハ或ハ之ヲ批准スルニ至ルヤモ計リ難キ意向ト解セサルヲ得ス従テ莫斯科ニ対シ不良ノ感ヲ与フルコトトナルヘク何等カノ形式ニテ日本カ批准スル意志ナキコトトシ置クニ非サレハ莫斯科政府トシテハ之ヲ単ナル批准問題ト考ヘシテ同政府ニ対シ何等カ悪意ヲ有スルニ非スヤトノ疑念ヲ抱クヲ恐ル又

第六、「ポーツマス」条約ニ関スル露国側修正案ニ対スル日本側ノ反駁理由ハ政治上並道徳上ノ責任ヲ問ハスト云フハ露国々内問題ニシテ国際条約中ニ記入スルハ不当ナリトノコトナルモ之ヲ国内問題トシテ取扱フモノナラハ敢テ日本ノ同意ヲ求ムル迄モナク随意ニ行ヒ得ヘキ処ニシテ元来帝政時代ノ条約ノ効力ニ関シテハ労農政府ハ革命成立後一般ニ其ノ無効ナルコトヲ世界ニ宣明セル次第モアリ右ノ主義ハ国内法上ノミナラス国際的ニモ之ヲ明カニセンカ為此ノ種修正ヲ加ヘントスルモノニシテ「ポーツマス」条約ハ日本カ特ニ重要視シ居ルニ顧ミ特ニ其ノ効力ヲ承認セントスルモノナルカ故ニ露国側修正ノ趣旨ヲ条文中ニ掲クルヲ欲セサル日本側ノ主張ナルニ於テハ之ヲ付属文書トスルコトナラハ莫斯科ニ請訓シ得ルモ全然之ヲ削除スルハ甚タ困難ナリト述フル処アリ本使ヨリ「ベ」条約及「ポ」条約ノ二問題ニ付テハ是迄既ニ充分日本側ノ主張モ説明シアル処ナルヲ以テ此上論議ノ必要ナカルヘク帝国政府ノ意向ハ其儘莫斯科ニ伝達アリタシト述ヘタルニ「カ」ハ之ヲ諾シ次テ

第七、撤兵問題ニ関シ日本側ニ於テハ撤兵ノ実行ヲ海面ノ結氷ト謂フカ如キ天候ノ事態ト関連セシムルモノナル処本件ニ関シテハ更ニ何等カノ方法ヲ考ヘサルヘカラス例ヘハ一部ハ今日ヨリ撤兵ヲ開始シ交通ノ関係上撤退不可能ナル地方ニ駐屯スル軍隊ニ付テハ其ノ武装ヲ解キ武器ハ露国側委員立会ノ上之ヲ倉庫ニ保管スルコトトスルモ

一方法ナルヘシ蓋シ露国側トシテハ協約調印後尚武装セル外国軍隊ノ駐屯ヲ認ムルヲ得サルモ平和ノ民トシテ残留セシムルノ外ナカルヘシト述ヘタルカ本使ハ貴説ノ如ク仮令今日一部分ノ撤兵ヲ実行スルモ残リノ部分ニ付テハ依然天然ノ事情タル気候ノ関係ヲ考慮セサルヘカラサルノミナラス残留軍隊ノ武装ヲ解除セシムルカ如キハ絶対ニ承認シ難シ要スルニ本問題ニ関スル帝国政府ノ意向ハ今日説明ノ通リニシテ之ニ対スル貴下ノ意見ハ一応政府ニ報告シ置クヘシト告ケタリ

第八、漁区協約問題ニ関シ「カ」ハ別電第一〇六四号ノ如キ修正案ヲ提出シタルヲ以テ本使ハ斯ノ如キ修正案ハ本使ノ全ク予期セサル所ニシテ曩ニ貴下ニ於テ我方原案ニ対シ単ニ「新事態ニ応シ」云々ノ文句ヲ付加スル趣旨ナリシ処今日ノ修正案ニ依レハ従来ノ漁業協約ハ依然其ノ効力ヲ存続スルモノナリトスル我方主義上ノ主張ト相容レサルモノアリ現在ノ漁区租借契約ニ付テハ単ニ其ノ効力ニ関シ何等カノ規定ヲ設ケントスル趣旨ナルニ於テハ考慮ノ余地無キニ非サルモ漁業協約ノ効力ヲ無視スルカ如キ規定ニハ同意スルヲ得サル旨ヲ主張シタルニ「カ」ハ労農政府実際上ノ主義ニモ反スヘク右ハ我方ノ全ク予期セサル困難ナル一事態トシテ至急帝国政府ニ報告スルノ必要アリト告ケ時間ノ都合上其儘散会セリ

（別　電一）

十月二十五日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一〇六四号

漁区協約問題ニ関スル露国側ノ修正案

第一〇六四号　別電　至急極秘

The Two Contracting Parties agree to proceed to the revision of the Fisheries Convention of 1907 in accordance with the new conditions and the laws of the country and also taking into consideration the existing system of leasing the fishing lots.

Pending the conclusion of a new convention there shall be applied the system of leasing the fishing lots to Japanese nationals as existing at the present time by virtue of the laws of the country.

（別　電二）

十月二十五日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一〇六五号

樺太西海岸ニ漁区ノ設定ヲ許サザル旨ノ露国側声明案

ハ漁業協約ノ効力ニ関スル双方主義上ノ見解ニ相違アルハ事実ナルモ既ニ協約ノ改訂ト云フ時其ノ効力ニ関スル主義上ノ主張ハ之ヲ放棄スルコトトナラサルヲ得ス従テ「新事態ニ応シテ」改訂スルコトトスルノ外ナカルヘシ又日本トシテハ「漁区租借契約ニ依リ」ト云フカ如キ書方ニハ同意シ得サルヘキモ露国側トシテモ漁業協約ノ効力ヲ認ムルヲ得サル主義上ノ主張ナルカ故ニ結局修正案ノ如キ書方トナルノ外無キ次第ナリト述ヘ更ニ本使ヨリ将来漁業協約改訂ノ際ニハ貴方修正案ニ掲クルカ如キ種々ノ議論モアルヘキ処今日ヨリ斯ル規定ヲ掲クル必要無ク我方原案通リニテ差支ヘ無カルヘキ旨ヲ説示シ先方修正案ハ帝国政府ニ於テモ同意セサルヘキ旨ヲ付言シ兎ニ角政府ニ報告スヘシト告ケタルカ更ニ「カラハン」ヨリ別電第一〇六五号ノ如キ声明案ヲ提示セルヲ以テ本使ハ右声明ハ結局北樺太ニ於テ漁業ヲ許可セサル趣旨ナル処実際漁業ノ行ハルルハ北樺太ノ西北部ニシテ軍事上之ヲ禁止スル必要アリトモ思考セラレサルノミナラス同地方ノ漁業ハ日本人ニ許スヘシトノ事ナリシヲ以テ今日殊更我方ヨリハ之ヲ要求セサリシ次第ニシテ右声明ノ如キ方針

第一〇六五号　別電　至急極秘

In order to avoid any misunderstanding, the Government of the Union of Soviet Socialist Republics deems it necessary to declare that the fishing lots on the western shores of Saghalien can not be leased.

四九二　十月三十一日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

カラハンヨリ提示ノ協約案対案ヲメグリ応酬ノ件

別　電一　十一月一日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一一〇五号

日本側ノ協約案ニ関スル露国側ノ対案

二　十一月二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一一〇六号ノ一

目下作業中ノ油田・炭田ノ継続ハ認メル旨ノカラハンノ書簡

三　十一月二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一一〇六号ノ二

尼港類似事件ニ関シ日本ハ遺憾ノ意ヲ表明スル旨ノカラハンノ公文案

四　十一月二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛
電報第一一〇六号ノ三
日本ハベッサラビア条約ノ批准ヲセザル旨ノカラハンノ公文案

五　十一月二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛
電報第一一〇六号ノ四
労農政府ハポーツマス条約ノ政治責任ハ負ワザル旨ノカラハンノ書簡

第一一〇四号　至急極秘　（十一月一日接受）
往電第一〇九二号ニ関シ
先方準備ノ都合ニ依リ十月三十日会見シタル処「カラハン」ハ前回約束セル対案起草ノ趣旨トシテ是迄主張シ来レルカ如キ一応ノ説明ヲ付シ本対案ハ露国側多大ノ譲歩ヲ意味スルモノナル処之ニハ重大ナル一ノ条件アリ即チ本協約ノ効力発生ノ時ヨリ真実ノ冬ニ至ル迄ノ間ニ北樺太ヨリノ撤兵ヲ了セラルヘキコト是ナリトテ別電第一一〇五号ヲ以テ説明報告ノ如キ協約案ヲ提出シタリ仍テ本使ハ之ヲ一覧シタル上「カ」ニ対シ本対案ハ或点ニ於テハ日本側ノ主張ヲ容レタルモノナキニアラサルモ本使従来ノ説明ニ拘ラス尚我方提案ヲ拒絶セル点モ少カラス例ヘハ

(一)第三条漁業協約改訂問題ニ関シテハ本使過般来ノ説明ニ拘ラス露国側ノ主張ノミヲ掲ケ居ル処此点ハ今日迄本使ノ有スル訓令ニ拠レハ我方ノ同意シ難キ所ニシテ(二)通商条約ニ関スル第四条(三)ニ就テハ目下請訓中ナリ(三)殊ニ利権ニ関スル議定書(B)ニ於テハ(イ)油田ノ地域ヲ依然四割トシ(ロ)基盤ノ目ニ区分セル区画ノ選択方ニ付連接セル区画ヲ与ヘストシ(ハ)将来ノ試掘区域ヲ単ニ一千平方露里ニ限リ(ニ)炭田ノ地域ニ就テハ現ニ作業中ノ炭坑ノミナラス封鎖地域ニ対シ何等言及スル所ナク(ホ)報効金ニ就テモ石油及石炭共ニ露国側ノ主張ヲ固執スルニ過キス(ヘ)尚又主義的規定ノ項目トシテ我方ノ重要視スル課税免除及便宜供与ニ関スル規定ヲ削除セルカ如キハ本使ノ承認スルヲ得サル顕著ナル諸点トス(四)又過渡期ニ対スル事業継続ノ期間ヲ六ケ月トシアルモ右ハ利権契約成立迄トセサルヘカラサル旨貴電第六七三号御来示ノ趣旨ヲ敷衍説明スルト共ニ本件事業継続ニ伴フ先般露国側申出ノ条件ハ露国側ニ於テ我方主義的規定ニ同意スル場合ニハ之ヲ承認スルモ差支ナキ日本政府ノ意向ナリシ処露国側ニ於テ我方主義的規定ニ同意セサルノミナラス今回ノ案ニ拠レハ事業継続ニ関スル条件ノ中無線電信ニ関ス

ル点ノ如キハ先般申出ナカリシ新ナル条項ナリ事情右ノ如キ次第ナルヲ以テ事業継続ニ伴フ条件ノ諸点ニ対シテモ到底同意スルヲ得ス(五)尼港事件陳謝文ノ形式ハ不可ナキモ露国側ノ欲セサル文字ヲ削除シ単ニ尼港ニ起レル「アクト」ニ対シ遺憾ノ意ヲ表ストスルノミニ就テハ何事ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スルモノナリヤ明ナラス(六)尚尼港事件ト同様ノ事件ヲ労農政府ヨリ提起スル場合ニハ日本政府ニ於テ等シク遺憾ノ意ヲ表スヘシトノ付属文書ハ西比利亜出兵中ニ於ケル日本軍ノ行ヘリト称セラルル行動ヲ指スモノト察セラルル処此点ニ関シテハ曾テ反覆説明セルカ如ク日本政府ハ西比利亜出兵中ノ出来事ニ毫モ責任ヲ負フ理由ナク従テ此種文書ノ如キハ絶対ニ承認スルヲ得ス(七)「ベッサラビア」条約ヲ批准セサルヘキ約束ハ政府ノ訓令ニ基キ既ニ明言セルカ如ク同意スルヲ得ス(八)「ポーツマス」条約ノ内容ニ就キ政治上ノ責任ヲ負フヲ得ストノ声明案ニ対シテモ既ニ説明ノ如ク同条約ノ効力ノ承認ニ影響ヲ及ホスカ如キ此種声明ヲ承認スルヲ得ス

以上ハ露国側今回ノ対案ヲ概略通覧シテ得タル感想ヲ述ヘタルモノニ過キスシテ右ノ外尚同意シ難キ点ナキヲ保シ難キ旨付言セルニ「カ」ハ本協約ハ今回ノ対案ニ依リ其成否ヲ決定スヘキ最終ノ時期ニ入レルモノナリトテ比較的重要ナラサル問題例ヘハ漁業協約並通商条約ニ関スル事項等ニ就テハ成ルヘク速ニ日本政府ノ回訓ヲ得ラレタキコト又利権問題ニ関スル日本側主張ノ核心タル現在ノ油井全部ヲ承認スルコトトセルハ露国側多大ノ譲歩ナルコト等ヲ縷述シ炭田ノ区域ニ関シテハ現ニ作業中ノ炭坑及封鎖地域ニ関シ特ニ言及スル処ナキハ孰レモ所謂「特定地域」中ニ包含セシメサルコトヲ意味ス又事業ノ継続期間ニ就テハ日本側ニ於テ故意ニ利権契約成立ヲ遅ラシムルコトナカルヘキハ貴公使説明ノ通リニ相違ナキモ将来利権契約締結ノ相手方ハ日本政府ニアラスシテ日本ノ当業者ナルカ此等企業家ハ必スシモ資金ヲ投シテ事業ヲ継続スルコトヲ欲セサルコトモアリ得ヘク従テ莫斯科政府トシテハ右期間ヲ利権契約成立迄トスルコトニハ到底応セサルヘシ又無線電信設備ノ如キハ元来利権経営ト直接関係ナキ処露国々法ニ拠レハ外国人ニ対シテノミナラス自国民個人ノ施設ヲモ許サス専ラ政府ノ管掌スル処ナリ又尼港事件謝罪文ニ関シテハ当時労農政府ノ及ハサル地方ニ於テ正規軍ニアラサルモノニ依リ行ハ

レタル事件ナルヲ以テ之ニ対シ陳謝ノ必要ヲ認メ居ラサルモ日本側ノ切ナル主張ニ顧ミ同意セル次第ナルヲ以テ日本正規軍ニ依リ行ハレタル同種ノ残虐行為判明スル場合ニハ露国側ヨリモ同様謝罪ヲ求ムルヲ公平トスヘシ次ニ「ポーツマス」条約ニ関スル付属「ノート」ノ点ハ同条約ノ法律上ノ効力ハ完全ニ認ムヘキモ労農露国特殊ノ事情ニ基キ政治上ノ責任ヲ負ハサルコトヲ明ニシ置ク必要アリ猶「ベッサラビア」条約ニ至リテハ日本ノ為ニハ重要問題ニアラサルニ反シ露国側ニトリテハ極メテ重大問題ナルカ故ニ重ネテ承認ヲ求ムル次第ニシテ実ハ最近ニ至リテハ羅馬尼自身本問題ニ対スル意向従前ト異リ来レルニ拘ラス日本独リ強硬ナル態度ヲ維持スル必要ナカルヘシト主張スル処アリ本使ハ貴我ノ意見尚一致セサル諸問題中殊ニ重要ナルハ㈠油田地域ヲ碁盤目ニ区分セル各区画ヲ連続シテ与ヘサルノ仕組ハ我方ノ到底同意シ難キ処ニシテ斯ノ如ク日露ノ油田区画相隣接スルトキハ相互ノ油井ノ出油ニ影響スルノミナラス其他諸般ノ設備ノ紛糾ヲ免レス延テ当業者ニ於テ事業ノ経営上幾分ノ不便不利ヲ忍ハサルヘカラサル結果トナルヘク又㈡炭田ニ関シ封鎖区域ハ之ヲ許与セサル趣ナルヲ以テ仮令過渡期ニ於ケル事業ノ継続ヲ認ムルコトトスルモ早晩之ヲ取上クルモノトセハ何カ為ニ事業ノ継続ヲ認ムルモノナリヤ毫モ意味ヲ為サス加之今回ノ案ニ於テハ封鎖区域ニ付優先権ヲ認ムル規定ヲモ削除スルニ至レリ利権ニ関シ本使ノ同意シ得サル諸点中右二点ノミニテモ格段ナル意見ノ相違ニシテ斯ノ如キハ利権問題ノミニテモ協約ノ前途ニ対シ甚シク悲観ヲ禁スル能ハスト述ヘタルニ「カ」ハ炭田ノ地域ニ付テハ日本側ノミ有望ナル区域ヲ選定スルヲ得サルモ均等ニ区分セル区画ハ油井ノ出油ニ互ニ相影響スル程狭小ナル面積トスルニアラスシテ普通二「デシャチン」即チ三「エーカー」程トスル心算ナルカ貴公使説明ノ如キ地役権ノ紛擾ヲ避クルカ為ニハ互ニ隣接地帯ヨリ僅少ノ土地ヲ割キテ道路ニ充ツルカ如キ方法モアルヘク又利権契約ノ際専門家ノ話合ニ依リテハ連続セル一帯ノ地域ニ区分スルコトモ得ヘシト述ヘ尚本使ヨリノ報効金ニ対スル質問ニ対シ「カ」ハ歩合ノ数字ハ尚協議ノ余地アルヘキモ石炭ニ関シ五分ト云フカ如キ一律ノ歩合トスルコトニハ到底同意シ難シト述ヘタルニ付本使ハ今回ノ露国側対案ニ付テ茲ニ又々難関ニ遭遇シタルヲ覚ユ兎ニ角請訓ノ上追テ何分ノ儀申出ツヘキ旨ヲ告ケ散会シタリ

（別　電一）

十一月一日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一一〇五号

日本側ノ協力案ニ関スル露国側対案

第一一〇五号　別電

第一条及第二条ハ我方原案通リ、第三条ハ往電第一〇六四号ノ通リ、第四条ノ㈠ヲ左ノ書方トス

The subjects or citizens of each of the High Contracting Parties shall in accordance with the laws of the country, (A) have full liberty to enter, travel and reside in the territories of the other, (B) enjoy constant and complete protection for the safety of their lives and property.

同条㈠ノ中段 on condition of reciprocity ヲ省キ之ニ代フルニ in accordance with the laws of the country ヲ以テス

同条㈢ハ往電第一〇六二号ノ第四所報ノ通リ

第五条㈠ハ貴電第六六一号㈢御来示ノ not to support 以下其儘、同条三ノ終リニ or its agent ヲ加フ

第六条及第七条我原案通リ、議定書㈠第一条第二項ハ貴電第六六三号御申越ノ通リ第二条債権及請求権問題ヲ併セテ一個ノ個条トシ貴電第五九六号ノ二ノ中ノ各 at a conference to be subsequently held ヲ at subsequent negotiations ヲ以テ代ユ

第三条ノ「ブランク」ニ two weeks ヲ入レ

第四条我原案ノ通リ

議定書㈡前文ハ我原案通リ㈠末段 it being 以下ヲ削リ左ノ通リ第二項ヲ加フ

For the purpose of determining the area to be leased to the Japanese concerns above-mentioned, each of the oil fields shall be divided into Chequer-Board squares, of which 40% shall be included in the area to be leased, it being understood that such squares as are to be leased to the Japanese are not to be contiguous to one another but that all the wells now being drilled or worked by Japan are to be included within that percent.

但シ第一項ノ「パーセント」ハ四〇%トス

(ハ)ハ左ノ如シ

The Government of U.S.S.R. also agrees to grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan for exploration fields on the Eastern Coast of Northern Saghalien over an area of one thousand square versts during five years, after which period the Government of the U.S.S.R. agrees to grant to the said concerns the concession for the exploitation of 40% in area of all the oil fields which many be established as a result of such Japanese exploration the above-mentioned area of one thousand square versts.

(ロ)我方案四ノ(ロ)以下ヲ左ノ規定トス…… Coal mines over a specific area, which shall be determined in the future concession contract.

(ハ)我方案六ノ通リ

(ニ)左ノ通リ

The Japanese concerns recommended by the Government of Japan shall make over to the Government

of the Union of Soviet Socialist Republics, as royalty for the said concessions, in case of oil fields, from 10 to 15 percent of the gross output, and in case of coal fields, from 5 to 12 percent of the gross output. The percentage shall be definitively fixed in the future concession contracts.

(ホ)我方案(ヘ)ノ通リ

事業継続ニ関スル「ノート」案別電第一一〇六号ノ(ハ)ノ通リ

尼港事件ニ関スル付属「ノート」案ハ我方案文ヨリ

sincere 及 the incident of brutal and criminal ノ字句ヲ削除シタルモノ

其他ノ付属「ノート」別電第一一〇六号ノ(ロ)(ホ)(ヘ)ノ通リ

(別　電一一)

十一月二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一一〇六号ノ一

目下作業中ノ油田・炭田ノ継続ヲ認メル旨ノカラハンノ書簡

第一一〇六号ノ一　別電　極秘

Draft of Note.

Monsieur le Ministre,

I have the honour on behalf of my Government to declare that the Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees that the work which is now being carried on by the Japanese in Northern Saghalien both in the oil and the coal fields, as stated in the Memorandum handed to the Plenipotentiary of the Union of Soviet Socialist Republics by the Japanese Plenipotentiary on August 29th, 1924, be continued for a period of six months from the day of coming into effect of the Agreement signed on this day, provided the following conditions be abided by the Japanese:

1. The work must be continued in strict accordance with data of the said Memorandum of August 29th, 1924, as regards the area, the number of workers and experts employed, the machinery and other conditions provided for in the Memorandum.

2. The produce, such as the oil and coal yielded, must be preserved and can not be exported or sold.

3. The permission granted by the Government of the Union of Soviet Socialist Republics for the continuation of the work shall in no way be connected with or have any influence on the stipulations of the future concession contract.

4. The Japanese wireless stations situated in Northern Saghalien shall not be allowed to operate.

I avail myself etc.

(Signature)

(別　電一二)

十一月二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一一〇六号ノ二

尼港類似事件ニ関シ日本ヘ遺憾ノ意ヲ表明スル旨ノカラハンノ公文案

第一一〇六号ノ二　別電　極秘

In proceeding this day to the signature of the Convention embodying Basic Rules of the Relations between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics the undersigned Plenipotentiary of Japan has the honour to declare that if the Union of Soviet

Socialist Republics will bring for the facts analogous to the incident—which took place in the town of Nikolaievsk-on-the Amour in year 1920, the Japanese Government shall agree to express the regrets to the Union of Soviet Socialist Republics for such acts.

(Signed)

(別　電四)

十一月二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一一〇六号ノ三

日本ハベッサラビア条約ノ批准ヲセザル旨ノカラハンノ公文案

第一一〇六号ノ三　別電　極秘

Monsieur l'Ambassadeur,

In proceeding this day to the signature of the Convention embodying basic rules of the relations between Japan and the Union of Soviet Socialist Republics the undersigned Plenipotentiary of Japan has the honour to declare that Japan has no intention of ratifying the Protocol on Bessarabia, signed in 1921 by the Ambassadors of Four Powers in Paris.

(Signature)

(別　電五)

十一月二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一一〇六号ノ四

労農政府ハポーツマス条約ノ政治責任ハ負ワザル旨ノカラハンノ書簡

第一一〇六号ノ四　別電　極秘

Monsieur le Ministre,

In proceeding this day to the signature of the Convention embodying the Basic Rules of the Relations between the Union of Soviet Socialist Republics and Japan, the undersigned Plenipotentiary of the Union of Soviet Socialist Republics has the honour to declare that the recognition by the Union of Soviet Socialist Republics of the validity of the Treaty of Portsmouth of September 5, 1905, does not in any way signify that the Government of the Union assumes the political responsibility for the tenor of the said treaty, this responsibility lying entirely on the anti-popular Tsarist Government.

(Signature)

カラハン提出ノ対案ニ付キ譲歩ノ可能性ヲ打診セシ結果報告ノ件

四九三　十一月一日(着)　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

第一一〇九号　極秘

往電第一一〇四号ニ関シ

十月三十日「カラハン」提出ノ対案ハ多数ノ問題ニ於テ未タ我方ノ要求ヲ容レ居ラサル次第ナル処右ハ果シテ莫斯科政府ノ最終案ナリヤ将又譲歩ノ余地アルモノナルヤニ付今一応念ヲ押シ置クノ必要ヲ認メ十月三十一日本使「カ」ト私的会談ヲ遂ケ篤ト先方ノ態度ニ付探索シタルカ「カ」ハ本件最終妥協案ニ関シテハ昨日モ述ヘタル通リ報効金ノ率ニ付テハ幾分妥協ノ余地アル次第ナルカ其他ノ点ニ関シテハ自分トシテハ今更何等付言スヘキコトナシ実ハ極秘トシテ申セハ先般利権ニ関シテ日本ニ優先権ヲ与フルノ案ニ付莫斯科ニ報告シタル処莫斯科ヨリ右ハ他国側ヨリ苦情ヲ招クヘキニ付不可ナリト一旦拒絶シ来リタルモ自分ヨリ更ニ稟申ノ結果莫斯科モ不本意乍ラ之ニ応シ来リ居タルニ新ニ提出セラレタル日本政府ノ案ニ依レハ右優先権ノ案ハ全然無視サレ強硬ナル新案現ハレタリ自分ハ已ムヲ得ス其儘報告スルト同時ニ現在ノ油井ハ是非共全部四割ノ内ニ包含セシムル様稟申シタルニ対シ莫斯科ヨリ然ラハ右ニ応スヘキモ同時ニ此際従来発送シタル総テノ訓令ヲ総括シ之ヲ日本側ニ提出シ其諾否ヲ求メ事態ヲ明白ナラシムヘシ他国ハ無条件ニテ労農共和国ヲ承認セントスル今日日本ニ対シテハ斯ク迄遷延ヲ重ネタル上尚結着ニ至ラス此上譲歩セサルヘカラサルハ要スルニ自分ノ努力ノ足ラサルニ依ルモノニシテ自分カ斯ル明白ナル事態ヲ日本側ニ弁明シ得サル筈ナシ云々ト言ヒ来レリ其他莫斯科トシテハ今日迄日本側ノ都合ニ依リ屢々休会ヲ重ネ而モ其都度常ニ意外ニ長引キシコトニ不快ノ感ヲ抱キ殊ニ撤兵問題ニ関スル日本側ノ態度ヲ諒解セス深ク疑ヒ居ル次第ナリ事態斯ノ如クナルヲ以テ今ヤ自分トシテハ何等策ノ施スヘキナシ唯油田ニ付碁盤ノ目ノ分配方法ニテハ露国側ノ区画カ日本側ノ区画ニ隣接スル為露国側油井ニ於テ日本側油井ノ油ヲ吸収スルノ惧アリ斯テハ結局骨抜同然トナルヘシト云フ本使ノ非難ニ関シテハ碁盤ノ目ヲ成ルヘク広ク取極メ置キ以テ右ノ如キ心配ヲ能フ

限リ防止スルコトトセハ可ナルヘシ又炭田ニ関シテハ封鎖区域ハ開放セサルニ付日本側現在作業ノ内本区域内ニ在ルモノハ除外サルヘキモ「ロガツイ」炭坑ノ如ク区域外ニ在ルモノハ結局利権契約ヲ締結スルコトトナルヘシト思考スル処「ロガツイ」ニ付此際特ニ規定スルコトナレハ莫斯科ニ取次クモ可ナリ此種新提議ナレハ政府ニ取次キ指示ヲ仰クコトヲ得ヘシ要スルニ今ヤ本交渉ハ事態頗ル困難ニシテ最終ノ幕ニ入リ居レハ労農案ニ対シ日本政府ヨリ至急何分ノ御意見ヲ承リ度キ次第ナリトテ「カ」ハ要スルニ投出シノ態度ニ出テタリ

本使ノ見ル処ヲ以テスレハ往電第一一〇四号中ニ列挙シタル通リ他ノ諸問題ニ於テモ我方トシテ到底承諾シ難キモノアルニ拘ラス最モ重要ナル利権問題ニ関シ彼我ノ間ニ斯ノ如キ多大ノ懸隔アリ而シテ先方ハ尚懸引又ハ虚言ヲ弄スルコトアルニ相違ナカランモ兎ニ角表面ニ於テハ斯ノ如ク頑強ニ其主張ヲ固持シ居リ斯テハ到底本協約成立ノ見込無ク本使ニ於テモ之迄忍耐ニ忍耐ヲ重ネ来リタル次第ナルモ此上ハ遺憾乍ラ帝国政府ニ於テ愈々決裂ノ御決心ニ出テラレンコトヲ稟請セサルヲ得ス

四九四　十一月六日　安保海軍次官ヨリ
松平外務次官宛

北樺太ノ石油・石炭利権ニ関スル交渉進展ニ鑑ミ海軍側ノ意見通達ノ件

官房機密第一二九三号
大正十三年十一月六日

海軍次官男爵　安保　清種（印）

外務次官　松平　恒雄殿

北樺太石油石炭利権地域其ノ他ニ関スル件

欧一機密合第八八〇号及第八八二号ヲ以テ御内報有之候本件ニ対スル当省ノ意見左記ノ通ニ有之候

右申進ス

記

一　利権ノ地域

石油

(イ)　日本側ハ数年間ニ亘リ尠カラサル費用ヲ投下シタル関係上将来ノ経営ヲ困難ニ陥ラシメサル為本年八月二十九日付労農側ニ提示セル油田ノ分割率ニ就テハ是非共日本側ノ主張スル六割獲得案ヲ固持シ度

(ロ)　日本側ニ於テ現ニ掘鑿シタル油井ハ全部日本側ノ油田地域ニ包容セシムルノ件ハ先方ニ於テ認メタルカ如キモ次項ニ記述セルカ如ク二「デシァチン」ヲ単位トスル碁盤ノ目形交互分割ヲ主張シ居レル関係上実際問題トシテ其ノ実行不可能トナルヤモ計ラレス

(ハ)　若シ強イテ碁盤ノ目形分割ヲ先方ニ於テ主張スルトセハ前段(ロ)項ノ条件ヲ満足スル場合ニハ之ニ応諾スルモ差支ナシト雖其ノ一区画ハ少クトモ二十「デシァチン」ヲ下ルヲ得ス是レ日露双方共油田経営ニ当リ吸取唧筒機械ノ設置、送油管ノ敷設等ヲ最モ経済的ナラシメントスル関係上斯ク其ノ単位面積ヲ拡大スルヲ要スルナリ尤モ協定成立後所定ノ割合ニ分割スル場合ハ公平ヲ第一義トスルコト勿論ナリ「バクー」地方ノ如ク世界最モ著名ノ豊富油田地方ニテハ狭少地域内ニテモ経営成効セサルコト無シト雖北樺太ハ油田地トシテハ「バクー」トハ比較トハナラス而モ海陸ノ交通運輸不便極リナク且寒気酷烈ナル土地柄ニ於テ「バクー」地方ノモノト同一律ノ経営眼ヲ以テセハ北樺太ニ於ケル企業ハ必ス失敗ニ終ルヘキハ火ヲ睹ルヨリモ明カナリ

(ニ)　今回労農側ニ返還スヘキ油田ニ対シテハ将来労農政府自ラ之ヲ開発セサル場合ニハ其ノ開発権ヲ日本側ニ許可セシムルコトニ致度

(ホ)　以上ノ外日本ハ北樺太ニ於テ利権契約成立後別ニ「一ケ年内ニ」一千平方露里ノ地域ヲ選定シ油田ノ調査ニ従事スルコトニ同意ス但シ北樺太ニ於ケル地質調査可能時間一ケ年ヲ通シ正味二ケ月半乃至三ケ月ヲ出テサル短期ナルニ鑑ミ労農側ノ提案タル五ケ年ノ調査期間ハ余リニ短小ナリ依テ之ヲ十ケ年内ノ調査期ト為スヲ必要トス

此ノ調査期間内ニ発見確定セル油田ハ其ノ都度(イ)項ノ如ク日本側六割労農側四割ニ分割スルノ主張ハ是非共固持シ度

石炭

日本案ヲ固持致度

二　報効率

総テ日本案通リ固持致度

殊ニ労農側ハ石炭ノ報効率ニ関シ伊太利トノ炭田契約ニ於テ一割五分トセル先例ヲ楯トシ五分乃至一割二分トス

ルモ猶条件日本側ニ有利ナリト説明シアルモ是ト彼トハ全ク趣ヲ異ニシ一ケ年ノ内約三分ノ一カ輸出可能期間ニシテ此ノ間ノ貯炭経費ノ固定、金利等ヲ考慮スルノ要アルト且ハ海陸運輸設備等ニ莫大ナル資金ヲ投セサル可カラサル事情アルヲ以テ炭田ニ於テハ五分以上ノ報効率ハ経営採算上困難ナル所トス

追テ北樺太ニ於ケル既設無線電信使用ノ件ニ関シテハ労農側ハ其ノ使用権ヲ承認セサル意向ナルモ現時ノ如ク通信機関不備ナル同地方ニ於テハ無線電信通信ハ作業経営上絶対的必要ナルノミナラス冬期交通杜絶ノ際冬営者ノ生命保護上ニモ亦緊要ナルモノナルヲ以テ北樺太ニ於ケル労農政府ノ通信設備カ完備スル迄ハ是非共其ノ使用権ヲ承認セシムルコトニ致度場合ニ依リ労農側ニテ一切ノ信文ヲ検閲スルトスルモ当方トシテハ異存無之

四九五　十一月八日　幣原外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

北樺太撤兵問題ニ付キ訓電ノ件

第七一〇号　至急極秘

往電第七〇七号五ニ関シ

撤兵問題ニ関シテハ協定成立セハ成ルヘク速カニ撤兵スルコトニ関シテハ主義上何等ノ異議ナキモ現実ニ撤兵ヲ実施スルコトハ技術的見地ヨリ之ヲ観ル必要アリ右ハ貴官ヨリモ先方ヘ既ニ屢々説明セラレタル所ナルカ由来我方ニ於テハ協定成立セハ撤兵ヲ実施スル方針ヲ以テ之カ準備ヲ為シ来リタル次第ナルモ時機遷延シ既ニ結氷期ニ入ラントスル今日ニ於テハ当初予想シタルカ如キ完全ナル撤兵ハ事実上不可能ニシテ此点ハ同方面ノ事情ニ精通セル露国側ニ於テモ既ニ充分承知セル所ナルヘシ目下輸送中ナル派遣軍ノ一部（戦闘員及非戦闘員合セテ約六百名）ノ引揚ノ如キモ撤兵ニ関スル我方ノ誠意ヲ示スモノナルコトヲ篤ト説明セラレ併テ我方トシテハ協定成立スル場合時候ノ許ス範囲内ニ於テ最善ノ方法ヲ尽ス外ナキ次第ナル旨説明セラレタシ

四九六　十一月十日　幣原外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

日露漁業協約改訂ニ関シ訓電ノ件

第七一二号　極秘

貴電第一〇六三号第八ニ関シ

一、先方ノ修正案ニ依レハ従来我方ノ固持シ来レル主義上ノ主張ヲ全然放棄スルコトトナルノミナラス同国ノ新法制ニ伴フ労働法規、資本的企業ニ対スル過重ノ課税、労働者ノ国籍制限其ノ他本年開始シタル漁区国営主義等ニ付テモ一ニ露国側任意ノ規定ニ依ラサルヲ得サルコトトナリ遂ニ我漁業権ノ実体ヲ喪失シ去ルノ虞アルニ付到底斯ル案ニ同意シ難キハ勿論ナルモ先方ニ於テ我方原案ニ同意セサルニ於テハ貴官私案トシテ別電第七一三号ノ案ヲ提示セラレタシ右案ノ of each Contracting Party ナル文字ハ曾テ先方ノ提案中ニ在リタルモノナリ（貴電第三八〇号参照）

二、申迄モ無ク苟モ協約ノ改訂ト云フ以上該協約ノ有効ヲ前提トシ該協約ノ規定中当事国双方ニ於テ其ノ修正加除ヲ必要トスル事項アラハ其ノ点ニ付商議スヘキ筋合ナルハ当然ノ事理ニ属スルモノト認メラレ従テ我方原案ハ右ノ見解ニ依リタル次第ナルモ先方カ別電第七一三号案ニ同意スルニ於テハ強テ此際右主義上ノ見解ヲ明確ニナシ置クニモ及ハサルヘシ

三、尚樺太西海岸漁業権否認ニ関シテハ従来ノ先方ノ声明ニ反スルノミナラス露領沿岸（河川及入江ノミヲ除外ス）ニ於ケル漁業権ヲ許与シタル「ポーツマス」条約ノ規定ニ反スルモノナルヲ以テ我方トシテハ絶対ニ之ヲ認メ難キニ付右撤回方極力主張セラレタシ

四九七　十一月十一日（着）　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

利権問題其ノ他ニ関スルカラハントノ討議ノ模様報告ノ件

第一一六〇号　至急極秘

貴電第六九一号及第七〇七号乃至第七一〇号ニ関シ

十一月十日会議ヲ開催シ条約ノ前文案ヲ始メ右条文並公文案ノ全部ニ亘リ夫々御来示ノ趣旨ニ基キ右問題ニ対スル我方主張ヲ敷衍シテ努メテ懇切ナル説明ヲ加フルト共ニ㈠条約前文案及前記貴電ニ基キ調製準備セル㈡条約案第四条㈢同第五条㈣議定書㈤並㈥作業継続ニ関スル公文案ニ就テハ各其ノ修正全文ヲ「カラハン」ニ提示シタリ（先方ニ提示セル右五個ノ案文ハ為念更ニ郵送セリ）

其他全般ニ亘レル本使ノ説明ニ対シテハ「カラハン」ハ極メテ熱心ニ傾聴セルモ本使ノ説明長時間ニ亘レル為右ニ対スル先方ノ意見ハ時間ノ都合上翌日ノ会議ニ於テ開陳スルコ

トトシタシト述ヘ要スルニ日本政府今回ノ回訓ハ露国側ノ譲歩セル点ヲ其儘受答シタルニ過キスシテ露国側ノ希望ニ対シテハ毫モ譲ル処ナク斯クテハ事態極メテ困難トナレルヲ感スト嘆シタルカ本使ハ事態ハ今日始メテ困難トナレル次第ニアラスシテ十月三十日露国側ノ対案提示アリタル際既ニ本使ヨリ指摘セル処ナルハ猶貴下ノ記憶ニ新ナルヘシ惟フニ本交渉ニ於テハ従来日本側ヨリ多大ノ譲歩ヲ重ネ来レルニ拘ラス莫斯科政府ニ於テハ例ヘハ油田ノ中日本側ヨリ露国側ニ返還スヘキ部分ニ関スル規定ヲ設クルコトヲスラ肯セサルカ如キハ貴下ノ意見以上ニ強硬ナル態度ト言フヘク（本使カ本件ニ関スル我方主張ヲ説明中「カ」ハ莫斯科政府之ヲ承認セス云々ト言ヲ挿ミタルニ付本使ヨリ右ノ如ク同政府ノ態度ヲ非難シタル次第ナリ）斯クテハ事態ヲ困難ナラシムルコト極メテ当然ト言ハサルヘカラス尤モ「ベッサラビア」規定諸問題等ノ露国側申出ノ公文案ハ悉ク日本政府ニ於テ之ヲ否認スルモノナル処右ニ関シテハ我方ニ於テ同意シ得サル充分ナル理由アルカ為ニ外ナラサル旨ヲ述ヘ重ネテ此等ノ問題ニ対スル我方ノ主張ヲ懇説シタルニ「カ」ハ「ベッサラビア」問題ノ如キハ他国ノ領土ノ割譲

ヲ勝手ニ取極メタルモノナリ又尼港事件類似ノ事件ニ関スル公文案ノ根拠タル西比利亜出兵ノ如キ孰レモ普通アリ得ヘカラサル事柄ナルヲ以テ之ニ関スル処置ヲ必要トスルハ怪ムニ足ラス又最重要ナル利権問題ニ就テモ日本側ハ更ニ譲歩シ居ルヲ認ムルヲ得ス殊ニ碁盤目形ニ区分セル一区画ヲ二十「デシァチン」以上トスヘシト言フカ如キハ余リニ広大ナル区画ヲ要求スルモノナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ日本側ニ於テハ碁盤目形区画ノ露国側分配案ニ同意セルノミナラス区画ノ面積ヲ比較的大ナラシムル点ハ貴下先般ノ説明ニモ顧ミタルモノニシテ且日本側ノ取得スヘキ区画ノミヲ大ナラシムル趣旨ニアラス双方ノ区画ヲ大ナラシムル所以ハ双方ノ為各区画内ニ於ケル施設ヲ完全ナラシメムカ為ニ外ナラス而シテ利権問題ノ経過ヲ回顧スルニ日本側ハ常ニ譲歩ヲ重ネ油田ニ関シテハ八月二十九日ノ覚書記載ノ六割迄譲歩シ露国側主張トノ差異僅ニ二割トナレルニ拘ラス猶日本側譲歩ノ程度足ラサルモノノ如キ言分ハ本使ノ快シトセサル処ナリ殊ニ炭田ニ関シ封鎖区域ノ開発ハ寸毫モ許与シ得スト言フカ如キハ本使ノ最不服ニ堪ヘサル処ニシテ此点ニ関シテハ露国側ノ切実ナル再考ヲ求ムルモノナリ

ト説明セルニ「カ」ハ要スルニ利権問題ニ関スル難点ハ油田ノ分配率ヲ六割トスルコト及炭田ノ封鎖区域ニ関スル点ニシテ其後者ニ付テハ同区域ハ露国側ニ於テ理由アルカ為ニ封鎖スルモノナルカ故ニ同地域ノ開発ハ到底許与スルヲ得ス尚困難ナル問題トシテ撤兵問題アリ本交渉ニシテ決裂スルモノトセハ右諸問題ノ何レカニ原因スルコトトナルヘシ尚石炭ノ報効率ハ伊国トノ契約ノ三分ノ一ニ止メントスルカ如キ点モ到底同意シ難キ処ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ石炭ノ報効率ヲ五分トスヘキ我方主張ハ北樺太ノ土地ノ事情ニ基クモノナルカ既ニ説明ノ通ニシテ右ハ理由アルカ為ノ主張ナルコトヲ細説シ尚終リニ貴電第六九五号（編註）御来示ノ趣旨ニ依リ特ニ先方ノ注意ヲ喚起セルニ対シ「カ」ハ貴公使ノ注意ハ了承セルモ本交渉ハ既ニ調印セルモノヲ発表スヘキカ若ハ決裂セルモノヲ発表スヘキカノ時期ニ到達セルモノト思考シ居レリト答ヘタルニ依リ本使ハ本交渉決裂ニ至ルトキハ固ヨリ自由行動ニ出ツルモ已ムヲ得サル処ナルカ然リトテ日露両国ハ未来永劫ニ国交ヲ断絶シ居ルコトナカルヘク早晩国交回復ノ機会アルヘキモノトセハ今日本交渉仮令決裂ニ至ルモノト予想スルモ徒ラニ自暴自棄ノ態

度ニ出テ相手方ノ感情ヲ害スルカ如キ捨鉢的発表ヲ為ス必要モナカルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ決裂ノ場合ニハ其事情ヲ国民ニ周知セシムル必要ノ手段ヲ執ラサルヘカラサルモノト考ヘ居レリト答ヘ本使ヨリ本交渉ハ未タ決裂ト決定セルニアラサル今日交渉ノ内容漏洩シ之カ為交渉ノ成立ニ累ヲ及ホスカ如キハ賢明ナラサルコトヲ顧慮セルニ過キスト告ケ散会セリ

編註　第六九五号ハ交渉内容ヲ露国側ニテ漏洩ノ有無調査方訓令ノ件

四九八　十一月十二日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

カラハンヨリ協約案全般ニ亘ル意見ヲ陳述シ ココニ総決算ヲシテ決マリヲ付ケタキ旨主張セル件

第一一六八号　至急極秘　（十一月十三日接受）

往電第一一六〇号ニ関シ

十一月十一日ノ会議ニ於テ先ツ本使ヨリ漁業協約改締問題ニ関スル条約案第三条我方原案維持ノ趣旨ニ依リ貴電第七一二号御来示ノ趣旨ヲ敷衍説明シタルニ「カラハン」ハ昨

日以来ノ本使ノ主張ニ対シ全般ニ亘リ逐次意見ヲ開陳スヘシト述ヘ

一、条約前文案ニ付テハ日本側ニ於テ国内法上本条約ノ調印ニ当リテハ元首ノ委任状ヲ必要トスル趣旨ナリシヲ以テ自分ヨリモ中央執行委員会ノ委任状ヲ要請シ置キタル処右ハ既ニ到達シ居ルニ付貴公使ト同様ノ資格ニテ調印シ得ル次第ナリ

二、漁業問題ニ関シ日本側ハ依然漁業協約ノ効力ノ存続ヲ主張シ露国側ニ於テハ飽迄之ヲ無効ト認ムルモノニシテ此点ニ関シテハ議論ヲ重ヌルモ益ナシ尚貴公使今日ノ説明ノ如ク将来ノ漁業協約ハ大体旧漁業協約ト類似スルモノナルヘキハ之ヲ首肯スルモ又同時ニ労農露国カ特殊ノ国柄ナル結果トシテ国際条約ニモ自然新ナル制限ヲ加ヘントスルハ決シテ理不尽ナル希望ト云フ可カラス而モ一面ニ於テハ帝政時代ト異リ単ニ漁業而已ナラス森林其他ノ天然資源開発ノ権利ヲ認ムルモノナルヲ以テ日本トシテハ投資上却テ有利ナルモノト云フヘク従テ漁業協約改締ニ関スル露国側ノ希望ヲ一概ニ拒否スルニ及ハサルヘシ尚形式上ヨリ云フモ一九〇七年締結ノ漁業協約ハ既ニ十七年ノ期限ヲ経過シ居リ労農政府トシテハ其ノ効力ヲ認メ居ラサルモノナリ

三、通商条約問題ニ関スル日本側条文案ニ就テハ執レ政府ト相談スヘキモ大体異議ナシ

四、宣伝禁止問題ニ関スル日本側新条文案(二)ニ依レハ現ニ莫斯科ニ於テ無産階級ノ権利ヲ主張スル第三「インターナショナル」ノ如キ団体ノ存在ヲ認ムルヲ得サルコトトナルヘシ然ルニ本団体ノ如キハ世界何レノ国ニモ存在シ得サル処ニシテ僅ニ露国ニ存在シ得ルニ過キス此団体ノ存在ヲ否認スルカ如キ規定ニ対シテハ本条約ノ不成立ヲ賭スルモ絶対ニ同意スルヲ得ス次ニ露国側案文中ノ「エジェント」ナル言葉ニ関シ昨日貴公使ヨリ自国人ナルトキハ国外追放ノ途無キ旨説明ノ次第モアリタル処日本人ニシテ日本ニ於テ露国政府ヲ乗リ取ラントシ若ハ露国ニ於テ露国人カ日本政府ノ簒奪ヲ企ツルモノモナカルヘク此点ニ関スル日本側主張ヲ首肯スルヲ得ス又政治犯人ノ避難問題ト政府ヲ覆サントスル団体ノ「エジェント」トノ関係ヲ混同スヘカラス現ニ日本ニ白軍ノ将校数十人アリトスルモ其居住ヲ妨ケス又露国ニモ他国ノ共産党員ヲ

居住セシメ居レリ本問題ニ関シテハ曩ニ波蘭ト激論ヲ重ネ結局詳細ナル取極ヲ為シ波蘭ニ於ケル反労農運動者ハ労農政府顚覆ノ計画者ナルコト立証セラレタル結果普通ノ亡命客ト同一視セス波蘭政府ハ之ヲ国外ニ放逐セリ日本ニ於テハ「セメノフ」ノ如キハ旧露国ノ後継者ト称スルモノニシテ単ナル亡命客ニ非ス殊ニ露国々庫金ニ就キ裁判ヲ求メタルニ対シ日本ハ真面目ニ受付ケタル趣ナルカ斯ノ如キモノハ須ク日本ヨリ退去セシメラレサルヘカラス

五、議定書(A)第一条ノ条文ニハ異議ナシ但シ之ニ関連シ昨日貴公使ヨリ重ネテ話アリタル「レニングラード」ノ日本大使館ノ状態ニ関スル其後入手ノ情報ニ依レハ其建物ハ完全ニ保護監視セラレ居リ国交回復後ハ孰レ領事館トシテ何時ニテモ使用シ得ル事トナリ居ル趣ナリ又莫斯科及「イルクーツク」ニ於ケル日本領事館ノ状態ニ付テハ早速電報ヲ以テ照会シ置ケリ尚浦潮ニ於ケル日本領事館ノ敷地ニ付テモ同様照会シ置ケル処自分一個ノ意見ニ依レハ露都ニ於ケル英国及瑞西ノ大公使館敷地モ之等ノ国ノ買収ニ係ルモノナル趣ナリシ処何等紛議無ク解決セラレタル事例モアリ斯ノ如キ土地ハ国法上如何ナル名目ノ権利ナリヤ不明ナルモ要スルニ御懸念ニ及ハサル事ト思考ス

六、撤兵問題ニ関スル条文ノ書方ニハ異議ナシ但日本側ニ於テハ気候ノ関係上完全ニ撤兵シ得サルヤモ計ラレストノ趣ナルモ国交回復後尚日本軍隊ノ存在ハ到底容認スルヲ得ス最近既ニ六百名ノ軍隊ヲ撤退セル日本側ノ好意ハ多トスル処ナルモ尚北樺太東海岸ニ付テハ海陸交通ノ許ス範囲ニ於テ此上尚撤兵シ得ヘク東(?)海岸ニ付テハ已ムヲ得スンハ普通民トシテ在留セシムルノ外無カルヘシト思考セル処同地方トテ必スシモ撤退不能トハ考ヘラレス要スルニ本条約ノ効力発生ニ至ル迄ニハ一兵モ留メサル事トシ以テ本問題ヲ解決スルニ非サレハ依然本条約ノ成立ヲ妨クヘキニ付本件ニ付テハ再応日本政府ノ考慮ヲ煩ハササルヲ得ス

七、議定書(B)ニ付テハ客月三十日露国側対案提出ノ際右ハ最終妥協案ナル事ヲ述ヘタル次第モアリ同案ニ対シ更ニ自分ヨリ何等改作ヲ加フル権限ヲ有セス只案文ノ書方及一、二ノ問題ニ付テハ尚討議ノ余地アル旨ヲ述ヘシ次第モアリ日本側案ニ対シ一応意見ヲ述フヘク

同議定書(一)ノ日本側修正ニ対シテハ油田地域ヲ六割トスル点並ニ残留部分ニ対スル優先的取極ヲ為ス点共ニ明確ナル莫斯科政府ノ訓令ニ顧ミ絶対ニ日本側修正ヲ拒否ス優先的取極ニ関シテハ油井ノ全部ヲ与ヘサル場合ノ問題ナリシ処日本側ニ於テ飽迄油井ノ全部ヲ要求シ且露国側ノ保留スヘキ残余ノ油田地域ニ付三年ノ期限ヲ付シテ優先的要求アリタルニ対シ莫斯科ヨリノ回訓ハ油井ハ全部許与スルコトトスヘキモ優先権ハ認ムルヲ得ストノ趣ナリシテ以テ本項修正ニ付テハ政府ニ報告スルコトモ敢テセス尚平方区画ノ面積ヲ予定シ置ク事ハ自分モ全然同感ニシテ之ヲ二「デシャチン」トスルハ余リ狭少ニ過クヘキモ去リトテ二十「デシャチン」トスルハ広大ニ過クルノ嫌ヒアリ乍去此点ハ希望ヲ支持シテ何等(?)ノ決裁ヲ仰ク事トスヘシ

(二)十年間ニ亘リ一千平方露里ノ試掘権ヲ要求スル点ニ付テハ莫斯科ニ報告スヘク此点ハ云ハハ五十歩百歩ナルヲ以テ五年乃至十年トセハ莫斯科ニ於テモ異存ナカルヘシ但日本側ノ発見セル産油地ノ六割ノ点ハ矢張リ四割トスルヲ要ス

(三)及(四)ノ炭田ニ関スル日本側要求ニ付テモ露国側原案ヲ維持スルノ外譲歩ノ余地ナシ

(七)報効率ニ付テハ石油ノ場合ニハ生産高ノ七分乃至一割五分トスルヲ得但日本側主張ノ如ク生産額ヲ相連関セシムルヲ得ス石炭ノ場合ニハ生産高ノ五分乃至一割トスヘシ尚噴出油坑ノ場合ニハ四割五分ニテ可ナリ

(八)ノ課税免除ノ規定ニ付テハ自分ノ関スル限リ輸出入関税免除ノ点ニ対シテハ同意シ得ルモ

殊ニ関税以外ノ課税ニ付テハ例ヘハ願書其他訴訟用収入印紙ノ如キ其額ハ少ナルモ主義上ノ問題トシテ之カ免除ヲ認ムルヲ得ス従テ本項規定中其中段 the working of the enterprises and ナル文句並ニ其末段 or to such restriction 以下ノ文句ヲ削除セサルヘカラス

(九)ノ便宜供与ニ関スル規定トシテ said enterprise 迄ノ文句ニハ同意シ得サルモ其以下ノ文句ハ削除スルヲ要ス蓋シ日本側ハ其ノ取得スル利権カ他国ニ移ルコトヲ懸念スルカ如キ規定ヲ設ケントスルモノニシテ却テ自己ノ取得スヘキ権利ノ薄弱ナルヲ惧ルル嫌アリ

八、事業継続ニ関スル公文案中ノ条件ノ(二)ニ規定セル現業

員ニ依ル生産物ノ消費ニ付テハ嘗テ自分ヨリ述ヘタル次第モアリ是非承認スル様稟請セリ其ノ(三)ニ於テ affect ナル文字ヲ以テスル日本側修正ニハ異議ナシ但シ無線電信問題ニ付テハ日本側主張ノ如ク仮令六ケ月ノ過渡期間ト雖モ主義上ノ問題トシテ之ニ同意スルヲ得サルモ交通不便且人口稀薄ノ地方ニ於テ連絡保持ノ必要アルコト亦尤モナルヲ以テ無線電信所ハ一旦露国ノ管理ニ移シタル上必要ニ応シ日本人ノ需用ヲ充タスコトトシ将来更ニ何分ノ取極ヲナスモ可ナルヘシ次ニ事業継続中ノ産出物ニ付利権契約中ノ配分規定ヲ適用スル問題ハ自分ノ考ヘ居ラサリシ所ナルカ其適用期間ハ必スシモ利権契約締結ニ至ル迄ノ六ケ月トスル必要ナク日本ノ北樺太占領以来並事業開始以来トスルモ差支ナカルヘシ蓋シ本件ハ自由出漁ノ場合ト同様ニ取扱フヘク従テ配分規定ノ適用規定ヲ長クシテ別ニ一ケ条ヲ設クルコトトシタシ

九、「ポーツマス」条約ノ政治上ノ責任ニ関スル公文案ニ付テハ已ニ露国側主張ノ存スル所モ御承知ノ筈ナルヲ以テ再応御考慮ヲ煩シタシ

十、尼港事件ノ陳謝文ニ関スル日本側案文ハ「ヨッフェ」ノ起案セルモノナリトノコトナルモ東京会議ハ私的会談ニシテ莫斯科政府ハ之ヲ基礎トスルコトハ考ヘ居ラス

十一、尼港事件類似ノ本件ニ関スル公文案ニ付キ露国側ノ主張セントスル所ハ歴史上ノ事実タル尼港事件ト異リ立証セラレサル事実ヲ基礎トスルモノナリトノ日本側ノ主張ナル所右ニ関シテハ幾多ノ証拠材料ヲ有スルヲ以テ必要ナラハ喜ンテ提示スヘク只交渉ノ進捗ヲ害スヘキヲ慮リ今日迄差控ヘ居ルニ過キス従テ本件公文案ハ其ノ書方トシテモ露国側原案ヲ維持スル外ナシ

十二、「ベッサラビア」議定書公文案ニ関シテハ本問題ノ性質上日本側ヨリ何等カ文書ヲ取付クルヲ要スルモ其書方トシテハ例ヘハ自分ヨリ書面ヲ以テ貴公使ニ対シ日本カ右議定書ヲ批准セントスル趣ナル所果シテ然リヤトノ照会ヲ発シ貴公使ヨリ然ルコトナシトノ回答ヲナスコトトスルカ如キ方法モアルヘシ以上ヲ以テ大体露国側ノ意見ヲ尽セルヲ以テ昨日以来ノ貴公使トノ意見交換ノ結果ニ付茲ニ総決算ヲ為シ如何ナル点ニ付双方ノ意見一致ヲ見サリシヤニ関スル決(キマ)リヲ付ケ置カサルヘカラスト結論セリ依テ本使ハ貴下段々ノ説明ニ顧ルニ本交渉中最困難

ナル問題トシテ
㈠撤兵問題㈡油田ノ地域分配ノ割合㈢封鎖区域ノ採炭ヲ許ササル点及㈣「ポーツマス」条約㈤「ベッサラビア」議定書並㈥尼港事件類似ノ事件ニ関スル各公文案ノ諸問題ヲ数フル処右諸問題ヲ解決スルニ非サレハ本交渉失敗ニ帰スヘキコト極メテ明白トナレリ而シテ貴下本日ノ意見陳述ニ対シテハ尚本使ヨリ申述フヘキ意見極メテ多キニ拘ハラス貴下今日ノ主張ニシテ全ク最後的ノモノナリトセハ此上議論ヲ交ルモ甚タ無益ナリト云ハサルヘカラス但シ右難問題中ニモ亦難易軽重ノ差ナキニ非サルヘシ此点ニ関スル貴見如何ト諮問シタルニ「カラハン」ハ貴公使ノ列挙セラレタル諸問題ハ何レモ難問題ニ相異ナク貴公使只今ノ御尋問ハ日本側ニ於テ例ヘハ利権問題ニ付譲歩スル時ハ他ノ問題ニ付露国側ノ譲歩ヲ期待セラルルカ如キ印象ヲ免レサル処露国側トシテハ此上到底交換的譲歩ヲナスヲ得スト答ヘ尚本使ヨリ日本政府トシテモ此上譲歩ノ余地ナシト思考セラルルヲ以テ本交渉ハ茲ニ決裂ノ外ナシト考フル旨ヲ告ケタルニ「カ」ハ之ヲ首肯シタル上次回会議ノ開否ニ付キ念ヲ押シタルヲ以テ本使ハ

尚本使ヨリ申述ヘタキ意見鮮カラサルニ拘ラス事態斯ノ如シトセハ更ニ会議ヲ継続スルコト無用ナルヲ以テ特ニ次回ノ会見ヲ約束セサルコトニスヘシト述ヘタルニ「カ」ハ誠ニ然リ唯日本政府ヨリ何等申越アル場合ニハ喜ンテ会議ノ開催ニ応スヘク自分トシテハ日本ニ於テ利権問題ニ関スル露国側主張ニ完全ニ応スル場合ニ限リ露国側提出ノ公文案ノ問題ニ関シ再考方莫斯科政府ニ稟請スヘシト述ヘ其儘散会シタリ
尚前記「カラハン」ノ全般的意見陳述終レル時本使ヨリ貴電第七一一号(編註)御来示ノ修正ヲ申入レタルモ「カ」ハ言下ニ不同意ヲ唱ヘタリ為念申添フ

編註　油田地域ハ各区劃ヲ連続シテ与エサル仕組トスル旨ノ露国側案ニ対スル我方ノ修正申入レ

四九九　十一月十三日(着)　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

コノ儘デハ商議ヲ纏メルコト困難ニ付キ強硬策ヲ考究方稟請ノ件

第一一六九号　極秘
往電第一一六八号ニ関シ

及フ限リ双方ノ立場ヲ調整セムコトヲ期シテ百方考量ヲ尽クセリ不幸ニシテ我苦心ハ遂ニ「ソヴィエット」当局ノ諒トスル所トナラス一ノ譲歩ハ更ニ他ノ譲歩ヲ求メラルルノ階梯トナリ今ヤ交渉成立ノ為ニハ現存ノ各争点ニ渉リテ殆ト全部我立場ヲ抛棄スルノ外ナキコトヲ暗示セラルルニ至レリ茲ニ於テ日本政府トシテハ「ソヴィエット」当局カ此際寧ロ商議決裂ヲ欲セラルルヤ否ヤニ付其ノ真意ヲ率直ニ披瀝セラレムコトヲ望マサルヲ得ス若シ露国側ニ於テ我ト等シク商議ノ決裂ヲ不可トセラルルモノトセハ目下採ルヘキ手段ニ二案アリト思考ス
第一ハ事実上可能ナル範囲内ニ於テ現存ノ争点ニ対スル双方立場ノ間ニ公平ナル折衷案ヲ協定スルニ在リ蓋シ事実可能ノ範囲ヲ超エテ解決ヲ求ムルノ無益ナルハ云フヲ俟タス又今日ノ情勢ニ於テ孰レカ一方カ全部其ノ立場ヲ抛棄スルカ如キコトモ到底行ハレ難カルヘシ若シ右折衷案協定ノ主義ニシテ露国側ノ同意ヲ得ル場合ニハ具体的解決案ニ付テハ別ニ提議スルコトトスヘシ
第二ニ本問題交渉ノ日本側代表者ハ在支公使之ニ当リタル処最近支那時局紛糾ノ結果在支公使ノ本務益々繁忙ヲ極メ

「カラハン」ノ態度該往電記載ノ通リニテ極メテ非妥協的ナルヲ以テ本使トシテ妥協的態度ヲ示スハ屈辱的ニ見受ケラルル虞アルヲ以テ強硬ナル態度ヲ示シタル次第ナルカ而モ彼ノ態度緩和セラルルニ至ラス此上ハ先方ニ提示セル条件ノ内容ヲ以テ商議ヲ纏ムルコトハ先ツ望ナク就テハ往電第九八二号電稟ノ卑見断然御採用相成様重ネテ稟請ス

五〇〇　十一月十八日　幣原外務大臣ヨリ　在中国芳沢公使宛（電報）

北京会談ノ決裂回避ノタメ二案ヲ訓電ノ件

第七三〇号　至急極秘
日露交渉ニ付テハ貴官カ今日迄数十回「カラハン」トノ会合ニ於テ終始条理ヲ尽クシ切実ニ我主張ノ貫徹ニ努メラレタルハ政府ノ深ク満足スル所ニシテ今ヤ問題ノ各項漸ク妥結ニ近カラムトスルニ当リ「カラハン」ノ示シタル非妥協的態度ノ為交渉頓挫ノ已ムヲ得サルニ至リタルハ遺憾ナルモ此ノ儘決裂ニ了ルハ大局ノ為不得策ト認メラルルニ付貴官ハ非公式ニ「カラハン」ニ会見シ左ノ趣旨ヲ開陳セラレタシ
日本政府ハ従来ノ交渉ニ当リ常ニ日露共通ノ利害ヲ顧念シ

日露交渉ニ注意ヲ煩ツノ至難ナルニ至リタルハ「カラハン」ノ熟知セラルル所ナルヘシ且従来日本政府トシテハ直接ニ莫斯科ト接触スルノ便ヲ有セス「ソヴィエット」政府亦直接ニ東京ト接触スルノ便ヲ有セサリシヲ以テ或ハ両本国政府間ニ何等意思ノ疏通ヲ欠ク所アルヤモ測ルヘカラス固ヨリ「カラハン」カ随時公平ニ日本ノ主張ヲ莫斯科ニ伝ヘタルハ疑ヲ容レスト雖問題ノ複雑ナル経緯ト双方実際ノ便宜トヲ考フルトキハ此際我方ヨリ主任書記官ヲ莫斯科ニ急派シ現存ノ争点解決ノ目的ノ為直接ニ莫斯科ト連絡ヲ保タシメ条約最終ノ決定及調印ハ依然北京ニ於テ之ヲ行フコトトスルモ一策ナルヘシト思ハル

以上二案中第一案ニ依ルトキハ或ハ簡単ニ交渉成立ニ至ルノ望アルヲ以テ其ノ場合ニハ第二案ニ依ルノ必要ナシ要スルニ右両案共双方ノ為商議ノ決裂ヲ避クルノ得策ナルニ顧ミ種々思索ヲ旋ラシタル結果ナルモ若シ「カラハン」ニ於テ他ニ適当ノ考案モアラハ日本政府ハ其ノ腹蔵ナキ意見ノ開示ヲ歓迎スルモノナリ

編註　コノ電報ハ十一月十八日閣議決定ヲ経タルモノナリ

五〇一　十一月二十日　在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

政府訓電中ノ第一案（折衷方式）ニ付キ検討ノ用意アル旨カラハンヨリ意見開陳ノ件

第一一八六号　極秘　（十一月二十一日接受）

貴電第七三〇号ニ関シ

十一月二十日本使「カラハン」ト非公式会見ヲ遂ケ御訓示ノ次第ヲ開陳シタル処「カ」ハ「ソヴィエト」当局モ日露交渉ノ進捗折角此程度迄ニ達シタル今日ニ於テ決裂ヲ欲スルノ理由ナク真実其成立ヲ切望スル次第ナリ唯日本政府ニ於テ兎角兵力ニ依リ樹立セラレタル現在ノ状態ヲ成ルヘク維持セントセラルルカ如キ態度ハ之ヲ是認スルヲ得ス莫斯科政府ニ於テモ出来得ル丈ケ妥協ノ精神ヲ発揮スル次第ナルモ我政府ニ於テハ例ヘハ油田ノ六割ヲ希望セラルルニ対シ莫斯科政府ハ四割ヲ主張スルノミニテ要スルニ双方主張ノ差違ハ唯程度ニ存スルノミ日本政府ノ所謂第二案ニ付テハ自分ヨリ之ヲ莫斯科政府ニ報告スヘキモ同政府ノ意向ヲ確カムル迄モ無ク所謂第二案ナルモノハ同政府ニ於テ之ヲ拒絶スヘキコト明白ナリト確信スルニ付此上提出セラレサル様致シタシ元来貴公使ト自分ハ夫々本国政府ヨリ全権ノ委任ヲ受ケ殆ト大体交渉ヲ終リタル今日ニ於テ斯ノ如キ提案ヲ見ルカ如キハ貴公使ト自分ニ対スル不信任ノ処為トモ云フヘク自分ニ於テハ甚タシク不愉快ヲ感セサルヲ得ス莫斯科ニ日本政府ヨリ書記官ヲ東京ニ派遣セラルルコトモ将又莫斯科政府ヨリ書記官ヲ東京ニ派遣スルコトモ自分ニ於テハ絶対ニ同意スル能ハス就テハ若シ日本政府ニ於テ今日迄貴我両者間ニ於ケル交渉ヲ基礎トシテ折衷案ヲ提出セラルルニ於テハ自分トシテ之ヲ審議シ莫斯科政府ニ取次クコトヲ躊躇スルモノニアラス唯何等新ナル提案ヲ為ササルニ於テハ之ヲ応諾シ難ク又事実上可能ナル範囲ナル文字ハ自分ニ於テ大ニ疑ヲ挟マサルヲ得サル次第ナルカ兵力ニ依ル占領ノ状態ヲ変更スルヲ以テ事実上可能ノ範囲外トナスカ如キ意向ナリセハ之亦絶対ニ応諾スルヲ得サルニ付右ノ御含ヲ以テ提案セラレンコトヲ希望スル旨答ヘタリ

就テハ右様御承知ノ上何分電訓ヲ請フ

五〇二　十一月二十二日　安保海軍次官ヨリ
松平外務次官宛

北樺太石油・石炭利権ニ付キ海軍側用意ノ譲歩案内示ノ件

（十一月二十二日軍需局員福田大尉持参）欧米第一課
（海軍省ヨリ意見内示）

日露交渉利権ニ関スル件

日露交渉ノ停頓ノ一原因タル北樺太利権問題ニ関シ若シ労農側ニ於テ互譲妥協ノ精神ヲ以テ交渉成立ヲ企図スルニ於テハ我方ニ於テモ従来ノ主張ヲ左ノ程度迄寛和スルモ差支無之トスル当省ノ意見ニ候

右申進ス

記

一、利権区域

石油

(イ)八月二十九日付日本側ヨリ労農側ニ提示セル油田面積ノ分配率ハ日本側五割労農側五割トスルモ差支無之

(ロ)地域ハ之ヲ碁盤目形ニ分割シ日露交互ニ一鉱区宛選択セントスル労農側提案ニ対シテハ主義トシテ異存ナキモ日本側ニテ既ニ開鑿セル油井ヲ包含スル鉱区ハ日本先ツ之ヲ保有スルコト、又一鉱区ノ面積ハ少クモ二十「デシャチン」以上ナルヲ主張ス万已ムヲ得サル時ニ限リ十五「デシャチン」迄譲歩スルコトヲ得

(ハ)(イ)項ニ記載セル油田中露国持分ニ帰シタル鉱区ヲ将来第三者ニ許ス場合ニハ日本側ニモ之カ開発ノ権利ニ均霑セシムル事

(ニ)以上ノ外日本側ハ北樺太ニ於テ利権契約成立後別ニ一ケ年内ニ一千平方露里ノ地域ヲ選定シ五ケ年乃至十年間ノ油田調査試掘ニ従事ス斯クテ前記期間内ニ油田ト決定セル地域ハ其ノ都度(イ)項及(ロ)項ヲ適用シ其ノ有望区域ヲ日露五分五分ニ折半ス、但シ日本ニテ開鑿セル油井ハ日本側ノ鉱区中ニ包含セシムル事ヲ得

備考　決定油田ヲ其都度日露両側ニ折半スルハ直ニ採掘稼行ニ着手シ得ルコトヲ明白ニナシ置クノ必要アルニ依ル

石炭

(イ)目下日本側ニテ稼行シアル両炭坑トシ各鉱区ハ南北ノ長サ十露里海岸ヨリノ奥行五露里トス

(ロ)外ニ封鎖区域外ニ於テ日本側ニテ調査設定スヘキ特定地域

二、報効率

石油

生産年額五十万噸以下ノ場合ハ五分乃至七分、五十万噸以上ハ一割、百万噸以上一割五分トス但シ噴出油ニ対シテハ四割五分以下トス

石炭

生産高年額五十万噸以下ノ場合五分、五十万噸以上ノ場合ハ七分トス

但シ相当年限ノ報効炭ニ相当スル代価ハ前納スルモ差支無シ

三、税金

前記報効油炭納付率ノ増加ヲ考慮シ鉱産税、鉱区税、所得税、人頭税、地租消費税、輸出入税其他経営ニ関スル諸税ヲ免除スルコト

備考　此ノ点ハ前記報効油炭納付率ヲ増加シタル関係上是非共成立セシムル事

四、利権期間

四十年乃至五十年

五、労働法ニ関スル件

北樺太ニ於ケル人口稀薄ニシテ技術熟練ナル者及其他ノ露国労働者ヲ得ルコト困難ナル実況ニ鑑ミ従業員ノ員数ニ対スル労働法ノ制限其ノ他労働法ノ実施困難ナル点ニ就テハ相当ノ除外例ヲ承認セシムルコト

其他ハ曩ニ官房機密第一二九三号ヲ以テ申進候通リニ有之尚九月二十六日閣議決定ヲ経テ貴省大臣ヨリ芳沢公使宛訓電セラレタル北樺太利権ニ関スル主義的規定中最後ノ二項ハ当方ニ於テモ重要視スルモノニ有之候為念

五〇三　十一月二十三日(着)　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

カラハントソヴィエト政府トノ関係ノ内情ニ付キシュワルサロンノ島田ヘノ内話報告ノ件

第一二〇二号　極秘

十一月二十二日「シュワルサロン」島田ヲ来訪シ其後東京ヨリ電訓ナキヤト問ヒタル上日本側ニテハ莫斯科ヨリモ「カラハン」ノ方強硬ナルヤニ想像シ居ル模様ナルモ自分ハ直接事務ニ関与シ居ルモノトシテ好ク其間ノ消息ヲ知ルモノナルカ事実ハ全然反対ニシテ「カラハン」ヨリ常ニ政府ニ対シ嘆願スルヲ要スル始末ナリ先般提出セル最後ノ「ノート」三通ノ如キモ一ニ「ソヴィエト」大会ニ対スル手前提出セサルヘカラサルニ至リシモノナリ

此種対内関係ニ就テハ日本側ニ於テモ諒トセラレタシト述ヘタルニ対シ島田ハ右前半ニ関シテハ莫斯科ノ宣伝ト「カ」氏ノ態度トヲ比較セハ自ラ判明スヘク自分トシテハ寧ロ「カ」氏カ独断的ナル感想ヲ莫斯科ニ報告シ之ヲ誤マラセ居ルモノニアラスヤト惧ル又前記「ノート」ノ如キ突飛極マルモノヲ持出シ而モ貴下ハ之ヲ重要視サルルカ先般来「カ」氏ハ最大難関ハ利権問題ナリト謂ヒ居タリト述ヘタル処「シュワル」ハ誠ニ然リト肯定シタル上尚語ヲ続ケ「カ」ハ「ソヴィエト」大会ニ於テ実ハ日本側ノ利権ニ関スル最初ノ要求ハ北樺太全般ニ亘ルカ如キモノナリシモ努力ノ結果漸ク日本側ニ於テ労農側ノ要求ニ応シタルヲ以テ「ノート」ノ方ハ已ムヲ得ス之ヲ譲歩スルコトトセリト説明シ之ヲ納得セシムルヲ得ヘキナリト述ヘ其他「カ」カ莫斯科ニ対シ権威ヲ有スル理由ヲ宣伝シ引取リタル由ナリ

五〇四　十一月二十八日　幣原外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛(電報)

利権・撤兵ノ両問題ヲ除ク他問題ニ対スル当方ノ最終的見解訓電ノ件

第七四〇号　至急極秘

日露交渉案件中利権問題及撤兵問題ニ関シテハ関係者トモ協議ノ上目下我方提案作成中ナルニ付決定次第電報スヘキ処其他ノ未解決ノ問題ニ関スル当方最後ノ意向左ノ通リ左記諸点ハ利権問題及撤兵問題ト同時ニ先方ニ提議セラレタキモ不取敢電報ス

一、漁業協約改訂問題ニ関シテハ別ニ電報ス

二、宣伝問題ニ関シテハ両国互ニ他方ノ政治上及社会上ノ制度ヲ破壊スル目的ヲ有スル宣伝ヲ行ハサルノミナラス此種行動ヲ為スモノヲ支持セサルコトニ付テハ双方異存ナク現ニ本年五月十五日ノ露国側提案ニモ之ヲ明記シ居リ更ニ又露国側ノ恐ルル相手国ノ政府ト僭称スルカ如キモノハ総テ双方ノ領土内ニ存在セシメサルコトトスヘキハ当然ノ義ナルカ唯右規定方ニ関シ意見ノ合致ヲ見サル次第ナルニ付我方ハ此際迅速ニ本協定ヲ遂クルノ趣意ニテ曩ニ露国カ調印シタル英露一般条約第十六条ノ規定ヲ其ノ儘ニ採用センコトヲ提議スルコトニ決定セリ右ニ就テハ固ヨリ露国側ニ於テモ異議ナカルヘシト信ス

三、基本条約第六条一般利権ニ関スル規定ニ付テハ十月三十日ノ露国側対案ニハ「日本政府」ナル文字ヲ存スル処

我方トシテハ之ヲ存置シ差支ナキモ右ハ貴電第九五三号（欄外記入）第二末段ニ照シ何等カ先方ノ過誤ニアラスヤト思考セラルルニ付為念先方ヘ確メ置カレタシ

四、尼港事件陳謝文ニ関シテハ先方ハ東京会議ハ私的会談ナルヲ以テ莫斯科政府ハ之ヲ基礎トスルヲ得サル旨主張シ居ル処苟クモ一国ノ正式代表者トシテ「ヨッフエ」ノ起草シタル所ニ基クモノナル以上本件ニ関スル先方申分ハ理由ナキモノト云ハサルヘカラサルモ我方ハ交渉ノ成立ヲ期スル為互譲妥協ノ精神ニ基キ出来得ル限リ先方対案ノ趣旨ヲ容レ其ノ末段 expression 以下ヲ of sincere regrets for the Nikolaievsk incident of 1920 ト修正スルニ同意ス右ノ中「シンシアー」ナル語ヲ存置セルハ苟クモ遺憾ノ意ヲ表スルモノナル以上誠実ナラサルヘカラストノ理由ニ依ル

五、先方ノ所謂尼港事件類似ノ事実ニ関スル露国側提出公文案ニ関シテハ由来西比利亜出兵中ニ於ケル日本軍ノ行動ニ付テハ既ニ貴官ヨリ露国側ヘ説明セラレタル通リ何等批議ヲ受クヘキ所ナク自衛権ノ発動ニ基ク行動ニ対シテハ何等責任ヲ負フヘキ限リニアラサルハ事理明白ナル

ノミナラス元来今回交渉ノ眼目ハ此際日露両国間ニ存スル一切ノ懸案ヲ一掃シ以テ国交関係樹立後ニ於テ双方ノ間ニ何等不愉快ナル問題ヲ存スルカ如キコトナカラシメムトスルニ在ル処本件露国側提案ハ国交恢復後ニ於テモ猶両国間ニ不愉快ナル紛争ノ因ヲ貽サムトスルモノニシテ両国将来ノ親善関係ニ資スル所以ニアラサル旨篤ト先方ニ説示シ日本カ遺憾表示ノ予約ヲ与フルカ如キコトアラハ国民的感情ヲ刺戟シ到底批准ヲ得ルノ望ナキヲ断言シ本件先方提案ヲ撤回セシメラレタシ

六、「ポーツマス」条約関係付属公文問題ニ関シテハ往電第七〇七号ノ十二後段所載我方修正案ニ依リ妥結セラレ差支ナシ

七、「ベッサラビヤ」条約ニ関シテハ主トシテ欧州問題ナルニ顧ミ之ニ密接ナル利害関係ヲ有スル欧州調印国全部ニ於テ批准ヲ了セサル限リハ之カ批准奏請ノ手続ヲ執ラサル意向ナルニ付右帝国政府ノ意向トシテ「カラハン」ニ言明セラレ差支ナシ

尚先方ニ於テ強テ右ニ関シ書面ヲ取付ケムコトヲ求ムルニ於テハ「カラハン」カ曩ニ申出テタルカ如ク我方ニ対スル照会ノ形式ニ依リ先方ヲシテ我方ノ「ベッサラビヤ」条約批准ヲ喜ハサル旨ヲ記載スルト共ニ右ニ対スル我方態度ヲ問合ハサシムルコトトシ之ニ対スル回答トシテ前記帝国政府ノ意向ヲ余リ正式ナラサル形式ヲ以テ貴官ヨリ通告スルコトニ同意セラレ差支ナシ

（欄外記入）本電発後到着シタル十一月十日北京会商議事録ニヨレハ下記第三点ハ芳沢公使ヨリ指摘シタル処「カラハン」ハ「政府」ナル文字ハ「ミスプリント」ナリト答ヘタル趣ナリ

五〇五　十二月一日　在中国芳沢公使ヨリ　幣原外務大臣宛（電報）

過大ノ譲歩ヲシテ迄交渉ヲ纏メル要ナク、マタ纏マルトセバ過激主義取締法制定ノ必要アリト思ワルルニ付キ意見具申ノ件

（十二月二日接受）

第一二二五号　至急極秘

往電第一一八六号ニ関シ

貴電第七四〇号御訓示ノ次第アリ更ニ利権問題ニ就テモ近近御訓令ニ接スルコトト思考セラルル処前記往電ニテ報告シタル通リ「カラハン」ハ帝国政府ニ於テ従来ノ交渉ヲ基

礎トシテ折衷案ヲ提出セラルルニ於テハ同人トシテモ之ヲ審議シ莫斯科ニ取次クコトヲ躊躇スルモノニアラスト述ヘ居ル次第ニ付前記貴電ノ内容ニ顧ミ利権ニ関スル御訓示モ或ハ労農側ノ承諾シ得ヘキモノナルヘク従テ今回ハ愈々交渉モ纏ルヘキ段取トナルヤ測リ難シトモ推想セラルル処御承知ノ通リ去ル七月下旬貴地出発ノ際接受シタル御訓令及其後累次ノ御訓令ニ基キ「カラハン」ニ対シテハ屢々所謂最低限度若ハ最後案提案等ノ言葉ヲ使用シ来リタル経緯ニ顧ミ今日迄ノ談合ノ程度モ既ニ当初ノ我方態度ヲ裏切リタルコト少カラスト思考セラルルニ際シ兎ニ角如何ナル犠牲ヲ払フモ是非共交渉ヲ纏メムトスルカ如キハ恐ラク帝国政府ノ真意ニハアラサルヘク本使ニ於テモ全然同感ナルニ付テハ此ノ儀御含置アリタク猶此機会ニ於テ一言申上ケタキコト有之即チ元来日露交渉ヲ纏メムトスル本使ノ意向ハ北樺太ニ於ケル事態ヲ確定シテ撤兵ヲ断行シ依テ以テ国家ノ歳出ヲ節約スルコト多年ノ懸案タル尼港事件ヲ解決スルコト露領ニ於ケル本邦人ノ居住ヲ安固ニシ漁業其他ノ我方利益ヲ伸長スル等ニ在ル次第ナルカ此等ハ蓋シ日露交渉ヲ纏メムトスル帝国政府ノ真意ノ主要部分ヲモ占ムルコトカトモノモアルヘク是等ノコト或ハ余リニ杞憂ニ過クルヤ計リ難キモ其ノ弊ノ赴ク処ヲ想像スレハ転タ寒心スヘキモノアリ此故ニ卑見トシテハ帝国政府従来ノ態度ニモ顧ミ余リニ多大ニ過クル譲歩ヲ為シテ迄交渉ヲ纏ムル必要無ク又愈交渉ニシテ纏マルモノトセハ過激主義取締ニ関シ厳重ナル法律ヲ制定スルコト必要ト思考ス若シ交渉ヲ此際決裂セシムルモノナルニ於テハ格別更ニ是レヲ継続進捗スルモノナルニ於テハ本使ノ心得トシテ是非承知シ置キタキニ付此辺ニ関スル政府御留意ノ程度並其ノ御意向等簡単ニテモ御電示相煩シタク是迄重要ナル電稟ニ対シ御返電ニ接セサル例鮮カラサルモ本件ニ付テハ是非何分ノ御回電ヲ請フ

五〇六　十二月五日　幣原外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

利権問題ニ関スル政府ノ最終妥協案訓電ノ件

別　電一　十二月五日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第七五六号
　　議定書(B)ニ関スル我ガ方ノ決定案
　二　十二月五日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第七五七号

想像スル次第ナルカ此等ノ目的ヲ達成センカ為労農露国過激派ノ遣口ヲ閑却スルコトノ望マシカラサルコトモ亦今更本使ヨリ申上クル迄モナシ

本使ニ於テハ日露交渉ヲ進捗スル上ニ於テ多大ノ努力ヲ為シタルモ過激派ノ遣口ノ危険防遏方ニ付テハ嘗テ忘却シタルコトナク日露交渉開始ノ際既ニ往電第一四二号中過激主義取締法制定ノ必要ヲ簡単ナカラ上申ニ及ヒ置キタル次第ナルカ労農露国トノ国交樹立セラルルモノトセハ是非トモ同法律ノ制定ヲ要スヘク実ハ「カラハン」ノ当国ニ於ケル遣口ヲ顧ミルニ帝国トシテ幾多ノ参考ニ資スヘキ資料アリ独リ「カラハン」而已ナラス労農政府ノ遣口ニ付テハ既ニ世評ノ一定セル処ニシテ現ニ目下尚繋属中ナル「ヂノヴィエフ」事件ノ如キ好箇ノ適例ナリト思考ス若シ労農露国トノ国交樹立セラレ同国ノ大使館領事館等我国ニ設置セラルルニ於テハ大使館領事館等ハ条約ノ規定ニ顧ミテ有害ナル活動ヲ為スカ如キコトハ表面上多分之ヲ避クルコトト想像セラルルモ裏面ニ於テハ果シテ条約ノ規定ヲ励行スヘキヤ大イニ疑ナキ能ハス之ニ加フルニ右等大使館領事館設置ノ後ハ故意ニ身ヲ挺シテ是等大使館又ハ領事館ノ傀儡ナルヘキ

第七五五号　至急極秘

利権問題ニ関シ別電第七五六号及第七五七号ノ通決定セルニ付之ニ基キ交渉セラレタク右交渉ニ付テハ左ノ諸点御含アリタシ

（編註　十二月五日閣議決定）

（甲）　議定書(二)中

一、油田ノ割合ニ関シテハ折衷主義ニ依リ双方ニ公平ナル五割ヲ以テ妥結スルニ決定セル次第ニシテ之レ以上ニ譲歩スルコト絶対ニ不可能ナルニ付其旨篤ト先方ニ説示アリタシ

二、油田地域ノ各碁盤目ヲ連続シテ我方ニ与ヘサル仕組ハ利権経営上彼我双方ニ不利ナルヘキハ明ナルモ本件ニ付テハ我方ハ曩ニ「カラハン」カ貴官ニ対シ利権契約ノ際専門家ノ話合ニ依リテハ連続セル一帯ノ地域ニ区分スルコトヲ得ヘシト述ヘタルコトアルト現在日本側ニテ掘鑿又ハ作業中ナル一切ノ坑井ヲ日本側ニ貸与スヘキ部分ニ包含セシムルコトニ先方カ同意シタルトヲ考慮ニ加ヘ露国側対案ノ趣旨ニ同意スヘシ但シ碁盤目形ニ分割セラルヘキ一区画ノ地積ハ利権経営上ノ必要ヨリ各十五「デシ

ヤチン」ヲ下ラサルコトトスルコト絶対ニ必要ナリ

三、八月二十九日ノ覚書記載ノ油田中我方ニ貸与セラレサル部分ニ関スル優先権問題ハ元来「カラハン」ノ提案ニ基クモノナルニ拘ラス其後莫斯科政府ニ於テ之ニ反対セリトノ先方陳述ハ我方ノ意外トスル所ナルモ我方ハ是亦交譲妥協ノ精神ニ基キ本件ニ関スル従来ノ提案ヲ撤回シ単ニ将来労農政府カ当該油田ヲ外国人ニ利権トシテ開放スル場合ニハ日本当業者ニ対シテモ均等ノ機会ヲ与ヘシムルコトトセリ右ハ本件ニ付本邦人カ第三国人ヨリ不利益ナル地位ニ置カレサル趣旨ノ規定ニ外ナラサルヲ以テ先方ニ於テモ何等異議ナカルヘキ義ナリ

尚「右利権ニ関スル事項ニ就キ均等ノ機会ヲ与フヘシ」トノ文句ハ利権ノ提供並ニ利権ノ条件等ニツキ第三国人ヨリモ不利益ナル待遇ヲ為ササル趣旨ヲ含メタルモノナルニヨリ先方ヨリ右文句ニ付説明ヲ求ムル場合ニハ右ノ趣旨ニヨリ応酬セラレタシ

四、炭田ニ関シテハ「ヅーエ」炭坑ハ現ニ我方ニ於テ作業継続中ナル次第ナルニヨリ同炭坑ノ許与ヲモ拒絶スルカ如キハ余リニ非妥協的態度ト云ハサルヘカラサルノミナラス我方ハ既ニ同炭坑ニ対シテハ巨額ノ費用ヲ投シテ各種ノ設備ヲ為セル次第ナルニ付本件ニ関シテハ別電第七五六号三条文案ヲ先方ヘ提示スル前今一応「ヅーエ」炭坑ノミヲ我方ニ許与セシムル様説得セラレタシ

若シ到底其ノ同意ヲ得サル場合ニハ「ヅーエ」炭坑ニ関スル問題ハ之ヲ後日石炭ニ関スル特定区域取極ノ際ニ譲ルコトトスル様交渉ヲ試ミラレタク右モ尚不可能ナル場合ニハ我方最後案トシテ別電ノ通提議セラレタシ右条文第二項ハ先方カ封鎖区域ノ不開放ヲ国防上並ニ自国ノ需要ヲ充タス為メト説明シ居ルニ顧ミ若シ之ヲ外国人ニ開放スル場合ニ本邦人ヲ第三国人ヨリ不利益ナラサル地位ニ置クコトハ先方トシテハ何等苦痛トスル理由ナク又体面ヨリ見ルモ何等不都合ノ儀ニ非ルニ付先方トシテ之ヲ承諾セサル理由ナシト認ム

五、報償ニ関シテハ後日利権契約ニ対スル規準トシテ年産率ヲ考慮ニ加ヘ報償トシテ提供セラルヘキ歩合高ノ等差ヲ決定スヘキ旨ノ規定ヲ設ケ置クコトトセリ尚炭田ニ対スル報償ノ最高歩合ハ先方主張ノ如ク一割ト為ストキハ到底収支相償ハサルニ顧ミ最大譲歩トシテ八歩トセル次第ナリ

六、課税免除ニ関シテハ「カラハン」ハ輸出入関税免除ニハ同意シ得ルモ其他ノ課税例ヘハ願書其他訴訟用収入印紙ニ就テハ其ノ額ハ少ナルモ主義上ノ問題トシテハ之カ免除ヲ認ムルヲ得スト述ヘ居レルニ顧ミ我方ニ於テハ先方主張ヲ参酌シ「カラハン」ノ例示セルカ如キ少額ノ課金ハ之ニ応スルノ趣旨ヲ以テ事実上企業ノ有利的経営ヲ不可能ナラシムルカ如キ課税又ハ制限ヲ加ヘラレサル旨ヲ規定スルコトトセリ右ハ固ヨリ当然ノ規定ナルヲ以テ先方ニ於テモ異議ナカルヘシト信スルモ本件課税問題ハ一般制限問題ト共ニ将来利権ノ経営上我方ニ於テ最モ懸念セル所ナルヲ以テ之ヲ削除スルコトハ絶対ニ不可能ナリト御承知アリタシ

七、便宜供与ニ関スル規定モ当然ノ規定ナルモ是又将来ノ経営上危惧セラルル廉アルヲ以テ之ヲ削除スルヲ得ス尚我方原案中先方ヲシテ我方ノ獲得セムトスル利権ト抵触スル権利ヲ設定支持セサル旨ヲ約セシムル点ハ先方ノ説明ニ顧ミ之ヲ削除セリ

(乙)　作業継続ニ関スル公文中

一、作業継続期間ヲ六ケ月トスルコトハ往電第六七三号所載ノ理由ニ依リ同意シ得サル処本件ニ関シテモ交譲妥協ノ精神ニ基キ彼我ノ主張ヲ折衷シテ利権契約締結ニ至ル迄即チ議定書(二)ノ効力発生ノ日ヨリ六ケ月間トスルコトトセリ右ニ対シテハ先方ニ於テ異議ナカルヘシト思考ス

二、無線電信所問題ハ我方ニ於テハ北樺太ノ天候及交通不便ナル特殊ノ事情ニ基ク必須便宜ノ問題トシテ之ヲ主張スルニ対シ先方ニ於テハ之ヲ主権ニ関スル問題トシテ反対スルモノナルヲ以テ此際意見ノ一致ヲ見ルコト不可能ナリト思考セラレ従テ此際本件ヲ後日ノ解決ニ留保スルコト交渉ノ成立ヲ期スル上ニ於テ最モ適当ノ措置ト思考スルニ就テハ右ノ趣旨ニテ先方ノ了解ヲ得ラレタシ

三、尚最後ニ八月二十九日貴官ヨリ先方ヘ提示セラレタル覚書所載ノ事項ニ付テハ其後工事ノ進行等ノ理由ニ依リ多少ノ変更ヲ見タルモノアリトノコトナルニヨリ右ニ付適当先方ノ諒解ヲ求メ置ク方可ナルヤニ思考スルモ之ヲ持チ出ス際ニハ「カラハン」ハ右覚書ノ全体ニ付難癖ヲツケ局面ヲ紛糾セシムルコトトナルノ虞アルニ付右ニ付テハ周到ノ注意ヲ加フル必要アリ依テ交渉ノ成行ニシテ

右ノ如キ結果ヲ惹起スルカ如キ虞ナキ見極付ク場合ニハ前記ノ事情ヲ先方ニ説明シ其ノ諒解ヲ取付ケラルル様致サレ度シ

四、尚作業継続ニ依リテ生スル産出物ニシテ残余アル場合ノ処分ニ付テハ後日利権契約締結ノ際ニ協定ヲ遂クルノ途モアルヘキニ依リ右ニ関スル我方提議ハ此際ハ此以上ニ進メサルコトト致度方一先方ヨリ本件ニ言及スル時ハ前記ノ趣旨ヲ以テ応酬セラレタシ

（別電Ⅰ）

十二月五日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第七五六号
議定書(B)ニ関スル我カ方ノ決定案

第七五六号別電（極秘）
議定書(B)ニ関スル我方決定案左ノ通

Protocol (B)

The two High Contracting Parties have agreed upon the following as the basis for the Concession Contracts to be negotiated immediately upon the coming into force of the present Convention and to be concluded within six months from that date.

1. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees to grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan the concession for the exploitation of 50%, in area, of each of the oil fields in Northern Saghalien which are mentioned in the Memorandum submitted to the Russian Representative by the Japanese Representative on August 29th, 1924.

For the purpose of determining the area to be leased to the Japanese concerns for such exploitation, each of the said oil fields shall be divided into chequer-board squares of not less than fifteen dessiatines each, and a number of these squares representing 50% of the whole area shall be allotted to the Japanese, it being understood that the squares to be so leased to the Japanese are, as a rule, to be non-contiguous to one another, but shall include all the wells now being drilled or worked by the Japanese.

With regard to the remaining unleased lots of the oil fields mentioned in the said Memorandum, it is agreed that should the Government of the Union of Soviet Socialist Republics decide to offer such lots, wholly or in part, for foreign concession, Japanese concerns shall be afforded equal opportunity in the matter of such concession.

2. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics also agrees to authorize Japanese concerns recommended by the Government of Japan to prospect oil fields, for a period of from five to ten years, on the eastern coast of Northern Saghalien over an area of one thousand square versts to be selected within one year after the conclusion of the Concession Contracts, and in case oil fields shall have been established in consequence of such prospecting by the Japanese, the concession for the exploitation of 50%, in area, of the oil fields so established shall be granted to the Japanese.

3. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics agrees to grant to Japanese concerns recommended by the Government of Japan the concession for the exploitation of coal fields on the western coast of Northern Saghalien over a specific area which shall be determined in the Concession Contracts.

With regard to the coal fields outside the said specific area, it is also agreed that should the Government of the Union of Soviet Socialist Republics decide to offer them for foreign concession, Japanese concerns shall be afforded equal opportunity in the matter of such concession.

4. The period of the concessions for the exploitation of oil and coal fields stipulated in the preceding paragraphs shall be from forty to fifty years.

5. As royalty for the said concessions, the Japanese concessionnaires shall make over annually to the Government of the Union of Soviet Socialist Re-

publics, in case of coal fields, from 5 to 8 per cent of their gross output, and, in case of oil fields, from 5 to 15 per cent of their gross output: provided that in the case of a gusher, the royalty may be raised up to 45 per cent of its gross output. The percentage of output thus to be made over as royalty shall be definitively fixed in the Concession Contracts, and it may be graduated according to the scale of annual output in a manner to be defined in such Contracts.

6. The said Japanese concerns shall be permitted to fell trees needed for purposes of the enterprises and to set up various undertakings with a view to facilitating communication and transportation of materials and products. Details connected therewith shall be arranged in the Concession Contracts.

7. In consideration of the royalty above mentioned and taking also into account the disadvantages under which the enterprises are to be placed by reason of the geographical position and other general conditions of the districts affected, it is agreed that the importation and exportation of any articles, materials or products needed for or obtained from such enterprises shall be permitted free of duty, and that the enterprises shall not be subjected to any such taxation or restriction as may in fact render their remunerative working impossible.

8. The Government of the Union of Soviet Socialist Republics shall accord all reasonable protection and facilities to the said enterprises.

（右和訳文）

付属議定書〔一〕

両締約国ハ本条約ノ効力発生後直チニ商議ヲ行ヒタル上右期日ヨリ六箇月以内ニ締結セラルヘキ利権契約ノ基礎トシテ左ノ通約定セリ

一、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ一九二四年八月二十九日日本代表ヨリ露西亜代表ニ提示セル覚書ニ記載スル北薩哈嗹油田ノ各箇ニ付其ノ地積ノ五割ヲ開発スルノ利権ヲ日本政府ノ推薦スル日本当業者ニ許与スル

ヿトニ同意ス

右開発ノ為日本当業者ニ貸与セラルヘキ地積ヲ決定スル目的ヲ以テ前記各油田ハ各十五「デシャチン」ヲ下ラサル碁盤目方形ニ分割セラルヘク全地積ノ五割ニ相当スル右方形ノ数ハ日本側ニ割当テラルヘシ右日本側ニ貸与セラルヘキ方形ハ原則トシテ相隣接スヘカラサルモ現在日本側ニ於テ掘鑿又ハ作業中ナル一切ノ坑井ヲ包含スヘキモノトス

前記覚書ニ記載セル油田中貸与セラレサル残余地区ニ関シテハ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニシテ右地区ノ全部又ハ一部ヲ外国人ニ利権トシテ提供スルコトニ決定スルトキハ日本当業者ハ右利権ニ関シ均等ノ機会ヲ与ヘラルヘシ

二、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ更ニ日本政府ノ推薦スル日本当業者ニ対シ北薩哈嗹東海岸ニ於テ利権契約締結後一ケ年内ニ選定セラルヘキ一千平方露里ノ地域ニ亘リ五年乃至十年ノ期間油田ヲ試掘スルヲ認可スルコトニ同意シ且右日本側試掘ノ結果油田確定セラルルトキハ右確定セラレタル油田ノ地積ノ五割ヲ開発スルノ利権ヲ日本側ニ許可スヘシ

三、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ北薩哈嗹西海岸ニ於テ利権契約ニ於テ決定セラルヘキ特定地積ノ炭田ヲ開発スルノ利権ヲ日本政府ノ推薦スル日本当業者ニ許与スルコトニ同意ス

四、前記諸項ニ規定セル油田及炭田ノ開発利権ノ期間ハ四十年乃至五十年タルヘシ

五、日本人ニシテ利権ヲ許与セラレタル者ハ右利権ニ対スル報償トシテ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニ対シ毎年炭田ノ場合ニ於テハ総産出高ノ五歩乃至八歩ヲ又油田ノ場合ニ於テハ総産出高ノ五歩乃至一割五歩ヲ提供スヘシ但シ自噴油井ノ場合ニ於テハ右報償ハ其ノ総産出高ノ四割五歩マテ増加スルコトヲ得ヘシ報償トシテ提供セラルヘキ右歩合高ハ利権契約中ニ於テ確定セラルヘク且年産率ニ応シ該契約中ニ定メラルヘキ方法ニ依リ等差ヲ設ケラルヘシ

六、右日本当業者ハ本企業ノ目的ニ必要ナル木材ヲ伐採シ且交通並物資及生産物ノ運輸ヲ容易ナラシムル為諸般ノ施設ヲ為スコトヲ許サルヘシ右ニ関スル詳細ハ利権契約

中ニ規定セラルヘキモノトス

七、前記報償提供ニ顧ミ且当該区域ノ地理上ノ位置其ノ他一般状態ニヨリ本企業ノ受クヘキ不利ヲ考量シ本企業ニ必要ナル一切ノ物件、物資及本企業ヨリ得タル生産物ノ輸出入ハ無税ニテ許可セラルヘク且本企業ハ事実上本企業ヲ破滅スルカ如キ制限又ハ課税ヲ受クルコトナカルヘシ

八、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ本企業ニ対シ一切ノ合理的ナル保護及便宜ヲ供与スヘシ

編註　右和訳文ハ十二月六日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛公信ヲ以テ別途送付サレタルモノナリ

（別　電二）

十二月五日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第七五七号

作業継続問題ニ関スル我ガ方ノ決定案

第七五七号　別電（極秘）

作業継続問題露国側公文案ニ対スル我方決定案左ノ通

一、貴電第一一〇六号ノ一先方提案前文後段

be continued ヨリ provided マデヲ be continued until the conclusion of the Concession Contracts stipulated in Protocol (B) signed this day, that is to say, for a period of six months from the date of comming into effect of the said Protocol, provided

ト修正ス

二、同上条件第二ハ往電第七〇七号中ノ八(イ)ノ通リ

三、同上条件第三ハ貴電第一一六八号中ノ八所載先方ト話合済ミナル往電第七〇七号中ノ八(ロ)ノ通リ

四、同上条件第四ハ左ノ通リ修正ス

4. The question of the Japanese wireless stations situated in Northern Saghalien is reserved for future settlement.

作業継続問題ニ関スル我ガ方ノ決定案全文（和訳文）

以書翰致啓上候陳者本官ハ本国政府ヲ代表シ「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ハ一九二四年八月二十九日日本全権ヨリ「ソヴィエト」社会主義共和連合国全権ニ手交セラレタル覚書記載ノ北薩哈嗹ニ於ケル油田並炭田ニ於テ目下日本側ニヨリ実行中ナル作業ハ本日調印ノ議定書(二)中ニ規定セラレタル利権契約ノ締結ニ至ル迄即チ該議定書ノ効力発生ノ日ヨリ六箇月ノ期間続行セラルルコトニ同意スルコトヲ声明スルノ光栄ヲ有シ候但シ日本側ハ左ノ諸条件ヲ遵守スヘシ

一、作業ハ其ノ地域、使用セラルル労働者及専門家ノ数、機械並其他ノ条件ニ関シ一九二四年八月二十九日付覚書記載事項ニ準拠シテ続行セラルヘシ

二、石油及石炭等ノ産出物ハ輸出若ハ販売スルコトヲ得ス該作業ト関係アル従業員及装備ノ需用ニノミ之ヲ充ツルコトヲ得ヘシ

三、「ソヴィエト」社会主義共和連合国政府ニヨル作業続行ノ許可ハ将来ノ利権契約ノ規定ニ何等影響ヲ及ササルモノトス

四、北薩哈嗹ニ存在スル日本無線電信所ニ関スル問題ハ将来ノ解決ニ留保ス

右申進旁本官ハ茲ニ閣下ニ向ッテ敬意ヲ表シ候　敬具

（署　名）

編註一　右和訳文ハ十二月六日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛公信ヲ以テ別途送付サレタルモノナリ

二　英文ハ見当ラズ

五〇七　十二月六日　幣原外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

日ソ国交樹立後ノ宣伝禁止ニ関シ訓電ノ件

第七五九号

貴電第一二二五号ニ関シ

貴見御稟申ノ次第閣悉　日露交渉ニ関スル我方ノ決意ハ別電ヲ以テ（撤兵問題ニ付テハ決定次第電報ス）夫々申進置タル通リニシテ先方ニシテ我妥協案ニ対シ尚異議ヲ唱ヘ従テ交渉成立セサル場合ハ已ムヲ得ス然ラスシテ先方カ之ニ承諾シ国交樹立ノ運ヒトナル場合ニハ先方ハ本邦ニ大使館及領事館ヲ開設スヘク其他多数ノ露国人モ自然入国スヘキハ避クヘカラサル当然ノ帰結ナリ之カ為基本条約中ニ特ニ第五条ノ規定ヲ設ケテ先方ヲシテ宣伝禁止ヲ約セシムルコトトスルモ之カ履行ニ関シテハ余リ期待シ得サル処ナルニヨリ本件ニ付テハ更ニ我当該官憲ニ於テ出来得ル限リノ手段方法ヲ尽シ危険有害ナル宣伝ヲ禁止取締ルノ上ニ於テ万遺漏ナキヲ期スヘキハ固ヨリ当然ノ義ナリト思考ス就テハ前記貴電ニ拠レハ「カラハン」ノ支那ニ於ケル遣リ口ニ関シ本問題ニ付帝国トシテ参考トナルヘキ幾多ノ資料アル趣

ナル処右ノ如キ資料ハ公信又ハ電報ヲ以テ至急御報告アリタシ

五〇八　十二月二十四日　幣原外務大臣ヨリ在中国芳沢公使宛（電報）

北樺太ヨリノ撤兵方針ニ付キ訓電ノ件

別　電　十二月二十四日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第七八八号
北樺太ヨリノ撤兵ニ関スル件

第七八七号　極秘

往電第七四〇号ニ関シ

撤兵問題ニ就テハ大体別電第七八八号ノ通リ決定セリ右決定ニ於テ条約ノ効力発生期ヲ遅クトモ二月中旬迄ト限リタルハ薩哈嗹ノ陸上及海上輸送ノ関係ヲ考量シ最モ迅速且短期間ニ撤兵ヲ完了セムコトヲ念トシタル結果ナリ蓋シ「オハ」亜港間約百里ノ行程人煙稀薄殆ント宿営地ナク僅ニ四、五人ヲ収容スル郵便駅舎アルニ過キス又途中糧秣等ノ準備ヲ要スル上纜ヲ得ルコト困難ニシテ一時ニ大部隊ノ行動ヲ許サス時ニ吹雪ニ遭フコトアルヲ以テ軍隊全部ヲ便船地亜港迄引揚ケシムルニハ準備日数等ヲ合セ一ケ月半乃至二ケ月ヲ要スルヲ以テ若シ条約ノ効力二月中旬迄ニ発生セハ例年四月中旬ニ開始サルル亜港ノ海上船航期ニ間ニ合ヒ直ニ撤兵ヲ開始シ得ヘキモ若シ条約ノ発効遅ルルトセハ四、五、六月頃ノ雪解及雪解後ニ於ケル「ツンドラ」地帯等ノ泥濘化ノ為東海岸方面部隊ノ陸上移動不可能トナリ仮令亜港ヨリノ船航開始サルルモ撤兵遅延スルヲ免カレス又撤兵完了期ヲ四月中旬ヨリ一ケ月ヲ超エサル期間トナシタルハ亜港ノ海上船航ハ例年概ネ四月中旬ヨリ開始サルルモ亜港ハ港湾不良桟橋ノ設備不完全ニシテ一時ニ輸送行程ヲ増加スルコト能ハサルノミナラス天候不良ノ為船積不可能トナルヘキ場合ヲモ考量シ一ケ月ノ余裕ヲトリタル次第ナリ

尚派遣軍撤去後ノ民政等ノ引継及占領解除ニ関スル細目ノ打合ハ条約ノ効力発生ノ前後ヲ見計ヒ亜港ニ於テ我軍司令官ト露国代表トノ間ニ現況ニ応シ行ハシムルコトセル次第ナリ

（別　電）

十二月二十四日幣原外務大臣発在中国芳沢公使宛電報第七八八号

北樺太ヨリノ撤兵ニ関スル件

第七八八号　別電（極秘）

一、日露間条約ノ効力カ来年二月中旬迄ニ発生スルニ於テハ日本軍ハ北薩哈嗹ニ於テ露国側ニ対シ民政等ノ引継ヲ終レル地区毎ニ逐次占領ヲ解除シテ概ネ四月中旬ヨリ一ケ月ヲ超エサル期間内ニ於テ全部ノ撤兵ヲ完了ス

二、引継及占領解除ニ関スル細目ノ打合ハ亜港ニ於テ日本軍司令官ト露国代表トノ間ニ於テ之ヲ行フ

五〇九　十二月二十八日　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

日本側ノ最終妥協案ニ対シカラハンガ交渉成立ノ曙光ヲ認ムト述ベシ旨報告ノ件

第一二九五号　極秘　（十二月二十九日接受）

十二月二十七日日露会議ヲ開催ス先ツ本使ハ客月十一日ノ会議以後本交渉ハ停頓ノ状態ニアリタル処其後日本政府ニ於テモ種々考慮審議スル処アリ且先月下旬貴下ト本使トノ間ニ於ケル私的会見ノ内容等ニ顧ミ努メテ互譲妥協ノ精神ヲ発揮シ未タ意見ノ一致ヲ見サリシ諸問題ニ関シ最後ノ妥協案ヲ作成シタルヲ以テ之ヨリ順次説明スベシト述ヘタル

上

㈠漁業協約問題（基本協約案第三条）ニ関シテハ二種ノ案文ヲ作成シタルヲ以テ其ノ何レヲ採用セラルルモ差支ナキモ其内ノ一案ハ殊ニ貴方従来ノ主張ヲ尊重シタルモノニシテ此ノ二案以外ニハ何等譲歩ノ余地ナキニ依リ其辺篤ト御諒察ノ上何レニカ同意アリタシト述ヘ貴電第七一三号ノ条文案ト之ニ貴電第七三九号御来示ノ修正ヲ加ヘタル条文案トノ二案文ヲ同時ニ提出セリ（本問題ニ関スル閣下ノ御訓令ニハ貴電第七一三号ノ案ハ本使ノ腹案トシテ提出スヘシトアリ而シテ貴電第七三九号ニハ斯々ノ修正ヲ加ヘテ協定シ差支ナシトアル処撤兵問題御審議ノ為日時ヲ要シタル結果漸ク本月二十七日会議ヲ開催スルヲ得タル次第ニシテ前回ヨリ時日ヲ閲スルコト約五十日ノ今日ニ至リ今更試案トシテ提出スルコトモ具合悪シキニ依リ本使ノ裁量ニテ右様取扱ヒタル次第ニ付右様御承知アリタシ）

㈡宣伝禁止問題（協約案第五条）ニ関シテハ貴電第七四〇号㈡ノ趣旨ヲ説明シタル上貴電第七四一号ノ案文ヲ提出セリ

(三)基本協約第六条一般利権ニ関スル規定ニ関シ貴電第七四〇号(三)御来示ノ点ニ関シテハ十一月十日ノ会議議事録三頁末段記載ノ次第御参照アリタク本件「政府」ノ文字ハ先方ノ「ミスプリント」ナリ

(四)尼港事件陳謝文ニ関シテハ貴電第七四〇号(四)御来示ノ修正ヲ加ヘタル案文ヲ提出シ且御来示ノ趣旨ヲ説明シタリ

(五)尼港事件類似ノ事件ニ関スル露国側提出公文案ニ関シテハ貴電第七四〇号(五)御来示ノ趣旨ヲ説明シ該案ノ撤回ヲ要求セリ

(六)「ポーツマス」条約関係付属公文問題ニ関シテハ貴電第七一四号ノ十二前段ノ趣旨ノ説明ヲ為シタル上同後段所載ノ修正案ヲ提出セリ

(七)「ベッサラビヤ」条約問題ニ関シテハ日本政府ニ於テモ貴方提案ニ付種々研究シタルモ此形式ニテハ遺憾乍ラ同意スルコトヲ得ス然レ共本問題カ主トシテ欧州問題ナルニ顧ミ密接ナル利害関係ヲ有スル欧州調印国全部ニ於テ批准ヲ了セサル限リハ之カ批准要請ノ手続ヲ取ラサル意向ナルニ付右帝国政府ノ意向トシテ貴下ニ言明スルモノナリト述ヘタリ（即チ単ニ貴電第七四〇号(七)ノ前段ノ趣旨ヲ述ヘ置クニ止メ後段ノ趣旨ノ説明ニハ及ハサリシナリ）

(八)議定書(B)ニ関シテハ先ツ貴電第七五六号ノ案文（不明）

議定書(B)第三条ハ……

shall be determined in the Concession Contracts; it being understood that Doue mine shall be included in the area to be based with regard to the coal fields outside ……

トセリ即チ貴電第七五五号(甲)ノ四（前段御来示ノ趣旨ヲ先ツ其儘公文(?)案中ニ織込ミ提出シタル次第ナリ）ヲ提出シタル上貴電第七五五号(甲)ノ(一)(二)及(三)ノ前段ノ趣旨即チ尚右利権ニ関スル云々ノ所ハ説明セス並同(甲)(六)(七)ノ趣旨ヲ然ルヘク敷衍説明セリ（炭田ニ関スル四ハ前述ノ通リ(?)中ニ「ヅーエ」ヲ含ムヘキ旨ヲ其儘挿入シタル関係上別ニ説明セサリシナリ）

(九)作業継続問題ニ関シテハ貴電第七五七号御来示ノ公文(?)案ヲ提出シタル上貴電第七五五号(乙)ノ(一)及(二)ノ趣旨ヲ然ルヘク敷衍説明セリ

(十)撤兵問題ニ関シテハ貴電第七八八号ノ趣旨ヲ説明シ為念右電文ノ仏訳文ヲ「カラハン」ニ手交シタル上右ノ如ク決定シタル理由トシテ貴電第七八七号ノ趣旨ニ本使ノ実地見聞ヲモ加ヘテ懇切詳細ナル説明ヲ加ヘタル後以上ヲ以テ日本側最後妥協案ニ対スル全部ノ説明ヲ了レルモノナルカ尚終リニ在莫斯科及「イルクーツク」日本旧領事館ノ現状ニ関シテハ先ニ目下取調中ナリトノコトナリシ処其後報道ニ接シタル次第モアラハ承知致シタシト述ヘタルニ「カラハン」ハ今回ノ日本側御提案ニ対スル貴公使先刻来ノ御説明ノ次第ハ篤ト諒承セリ如上ノ問題ニ関シテハ猶二三説明ヲ承リタキ個所モアリ又日本領事館問題ニ関シテモ御答弁アリタキ次第ナルモ我方トシテハ差当リ最重要視スル問題ハ撤兵問題ナルヲ以テ本問題ニ関シ更ニ篤ト御説明ヲ承リタク先ツ東海岸並西海岸ニ於ケル日本軍ノ数ヲ承知致シタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ正確ナル数ハ調査ノ上説明スヘキモ曾テ申述ヘ置ケル通リ日本ハ最近北樺太ヨリ六百ノ軍隊ヲ撤退シタルヲ以テ現在ニ於ケル数ハ大約千数百名ナルヘク右ハ東海岸ニ数百其他ハ西海岸殊ニ亜港ヲ中心トシテ各所ニ散在シ居レルモノナルカ予テ説明ノ通リ此等ノ軍隊ハ単ニ戦闘員トシテニアラスシテ軍事行政ノ任ニ当リ居リ警察ハ勿論、教育衛生交通等諸般ノ行政事務ニ従事シ居ルモノアルヲ以テ日本軍ノ撤退ニ際シテハ是非共露国側官憲ニ民政ヲ引継クコト北樺太住民ノ福祉上絶対ニ必要ナル次第ナリト述ヘタルニ「カ」ハ撤兵問題ハ我方ノ最重要視スル問題ナルヲ以テ兵員数ノ如キモ正確ナルモノヲ承知シ置ク必要アリ我方トシテハ協約成立シ効力発生シタル後モ領土内ニ他国軍隊ノ存在スルコトハ甚タ好マサルコトニシテ此点ニ関シ日本側ノ充分ナル諒解ヲ希望ス本問題ハ場合ニ依リテハ他ノ問題ニ影響スルヤモ測リ難ク何レニスルモ本問題ハ之ヲ莫斯科ニ電報スヘシ我方トシテモ不可能ナルコトヲ要求スルノ意志ナシ今仮リニ北樺太ヲ五区ニ分チ撤兵ヲ行フコトトセムニ我官憲ハ先ツ第一ニ亜港ニ赴キ行政其他ノ引継ヲ受クヘク第二区、第三区順次同様ナルヘキ処引継ヲ完了シタル区ニ於テハ最早日本軍駐屯ノ必要アルコトナシ蓋シ露国官憲カ行キ得ル土地ヨリ日本軍カ引揚クルコトヲ得スト言フハ不可解ナリ尤モ例ヘハ「オハ」ノ如キ遠隔ノ土地ニ在リテハ或ハ行クコトモ引揚クルコトモ不可能ナルヤモ測リ難ク果シテ然ラハ如

何トモ為シ難カルヘク要スルニ我方ニ於テモ決シテ不可
能ヲ強フルノ意思ナキニ依リ貴方ニ於テモ其ノ為シ得ル
限リヲ尽スコトトセラルルコト公平ナルヘシ
今回日本側ノ対案ニ基キ協約ノ成立ヲ見ルニ至ルヘキヤ
否ヤハ遽ニ断言シ難キモ仮リニ一月上旬成立スルモノト
セハ我方トシテハ先ツ西海岸ノ軍隊ハ行政引継完了次第
海路ニ依リ撤兵スルコト可能ナルヘク若シ海路不可能ナ
リトセハ陸路ノ撤退モ必スシモ不可能ナラサルヘシトモ
思考シ居ル処ナリ東海岸ノ軍隊ニ就テハ撤退ハ事実困難
ナルヤモ計リ難キモ猶篤ト研究スルコトトスヘシ兎ニ角
撤兵問題ハ莫斯科ノ最重要視スル処ナルヲ以テ慎重御考
究アリタク猶日本軍武装解除案ハ貴方ノ拒絶セラレタル
処ナルモ我官憲カ北樺太ニ至リ引継ヲ受ケタル後モ日本
軍カ撤退シ得スト言フハ不可解ナルヲ以テ武装解除案ヲ
今一応御考慮アリタシ
尚本日ハ是レニテ会議ヲ終リ余ハ次回ニ譲リタキ処今回
ノ日本側対案ニ対スル予ノ感想ヲ一言センニ日本側ハ今
回ノ訓令ノ為ニ一ケ月以上ノ長時日ヲ費サレタルモ右ハ
必スシモ無意義ナラサリシヲ感スルモノナリ今回ノ御提

案ニ依リ日本側カ真ニ交渉ノ成立ヲ希望シツツアルコト
ヲ諒解シタルカ斯クテ漸ク本交渉モ成立ノ曙光ヲ認メ得
タリト思考ス打チ明ケテ申セハ今回ノ御提案ニ依リ利権
問題モ最早難関ヲ通過シタリト信ス唯形式上ノ問題ニ付
討議ノ必要アルコトヲ一言シ置クヘシ予ハ今回ノ御提案
ニ対スル貴公使並日本政府ノ甚大ナル御努力ニ対シ真ノ
謝意ヲ表セントスルモノナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ撤
兵問題ニ関スル貴案ハ貴方ノ立場ヨリセハ一応御尤モナ
ルヘキモ日本政府トシテハ交渉ノ成立ヲ熱望シツツアル
ハ既ニ貴下ノ認メラルル通ニシテ従テ撤兵問題ニシテモ
過去数十日ノ間鮮カラス苦心ヲ重ネタル次第ナリ然ルニ
不可能ナルコトハ矢張リ不可能ナリ露国側ニ於テハ或ハ
短距離ノ間宮海峡ヲ渡リテ対岸ノ北樺太ニ赴クコト不可
能ナラサルヘキモ日本側ニ於テハ是レニ倣フ能ハス又陸
路南樺太ニ撤退スルコトモ僅少ノ人数ナラハ兎ニ角多数
ノ軍隊カ厳冬ニ際シテ是レヲ行フカ如キハ非常ナル冒険
ニシテ貴下ノ是レヲ希望セラルルハ寧ロ惨酷ナリト云フ
ヘシ要スルニ陸路ノ撤退ハ到底不可能ナルヲ以テ其ノ点
御諒解アリタシ勿論国交回復後日本軍ノ駐屯スルコトハ

不合理ナリトノ貴見ハ理由無キニ非サルモ右ハ決シテ日
本側ノ好ンテ為ス処ニ非ス一ニ天然ノ妨礙ニ由ルモノニ
シテ已ムヲ得サル処ナリ日本政府ハ決シテ嫌カラセヲ為
サントスルモノニ非ス其ノ撤兵ニ対スル誠意ニ至リテハ
本使ハ実ニ百枚ノ印紙ヲ貼リテ保証スルニ躊躇セサル処
ナリ冬季北樺太ニ於ケル交通ノ至難ナルニ思ヒ及フ時ハ
日本政府今回ノ提案ハ実ニ其ノ為シ得ル最大限ヲ尽シタ
ルモノニシテ本使スラモ是レニ感歎シタル程ナリ是等ノ
事情ハ篤ト莫斯科ニ報告アリタシト述ヘタルニ「カ」ハ
兎ニ角次回ニ於テ本日ノ貴方提案全体ニ亘リテ意見ヲ述
フヘシ撤兵ニ関シテハ日本側専門委員ヨリ図面ヲ以テ何
レノ道ニ依リ撤兵スルモノナリヤ等具体的詳細ナル説明
ヲ聴クヲ得ハ好都合ニシテ我方トシテモ無理ヲ要求スル
次第ニハ非サルニ付首肯シ得ルニ足ル説明材料アラハ莫
斯科ヲ説得スル上ニモ好都合ナリト思考スト述ヘタルヲ
以テ本使ハ撤兵ノ具体的方法及正確ナル兵員数等ノ点ニ
付テハ当地ニ於テ判明セルモノハ是レヲ説明スルコトト
スヘキ旨ヲ答ヘ且ツ冬季北樺太ニ於ケル唯一ノ交通機関
ハ犬橇ナル事実ヲモ指摘シ其他種々交通至難ノ事情ヲ説

明シ次回ヲ二十九日開催ノコトニ打合セ散会セリ

五一〇　十二月三十一日(着)　在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛（電報）

撤兵問題ヲ初メトスル日本側妥協全般ヲメグルカラハントノ討議報告ノ件

第一二九七号　極秘
往電第一二九五号ニ関シ
十二月二十九日ノ会議ニ於テ
㈠撤兵問題ニ関シ「カラハン」ハ本問題ハ最重要ニ付之ヨリ討議ノコトト致度シ就テハ二十七日会議ニ於テ依頼シ置キタル北樺太駐屯軍ノ兵数、駐屯地点、輸送方法其他参考資料ノ御説明ヲ得タシト述ヘタルヲ以テ本使ヨリ地図ニ付詳細説明シ且ツ重ネテ輸送ノ困難ナルコトヲ力説シタルニ「カ」ハ篤ト本使ノ説明ヲ聴取シタル後然ラハ西海岸ノ軍隊千二百名ハ他ノ地方ノ分ト異ナリ冬期ニ於テモ砕氷船ヲ以テ送還スルコトヲ得ヘシト述ヘタルニ依リ本使ハ亜港ニ在ル北樺太駐屯軍司令部ハ駐屯軍ノ首脳ニシテ各地ニ散在セル各部隊ハ手足ナリ手足ハ首脳部ノ命令アリテ初メテ行動シ得ルモノナリ然ルニ手足ヲノミ

先ツ撤退セムトスルハ不可能ナリ尚砕氷船云々ニ至リテハ之ガ果シテ厳冬ニ際シテモ善ク亜港ニ至リ十分運用ノ任務ヲ完了シ得ヘキヤ甚タ疑ハシキ次第ナリト述ヘタルニ「カ」ハ先ツ駐屯軍全部ヲ一旦司令部ニ集中シタル上撤兵ヲ行ハントスルハ日本陸軍ノ秩序ノ上ヨリセハ立派ナルヘキモ願クハ斯ノ如キ形式ニ拘泥スルコトナク撤兵シ得ル部分ヨリ実際的ニ着々撤兵スルノ方針ニ依ラレタシ東海岸ニ在ル僅々三百五十ノ軍隊ノ為爾余ノ軍隊全部ヲ数ケ月間亜港ニ滞留セシメントスル貴説ニハ同意スルコトヲ得ス予ノ得タル報道ニ依レハ最近日本汽船「ヲード」丸ハ（砕氷船大泊ヲ指スモノカ）亜港ヨリ小樽ニ航行シタル由斯ノ如キ砕氷船ノ保護ノ許ニハ冬期ニ於テモ日本トノ航行ハ不可能ニアラス場合ニ依リテハ露国砕氷船ヲモ派遣シテ援助セシムルモ可ナリ要スルニ冬期ナルヲ以テ撤兵不能ナリト云フ次第ニハアラサルヲ以テ協約ノ効力発生シテ露国官憲亜港ニ到着シ行政ノ引継ヲ完了セハ日本軍撤退セラルルコト妥当ナリ又北樺太中央部即チ「ルイコフ」「デルビンスコエ」「アダツイ」等ノ駐屯軍ハ亜港ニ至ル距離モ遠カラス且ツ軽便鉄道ノ設備モアルヲ以テ多数ノ時日ヲ費サスシテ亜港ニ送還シ得ヘク之ヲ要スルニ西海岸及中央部ノ軍隊ハ冬期ニ於テモ漸次撤退シ得ルモノナリ次ニ東海岸ノ軍隊ニ関シテハ其撤退ハ相当困難ナルヘク従テ別個ノ方法ニ依ルノ必要アルヘク此点ニ関シテハ目下請訓中ナルモ要スルニ我官憲同方面ニ到着シ引継ヲ完了シタル後ハ最大親善関係ヲ有スル友邦ノ軍隊トシテ種々ノ便宜ヲ提供シ其撤兵ノ方法モアルヘシト信ス尚一昨日ノ日本側提案ニ依ル撤兵ニ関スル細目ハ現場ニ於テ日本軍司令官ト協議スヘシトノコトナリシ処撤兵ノ期限区域等ノ重要事項ハ北京ニ於テ協定シ置クコトト致度シ若シ此等ヲモ現場ニ於ケル取極ニ委スルニ於テハ或ハ北京ニ於ケル協定ノ精神ヲモ破壊セラルルヤモ測リ難ク此点甚タ懸念ニ堪ヘスト述ヘタルヲ以テ本使ハ貴説ハ篤ト拝聴シタルカ思フニ貴下ハ主トシテ人員ノ輸送ノミヲ考慮セラレ軍器弾薬糧秣等ノ材料輸送ヲ忘却セラレタルモノノ如シ材料ノ運搬ハ人員ノ輸送ニ比シテ遙ニ困難ナリ又軽便鉄道ニ関シ云為セラレタルモ北樺太ニ於テ冬期軽便鉄道ヲ利用シ得ルモノトハ信スル能ハス亜港ヨリノ輸送又到底困難ナリト思考ス若シ夫レ少数ノ人員ノミナルニ於テハ砕氷船ヲ使用シテ続続汽船ヲ持チ来ラハ或ハ輸送シ得ヘキヤモ測リ難キモ夫レトテ頗ル疑問ナリ況ンヤ材料ノ輸送ニ至リテハ亜港ノ設備不良ナルニ顧ミ到底是レカ実行ヲ期待スルコトヲ得スト述ヘタルニ「カ」ハ材料運搬ノ困難ナル点ハ至極同感ナリ然ラハ此点ニ関シテハ敢テ申述ヘタルカ如ク運送可能ノ時機迄日露双方ノ封印ヲ施スナリ又ハ軍人ニ非ル番人ヲ付スルナリ何等ノ方法ヲ講スルヲ得ヘシ日露協約ハ成立シ露国官憲ハ北樺太ニ到リテ引継ヲ完了シタリ砕氷船ハ航行シツツアリト云フ現状ナルニ単ニ材料ノ運搬困難ナリトノ理由ヲ以テ便々日本軍カ数ケ月間我領土内ニ駐屯ヲ継続スヘシト云フハ不合理ニシテ国民ニ対シ説明ニ窮スル次第ナリ若シ之カ為ニ日露交渉ノ成立ニ累ヲ及ホスカ如キコトアラハ更ニ遺憾ナリ勿論日本陸軍トシテハ撤兵ニ際シテハ正々堂々ト整頓シタル統一的行動ヲ以テ引揚クルコトヲ希望セラルルハ御尤モナルモ斯ル形式ノ為ニ撤兵ヲ数ケ月遅延セシムルハ甚タ遺憾ナリ日露両国カ将ニ親善関係ニ入ラントスル際ナルヲ以テ日本陸軍ニ於テモ出来得ル限リノ好意ヲ表示セラレタク其好意ハ露国々民ノ感銘スル処ナルヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ貴説ハ大体(一)砕氷船ヲ使用セハ厳冬ニ於テモ汽船ノ航行可能ニシテ運輸可能ナリ(二)材料ノ運搬困難ナラハ封印若ハ其他ノ方法ヲ以テ残シ置クヲ得ヘシトノ二点ニ帰着スル処先ツ第一点ニ関シテハ甚タ疑問ナリ若シ果シテ砕氷船ヲ以テセハ船舶出入自由ナリトセハ日本陸軍ニ於テモ厳冬ノ引揚ヲモ躊躇スルコトナカルヘキ筈ナリ日本政府トシテモ一旦協約ノ成立シタル暁何ノ為ニ多額ノ経費ヲ費シテ北樺太駐兵ニ恋々タルヘキヤ斯ノ如キハ殆ト想像タニ為シ得サル処ナリ依テ予ハ砕氷船ノ利用ニ関スル貴説ハ信スルコトヲ得サルモ「オード」丸云々ノ点モアリ兎ニ角政府ニ電照スルコトトスヘシ

第二点ノ材料ノ問題ニ関シテハ冬季ニ於ケル荷役ハ極メテ困難ナラハ之カ輸送不可能ナルモノアルヘキ処之ヲ封印シテ残留スヘシトノ貴説ナルカ残置スルコトヲ得サルモノモアルヘク又仮ニ残置スルコトトスルモ相当人員ヲ保管ノ為ニ残シ置クノ必要アルヘシ何レニスルモ叙上ノ二点ハ一応政府ニ電報スルコトトスヘク回訓接到次第何分ノ返事ニ及フヘシト述ヘ置ケリ然ラハ右ニ関シ何分ノ

御回電ヲ請フ

(二)漁業協約改訂問題（基本協約案第三条）ニ関シ「カラハン」ハ日本側今回ノ提案ハ我方案ニ接近シ来レルニ依リ其ノ儘政府ニ報告シ置キタルヲ以テ回訓接到次第披露スヘシト述ヘタルヲ以テ本使ハ日本側トシテ是以上譲歩ノ余地ナキ次第ナリト述ヘ置ケリ

(三)宣伝禁止問題（協約案第五条）ニ関シ「カラハン」ハ日本側今回ノ提案ハ英露協約ヲ其ノ儘採用シタルモノナルカ本件ハ之ヲ政府ニ報告シタリ政府ノ意向ハ不明ナルモ或ハ之ニ同意スルヤモ知レス尤モ日露両国ハ直接ニ領土ヲ接スル点ニ於テ英露ノ関係ト多少異ナル所アリ従テ或ハ案文ニ更ニ数行ノ文句ヲ付加シテ更ニ詳細ニスルコトトナルヤモ計リ難シト述ヘタルヲ以テ本使ハ英露協約ノ規定ハ頗ル巧妙ニシテ右ハ総テノ場合ヲ包含スヘク露国領土ノ隣接如何ニ拘ハラサルモノナリト思考スト述ヘタリ

(四)利権問題ニ関シ「カラハン」ハ本問題ハ稍困難ナル問題ナリ之ニハ予ノ有スル政府ノ訓令ニ反スル二点アリ夫ハ油田区域ニ関スル今回ノ日本側提案ハ五割トセラルルモ我方最後ノ訓令ニハ四割ナルコト既ニ御承知ノ通リナリ

即チ一割ノ差アル次第ナルカ今更此点ニ付八釜敷論議スルモ賢明ナリトハ謂ヒ難カルヘク依テ予ハ政府ニ対シ露国側五割五分、日本側四割五分トスルコトニ請訓セントス蓋シ北樺太ハ兎ニ角露国ノ領土ナルヲ以テ利権ヲ平等ニ分配スルハ妥当ナラス我方ハ日本側ヨリモ多ク有スルコト「プリンシプル」ノ問題トシテ必要ナリ而シテ如上ノ割合ナラハ予ハ強硬ニ莫斯科ニ請訓スルコトヲ得ヘシ然レ共碁盤目ノ一区画ノ面積ニ関シテハ貴公使ト討議ノ次第ヲ詳細ニ政府ニ報告シ置キタル結果今回政府ヨリ各区画ノ面積ヲ二十「デシャチン」トスルモ可ナル旨回訓シ来レリ是レ隣接セル相手国ノ油井ノ為ニ石油ヲ吸収セラルルノ懸念ハ同様露国側ニモアリ又面積ヲ広クスルコトハ交通ノ方面ヨリモ便利多キニ顧ミ斯ノ如ク決定シタル次第ナルカ此ノ点ニ関シテハ全然貴方ノ希望通リトナリタル次第ナリ

次ニ炭田ノ区域問題ニ関シ日本側提案ハ「ヅーエ」ヲ包含シ居レルモ予ノ有スル政府ノ訓令ニハ「ヅーエ」ヲ含ミ居ラス従テ此点ニ対シテハ多大ノ反対ヲ有スル次第ナリ然レ共利権問題ニ関スル其他ノ点ニ就テハ大ナル議論ナシ唯書方ノ問題就中議定書(B)ノ第七条ニ就テ多少議論ノ余地アルモ夫レ等ハ別ニ重要ニアラスト述ヘタルヲ以テ本使ハ貴下自身ノ考トシテハ両国平等ノ割合ニテハ露国ノ体面上国民ノ感情上面白カラサルニ依リ露国側五割五分日本側四割五分トスヘシトノコトナルモ右ニ対シテハ予ハ少カラス不満ノ意ヲ表セサルヲ得ス利権ノ許与ハ決シテ領土ノ割譲ニハアラサルヲ以テ別ニ国民ノ体面又ハ感情ヲ顧慮スルノ必要ナカルヘク況ンヤ本問題ハ日本カ占領中現ニ経営シツツアル油田ヲ返還スルノ方法ニ関連スルモノニシテ日本側トシテハ僅ニ其一部ヲ譲歩セントスルニ過キス元来貴下ハ利権問題ニ関シテハ貴方ノ立前ニ応スレハ大イニ日本側希望ニ応スル様努力スヘシト述ヘラレタルヲ以テ我方ニ於テ貴方ノ立前ニ応シタルニ拘ラス貴下ハ容易ニ我方要求ニ応セラレス先ツ最初ハ二割ニシテ漸ク四割ニ譲歩シタルモ猶我方要求ノ六割トハ其間二割ノ差アリ而モ貴方ハ其主張ヲ固持シテ容易ニ応セサルニ依リ今回我方トシテハ一ニ交譲妥協ノ精神ニ依リ難キヲ忍ヒテ一割ヲ譲リ双方五割ト言フコトニ決定シタル次第ナリ是誠ニ公平ト言フヘク貴方ノ体面ハ之ニ

テ充分保持セラルヘク若シ本日貴下ノ提案ノ如クムハ甚タ我方ニ不公平ナリ依テ是非共我方提案ニ応セラレタシ次ニ碁盤目ノ一区画ノ面積ヲ二十「デシャチン」迄トスルコトニ異議ナキ旨今回莫斯科ヨリ訓令アリタル由ノ処元来本問題ハ我方ニ於テ最初二十「デシャチン」ヲ要求シタルニ貴下ニ於テ非常ニ反対セラレタル為已ムヲ得ス十五「デシャチン」ニ低下シタル次第ナルニ今回莫斯科ヨリ斯ノ如キ訓令接到シタルモノニシテ右ハ貴下ノ言明ヲ裏切ルモノナリ去リ乍ラ貴方政府カ好ク本問題ノ事情ヲ諒解セラレ今回賢明ナル措置ニ出テラレタルハ我方ノ頗ル満足トスル処ニシテ早速政府ニ電報スヘシ油田区域問題ニ関シテモ現在貴下ハ猶強硬ナル態度ヲ持セラルルモ予ノ推察スル処ニ拠レハ莫斯科政府ハ必スヤ碁盤目ノ面積ノ場合ノ如ク貴下ノ説ヨリモ我方今回ノ提案ノ方ニ賛成セラルヘキヲ確信スルニ付兎ニ角政府ニ稟議セラレタク次ニ「ドウエ」炭坑ノ問題ナルカ此点ニテ又々難関ニ遭遇シタルハ遺憾ナリ此炭坑ハ曾テ述ヘタル通リ現ニ日本側ニ於テ経営シツツアルモノナルヲ以テ我方要求ニ応セラレ然ルヘシト信ス然ルニ貴下只今ノ説明ニ拠レハ

「ドウエ」モ許与スルコトヲ得ストノコトナル処右ハ甚タ遺憾ニ堪ヘス就テハ莫斯科ニ我方要求ニ応スル様更ニ再考方稟請セラレタシト述ヘ貴電御来示ノ譲歩案ハ之ヲ見合セ置キタリ

(五)作業ノ継続ニ関スル公文案第四条無線電信問題ニ関シ「カ」ハ日本側ニ於テ之ヲ存続使用スル必要アル事情ハ篤ト諒解シタルヲ以テ之ヲ莫斯科ニ報告シタリ唯我方トシテハ該無線電信カ我方支配ニ属セス日本側ニ依リ勝手ニ使用セラルルヲ怖ルルモノナル処此点ニ関シ貴方提案ノ如ク兎ニ角将来ノ協定ニ俟ツト言フノミニテハ不安ナルヲ以テ六ケ月ノ過渡期間ニ対シテモ我官憲ノ監視ノ下ニ置クコト等何等カノ取極ヲ為シ置クコトニ致シタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ貴下ノ案ニ依リ我方通信ノ目的ヲ達スルコトヲ得ハ或ハ夫レニテモ可ナルヤモ知レサレトモ兎ニ角政府ニ報告スルコトトスヘシト述ヘタルニ「カ」ハ若シ日本側案ニ「但右契約成立スル迄ハ無線電信ヲ使用セス」ト付記スルニ於テハ此儘ニテモ可ナリ尤モ右ハ表面上ノ取極ニシテ実際ハ契約成立前ニアリテモ地方官憲ト協議ノ上自由ニ使用スルコトヲ得ヘク其点併セテ政府ニ報告アリタシト述ヘタルヲ以テ本使ハ貴方ニ於テハ無線電信ノ所有権ハ何レニ所属セシムルノ意向ナリヤ予ハ先刻来所有権ハ依然我方ニ在ルモノト解シ居レル次第ナルカ若シ所有権モ露国側ニ移リ更ニ露国側ニ於テ監視シ居リ我方ハ兎ニ角必要ノ場合ニ之ヲ借用使用スト ノ意味ナラハ我方トシテ考量ノ余地少カルヘシト述ヘタルニ「カ」ハ所有権ノ所在ハ所有者ノ何人ナルカニ依リ決定セラルヘキモ右ハ何レニスルモ支配権ヲ露国側ニ移シ(脱)モノナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ兎モ角政府ニ請訓スヘシト述ヘタルニ「カ」ハ本問題ハ主トシテ主義上ノ問題ニシテ左シテ重要ナル意味アルモノニアラスト述ヘタリ就テハ此点ニ関スル御意見御回電アリタシ

(六)尼港事件陳謝文ニ関シ「カラハン」ハ日露双方意見ノ相違ハ最早 sincere ナル一個ノ文字トナレル処我方ハ過去ノ歴史並日本国民ノ感情ニ顧ミ日本側案ヲ応諾スルコトトスヘシト述ヘタリ

(七)尼港事件類似ノ事件ニ対スル反対「ノート」ノ件ニ関シ「カラハン」ハ日露両国カ之ヨリ親善関係ニ入ルニ際シ将来ニ不愉快ナル問題ヲ残スカ如キ此種「ノート」ヲ交付スルニハ応諾スルコトヲ得ヘク其点併セテ政府ノ御訓電アリタシ

(八)「ポーツマス」条約ニ関スル宣言文ニ関シ「カラハン」ハ日本側案ニハ大体異議ナシト述ヘタリ

(九)「ベッサラビア」議定書問題ニ関シ「カラハン」ハ欧州関係諸国カ批准セサル間ハ批准ノ奏請ヲ為ササルヘシトノ貴公使口頭ノ声言ニ対シテハ多大ノ感謝ヲ表スルモノナリ露国政府ニ於テ之レニ満足シ得レハ甚タ結構ナル次第ナリ

予ハ今訓令ヲ有スル次第ニハ非サルモ貴公使トノ友誼ニ顧ミ貴公使ニ於テ更ニ一歩ヲ進メラレムコトヲ希望ス即チ貴公使ヨリ予ニ対シ一昨日口頭ニテ声明セル趣旨ヲ認メタル私信ヲ交付スルコトトセラレタク右ハ付属文書トスルコトナク又議事録ニモ記載セス又外部ニモ永久ニ発表セサルコトトスヘシ尤モ他ニ御考案ノ次第モアラハ承リタク何レニスルモ更ニ一歩進メラレムコトヲ希望スル次第ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ今回日本政府カ本使ニ対シ口頭ノ声明ヲ訓令シ来レルハ非常ナル奮発ニシテ仮令口頭ナリト雖約束ハ約束ニシテ其ノ点ニ於テハ書面ト何等択フ処ナシ然ルニ書面ノ交付ハ仮令私信ナリトモ余

付スルニハ応諾スルコトヲ得ストノ貴説ナリシ処露国側モ右ニハ全然同感ナリ然レトモ露国側トシテハ尼港陳謝文ヲ差出ス以上国民ニ対スル説明ノ為ニモ何トカ手段ヲ講セサルヘカラス此点ニ関シ貴公使ニ何等名案アルマシキヤ例之「過去ニ於テハ西比利亜ニ於テ種々不愉快ナル事故モアリタリ或ハ日本軍カ露国人民ニ何等損失ヲ与ヘタルコトアリタルヤモ知レス若シアリトセハ遺憾ナリ然シナカラ将来ハ両国親善関係ヲ設定スルモノナリ」ト云フカ如キ意味ヲ表示セル極メテ友誼的ナル且ツ礼儀ニ適スル「ノート」ノ交付ヲ受ケ之ニテ全部ノ総決算ヲ為スコトニスルヲ得ハ好都合ナリ一昨日ノ貴公使ノ説明ニ影響セサル程度ニ於テ何等名案ナキヤト述ヘタルヲ以テ本使モ右ノ文章ノ如何ニモ関係スヘキモ一昨日説明シタルカ如ク此種ノ「ノート」ヲ貴方ニ差出スコトトスルニ於テハ協約全体ニ対シ枢密院ノ批准ヲ得ルコト極メテ困難ナルカ故先ツ大体之ヲ承諾スルヲ得ス尤本件御希望ノ次第ハ一応政府ニ電報スルコトトスヘシト述ヘタリ右様ノ次第ニテ「カ」ハ何等カノ形式ニ於テ右ノ如キ書面ノ交付ヲ受ケタキ旨切望シ居ルニ付テハ一応御考慮ノ上何分

程困難ナリ依テ到底貴意ニ応シ難キ次第ナルモ此点ヲモ拒絶スルモノトセハ殆ト悉ク貴方ノ希望ヲ拒絶スルノ結果トナルヘク右ハ甚タ不本意ナルヲ以テ本使ハ特ニ今一応貴方ノ希望ヲ支持シテ政府ニ請訓スルコトトスヘシ然レトモ右ハ予カ特ニ妥協的精神ニ基キ為ス処ナルヲ以テ貴方ニ於テモ他ノ問題ニ関シ一層妥協的態度ヲ表示セラレタシト述ヘタリ此点ニ付テハ御訓電ノ必要ナシ

以上ノ討議ヲ終リテ後本使ハ各問題ニ就キ簡単ナル「レカピチュレーション」ヲ為シ明日会議開催ノ必要如何ニ言及シタルニ「カ」ハ撤兵問題ハ重要ナルカ之ト無線電信問題トハ暫ク別トシ他ノ問題ニ就キ見ルニ漁業問題宣伝禁止問題ハ最早問題ニ非ス尚問題トシテ残存セルハ油田区域問題「ドゥエ」炭砿問題、尼港事件類似事件ノ反対公文問題、「ベッサラビア」議定書問題ノ四問題ナリト思考ス依テ此四問題ニ関シ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ何レノ点ニ究極的意見ノ相異アリヤヲ明ニシ各問題ヲ一括シテ総決算ヲ行ヒ其ノ結果ヲ莫斯科ニ電報スルコトセハ莫斯科モ審議上大イニ好都合ナルヘシト信スト述ヘタルヲ以テ大体翌日引続キ会議開催ノコトニ打合セ散会セル処三十日ハ「カ」風邪ノ為休会セリ

事項六　ソヴィエト・ロシアノ内政ト対外関係

五一一　一月九日(着)　在米国埴原大使ヨリ
松井外務大臣宛(電報)

ソヴィエト政府承認問題ヲメグル米上院ニ於ケル討論状況ニ付キ報告ノ件

第一七号

一月七日上院ニ於テ露国承認問題ニ関スル討論行ハレタルカ「ロッヂ」ハ現政府ノ不承認政策擁護ノ地位ニ立チ先ツ労農政府ト共産党トノ不可分関係ヲ説明シ労農政府ノ幹部ハ「チチェリン」ヲ除ク外全部共産党ノ役員ナルヲ以テ共産党カ露国政府ノ原動力タルハ当然ナリト断定シ之カ立証ノ為数多ノ証拠書類ヲ引用シ次ニ労農政府ノ対米赤化宣伝ニ論及シ其ノ不都合ヲ難詰シテ共産主義ハ米国人ノ主義信念ニ合致セサルヲ以テ今日露国労農政府ニ正規承認ヲ与ヘ其ノ代表者ヲ米国ニ招致シ是等ヲシテ外交ノ盾ニ隠レテ我労働組織ヲ破壊シ米国ノ法律及自由ヲ攻撃シ国内ニ争乱ヲ煽動セシムヘキニアラストテ不承認論ヲ力説シタリ

之ニ対シ Borah ハ露国ノ承認ハ単ニ時期ノ問題ナリト前提シ過般ノ「チチェリン」ノ提案ト大統領ノ教書トヲ結ヒ着ケ此提議ニ応スルハ即チ大統領ノ声明ニ一致スル所以ナリト論シ今ヤ露国内ノ秩序極メテ安定セル際米国カ他ノ十数ケ国ニ倣ヒテ露国ヲ承認スルハ人道及平和ノ為機宜ノ措置ト信ストテ承認論ヲ主張シタリ

次ニ Lenroot ハ Borah ノ演説中対露交渉会議カ大統領ノ教書ニ一致ストノ説ヲ反駁シ Brookhart ハ不承認論ハ笑フヘキ謬論ナリトテ「ボラー」ノ説ニ賛成シタリ

最後ニ「ボラー」ハ決議案ヲ提出シ国務省ニ対シ過去六年間露国ノ状態ニ関シ同省ニ報告セラレタル資料例ヘハ William Boyce Thompson, Raymond Robins 大佐 Williams Graves 少将及前「インヂアナ」州知事 Goodrich ノ報告書ノ如キモノハ上院ニ提出セムコトヲ求メタリ　速記録郵送ス